14.5
817
14.5-817
1200501218736
×
複
写

始

會社四季報

昭和十四年第四輯

14.5
817

大經濟新報社編

公社債、株式の引受募集及び賣買
コール、手形の仲介其他金融業務

藤本ビルブローカー證券株式會社

本店　大阪市東區北濱五丁目
東京支店　東京市麹町區大手町二丁目
其他支店　福島・横濱・名古屋・金澤・京都・神戸・岡山・廣島・門司・福岡・小樽・靜岡・京城・新京・奉天

有價證券
大株一般・國債・實物取引員
業

武田證券株式會社

大阪市東區北濱一丁目
大阪東郵便局私書函第九十號
電話北濱(23)3 4 5 67 68 69 代表五四三一(10)
市外專用　大阪(24)25 26 27 28 29 125

東洋經濟新報社編

會社四季報

昭和拾四年第四輯

融金・式株・債社・債公

野村證券株式會社

本店 大阪市東區安土町二丁目

支店

東京・名古屋・京都・神戸・岡山・廣島
高松・門司・福岡・澤山・新潟・仙臺・札幌

浦洲野村證券株式會社

本店―奉天・支店―大連

營業種目

金錢信託
有價證券信託
不動產信託
貸付並保證
財產に關する遺言執行
會計の檢査

共同信託

大阪本店

東區今橋三丁目一番地
電話北濱（23）代表三四〇一番
振替口座大阪七九九〇〇番

東京支店

麴町區內幸町一丁目七番地
電話銀座（57）三四八六番
振替口座東京八四六六三番

14.5
817

昭和十四年
第四輯

『會社四季報』

業別目次

針……六
例……八
業……九
石炭礦業……一六
石油礦業……二四
鐵鋼事業……二九
金屬工業……四五
造船船渠業……五四
機械製作業……六〇
肥料事業……一一五
曹達工業……一二四
化學工業……一三一
製紙パルプ事業……一四八
セメント事業……一五三
硝子事業……一六三
煉瓦・陶業……一六七
紡績事業……一六八
人絹人絹事業……一八八
製絲事業……二〇四
羊毛工業……二〇六
製麻事業……二一四
製糖事業……二一七
麥酒醸造業……二二五
製粉事業……二二八
製菓事業……二三二
電燈電力業……二三四
瓦斯事業……二五五
鐵道軌道業……二六〇
海運事業……二七六
運輸通信業……二八一
百貨店業……二八五
映畫事業……二九〇
土地建物業……二九三
護謨栽培業……二九六
漁業……三〇一
煙草事業……三〇四
取引所……三〇七
其他……三一五
國策會社……三一九

附錄統計

新設會社調……三一六
株式稅引利廻表……三一八
株式配當手取金表……三二〇
株式拂込豫定調……三二一
實物金融指定銘柄……三二二
賣出及公募株調……三二三
株主名簿……三二四
合併會社調……三二五
東株長期委託
本證據金表……三二四
東株短期委託
本證據金表……三二四
大株長期委託
本證據金表……三二五
大株短期委託
本證據金表……三二五
東京株式取引所
委託手數料表……三二六
大阪株式取引所
委託手數料表……三二六

索引

【ア】
秋田木材……三一七
淺野セメント……一五三
朝日化學肥料……一二二
旭硝子……一六三
旭石油……二六
旭電化工業……一二八
旭ベンベルグ絹絲……一九二
足利紡織……一八七
吾嬬製鋼所……四一
尼崎製鋼所……三七
愛知時計電機……九一

【イ】
池貝鐵工所……六五
池貝自動車製造……一〇一
石井鐵工所……九八
伊丹製絨所……二一
出雲製織……一七九
出雲電氣……二五三
伊那電氣鐵道……二六九
揖斐川電氣……二四二
入山採炭……二〇
磐城セメント……一五五
磐城炭礦……一九
石原產業海運……一三
市岡土地……二九四

【ウ】
宇治川電氣……二三八
宇部セメント製造……一五九
宇部窒素工業……一二一
浦賀船渠……五六

【エ】
荏原製作所……九八
遠州織機……一一〇
鹽水港製糖……二二〇

【オ】
大井川電力……二四九
岡本工業……九二
大隈鐵工所……六六
大阪瓦斯……二五六
大阪株式取引所……二〇八
大阪機工……七三
大阪機械製作所……七四
大阪三品取引所……三一一
大阪商船……二七七
大阪製鎖造機……七六
大阪製鋲……三九
大阪曹達……一三〇
大多喜天然瓦斯……一四四
大阪鐵道……二七二
大阪電氣軌道……二七一

大阪電氣……二九五
大阪土地建物……二九四
大阪堂島米穀取引所……三一〇
大阪窯業……一六六
大阪窯業セメント……一五七
大阪若山鐵工所……一九四
王子製紙……一四八
王子電氣軌道……二六一
近江帆布……一八六
青梅電氣鐵道……二六七
沖縄製糖……二二四
小田原急行鐵道……二六二
小野田セメント製造……一五四
小原鐵工所……一〇二
オリエンタル寫眞工業……一四五

【カ】

各和製作所……一〇三
片倉製絲紡績……二〇四
鐘淵紡績……一六九
鐘淵實業……三一五
川崎造船所……一五五
川崎窯業……一六七
關西ペイント……一四一
關東瓦斯……二五九
加藤製作所……一〇三
關東水力電氣……二四四
川南工業……一五九
川西航空機……九二
茅沼炭礦……二二

【キ】

北樺太石油……二五
北樺太鑛業……二三
鬼怒川水力電氣……二四四
錦華紡績……一七三
錦華毛糸……二一二
九州採炭……二二三
九州水力電氣……二三九
九州曹達……一二七
九州炭礦汽船……二二二
九州電氣軌道……二七三
京都瓦斯……二五七
京都電燈……二四三
京都取引所……三一二
北支那開發……三二五
極洋捕鯨……三〇三
麒麟麥酒……二二六
岸和田紡績……一七七

【ク】

熊本電氣……二五四
倉敷紡績……一七五
倉敷絹織……一八九
栗本鐵工所……八〇
呉羽紡績……一七四
郡是製絲……二〇五
群馬水電……二四七

【ケ】

京王電氣軌道……二六一
京城電氣……二五四
京成電氣軌道……二六〇
京阪電氣鐵道……二七〇
京濱電力……二四七
京濱電氣鐵道……二六二

【コ】

神戸瓦斯……二五七
神戸棧橋……五九
神戸製鋼所……一三一
神戸電機製作所……一四六
神戸取引所……三一二
金剛山電氣鐵道……二七五
國際電氣通信……二八三
小糸製作所……一九六
小倉製鋼……一三三
國光製鋼鋼業……一〇五
壽重工業……一七五
小島電氣製鋼……一四四
壽纎維工業……二〇三
國光紡績……一八四
鋼鈑工業……一〇五
小松製作所……一〇二

【サ】

酒伊纎維工業……二〇二
相模鐵道……二六八
櫻田機械製造所……九九
櫻麥酒……二二七
三共……一四二
參宮急行電鐵……二七二
山陽中央水電……二五二

【シ】

順安砂金……一五
四國水力電氣……二五三
品川白煉瓦……一六五
篠原機械製作所……九四
島津製作所……八二
松竹……一九〇
湘南電氣鐵道……二六三
上毛電力……二四六
昭和毛絲紡績……二〇九
昭和鑛業……一一
昭和護謨……二九八
昭和重工業……一九一
昭和製糖……二二三
昭和電工……一四八
昭和飛行機工業……一九三
白木屋……二八九
新興キネマ……二九二
新興人絹……一九七
新日本レイヨン……二〇二

【ス】

住友金屬工業……一四五
住友化學工業……一二〇
スマトラ拓殖……二九七

【セ】

西武鐵道……二六二

【タ】

第一毛絲紡績……二一三
第二帝國人絹……一九五
大日本鹽業……一三九
大日本機械工業……一七二
大日本航空……二八一
大日本製糖……二一九
大日本セルロイド……一三三
大日本セロハアン……一五二
大日本電力……二四三
大日本麥酒……二二五
大日本紡績……一七〇
大同製鋼……一三五
大東紡織……二〇八
太平洋炭礦……二二一
大丸……二八七
太陽レーヨン……一九四
大連株式商品取引所……三一四
大連取引所信託……三一四
大連機械製作所……一一三
臺灣製糖……二一七
臺灣拓殖……三二四
臺灣電力……二四一
高崎板紙……一五一
高砂鐵工……一〇四
高島屋……二八八

田中機械製作所……一八一
多摩川水力電氣……二四九
立川飛行機……九三

【チ】

秩父セメント……一五六
秩父鐵道……二六七
中國合同電氣……二五一
朝鮮石油……二二七
朝鮮鐵道……二七五
朝鮮紡織……一八二
朝鮮興研金屬……五一

【ツ】

月島機械……九九
鶴見製鐵造船……三二

【テ】

帝國鑄鋼所……一〇八
帝國產金興業……一一四
帝國人造絹絲……一八八
帝國人造肥料……一二三
帝國製糖……二二一
帝國製鋲……一一二
帝國精密工業……一〇六
帝國染料製造……一四一
帝國製麻……二一四
帝國燃料興業……二二八
帝都電鐵……二六五
鐵興社……一四三
電氣化學工業……一一九
天滿織物……一八四
帝國ヒューム鋼管……一一四
帝國電力……二五〇

【ト】

東亞金屬工業……四七
東亞纎維工業……二〇〇
東亞煙草……三〇四
東海毛糸紡績……二一三
東海鋼業……四二
東海電極製造……一三六
東京石川島造船所……五七
東京瓦斯……二五五
東京株式取引所……三〇七
東京機械製作所……一一三
東京高速鐵道……二六五
東京自動車工業……六七
東京芝浦電氣……六一
東京人造絹糸……一九三
東京製綱……八三
東京寶塚劇場……二九一
東京建物……二九三
東京鍛工所……一〇七
東京地下鐵道……二六四
東京電燈……二三五
東京米穀商品取引所……三一〇
東京麻絲紡績……二一六
東京横濱電鐵……二六二
東京灣汽船……二八〇
同興紡織……一八一
東信電氣……二四五
東武鐵道……二六〇
東寶映畫……二九一
東邦瓦斯……二五八
東邦金屬製錬……一五
東邦人造纖維……一九八
東邦炭礦……一八
東邦電力……二三六
東邦パルプ工業……一五〇
東北興業……三二四
東洋汽船……二七八
東洋毛絲紡績……二一二
東洋毛織工業……二一一
東洋高壓工業……一一七
東洋工業……七一
東洋鋼鈑……四〇
東洋製罐……八四
東洋セメント工業……一六一
東洋曹達工業……一二六
東洋拓殖……三二一
東洋ベアリング製造……八八
東洋紡織工業……二〇七
東洋紡績……一六八
東洋レーヨン……一九〇
東硫化學工業……一四二
特殊製鋼……四二
德山曹達……一二五
德山鐵板……三八
土佐セメント……一六〇
凸版印刷……三一八
豐田式織機……七九
豐田自動織機製作所……一〇六
豐田紡織……一八五
東洋葉煙草……三〇六
東洋機械……一〇〇
東京製鐵……一〇〇
東華紡織……一八七

【ナ】

內外綿……一八〇
中支那振興……三二五
中山製鋼所……三四
名古屋株式取引所……三一一
名古屋鐵道……二七四
名古屋土地……二九五
名古屋製陶……一六七
七尾セメント……一六〇
南海鐵道……二七一
南國產業……三〇〇
南洋興發……二二二
南洋護謨……二九九
南洋拓殖……三二二

【ニ】

新潟鐵工所……六四
新潟人絹工業……二〇一
日滿亞麻紡織……二一五
日滿アルミニウム……四九
日滿製粉……二三一
日魯漁業……三〇一
日華紡織……一八五
日產化學工業……一一六
日產農林工業……二九六
日清汽船……二八〇
日清製粉……二二八
日新電機……九七
日清紡績……一七二
日曹鑛業……一一二
日本人絹パルプ……一四九
日東製粉……二三〇
日東化學工業……一二三
日東紡績……一九六
日本亞鉛鍍鋼業……四四
日本アルミニウム……五〇
日本板硝子……一六四
日本エタニットパイプ……九〇
日本海電氣……二四八
日本樂器製造……八五
日本活動寫眞……二九二
日本火藥製造……一三四
日本カーボン……一三七
日本毛織……二〇六
日本鋼管……三〇
日本光機工業……九六
日本鑛業……九
日本高周波重工業……四三

日本コンクリートポール……一〇八
日本再生ゴム……一四七
日本醋酸製造……一四三
日本砂鐵工業……二八
日本蓄金振興……一五二
日本紙業……六八
日本車輛製造……一九九
日本人造羊毛……三〇二
日本水素……五三
日本ステンレス……一〇九
日本精工……八七
日本製鐵……二九
日本製粉……二二九
日本製鍊……一四四
日本石油……二四
日本セメント……一五八
日本繊維工業……二〇三
日本染料製造……一三二
日本曹達……一二四
日本鍛工……一〇七
日本窒素肥料……一一五
日本通運……二八二
日本ディゼル工業……一〇四
日本電池……一四六
日本電力……二三七
日本特殊鋼管……三六
日本ニッケル……五二
日本皮革……三一六
日本發送電……二三四

日本ピストンリング……八六
日本ペイント……一四〇
日本硫黄……一三八
日本油脂……一三一
日本鄭鉛……二七六
日本理化工業……一三五
日本レイヨン……一九一
日本郵金屬……五一
日本バルブ製造……二七九
日本米穀……一一四
日……三一〇

【ネ】
熱帶產業……二九八

【ハ】
博多株式取引所……三一三
函館鉛堰……五八
發動機製造……六九
早山石油……二七
哈爾賓セメント……一六二
阪神急行電鐵……二七〇
阪神電氣鐵道……二六九
阪和電氣鐵道……二七三

【ヒ】
日立製作所……六〇
日立電力……二四六
日出紡織……一七八
廣島株式取引所……三一三
廣島電氣……二五二
廣澤製作所……一一二
弘中商工……一一〇
東朝鮮鑛業……一四
東滿洲產業……三二四

【フ】
福島電燈……二五一
福島紡績……一七六
富士瓦斯紡績……一七一
不二越鋼材工業……八九
富士寫眞フイルム……一四五
富士繊維工業……二〇一
富士電機製造……一三〇
富士電……二五八
富士山麓電氣鐵道……二二四
古河電氣工業……四六

【ホ】
豐國セメント……一五九
北鮮製紙化學工業……一五〇
北海水力電氣……二五〇
北海曹達……一三〇
北海道瓦斯……二五八
北海道製糖……二二四
北海道炭礦汽船……一七
保土谷曹達……一二九
ボルネオ護謨……三〇〇

【マ】
松屋呉服店……二八六
丸善石油……二六
馬來護謨公司……二九九
滿洲化學工業……一一八
滿洲工廠……七〇
滿洲重工業開發……三一九
滿洲車輛……一一一
滿洲セメント……一六二
滿洲煙草……三〇五
滿洲電業……二四〇
滿洲電信電話……二八四
滿洲パルプ工業……一五一
滿洲麥酒……二二七
滿洲羊毛織……二二〇

【ミ】
三河セメント……一六一
三河鐵道……二七四
三河越……二八五
三菱鑛業……一六
三菱重工業……五四
三菱電機……六二
南滿洲瓦斯……二五九
南滿洲鐵道……三二〇
宮製鋼所……四一
宮田製作所……九七

【ム】
武蔵野鐵道……二六六

【メ】
名港土地……二九五
明治製菓……二三三
明治製糖……二一八
明正紡織……一八三
明正レイヨン……二〇〇
明電舍……九五
目黒蒲田電鐵……二六三

【モ】
森永製菓……二三二

【ヤ】
矢作工業……一二二
矢作水力……二四五

【ヨ】
横濱取引所……三〇九
芳澤化機工業……一〇九

【ラ】
ラサ工業……一〇

【リ】
龍山工作……一一一
理化學興業……七八
理研ゴム工業……一四七
理研重工業……七七
理研アルマイト工業……一〇一

【ワ】
和歌山紡織……一八六

創刊明治二十八年　毎週土曜日發行

週刊 東洋經濟 新報

東洋經濟新報は、本邦最古の經濟雜誌であり、その殘した功績は、自ら言ふを要しない。內容は常に清新嚴正、最新の生きた政治、經濟、及社會評論雜誌にして、內外經濟事情及社會の最も確實にして透徹せる解說者である。東洋經濟新報を讀まずして、國內は勿論世界の正確なる情勢を知ることは望まれない。

普通號　一部定價參拾五錢（送料二錢）
御講讀料　一年金拾七圓五拾錢（特別號及前金割引）　半年金九圓（送料を含む）

內容

景氣展望
財界概觀
財界圖表
社論
特輯記事
今週の動き
調査と研究
世界經濟
世界の動き
海外論壇

國內財界・世界經濟・株式市場・商品市場の動向見透を要約す。獨特の犀利なる觀察を以て每號財界の基本情勢を論ず。新資料、精密無比なる圖表により財界の全貌を看取せしむ。內外政治經濟社會に關する進歩的且精緻・徹底的なる論說。內外情勢の變化に就て最も敏感に且正鵠を得た獨特の編輯。週間經濟界の主なる經濟現象を、間寸評解說報道す。內外經濟及社會の基本的資料の解說調査とその研究及分析。世界の政治經濟動向は、信頼すべき本誌により知れ。銳敏な觸角を以て世界情勢の最新の動きを報道する。海外有數の刊行物の最新の代表的な論說を論譯紹介す。

一般

現地通信
內外日誌
寄書
時評
商品界の動き
產業界
株式市場
會社批判
會社リポート
其他

獨自の通信網による現地狀況の、精密な報告。國內・海外・東亞の週間の動きを、洩すところなく記す。一流の論客が本誌上に、その最も得意の筆を以て登場する當代一流評論家の內外に涉つて政治、經濟、人物評論。商品界の動きは、益々複雜である。本誌によりて深く知れ。產業界の推移及び基本問題を論じ盡して餘すところなし。每週株界の推移を論じ、將來を豫測す。正確無比なる批評と事業狀態を一瞥に知る最高の投資指針。各會社の主なる出來事を最も迅速に報道する。經濟統計、讀物、會社ノート、新刊紹介、資料解說

東京・日本橋　東京本石町三ノ二
東洋經濟新報社
振替東京　六五一八番

財界と株式

【歐洲大戰勃發】第一次歐洲大戰の時もさうであつたが今回の場合も、戰爭にはなるまいとの見透が多かつた。處が獨波の衝突を契機として今や歐洲は大動亂の危機にあり、更に世界戰爭に擴大する危險をも含んでゐる。尤も目下の情勢では獨逸は疾風迅雷的に波蘭を蹂躙したが、これに對し英佛側との衝突は未だ微溫的で、西部戰線異常なしと、言つても好い位である。また米國及び日本は勿論だが、獨逸と共同戰線にあると見られる伊太利もソ聯も中立を守つてゐる。この情勢より推して、波蘭が片がつき獨逸の勢力下に入れば、機を見て英佛との間に和平が來るのではあるまいか、と言つたやうな豫想が行はれてゐる。この觀點からすれば、今回の歐洲大戰は短期、不擴大と言ふことになる。

この見方に對し、英佛は今日となつては決して獨逸と妥協はしない。チエンバレン英首相の議會に於て言明せる如く、ヒツトラー政權の倒潰するまで英佛は戰ふに違ひない、と言ふつまり長期擴大の見解を持つてゐる者もある。果して短期ですむか、或は長期となるかは。時日の經過を俟たねば無論判らないことであるが、強ひて記者の豫想を述べれば、後者の見方に贊成する。

【財界への影響】一部には今回の歐洲大戰を以て、我國にとり神風であると見る向がある。併し果して神風となるか否かは、今後の我國の對策如何にある。たゞ歐洲に戰爭が始つたからと言つて、我國は必ずしも有利な立場に立つものではない。假に戰爭が長引くにしても、對策を誤れば益々困難なことになる。この事は財界にとつても同樣であつて、歐洲に大戰が始つたから我國の景氣は益々好くなると考へるのは早計である。この點は第一次歐洲大戰の時とは、財界の條件も著しく違つてゐる。第一生產力の關係から見れば明瞭で、今日では物資は不足、人手も不足となり、需要はあつてもそれに應ずる十分なる供給力がない。一番惠まれるのは貿易關係であらうが、これとて紡績や人絹の如く設備は過剩してゐても、原料や材料が不足である。これまでよりは輸出は增加するであらうが、それにも限度があり、第一次歐洲大戰の如き活況は到底豫想されない。殊に重工業關係の事業の如きは、原料、材料の輸入難によつて、今日より一層苦境に立つ事業も出て來るかも知れぬ。

【戰爭と株式】從つて株界も戰爭が長引いても、第一次歐洲大戰の時のやうなブームは期待されない。元來戰爭と言へば株は高い、と言ふのが合言葉のやうになつてゐるが、これは謬見である。事實、日淸、日露の兩戰役の場合でも、宣戰布告と同時に株價は暴落した。それが反騰を示すに至つたのは連戰連勝の報が傳り、戰爭の見透しがつき易くなつてからのことである。また第一次歐洲戰爭の場合に於ても、大正三年六月廿八日にサラエボの事件が起り、我國が參戰したのは同年の八月廿三日であつたが、株價は決して高くはならず、年末に至るまで低迷してゐた。それが四年に入り戰爭も長引くとの見透が多くなり、加ふるに我國は貿易を通し景氣が現實に好くなつてから、諸株とも暴騰したのである。

【雜株の物色買】然るに今回の歐洲大戰は、記者は長期戰になると思ふが、これもまだ今後の情勢を見ないと無論斷言は出來ない。假に長期戰になつても前述したやうに財界の受くる影響も必ずしも有利とは言へない。物資は益々窮屈となり、統制も强化されこそすれ未だ緩和されるとは考へられない。大增稅も必至である。從つて歐洲大戰を以て神風なりと速斷し、株界を手放しに樂觀することは禁物である。獨波の衝突の報が傳はるや、新東が暴騰したが如きは早計である。まだまだ投機、思惑の許される時代ではない。戰爭になれば新東は高い、船株は高いと考へるのは、第一次歐洲大戰の時の夢であつて、今日の場合には其のまゝはあてはまらない。

たゞ、事業會社の成績を見ると、依然順調なものが多い。積極的に向上する力は殺がれてゐる會社が多いが、併し現行配當の持續出來る會社も尠なくない。さうすると現行配當を基礎にして採算すれば、現在の株價は尙ほ割安なものがある。時局株の中にも依然有望なものもあるが、殊に從來悲觀されてゐた平和株乃至は和戰兩樣の事業株に有利なものがある。これ等割安株が今後訂正高を示すものが尠くないであらう。

凡例

【決算期】 決算期中三月末より八月末決算迄を上期とし、九月末より翌年二月末決算迄は下期とす。

【單位】 統計欄「資產負債」「收支勘定」は千圓。「利益率」「配當率」「利益保留」は割、「株價」は圓を單位とす。

【株主資本】 期末拂込資本、各種積立金準備金及引當金（但し社員積立金、法定退職手當準備積立金に類する勘定は控除）前期繰越益金及び當期利益金（繰越損失金及び當期損失金は負數にて加ふ）の合計を以て株主資本とす。

【社外負債】 社債、借入金、支拂手形、諸未拂金、預り金等の他便宜上、前受金、假勘定、未決算勘定、繰越勘定等をも含む。

【使用總資本】 株主資本と社外負債の合計で、又固定資產、投資勘定及流動資產の合計に一致す。

【固定資產】 土地建物、機械諸設備、什器、建設假勘定、增設假拂金等の他、特許竝商標權地上竝營業權等の無體資產をも含む。

【投資勘定】 子會社及び關係會社に對する出資金、貸付金或は取引上の貸金、其他營業直接の目的でなく、利殖の爲に所有する不動產、長期に亙つて所持する有價證券を含む。

【流動資產】 使用總資本中より固定資產、投資勘定を除いた殘額を便宜上流動資產と見做す、猶使途不詳の假拂金も流動資產に合算す。從つて此の中には假拂金、未經過保險料、預り有價證券の如き會計學上流動資產と認め難いものも若干包含す。

【收入・支出】 收入中には前期繰越金、積立金準備金等の戻入、財產評價益、他社合併益等を含まず。又各種消却金、賞與金、弔慰金、減資損金は支出中より除く。然し、鑛工業其他の會社の法定退職手當準備積立金、瓦斯會社の報償金は經費と看做す。

【利益金】 利益金は前述の如く消却金、賞與金等控除前のものである。從つて之等を支出にて落せるものに就ては、之をそれぞれ資產負債の當該勘定に還元す。

【利益率】 對平均拂込資本利益率。

【消却年率】 （拂込額×2）÷（固定資產—增設中勘定）

【株價】 東長は東株長期相場、大長は大株長期相場の略、長期株價中の△印は實物相場。

【利廻】 昭和十四年九月五日

【基準配當】 昭和十四年四月一日勅令一七九號にて公布、同月十日より實施せられたる『會社利益配當及資金融通令』を各社に適用し、配當率を以て示せり。

詳細は東洋經濟『一八六一號』を參照されたし。

一頁二段會社は【豫想配當】欄の下の（　）内に示せり。

＊ 印は次期決算に於て許可され得る最高配當率を示す。

日本鑛業株式會社

（本社）東京市芝區田村町一ノ二日產館（電銀六三一九）

【擴張續く】 當社は既設々備の擴張、諸鑛山の積極的開發を、相當の困難を排して繼續してゐるが、尙新規に色々社礎の發展强化を計つてゐる。本年二月資本金五百萬圓四分の一拂込の大陸鑛業を設立して河北省興隆縣に製鍊所を建設、北支の產金に進出するこゝなつたが、這度朝鮮の雲山金鑛を買收した。同金山は米國のオリエンタル合同鑛業會社の經營下にあつた著名鑛山。で相當未開發鑛區を擁するが、今後當社の手によりそれの開發が行はれよう。

【資金調達】 以上の所要資金を賄ふため、去る四月に二千萬圓餘の拂込を徵收したが、其の前には三月廿五日に第二回ろ號擔保附社債千五百萬圓（四%三）を、其の後八月一日に第二回は號擔保附社債三千萬圓（利率同上）をそれ〴〵發行した。雲山金山の買收費は發表されぬが、之が支拂ひは分割とすることになつてゐるから、當面右の調達資金から賄へる筈だ。それにしても見拂込殘額四千餘萬圓の徵收、進んで增資も、情勢如何で早晩實現する筋合だ。

【前途】 歐洲大戰の影響で、馬來、濠洲方面の鐵鑛石積出は、色々な點で好惡材料があり歸趨を見極め難いが、目先大した懸念はないやうだ。金の買上價格の引上げられる可能性の多い折柄株價もやゝ働き始めたが、上期に減配してあるから、一割二分は續けられる。

【設立】 昭和四年四月
【決算期】 三月、九月
【事業】 鑛業、土石採掘業、化學工業
【資本金】 公稱二億〇、一億〇 拂込二億〇、一億
【株數】 ……偽（八〇・〇）千二百〇一・〇千二百〇一・〇
新（二千・〇）一・〇千二百〇一・〇

【重役】 會長 鮎川義介 社長 伊藤文吉 專務 今井喜代志 常務 坂本威郎 椎名芳風 取締役 鈴木富治 窪田哲二郎 越宮朝太郎 三毛菊次郎 諫早良三 島田利吉 監査役 片山義勝 山田敬亮 下河邊建二

【株主數】 十五年上 七千五百 十六年下 八千一百八人

【大株主】 鴻池財閥三、七九九、三五五 渡邊信太郎 一、四二、一〇〇 富國徵兵 四、六〇〇 康德工業 三一、一五五 野村生命 二、六〇〇 共立企業 二、四三五 日本生命 一、五〇〇 第一生命 三、三〇〇

【事業投資】 鑛業 一、二〇一（八〇九、一六二千株） 八〇八 採炭 四〇五 休業未採炭 日立、諏訪、大谷、東山、竹野、河津、高玉、百瀨、廣田、岩美、北隆、馬上、佐賀關

【積載高】 十五年下 十五年上 十六年下
金 銀 鑛（噸）二〇〇、一六二 … … …
銅 鑛（〃）二四五、〇九九 … … …
硫化鐵鑛（〃）二一七、〇二一 … … …
鐵 鑛（〃）一六二、〇八二 … … …
滿俺 鑛（〃）七四一七 … … …
買鑛 高（〃）二四五、〇九六 … … …

【資本異動】 十三年七月二圓五（最終）拂込徵收十四年一月八千五百萬圓增資第一回二圓五拂込徵收十四年四月二圓五拂込徵收

【資產負債】 十五年上 十五年下 十六年上 十六年下
株主資本 一八、四一六 一八、四一六 一八、四一六 一八、四一六
積立金 一、六四一 一、六四一 一、六四一 一、六四一
外部負債 一〇、九四一 一〇、九四一 一一、四六一 一一、四六一
社債 一四、〇〇〇 一四、〇〇〇 一五、〇〇〇 一五、〇〇〇
借入金支手 一、六二一 一、六二一 一、六二一 一、六二一
使用總資本 三三、六六一 三三、六六一 三五、〇八七 三五、〇八七
固定資產 一九、〇三四 一九、〇三四 二〇、〇三四 二〇、〇三四
投資勘定 一、八一四 一、八一四 一、八一四 一、八一四
流動資產 一二、八四三 一二、八四三 一三、二三一 一三、二三一
現金預金 一、九四一 一、九四一 一、四三一 一、四三一

【收支勘定】 十五年上 十五年下 十六年上 十六年下
收入 八、一五五 八、四四五 八、六一一 八、四四五
支出 五、五九八 五、八五六 六、三三五 五、八五六
利益 二、五五七 二、五八九 二、二七六 二、五八九
固定消却 一、〇四五 一、〇四五 一、〇四五 一、〇四五
消却年率 六・九 六・九 六・九 六・九

【業績】
十二年上 利益金 二、九一 二、一二 配當率 一割〇分 一割〇分
下 二、一二 一、八〇 利益率 二・一六 二・一六
十三年上 一、八〇 一、八〇 一・八〇 一・八〇
下 二、七九 二、七九 二・七九 二・七九
十四年上 二、七二 一、八〇 二・七二 一・八〇

【株價】（實績）
舊株 高値 安値 新株 高値 安値
十二年 一三五・五 九二・五 一 一 一
十三年 一三二・五 九四・五 一 一 一
十四年 一一八・一 八四・一 八九・二 八〇・〇
一一八月

【基準配當】 一割二分

【豫想配當】 十四年九月期 一割二分

【時價】 舊八二・八 新三二・七 **【利廻】** 七分二厘 五分七厘

【名義書換】 十一 **【新株交付】** 三十錢

ラサ工業株式會社

（本社）大阪市西淀川區高見町一ノ六四（電土佐堀四三九）
（支店）東京市京橋區京橋一ノ二千代田證券ビル（電京九一〇三）

【再飛躍期來か】創業三十年の歴史を繙つて見ると、當社ほど波瀾に富んだ會社は尠いやうである。第一次世界大戰直後の大正九年上期に十割の高配を付けたことがあるかと思へば、其の後田老鑛山の經營に失敗して、破算狀態にたゝき込まれた如き、その一例だ。處が最近は又、この田老鑛山を土臺に產銅會社として再飛躍の段階に入らんとしてをる。

【宮古製錬所操業】敢て產銅會社と云ふ所以は、云ふまでもなく田老の鑛石を待望の宮古製錬所で製錬し電氣銅にするやうになつたからである。宮古製錬所は既に七月から一部運轉を開始したが、十月からはそれが本格運轉となる。つまり之で田老の出鑛能力とミートした銅製錬の一貫化が完全するのである。電氣銅生產能力は發表の自由を持たぬが、これと併行してペテルゼン式硫酸工場に於て硫酸千瓲を生產し、これから過燐酸をも併せ生產する。かくてこれからの當社業績は、未働資本の活動で、一段と色彩着けられよう。

【拂込相繼ぐ】九月期成績は總利益金四百六十萬圓が期待されるがこの中稅金引當に四十萬圓をさくとすれば正味利益は四百四十萬圓だ。一割二分配當金は二百廿五萬圓だから、窮屈な決算ではない。申請中の第三回拂込も近く徵收され續いて來春邊り最終拂込か。

【設　立】大正二年五月
【決算期】三月、九月
【事　業】過燐酸、硫酸、晒粉、苛性青達、合成鹽酸、燐鑛石、硅化鑛、銅
【資本金】……公稱二百五〇、〇〇〇　拂込二百二〇、〇〇〇
【株　數】……旧（五〇、〇）　新（二五、〇）
【重　役】社長　小島甚太郎
常務　小野　義夫
〃　横田小人太　取締　山田復之助
取締　石崎　石三　〃　鑒査　新藤田直志郎　祇園清次郎
【株主數】十五年上　總數（名）二、〇五四
十四年上　二、〇四五
【大株主】不二興業　二、〇〇〇
恩賜財團　一〇、〇〇〇
佐藤　寅藏　一〇、〇〇〇
石渡　石三　八、〇〇〇
藤田直太郎　二、八二〇
森本　ビル　一〇、〇〇〇
草川　求馬　七、一〇〇
東部證券　八、〇〇〇
【年產能力】（千瓲）過燐酸……
硫酸……
研磨材……
晒粉……
苛性青達……
合成鹽酸……
液體鹽素……
【生產高】過燐酸（瓲）十二年下　一、五五九　十三年上　二、四九七
硫酸（〃）　一、七九九　一、三五九
晒粉（〃）　一、二五九　一、四六六
苛性青達（〃）　一、三五九　一、四六六
合成鹽酸（〃）　一、三五九　一、四六六
タチ燐鑛石（瓲）　一、六三三　二、三四七
田老鑛石（千瓲）　一、一　八、一三五
【資本異動】十三年十一月信組增資第一回二四〇拂込徵收十四年四月一二圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本積立金　十三年二月　一、〇〇〇、〇〇〇　十三年九月　一、〇〇〇、〇〇〇　十四年二月　一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債　十三年二月　三、八二〇　十三年九月　二、六二〇　十四年二月　一、〇〇〇、〇〇〇
借入金　十三年二月　八、一〇〇　十三年九月　九、一〇〇　十四年二月　九、〇〇〇、〇〇〇
支拂手形　十三年二月　一、二〇〇　十三年九月　一、三〇〇　十四年二月　二、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本　十三年二月　一〇、六二〇　十三年九月　一二、六二〇　十四年二月　一四、〇〇〇、〇〇〇
固定資產　十三年二月　一〇、六六〇　十三年九月　一二、九九〇　十四年二月　一四、九九〇
流動資產　十三年二月　一〇、〇〇〇　十三年九月　一三、〇〇〇　十四年二月　一三、〇〇〇
現金預金　十三年二月　四、〇〇〇　十三年九月　四、〇〇〇　十四年二月　一〇、〇〇〇
【收支勘定】收入　十五年上　八、一九〇　十五年下　一〇、九五〇
支出　十五年上　六、〇九〇　十五年下　八、〇五〇
利益　十五年上　二、一〇〇　十五年下　二、八五〇
固定消却　十五年上　八〇〇　十五年下　一、〇〇〇
消却年率　十五年上　六、九二
【業　績】利益率　十二年上下　三、〇〇　配當率　十二年上下　一、一〇
十三年上下　三、〇八　十三年上下　一、一〇
十四年上下　三、〇二　十四年上下　一、一〇
【株　價】舊（東株）高値　十二年　一、一四〇、八　安値　八一、五
十三年　一、二八、三　一三、三
十四年　八二、五　九、一　一五、七
一—八月　一五、七　一二、二
新（資物）高値　安値
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年九月期　一割二分
【時價】舊　六、五　新　四七、五
【利廻】七分六厘　六分三厘
【名義書換】十錢　【新券交附】三十錢

昭和鑛業株式會社

（本　社）東京市京橋區寶町一ノ七（電京橋三一七七）

【下期稍向上か】當社の成績は下揭表の如く、三、四期來餘り冴へない。一割配當不可能とは勿論云へぬが、餘裕のある方ではない。これは急激な擴張續行の結果に外ならぬが、然しそれも順次擴張工場の稼働で、成績は下期邊りから多少とも向上に轉ずるのではないかと思ふ。販賣高が相當增加してゐるからだ。

【營業狀態】銅は今出、津川、咸安の三ケ所の採鑛、選鑛の增產も六月から八月にかけてほゞ本格的となり、殊に咸安は金、銀の副產が殖えるに至つた。亞鉛は日比電錬工場が六月に運轉を開始し、鉛は契島製錬工場の操業で何れも今下期以後の成績に寄與する。大阪伸銅工場は半期百八十萬圓で日本火工に賃貸してゐたのが、日火では東京板橋工場が先般の火災の影響で、經營不如意となり當社は去る七月十一日から自家經營に移した。尙七尾セメントと提携の大江山ニツケル鑛の製錬はまだ試驗的の範圍乍ら、同社の回轉窯を利用して仕事を始めた。然し之を基礎として本格的企業化に進むべき機械の獨逸からの輸入が懸念される現狀にある。

【配當持續】下期利益は大約三百七、八十萬圓にのぼるのではないかと思ふ。利益率は約二割と豫想されるから、一割配當持續は可能である。これから株式も漸次注目されるだらう。

【設　立】昭和九年一月
【決算期】三月、九月
【事　業】鑛業、鑛業原料及製品の賣買、運送業、倉庫業
【資本金】……公稱二六、〇〇〇　拂込一三、七五〇
【株　數】……舊（二五、〇）　新（二二、五）
【重　役】社長　森　鑫　取締　石原新三郎
專務　森　輝　〃　岩崎清七
常務　牛田　貢　〃　平野齊一郎
〃　岩田　清藏　監査　岩瀨　亮
取締　安西　直一　〃　濱野佐一郎
〃　千葉　三郎　〃　三鶴森太郎
【株主數】十五年上　總數（名）一、五九二　十四年上　一、六七一
【大株主】森　鑫　鄭三九、九五〇　日本電氣　一〇〇、〇〇〇
岩瀨　亮　一〇五、六五〇　森　輝　一〇二、一〇〇
森　興　三二〇、〇〇〇　鶴美登志男　四一、三〇〇
森　曉　二六、〇〇〇　石渡良治　三、六五〇
【事業規模】鑛區數　五三　總面積　三八、一三二坪
工場所在地　東京伸銅所、大阪伸銅所、草津硫
名古屋明礬工場、契島製錬所、草津硫
黃工場、尼ケ崎工場、竹原電錬工場、
旭工場、日比製錬所
【事業成績】十五年上　十五年下　十四年上
販賣高（千瓲）一〇、五六六　一〇、五六六　三、一三五
製造費（〃）七、五一　三、四三三　一八、一〇五
【資本異動】十二年七月第二昭和鑛業ト昭和伸銅ヲ合併ス百萬圓增資、十三年四月三萬圓（最終）拂込徵收。十四年二月三百圓增資第一回三四〇拂込徵收

【資產負債】
株主資本積立金　十三年　三、二二一　九月　三、二二一　十四年　三、二二一
外部負債　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
借入金　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
支拂手形　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
使用總資本　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
固定資產　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
流動資產　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
現金預金　十三年　一、一二〇　九月　一、一二〇　十四年　一、一二〇
【收支勘定】收入　十五年上　一、一二〇　十五年下　一、一二〇
支出　十五年上　一、一二〇　十五年下　一、一二〇
利益　十五年上　一、一二〇　十五年下　一、一二〇
固定消却　十五年上　一、一二〇　十五年下　一、一二〇
消却年率　十五年上　一、一二〇　十五年下　一、一二〇
【業　績】利益率　十二年上下　一、一二〇　配當率　十二年上下　一、一二〇
十三年上下　一、一二〇　十三年上下　一、一二〇
十四年上下　一、一二〇　十四年上下　一、一二〇
【株　價】舊（東株）高値　十二年　一、一四〇、八　安値　八一、五
十三年　一、二八、三　一三、三
十四年　八二、五　九、一　一五、七
一—八月　一五、七　一二、二
新（資物）高値　安値
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年九月期　一割二分
【時價】舊　六、五　新　四七、五
【利廻】七分六厘　六分三厘
【名義書換】十錢　【新券交附】三十錢

日曹鑛業株式會社

（本　社）東京市麹町區大手町二ノ八（電丸ノ内二三二一—五）

【下期幾分好轉】當社は未だ建設期にあり、未働資産の負擔が大きいため一割二分配當は著しく窮屈となつてゐる。前上期決算に於ても利益率は一割六分七厘に過ぎず一割二分配當を据置いたものゝ餘裕は全然なかつた。この九月末で締切る下期は上期よりは幾分好轉を示す筈である。當社の事業は最近採炭を主としてゐるが、增産計畫中の樺太惠須取炭礦及び北海道天鹽、其の他小田、赤井等の各炭礦の增産によつて約二百十萬圓搦みの利益が見込める。これに大屋のニツケル鑛、鉛、亞鉛鑛の增加も加はるので、下期の利益は合計二百八十萬圓に達しやう。上期に比し約七十萬圓の增益となり、利益率は三分向上して二割餘となる。餘裕あるとは云へぬが、一割二分配當は据置かれることゝならう。

【今期は減配か】併し十月から始る今期は、資本負擔が一層加はるので決算はまた〳〵窮屈となる筋合にある。と云ふのは期初十月二日に第三回拂込一株十二圓半、總額一千二百五十萬圓を徵收するからである。これは主として石炭部門の擴張費に充當されるが、增産計畫は資材や勞力の不足で思ふ樣に進捗せぬので、利益の急增は期待されぬからである。然し增産計畫は追々は完成して行くから、今期は一番困難な時期とも云へるが、思ひ切つて減配するのが至當だ。

【設　立】昭和十二年三月
【決算期】三月、九月
【事　業】石炭、金、銀、銅、亞鉛、鉛、ニツケル等の採掘製錬
【資本金】公稱二五〇,〇〇〇　拂込二三〇,〇〇〇
【株　數】……（二五〇,〇）　一,〇〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　中野友禮
常務　川村　僚二　監査　遠山　元一
取締　小長谷新太郎　〃　神尾　友修
〃　辰澤　茂乙　〃　武　夷郎
〃　竹中　治　〃　金井　滋直
〃　岸本吉左衛門　〃　鵜
〃　安川　隆治　〃　相談　增田　義一
〃　鈴木　寅彦
【株主數】十三年上　一,〇〇〇人　十四年上　八,〇〇〇人
總數（名）　七,二〇〇人
【大株主】日本曹達六〇,八〇〇　妙高金藥六〇,一〇〇
横田春吉三〇,八〇〇　中野友禮一八,八〇〇
川島屋商店二一,八一〇　第一徵兵一〇,〇〇〇
佐藤行雄一〇,〇〇〇　伏見博英三,八〇〇
【事業規模】
鑛業所（金鑛）
鈍子岩（福島縣）船打（青森縣）飯豐（新潟縣）仁田原（福岡縣）大屋（兵庫縣）
鳳來（山梨縣）日照（岐阜縣）水俣（朝鮮）高根（岐阜縣）
石炭
赤井、小田（福島縣）惠須取（樺太）
天鹽、幌別（北海道）
【關係會社】日本曹達
【資本異動】十三年四月第一回二圓五拂込徵收　十五年七月二圓五拂込徵收

【資産負債】十三年三月　十四年九月
株主資本　一四,一〇六　一六,八一三
積立金　一一九　一四〇
社外負債　八三六　八,八八〇
支拂手形　一四九　一,〇〇三
使用總資本　一四,八二二　一九,一四三
固定資産　九,一〇六　一二,四三三
投資勘定　八八四　一八,八八八
流動資産　一四,三四四　二一,四〇四
現金預金　一,四二六　四,〇四三
【收支勘定】十三年上　一三,〇四五　十四年上　一四,〇九六
收入　一,四四六　一,六四三
支出　一,四四五　一,六〇三
利益　六〇〇　三〇〇
固定償却　一〇〇%　一〇〇%
前期年率
【業　績】
利益率　配當率　利益率　配當率
十二年下　一・四〇　〇・八〇　一・四〇　〇・八〇
十三年上　一・三一　一・一〇　一・三一　一・一〇
下　一・六四　一・一〇　一・六四　一・一〇
十四年上　一・六四　一・一〇
【株　價】（實物）高値　安値　高値　安値
十二年　一五〇・〇　一四〇・五　一六〇・〇
十三年　一五〇・三　一八〇・〇
十四年一—八月　二九・七　二〇・九
【基準配當】一割二分
【理想配當】十四年九月期　一割二分
【時價】二〇・七　【利廻】一割一分
【名義書換】十錢　【新株交付】二十錢

石原産業海運株式會社

（本　社）神戸市神戸區海岸通八一（電三宮三二一—四）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内二ノ一二中一三號館

【紀州鑛山】千五百萬圓餘りを投下して開發に努力して來た紀州鑛山は既に日産二千瓲の浮遊選鑛設備が完成してをり、目下千瓲處理を行つてゐる。明春までには二千瓲の選鑛を行ふ豫定であるが、内千瓲は、選鑛機にかけず、高品位のものを坑内で選鑛する段取りである。

【四日市工場】硫酸工場、銅製錬工場共に目下着々工事を進めてゐる。硫酸は年十萬瓲、銅は一萬五千瓲の能力を持つ。こゝで紀州鑛山の金鑛銅鑛及硫化鐵鑛を處理し、卽ち一貫作業を行ふ方針である。工場完成期は硫酸は來年二月、銅は同じく六月頃の豫定となつてゐるが、勞力、物資不足の現在豫定より多少遲れることになるかも知れない。

【前途】當社は内地鑛山のみならず馬來半島に於いても錫、鐵鑛、ボーキサイトの增産を斷行することになつてゐるし、又近日には〇〇島の開發をも行ふことに決定してゐる。今後所要資金は尨大な額に達しようから近き將來に再增資が期待される所以である。一方業績に就ては最早不安はない。千萬圓もの未働資本を持ちながら一割配當を行ふ力を持つてゐる。その未働資本は早くも今期から收益期を迎へ、一割配當は愈々安定化する筋合だ。

【設　立】大正九年九月
【決算期】三月、九月
【事　業】鑛山並精錬業、海運並倉庫業
【資本金】公稱二五〇,〇〇〇　拂込二三〇,〇〇〇
【株　數】……（二五〇,〇）　新　二〇〇,〇〇〇　二〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　石原廣一郎　取締　高山儀三郎
副〃　石原新三郎　〃　森輝
常務　山下留吉　監査　久吉
〃　鹽山恭夫　〃　川上豐太郎
【株主數】十三年上　二三九　十四年下　六四七　十四年上
總數名
【大株主】石原廣一郎二六一,二五〇　石原産業公司一〇五,〇〇〇
石原新三郎七六,〇六〇　高田儀三郎六七,〇四〇
山一證券三三,〇四〇　山下留吉二一,〇四〇
東都商事八,八〇〇　清信證券六,八〇〇
【事業規模】
産出高　賣却高
青金（瓩）　金（瓩）
金銀銅鑛（瓩）　銀（瓩）
金銀銅硫化鐵（瓩）
金銀銅硫化鐵（瓩）
鑛區　稼行鑛區　四（一,四一七千瓩）
其他鑛區　五五（二四,一〇三千瓩）
所有給船　七隻
【事業成績】十三年上　十三年下　十四年上
鑛業收入（千圓）　四,二四四　五六,六四九（千瓩）
給船收入（千圓）　一,四九二　六,八〇三　一,八二四　二,二九二
【投資會社】日本海運、樺太産業、南洋倉庫、南洋海運、馬來半島石原産業
比律賓石原産業、日本電工、昭和鑛業
【資本異動】十三年十一月一千五圓增資
第一回二圓四拂込徵收

【資産負債】十三年三月　十四年九月
株主資本　三三,八六六　八,〇〇
積立金　一,四四五　一,四九四
社外負債　七,四四五　八,八六一
支拂手形　一四九　一,〇〇三
使用總資本　三三,〇〇〇　三,八八一
固定資産　一二,三五四　一四,三四四
投資勘定　六,九四〇　七,四四四
流動資産　一二,〇四六　一四,三四〇
現金預金　七,九六六　四,二四三
【收支勘定】十三年上　六,三四四　十四年上　九,三八四
收入　一,四九一　一,四九二
支出　一,四九一　一,四九二
利益　六〇〇　六〇〇
固定償却　一　一
前期年率
【業　績】
利益率　配當率　利益率　配當率
十三年下　一・四〇　一・〇〇　三・七一　三・〇〇
十三年上　一・四〇　一・〇〇　三・〇一　三・〇〇
下　一・四四　一・〇〇　三・九四　三・〇〇
十四年上　一・六六　一・〇〇　三・六四　三・〇〇
【株　價】（實物）高値　安値　高値　安値
十三年　四五・三　四〇・〇　一　一
十四年　六一・二　四四・五　三一・二
一—八月　一割
【基準配當】
【理想配當】十四年九月期　一割
【時價】舊　四二・〇　新　四四・〇　【利廻】六分九厘　五分六厘
【名義書換】十錢　【新株交付】三十錢

帝國產金興業

【設立】昭和九年一月
【決算期】七月、一月

（本　社）東京市京橋區銀座八ノ一　（電銀座六・六〇）

【內紛納まらず】過般の石川社長の外遊を轉機として惹起した內紛未だ納まらぬため、株價も不冴を續けてゐる。經營刷新を標榜する大株主大阪商事側と社長派との中に人の和を欠き、產金作業も順調にゆかず營業成績亦擧らないのである。新重役內定を傳へられるが、果して旨くゆくかどうか。

【決算未發表】七月決算の發表は、右のやうな內紛のため、まだ發表されぬ。定時總會さへ開けぬ有樣だ。然し減配することだけは確かである。たゞその程度は二分減の一割といひ、三分減の九分とも云はれてゐる。產金奉國のため切に當局者の覺醒を望む。

【資本金】……公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株　數】……舊 (200,000) 新 (100,000)
【重　役】社長 石川博資 ／ 常務 遠藤莊次郎 ／ 〃 三宅當時 ／ 取締 北澤武男 ／ 〃 穴水熊雄 ／ 取締 前川道平 ／ 〃 上田源三郎 ／ 〃 猪股淇清 ／ 監査 中野剛正
【大株主】十三年九月期 三,〇六三名 大阪商事 三,三六 ／ 石川博資 二,六〇 ／ 石井駒次郎 二,一〇〇 ／ 村地久治郎 六,八〇〇
【鑛業所】大仁鑛業所北ノ王鑛山事務所、
【鑛　區】大仁 採掘 (千坪) 三,八〇〇 ／ 北ノ王 試掘 (千坪) 二四,三二
【業　績】十二年下 利益金 六,八〇 利益率 一・二五 ／ 十三年上 二,九三 二・六七 ／ 〃 下 一,五三 一・四九 ／ 十三年上 二,六七 特・蓄一・二 ／ 〃 下 一,〇〇 〃 〃 ／ 十四年上 特・蓄一・〇 ／ 〃 下 特・蓄一・〇
【株　價】(實物) 舊 高値 一八,一六 ／ 株 安値 五九・〇 ／ 新 株 高値 五六・〇 ／ 株 安値 二四・三
十三年 一八,一六 ／ 十四年 六六・〇 ／ 一八月 五〇・二 ／ 五六・〇 二四・〇
【豫想配當】十四年七月期 (一割二分) 一割二分
【時　價】舊 五三・七 新 三四・二
【利　廻】一割一分

東朝鮮鑛業

【設立】昭和十二年四月
【決算期】四月、十月

（本　社）東京市麹町區有樂町東日會館（電丸之內一〇五四）

【合併增資】當社は去る七月朝鮮ドレッヂを吸收合併し、同時に資本金は三百四十萬圓全額拂込濟となつたが、更に八月末五百萬圓增資し、第一回拂込一百二十五萬圓を徵收した。之が目的は云ふ迄もなく金增產計畫に呼應したものだが、增資々金を以つて永平金山の能力擴充、外山金鑛其他の買收に當てられる。目下出願中の鑛區約六十に及ぶのを見ても開發計畫の相當大規模なことが判る。

【業績】合併後、最初の決算期たる七月期計上利益金は四十九萬圓で、一割二分配當が行はれた。今次大戰を機として金買上値段引上が唱へられて居り、合併で安定性を增し、業績は向上しよう。

【資本金】公稱 八,〇〇〇 拂込 四,〇〇〇
【株　數】……舊 (四〇・〇) 新 (二〇・五) 一〇〇,〇〇〇
【重　役】專務 田島常三 取締 寒川恒貞 ／ 取締 土屋計左右 監査 丹羽義次 ／ 〃 成瀨正忠 ／ 〃 岩崎清吉 ／ 〃 松本雅平 相談 川崎友之介
【大株主】十四年七月期 一,三三名 田島常三 四,六四〇 安田信託 三,四〇〇 ／ 川崎友之介 三,二四〇 正確社 一,八六〇
【事業地】永平鑛山 朝鮮咸鏡南道 油選鑛所 一日處理能力 (增設計畫……) 外川金山 朝鮮北道滿州郡南二面尺山里 製錬所 一日處理能力
【事業成績】十五年四 十五年十 十六年七
鑛業收入 (千圓) 二四〇 ／ 二〇〇 ／ 六六
現場經費 (千圓) 八〇 ／ 八〇 ／ 二四〇
【業　績】利益金 利益率 配當率 利益率
十二年下 一〇三 一・〇三 〇・八〇 一・八六
十三年上 一〇四 一・〇四 一・〇〇 一・〇六
〃 下 一〇四 一・〇四 一・〇〇 一・〇四
十四年上 一〇六 一・〇六 一・〇〇 一・〇四
〃 下 一〇四 一・〇四 一・〇〇 一・〇六
【株　價】(實物) 高値 安値
十四年 一八月 六〇・〇 三〇・三
【豫想配當】十四年十月期 (一割二分)
【時　價】舊 六〇・〇 新 一九・七
【利　廻】九分八厘 七分六厘

順安砂金

【設立】昭和七年九月
【決算期】七月一月

（本　社）朝鮮平安南道平原郡順安面
（事務所）東京市麹町區丸ノ內海上ビル（電丸二六一一八）

【七月期業績】最近發表された七月期決算を見ると利益金は六十萬三千圓で一月期に比し二萬圓の減少、利益率は二割四分で八厘の減少である。順安鑛區のドレッヂャーが一部資材難の爲めに修繕が遲れ、產金高の減少を見たのだ。但し一割二分配當は樂に据置いた。

【山金操業本格化】當社は砂金事業から山金採掘に進出した。山金は龍鳳金鑛から採掘されるが、朝鮮總督府が援助し、今明から本格的に操業が開始された。山金だけで大體二、三十萬圓の收入が今期に見込める樣だ。加へるに當社の投資會社瑞春砂金會社が明春來操業の段取りだから、一層の發展が將來に約束される。

【資本金】公稱 六,〇〇〇 拂込 五,〇〇〇
【株　數】……舊 (二〇・〇) 新 (一五・〇) 四〇,〇〇〇
【重　役】專務 社長 淺野總一郎 ／ 常務 藤堂大藏 取締 富永靜雄 ／ 取締 平木鹿治 監査 淺野良三 ／ 〃 前川益以 〃 清水幸一郎
【大株主】十四年七月期 一三名 淺野同族 九,三三〇 望月乙彥 九,三三〇 ／ 共同興業 四,六〇〇 平木鹿治 三,六〇〇
【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上
鑛業收入 (千圓) 一,〇九七 一,一五三 一,一六三
鑛區數 (坪) 一〇・六〇 一一・四〇 一一・三六
〃 面積 (千坪) 一〇・六〇 一一・四〇 一一・三六
【事業規模】採金船
【業　績】利益金 利益率 配當率 利益率
十二年下 四三七 二・八二 一・二〇 五・五
十三年上 五四七 三・八六 一・二〇 五・八〇
〃 下 六三三 三・九九 一・二〇 六・九四
十四年上 六〇三 三・四一 一・二〇 四・六
【株　價】(實物) 高値 安値
十三年 六九・〇 四四・五 五五・〇
十四年 六六・〇 四四・五 五五・〇
一八月 一割二分
【豫想配當】十四年七月期 (一割二分)
【時　價】舊 六九・五 新 三・〇
【利　廻】八分六厘 七分一厘

東邦金屬製練

【設立】昭和十三年七月
【決算期】四月十月

（本　社）東京市麹町區丸ノ內二ノ八昭和ビル（電丸之內五四七四）

【建設工事着手】花蓮港工場は日本アルミの花蓮港工場に隣接して建設される。敷地十萬坪の內、五萬坪に對して豫ねて地均し工事中のところ八月中旬に終了。工場建設工事は請負再入札のために遲れ、未だ起工に至らない。自然、今年一杯完成の見込は多少の遲延を免かれないし、亦、豫算も相當の超過を免かれまい。

【鑛石部門近く本格化】ニツケル資源は南阿のノーエル鑛山を開發するが、その稼行狀勢は既に探鑛、採掘共に順調に進行してはをるが未だ選鑛設備完成せず、鑛石の搬出船積は意の如くでないが、近く本格的操業期に入る模樣である。

【資本金】公稱 一〇,〇〇〇 拂込 五,〇〇〇
【株　數】……(二五・〇) 一〇〇,〇〇〇
【重　役】專務 社長 赤司初太郎 ／ 取締 和田盛一 ／ 〃 中川末吉 ／ 〃 白石元治郎 ／ 〃 藤山愛一郎 ／ 〃 鈴木三郎助 ／ 〃 梅野清太 ／ 〃 林莊太郎 ／ 監査 東馬三郎 ／ 〃 上島清藏 ／ 〃 安部政次郎 ／ 〃 後宮信太郎 ／ 〃 山成喬六 ／ 〃 望月軍四郎 ／ 〃 香田五郎
【大株主】十四年四月期 三六七名 古河電氣工業 四〇,〇〇〇 ／ 大日本製糖 一〇,〇〇〇 ／ 東京瓦斯電燈 一〇,〇〇〇 ／ 日本鋼管 九,〇〇〇
【業　績】利益金 利益率 配當率 利益率
十四年四 一四六 未配 缺損
【收支豫算】收入 支出 利益 配當率
第一期 六,三六〇 四,三四〇 一,六二〇 〇・八〇
【起業豫算】所要資金合計……九,三〇〇
鑛山買收費並採掘設備費……一,一〇〇
製錬設備建築物用地其他……二,三〇〇
水力發電所建設費……三,五〇〇
流動資金……二,四〇〇
【株　價】(實物) 高値 安値
十四年 一八月 三・六 一〇・〇
【豫想配當】十四年十月期 (六分)
【時　價】舊 三・六

三菱鑛業株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内二ノ四（電丸ノ内　三三）

【拂込徵收】當社は千月一日に一株十二圓五十錢、總額二千五百萬圓を徵收する。昨年八月二億圓に倍額增資したが、その第一回二千五百萬圓を徵收したのが昨年十一月二十八日であるから、今回は第二回の拂込である。この拂込が示してゐるやうに、當社は事業の膨脹に積極的方針を採つてゐる。

【茂山分離】當社の事業のうち、朝鮮茂山鐵礦は最も大規模のものである。これが開發に從來力を注いで來たが、今回これを分離して新會社を作ることになつた。資本金は五千萬圓で、その半額を當社で引受け、殘りの半額を日鐵と日鐵鑛山が半々づゝ引受ける筈である。從つて當社としては茂山開發事業の負擔は今後著しく輕減される譯である。それだけ事業の妙味は減退するが、併し當社は他に石炭業を始め、金、銅その他の金屬鑛業に携つてゐるので、仕事はいくらでもある。今後も當社が引續いて事業擴充に積極的に進むであらうことは疑ひない。

【配當持續】石炭も愈ゝ準專賣となり、いままでのやうな利益の增加も期待出來なくなつた。他方拂込は增加するので利益率の低下は免かれまい。併し當社の業績を以てすれば、今後とも一割二分の配當に傷のつくことはあるまい。

【設立】大正七年四月
【決算期】三月、九月
【事業】鑛業、鐵鋼業、運輸代理業、工業、農林業、製塩業、化學及金屬加
【資本金】公稱＝1000,000 拂込＝112,000
【株數】……舊（25.0）2,000,000 ／ 新（112.5）2,000,000
【重役】會長　河手檜二　常務　池田龜三郎　山下元美　小村千太郎　取締　岩崎小彌太　岩崎彦彌太　水原伸雄　松田貞次郎　鈴木一郎　横尾晉力　勝俣英　佐々木高之助　富田治禧　鈴木春之助　監査　加藤武男　諸戸清六　佐藤慶太郎　大越政虎
【株主數】（名）十三年上 六,五12　十五年下 七,722
【總數】
【大株主】
三菱社（六二三,三22）明治生命（三二,000）
第一生命（六,850）諸戸清六（三,三22）
帝國生命（空,250）康德興業（三,三22）
第一徵兵（25,250）千代田生命（四2,二25）
【事業規模】主要鑛區　槇峰、尾去澤、堀川、佐渡、生野、細倉、笹、出石、湯ノ山
朝鮮、高島、筑豐、美唄、大夕張
【產出高】
金（延）十二年上 一,空2,三　十五年上 三,三四三
（總）三,三四三　空,九三三
銀（延）空,三三三　空,九三三
銅（總）空,三三三　空,九三三
石炭（千瓩）三,空25　三,六五
鐵鑛（千瓩）八,空,九25　六,一,三25
【投資會社】九州炭礦、南樺太炭礦、雄別炭礦鐵道、日本化成工業、朝鮮無煙炭、西鮮中央鐵道、古河電工、其他二一五社
【資本異動】十二年六月第三回八月最終各二二四五拂込徵收十三年十二月一億圓增資第一回三圓五拂込徵收

【資產負債】
十二年九月
株主資本 一,三四,四21
積立金 四,三,三11
外部負債 四,三,四10
社債 10,000
支拂手形 四7,空25
使用總資本 一,三二,二21
固定資產 九一,三四,一21
投資勘定 六,三,空25
流動資產 空1,三25
現金預金 空,空25
【收支勘定】十五年上 空,空25
收入 空,三,空00
支出 空,四,一四五
利益 空,空,四四
【業績】十二年上 一,三三
下 一,三0
十三年上 一,三0
下 一,三0
十四年上 一,三0
【株價】（重役）高値 安値 株價 高値 安値
十一年 一三四,六 一0三,六
十二年 一四六,四 一二7,四
十三年 一三九,空 八六,四
十四年 一0一,九 空0,空
一—八月 空0,空 空,三
【株主數】十二年 九,空三
十三年 八,空00
【利益】四分五厘
【時價】四分一厘
【名義書換】十錢

【資產負債】
十二年 三,四四,四21
十四年 九,三,三11
株主資本 四,三,四10
積立金 空,空,空
外部負債 空,空,空
社債 10,000
支拂手形 四,三三
使用總資本 三,三,三21
固定資產 空,三,三21
投資勘定 空,三,三21
流動資產 空,三,三21
現金預金 空,空,空
【收支勘定】十五年上 空,空,空
收入 空,空,空
支出 空,空,空
利益 空,空,空
【業績】十二年上 一,三三
下 一,三0
十三年上 一,三0
下 一,三0
十四年上 一,三0
【株價】（重役）高値 安値 株價 高値 安値
十一年 一三四,六 一0三,六
十二年 一四六,四 一二7,四
十三年 一三九,空 八六,四
十四年 一0一,九 空0,空
一—八月 空0,空 空,三
【株主數】十二年 九,空三
十三年 八,空00
【利益】四分五厘
【時價】四分一厘
【名義書換】十錢

北海道炭礦汽船株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内一ノ二（電丸ノ内區一—八）

【配當据置】本年上期は前期に比し利益は殖えたが、拂込資本增加の壓迫を受けて、利益率は一割七分三厘となり前期に比し三分一厘の低下を示した。併しこの利益率は償却引去り後のものであるから一割の配當も十分可能の成績である。偶々この期は創立五十年記念に當るので增配も期待されたし、當局者もその意思もあつたやうであるが、總動員法第十一條により、昨年上期に比し二分增配（昨年下期に一分增の九分となる）は認められないので、九分配當に据置かれた。この下期も時局に鑑み据置きとならう。

【埋藏量豐富】當社は菱鑛と共に北海道の炭田を二分してゐると言つてもよい。それ程埋藏量は豐富である。尤も當社も機械や人手の不足によつて豫定の增產は目下のところ出來ぬやうであるが、併し增產計畫も着々進行してゐるので、これからは埋藏量の多いのが物を言ひ、增產も進捗するであらう。

【發展力あり】而も當社は自己所有の船舶を以て、石炭を輸送してゐるのが、今日の如き輸送の不圓滑時代には大きな强味である。また洞爺湖の水力開發も進捗し、子會社の室蘭電燈の發電力も增して來たので、動力關係も好くなつて來た。石炭統制强化により從來の如き甘味はないが、併し當社は發展力がある。

【設立】明治二十二年十一月
【決算期】五月、十一月
【事業】石炭採掘販賣花岡漕業
【資本金】公稱＝10,000 拂込＝2,250
【株數】……舊（20.0）500,000 ／ 新（11.25）1,000,000
優先（20.0）100,000
【重役】會長　澁澤利喜太郎
專務　藤井輪七郎　取締　日比谷平左衛門
常務　三國庄二郎　〃　古谷金一郎
〃　加藤德行　〃　長屋孝
取締　倉知鐵吉　〃　川島三郎
〃　赤羽克己　監査　志田勝民
〃　檜野禮助　〃　松岡潤吉
〃　島田勝之助　〃　横山友範
【株主數】
總數（名）十三年上 二,三九　十五年上 六,0六
【大株主】
內藏頭（二,三,三25）三井鑛山（四80,000）
三井合名（三,三,三25）三井物產（100,000）
三井信託（10,三,三25）帝國生命（空,000）
三井生命（20,100）明治生命（四,三10）
【事業規模】所屬鑛區＝夕張、新夕張、平和、角田、萬字、登川、眞谷地、空知、幌內、幾春別、赤間
採掘鑛區　一五　全面積　三,一四2千坪
試掘鑛區　一九　全面積　八,三0三千坪
【事業成績】十三年下　十五年上　十五年下
採炭高（千噸）一,八三　…　…
販賣高（〃）一,八四四　…　…
【投資會社】日本製鹽所、夕張鐵道、共立汽船、京濱電燈、輪西鐵山
【資本異動】十三年九月一〇四拂込徵收　十五年六月新第六回一〇四（最終）拂込徵收十四年一月七千萬圓增資第一回三圓五拂込徵收

【資產負債】
十二年 五,三四
十四年 十一月 五,三四
株主資本 八,四,一四2
積立金 六,三,六
外部負債 一三,一,三四
社債 九,空00
支拂手形 一,0一2
使用總資本 一0九,九三三
固定資產 空,三,三10
投資勘定 三,三,空25
流動資產 一,三,空25
現金預金 九,空00
【收支勘定】十五年上 一,三三,四一
收入 空,空,空
支出 空,空,空
利益 空,空,空
【業績】十二年上 三,三,空
下 三,三,空
十三年上 三,三,空
下 三,三,空
十四年上 四,三,空
【株價】（重役）高値 安値 株價 高値 安値
十一年 一,三四,八 一,三,四 會 八,四,八
十二年 一,四,四 〃 八,〃,八
十三年 二,0四,空 〃 八,〃,八
下 二,三三 〃 九,〃,九
十四年上 一,空,空 〃 九,〃,九
下 一,空,空
【株主數】十二年 四,空,空
十三年 四,空,空
十四年上 四,空,空
【利益】配當率
【收支勘定】十五年上 一,三三,四一
收入 空,空,空
支出 空,空,空
利益 空,空,空
（利益は消却前のもの）
【業績】十二年上 一,三,空
下 一,三,空
十三年上 一,三,空
下 一,三,空
十四年上 一,三,空
【株價】（重役）高値 安値 株價 高値 安値
十一年 八四,九 空,三 — —
十二年 一0四,九 八空,0 — —
十三年 九,九,三 空,三 — —
十四年 空,三 空0,0 三空,三 一0,八
一—八月
【基準配當】十四年十一月期 九分
【豫想配當】
【時價】前八一,五
新三空,0
【利益】五分五厘
三分九厘
【名義書換】五　錢　【新券交付】二十錢

東邦炭礦株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ内二丁目一八昭和ビル内（電丸ノ内二、九二）

【成績急惡化】 五月期成績は下表に見る通り、猛烈な急低下を示した。前年同期に比し利益率に於て一割六分の低下だから大きい。配當は一割を据置いたが、これはその以前に於ける赤司社長の公約があつたからで、決算面からすれば當然減配すべき成績であつた。

【經營形態の改變】 かゝる成績の急惡化は、主に十三年九月昭和石炭によつて行はれた一律一態の炭價引下（一割）に基くものである。勿論、この影響は各社一樣に感じたわけだが、最近急激に膨脹した當社は、蓄積利潤とて少なく、題當り生産費も加盟メンバー中特に高かつただけに、打擊の程度が大きかつたのだ。このため現在は所有鑛區の大部分を手放して、その經營を他會社に移し、自らは投資收入に生きる形式をとつてゐるが、これによつて果して今後どの程度の成績が期待されるか。

【減配と前途】 問題は殘された彌生一坑の稼行益と投資收入が幾何に上るかだが、記者の推算では半期總益金は現行一割配當所要金と餘り距りはないやうに見られる。どうしても二、三分の減配は必要だが、實際問題として二分減配に落付くのではなからうか。近く一元的石炭販賣統制會社が設立されるが、そうなると生産費保障の點で、安定性は付けられるわけだ。

【設立】大正八年十月
【決算期】五月、十一月
【事業】石炭採掘
【資本金】……公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝二〇、六二五
【株數】……前（三〇、〇）　新（二二、五）　三三〇、〇〇〇
【重役】社長　赤司初太郎
取締　岡村左右松　太田清藏
〃　加島安治郎　足立盛夫
〃　中東光五郎　安藤健
〃　德永重康　監査　後宮信太郎
〃　望月軍四郎　〃　金澤冬三郎
【株主數】（名）十三年上　二、〇八八　十三年下　二、五四〇
【大株主】
大日本製糖㈱、〇〇〇　日本生命二、〇〇〇
帝國生命二、〇〇〇
赤司初太郎二、〇〇〇　大島喜代治二、〇〇〇
鐘淵紡績一〇、〇〇〇　輻湊生命一〇、〇〇〇
【事業現模】
鑛區所在地及面積
長崎　彌業所　福岡縣糟屋郡　八〇、〇千坪
大谷鑛業所　〃　一、〇六六　〃
筑平鑛業所　〃　筑平郡　一、六三　〃
天道鑛業所　〃　嘉穗郡　四三　〃
築紫鑛業所　〃　〃　九五　〃
【投資會社】深坂炭鑛、田川炭鑛、櫃形炭礦

【資本異動】十三年四月倍額增資第一回二圓五拂込徵收、新東邦、大谷炭鑛を合併（六〇萬圓增資、九月三圓拂込徵收、十三年一月三圓五（最終）拂込徵收、十三年一月倍額增資第一回三圓五拂込徵收

【資產負債】

	五月	十二月	十四年五月	十二月
株主資本				
積立金	一、九六六	一、九六六	三、六六二	三、六六二
外部負債				
借入金	一、〇五一	三、二五〇	三、八六四	三、四三〇
支拂手形	七、七六一	七、六二一	四、九六六	八、〇五六
使用總資本	一、二五〇	二、〇〇〇	一、三六〇	五、〇〇〇
固定資產	一、四六一	一、四六一	三、四三〇	三、四三〇
投資勘定	一、六六一	一、六六一	一、六六一	一、六六一
流動資產	七、八六六	八、〇六三	六、六六〇	四、〇〇〇
現金預金	一、六六一	二、二六〇	一、六六一	一、六六一
【收支勘定】				
收入	十五年上	十五年下	十六年上	十六年下
利益	八、六六六	九、〇六六	七、七六一	七、七六一
支出	六、九六六	六、九六六	五、九六六	五、九六六
固定消却	一、六六一	二、〇六六	一、六六一	一、六六一
消却年率	九、九六	一〇、〇六	一三、九六	一三、九六
【業績】				
十二年上	利益率	配當率	利益率	配當率
	二、七一	一、〇〇	六、二〇	六、一八
十三年上	二、六六	一、〇〇	六、一八	六、六六
十三年下	二、九六	一、〇〇	六、六六	六、六六
十四年上	二、三四	一、〇〇	五、九六	三、五六
【株價】（實勢）舊	高値	安値	株	新株
十二年	八七、〇	六一、〇	高値	安値
十三年	四一、二	四二、〇	三五、五	一〇、七
十四年	五六、八	四六、七	一六、九	一一、〇
一—八月				
【基準配當】	舊	新		
【豫想配當】	一割	一割		
十四年十一月期	八分	七分七厘		
【時價】	舊	新	【利廻】	
	一三、八	一三、八	七分二厘	
【名義書換】	十錢	【新券交附】	三十錢	

磐城炭礦株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ内一ノ六ノ一（電丸ノ内八四一三）
（礦業所）福島縣石城郡内郷村

【統制の壓迫】 炭礦會社は石炭に對する統制强化によつて、從來の如き好況は期待出來なくなつたが、特に常磐炭は不利の位地に置かれた。それは常磐炭は東京に近いため、九北炭の如き高運賃のかゝる炭との競爭が樂であつた。ところが昨年秋から常磐炭も他の地方の石炭と同水準の炭價を以て販賣することになつたゝめ、從來持つてゐた地の利と言ふ武器を奪はれてしまつた。

【利益率低下】 本年上期の當社の利益率が二割三分六厘となり、十三年上期の三割二分一厘に比し著しい低下を示したのも、右の統制强化の壓迫に因るところが大きい。而も本年上期ではまだ統制による影響は比較的輕く、この下期には一層壓迫が加るので、成績は更に低下を免かれまい。

【安定配當】 ただ當社は未だ埋藏量を多く殘してゐるので增產力を持つてゐる。その上級製鋼所を設け諸種の機械も自給自足出來るものが多いので、他の炭礦會社で見るが如き、機械の不足はない。この點は當社の强味となつてゐる。そこで價格統制による不利は增產によつて或程度賠ふことが出來る。併しそれでも成績の低下は免かれぬであらう。この下期は或は一割に据置くかも知れぬが、安定配當は八分と押えておく方が安全である。

【設立】明治二十六年十二月
【決算期】五月、十一月
【事業】石炭採掘製煉
【資本金】……公稱＝三、二五〇　拂込＝一、三三四
【株數】……前（三〇、〇）　新（二二、五）　三三、〇〇〇
【重役】社長　淺野總一郎　取締　淺野良三
〃　前川益以　〃　梅吉
〃　岡部正樹　〃　小坂
常務　倉田龜之助　常監　齊藤順三
〃　白石元治郎　〃　河合謙
取締　阪谷芳郎　〃　得男
〃　〃　〃　遠山元一
【株主數】（名）十三年上　一、三三四　十三年下　一、四四四
【大株主】
淺野同族九、三三　安田銀行五〇、〇〇〇
丸之内商事三、五〇〇　川島屋商店二〇、二〇〇
倉田龜之助二〇、二〇　新興證券一〇、〇〇〇
富國徵兵一九、三五〇　遠山信成一四、〇四〇
【事業規模】十三年上　一八　十三年下　一八
採掘鑛區　一二、五九六　一二、五九六
同面積（千坪）五四　五四
未掘礦區　五四　五四
同面積（千坪）四四、七六　四四、七六
鑛失數（人）四、五〇〇　六、二六六
【事業成績】十二年下　三四四　十三年上　三四四
十三年下　…　…
採炭高（千噸）四五　三四三
販賣高（〃）三四三　二九六　…　…
自家消費（〃）六四　九七
【資本異動】十三年五月三圓五拂込徵收、第二磐城を合併七月一五圓（最終）拂込徵收十四年一月倍額增資第一回二圓五拂込徵收

【資產負債】

	五月	十二月	十四年五月	十二月
株主資本				
積立金	一、九六六	一、八〇五	三、六六二	三、六六二
外部負債				
借入金支拂	一、一四一	三、二八〇	三、八六四	三、四三〇
社債	七、六二一	七、六二一	四、九六六	八、〇五六
使用總資本	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、三六〇	五、〇〇〇
固定資產	三、四六一	三、四六一	三、四三〇	三、四三〇
流動資產	一、九六九	一、九六九	一、六六一	一、六六一
現金預金	九六六	九六六	七、七六一	四、〇〇〇
【收支勘定】				
收入	十五年上	十五年下	十六年上	十六年下
利益	四、五六六	四、五六六	五、九六六	五、九六六
支出	四、五六六	四、八〇五	三、〇〇〇	一、八六六
固定消却	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
消却年率	一〇、九三	一一、〇〇	九、九一	九、九一
（×印收入には第二磐城引繼益金三九二千圓を含む）				
【業績】	利益率	配當率	利益率	配當率
十二年上	〇、九五	無配	一〇、〇〇	一〇、〇〇
十二年下	一、四四	〇、五〇	六、八〇	六、六六
十三年上	三、三三	一、〇〇	六、三六	六、〇〇
十三年下	三、九四	一、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
十四年上	二、九九	一、〇〇	五、五六	五、五六
【株價】（實勢）舊	高値	安値	株	新株
十二年	六一、六	三三、六	高値	安値
十三年	六二、八	五三、七	—	—
十四年	六四、九	五四、六	—	—
一—八月				
【基準配當】	舊	新		
【豫想配當】	一割	一割		
十四年十一月期	八分	六分三厘		
【時價】	舊	新	【利廻】	
	六〇、〇	一九、七		
【名義書換】	五錢	【新券交附】	五十錢	

入山採炭株式會社

（本　社）東京市京橋區銀座三ノ四大倉別館內（電京橋　吾一—三）
（坑務所）福島縣石城郡湯本町

【一割配當は樂】 當社も磐城炭礦と同樣地の利を失つたゝめ、成績は著しく低下した。卽ち本年上期の利益率は三割六厘で、昨年下期の五割六分七厘に比すると實に二割六分一厘の低下である。尤もこの成績なら、昨年下期通り普通配當八分特配四分は十分可能であつた。當社もその積りであつたが、政府當局の配當審査により、特別配當だけ二分の減配を命ぜられた。その結果普通特配をこめ一割にとゞめることゝなつたので、決算はそれだけ樂になつた譯である。この下期は更に利益率の低下は必至であると思ふが、併し減配したお蔭で一割の配當は十分据置が可能である。

【子會社の發展】 當社は常磐炭田の埋藏炭は少ない。その點は磐城に劣るが、その代り當社は例へば山口縣の大淸炭礦、福岡縣の西戸崎の兩炭礦を子會社とし、また北支にも石炭の採堀に當つてゐる等、外部に積極的に活躍してゐる。石炭が準專賣になると何うしても增產力の多い會社が有利となるから、その點では子會社を作つておいたことが、今日となつて見ると一層よかつた譯である。

【株價】 炭礦株は統制强化が悲觀され、この夏頃は一齊に下落したが、當社もその例から洩れなかつた。併し一割配當は持續可能であり、內容も良好であるから行過た悲觀はするに當らぬ。

【設　立】明治二十九年二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】石炭採掘販賣、煉炭製造販賣
【資本金】……公稱＝二、〇〇〇　拂込＝八、三〇〇
【株　數】……舊（二〇、〇）　一〇〇、〇〇〇
　　新（二二、五）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　島岡亮太郎　取締　島山藏六
　　專務　渡邊寬一郎　〃　大貫經夫
　　取締　門野重九郎　監査　本宿　家金
　　〃　大崎　新吉
【株主數】　十三年上　十三年下　十四年上
　　總數（名）　八〇一　八〇一　九四九
【大株主】大倉組一四、四八〇　河嶋　政吉一五、五三五
　　富國產兵八、七八〇　南保夫五、五三五
　　南京樹四、九八〇　千歲商會四、九八〇
　　藍澤商店四、三五五　渡邊寬一郎三、九三四
【事業規模】　十三年上　十三年下　十四年上
　　採掘礦區　一〇　一〇　一〇
　　全面積（千坪）九、五三五　九、五三五　九、五三五
　　試掘礦區　一四　一四　一四
　　全面積（千坪）二一、八五六　二一、八五六　二一、八五六
　　鎭夫數（人）三、八六　三、〇三五　三、一九八
　　所屬礦區　福島縣石城郡湯本町
【事業成績】　十三年上　十三年下　十四年上
　　出炭高（千噸）二九、七　三九、八　三六、七
　　販賣炭（〃）三四、七　三六、七　三六、七
　　內自家用（〃）一三、九　一〇、五　…
　　貯炭高（〃）三、〇　六、〇　…
【資本異動】十三年九月第四回三圓五發收、十四年六月一、五〇〇萬圓に增資第一回二圓五拂込徵收

【資產負債】　十二年五月　十二年十一月　十四年五月
　　株主資本　九、五九九　八、五九九　八、九八六
　　積立金　一、四三一　一、九二一　一、九二六
　　外部負債　二、三〇〇　二、三六八　二、四〇〇
　　支拂手形　一、〇〇〇　一、〇二〇　四二〇
　　使用總資本　九、一〇五　一二、三六八　一三、三六八
　　固定資產　六、五四　六、五六八　六、四六五
　　投資勘定　九四五　一、一五一　一、一五一
　　流動資產　三、八三一　三、八三六　三、四三四
　　現金預金　一、五四〇　一、三四〇　一、〇四〇
【收支勘定】十三年上　十三年下　十四年上
　　收入　五、八三一　五、八三六　五、四三四
　　支出　四、五四〇　四、三四〇　四、〇四〇
　　利益　一、二九一　一、五九六　一、三九四
　　固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　　消却年數　二〇〇　二〇〇　二〇〇
【業　績】十一年上　十一年下　十二年上　十二年下　十三年上　十三年下　十四年上
　　利益率　一二、〇四一　一二、〇四一　九、八〇六　九、八〇六　一〇、〇四一　一〇、〇四一　一〇、〇四一
　　配當率　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇
　　利益後餘　一、〇二〇　一、〇二〇　八、九八六　八、九八六　九、〇四一　九、〇四一　九、〇四一
【株　價】（實勢）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
　　十一年上　六六、二　六、二　一　一　一　一
　　十一年下　九九、九　四二、一　一　一　一　一
　　十二年上　九九、〇　四二、八　一　一　一　一
　　十三年上　八六、六　六六、五　二五、〇　二〇、八
　　十四年上　一　一　一　一　一　一　一
　　一—八月　一　一　一　一　一　一　一
【基準配當】十四年十一月期　普八分　特二分
【豫想配當】一割　七分　二厘
【時　價】舊　六九、七　五分
　　新　二五、〇
【名義書換】十錢　【利廻】　【新券交附】三十錢

太平洋炭礦株式會社

（本　社）東京市日本橋區室町三井三號館內（電日本橋三三）

【出炭は順調】 物資不足と勞働力拂底で石炭會社は一樣に減產傾向に見舞はれてゐるが、この中にあつて當社の出炭は比較的順調に行つてゐるやうだ。この事は昨年の炭價引下に拘らず、五月期の成績が殆ど影響されてゐないのを見れば、すぐ肯ける。

【增產計畫と送炭】 當社は十二年以來百萬瓲出炭計畫を目標に進んで來たが、最近これを百五十萬瓲計畫に擴大し、着々實行にとりかかつてゐる。建設中であつた山元から積出港たる釧路港を結ぶベルト・コンベアー設備も、七月から運轉を開始した。これによつて二三年先で假に百五十萬瓲出るやうになつても、運搬の方は大丈夫だ。あとは船繰りの問題だが、當社の販賣は三井物產に全部委せてあるので、これもそう心配せんでもよさそうだ。

【拂込增資問題】 增產の進むにつれて拂込徵收が考へられる。未拂込はあと一株五圓、總額百十萬圓に過ぎぬので、これだけでは今後の資金は到底賄へない。行く〳〵は增資となるであらうが、周知の通り當社株式廿二萬株の大半十五萬株は三井鑛山で所有してをり、凡ゆる經營の采配は三井鑛山に屬する。從つて現實、何時拂込をとり增資に向ふかは、全く鑛山の都合次第だが、假に一時借金によるにしても、大勢は右の如しと云へるやうだ。

【設　立】大正九年四月
【決算期】五月、十一月
【事　業】石炭採掘販賣、土地經營、其他附帶事業
【資本金】……公稱　一一、〇〇〇
　　拂込　九、八〇〇
【株　數】……（四五、〇）　二二〇、〇〇〇
【重　役】會長　片山眞五郎　監査　清水　源作
　　取締　松方　正熊　〃　岡本　達三
　　〃　大東　藤吉　相談　牧田　環
　　〃　間瀨　三郎
【株主數】　十三年上　十三年下　十四年上
　　總數（名）　六三二　六四五　六九九
【大株主】三井鑛山一四九、〇〇〇　西　廣二　三、〇〇〇
　　日本殖產　二、〇〇〇　木村商事　一、八五五
　　木村カヲル　一、三五〇　生島　嶋　一、一一〇
　　里田　さい　一、一〇〇　伊豆銀行　一、一〇〇
　　三井英一　一、〇〇〇　石井　國夫　一、〇〇〇
【事業規模】　十三年上　十三年下　十四年上
　　採掘礦區　八　八　八
　　同面積（千坪）七、九六六　八、三二三　八、五二三
　　試掘礦區　四七　四六　四七
　　同面積（千坪）三六、八四四　三六、一三五　三七、四二一
　　所屬礦區　北海道釧路市郊外
【事業成績】　十二年上　十二年下　十三年上
　　採炭　高（千噸）三四四、五　三〇三、五　…
　　販賣　高（千噸）三四四、九　三九三、〇　…
【資本異動】十三年九月第三回七圓五拂込徵收

【資產負債】　十三年五月　十三年十一月　十四年五月
　　株主資本　二一、三六六　二一、三六六　二一、三六六
　　積立金　六六八　六六八　六六八
　　外部負債　一、九六六　一、九六六　一、九六六
　　使用總資本　二二、一三五　二三、一三五　二四、五三五
　　固定資產　九、四三一　九、四三一　九、四三一
　　投資勘定　一、九九九　一、九九九　一、九九九
　　流動資產　一、一一〇　一、三三五　一、四三五
　　現金預金　三三　四六　四六
【收支勘定】十三年上　十三年下　十四年上
　　收入　四、九三五　四、九三五　五、三三五
　　支出　四、一一〇　四、三三五　四、四三五
　　利益　七三五　六〇〇　九〇〇
　　固定消却　一、〇一〇　一、〇一〇　一、〇一〇
　　消却年率　二五〇　二五〇　二五〇
【業　績】十一年下　十二年上　十二年下　十三年上　十三年下　十四年上
　　利益率　一、二　一、四五　九、三五　一〇、〇五　一四、五六　一四、五六
　　配當率　一、〇八〇　一、〇八〇　一、〇八〇　一、〇八〇　一、〇八〇　一、〇八〇
　　利益後餘　一、二　一、三五　八、二五　九、〇五　一三、四六　一三、四六
【株　價】（實勢）高値　安値　高値　安値
　　十一年上　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
　　十一年下　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
　　十二年上　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
　　十三年上　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
　　十三年下　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
　　十四年上　一四、五　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
【基準配當】十四年十一月期　九分
【豫想配當】十四年十一月期　七分四厘
【時　價】五四、五　【利廻】
【名義書換】十錢　【新券交附】三十錢

九州炭礦汽船

【設立】明治四十年十一月　【決算期】四月、十月

（本社）東京市麹町區丸ノ内三菱本館（電丸ノ内三六〇）

【成績順調】炭礦會社の本年上期は一齊に業績が低下したのに拘らず、當社だけは積極的に向上もしなかつたが惡化もせず、略ぼ昨年下期同樣の成績を擧げることが出來た。無論當社と雖も物資不足、炭價抑制の壓迫は蒙むつた譯であるが、それに對し諸般の對策を講じ、成績の低下を喰ひとめることが出來たのである。

元々當社は內容が優秀であり、坑內外の設備も充實してゐるのでコストも割安につく。それに近年他社の如き擴張もしてゐないので資本の壓迫もない。當社の成績が比較的に順調であるのもその爲めである。發展性はないが安全な會社である。

【資本金】……公稱一〇、六二五、〇〇〇　拂込一〇、六二五、〇〇〇

【株數】……舊（五〇、〇〇〇）一〇〇、〇〇〇　新（一〇、六二五）一〇〇、〇〇〇

【重役】常務　小村千太郎　取締役　木下英夫　〃　淵田龜三郎　監査役　齊藤定吉　〃　杉浦久三郎　〃　鈴木春之助

【大株主】十四年四月　三菱鑛業二〇、六二〇、〇〇〇　綿谷傳兵衛　六、七二〇名　福井銀行　二、二〇〇　講談社　一、七二〇

【事業規模】採掘權登錄鑛區八……一〇、六三二千坪　試掘權登錄鑛區一〇……八、九〇〇千坪

【業績】

	利益金	配當率	利益率
十二年下	九、七〇	三、〇〇	配二、〇（倍一、五）
十三年上	九、七〇	三、一〇	一、七〇
下	九、一〇	三、一〇	一、七〇
十四年上	九、六六	三、九〇	一、七〇
下	九、六六	三、九〇	一、七〇

【株價（實績）】

	高値	安値
十三年	一二、九	一〇三、〇
十四年	一〇三、〇	九、六、六
一—八月	九、六、六	七、六、六

【豫想配當】十四年十月期（一割二分）

【時價】舊九六、〇　新七、六、六

【利回】六分三厘　六分九厘

茅沼炭礦

【設立】昭和五年四月　【決算期】五月、十一月

（本社）東京市麹町區丸ノ内二ノ二九ビル（電丸之內五三七）

【缺點は湧水】當社の鑛區は湧水の多いので有名だ。殊に融雪期に於ける坑內增水は甚しく、時として採炭不能に陷ることすらある。昨年下期四分減配したに拘らず、去る五月期の成績が停頓狀態にあるのは、やはりこのためである。

【八分配當持續】昨年以來掘進中であつた第二斜坑は、最近着炭した模樣だ。第一斜坑は既に二千尺にも達する老朽坑なので、今後の望みは全く第二斜坑の出炭にかけられる。十一月期は、五月末に行つた倍額增資で資本負擔が增すので、業績は却て低下するかも知れぬが、現行八分配當はどうにか維持出來よう。

【資本金】公稱一、〇〇〇、〇〇〇　拂込一、二五〇、〇〇〇

【株數】……舊（五〇、〇）二〇、〇〇〇　新（一、二五〇）四〇、〇〇〇

【重役】社長　赤司初太郎　取締役　齊藤定吉　常務　茂木泰次郎　〃　小林嘉一郎　〃　佐藤與平　取締役　國府寺勝三　〃　萩原長吉　〃　入倉榮太郎　〃　吉川長次郎

【大株主】十四年五月期　東邦炭礦　三、八〇〇　吉川長次郎　三六名　萩原長吉　三、五〇〇　萩原武　三、〇〇〇

【事業地】北海道積丹半島　炭田面積……六、二〇〇千坪

【事業規模】炭田推定埋藏量……

第一斜坑……　點　資德坑……

【業績】

	利益金	配當率	利益率
十二年下	一〇九	二、六六	一、〇二
十三年上	一〇一	二、〇〇	一、〇〇
下	一〇〇	二、〇〇	一、〇〇
十四年上	一九九	一、九九	〇、八〇

【株價（實績）】

	高値	安値
十三年	八〇、五	五二、〇
十四年	四四、五	三九、五
一—八月	四四、五	三九、五

【豫想配當】十四年十一月期九分（八分）

【時價】舊一〇、〇　【利回】一割五厘

北樺太鑛業

【設立】大正十五年八月　【決算期】三月（年一回）

（本社）東京市麹町區丸ノ内丸ビル內（電丸ノ內一六三六）

【損失補償】當社は三つの恩惠を受けた。一つは鑛業權中出世拂金一百萬圓が當社の窮狀を救ふため免除された。その爲め從來の累加された損失が殆ど埋合された。更に政府補助金として十四年度は百二十萬圓が交附されることになつてゐる。この二つの救濟によつて、當社は今後稼業を中止してゐても損失は大して出さずにすむ。

【事業再開準備】また何時でも事業を再開し得るやうに、政府元利保證の社債二百萬圓が發行され、資金手當も出來てゐる。當社もその積りで種々の準備を進めてゐるが、相手のソ聯側が未だに折れて來ない。併し利權は確保されるから、株式は持續を可とする。

【資本金】公稱一〇、〇〇〇　拂込一、二五〇

【株數】……（一二、〇）一〇〇、〇〇〇

【重役】取締役　松本健次郎　會長　三井米松　〃　村山慶之介　常務　西原民平　監査　藤岡淨吉　取締役　樋本圭三郎　〃　大島富造　〃　河手拾二

【大株主】十四年四月期　三菱鑛業一〇、〇二〇　住友本社　六、九九名　土橋修三　三、四〇〇　三井鑛山　四、六〇〇

【事業規模】採掘權區四百萬坪　未採掘鑛區三百萬坪

【事業成績】

	出炭高（千噸）	販賣高（〃）
十一年	一九、六	一九、六
十二年	二、五、六	二、五、六
十三年上	一、三、三	一、三、三
十三年三月	六、九	六、四
十三年三月（一二）	一、三、三	一、三、三
十四年上	三、九六	缺損
十四年三月（一三）	三、〇、三	無配

【業績】

	利益金	配當率	利益率
十一年三月	六、九	一、三六	〇、六〇
十二年三月	六、四	一、三、三	〇、六〇
十三年三月（一二）	一、三、三	缺損	無配
十四年上	〇、九九	〃	一〇、〇〇

【株價（實績）】

	高値	安値
十三年	二、三、六	一三、六
十四年	二〇、〇	一、一四、〇
一—八月	一、一四、〇	一、一四、〇

【豫想配當】十五年三月期　無配（年六分）

【時價】二四、八　【利回】—

九州採炭

【設立】昭和十年四月　【決算期】五月、十一月

（本社）福岡縣筑手郡木屋瀬町

（營業所）福岡市片土居町十五ビル內（電東五四六）

【新長崎炭礦合併】當社は八月末の臨時總會で、北松浦炭田の新長崎炭礦（資本金百萬圓拂込濟）を合併することに決定した。合併條件は一對一だから、これによつて當社の資本金は百萬圓を增加して、公稱六百萬圓拂込五百卅七萬五千圓となる。

【一割配當可能】新長崎炭礦の現在の出炭高は、月產五千噸見當に過ぎないが、鑛區が廣大なので今後の增產計畫如何によつては相當期待出來そうだ。同社の之迄の配當は普通六分優先七分なので、合併後の基準配當は九分二厘に當る。從つて當社の現行一割配當は、原則として踏襲可能と見られる。

【資本金】公稱一、〇〇〇、〇〇〇　拂込一、二五〇、〇〇〇

【株數】……舊（五〇、〇）五〇、〇〇〇　新（一二、〇）五〇、〇〇〇

【重役】社長　藤井伊藏　副社長　今野見山謹二　常務　丸廣記吾　取締役　大鶴見弘　監査　佐藤勇　〃　德倉充治　〃　藤井則文

【大株主】十四年五月期　日滿鑛業一〇、〇〇〇　德倉充治　一、〇五六名　藤井伊藏　四、〇〇〇　龜田利三郎　二、〇〇〇

【事業地】福岡縣（新手、土井、岩崎）鑛區面積……六、六五、九二坪　出炭高年產能力……

【事業成績】

	炭代收入（千圓）
十二年上	八五四
十三年上	一、〇一四
下	一、一〇一
十四年上	一、一〇一

【業績】

	利益金	配當率	利益率
十二年下	一、九一	一、九一	一、〇〇
十三年上	二、一一	一、九一	一、〇〇
下	二、一一	一、九一	一、〇〇
十四年上	二、〇三	一、〇〇	〇、八四

【株價（實績）】

	高値	安値
十三年	三二、六	二三、六
十四年	三三、〇	二四、〇
一—八月	四六、六	二四、〇

【豫想配當】十四年十一月期一割（一割九分八厘）

【時價】舊三二、〇　所二四、六　【利回】九分一厘

【石炭鑛業】

日本石油株式會社

（本　社）東京市麴町區丸ノ内三ノ四（電丸ノ内 三三〇—九）

【大戰の影響】歐洲大戰が擴大持續されると見る場合、わが石油事業の受ける影響は甚大である。國内需要の九割を外油に依存し、その又七割近くを米國から買つてゐるのが今日の有樣だ。從つて問題は、今次の歐洲大戰に對し中立を翳して立つた米國が、今後わが國にどれだけの石油を供給するか、更にその原油相場が戰爭で著騰しないかの點である。結論的に云ふと、原油輸入は今後相當窮屈化すると同時に、相場も昂騰必至と見られる。現に米國原油相場は、操業率緩和を行なつたに拘らず、價格騰貴を見せてゐる。

【採算の變化】かやうな次第だから、假にどうにかして外油獲得が從前並みに行くとしても、對米爲替の急落と原油それ自體の價格昂騰から、わが石油精製會社の採算は激變する。尤も之が現實に現れるやうになれば、石油製品の現行公定價格は當然改變されることゝならうから、之が直ぐその儘精油會社への打擊とはならぬ。

【增資問題】殊に當日石の如く、外油精製以外に國產原油に相當の期待がかけられる會社は、この部面で惠まれる。今後は賣上高の積極的增加は到底望めぬが、恐らく從前に近い業績は擧げられよう。國策的見地から國產原油の試掘增產及び高級油生產は、益々必要となつて來たので、倍額增資の問題も、遠からず具體化せん。

【設　立】明治二十一年五月
【決算期】三月、九月
【事　業】石油其他鑛物採掘精製販賣
【資本金】……拂込濟 二〇,〇〇〇,〇〇〇
【株　數】……（二〇〇,〇〇〇）一,〇〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　橋本圭三郎
　〃　專務　中野鐵平　取締　鶴見左吉雄
　〃　〃　水田政吉　〃　渡邊藤吉
　〃　取締　川久保修吉　〃　渡部介
　〃　〃　山口誠太郎　監査　山本留次
　〃　〃　西脇濟三郎　〃　相談　大橋新太郎
【株主數】十五年上　三,一〇五
　總數（名）一九,六六六　十六年上　三,一〇五
【大株主】山口誠太郎八七,〇八〇　西脇合名五五,九八〇
　帝國生命三一,〇〇〇　新津恒吉一〇,一三五
　安田保善一九,三八〇　中野興業一七,七九六
　新津石油一四,九三六　飯塚知信一三,六三六
　渡邊藤吉一二,四三六　富國徵兵一二,四〇〇
【事業規模】十五年上　十五年下　十六年下
　鑛山設備（千圓）四一,六五五　四一,五四〇　四〇,七二一
　製油設備（千圓）二七,二四四　二七,八五一　二七,八九九
　石油鑛區（千坪）一三,八五一　一三,八五一　一三,一二六
　樺太三,九六六　新潟縣　一〇,〇四一
　　道八四,七四一　秋田縣　九七,八三五
　北海　其他共計　五三五,二三一
　山形縣一五,三三一
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　賣上高（千圓）六一,四六六　六二,三四二　五六,一一三
　買入原油（千圓）一九,四三〇　一九,四〇〇　二〇四,四六九
【投資會社】北樺太石油、滿洲石油
【資本異動】十一年十月七圓五拂込徵收、十二年十月一圓五拂込徵收、十三年一月二圓五拂込徵收、十月一〇圓（最終）拂込徵收

【資產負債】

	十二年三月	十三年三月	十四年三月
株主資本	二〇五,三三五	二一九,三四五	二一九,三四五
積立金	二七,二六六	二八,〇四五	二八,〇四五
外部負債	三四,八〇五	三四,八〇五	三三,八〇五
社債	一七,八〇〇	一七,九二二	一七,〇〇〇
使用總資本	二五〇,〇四〇	二五四,二四六	二五四,四六五
固定資產	八二,六六〇	八二,八二一	八一,二六七
投資勘定	八,三四七	九,一二六	一一,四三六
流動資產	一六,〇四二	一六,四四六	一七,四四六
現金預金	五六,〇四三	六二,〇四三	六七,〇四三
【收支勘定】			
收入	十二年上	十三年上	十四年上
利益	六四,〇四三	六六,〇四三	七四,〇四三
支出	五二,八〇六	五六,八〇六	六四,八〇六
利益	一一,八六六	一二,四三七	一二,四三七
固定消却	一四,〇〇〇	一四,〇〇〇	一四,〇〇〇
消却年率	一〇%三	一〇%三	一〇%六
【業績】	十一年下	十二年上	十二年下
利益率	二,四五	二,四五	二,四五
配當率	〇,八〇	〇,八〇	〇,八〇
特別	〇,二	〇,二	〇,二
〃	〇,八〇	〇,八〇	〇,八〇
〃	〇,八〇	〇,八〇	〇,八〇
〃	〇,八〇	〇,八〇	〇,八〇
【株價】（東長）	十二年	十三年	十四年
高値	八八,〇	八六,〇	七四,〇
安値	七四,五	七四,五	六四,二
【基準配當】	八分		
【豫想配當】	十四年九月期　八分		
【時價】	五分三厘		
【名義書換】	十錢	【新券交附】	三十錢

北樺太石油株式會社

（本　社）東京市麴町區丸ノ内三ノ四有樂館内（電丸ノ内 一六〇一二）

【利權企業とソ聯】歐洲大戰勃發、更に日ソ關係の改善機運を繞つて、當社事業の顯著な好轉を期待するものがあるが、わが利權企業に關する限り、この見方は當らない。ソ聯の外國利權排擊は陋固たる國策であつて、現在殘つてゐる外國利權は北樺太に於けるわが石油、石炭利權が唯一のもので、ソ聯は之れを國辱と看做してゐる。

【成績惡化す】日ソ關係膠着の場合は問題にならぬが、よし今後相當の改善を豫想するにしても、差當り十四年度業績は勞働者の極端な不足のため、原油搬出量は前年度の五分の一程度に大減少するは必至であり、一方去る八月十一日調印を見たる團體契約の結果、勞働賃銀は一擧一割五分の引上げとなつたので、今後之が支出の增大に影響する。十五年度以降に就ても、假に成績がよくなつたからと云つて、すぐ配當をどうかうすると云ふわけには行かぬ。

【實體を攝め】それは當社は今後毎年約百八十萬圓の政府元利拂保證社債の償還負擔があり、玆二年間に交付された政府補助金六百十八萬四千圓の返濟義務がある。補助金を完濟せざる限り如何に成績がよくても六分以上の配當は許されぬ。而も他方最近の業績不振で、不良資產も大分殖えてをる。結局樂觀的に見ても當分四分配當が維持出來ればよい方である。餘り期待をかけることは禁物だ。

【設　立】大正十五年六月
【決算期】三月（年一回）
【事　業】原油採掘及輸入販賣
【資本金】……拂込濟 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【株　數】……（二〇〇,〇〇〇）二〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　左近司政三　取締　河手拾二
　常務　小泉武三　〃　倉知纖吉
　〃　松村松次郎　〃　崎川才四郎
　取締　伊藤文吉　〃　矢島富造
　〃　橋本圭三郎　〃　藤岡淨吉
【株主數】十三年三　十四年三
　總數（名）一〇,二〇三　六,一〇四　六,一八八
【大株主】日本石油一八,七五六　日本鑛業一六,七四五
　富國徵兵九,七二〇　三菱鑛業八,三三〇
　坪川恒平七,〇〇〇　三井鑛山五,五二〇
　長部松三郎五,一〇〇　旭石油四,三五
　住友本社三,三五　中外產業三,一二〇
【事業規模】事業地……露領北樺太東海岸
　採掘鑛業所……オハ、カタングリ
【事業成績】十一年三　十二年三　十三年三
　採掘高（千噸）一六六　一五六　……
　ソ聯購入（〃）四〇　……　……
　前年持越（〃）一〇六　一〇六　……
　合計（〃）一四〇　一〇六　……
　自社使用（〃）三〇　三〇　……
　搬出高（〃）一二　三一　……
　搬出高（〃）一〇七　一〇七　……
　大年繰越（〃）一〇六　一〇四　……
　原油收入（千圓）五,八四四　六,四一三　……
【資本異動】九年二月、十一月及十一年九月各三圓五拂込徵收

【資產負債】

	十二年三月	十三年三月	十四年三月
株主資本	一〇五,四五一	一〇五,四五一	一〇五,四五一
積立金	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
外部負債	四一〇	一,六四二	八,〇〇〇
社債	—	一,〇〇〇	三,〇〇〇
支拂手形	八一	四一〇	一六,四四〇
使用總資本	一一〇,四九	一一〇,九四	一一〇,四四〇
固定資產	三,〇九六	三,〇八一	一四,八一
流動資產	七,六四一	一四,六四一	一四,六四一
現金預金	五七,九九	四四,六六	四四,六六
【收支勘定】			
收入	十一年上	十二年上	十三年上
利益	一一,六四一	一一,六四一	一一,六四一
支出	一〇,一一六	一〇,一一六	一〇,一一六
利益	一,五二五	一,五二五	一,五二五
固定消却	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
消却年率	一〇%三	一〇%三	一〇%三
【業績】	十一年三月	十二年三月	十三年三月
利益率	一,五四	一,五四	一,五四
配當率	〇,七五	〇,七五	〇,七五
特別	〇,二五	〇,二五	〇,二五
〃	〇,二五	〇,二五	〇,二五
〃	〇,二五	〇,二五	〇,二五
【株價】（東長）	十一年	十二年	十三年
高値	一一,〇	一一,〇	一一,〇
安値	八,〇	八,〇	八,〇
【基準配當】	無配		
【豫想配當】	十一年三月期　無配		
【時價】	五〇,〇	【利廻】	—
【名義書換】	十錢	【新券交附】	五十錢

旭石油

【設立】大正十年二月 【決算期】五月、十一月

（本社）東京市麹町丸ノ内海上ビル新館（電丸之内二〇二一ん）
（支社）大阪市西區土佐堀通大同ビル（電土佐堀三五五）

【前期成績小低下】五月期成績の思はしくなかつたのは、原油及び製品收入の小減（對前年同期比較）の上に、倍額增資による資本負擔が加重したからだ。原油及び製品收入の小減は、重油消費規制による販賣數量の減少のためと思はれる。

【一割可能】當社の營業は周知の通り、輕油、機械油、重油の製造販賣、重油の輸入販賣及び油槽船事業で、現下の石油界の中心をなす揮發油の仕事には全くタッチしてをらず、この點頗る物足りぬ。然し油槽船事業はタンカーの世界的不足時代を反映して益々有望視される。航空機械油製造にも乘出したので一割配當は繼續可能。

【資本金】公稱＝一〇，〇〇〇 拂込＝六，二五〇
【株數】……舊（五〇・〇）一〇〇，〇〇〇 新（二五・〇）一〇〇，〇〇〇
【重役】社長 長崎英造 取締役 小口均一 〃 幸松文太郎 〃 監査 成瀬生地正行 小岡久伊勢吉 中林吉
【大株主】十四年五月期 長崎英造 一，六二名 武藤兵六 松夫 八，〇〇〇 富國徵兵保險 千歳商店 四，五〇〇
【事業規模】鑛業所＝秋田、新津 販賣所＝新津、東京、市川、鶴見
【事業規模】鑛區數 二所……八、四四九萬坪 鑛區北海道、青森、秋田、山形、新潟、長野
【業績】 利益率 配當率 利益率 配當率
十二年下 三・七% 一・〇% 三・〇% 六・九%
十三年上 六・七% 六・六% 三・九% 六・五%
下 六・九% 六・〇% 三・六% 一・〇%
十四年上 六・五% 六・〇%
【株價】（實物）舊 高値 公六・〇 安値 六〇・〇 株 高値 新 安値 —
十三年 五五・五 五五・三 三五・二 一六・五
十四年 五五・三 五五・三 一六・五
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期 一割（一割）
【時價】舊 六四・〇 七分八厘 新 三五・〇 五分二厘 【利廻】

丸善石油

【設立】昭和八年十一月 【決算期】三月、九月

（本社）神戸市兵庫區北仲町二一八（電兵庫一〇三六）
（事務所）東京市麹町區丸之內三菱廿一號館（電丸之內三五九）
（支社）大阪市北區曾根崎上四丁目六八（電北三六八）

【增資拂込】四月十五日最終拂込を徵收と同時に三倍增資を斷行し增資第一回拂込＝一株十二圓半＝總額二百五十萬圓は去る七月一日に徵收した。斯くて當社の資本金は千五百萬圓內七百五十萬圓拂込となつた。

【前途】短時日の內に約三百萬圓餘りの資本膨脹となつたので九月期の利益率は或は多少の低下を餘儀なくされるかも判らない。それにしても九分配當は据置きとみて間違ない。その先は既に下津工場の第一期分が去る八月一日から操業期に入つてゐるから問題なく成績を盛り返すものと期待される。

【資本金】公稱＝二五，〇〇〇 拂込＝七，五〇〇
【株數】……舊（五〇・〇）一〇〇，〇〇〇 新（二五・〇）一〇〇，〇〇〇
【重役】社長 松村善藏 常務 上野起弘 取締 桑山茂作 〃 小林登司太郎 〃 石野友一郎 取締 芹山一男 常監 清水正藏 〃 新津恒吉 監査 岡八
【大株主】十四年三月期 三四名 松村善藏 三，六〇〇 倉敷紡績 二，六〇〇 松村信治郎 六，三〇〇 岡崎本店 三，〇〇〇
【事業規模】製油所＝大阪、下津 貯油所＝下津 研究所＝神戸、新川、神戸、大阪 倉庫及油槽所＝神戸、中之島 販賣店＝東京、横濱、尼崎、臺北、大連、上海
【事業成績】 十年上 十一年上 十二年上 十三年上 十四年上
買入高（千圓） 九，三六二 九，四〇二 八，二五一 八，二八一 七，三二〇
賣上高（千圓） 九，三六二 九，四〇二 八，二五一 八，二八一 七，三二〇
【業績】 利益率 配當率 利益率 配當率 利益率 配當率
十三年上 三三・三 〇・八〇 七・四一 六・八二
下 三・四四 〇・八〇 七・四一 六・八二
十四年上 〇・八〇 〇・八〇 六・八二
【豫想配當】十四年九月期 九分（九分）

早山石油

【設立】昭和十年五月 【決算期】六月、十二月

（本社）東京市麹町區丸ノ內二ノ一六（電丸之內三二一五）
（支社）大阪市北區濱通堂島ビル

【擴張と拂込】六月期成績は前二期と大差なく九分配當を据置いた。今期は七月一日に百五十萬圓の拂込を徵つたので、資本負擔はそれだけ增嵩する。拂込金の使途は、當社の擴張工事と關係會社への投資々金のためである。即ち前者は年內に完成豫定の川崎のバリソル式脫臘精製裝置とこれに引續いて行はれるデュオソール式溶劑精製裝置の建設、後者は東亞燃料工業其他の拂込だ。既に東亞燃料の第一回拂込金だけでも、百萬圓を必要とした程だから、興銀の借入金をあてにするにしても、遠からず次回拂込が徵收されよう。

【配當繼續】高級油增產に進んでゐるので、今後も九分配當可能。

【資本金】公稱＝三，〇〇〇 拂込＝九，〇〇〇
【株數】……舊（五〇・〇）一一〇，〇〇〇 新（二五・〇）一一〇，〇〇〇
【重役】
社長 早山典三郎 取締役 上塚司
專務 千葉三郎 十文字俊夫
常務 早山洪三郎 石崎石三
取締役 松江春次 鑄谷正輔
〃 伊藤監査 〃 森螺幸藏
〃 英夫 小泉
〃 鶴市
【大株主】十四年六月期 一二名
早山商會 四，〇〇〇 川崎汽船 四，〇〇〇
山一證券 二六，五〇〇 飯野商事 一〇，九〇〇
【工場所在地】川崎、鶴川、新潟
【事業成績】 十年上 十一年下 十二年上 十三年上 十四年上
製品賣上高（千圓） 九，七五〇 一〇，〇九〇 一〇，七四一 一四，三三二
【業績】 利益率 配當率 利益率 配當率 利益率 配當率
十二年下 九・九% 〇・九% 三・六% 〇・九% 七・〇% 〇・九%
十三年上 一〇・〇% 〇・九% 三・九% 〇・九% 六・四% 〇・九%
下 一〇・〇% 〇・九% 三・九一 〇・九% 六・四〇 〇・九%
十四年上 一〇・〇% 〇・九% 三・九% 〇・九% 六・四五 〇・九%
【株價】（實物）舊 高値 安値 株 安値 新 株 安値
十三年 九〇・〇 九〇・〇 五〇・〇 五〇・〇 一六・五
十四年 九〇・〇 五〇・二 三二・〇 一六・四
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期 九分（九分）
【時價】舊 九〇・〇 【利廻】七分六厘
新 三二・〇 七分

朝鮮石油

【設立】昭和十年六月 【決算期】四月、十月

（本社）京城府黃金町一ノ一八〇（電本局二四二）

【獨占的役割】當社は朝鮮に於ける日石の販賣地盤をそつくり繼承して成立した會社で、三井物產其の他の販賣割當權も買收して供給する分が多い。つまりライジングサン、スタンダード社を除いた半島に於ける獨占的精油、販賣會社だ。最近は全朝鮮に於ける供給の五、六〇%を當社で占めてゐる。

【成績順調】去る八月一日に增資第二回拂込を徵收したので、資本負擔は增大したが、他方朝鮮の鑛山景氣で石油の消費は激增してゐるから、八分配當は安心だ。製品並に原油入荷が逼迫しても、最近高級油搬出を行つてゐるので、この方でカバーされよう。

【資本金】公稱＝五〇，〇〇〇 拂込＝二五，〇〇〇
【株數】……舊（五〇・〇）一〇〇，〇〇〇 新（二五・〇）一〇〇，〇〇〇
【重役】社長 橋本圭三郎
專務 木村義雄 取締 金秀洙
常務 關水武 〃 朴興禎
取締 野口遵 〃 大坪太計義
〃 小倉武之助 監査 賀田直治
〃 杉野多市 〃 山口誠太郎
〃 鳥英明 〃 大島英吉
【大株主】十四年四月期 四九名
日本窒素肥料 九，六二〇 日本石油 四九，〇〇〇
東洋拓殖 四〇，〇〇〇 三井物產 一二，二〇〇
【事業成績】 十年上 十一年下 十二年上 十三年上 十四年上
販賣高（千圓） 一〇，四〇〇 一一，四〇〇 一四，三三〇
鄭遠費（千圓） 八，三三一 一四，三三一
【業績】 利益率 配當率 利益率 配當率 利益率 配當率
十三年上 九・六% 〇・八〇 七・〇% 〇・八〇
下 一〇・三% 〇・八〇 七・六% 〇・八〇
十四年上 一〇・六% 〇・八〇 〇・八〇
【株價】 高値 舊 株 高値 新 株
十四年 六〇・〇 六〇・〇 一六・五
一一八月
【豫想配當】十四年十月期 八分（八分）
【時價】舊 六〇・〇 【利廻】六分二厘

日本產金振興

【設立】昭和十三年九月
【決算期】六月、十二月
（本社）東京市京橋區京橋三ノ二（電京橋六六一一六）
（支社）京城府竹添町一ノ九〇

【貸付順調】當社は創立後滿一ヶ年を經過したばかりであるが、創業以來最も早く着手したのは金山に對する融資である。本年上期末の貸付金總額は六千百五十九萬圓に上り、前營業年度に比較すれば二千五百五十二萬圓の貸付增加である。

【其他の活動】以上の外に鑛山用諸機械の供給を目的として製作會社に對して融資を行ひ、其の製品の確保に努力すると同時に、分析所の設置、製錬所の建設、探鑛及採鑛資金の融通を目的とする、朝鮮金山開發株式會社の設立等を行つて來た。

【配當】當分四分配當を免れぬ。左記の收支豫算書を見られよ。

【資本金】公稱＝五〇、〇〇〇　拂込＝一〇、〇〇〇
【株數】……政府（一〇・〇）五〇〇、〇〇〇
……民間（一〇・〇）五〇〇、〇〇〇
【重役】
社長　田島道治　理事　阿部千一
副社長　草間秀雄　〃　村上伸雄
〃　高橋周三　理事　武藤盛雄
〃　松本彬　監事　外山知三
【大株主】十四年六月期　二八名
大藏大臣　五〇、〇〇〇　三菱鑛業　七、〇〇〇
三井鑛山　七、〇〇〇　日本鑛業　七、〇〇〇
【業績】

	利益率	配當率	利益金
十三年度	一三〇	一〇・三	一、〇〇〇

【事業要綱】十一金鑛業、金製錬業又は其用に供する器具機械類の製造業に對する融資又は投資（二）金鑛業、金製錬業（三）附帶事業、其他

【貸付金】總額　一三七件　三六、〇八五千圓
內內地貸付　一六件　一二、〇四三千圓
朝鮮貸付　一二一件　二四、〇四二千圓

【收支豫算】

	收入	支出	利益	配當
第一年度	三、一二〇	三、一三九	八八	〇・〇〇
第二年度	四、三一九	四、〇一八	一、〇〇一	〇・〇〇
第三年度	五、五七一	四、〇一三	一、五五九	〇・〇〇
第四年度	六、二四三	四、二九九	一、九四四	〇・〇〇
第五年度	七、五七七	五、一四四	二、四三三	〇・〇〇
第六年度	七、九九七	五、五六一	二、四二六	〇・〇〇
第七年度	七、九九七	五、五六一	二、四二六	〇・〇〇

【事業費概算】

	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度	第六年度	第七年度
	五〇〇、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇

帝國燃料興業

【設立】昭和十三年一月
【決算期】三月（年一回）
（本社）東京市京橋區西銀座六ノ三朝日ビル（電銀座七六二一）
（支社）大阪市北區濱通堂島ビル

【大戰勃發と當社】現在當社の投資會社は、北海道人造石油、滿洲合成燃料、三菱石炭油化工業、日本油化工業、日產液體燃料、樺太人造石油、宇部油化工業の七社に及び、當社本來の目的たる投資活動が漸く本格化して來たことを思はせる。歐洲大戰勃發で、國產原油の增產と共に人石事業の大擴充が、益々强く冀求されるやうになつたので、今後は更にこれが積極化さう。と同時に、海外物價高から天然油價の引上げが行はれるであらうから、今迄と違つてこれからの人石企業採算は、割がグットよくなつて來る。

【配當】當社の本年度配當は四分だが、來年度からは六分となる。

【資本金】公稱＝一〇〇、〇〇〇　拂込＝一〇、〇〇〇
【株數】……政府（五〇・〇）一、〇〇〇、〇〇〇
……民間（五〇・〇）一、〇〇〇、〇〇〇
【重役】
總裁　牧田環　理事　阿部泰二
副總裁　大藤三樹　〃　渡邊四郎
理事　弘岡安忠　〃　大島義清
〃　山中政之　監事　元尾光輝
〃　後藤保清　〃　古田慶三
【大株主】十四年六月一日現在　二九三名
大藏大臣　一、〇〇〇、〇〇〇　日本石油　六、〇〇〇
住友本社　六〇、〇〇〇　三菱石炭　五〇、〇〇〇
【投資會社】北海道人造石油、三菱石炭油化工業、日產液體燃料、滿洲合成燃料

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益金
十二年度	四四	〇・三	實施〇・四	一、二四
十三年度	三六	〇・三	〃無〇・四	二、一五

【收支豫算】

	收入	支出	利益	配當
十四年	七、〇一八	六、一三〇	七九	〇・四
十五年	一〇、六六二	八、八四〇	一、八二二	〇・六
十六年	一三、九一〇	一一、四一〇	二、五〇〇	〇・六
十七年	一五、八二九	一三、一六三	二、六六	〇・六

【株價（實勢）高値　安値
十四年一八月　一八・五　七・五

【豫想配當】十五年三月期　四分（年六分）
【時價】一八・八　【利廻】四分三厘

日本製鐵株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ內鄭紹ビル（電丸ノ內一三四一九）

【擴充進捗】十二年以後、既に第一、第二次增產計畫を完了し、目下、廣畑、輪西、濟津の第三、第四、第五次の增產計畫を進めてゐる。この內輪西の七百瓲爐、廣畑の千瓲爐各一基は今年末には完成し、全體の增產計畫は十六年末までに完成の豫定である。

【社債發行限度を擴大】第五次計畫完成までの所要資金は全部で約六億二千萬圓と見積られてゐるが、今後調達すべき額は三億四千萬圓である。拂込、社內保留益、社債に三分して調達される。このため昨年十一月民間株を約一億四千萬圓增資したが、來る十月二日その第二回拂込三千五百萬圓を徵收する。社內保留益は鐵鋼價格の引下で幾分減少を示しては居るが、併し半期三千萬圓以上に達する。社債は昨年十月三千萬圓、今年五月と八月に各二千五百萬圓を發行した。從來、社債の發行限度は一億圓であつたが、去る六月末の株主總會に於て更に一億圓を擴張した。今後、鐵鋼價格の引下によつて利益が減退する方向にあり、それだけ社內保留益が減り擴張資金が不足して來るので、これを社債で補ふと云のである。

【資源獲得への努力】增產設備の完成と共に厚料獲得の必要に迫られて來る。このため日鐵鑛業を創立したが、更に日鐵自體も、三菱鑛山の茂山鐵鑛や滿炭の密山炭田の開發交渉に努力してゐる。

【設立】昭和九年一月
【決算期】三月、九月
【事業】銑鐵、鋼材、板、其他製鐵副製品
【資本金】公稱＝五〇、〇〇〇　拂込＝五〇、八六六
【株數】政府（五〇・〇）五、六三、九〇〇
民間舊（五〇・〇）一、五三二、五一〇
新（一一・五）三、八〇二、五八〇
【重役】會長　平生釟三郎　社長　中井哲
專務　常務　中松貞卿　景山齊　澁澤正
取締役　飯田九州雄　井上匡四郎　磯村豐太郎　渡邊義介　米山辰夫　吉田豐彥
松田貞治郎　松本健次郎　荒城二郎　尾形次郎　長崎榮十郎　山縣恒介　太田喜太郎　西村小次郎　柳山愛輔　福田庸雄
【株主數（名）】十五年上　一三、五六六
十六年上　一六、九六六　六、一八〇
【大株主】
大藏大臣　五六、五〇〇　釜石鑛山　一四〇、〇〇〇
三菱鑛業　一五〇、〇〇〇　輪西鑛山　一四四、五〇〇
九州製鋼　一四四、〇八〇二三　三菱社　一〇八、〇一五
川崎造船所　一〇〇、〇〇〇（住友金屬工業）一〇〇、〇〇〇
【事業規模】主要工場＝大阪製鐵所
八幡製鐵所、釜石製鐵所、輪西製鐵所
釜二補製鐵所、富士製鋼所、二瀨鐵業所
主要設備　十二年九月現在
鋼材壓延機……二〇基
熔鑛爐……一九基　電氣爐……六二基
平爐……五六基　發電所……一五六萬
【事業成績】十一年下　一、〇四二
十二年上　一、〇四三
十二年下　一、〇四三
銑鐵生產（千瓲）十一年上　一、二三六
（〃）十二年上　一、二三六
（〃）十二年下　一、〇七七
鋼塊〃　一、〇七七
鋼材〃　一、〇七七
【資本異動】十三年十一月五億圓に增資
第一回三圓拂込徵收

【資產負債】

	十三年三月	十四年九月
株主資本	五九、九四〇	六六、六六〇
積立金	一六、六九	一六、九四
外部負債	一五、〇九	一四、八二
社債	—	—
借入金	九一、〇〇〇	四一、〇〇〇
使用總資本	七一、〇四	八六、六八
固定資產	四〇、八五	四五、九〇
投資勘定	一一〇、五	九、四五
流動資產	三一、九五	一〇〇、三四
現金預金	二七、九五	一〇、六四
【收支勘定】十五年上		十五年下
收入	二六〇、四八三	三四、六四
支出	二四四、四〇三	三一、六一
利益	一五、八二九	二九、二九
固定償却	四、〇三一	四、〇三一
償却年率	八、六六	九、六三

【業績】

	利益率	配當率	利益金	配當率	利益金
十二年上	二、三三	〇、五	六、九四	〇、五	六、九四
〃下	二、四六	〇、五	七、一四	〇、五	七、一四
十三年上	二、六三	〇、五	七、六三	〇、五	七、六三
〃下	二、九三	〇、五	八、三四	〇、五	八、三四
十四年上	二、四	〇、五	七、一四	〇、五	七、一四

【株價（實勢）高値　安値
十四年上　舊株　一八、〇　一四、〇
新株　一八、〇　一四、〇
十四年下　舊株　一八、〇　一四、〇
新株　一八、〇　一四、〇
十五年上　舊株　一八、〇　一四、〇
新株　一八、〇　一四、〇
【基準配當】七分
【豫想配當】十四年九月期　七分
【時價】舊　六八・〇　【利廻】五分一厘
新　三・五　四分一厘
【名義書換】二十錢　【新券交附】五十錢

日本鋼管株式會社

（本　社）神奈川縣川崎市渡田字若尾新田（電川崎　三五四一）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内一ノ二　大川田中ビル　（電丸ノ内三五七一―五）

【鶴見製鐵合併】愈々近く鶴見製鐵造船を合併することとなつた。理由は鐵鋼界の今後に備へて經營の合理化を圖るためと白石社長の後繼者として淺野鶴見社長を迎へるためである。當社には鋼板壓延設備がないが、當社はコークス爐を有するといふ事情、又原料調達の合理化達成等が目的である。民間の兩雄二社の合併により鐵鋼界の集中運動は更に拍車を驅けられるであらう。合併條件は明かでないが、鶴見最近の業績向上と設備の優秀さから見て、對等合併が實現しよう。かくて、資本金一億五千一百萬圓の大會社が誕生するわけだ。

【前期増益】前期の利益金は一千四百七十七萬圓に達し、利益率は四割七厘であつた。拂込が加はつたから増益しても、前々期と同じ利益率であつた。建値引下げの影響もあつたが、トーマス爐の稼動、トーマス肥料の好賣行で、利益は多かつた。二百萬圓以上の獻金寄付を支出で落しても、右の利益を計上し得たのである。

【戰爭の影響】爲替低落、運賃倍増、大陸筋買出動による騰貴により米國屑鐵は、内地着百六十圓程に暴騰した。當社は勿論手持が多いが、今後の原價増嵩は必然となつた。當面建値の引上げは覺つかないから、廻當りの減益は免れぬ。合併後の合理化に俟つ外ない。

【設　立】明治四十五年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】鋼管、丸、平、角鋼、山形鋼、特殊鋼、
【資本金】公稱＝100,000拂込＝八四,三三七
【株　數】……舊（80,0）1,000,000　八四,000
【重　役】第二新（33,75）
社長　白石元治郎
常務　松下　長久　取締　大橋　進一
〃　間島　三次　〃　鍋谷　正輔
〃　香田　五郎　〃　高松　誠　（早稲田左衛門）
取締　太田　清藏　〃　西野　嘉之助
〃　今泉富一郎　監査　川崎　芳熊
〃　田中榮八郎
【株主數】十五年上　一〇,六三二　十五年下　一〇,六四二　十六年上　一一,二三四
（總數（名））
【大株主】鐵鋼證券　一三,一三八　第一徴兵　六六,八六一
川崎造船所　六六,〇五〇　大川合名　五九,三三五
富國徴兵　五五,四三六　白石同族　四〇,一〇八
山一株式　四〇,二〇八　（日本青左衛門）三一,三〇三
【年產能力】鋼塊……八〇萬　鋼管……八〇萬
鋼材……四〇萬　鐵鐵……
【生產高】（噸）十一年上　二四一,四三〇　三五,八四四
鋼管及鋼材　二四,四六六　一六,八八四　三,四二八
合金鐵　三三,三五三　二四,一四四　二五,一〇六
【販賣高】（噸）鋼管及鋼材　三五,九八　二三,四三二　一,八八四
合金鐵　一二,四二一
【投資會社】昭和鑛業、日本瓦斯管其他
【資本異動】五年貳月各新株壹圓拂込徴收
十月各新七圓拂込徴收十四年五月各新七圓五拂込徴收

【資產負債】

	十二年五月	十三年十二月
株主資本	九四,八六八	一二,七六八
積立金	一二,三六六	一三,四三六
外部負債	四一,四四〇	五六,〇一〇
社債	一,〇〇〇	二,〇〇〇
借入金	一,〇四〇	九,九四四
使用總資本	一五六,三四八	一二四,四六九
固定資產	五九,八四四	六四,〇〇五
投資勘定	一二,三一四	一六,八四四
流動資產	四二,三六六	四四,四四四
現金預金	一六,八四四	二一,八四四
【收支勘定】十五年上	十五年下	十六年上
收入	四四,四四九	四一,四四九
支出	六六,一八五	六一,三四五
利益	一二,四六六	一四,四四四
固定消却	一,〇〇〇	一,〇〇〇
消却年率	一三,三四〇	一四,四四〇
【業　績】	利益率	配當率
十二年上	四・六六	一・一〇
十二年下	五・六四	一・一〇
十三年上	四・四五	一・一〇
十三年下	四・一〇	一・一〇
十四年上	四・〇四	一・一〇
【株　價】（東長）	舊　株	新　株
	高値	安値
十二年	二四・〇	一四・四
十三年	八〇・〇	—
十四年	六六・二	六〇・七
一一八月	六〇・七	四五・八

【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　八〇・九　新　六一・四　【利廻】六分六厘　六分三厘
【名義書換】五　錢　【新券交附】三十錢

株式會社　神戸製鋼所

（本　社）神戸市兵庫區脇濱町一丁目三十（電兵庫二〇一・六六〇）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内一ノ二　鹿島銀行ビル内（電丸ノ内　七七二）

【社債發行】過般物上擔保附社債五千萬圓の成立を見、内第一回い號社債一千萬圓は既に去る八月中旬に募集した。此の資金は主として長府工場の第二期計畫、宇治山田工場の建設、及び運轉資金に充當される。長府工場は昨年九月に着工、本年九月にその第一期計畫を完成したが、引き續き第二期計畫を進めて居るものだ。これはデユラルミンを主體とする輕合金製品の製造に當る工場である。宇治山田工場は未だ着手したばかりで、第一期建設を終るのは明年上期中の豫定、これは電機類の製作に當る筈だ。

【拂込必至】右の建設資金として幾許を要するかは今詳かにし得ないけれども、前記の社債資金を考慮しても結局未拂込徴收から更に倍額程度の増資を不可避とすること明かだ。斯樣のわけだから第三回拂込も決して斷念されたのではなく、それは遲くも明年上期中には斷行されると想像される。

【向上期待】一方、業績は引き續き良好だ。去る六月締切の本年上期は五百九十七萬三千圓の利益を計上したが、これをその前期に比較すれば百六萬五千圓の増益だ。尤も利益率は二割一分八厘と、五厘の低下を示すが、これは拂込の急増に基く。九分配當は勿論餘裕含みだ。今後の業績も無論心配なく現配當は安泰と云つてよい。

【設　立】明治四十四年九月
【決算期】六月、十二月
【事　業】鋼材、線材、伸銅、電氣機械
並に一般機械類の製造、販賣
【資本金】公稱＝20,000,000拂込＝20,000,000
【株　數】……舊（20,0）　新（25,0）　20,000,000
【重　役】社長　田宮嘉右衛門
常務　森本　準一　取締　川上　義弘
〃　淺田　長平　〃　南　久孝
取締　土屋　行蔵　監査　曾我　祐邦
〃　小田島修三　〃　佐々木義彦
〃　和田　信房　〃　川崎　肇
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
（總數（名））四一,八八　四一,〇八五　四一,八四八
【大株主】日本株式會社一一〇,〇〇〇　第一生命　二四,〇〇〇
富國徴兵　二四,〇〇〇　川崎信託　八一,一〇〇
萬興業　二〇,〇〇〇　日本生命　一〇,〇〇〇
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
販賣高（千圓）二二,八四三　四一,八五六　……
製造費（〃）一五,九四四　二四,八六四
【投資會社】播磨造船所、滿洲鋼鐵所、
高知電氣工業、日本エヤーブレーキ
【資本異動】十二年四月三,五〇〇萬圓增資、七月
第一回、十三年三月十一月、八月各二圓五拂
【資本異動】十四年十二月期　九分
十年一月四,四〇〇萬圓增資第一回二圓五拂徴收
【豫想配當】十四年十二月期　五分八厘
【時價】舊　七一・八　【利廻】
新　四三・七　五分二厘
【名義書換】十　錢　【新券交附】五十錢

【資產負債】

	十二年六月	十三年十二月
株主資本	四六,四一	六三,一四四
積立金	四,八六九	六,六九
外部負債	四四,四四四	六二,一六六
社債	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
支拂手形	一,一八八	九,四〇〇
使用總資本	四四,一四四	一三二,三四〇
固定資產	三一,四三一	三四,四四四
投資勘定	二,三四九	一四,〇一四
流動資產	四一,〇五四	八二,四四六
現金預金	七,三四六	一三,八四六
【收支勘定】十五年上	十五年下	十六年上
收入	四一,三四六	八二,三四六
支出	四一,二四六	八一,四四六
利益	五,一一六	一,〇〇〇
固定消却	一,〇〇〇	一,〇〇〇
消却年率	八%一	一〇%一
【業　績】	利益率	配當率
十二年上	一・四九	一・一一
十二年下	一・四四	一・一一
十三年上	一・四三	一・一一
十三年下	一・〇八	一・一一
十四年上	一・〇九	一・一一
【株　價】（東長）	舊　株	新　株
	高値	安値
十二年	一一・四	一四・四
十三年	一〇・八	一〇・四
十四年	一〇・〇	一〇・〇
一一八月	一〇・三	一〇・〇

【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　一一・九　【利廻】六分六厘
新　一〇・八　六分三厘
【名義書換】五　錢　【新券交附】三十錢

鶴見製鐵造船株式會社

（本社）東京市麴町區丸ノ内一ノ六海上ビル（電丸ノ内四三三）
（支社）横濱市鶴見區末廣町二ノ一（電神奈川一三二—三）

【設立】大正五年四月
【決算期】六月、十二月
【事業】船舶、機械、製造修理、其他諸般の鐵工業、銑鐵、鋼材及其副生物の製造並鐵業
【資本金】公稱＝三、〇〇〇、〇〇〇 拂込＝二、〇〇〇、〇〇〇
【株數】……舊（五〇、〇〇〇）五〇〇、〇〇〇 新（二五、〇〇〇）二五〇、〇〇〇
【重役】社長 淺野良三 取締 淺野八郎
專務 鈴木紋次郎 〃 金子喜代太
常務 末彙要 〃 齋藤馘三
〃 小松隆 〃 黑田琢磨
〃 正木壽郎 〃 藤堂
〃 大村正篤 〃 堤芳雄
〃 村上是助 監査 淺野義夫
〃 淺野總一郎 〃 清宮徵壽
【株主數】十五年上 一、五六六 十六年下 一、五五五 十六年上 一、四九九
【總數（名）】
【大株主】淺野同族 六四〇、〇〇〇 安田銀行 二五〇、〇〇〇
日本興業夜 三、二〇〇 安田生命 一八、二〇〇
丸之内興業 一四、〇〇〇 日本生命 一五、四二〇
日本生命 一〇、〇〇〇 帝國生命 一〇、〇〇〇
【工場別年產能力】造船工場＝一〇〇千噸 製鐵工場＝千瓲
製銑工場＝三二〇千瓲 製鋼工場＝千瓲
【事業成績】十五年上 十六年下 十六年上
總造船船（噸）……
竣功船船（噸）……
入渠沖修理（噸）……
仝噸數（千噸）……
【資本異動】十一年十二月倚額增資（全額拂込）三百万円、六〇〇萬圓增資第一回十三年五月第二回各二圓五拂込徵收

【資產負債】

	六十二年六月	十二年十二月	十四年六月
株主資本	六三、八六六	六三、五四五	八二、九六四
醵立金	六、三六八	四七、三〇四	三六、九六四
外部負債	三四、三三三	三六、九六四	一二、八〇〇
社債	一、八〇〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇
借入金	—	九、〇〇〇	八、〇〇〇
使用總資本	九八、〇〇〇	八〇、八三五	八〇、八三五
固定資產	三六、三三三	四四、一四一	三六、九六四
投資勘定	六、四四四	八、三八四	一〇、六九六
流動資產	三五、二三三	三四、九六三	四一、二二二
現金預金	三、四二二	一、八六一	三、〇四四
收支勘定	十五年上	十五年下	十六年上
入	五七、八四四	五七、九六六	六〇、六六六
出	五〇、二三四	五五、八六一	五四、三三八
利益	七、四八八	六、一〇四	六、三〇八
固定消却	四、〇〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇
消却年率	三六%一	一四%六	一四%六

【業績】

	十一年上	十一年下	十二年上	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇
配當率	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇

【株價（實拂）舊株 高値 安値 新株 高値 安値
十一年 二六、〇 六六、九 六六、七 六六、六
十二年 二六、〇 五二、〇 五六、五 五六、八
十三年 六六、〇 五四、〇 五〇、五 四三、〇
十四年 八六、〇 五四、〇 五〇、五 四三、〇
一—八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十二月期 一割二分
【時價】舊八六、〇 新五一、〇
【利廻】七分 五分九厘
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

小倉製鋼株式會社

（本社）福岡縣小倉市許斐町一番地（電 三五五—七）
（事務所）東京市麴町區丸ノ内海上ビル（電丸ノ内二六一—八）

【鋼管・鶴見合併の影響】鋼管と鶴見製鐵の合併確定により、當社も將來はこれに合併されるといふ見方が強くなつた。曾て鶴見と當社の合併が噂さに上つたことがあつたが、それは全くの風説で煙の如く消え失せてしまつた。勿論當社と鶴見との間には、資本の上からも、人的にも密接な關係がある。併し、今までこれを阻んだのは、いふ迄もなく地理的位置の問題である。小倉と京濱では餘り離れ過ぎてゐて、合併による利益も大して期待出來ないからだ、末發專務も當社をこれ迄に育て上げ、愈々熔鑛爐も出來上り、鋭意業績向上に努めてゐるから、今直ぐに合併したくはなからう。現在の當社は鋼管、鶴見に劣るから、その點からも合併は先のことである。併し、何れにしても、統制強化の折柄、合併は時の問題であらう。

【高爐稼動】去る四月火入れした高爐は今期も試驗期だから、出銑も能力に比すれば大したことはあるまい。鋼材は棒鋼線材を主とするが、目下特殊軍需鋼材に轉換してカバーしてゐる。とはいへ目下第二高爐、平爐を建設中だから、資本負擔は仲々大きい。その上又來る十二月一日、新株第二回拂込十二圓半を徵收する。從つて高爐による利益もそのまゝ業績の向上となつて現れない。擴張の完成する來年一杯までは、當分かうした狀態を續けよう。

【設立】大正七年十二月
【決算期】五月、十一月
【事業】丸鋼、線材、角材、平鋼
【資本金】公稱＝三、〇〇〇 拂込＝二、〇〇〇
【株數】……舊（一五、〇〇〇）三〇、〇〇〇 新（一五、〇〇〇）三〇、〇〇〇
【重役】社長 淺野總一郎 取締 金子喜代太
專務 末彙要 〃 馬杉秀
常務 淺野義夫 〃 中村貞嗣
〃 西木紋次郎 監査 野口彌三
〃 淺野良三 〃 淺野八郎
【株主數】十五年上 一、三三〇 十六年下 一、四八八 十六年上 一、九九六
【總數（名）】
【大株主】淺野同族 六、六〇〇 日本興業夜 一、五〇〇
淺野興業 一、二〇〇 日本生命 一、〇九六
日本生命 一、〇〇〇 帝國生命 一、〇〇〇
【事業成績】十五年上 十六年下 十六年上
總數（名）……
工場所在地……小倉市
生產能力＝鋼塊……千瓲
材……千瓲
鋼……千瓲
【重要設備】
三瓲電氣……基
四瓲平爐……基
三瓲捺鑄機……基
三瓲混銑機……基
三瓲中形ロール機……基
【販賣高】十一年上 十一年下 十二年上
鋼材（瓲）六、三六六 六、四六六 六、六六六
【投資會社】小倉製港、尼ヶ崎製鋼
【資本異動】十二年七月公稱五百萬圓增資、八月第一回二圓五拂込徵收十三年四月第二回三圓九月第三回二圓（最終）拂込徵收十四年一月、六〇〇萬圓增資第一回三圓拂込徵收

【資產負債】

	十一年五月	十二年十月	十四年五月
株主資本	一四、三三三	一四、四四四	二四、〇六六
醵立金	一、四八〇	二、四八〇	四、九六六
外部負債	一六、〇四四	一六、四四四	三六、九六六
使用總資本	三〇、四四四	三〇、四四四	六〇、〇三三
固定資產	一六、四四四	一六、四四四	四〇、九六六
投資勘定	八、八〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇
流動資產	四、七〇〇	九、四四一	一二、四六八
現金預金	一、四四四	四、四四九	六、四四九
收支勘定	十五年上	十五年下	十六年上
入	一六、八四四	一六、八四四	一四、九六六
出	一四、三三三	一四、三三三	一四、九六六
利益	二、五〇〇	一、五〇〇	〇、五〇〇
固定消却	二、五〇〇	一、五〇〇	〇、五〇〇
消却年率	一六%〇	一六%〇	一六%〇

【業績】

	十一年下	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇
配當率	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇

【株價（實拂）舊株 高値 安値 新株 高値 安値
十一年 六五、九 四五、九 六六、一 六六、一
十二年 四五、〇 四五、〇 六六、一 六六、一
十三年上 四五、〇 四五、〇 六六、一 六六、一
十四年上 四五、〇 四五、〇 六六、一 六六、一
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期 一割二分
【時價】舊八四、一 【利廻】七分一厘 四分四厘
【名義書換】十錢 【新券交附】三十錢

株式會社 中山製鋼所

（本　社）大阪市大正區船町三（電櫻川ゑゑ一人）
（支　社）東京市麹町區大手町日清生命ビル

【熔鑛爐完成】當社は豫ねてより日產五百瓲能力の熔鑛爐を建設中の所　去る七月下旬に完成し　直に火入を斷行した。其後は順調に推移し出銑率は高まりつゝある。火入當時は百瓲位の出銑量であつたが、昨今は二百瓲から二百五十瓲位に增加してゐる。年末頃までには恐らく能力五百瓲の出銑量を出すことにならう。

【第二期擴張】當社は第一期熔鑛爐と併行的に五百瓲爐の建設を進めて來た。完成豫定は明年秋頃であるが　資材、勞力の關係で多少遲れるかも知れない。斯くて　當社は銑鋼一貫作業を實現するが銑鐵は全部自家消費とし賣銑しない方針だ。賣銑したのでは利益がないからである。その爲めには更に製鋼設備の增加を斷行しなければならない。七十瓲平爐三基を增設することになつたのもそのためである。

【拂込徵收】以上の建設費は大體二千萬圓前後に上る豫定である。當面借入金で賄はれることゝならうが、軈ては株金に振替へられるに相違ない。當社の方針も大體明年春頃に第二回拂込を徵收することになつてゐるようだ。明年に入れば收益力も著しく向上するから拂込をとつても業績を壓迫するような心配はないからである。一割二分配當は不動と稱してよい。

【設　立】大正十三年
【決算期】三月、九月
【事　業】銑鐵、鋼塊、鋼材、鳥鐵鋼、鍼力鋼、特殊鋼、亞鉛鍍、洋釘等の製造販賣
【資本金】……公　稱　四〇〇,〇〇〇
　　……拂　込　二〇〇,〇〇〇
【株　數】……舊（五〇·〇）四〇〇,〇〇〇
　　……新（二五·〇）四〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　中山悅治　取締　德地芳藏
常務　片桐仲二　〃　中山半
取締　中山登　監査　林市藏
〃　武文彥　〃　小野義夫
〃　一松政二
【株主數】總數（名）十五年上　一五〇、五四〇　十五年下　一五〇、八二〇
【大株主】中山悅治　二三〇、五四〇　中山證券　六〇、六一〇
片桐仲二　二三〇、五四〇　三和銀行　三〇、〇〇〇
吉田德馬　三〇、〇〇〇
【事業現狀】年產能力（千瓲）鋼塊　一〇〇、〇〇〇　能力
線材　一〇〇、〇〇〇　專鋼　鍼力板
中鋼　一〇〇、〇〇〇　特鋼　
線材加工設備　寬氣罐製鋼
【事業成績】十五年上　十六年下　十六年上
收資金（千圓）四、五五〇　四、五五〇　四、一二〇
賣資金（〃）三、四九　三、六六　四、四〇
【資本異動】十三年八月十日拂込徵收（金額）十五年五月倍額增資第一回三圓五拂込徵收

【資產負債】

	十三年三月	十三年九月	十四年三月
株主資本	三、三五、三五五	三、五、二一〇	三、五、九五〇
積立金	六、八一三	八、〇九六	九、一〇三
外部負債	六、三三一	六、四六六	一〇、九六六
借入金	三、八六一	四、三六六	八、三〇〇
使用總資本	三、六六九	四、九六六	五、九五五
固定資產	二、三六六	二、四一二	三、五六五
流動資產	一、八、〇五五	二、五五四	二、三五五
現金預金	六、〇九六	八、〇五五	七、一二〇
【收支勘定】收入	五五、上	十五年下	十六年上
利益	四、五五〇	一、四二〇	四、四五〇
固定消却	一、四三三	一、三五六	一、三四〇
消却年率	四、三三〇	三、一三〇	三、一三〇
【乘績】十二年上	制產率	配當率	利益率
下	七、八〇	〇、八〇	八、七四
十三年上	四、三〇	一、〇〇	四、一〇
下	三、四三	一、二〇	六、八〇
十四年上	二、五一	一、二〇	五、三五
【株　價】（實勢）十二年	高値	安値	株價
十三年	八一、三	五〇、八	新株
十四年	一〇二、〇	七二、〇	二五、〇
一—八月	八一、六	七二、六	三一、六
【基準配當】一割二分			
【豫想配當】十四年九月期　一割二分			
【時價】舊　八〇、六	【利廻】七分五厘		
新　三二、〇	四分七厘		
名義書換　十錢	【新株交付】五十錢		

大同製鋼株式會社

（本　社）名古屋市港區稻富町一〇（電　南六二五—三）

【發展期待】當社の擴張は事變以來積極的に續行されて來たが、未だ容易に衰へさうもない。否、層一層積極化されつつある。自己資金で間に合はず、興銀を始めとし三井、三菱、住友等との間に二千五百萬圓の社債が發行され、既に其の中一千萬圓を發行した樣だが年內までには更に一千萬圓を發行し擴張資金に充當する筈だ。尤も當社は固定資產は拂込金に依るのを建前としてゐるから、未拂込は次々に徵收されるであらう。來る十二月一日第三回拂込一株十圓總額四百六十七萬圓を徵收することも內定してゐる。社債發行の目的が舊債償還、運轉資金、投資々金に充當することは想像されるが、また一部は拂込金の不足を補つて擴張費に振向けられるであらう。斯樣にして當社は思ひきり擴張を急ぐのである。

【大陸進出問題】當社の大陸進出は唯だ時期の問題と見られる。目下內地工場の充實に追はれ其の志を果たし得ないまでだ。此の點當社に對する興味は未だ〳〵盡きないであらう。

【事業安泰】當社は依然斯界のナンバー・ワンである。製品の優秀は既に定評があり、時局柄高級特殊鋼の需要は激增一途を辿つてゐるから、事業は益々繁忙化するのみだ。時局に遠慮し當分九分配當に止める樣樣だが、再增資は必至であり株式にも妙味がある。

【設　立】大正十年十一月
【決算期】三月、九月
【事　業】製鐵、製鋼、特殊鋼、合金鐵製造並一切金屬
【資本金】公稱（三八、〇〇〇）拂込（二八、九六五）
　　……舊（五〇·〇）二五〇·〇〇〇
　　……新（三五·〇）四五〇·〇〇〇
【重　役】社長　下出義雄　取締　小野秀一
常務　川崎令恒三　〃　坂下忠雄
〃　野長瀨忠男　監査　下鄕寅吉
取締　寒川恒貞　〃　山田平十郎
〃　島田忠次　〃　相談福澤駒吉
〃　齋藤直武　〃　安東昌喬
忘水懷民
【株主數】總數（名）十五年上　二、一〇一　十五年下　二、一〇一
【大株主】愛地興業　六二、五六〇　木曾川電力　一四、七五〇
愛知銀行　一六、〇〇〇　日本生命　一四、七五〇
仁壽生命　一三、八六六　住友生命　一〇、〇〇〇
大同電力　九、八五〇　山一證券　八、三五〇
【年產能力】（千瓲）十二年九月現在
合金鐵　鑄鋼品　銀鋼品
屋延鐵　鋼塊　ハガネ
工場＝名古屋築地、熱田、星崎、東京
向島、寺島町、長野福島町
【事業成績】（千圓）十五年上　十六年下　十六年上
製品引渡高　八、五六〇　一三、八六四　一一、一六三
【投資會社】愛地興業、東海電極、愛自動車
三重瓦斯、大同機械製作、日本瓦斯生命
【資本異動】十五年十二月第三大同電氣製鋼及名古屋電氣製鋼合併（八〇〇萬圓）增資　五圓拂込徵收、十三年六月倍額增資第一回三圓五拂込徵收

【資產負債】

	十三年三月	十三年九月	十四年三月
株主資本	八、五六四	一三、四四六	一六、三四五
積立金	八四四	一、二五四	二、四六六
外部負債	一四、三一六	一九、六四三	二四、四六六
社債	一、九〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇
借入金支手	九、五六四	一二、四四四	一四、三〇〇
使用總資本	二三、一〇〇	三五、一〇〇	四二、九四四
固定資產	八、三五六	二一、二四三	一四、一四六
投資勘定	九、四四四	一、八四四	一、九六六
流動資產	一三、八〇〇	一〇、四三三	二六、一四三
現金預金	九、七一	二、四四〇	二、〇一〇
【收支勘定】收入	五年上	十五年下	十六年上
利益	八、三四四	二、九六六	三、一四三
支出	四、五六一	一、七四六	一、四六六
利益	三、八四三	一、一九六	一、六七七
固定消却	八四三	八九六三	八一、九四三
消却年率	五五〇	一、一	一
	九四七	一、一	一
（文部利益は消却及引當金控除後のもの）			
【業績】十二年下	利率	配當率	利益率
十三年上	二、四四	〇、八〇	六、二〇
下	三、三四	〇、八〇	六、〇四
十四年上	一、八四	〇、八〇	四、八一
下	二、四一	〇、八〇	五、三六
【株　價】（實勢）十二年	高値	安値	株價
十三年	八一、九	七七、三	新株
十四年	八一、〇	五一、〇	二六、六
一—八月	八七、〇	五六、三	二四、〇
【基準配當】十四年九月期　九分			
【豫想配當】十四年九月期　九分			
【時價】舊　八〇、〇	【利廻】六分四厘		
新　三五、五	五分九厘		
【名義書換】五錢	【新株交付】二十錢		

日本特殊鋼管株式會社

（本　社）東京市麴町區丸ノ内有樂館内（丸ノ内三六二番）

【拂込續く】六月一日に第三回拂込三百七十五萬圓を徴收、主として借金の返濟に當てたが、十月十日右と同額の最終拂込を徴收する。戸田工場の增設費とし特殊鋼を製造しようと云ふのだ。大湊にも同樣の計畫があり、その具體化には結局增資する外ない。認可の關係上倍額は難しいとしても、半額增資なら認められよう。

【爐三基火入れ】砂鐵製錬の第一、第二、第三の爐は三基とも昨年末より相次で火入れが行はれ、今や銑鐵年産×萬瓲の能力となつた。今下期以後の成績向上は必至で、拂込增を考慮しても、三割臺の利益率を示すだらう。其處で下期は一分增の一割配當を斷行するであらう。砂鐵製錬による銑は低燐銑として市販する外、現在の如くスクラップの値段が暴騰すると自家用としても中々貴重で鋼管製出を好採算に導く。而も此の銑を前記戸田工場で特殊鋼として販賣するに至れば、益々當社の事業は安定してゆく。

【前途】尤も大戰後設備擴充資材の輸入は困難になつたし、内地の工場としても發注後の引渡し迄相當かゝるから、大湊の特殊鋼工場の着手期は遲れるだらう。然し砂鉄製錬工場が本格的に稼働し始め、遠からず戸田新工場が出來るのだから、それだけでも高收益は擧げられる。增配增資含みの株式として注目してよい。

【設　立】昭和十年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】鋼管、鋼塊、製鐵並に之に必要なる鐵業
【資本金】……公稱一、〇〇〇、〇〇〇　拂込一、六、五〇〇
　　……舊（五〇、〇）　一〇〇、〇〇〇
　　……新（三四、五）　五〇〇、〇〇〇
【重　役】
社長　橋本圭三郎　取締　梅津　七藏
專務　中島　統一　〃　戸澤　芳樹
常務　稻垣平太郎　〃　川島　清
取締　望月軍四郎　〃　近藤　訊一
〃　鹽山愛一郎　〃　石坂　泰三
【株主數】……十三年上　一、三〇一　十四年上　二、五三
　　……十三年下　一、五七　十四年上　二、九三
【大株主】
中島　統一　一六、八〇〇　日本　證券　四、一五〇
安川雄之助　三、〇〇〇　海東　製造　二、六一〇
第一生命　二、〇〇〇　安田信託　一〇、〇〇〇
近藤　眞一　一、五〇〇　望月軍四郎　一、〇〇〇
平岡磯三郎　四、六〇　林　莊治　四、五〇〇
【事業規模】
砂町製鋼工場　東京市　南砂町
戸田製管工場　埼玉縣　戸田村
川口工場　埼玉縣　川口市
大湊製鐵工場　青森縣　名邑町
年產能力　鋼塊……
　　鋼管……
　　銑鐵……
【事業成績】
　　十二年上　十三年下　十三年上
製品賣上高（千圓）　三、二〇一　三、四〇九　三、四九九
製造原價（〃）　一、六三一　一、八八　二、七八三
【資本異動】十二年十二月千五百萬圓增資
十三年二月及十一月各二回五百萬圓拂込徴收十四年六月二回五百萬圓拂込徴收

【資產負債】

	十二年五月	十三年十一月	十四年五月
資本	九、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇
積立金	六、八〇八	一〇、三〇〇	一四、三〇〇
外部負債	四、四〇〇	六、三〇〇	一〇、三〇〇
借入金	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
支拂手形	一、六四〇	三、四〇〇	六、五一一
使用總資本	一、六四〇	三、四〇〇	六、五一一
固定資產	一、三五〇	一、三〇〇	一、〇〇〇
投資勘定	—	—	六、三〇〇
流動資產	二、一五〇	二、〇一〇	一、〇〇〇
現金預金	五、〇一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【收支勘定】

	十二年上	十三年下	十四年上
收入	三、〇二一	四、一四〇	五、五八
支出	二、〇六六	三、〇四〇	四、二五二
益	九五五	一、〇〇〇	一、三一四
固定償却	六〇〇	六〇〇	六〇〇
利益	三五〇	三五〇	六五八

【業績】

	十二年上	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	一、九五	一、一七	一、八六	一、三五
配當率	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇
利益償却率	五、六四	五、〇一	五、四四	五、四一

【株　價】（實績）舊　高値　安値　株　新　高値　安値
十二年　九六、二　三五、九　一〇、八　三、三四
十三年上　一〇、五　五、〇　一、三四
十三年下　一四、〇　一〇、八　一、三四
十四年上　一四、〇　一〇、六　一、三四
十四年下　一四、〇　一〇、六　一、三四
一一月　一四、〇　一〇、六　一、三四
【基準配當】十四年十一月期　八分
【像想配當】　五分二厘
【時價】舊　七六、八　新　六一、五　四分九厘
【利廻】　八分
【名義書換】十一月　【新券交附】三十錢

株式會社 尼崎製鋼所

（本　社）兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田五六（電話島　三六六—九）

【製鋼を合併】尼崎製鋼所の大阪製鋼合併は豫ての懸案であつたが愈々それの實現を見ることゝなつた。合併比率は尼鋼九に對し製鋼十の割合、合併實行期は來る十一月三十日だ。此の結果尼鋼は公稱資本金一千二百萬圓、内八百八十五萬圓拂込の大會社となるわけである。

【目的は合理化】尼鋼は四十瓲及び三十瓲平爐各二基に三基の電氣爐を持つて製鋼（特殊鋼を含む）を行つて居るが、此の製鋼能力はその鋼材及び鋼管の製造能力と見合つて居り、その現在の生產狀況を見ても、兩部門は歩調を合せて居る。とすれば、能力が斯樣に見合つて居るところへ製鋼の設備をくつゝけなくとも良いではないかとも考へられるが、今日の樣に鐵鋼及び石炭の配給が窮屈となり、而かも製品價格の切下が必至の情勢にある時には、出來るだけ多種類の鋼材製造設備を持ち限られた原料を有利な方向に使用することが必要だ。それには製鋼を合併した方が得策だ。

【結局減配か】ところで合併後の配當だが尼鋼は基準配當二割であり、製鋼のそれは一割八分だから、合併後一割八分は不可能ではないが、高配を遠慮する建前から結局若干の減配が行はれると思ふ。が、今下期（合併前）は無論現配當を据置く筈である。

【設　立】昭和七年四月
【決算期】三月、九月
【事　業】鐵鐵、鋼材の製造賣買
【資本金】……拂込濟　七、八〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　一五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　井上長太夫
常務　淺野　義夫
取締　井上好三郎
〃　井上　光次
〃　鑒査　島田德太郎
〃　千葉金三郎　〃　多田甚太郎
【株主數】……十三年上　五五五　十四年上　五四三
【大株主】
小倉製鋼　一六、一〇〇　井上　光次　一五、一五〇
井上長太夫　一〇、〇〇〇　小倉　肇　港　八、七五〇
井上好三郎　七、三五〇　井上　清　五、八〇
島田德太郎　四、八〇　井村商店　三、六〇〇
入丸商店　三、一〇〇　多田甚太郎　二、九一〇
【事業規模】
製造品＝山形鋼、角鋼、鋼管、特殊鋼
工場所在地＝武庫縣大庄村中濱新田
工場敷地＝　建坪＝
既設工場
平爐……　基　電動機……　基
鋼管製造工場　基　電動機……　基
【取引銀行】野村銀行、三和銀行、三菱銀行、住友銀行
【資本異動】十三年四月四百萬圓增資第一回
三回五拂込徴收、五月後三回六月三回拂込徴收（全額）

【資產負債】

	十二年三月	九月	十三年三月	十四年九月
資本	八、八八二	九、五〇〇	一一、七〇〇	一一、七〇〇
積立金	一、九〇四	一、九〇四	二、四〇四	二、四〇四
社外負債	一、七三五	二、四〇四	二、四〇四	—
支拂手形	一、六八八	一、六八八	—	—
使用總資本	一〇、五九八	一一、八一〇	三、九九九	—
固定資產	四、一三四	四、一三四	四、一五八	—
流動資產	六、四四五	七、六七六	七、八一三	—
現金預金	三、三五五	二、一九九	三、〇四〇	—

【收支勘定】

	十二年上	十三年下	十三年上	十四年上
收入	一、八四〇	一、八四〇	一、八四〇	一、八四〇
支出	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇
益	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
固定償却	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
償却年率	二、五%	二、五%	二、五%	二、五%

【業績】

	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	一〇、〇八	九、八三	一一、七〇	一一、七〇
配當率	一〇、〇八	九、八三	一一、七〇	一一、七〇
利益償却率	二、五%	二、五%	二、五%	二、五%

【株　價】（實績）舊　高値　安値　株　新　高値　安値
十二年　一〇、八　一、八　一、三
十三年上　九、八三　一、八　一、三
十三年下　九、四六　一、〇　一、三
十四年上　五、六一　一、〇　一、三
【基準配當】十二年　一〇、八　八五、〇　一、三
十三年　一〇、八　八四、〇　一、三
十四年　一〇、八　八三、〇　一、三
一一月　一〇、八　八二、〇　一、三
【像想配當】　一割　【利廻】　一割八分
【時價】舊　九、五　新　六、〇　【利廻】　九分一厘　七分五厘
【名義書換】廿錢　【新券交附】一圓

德山鐵板株式會社

（本　社）大阪市東區高麗橋四丁目三五第一ビル（電北濱　一九二）

【電氣爐稼働】豫て建設工事を進めて居た電氣炉設備も去る九月に完成を見、愈々運轉を開始した。設備は五瓩炉二基、製品は高炭素鋼及びニッケルクローム鋼だ。目下のところは尙試運轉の域を脱しないが、遠からず本調子となる見込だ。これに所要の原料は當社の壓延屑で大體間に合ふ模樣だから心强い。また右の工事と併行して施工されてゐた分塊工場も大體完成したから、今後はシートバー、ビレット等の生産が可能となつた。これは未だ當社の所要シートバー並びにビレットを百パーセント自給し得る程の能力を有しないが、それにしても業績に寄與するところ尠くあるまい。

【缺點】右の樣に、電氣炉が完成し、分塊設備が出來た關係で、當社も漸く從來の壓延一本の行き方から脱却したわけだが、然し、熔鑛炉から壓延までの一貫作業が可能となつたのではない。一貫作業は依然として不可能だ。これは當社最大の缺點であつて、今後の發展を所期する限りは熔鑛炉から平炉の建設に迄進まねばならぬ。經營當局者も之に就ては種々計畫して居るから、何れは實現しよう。

【据置か】去る六月百五十萬圓の未拂込を徵收した關係で、今下期の平均拂込は增嵩を見るが、配當は依然一割二分据置の方針だ。が、屢々云ふ通り、安定配當は一割が妥當である。

【設　立】昭和三年二月
【決算期】四月、十月
【事　業】薄鐵板、中鐵板、帶鐵製造
【資本金】……拂込濟　八、〇〇〇
【株　數】……旧（五〇・〇）一〇〇、〇〇〇
　　新（五〇・〇）五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　岩井越二郎　取締　村上　喜三
專務　友田　一太　監査　岩井　豐治
取締　平野　亮平　〃　永井　繁
〃　下田伊三郎
【株主數】
總數（名）　十五年上　一、三八　十六年下　一、三一九
【大株主】
岩井商店　四六、五三　川合綱一　一〇、〇五〇
山口合資　四、八〇〇　川合秀野　三、〇〇〇
大同生命　三、〇〇〇　辰馬悅藏　一、九〇〇
川村順　一、六〇〇　岡村友吉　一、二一〇
九十商會　一、〇〇〇　渡邊榮一　九三三
大鋼證券　八五〇　友田一太　八三三
【事業規模】
工場所在地　德山工場山口縣大津村（德山）
生產能力　薄鐵板……
中鐵板……
帶　鐵……
【資本異動】十三年十月三〇〇萬圓增資第一回三萬圓拂込徵收十四年六月三五四拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十四年四月
株主資本			
積立金	四、三三七	一、六二一	九、九七七
外部負債	四、三三七	一、九一七	二、二一七
支拂手形	二、三四一	二、三四一	一、六三三
使用總資本	一二、〇六四	一二、一一〇	一一、九九
固定資產	三、〇六四	三、一四〇	四、六三四
流動資產	八、九六九	八、九六九	六、九六六
現金預金	二、九七	四三五	四三五
【收支勘定】			
收入	十五年上 一、一〇〇	十五年下 一、一〇三	十六年上 一、三一六
支出	二五五	四一六	五五五
利益	八四五	六六一	九三一
固定消却	一一〇	一一〇	二〇〇
消却年率	八%〇	八%〇	九%六
【業　績】			
十一年上	利益率 四、〇七	配當率 特〇、二	利益率 六、二〇
下	五、七七	五、一二	七、四七
十三年上	五、三三	五、二〇	五、六七
下	三、九七	一、二〇	五、六七
十四年上	二、八六	一、二〇	五、六七
【株　價】（實勢）	旧	株	
高値	九、〇	五〇、〇	
安値	四、八	四五、八	
十二年			
十三年			
十四年			
一—八月	四、七	四五、八	
【基準配當】	一割二分		
【豫想配當】	十四年十月期　一割二分		
【時價】	四三、〇	【利廻】	八分三厘
【名義書換】	十　錢	【新券交付】	三十錢

大阪製鈑株式會社

（本社）兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田（電尼崎六一）
（支社）大阪市北花區北安治川通一ノ二（電土佐堀一五二六—七）

【尼鋼と合併】當社は此の下期決算を最後に尼ヶ崎製鋼に合併されることゝなつた。合併比率は當社一〇に對し尼鋼九の割合だ。期日は十一月三十日と決定した。尼鋼との合併は大した企業の合理化とは見られない。と言ふ譯は尼鋼の製鋼能力と其の鋼材及び鋼管の製造能力とはミートして居り、大阪製鈑の製鈑設備に廻す鋼塊が余分にある譯ではないからだ。然し尼鋼としては多種類の鋼材製造設備を持つことは、此の限られた原料を最も有利な方向に向け得る利益のあることは疑ふべくもない。合併の目的も大體其の邊にあつたものと觀察される。

【下期配當】大阪製鈑獨自の決算は此の十一月期で終りを告げる譯だが、此の期の業績も前期と大差ないものゝ如くである。大體一百十五、六萬圓の利益を計上するのではないかと思はれる。とすれば利益率は五割七分五厘となる譯だ。これなら、充分現行一割八分配當は据置ける。

【合併後の配當】合併後の配當は、今から豫想することは危險だが、尼鋼も現行一割八分配當を維持する力はあるし、當社も一割八分を維持する實力はある。時節柄幾分の減配を行ふようになるかも知れぬが、大體一割八分据置と見てよい。

【設　立】大正九年五月
【決算期】四月、十月
【事　業】各種鐵鈑製造販賣
【資本金】公稱一、〇〇〇、〇〇〇　拂込一、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）一〇、〇〇〇
　　新（二五・〇）四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　北島安太郎　取締　楓　英吉
取締　井上長太夫　〃　金三郎
〃　風間武三郎　〃　森下彌三八
【株主總數】
總數（名）　十五年上　六〇　十六年下　七二〇
【大株主】
三菱商事　七、一〇〇　北島安太郎　七、〇〇〇
楓　英吉　三、九三三　森下彌三八　三、八〇〇
井上長太夫　三、四三三　堀口菊藏　三、三三三
大鋼證券　二、六五　丸十鋼業　二、五〇〇
【事業規模】
生產能力（月產）薄鈑（噸）　切斷能力
厚・中鈑（噸）
【事業成績】
シャーリング（噸）　十一年下　十二年上　十三年下
同　金額（千圓）　一、四七〇　一、七〇一　二、九五五
薄鈑販賣（噸）　三、四九　三、八六　三、三三六
同　金額（千圓）　二、九八一　三、四二一　三、六七五
厚中鈑販賣（噸）　一、四七〇　一、七〇一　一、四七〇
同　金額（千圓）　一、六五〇　二、一五二　一、四七〇
【資本異動】十年五月百五十萬圓增資十三年十一月第二回三萬五拂込徵收十二年十一月第三回三萬五拂込徵收十三年六月三萬圓（敍終）拂込徵收十三年十一月一〇〇萬圓增資第一回三萬圓拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十三年四月
株主資本			
積立金	一、六三一	一、九一七	二、二一七
外部負債	四、三三七	二、三四一	一、六三三
支拂手形	二、三四一	四〇〇	—
使用總資本	一一、〇六四	一一、一一〇	一一、九九
固定資產	三、〇六四	三、一四〇	四、六三四
流動資產	八、九六九	八、九六九	六、九六六
現金預金	二、九七	四三五	四三五
【收支勘定】			
收入	十五年上 一、一〇〇	十五年下 一、一〇三	十六年上 一、三一六
支出	二五五	四一六	五五五
利益	八四五	六六一	九三一
固定消却	一一〇	一一〇	二〇〇
消却年率	八%〇	八%〇	九%六
【業　績】			
十一年上	利益率 四、〇七	配當率 特〇、二	利益率 六、二〇
下	五、七七	五、一二	七、四七
十三年上	五、三三	五、二〇	五、六七
下	三、九七	一、二〇	五、六七
十四年上	二、八六	一、二〇	五、六七
【株　價】（實勢）	舊	株	
高値	九、〇	五〇、〇	
安値	四、八	四五、八	
十二年			
十三年			
十四年			
一—八月	四、七	四五、八	
【基準配當】	一割二分		
【豫想配當】	十四年十月期　一割二分		
【時價】	四三、〇	【利廻】	八分三厘
【名義書換】	十　錢	【新券交付】	三十錢

【資產負債】

	十二年四月	十三年十月	十四年四月
株主資本			
積立金	一、六三一	一、九一七	二、二一七
外部負債	四、三三七	二、三四一	一、六三三
支拂手形	二、三四一	四〇〇	—
使用總資本	一一、〇六四	一一、一一〇	一一、九九
固定資產	三、〇六四	三、一四〇	四、六三四
流動資產	八、九六九	八、九六九	六、九六六
現金預金	二、九七	四三五	四三五
【收支勘定】			
收入	十五年上 一、一〇〇	十五年下 一、一〇三	十六年上 一、三一六
支出	二五五	四一六	五五五
利益	八四五	六六一	九三一
固定消却	一一〇	一一〇	二〇〇
消却年率	八%〇	八%〇	九%六
【業　績】			
十一年上	利益率 四、〇七	配當率 特〇、二	利益率 六、二〇
下	五、七七	五、一二	七、四七
十三年上	五、三三	五、二〇	五、六七
下	三、九七	一、二〇	五、六七
十四年上	二、八六	一、二〇	五、六七
【株　價】（實勢）	舊	株	新
高値	九、〇	五〇、〇	一三、六五
安値	四、八	四五、八	八、一五
十二年			九、九七
十三年			七、六八
十四年			七、三三
一—八月	四、七	四五、八	六、六七
【基準配當】	一割二分	一割一分	一割八分
【豫想配當】	十四年十月期　一割二分		
【時價】	四三、〇	【利廻】	一割一分八分五厘
【名義書換】	十　錢	【新券交付】	五十錢

東洋鋼鈑株式會社

（本　社）大阪市北區宗是町一大阪ビル（電土佐堀五二七七）

【增產可能】當社の新鋭設備コールド・ミル（月產二千五百瓲程度の能力と推定される）は昨年九月以降運轉を開始して居るが、なにしろ機械が精密なところへ職工がそれに不慣れなため最近までは試運轉の域を脫せず、勢ひ業績に寄與するところも尠かつたが、今日では職工も可なり熟練したので四割以上の生產が可能となつた。一方從來のホットロールの方は八割操業を行つて居る模樣だから、結局今下期中の試力生產高は二萬瓲を降らぬと想像される。去る上期の生產高は一萬六千瓲見當と推定されるから、下期は二割五分の增產が可能となつたわけである。

【採算も好化】一方、ホットロールに較べるとコールド・ミルの方は生產費が嵩まない。瓲當り二十圓は安くなる模樣だ。ホットロールに依る場合の生產費を瓲三百七、八十圓見當と押へれば瓲當り五分餘の切下が可能となる計算だ。採算の向上は必至と云つてよい。

【業績向上】斯樣なわけで下期の業績は相當の向上を示すだらう。東洋機械よりの配當金を加へて百三十萬圓の利益は擧げ得よう。利益率は二割六分だ。此の利益をソツクリ表面に計上することはあるまいがそれにしても成績はゲツト好變し、延いて一割配當は充分の餘裕を殘すことゝならう。

【設　立】昭和九年四月
【決算期】五月、十一月
【事　業】鋼鈑及加工品、機械器具の製作販賣
【資本金】公稱＝一〇〇〇〇〇〇　拂込＝一〇〇〇〇〇〇
【株　數】……舊（五〇〇〇）　新（二〇〇〇）
【重　役】會長　中井　勳作
　社長　小野　耕一　取締　阿部　惟雄
　專務　高崎達之助　〃　水谷　啓
　常務　中山　克巳　〃　越山信太郎
　〃　有川　鷹一　〃　木村幸次郎
　取締　濱口富三郎　〃　黑島　季道
　〃　松岡　潤吉　〃　古井保太郎
　〃　平野　友明　〃　
【株主數】總數（名）十五年上　七五六　十五年下　七四〇
【大株主】日本製鐵　一五〇〇〇　東洋製罐　六〇〇〇
　日本生命　七〇〇〇　濱口富三郎　六〇〇〇
　田附政次郎　六〇〇〇　富安幸二郎　四〇〇〇
　進藤　敬忠　四〇〇〇　小野　耕一　四〇〇〇
【事業規模】工場所在地　山口縣都濃郡下松町
　試力年產……四〇〇〇〇瓲
【事業成績】十五年上　七五〇〇　十五年下　九〇一〇
　販賣高（千圓）　七六〇四　七〇三五
　製造費（〃）　五七九九　五四四〇
　製販費（〃）　四四　一〇四
【關係會社】東洋製罐と協力會社
【資本異動】十二年三月千五百萬圓に三倍增資、第一回三割を拂込徵收、十三年二月三割を拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月	十二年十一月	十四年五月
株主資本	二、八一六	三、〇八一	三、二八一
橫立金	八〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
社外負債	六、八〇〇	九、四〇〇	九、三〇〇
借入金	三、〇〇〇	四、四〇〇	四、三〇〇
支拂手形	八〇〇	一、八〇〇	一〇〇
使用總資本	八、〇四一	三、五四一	一四、八八一
固定資產	一〇、四四七	一一、六三一	一〇、〇四〇
流動資產	八、六四四	九、八一一	七、八八一
現金預金	四九五	三一〇	一、〇〇八
【收支勘定】			
收入	五年上　九、四一七	五年下　九、八四〇	十五年上　二一、一八六
支出	八、八二四	八、九二四	一〇、三四九
利益	五九三	八五五	八三七
固定消却	一〇〇	一〇〇	一〇〇
消却年率	四四二	四四六	四四二
【業　績】	十二年下	十三年上	十三年下
利益率	二、二〇	一、六五	一、八七
配當率	〇、八〇	一、〇〇	一、〇〇
利益積立	六〇〇	四四九	四三九
【株　價】（實勢）	舊株	新株	
高値	十三年　九二、六	四二、六	三三、三
安値	十四年　六〇、〇	二二、六	二一、六
十四年上	一一八月　三五、〇	一一、六	一一、三
【株式配當】	十四年十一月期　一割		
【豫想配當】	十四年十一月期　一割		
【時價】	舊株　六分二厘		
【利廻】	七分四厘		
【名義書換】	十一月　【新株交付】五十錢		

吾嬬製鋼所

（本　社）東京市向島區吾嬬町東四ノ九三（電墨田三六五）

【設　立】昭和八年八月
【決算期】五月、十一月

【上期業績】五月締切の上期利益金は五十七萬七千圓で、昨年下期に比し二萬圓の增益となり、利益率は一割九分二厘に向上した。併し當社は償却金を計上しないから、決算は表面よりもつと裕りがある。從つて一割配當も決して無理ではない。當社は鐵鋼統制實施以來打擊を受けたが、設備を改良して厚板に轉換したので、前期生產高は增加し減益を喰ひ止め得たのである。

【配當維持】情勢の變化により製鋼原料は更に不足を告げる。當社の如き平爐會社は第一に影響されるが、過去數年の好況期に充分償却に努め、內容は良いから一割配當は當分維持するであらう。

【資本金】……拂込濟　六、〇〇〇
【株　數】……（五〇、〇）　一一〇、〇〇〇
【重　役】專務　油田　尙郎
　常務　高橋　正雄　取締　久保　辰吉
　〃　藤井　勝八　監査　木下　茂
　〃　池島　三省　〃　馬場　正吉
【大株主】十四年五月期　五五名
　清岡節之助　一、八〇〇　德谷商事　三〇、二一〇
　高橋正雄　一、〇〇〇　清岡康子　一、〇〇〇
　清岡貞子　一、〇〇〇　有光綾子　一、〇〇〇
【主要製品】各種製鋼　線材、薄鐵板、中板、厚板、
【工場所在地】吾嬬、千住、砂町
【事業規模】
　配延能力
　製鋼能力
【業　績】
　十二年下　利益金　七、〇三一　利益率　一、〇四〇　配當率　一、〇〇　利益積立　六、六六
　十三年上　一、一四四　三、九一　一、〇〇　四、一七
　下　一、八六　一、九二　一、〇〇　四、三七
【株　價】（實勢）
　十四年上　五七七　高値　八〇、〇　安値　五、五
　十三年　一一、六　一一、六
　十四年　一一、六　一一、六
　一一八月　五三、三　五、五
【豫想配當】十四年十一月期　一割（一割）
【時價】舊　五、二　【利廻】七分一厘
　九分四厘

宮製鋼所

（本　社）東京市城東區南砂町六ノ四一（電本所三四五）

【設　立】昭和十年十月
【決算期】三月、九月

【業績低下】本年上期の利益は昨年下期に比し八萬餘圓を減少し、利益率も一割三分方急低下した。この業績低下は拂込資本の膨脹によつたが、民需品から軍需品製作への轉換過渡期であつたこと、製品の單價が切下げられたこと等も影響したことは否めない。

【今後】下期より未働資產が漸次稼働し、中型壓延工場は全能力を發揮するに至つた。增產計畫も具體化し　特殊鋼製造へも進出する。原料拂底の折柄、當社に密接な關係のある報國砂鐵製鋼の操業も强味となつた。現行配當の維持には勿論餘裕があるが、或は政策的に一、二分減配するのではないかとも考へられる。

【資本金】……公稱　拂込
　六、〇〇〇　四、五〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　新（二〇、〇）
【重　役】社長　高妻　俊秀
　常務　萩野　長松　取締　萩原　幸太
　取締　千田　武彥　監査　高妻　秀時
　取締　伸水　義吉　〃　千葉　三郎
【大株主】十四年三月期
　高妻俊秀　一、八〇　大谷米太郎　一〇、〇〇〇　高八名
　川島尾商店　七、八〇〇　萩野長松　四、〇〇〇
【事業成績】十五年上　十五年下　十四年上
　實上高（千圓）　一〇、一九七　九、二四三　一〇、〇四八
　實上原價（千圓）　八、三五一　七、三三五　八、三一八
【工場】本社工場
【業　績】
　十三年上　利益金　二〇、四三　利益率　一、八五　配當率　一、八五　利益積立　八、三三
　下　九、四三　一、三五　一、三五　七、四四
　十四年上　一、〇八　四、七二　一、三五　七、四四
【株　價】舊株　新株
　十三年　高値　一二、六　安値　一二、六
　十四年　一一、六　一一、六
　一一八月　一割
【豫想配當】十四年九月期　一割（一割五分）
【時價】舊　七〇、五　新　二六、五　【利廻】七分一厘
　九分四厘

東海鋼業

【設立】大正五年十二月
【決算期】五月、十一月

（本　社）東京市麻布區丸ノ内一ノ二（電丸ノ内二八八九）
（出張所）大阪市西區江之子島西町

【前期向上】前期の利益金は七十九萬六千圓で、前々期に比し十五萬四千圓の增益を結果した。當社最近の最好況期たる十三年上期に比しても十一萬圓の增益である。建値引下げの影響もあつたが、特殊納入品價格は動かなかつたし、生產高が增加したので、右の成績となつた。利益率は七割八厘で、一割配當は餘裕綽々である。

【今期低下か】併し乍ら、今期は建値引下げが全面的に影響して來るし、日鐵から供給される半製品の數量も餘り增加しまい。鐵鑛石、屑鐵等の間接的影響は、未だ今期中は現れぬだらうが、大戰の結果の現れる來期頃より段々減益するものと思はれる。

【資本金】公稱＝三、〇〇〇　拂込＝二、三八〇
【株　數】……（三七・五）　在　三、〇〇〇
【重　役】社長　田中榮八郎
常務取締　大橋不二雄　取締　伊藤九萬一
〃　白石元治郎　〃　監査
〃　岡崎久次郎　〃　長谷川太郎吉
〃　鈴木柳藏　〃　大西良輔
〃　岡崎博
【事業規模】
鐵板工場　加熱爐　壓延機
製條中型工場　加熱爐　壓延機
製條小型工場　加熱爐　壓延機

【工場所在地】九州若松
【大株主】十四年五月期　大橋不二雄八三六　小倉製鋼六八四〇
岡崎久次郎五四八〇　服部合資五〇〇〇
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十二年下　四七五　一割　七・一六
十三年上　六六一　一割　七・八六
〃　下　六四三　一割　七・七一
十四年上　六九七　一割　八・八
【株　價】（實物）　高値　安値
十三年　三二・七　四一・〇
十四年一—八月　五七・〇　四一・二
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時價】五七・八　七分二厘
五七・五　六分五厘
【利廻】

特殊製鋼

【設立】昭和四年六月
【決算期】五月、十一月

（本　社）東京市蒲田區南六郷二丁目（電蒲田二四〇）

【擴張と拂込徵收】當社の川崎市大師河原鹽濱に建設中の第二工場は豫定より後れて、十二月一杯はかゝりそうだ。來年初めから、運轉を開始する譯だが、此の建設費は大約八百萬圓と見積られる。この建設費の一部を支辨する爲に來る十一月一日に新株第二回の拂込を一株に就十二圓五十錢、總額二百五十萬圓程徵收することゝなつた。然し第三次の擴張を引續いて行ふから、今後引續き拂込を徵收せねばなるまい。全額徵收の上倍額增資に進むことにならう。

【今後の業績】擴張過渡期で、業績は壓迫を免れないが、現行一割三分配當は充分維持出來る。

【資本金】公稱＝一、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
【株　數】……舊（四〇・〇）　一〇〇、〇〇〇
新（二二・五）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　石原米太郎
常務取締　鈴木和志理　取締　渡邊紋人
〃　鶴見左衛門　監査　松島喜市郎
〃　山下英治　〃　竹内善之助
〃　水野清
【大株主】十四年四月期　石原米太郎八七〇〇　鈴木和志理一六七五
川崎共濟會一六〇〇　定德會三三七五
【機械設備】十二年十月末現在
高周波電氣爐二基　ニーメ式電氣爐六基
蒸汽鎚其他八基　プレス機一基
【事　業】特殊合金鋼の製造、加工販賣
【工　場】東京蒲田……一〇〇、〇〇〇坪
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十二年下　九二四　一割　八・四九
十三年上　八八〇　一割　八・一〇
〃　下　一、二四三　一割二分五厘　一〇・二五
十四年上　九三三　一割二分五厘　八・三五
〃　下　九、二五　一割二分五厘　八・二五
（五ヶ月決算）
【株　價】（實物）舊　高値　安値　株　高値　安値
十三年　四〇・〇　—　新
十四年一—八月　四三・五　四二・二
【豫想配當】十四年十一月期（一割三分）（一割五分）
【時價】舊八七〇　新一、二五
【利廻】八分五厘　三分八厘

日本高周波重工業

【設立】昭和十一年一月
【決算期】五月、十一月

（本　社）京城府黃金町三ノ九
（支　社）東京市麻布區内幸町東拓ビル

【順調發展】七十五萬坪に餘る城津工場の第三期計畫は來る十一月には完成する筈であり、富山も製鋼工場の完成により砂鐵より特殊鋼まで一貫した作業が行はれ一偉力を加へるに至つた。高級特殊鋼の生產と研究のみに充てられた品川工場も亦隣接地數千坪を買足して增產設備が施される。斯くして當社は近い將來其の生產額に於て、我が特殊鋼界第一の地位を占めるに至るであらう。朝鮮殖銀コンツエルンの發展は當社の將來を約束するものであり、東京自動車工業を始め關係諸會社の躍進はまた當社に一段の强味を與へるものだ。一億圓への增資も次第に其の實現期を迎へつゝある。

【資本金】公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝八、五〇〇
【株　數】……（二〇・〇）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　有賀光豐　取締　小林秀雄
常務　高橋省三　〃　土橋國利
〃　木村和水　〃　常監　立川平
〃　安井清　〃　松宮清
【大株主】十四年五月期　石崎長八郎名
【事業地】城津工場（七五〇千坪）
富山工場（五五千坪）北品川工場
【發行鑛區】昇龍鑛山、鳥峰鑛山、德亭鑛山、東海鑛山（以上朝鮮）高濱砂鐵（新潟）苗木錫山（岐阜）
【年產能力】富山工場　製鋼能力　千瓩
城津工場　特殊鋼　千瓩
第三期增產計畫　千瓩
【投資會社】川口製鐵　日本マグネサイト化學工業　金剛山特殊鋼　漢江水力
【關係會社】東京自動車工業　日產自動車　東京瓦斯電工と資本提携
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十三年下　九三五　一割　七・四
十四年上　一、三六　一割二分五厘　一〇・二五
【株　價】舊　安値　高値　株　新株
十四年一—八月　二〇・〇　一〇・〇　安値
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時價】—　—

日本砂鐵工業

【設立】昭和九年十二月
【決算期】五月、十一月

（本　社）兵庫縣加古郡高砂町字向島（電高砂卷一七〇）
（出張所）東京市麻布區丸之内丸ビル（電丸之内五四四〇）

【拂込徵收】當社の擴張計畫は頗る尨大である。飾磨新工場の建設と併行して青森縣八戸に砂鐵製錬工場を新設する。このため當社は當面相當の資金を要するので、その一部を賄ふため去る六月第三回拂込を徵收し、近々最終拂込を徵收する豫定である。

【結局增資】八戸工場は砂鐵からバナジウムを抽出し、そのあとの砂鐵は海綿鐵として一部を市販し一部を自家消費してベアリング鋼材を造る計畫だ。從つて今後大約二千萬圓の資金を要する。未拂込はあと百五十六萬五千圓しかないから倍額程度の增資とならう。當社の資本金が四、五千萬圓に達するのも遠い將來の事ではない。

【資本金】……公稱　一〇、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　拂込　八、五〇〇
新（二二・五）　一五〇、〇〇〇
【重　役】社長　石崎長八郎　取締　嶋谷勇
常務　上野健二郎　常監　若林秀雄
取締　筏井壽夫　監査　松尾讓
〃　佐々木義彥　〃　鳴谷武次
【大株主】十四年五月期　石崎長八郎八七〇名
橋本BB覺參三、五七　取締　常監
上野健二郎六、三五七　菊地長八郎九、八〇〇
西大路隆和五、〇〇〇　武夫五、八二五
【工場所在地】兵庫縣高砂　筒井商店五、〇〇〇
砂鐵所在地　鹿兒島縣熊毛郡　飾磨港
【事業規模】高砂工場
五段鑛月產能力　鋼塊……二段鑛　〇〇〇〇瓩
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十三年上　八〇六　一割　七・五〇
下　一、九七九　一割　七・四二
十四年上　一、九七九　一割　七・四二
【株　價】（實物）舊　高値　安値　株　新株
十三年　四〇・〇　三三・五　高値　安値
十四年　四四・五　三三・五　一六・五
一—八月　四七・〇　四三・五　三三・〇
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時價】舊　四七・〇　四四・五　三三・〇
新　六六・〇
【利廻】四分八厘
五分五厘

小島電氣製鋼

【設立】昭和七年一月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市日本橋區通一丁目四ノ三（電日本橋五七一—四）

【平塚工場操業開始】かねてより平塚工場の新設工事を進めつゝあつたが、本年九月十三日ボイラーの火入れを行ひ、一部操業の運びとなつた。電氣爐の運轉は遲れて十月から開始する。當社が昨年末に當時資本金四十萬圓から一擧五百萬圓の現在資本金へ飛躍的急膨脹を見たのも、平塚工場の新設を目標としたからである。

【再增資の問題】去る九月十一日最終拂込を徴收して既に資本金五百萬圓拂込濟となつた。これからも順次平塚工場を整備して、車輛製造にも進出する。遠からず再增資も具體化しよう。期日は明春とならうが、程度は倍額增資と見て間違ひあるまい。

【資本金】公稱二、〇〇〇 拂込一、八五〇
【株數】……舊（四〇、〇）八、〇〇〇
新（三七、五）九、〇〇〇
【重役】
社長 小島嘉六 取締 大森繁
常務 小早川敬四郎 〃 小知和仲造
〃 吉田和夫 監査 井上米三郎
【大株主】十四年五月期
小島嘉六 一、〇〇〇 名
新榮產業 一、〇〇〇
山一證券 四、二五〇
仁齋生命 四、〇〇〇
東都商事 四、二五〇
山文商店 三、七五〇
【事業成績】
實上高（千圓）十三年下 八、四〇
製造費（千圓）十四年上 三、六八六
〃 〃 十四年下 三、二〇三
【事業規模】工場並工場製品
平塚工場……製鋼工場、車輛工場
蒲田工場（第一—第四）
鑄鋼品、電熱線、特殊鋼、銀工品
蒲田機械工場……電氣爐、製鋼用機械
高崎工場……鑄工品
【業績】
十三年下 利益金 一四三 利益率 七、〇
十四年上 一四三 七、〇
【株價】（實數）
十四年一月末 新株 一、二〇 舊株 一、二〇
高値 安値 高値 安値
十四年一月 二六、七 二六、八 二六、七 二六、七
【豫想配當】十四年十一月期 一割二分
【時價】新二六、八 【利廻】（一割二分）七分九厘

日本亞鉛鍍鋼業

【設立】大正七年三月
【決算期】三月九月
（本社）兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田字南西ノ切（電福島四六二）
（出張所）大阪市西區立賣堀南（電新町三六三）

【社名變更】日亞製鋼は舊日本亞鉛鑛の新社名で、去る九月一日より改められたものである。

【增資】輕軌條工場建設の資金を調達するため、今回倍額增資を行ふことゝなつた。新株は去る九月一日現在の株主に一對一で割り當て、第一回拂込一株に付十二圓半宛、總額百二十五萬圓は十月一日に徴收した。

【配當如何】業績は向上を期待されるけれども利益配當令の實施されて居る關係で增資後の減配は不可避と目される。それは先づ一割と云ふところだらう。が、此の九月期は無論一割二分据置だ。

【資本金】公稱二、〇〇〇 拂込一、二五〇
【株數】……舊（四〇、〇）八〇、〇〇〇
新（三七、五）九〇、〇〇〇
【重役】
社長 田中德松 取締 福田壽三
專務 井坂彦治 〃 東代清次郎
常務 高作 〃 乾福之助
〃 吉朝 〃 監査 古堀拓治
【大株主】十四年三月期
田中德松 一五、〇〇〇 東代清次郎 一〇、三一〇
福田壽三 六、〇〇〇 乾福之助 五、六〇〇
【事業】亞鉛鍍加工及帝鐵の製造販賣
【營業製品】亞鉛鍍鐵板、亞鉛鍍鐵線、丸釘、鍍條網、帝鐵
【事業規模】工場數地
尼崎工場……一八、六〇〇坪
東京工場……二、六〇〇坪
【業績】
十三年上 利益金 九四 利益率 六、一 一、二〇 七、七五
十四年上 九三 五、八六 一、二〇 七、五
一、〇五三 五、五四 一、二〇 七、八五
【株價】（實數）
高値 新株 安値
十三年 二六、五 二五、五
十四年一八月 二四、五 二二、五
【豫想配當】十四年九月期一割二分（一割二分）
【時價】新二六 【利廻】六分八厘

住友金屬工業株式會社

（本社）大阪市北花區島屋町三七（電土佐堀西五—七）

【倍額增資】當社が豫て增資含みであつたことは周知の通りだが、愈々それが實現されることゝなつた。增資額は一億圓、新株二百萬株は九月三十日現在の株主に一對一で割り當てた。第一回拂込は一株に付十二圓半宛、總額二千五百萬圓で、期日は十月中か遲くも十一月初となる見込である。

【工場建設】增資の目的は云ふ迄も無く事業設備の擴充にある。なかでも新工場の建設はその主たるものだ。當社は過般尼崎市の西北方神崎及び名古屋に廣大な敷地を買收した。敷地坪數は明かでないが、前者が八、九萬坪、後者は二十萬坪と推定される。工事は既に着々進捗中だが、その製品內容は今のところ詳かにし得ない。只、從來の事業たる伸銅、製鋼、鋼管、プロペラの諸部門の何れかに包含されることだけは確實と云つてよい。

【向上期待】增資後の業績は些かも懸念を要しない。本年上期の計上利益は八百六十七萬六千圓で、利益率一割九分八厘に當るが、此の程度の利益率は今後共充分維持可能と考へられる。從つて現行九分の配當も無論安泰だ。これは半永久的と見て慣いてよいと思ふ。尙ほ、前記諸建設は可なり工事を急がれて居るから、これに伴ひ第二回拂込も案外早く、遲くも明春には實現しよう。

【設立】大正十五年七月
【決算期】三月、九月
【事業】伸銅、亞鉛、鋼管、鎔鋼品、鐵鋼品、壓延品、特殊兵器
【資本金】……拂込濟 一〇〇、〇〇〇
（四〇、〇）二、〇〇〇、〇〇〇
【重役】
會長 古田俊之助 取締 杉浦稠三
專務 春日弘 〃 松田孜
常務 木下堯吉 監査 大平賢作
〃 久島精一 〃 岡橋林
取締 小倉正恒 〃 谷林德太郎
〃 山本信夫 〃 淡輪敏雄
〃 荒木宏
【株主數】十五年上 一、六〇三
總數（名）十五年下 一、一三一 十四年上 一、六五三
【大株主】
住友本社 五四四、三〇〇 住友吉左衛門 一六〇、〇〇〇
住友銀行 一〇〇、〇〇〇 住友信託 六四、六一〇
住友電線 六〇、〇〇〇 住友寬一 三六、六〇〇
住友元夫 三六、六〇〇 住友孝 三六、六〇〇
【事業規模】
伸銅所……大阪市北花區島屋町五六
製品……銅、ノ板、管、條製品
製鋼所……大阪市北花區島屋町二四八
製品……鎔鋼品、鍛鋼品、外輪
鋼管製造所……尼崎市東向島西之町二九
製品……熱間冷間仕上鋼管、鋼竿類
プロペラ製造所 大阪市北花區島屋町
製品……プロペラ
【資本異動】十二年三月倍額增資五月第一回、十三年二月第二回、十月第三回、十四年四月最終各三圓拂込徴收

【資產負債】

	十二年三月	十三年九月	十四年三月
株主資本	九、六四四	一〇一、九八〇	一一九、六九〇
私立金	一四、〇一八	一四、九六八	三一、〇九六
外部負債	五九、一〇六	五一、八三三	九六、五九一
支拂手形	一〇、八三一	一〇、四四〇	一八、四四〇
使用總資本	一五八、九一〇	一六七、八一三	一九九、二八三
固定資產	四一、三四	四三、一五六	五一、四〇一
投資勘定	一六、六六八	一五、〇〇四	二六、三一五
流動資產	九八、八〇五	八八、六九八	一〇七、五六六
現金預金	一三、四一六	一一、八一三	一四、一二三
收支勘定			
收入	十二年上 六六、二七	十三年上 九四、六四四	十四年上 一一八、四五六
支出	六三、三四四	八七、一五九	一〇九、七四九
利益	六、〇一四	七、四八一	八、六四六

（利益金は積立金控除後のもの）

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十一年下	一、六六	特〇、二	〇、七	四、七
十二年上	一、九六	〃〇、二	〇、七	四、五
〃下	一、五四	〃〇、二	〇、七	四、六
十三年上	一、八一	〃〇、二	〇、七	四、八
〃下	一、八九	〃〇、二	〇、七	四、八
十四年上	一、九六	〃〇、二	〇、七	五、五

【株價】（實數）舊

	高値	安値
十一年	二九、五	二七、五
十二年	二八、八	二二、七
十三年	八二、七	八二、〇
十四年一—八月	一〇五、八	八二、五

【基準配當】十四年九月期 九分
【豫想配當】十四年九月期 九分
【時價】一〇八、五 【利廻】四分一厘
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

古河電氣工業株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内二ノ八（電丸ノ内四四二一—六二）

【業績良好】打續く設備擴張で生産力は著増した。賣上總收入は高まり拂込資本の急膨脹も敢えて重荷とならない。十四年上期の利益率は二割三分であるが、之は諸償却控除後のもので實際利益率は三割五、六分にも達してゐる筈だ。一割配當は餘裕タップリである。

【積極的擴張】航空機工業の發展に伴ひ、日光工場のヂュラルミン製造は頗る繁忙だ。此處の擴張費だけでも一千萬圓に及ぶから大したものである。更に關西伸銅工場内にもヂュラルミン製造部門を設け東西呼應して増産に邁進する。保土ケ谷の電池工場も既に規模は我が國一、二を爭ふものだが、工場の増築、設備の改善を圖つてゐる。右の他各地工場も一齊擴充を續行される。

【投資資金も莫大】日本輕金屬は歐洲大戰で機械の搬入意の如くならず、計畫具體化に支障を來す虞はあるが、建設工事は進められる筈であり、拂込徵收も引續き行はねばならぬ。若し豫定通り進むとすれば、今後尚ほ一千九百萬圓を投資せねばならぬ。富士電機も増資が決定し之にも資金を注ぎ込まねばならぬ。

【拂込・增資】未拂込全部を徵收しても今後の擴張資金は賄ひきれぬ。社債二千萬圓、支拂手形八百萬圓もあり、運轉資金も増大せねばならぬから拂込徵收から明年中には再増資が斷行されよう。

【設　立】明治二十九年六月
【決算期】四月、十月
【事　業】伸銅、各種電線、電纜、電池、輕合金管、板、棒、特殊珍材
【資本金】公稱一億、〇〇〇……舊（五〇・〇）　拂込一億、〇〇〇　四五〇、〇〇〇
【株　數】……新（五〇・〇）　五四〇、〇〇〇
【重　役】社長　中川末吉
專務　杉本五十鈴　取締　上島清藏
常務　鈴木元　〃　西村敬造
取締　古河從純　〃　高橋兼治郎
〃　河手捨二　監査　平沼亮三
〃　長谷川義太郎　〃　三谷一二
〃　鹽見勉　常監　木村豐吉
【株主數】……（名）　一、八四一　主年上　主年下　一、七九九　十四年上
【大株主】古河石綿商業　三四五、〇二〇　古河合名　一四一、六二〇
三菱鑛業　二二一、八二〇　日本生命　二五、四二〇
帝國生命　三一、〇八〇　三菱重工業　三一、〇〇〇
第一徵兵　一五、七二〇　三井生命　一〇、三二〇
【事業規模】日光電氣精銅所　九州電線製造所
大阪伸銅所　電池製作所
特殊塗料製造所　横濱電線製造所
理科試驗所
【投資會社】富士電機、大日電線、横濱護謨、秋田工場、滿洲モータース、日本電信電話工事、日本アルミ、滿洲電線、日本電線、日本海底電線、昭和電線、東邦金屬製錬
【資本異動】十二年五月三四五千圓拂込徵收
十一月三、五五千圓增資第一回三四五拂込徵收十四年五月一三四五拂込徵收

【資産負債】
　　十一年　十四年
　　四月　十月　四月　十月
株主資本　四六六　四六六　四六六　四六六
積立金　一三三　一三三　一三三　一三三
外部負債　四九〇　四〇〇　四〇〇　四〇〇
社債　一〇〇　一〇〇　一〇〇　一〇〇
支拂手形　一七〇　一七〇　一七〇　一七〇
使用總資本　九六一　一、〇二一　一、〇二一　一、〇二一
固定資産　一、〇九〇　一、〇一〇　一、〇一〇　一、〇一〇
投資勘定　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇　一、〇二〇
流動資産　九九六　九三〇　九三〇　九三〇
現金預金　八三〇　一、〇五〇　一、〇五〇　一、〇五〇
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十四年上　十四年下
收入　六一、二三五　五九、〇四〇　七〇、七四四　六七、二四〇
支出　六〇、九四三　五五、九六六　六七、三四四　六二、四〇一
利益　四、二八〇　三、〇七四　三、四〇〇　四、八三九
（利益は信用金額のもの）
【業　績】　利益率　配當率
十一年下　二、七一　一、〇〇
十二年上　二、五五　一、〇〇
〃　下　二、七一　一、〇〇
十三年上　二、〇三　一、〇〇
〃　下　二、二一　一、〇〇
十四年上　二、二三　一、〇〇
〃　下　二、二三　一、〇〇
【株　價】（實價）　新　株（實價）
高値　安値　高値　安値
十二年　一二、二　九、七　一　一
十三年　九四、九　八〇、〇　一　一
十四年　八五、〇　八五、〇　八五、〇　八五、〇
十一月　一八
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期　一割
【時價】舊　六、〇　五分一厘
新　五〇、〇　四分二厘
【利廻】
【名義書換】十錢　【新券交附】三十錢

東亞金屬工業株式會社

（本　社）神戸市葺合區脇濱町三ノ二〇三五（電葺合六三）
（營業所）神戸市神戸區西町興銀ビル内（電三宮三、三五三—四）

【上期減配】當社は去る六月決算に於いて二分減の一割配當に改めた。上期の成績は利益金五十六萬六千圓で、前期と殆んど變化なく對拂込資本利益率は二割六厘で前期と全く同率であつた。かように業績に格別の變化が無かつたのだから　上期の減配は全く成績如何によつたものでなく、政策的なものであつたことは言を俟たない。何れにせよ二分減配によつて當社の決算は著しく餘裕を加へたから、一割配當は頗る强固なものとなつた。

【拂込期待】目下輕合金部門を盛んに擴張中である。素材から製品化に進出するのだ。この爲めに當社は今後相當の資金を必要とする。そこで當局者は借金政策に變更を加へて或は拂込を取ることになるかも知れない。拂込によつて減配に依る株主の損失を埋合せることが出來るからである。

【業績は好轉】上期の成績は實際は七十三萬圓からの利益をあげてゐた。之は子會社より配當金が入つて來たのと時局品の増産が愈々軌道に乘つて來たからだ。下期以降は輕合金の利益が新に加つて來る筋合にあるし、その他の製品も増産によつて値下げに因る損失を充分カバー出來るから、成績は結局向上するものと期待される。拂込をとつても一割配當は樂に持續出來よう。

【設・立】大正十四年
【決算期】六月、十二月
【事　業】輕合金壓延、特殊鋼並金屬加工、工作用機械、鑛山用、化學工業用各種纖維製造、加工用諸機械の製造販賣
【資本金】公稱八、〇〇〇　拂込二、五〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　四〇、〇〇〇
二期　三五・〇）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　松尾忠二郎　取締　大川　巖雄
常務　中根　一二　監査　依岡　榮二
取締　土居　樽巳　〃　若林　乙吉
【株主數】　主年上　十三年下　十四年上
總數（名）　一、六四〇　一、六四〇　一、七五五
【大株主】中根　一二　八、一〇〇　松尾忠二郎　六、〇〇〇
土居　樽巳　五、三九　依岡　榮三　四、九四〇
大川　巖雄　四、五〇〇　古塚拓治　三、六〇〇
平松　大司　三、五〇〇　田實毒有衛門　三、〇〇〇
【事業規模】工場所在地　神戸臨濱　神戸工場
機械工場　兵庫縣二見町土山工場
輕合金事業……擴張設備完成
年產能力……〇、〇〇〇千瓩
【取引銀行】第一、三菱、三井、三和
住友、野村、安田諸銀行
【事業成績】　主年上　十三年下　十四年上
賣上高（千圓）　四、一四六　四、六六六　三、〇一〇
製造費（〃）　四〇、〇六六　四、〇四〇　二、四三〇
【資本異動】十二年十月第四四十三年二月第四四
（最終）各三四五拂込徵收、四月五〇萬圓增資、五月九月各三四五拂込徵收、十月改造工場を分離獨立せし東亞纖維工業へ總額四百六十萬圓で讓渡

【資産負債】
　　六月　十二月　十三年　十四年
株主資本　七、五三六　七、五三六　七、五三六　七、五三六
積立金　一、〇五〇　一、〇五〇　一、〇五〇　一、〇五〇
外部負債　四、一五一　四、一五一　四、一五一　四、一五一
社債　一、八四五　一、八四五　一、八四五　一、八四五
支拂手形　四、五九九　三、六〇〇　三、六〇〇　三、六〇〇
使用總資本　一三、四〇六　一四、四〇六　一四、四〇六　一四、四〇六
固定資産　九、四九六　一、八四五　一、八四五　一、八四五
投資勘定　一、八四五　一、八四五　一、八四五　一、八四五
流動資産　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
現金預金　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十四年上　十四年下
收入　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
支出　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
利益　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
固定消却　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
消却年率　七、九六八　七、九六八　七、九六八　七、九六八
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一三、六二　一、〇〇　一、九六　一、〇〇
〃　下　一三、五九　一、〇〇　一、九六　一、〇〇
十三年上　一三、五九　一、〇〇　一、八四　一、〇〇
〃　下　一三、五九　一、〇〇　一、七四　一、〇〇
十四年上　一三、五九　一、〇〇　一、七四　一、〇〇
【株　價】（實價）　新　株（實價）　新　株
高値　安値　高値　安値　高値　安値
十二年　一二、〇　九、〇　一二、〇　九、〇　一二、〇　九、〇
十三年　九、〇　八、〇　一一、〇　九、〇　一一、〇　九、〇
十四年　八、〇　六、八　一一、〇　六、八　一一、〇　六、八
一—八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　六六、〇　七分六厘
新　三四、九　七分二厘
【利廻】
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

昭和電工株式會社

（本社）東京市京橋區寶町一ノ七昭和ビル內（電京橋一三二一番）

【電力不足の影響】電氣の製品化、これが昭和電工の仕事であり使命であるとすれば、先づ襲ひかゝる電力不足の打擊は看過されない。併し、結論から言つて當面尙ほ業績を低下せしむる程の甚だしい影響は見られない。無論、豐水期である筈の九月期が依然渴水に惱む狀態だから、硫安も、石灰窒素も、またアルミニウムも、其他の特殊金屬類も能率の低下は免がれない。分けても折角のアルミニウムの增產積極化が思はしくないのは痛手である。

【アルミ値下影響】而も、七月以後に强要されたアルミ値下げに依る打擊も輕くはない。當社の製品は平均して瓩二百圓の値下げを喰つた。このため半期約百萬圓の減益は免がれない。成績の伸展力を殺ぎ合同第一期の增益を見込薄にした事は否定されぬ。先づ、九月期は一割配當持續に不安はないが、何等合同に依る成績良化の積極面を示す事は出來ない。

【擴張設備遲る】大町工場に於るアルミ增設工事は時局柄遲れ其の完成は來期となつた。新設の喜多方工場は既に二十萬坪の土地買入れ濟だが資材の獲得不如意から尙ほ着工の運びに至らない。すべては來期からのことだ。併し、豐里炭礦は日產千瓩の稼行を行ひ、亦新鄕發電所は七月末に完成し、大町工場の能率を高める事になつた

【設　立】大正十五年十月
【決算期】三月、九月
【事　業】アルミ、沃度、加里、曹達、電極、カーボランダム、肥料其他鑛業製鋼鑄鋼鐵合金
【資本金】……公稱 110,000,000 拂込 [illegible]
　　[illegible] 新 [illegible]
【株　數】
【重　役】社長 森[illegible] 專務 高田儀三郎 常務 佐野精一
　取締役 石坂泰三 穴水熊雄 安田彥四郎 石渡吉次 羽塚廣道 橫山武一 栄村貞雄 藤森龍麿 中島康作 監査 淵山助太郎 華道文藝 石毛竹治郎 土屋計左右 相談 鈴木忠治
【株主數】
　總數（名）[illegible]
【大株主】森興業 [illegible] 石原產業 [illegible] 東信電氣 [illegible] 大日本電力 [illegible] 第一生命 [illegible] 味の素本舖 [illegible] 日曹產業 [illegible] 第一位銀行 [illegible] 興津 [illegible] 大町 [illegible] 松本 [illegible] 橫山 [illegible] 大友 [illegible] 田 [illegible] 硫安 石灰窒素 [illegible]
【投資會社】東信電氣、森興業、昭和鑛業、昭和火藥、昭和合成化學、日本油化
【資本異動】十二年七月倍額增資第一回（一三圓五十五拂込徵收）十四年五月三回（最終）拂込徵收、六月昭和肥料と併合六千萬圓增資、社名も昭和電工と改稱

【資產負債】
　株主資本 [illegible]
　積立金 [illegible]
　外部負債 [illegible]
　社債 [illegible]
　借入金、支手 [illegible]
　使用總資本 [illegible]
　固定資產 [illegible]
　投資勘定 [illegible]
　流動資產 [illegible]
　現金預金 [illegible]
【收支勘定】十五年上 [illegible] 十六年下 [illegible]
　收入 [illegible]
　支出 [illegible]
　利益 [illegible]
　固定消却 [illegible]
　消却年率 [illegible]
【業　績】利益率 配當率 利益率 配當率
　十二年上 [illegible] 一〇 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
　十三年上 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
　十四年上 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
【株　價】（實績）株 新株
　高値 安値 高値 安値
　十三年 [illegible] — [illegible] —
　十四年 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
　一—八月 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年九月期 一割
【時價】舊 [illegible] 新 [illegible]
【利廻】七分七厘 五分二厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

日滿アルミニウム株式會社

（本社）東京市麴町區內幸町二ノ一大阪ビル二號館內（電銀座[illegible]—九）

【强制値下の打擊深刻】當社の場合アルミ値下の齎らす打擊は深刻だ。値下げの率から云へば當社の製品は大體瓩當り百七十圓平均だから最も輕い。然し、當社の生產條件は既設五社の內では最も不利益なる立場にあり、それだけ生產コストは高い。而もアルミ單一の會社で他に此れをカバーし得るものはない。從つて、値下げは其の後直接的に今後の業績を壓迫し、業績の急惡化を豫想せしむる。

【減配は當然なり】表面計算からしても、製品瓩當り百七十圓の差益減は一年約百萬圓からの減益を招來する。過去一ケ年間の利益は二百五十萬圓だから、この限り今後の年間利益は百五十萬圓に激減する。卽ち半期七十五萬圓の利益しかない勘定だ。無論、これは鹽化アルミとが硅素鐵の副產益とかの全部を含んでの勘定だ。この限り利益率は一割だから八分の配當困難は無論のこと、五分配當が精々と云ふ成績だ。

【問題は政策の一點】今年下期は十月締切りで、値下げの影響は四ケ月に及び、而も稀有の渴水に禍されて生產高は著しく減少の模樣である。數量の減少は他面コストの割高化を意味するもので、益々利益の減少は免かれない事情にある。アルミ界の情勢一變に善處して減配するが當然だが、當局者は果して如何にするか。

【設　立】昭和八年十月
【決算期】五月、十一月
【事　業】アルミニウム製錬業
【資本金】……公　拂込 [illegible]
　　新 [illegible]
【株　數】
【重　役】會長 古田忠雄 取締 八卷彌一
　常務 林好文 〃 杉宜陳
　〃 神戶徳太郎 監査 深水貞吉
　取締 小畑嚴三郎 〃 齋藤茂一郎
　〃 多田耕象 〃 關宮儔治
【株主數】
　總數（名）十五年上 [illegible] 十六年下 [illegible]
【大株主】發表セズ
【事業規模】工場……富山縣東岩瀨港
　電爐工場、鹽素工業、電解工場
　主要製品（理研乾式法）
　粗アルミ 硅素鐵 精アルミ
　鹽化アルミ 製精アルミ 電極
　アノード
　買電先……富山縣縣營愛本發電所
　使用原料……ボーキサイト 滿洲產礬土頁岩其他硅酸質粘土
【資本異動】十五年十二月倍額增資第一回（一二圓五拂込徵收、十二年六月、十月、十二月各一二圓五拂込徵收（全額）十三年二月二千萬圓に增資決定、四月第一回一二圓五拂込徵收　十二月三回拂込徵收

【資產負債】
　株主資本 五十三萬 十二萬 五十四萬
　積立金 [illegible]
　外部負債 [illegible]
　借入金、支手 [illegible]
　使用總資本 [illegible]
　固定資產 [illegible]
　投資勘定 [illegible]
　流動資產 [illegible]
　現金預金 [illegible]
【收支勘定】十五年上 [illegible] 十六年下 [illegible]
　收入 [illegible]
　支出 [illegible]
　利益 [illegible]
　固定消却 [illegible]
　消却年率 [illegible]
【業　績】利益率 配當率 利益率 配當率
　十二年上 [illegible] 一〇 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
　十三年上 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
　十四年上 [illegible] 一〇
　下 [illegible] 一〇
【株　價】（實績）株 新株
　高値 安値 高値 安値
　十三年 [illegible] — [illegible] —
　十四年 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期 八分
【時價】舊 六[illegible]・〇 新 [illegible]
【利廻】六分六厘 五分五厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

日本アルミニウム株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館内（電丸ノ内六六三）

【アルミ値下の影響】アルミ値下の影響を最も大巾に蒙るものは當社の製品である。それと云ふのは强制値下の中心は、高級品に置かれ、當社の製品は平均二百五十圓の値下を受ける。このため一擧に年間百六十萬圓の減益を見る勘定だ。問題は今後の增產と技術の向上に依るコスト切下げで、右の幾割がカバーせらるゝかである。

【擴張增設は進捗】擴張工事は着々と豫定の計畫を進めてゐる。即ち高雄工場の增設、花蓮港工場の新設が行はれてをり前者は十五年春、後者は十六年三月迄の目標で運んでゐる。これと同時に九州黑崎にアルミナ工場を建設される。これは三菱系の日本化成と提携して同社工場に隣接して設けられコークス、瓦斯、曹達等の供給を受ける。この工場で造られるアルミナは花蓮港工場に送られて電解される。日本化成との提携に更に當社に一ツの强味を加へた譯だ。

【マグネ工場進む】高雄工場内で營む新設のマグネシウムは既に佛國より直接製錬法（ジアンヂル法）の特許を買取り建設中で明春遲れても明夏からは操業開始の豫定である。

【下期の成績】九月締切の下期は四月末の拂込五百萬圓の徵收があり、七月以後の製品値下げに依る利益減で業績は悪化するが、先づ無理にも八分の配當は維持するであらう。

【設立】昭和十年六月
【決算期】三月、九月
【事業】アルミニウム製造
【資本金】公稱＝三〇,〇〇〇,〇〇〇　拂込＝一〇,〇〇〇,〇〇〇
【株數】……舊(三〇,〇〇)　新(三〇,〇〇)　八〇〇,〇〇〇
【重役】社長　井坂孝　取締　西村小次郎
專務　吉田一郎　〃　河手捨二
取締　原邦造　福原安藏
〃　中川末吉　監査　中村房次郎
〃　松木幹一郎　〃　後宮信太郎
〃　寒川恒貞　〃　能澤外茂吉
〃　三谷一二
【株主數】（名）十五年上　六〇〇　十六年下　八〇〇　十六年上　一,〇三〇
【大株主】三菱鑛業八〇,五〇〇　三井鑛山四〇,〇〇〇
臺灣電力四〇,〇〇〇　古河電工三〇,〇〇〇
三井合名三〇,〇〇〇　三菱社二〇,〇〇〇
安田保善社九,〇〇〇　後宮信太郎九,〇〇〇
【事業規模】
年產能力　高雄工場……
花蓮港工場……
原鎭石……蘭領印度リオ群島ビンタン島產ボーキサイト
製造法……バイヤー法（温式法）
日產能力……
電解工場電氣燈……臺
【投資會社】南洋アルミニウム、福大公司、日本カーボン、花蓮港拓殖
【資本異動】十五年七月三〇〇〇拂込徵收十三年三月來三千萬圓に增資、三月第一回十四年四月第二回各三〇〇〇拂込徵收

【資產負債】

	十三年三月	十三年九月	十四年三月
株主資本	一〇,九八九	一七,三五八	一七,三五八
積立金	三〇〇	六〇〇	六〇〇
外部負債	四,七四五	四,〇四五	三,五〇〇
支拂手形	四,九八〇	四,〇〇〇	一〇,〇〇〇
使用總資本	一六,六六一	二〇,〇四四	二七,七六六
固定資產	一三,四五三	一四,三三五	二三,〇九五
投資勘定	四,二一〇	一,一八七	一,一八七
流動資產	四,二一〇	四,五四三	四,〇一一
現金預金	八五	六二	七,四五二

【收支勘定】

收入	十五年上	十五年下	十六年上
利益	四,二一〇	四,一七五	七,〇四五
支出	四,〇三〇	四,一二五	五,三三五
利益	一八〇	一,〇五六	一,七一九

【業績】

	利益率	配當率	利益金處分
十一年上下	〇,三一	〇,一〇	一〇,〇八一
十二年上下	〇,一五	〇,一〇	一,八八一
十三年上	〇,八〇	〇,八〇	四,五六一
下	〇,八〇	〇,八〇	四,九一一
十四年上	〇,八〇	〇,八〇	四,八四一

【株價】（實物）舊　株　新
高値　安値　高値　安値
十二年　一〇四・〇　八二・〇　—　—
十三年　一六六・六　八二・〇　一五〇・〇　—
十四年　八二・五　六二・五　四二・〇　三二・五
一—八月

【基準配當】十四年十一月期　八分
【豫想配當】舊八〇・〇　新四〇・〇
【利廻】五分七厘　五分
【時價】
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

日本輕金屬

（本社）東京市芝區田村町一ノ一東電ビル（電銀座五三〇）

【建設途上】工場建設を急いでゐる。豫定計畫は淸水工場（アルミナ工場）、蒲原工場（第一電解設備）、新潟工場（第二電解設備）のアルミ三設備の建設と、蒲原發電所の建設とだ。既に夫々請負契約を結び、起工の運びとなつた。同時に富士川水力の合併も七月一日に内諾可を受け、豫定の自家發電設備を行ふ段取りとなつた。

【機械の輸入不能】然るに歐亂の勃發は所要機械の輸入を不可能に陷れ計畫に一頓挫を來さしめた。蒲原工場に設備される水銀整流器二十六臺、三百萬圓は獨逸シーメンス會社に發註したゐたからだ。果して如何なる對策を巡らすか、總ては此の一點にかゝる。

【設立】昭和十四年三月
【決算期】五月、十一月
【資本金】公稱＝一〇〇,〇〇〇　拂込＝五〇,〇〇〇
【株數】……（三〇,〇〇）　二,〇〇〇,〇〇〇
【重役】社長　小林一三　副社長　中川
米吉　田邊七六　常務　上島清藏　山田
宏太郎　取締　岡部榮一　新井彰治　小高
橋本枝　西田傳五郎　西村小次郎
村千太郎　田中良雄　山下太郎
監査　杉本五十鈴　萩原朔吉　大澤佳
郎　鈴木與平　大河原榮之助
【大株主】東京電燈一五〇,〇〇〇　古河電工一五〇,〇〇〇
【事業】アルミニウム及其合金並ボーキサイトを原料とする商品の製造販賣
【收支計算】收入　支出　利益　配當率
半ケ年分　三六,七五〇　三〇,一〇五　六,五四五　〇・八〇

【起業費要項】送電設備費　五〇,〇〇〇
各種工場建設費　一〇五,六四〇
附帶建家及諸設備費　三,五四六
特許料、設計監督費、試作費　三,五四六
建設豫備費並流動資金　一四,四四三
【事業規模】製法　バイヤ法（濕式法）
年產能力　アルミニウム……
アルミナ……
原料　ビンタン島ボキーサイト
【株價】（實物）　高値　安値
十四年　一四・二　一二・八
一—八月
【豫想配當】十四年十一月期未配（年六分）
【時價】一四・五　—

朝鮮理研金屬

（本社）朝鮮鎭南浦府三和町三七（電鎭南浦七五）
（出張所）東京市京橋區銀座一ノ二（電京橋九三二—五）

【建設途上】仁川に製鋼工場を、鎭南浦にアルミニウム、マグネシウムの輕金屬工場が建設される。去る四月末に杭打ちが行はれ、目下建設の途上にあるが、その竣成は豫定通りに行つて本年末のことであらう。從つて事業の運營開始は來春以後とならう。當社は本來半島產の原料を工業的に開發處理する事を建前とするもので、その使命は恰も朝鮮理研護謨と同樣だ。前途を所囑とする。

【拂込徵收】營業的には未だ何等記す可きものがない。庶務事項としては去る六月一日を期して一株十二圓半、總額三百七十五萬圓の第二回拂込が徵收され、下期の拂込資本は七百五十萬圓となつた。

【資本金】公稱＝一〇〇,〇〇〇　拂込＝七,五〇〇
【株數】……（三〇,〇）　三〇〇,〇〇〇
【重役】會長　大河內正敏
常務　島村收三　取締　加藤平太郎
取締　田中寬　〃　島田乙駒
〃　今富祥一郎　監査　明石德一郎
〃　大塚萬丈　〃　河村達藏
【大株主】十四年六月期　三三名
理化學興業三,八〇〇　磯研金屬二,〇〇〇
富國工業二,五〇〇　理研ビタミン一〇,〇〇〇
理化學研究所六,三五〇　安田銀行保證金一〇,〇〇〇
【事業規模】工場及製品　鎭南浦工場　アルミニウム、マグネシューム
仁川工場　鋼鐵

【事業豫算】鎭南浦工場購入費　五〇
工場建設費……一三,四一〇
關係特許實施權買收費……一三〇
豫備金　經營資金……三,五〇〇
其他共總計……一六,七四〇
【收支計算】收入　支出　利益金
一年分　一三,六四〇　一三,六四〇　一,七九六
【業績】利益率　配當率　利益處分
十四年上　三六　〇・〇一　未配　一〇・〇〇
【株價】（實物）　高値　安値
十四年　一四・五　一二・五
一—八月
【豫想配當】十四年十二月期　八分
【時價】一四・五　【利廻】八分二厘

日本ニッケル株式會社

（本　社）東京市日本橋區吳服橋三ノ七（電日本橋四八〇一—九）

【ニッケル鑛業合併】全額拂込濟に次で豫定通りに仔會社日本ニッケル鑛業を合併した。合併期日は九月一日、合併比率は一對一の對等だ。この結果新に資本金五百萬圓（拂込百二十五萬圓）を加へて公稱千五百萬圓、内拂込一千百二十五萬圓となつた。

【未拂込徵收近し】斯くして、合併後の未拂込殘額は一株三十七圓五十錢總額三百七十五萬圓を殘すが、この全額徵收はまた既定のことで早ければ年内に、遲くとも明春早々に實行されよう。而も、この徵收はまた倍額增資の前提である。

【擴張工事進捗】企業の進捗につれて設備能力は次ぎ〳〵に擴大せられてゐる。若泉製鋼部は既に完成。鬼石工場は期待のロータリー・キルシ〇基の据付中で七月末に第一基の据付を終り九月上旬には第×基目の据付中だ。内部の据付完了は年内一杯の豫定である。これでニッケル製錬は電氣爐からキルン〃の轉換が成り、企業に新展開が齎らされる。能率は增加しコストの低下を期待せしむる。

【技術上の新展開】折りも折り、從來の製造工程に新たなる發見が行はれ、このため事業は躍進し、本格化する事となつた。

【一割配當安泰】拂込は膨脹するが、九月以後の新設備操業と新方法に依據する能率增進で成績は向上し配當力は安定する。

【設　立】昭和十一年十一月
【決算期】四月、十月
【事　業】鑛物の探掘及製錬、ニッケル及ニッケル合金及其關成物並ニッケル鋼其他特殊の製造加工及販賣
【資本金】公稱＝一千、〇〇〇　拂込＝三、七五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）二〇〇、〇〇〇
　　合併新（三七・五）一〇〇、〇〇〇
【重　役】
常務　一杉　榮　芝辻　正晴
〃　高津　奈良男　取締　松本好太郎
〃　宮崎　五夫　〃　監査　菊地久吉
取締　渡邊昇太郎　〃　相談　淺野桂之助
【株主數】
　　十五年上　十六年下　十六年上
總數（名）　八〇四　一、二八一　一、六一八
【大株主】
日本ニッケル鑛業　三〇、〇〇〇　高津合名　一〇、五〇〇
芝辻　正晴　一〇、〇〇〇　山二株式　八、八〇〇
渡邊昇太郎　六、〇〇〇　石川朝英　五、〇〇〇
松本　誠男　三、〇〇〇　新田仲太郎　三、〇〇〇
【事業規模】製錬所及製鋼所
　鬼石製錬所　群馬縣多野郡鬼石町
　若泉製鋼所　〃　若泉村
　主要製品純ニッケル、含ニッケル銑鐵
　　含ニッケル特殊鋼
【事業成績】
　　十五年上　十五年下　十六年上
賣上益（千圓）　九、九　四、五　八、六
【資本資動】十三年五月日本スチール合併五〇〇萬圓增資、八月七圓拂込徵收
　十四年一月一〇圓拂込徵收
　十月一〇圓（最終）拂込徵收、六月日本ニッケル鑛業合併五百萬圓增資

【資產負債】

	十三年四月	十三年十月	十四年四月
株主資本	一、四九九	四、四九六	六、九九六
積立金	二三	一〇	四四
社外負債	一、八六一	四、四九九	八、四四九
借人金	一、〇〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇
支拂手形	三五五	一、〇九八	二、三九九
使用總資本	三、三〇〇	九、三二一	一五、三六七
固定資產	二、四〇〇	四、四〇一	九、一六八
流動資產	九〇〇	三、六一〇	六、〇九九
現金預金	一九七	八五四	一、〇〇五
【收支勘定】			
收　入	二一五	十五年下	十六年上
支　出	一六八	五六〇	一、〇四六
利　益	一四七	四四五	三三五
固定消却	一〇四	一四〇	八三三
消却年率	八〇六・七	六〇六・九	二〇〇
【業　績】			利益率
十三年上	二、八五	一、〇〇	七・五〇
十四年上	二、九七	一、〇〇	四・八四
下	三、二〇	一、〇〇	六・三七
【株　價】（實物）	高値	安値	
十二年	三、〇	九、八	
十三年	二〇、〇	一一、〇	
十四年	六二、〇	二〇、七	
一一月			

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期　一割
【時價】六二・〇　【利回】七分七厘
【名義書換】二十錢【新券交附】五十錢

日本ステンレス株式會社

（本社）東京市京橋區京橋三ノ二（片倉館内）（電京橋六三四一—五）

【需要增大】時局會社といふよりは寧ろ平和產業の分野に加ふべきだ。新興金屬としてのステンレス・スチールの生產を營むこと周知の如くであるが、而も、同業會社と異なる點は、それが極軟ステンレスで加工に便なる事だ。かくして、銅、眞鍮その他の代用品としての需要を日毎に加ふるに至つた事が强味である。

【擴張增設つゞく】設備の擴大は引續き行はれてゐる。第一期の五千瓩能力から現在二萬瓩設備となつたが、更に之を將來四倍に擴大の計畫である。然し、この計畫實現のためには拂込の徵收が行はれ次で倍額程度の增資が必要である。既に直江津工場を始め松本工場の擴張は行はれたが、今後の擴張は更に直江津方面に集中される。

【東邦重工業】豫ねて計畫中の第二ステンレスは東邦重工業の社名で創立された。東邦電力との提携に依るもので資本金千五百萬圓の三分の二を東邦が出資し、當社は其三分の一と技術とを提供する。年產二萬瓩工場で四日市に建設される。完成は十六年三月の豫定だ

【下期の成績】概觀して能力の割合に實產の擧らぬ憾がある。本年上期は異常の渴水期に當面して操業の順調を觀たが、下期も其の傾向は改まらず、電力不足の惱がある。成績は上昇傾向をつゞくるにしても或はまた一分の增配期待は裏切られるかも分らない。

【設　立】昭和九年四月
【決算期】三月、九月
【事　業】ステンレス塊、鋼、棒、引抜管、編物製造販賣
【資本金】公稱＝八、〇〇〇　拂込＝八、〇〇〇
【株　主】……舊（五〇・〇）一〇四、〇〇〇
　　新（二二・五）二二、〇〇〇
【重　役】
社長　今井　五介　取締　林　純之介
專務　瀨黑　幸市　監査　武田德三郎
〃　國友　末藏　〃　山本彦太郎
常務　樋口　喜六　相談　大田農蚕五郎
取締　高島　順作　〃　〃
〃　今井　彌八　〃　增田　義一
　　十五年上　十五年下　十六年上
【株主數】
總數（名）　四八三　六二一　九六〇
【大株主】
中央電氣　一八二、〇〇〇　樋口　喜六　九、一〇〇
中川友次郎　五七、〇〇〇　日本ステンレス　四、七二〇
大田黑重五郎　四、三〇〇　瀨黑幸市　三、八六〇
國友　末藏　三、八〇〇　門倉清蔵　三、五六〇
【事業規模】
直江津工場新潟縣古城
　延機　電氣爐
　年產能力　鋼塊
大阪工場　大阪市大正區泉尾北村町
【事業成績】
　　十五年上　十五年下　十六年上
賣上高（千圓）　九、八六　一、五三　三、九六
製造費（〃）　八〇一　三、七二四　一、一〇九
【資本異動】十五年四月　舊三三圓拂込徵收八月、八〇〇萬圓に增資第一回二圓拂込徵收

【資產負債】

	十三年三月	十三年九月	十四年三月
株主資本	四、四九九	八、九三三	八、九八六
積立金	一七	二八	四五
社外負債	一、九八五	一、九九九	一、九九九
借入金、支手	一、六四八	一、八〇〇	一、八〇〇
使用總資本	六、四二四	八、九三四	一〇、九七四
固定資產	一、九三	三、四四〇	五、一一八
流動資產	四、四九一	五、四九四	五、八六六
現金預金	一六二	六九七	八一六
【收支勘定】			
收　入	五年上	五年下	十六年上
支　出	三、六六八	四、〇一六	四、四五一
利　益	二、八〇	四、四九一	四、〇五六
固定消却	二八八	四五五	六六八
消却年率	五〇	五〇	五〇
【業　績】			利益率
十二年下	一、二六	〇、八〇	三、三一
十三年上	一、四八	〇、八〇	三、九九
下	一、四〇	〇、八〇	四、〇三
十四年上	一、六四	〇、八〇	三、八四
【株　價】（實物）	舊株	新株	
十二年	高値　五〇・〇	安値　四四・四	
十三年	四〇・〇	三一・六	一九・二
十四年	六二・八	三三・〇	二三・三
一一月			一四・〇
【基準配當】九分
【豫想配當】十四年九月期　九分
【時價】舊六二・八　新三三・三　【利回】七分一厘
【名義書換】十錢【新券交附】三十錢

三菱重工業株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内二ノ四（電丸ノ内　三三一―九）
（支　店）東京市淀田區中丸子町三三

【受注依然旺盛】當社の受注は增す一方だ。昨年上期末に約五億五千萬圓を數へてゐたのが、一箇年後の本年上期末には約六億二千萬圓を突破してゐる。相次ぐ設備の擴充で能力も殖へてゐるとはいへ、注文消化の容易ならざるを窺はしめる。といふのは、以前と異り原材料、燃料、勞力の手當難とか其等に對する支拂增著しく、而も他方に軍需品單價引下げで引渡代金、作業收入の殖へ方が鈍り、結局作業收益率低下の惱みがあるからである。

【利益增加】然し計上利益は增加し、七分配當に餘裕含みだ。例へば本年上期の利益九百四十萬九千圓は對前期二百萬圓增で、利益率の一割八分九厘亦二分三厘の向上に當る。操業能率の高度化、經營の合理化を極力促進せしめて、單位當り利益低下を量的に補塡する策を採つてゐるからで、業績の實體に何ら動搖はないのである。

【大戰影響】たゞ設備擴張上の障害として、今次大戰による機械其他固定生產材の輸入難がある。それは現在約三千萬圓程度で、中ばを歐洲方面に依存してゐるが、その全部の圓滑な輸入は到底望めないであらう。この分に就て目下對策が考究せられつゝある。

【增資接近】それでも擴張資金は尙相當に上り來る、十一月一日最終拂込徵收に決定したが、明春三月頃倍額增資の實現を見る筈だ。

【設　立】大正六年十月
【決算期】六月、十二月
【事　業】鉛船、艦艇、航空機、各種車輛、自動車、各種機械並鐵工品。
【資本金】公稱二億〇〇〇〇萬　拂込二億〇〇〇〇萬
【株　數】……舊（額面五〇）一、〇〇〇、〇〇〇
　　新（額面五〇）一、〇〇〇、〇〇〇
【重　役】會長　斯波孝四郎　常務　鄕古潔　伊藤達三　元良信太郎　原耕三　收　樹　岩崎小彌太　岩崎彥彌太　三好重道　伊集院清彥　笹本甸太郎　玉井喬介　松井小三郎　牛丸義留　後藤直太　藍亨　川井源八　山室宗文　武藤松次
【株主數】十五年上　一、二三、六五二
　　十五年下　一、二三、六五二
【大株主】三菱合資一〇〇、〇〇〇、〇〇〇　日本郵船一五〇、〇〇〇　明治生命一〇〇、〇〇〇　第一相互八、〇〇〇　日本生命一〇、〇〇〇　三菱海上火災一〇、〇〇〇　東京海上火災一〇、〇〇〇　成瀨學園一〇、〇〇〇
【事業規模】造船臺　乾船渠　浮船渠　潮入船渠
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　　入渠船舶（隻）……
　　延噸數（噸）……
　　作業收入（千圓）……
　　作業原價（〃）……
【投資會社】鄕船、商船、日本電池、日本光學、日本製鋼、東京鋼材、東京計器、大日本塗料、滿洲航空、滿洲機器
【資本異動】十五年一月倍額增資、五月一三圓五拂込徵收十二月三圓五拂込徵收、十四年三月三圓五拂込徵收

【資產負債】

	十五年上期	十五年下期	十六年上期
株主資本	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
固定資產	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
投資勘定	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資產	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】

	十五年上	十五年下	十六年上
收入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
利益	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

（利益は償却後のもの）

【業　績】

	利益率	配當率	利益金額
十二年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十二年下	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十三年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十三年下	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十四年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇

【株　價】（額面）舊株　高値　安値　新株　高値　安値

	舊株高値	舊株安値	新株高値	新株安値
十二年	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十三年	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十四年	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
一―八月	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇

【株式異動】

	舊株高値	舊株安値	新株高値	新株安値
十二年上	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十二年下	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十三年上	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十三年下	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
十四年上	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
一―八月	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇

【豫想配當】十四年十二月期　七分
【時　價】舊　〇、〇　新　八六、六
【利　廻】三分九厘
【名義書換】十　錢　【新券交付期】五十錢

株式會社　川崎造船所

（本　社）神戸市湊東區川崎町二丁目（電兵庫　三八〇、三八〇〇）

【增資決定】愈々一億二千萬圓增資認可を得た。新株二百四十萬株は、十月末現在の舊株主に優先株普通株の區別なく一株對一株半の割合で割當て、十二月一日一株に付廿五圓宛―總額六千萬圓を徵收する。尙同日を期し社名を川崎重工業と改稱する豫定だ。今回の增資は例の甲種和議債務からの桎梏を解消せしめるのみならず、生產擴充計畫を遂行する上に、重要な意味と役割を持つものだ。

【擴充計畫】この計畫には（イ）造船所新設、（ロ）砂鐵製鍊企業化並製鋼工場建設、（ハ）製鐵部擴充の三がある。（イ）は南海沿線の谷川に設けられる。規模は相當大きく當面四百萬圓を要する。（ロ）は岩手縣久慈で砂鐵製鍊（クルツプ法）により銑鐵を得、之を新たに買收した西宮の海岸埋立地に建設する新工場で特殊鋼とするもので、二千五百萬圓を投ずる。（ハ）は脇濱の製鋼工場を擴げる方針で、差當り千五百萬圓を豫定してゐる。以上で八千萬圓、外に和議債務殘額二千二百九十萬圓、子會社への拂込千五百萬圓等がある。之等は第一回拂込と借金で賄つて行き、機を見て第二回拂込を徵收する。

【增配】增資後の配當は認可に俟つ外ないが、普優の區別撤廢で優先並みとすれば六分、平均五分一厘の成績上特別に一分九厘增配が認められゝば七分となる。多分後者となるのではあるまいか。

【設　立】明治二十九年十月
【決算期】五月、十一月
【事　業】艦船建造修理、諸機械、鐵工品、鋼板、其他
【資本金】……拂込済　八〇、〇〇〇
【株　數】……普（額面五〇）五六〇、〇〇〇　優（額面五〇）一、二四〇、〇〇〇
【重　役】社長　鍋谷正輔　專務　川崎芳熊　吉岡保貞　〃　取締　皆川多三郎　〃　〃　槙村寅　〃　〃　松村守一　〃　〃　寺田甚吉　取締　岩倉道俱　〃　〃　坂田幹太　三輪小十郎　〃　〃　杉田富
【株主數】十五年上　一九、五四六　十五年下　一八、六四一
【大株主】大阪商船一〇〇、〇〇〇　山下汽船一〇〇、〇〇〇　日本興業銀行四三、五六二　十五銀行三六、九四〇　大倉鑛業三三、〇〇〇　川崎汽船一八、四三一
【事業規模】十二年十一月現在
　船渠……一基
　造船臺數……七基　造船能力……
　年產能力（千噸）厚鈑……薄鈑……
　鋼鈑・鋼塊……鋼塊……
　鋼鈑用平鑪……同製鋼……
【事業成績】

	十五年上	十五年下	十六年上
竣工總噸數（千噸）	五五	—	—
修理總噸數（〃）	五四〇	—	—
製鋼工場益（〃）	一、〇四五	九〇六	
鑄鋼工場益（〃）	三、九五四	三、三六六	
製鈑工場益（〃）	六九五	四二四	

【投資會社】川崎車輛、川崎汽船、靜芬金山、日本鋼管、川崎航空機工業

【資產負債】

	十五年上期	十五年下期	十六年上期
株主資本	六六、六四四	六七、〇二五	六七、〇二五
積立金	六九、九五九	七〇、〇二五	七〇、〇二五
外部負債	一、〇四四、〇四四	一、〇四四、〇四四	一、〇四四、〇四四
別口借勘	三三、〇五五	三三、〇五五	三三、〇五五
使用總資本	三八、四一九	三三、九五五	三四、一六六
固定資產	四〇、三九六	四〇、三九六	四〇、三九六
投資勘定	四〇、四四四	四〇、四四四	四〇、四四四
流動資產	一〇二、八四四	一一四、八三三	一一六、一四四
現金預金	一〇、一二六	一一、六五六	一一、九五六

【收支勘定】

	十五年上	十五年下	十六年上
收入	一七、九四四	一七、九四四	一七、九四四
支出	一七、九四四	一七、九四四	一七、九四四
利益金	一七、九四四	一七、九四四	一七、九四四

【業　績】

	利益率	配當率	利益金額
十二年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十二年下	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十三年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十三年下	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇
十四年上	一、〇〇	〇、〇〇	一、〇〇〇

【株　價】（額面）舊株　高値　安値　新株　高値　安値

	舊株高値	舊株安値	新株高値	新株安値
十一年	四一、〇〇	三六、〇〇	四五、〇〇	四〇、〇〇
十二年	四一、〇〇	三五、〇〇	四六、〇〇	四一、〇〇
十三年	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇
十四年	六〇、〇〇	四五、〇〇	六〇、〇〇	五二、〇〇
一―八月	六〇、〇〇	六〇、〇〇	六〇、〇〇	五五、〇〇

【株式異動】

	舊株高値	舊株安値	新株高値	新株安値
十一年	四一、〇〇	三六、〇〇	四五、〇〇	四〇、〇〇
十二年上	四一、〇〇	三五、〇〇	四六、〇〇	四一、〇〇
十二年下	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇
十三年上	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇
十三年下	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇
十四年上	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇
一―八月	四四、〇〇	四四、八〇	四七、〇〇	四二、八〇

【豫想配當】十四年十一月期　普通六分　優六分
【時　價】舊　普　〇　優　〇　【利　廻】一分三厘　五分二厘
【名義書換】十　錢　【新券交付期】二十錢

浦賀船渠株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル内（電丸ノ内一八六一—九）

【一割配當踏襲】前期決算に於いて總動員法の發動から一分減配の九分配當への轉落を憂えられてゐた當社は、時局產業たる點を考慮されて無事に一割配當を踏襲出來ることゝなつた。成積は累期向上を辿つてゐたのだから、何等の不安は殘されない。卽ち、利益金は百八十八萬一千圓と昨年下期に比し十萬圓を增し、利益率は三割四分二厘に達したのである。

【今期成績】引續き今期も良好である。七月末現在の當社の手持工事は二十隻、八萬一千噸に達し、前年同期より八隻、三萬一千噸の增加で、この外軍艦、タービン其他諸製作品を合せると、實に四千五百萬圓の巨額に上るのだ。當社の事業規模から押せば優に二ケ年分を充して餘りがある。從つて今期工事高も千五百萬圓見當には達するから、利益金としては前期程度を收め得よう。尤も資本負擔が加重するから利益率は若干低下するかも知れぬ。

【大日本兵器】投資會社大日本兵器（資本金三千萬圓、拂込七百五十萬圓）は、一般工作機械の製作にも乘り出し既に一部事業の開始を見た。配當制限から前期は七分に止められたが今期は八分可能。

【第二回拂込】同社の擴張の爲當社は第三回拂込を十月徵收するが、引續き最終拂込增資とくる筋合にある。明年中實現か。

【設　立】明治三十年六月
【決算期】六月、十二月
【事　業】船舶、艦艇兵器建造修理
【資本金】公稱＝五千,000　拂込＝二,000
【株　數】……舊（五〇,〇）　一〇〇,000
　　新（二五,〇）　一〇〇,000
【重　役】社長　寺島　健　取締　中川　毅
　　常務　山本俊之助　監査　山下　太郎
　　〃　重光　藏　〃　南波　德吉
　　取締　甘泉　豐助　相談　山下龜三郎
　　足立　盛夫
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）二,四四〇　二,五二九
【大株主】山下　汽船　八〇,000　山下　株式　三,五二三
　　第一相互　一〇,000　日華生命　三,九〇〇
　　昭和興業　三,九〇〇　廣徳興業　三,六〇〇
　　日之出興業　三,四〇〇　緒明　太郎　三,〇〇八
【事業規模】十二年下期現在
　　造船渠　第一號　第二號　第三號
　　第四號　第五號　第六號
　　船渠（米）　全長　幅員　深
　　第一號　一八〇　一七　五・〇
　　第二號　一八〇　一七　四・五
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　　竣工船舶（隻）……
　　入渠修理（隻）……
　　工事收益（千圓）三,〇四二　三,一〇五　三,四三八
【投資會社】大日本兵器、日本鑛釘
【資本異動】十一年八月八百萬圓增資決定、十二年十一月第一回二千四百萬圓、十二年十一月第二回二千萬圓拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　六,三一〇　六,四二〇　六,四二六
　　積立金　四,四二〇　四,四二〇　四,四二六
　　外部負債　一六,一〇〇　一七,九〇〇　一七,三九一
　　使用總資本　二二,四一〇　二五,二二〇　二四,八二七
　　固定資產　八,三四九　八,三四九　八,三四九
　　投資勘定　四,〇五四　四,〇五四　四,〇五四
　　流動資產　三,四〇〇　三,六三〇　三,八三三
　　現金預金　二,一八五　三,一八五　二,八五五
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　　收入　三,〇四四　三,〇四四　三,〇四四
　　利益　一,一三三　一,〇四三　一,〇四三
　　支出　一,九一一　一,〇〇一　一,〇〇一
　　固定消却　四〇〇　四〇〇　四〇〇
　　消却年率　一四,九六六　一四,九六六　一四,九六六
【業　績】十二年上　十二年下　十三年上
　　利益率　三,〇八　三,一三　三,一三
　　配當率　八,〇〇　八,〇〇　八,〇〇
　　利益率　四,〇二　四,〇二　四,〇二
【株　價】（東長）舊　十三年上　十三年下　十四年上
　　高値　三〇二,九　三〇二,九　三〇二,九
　　安値　二八九,九　二八九,九　二八九,九
　　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
　　新　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
　　十二年　十三年　十四年　一—八月
　　高値　六八,一　六八,一　六八,一
　　安値　六六,一　六六,一　六六,一
　　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
　　新　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十二月期　一割
【時價】舊六一・一　新六〇・一
【利廻】五分五厘　三分六厘
【名義書換】十五錢【新株交附】三十五錢

株式會社　東京石川島造船所

（本　社）東京市京橋區佃島五四（電京橋三六一八）
（出張所）大阪市北區中之島三井物產ビル内

【今期成績】當社の今期收益は前期より勿論向上するが、その程度はさしたることはあるまい。卽ち、擴張中の横濱の航空機用發動機工場第一期工事が愈〻完成し全運轉を開始する上に、佃島本社から移轉擴充した深川工場の造船臺三基船渠一基も完成した。かくて佃島工場の部分的擴張工事の運轉開始と相俟つて、收益は漸次增加しつゝある。が、一方鋼材配給の遲延、軍需品單價の切下げ等の惡材料に特に今期は佃島から深川工場への移轉で能率が阻害された爲增益すると云つても大したことはない。而も、去る六月の增資第一回拂込で資本負擔が增加したから利率益は前期より若干低下する。

【來期は向上】だが來期以降は完成設備が期を逐じて運轉する爲成績は向上しよう。それに造船部門、造機部門とも受注旺盛で手持工事は益々增加するから、その方面からの不安はない。

【拂込徵收近し】當社の深川、佃島、横濱工場の擴充はなほ續き、鶴見の自動車用鑄物工場の新設、東京自動車工業を始めとする投資會社への拂込も必要だ。從つて今後相當尨大な資金を必要とする。大戰相場で株界好調の折柄第二回拂込の徵收期接近が豫想される。

【增配するか】かくて尙二分の增配餘地を殘す當社は今期は兎も角來期には一應增配が期待される。が、從來の例に徵し實現は疑問だ。

【設　立】明治二十二年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】小形艦船、タービン、艦船用主補機械、發動機、起重機、自動車部分品、各種機器
【資本金】公稱＝三,〇〇〇　拂込＝一〇,〇〇〇
【株　數】……舊（五〇,〇）　三一〇,〇〇〇
　　新（二五,〇）　三一〇,〇〇〇
【重　役】社長　松村　菊勇
　　專務　淺川　眞砂　取締　笠原　逸二
　　常務　村田　恵敬　監査　新井　源水
　　取締　末常　共介　〃　大橋　博
　　〃　榎本　辰吾　〃　藤澤武之助
　　〃　庄司　健吉　〃　山田　泰作
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）三,一四五　三,四四五　三,六四四
【大株主】日華生命　八,九〇〇　富國徵兵　七,二一〇
　　日本製鋼所　四,八〇〇　馬場正治　四,二九六
　　鋼島直泰　四,〇〇〇　常陽銀行　三,五〇〇
　　山梨謙藏　三,三六　福徳生命　三,一〇〇
【事業規模】十二年十一月末現在
　　造船渠　二臺
　　船渠　全長　幅員　深
　　一號（米）三〇〇　一四・五　六・五
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　　工事收入（千圓）一,八〇五　一,八〇五　一,八〇五
　　工事支出（〃）一,六四三　一,八四五　一,六三三
【投資會社】自動車工業、立川飛行機
　　石川島芝浦タービン、日本飛行機
【資本異動】十二年七月倍額增資第一回一二圓、十三月第三回二圓、十三年五月及十一月三圓拂込徵收、十四年六月倍額增資第一回一二圓五拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　五,一二〇　五,一四〇　五,一四〇
　　積立金　一四,九〇〇　一四,九〇〇　一四,九〇〇
　　外部負債　一,一六一　一,〇六一　一,〇六一
　　社債　三〇,一四〇　三〇,八九〇　三〇,八九〇
　　借入金支手　二,九二〇　二,三五〇　二,三五〇
　　使用總資本　四七,二二〇　四七,〇〇〇　四七,〇〇〇
　　固定資產　八,六六〇　八,六六〇　八,六六〇
　　投資勘定　一〇,四二〇　一〇,四二〇　一〇,四二〇
　　流動資產　三,〇四八　三,一二〇　三,一二〇
　　現金預金　二,三五六　二,三五六　二,三五六
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　　收入　一,四九九　一,四九九　一,四九九
　　利益　一,〇六一　一,〇六一　一,〇六一
　　支出　四〇〇　四〇〇　四〇〇
　　固定消却　一,六六一　一,六六一　一,六六一
　　消却年率　一三,九六一　一三,九六一　一三,九六一
【業　績】十一年上　十一年下　十二年上
　　利益率　一,七一　一,七一　一,七一
　　配當率　六,〇〇　六,〇〇　六,〇〇
　　利益率　三,〇三　三,〇三　三,〇三
【株　價】（東長）舊　十二年上　十二年下　十三年上
　　高値　一〇六,九　六八,九　六八,九
　　安値　八六,九　六六,九　六六,九
　　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
　　新　株　一,〇〇　一,〇〇　一,〇〇
　　十一年　十三年　十四年　一—八月
　　高値　一〇六,九　六八,九　六八,九
　　安値　八六,九　六六,九　六六,九
【基準配當】十四年十一月期　八分
【豫想配當】舊七一・五　新三五・九
【時價】舊　新
【利廻】五分六厘　四分二厘
【名義書換】五錢【新株交附】二十錢

函館船渠株式會社

（本　社）函館市辨天町八八　（電　三三四〇）
（出張所）東京市麴町區丸ビル內　（電丸ノ內　三七五五）

【一割配當踏襲】當社の成績は最近期を迫つて向上しつゝあるが、去る六月期に於ても昨年下期より利益金に於て九萬七千圓を增加し、六十三萬一千圓を擧げた。尤も二月十五日增資新株の拂込徵收を行つたので資本負擔が增加したから、利益率が二割一分に下つたのは止むを得ない。總動員法の發動で氣づかはれた一割配當も、無事に据置くことが出來た。從つて今後も現行配當は据置かれる。

【今期成績】今期成績は前期より若干の向上を見よう。擴張工事の運轉が圓滑化するからだ。卽ち、飛び離れた增益は期待出來ない代りに、一割配當が不安を覺ゆる樣なこともあるまい。日鐵よりの發注は依然旺盛だし、近海郵船より受注した四千百噸型二隻の中一隻も、十一月には起工の手筈で（他は六月既に起工）、修繕船も二、三ヶ月前から豫約があると云ふ狀態だ。夫に明年六月頃から起工の豫定の二千七百噸型船三隻も受注してゐるから當分安心出來る。

【室蘭船渠合併か】去る六月七十萬圓から三百萬圓に增資した子會社室蘭船渠の擴張續行で、當社も再增資が噂されてゐた。然し當局との關係上結局室蘭との合併に落着く模樣。

【株主移動】石井鐵工所所有株三萬八千株中半數を大阪の鐵問屋岸本氏に肩代りし、代表として林茂之亟氏が後にかはることになつた。

【設　立】明治二十六年十一月
【決算期】六月、十二月
【事　業】造船、船舶修理、揚渠、鐵骨等
【資本金】……拂込濟　六、〇〇〇
【株　數】……（五〇、〇）　一二〇、〇〇〇
【重　役】
社長　大塚　嶽　取締役　渡邊　二郎
常務　和田樹三郎　〃　伊藤　謙三
取締　小熊幸一郎　〃　吉衛
〃　高橋　保　〃　川田　平塚常次郎
〃　石井　橋　太吉　〃　富永　丈吉
【株主數】（名）
總數　十五年上　七三〇　十六年上　八六六
【大株主】
石井鐵工所　二、〇〇九　中山　俊彥　三、〇六〇
藤山同族　三、〇〇〇　安田　一　二、九七〇
相馬同名　一、九六六　日下部同族　一、四四六
岡本　良藏　一、〇六〇　富國徵兵　一、〇六〇
【造船臺】
第一號　長（尺）　幅（尺）
第二號　三二〇　四〇
第三號　二四〇　四〇
第四號　八〇〇　四〇
十二年十二月末現在
【事業成績】
竣工船（隻）　十五年上　十六年上
入渠修理（〃）　…　…
延總噸數（千噸）　…　…
同外修理（〃）　…　…
營業收入（千圓）　三、二五　三、六四三　三、八二〇
【資本異動】十三年三月一〇圓（數終）拂込徵收、十三年十二月二百萬圓增資（二圓十四年二月完納拂込後收一

【資產負債】

	六十三期	十二期	十四年六月
株主資本	六、四四四	六、四四四	六、五〇〇
積立金	九四五	九四五	九八〇
外部負債	一、〇八四	一、〇八四	一、一〇八
借入金	三、〇八四	三、〇八四	三、〇六六
支拂手形	四四〇	四四〇	四四〇
使用總資本	六、九八八	七、三三四	七、三三四
固定資產	四、一九八	四、一九八	四、一九八
投資勘定	五四三	五四三	一、〇八六
流動資產	三、三五二	三、五四四	三、五四四
現金預金	八八一	一、一四七	一、一四七

【收支結定】

	十五年上	十六年下	十七年上
收入	三、四二四	三、六六六	三、八四四
支出	三、三三六	三、二三三	三、二四三
利益	四四八	四三三	六四一
固定消却	一四〇	一四〇	一四〇
消却年率	九〇〇分	一〇〇分	一〇〇分

【業　績】

	利益率	配當率	利益積立
十一年上	一、八六	〇、八〇	六、七九
十一年下	一、九四	〇、八〇	一、一〇八
十二年上	二、三三	〇、八〇	三、六六
十二年下	二、四三	〇、八〇	四、三三
十三年上	二、二二	〇、八〇	四、四四
十三年下	二、二九	〇、八〇	四、四四
十四年上	二、二九	〇、八〇	四、四四

【株　價】（實數）

	舊	株	新
十一年	八〇、六	高値	安値
十二年	八〇、八	五六、〇	五六、〇
十三年	八二、六	五六、六	五六、六
十四年	八二、〇	五〇、八	五〇、八
一一八月			

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十二月期　一割
【時價】八一、五　【利廻】六分一厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

川南工業

（本　社）大阪市中之島二ノ二五
（支　社）長崎市梅ヶ崎町（電壓〇〇）

【設　立】昭和十一年九月
【決算期】七月、一月

【上期良好】去る七月末締切りの上期成績は依然良好であつた。表面の計上利益は百三十九萬圓で拂込資本に對する利益率は二割七分八厘だ。前期に比し九萬二千圓の增益となり、利益率は一分八厘の向上である。固定資產償却は四十萬圓を計上し　十五箇年償却に當る。社外分配は三割八分だ。堅實な處分と稱してよからう。

【前途】歐洲戰爭開始で造船界は一段と活況を呈しよう。纜詰の輸出も增大するだらう。只資材の不足はその好影響を全面的に受入れることを制約するだらうが、それにしても造船部　纜詰部を持つ當社の前途は非常に好望視されるとみて間違なからう。

【資本金】……公稱　拂込
【株　數】……旧（五〇、〇）　新（五〇、〇）
【重　役】
社長　川南　豐作　取締　山邊　政太郎
常務　鮫島　哲夫　〃　中山　晋　〃　田中　市藏
取締　高碕　達之助　〃　監査　島田保一郎
〃　濱口　富三郎　〃　〃　瀧川伊之助
〃　田上　爲次郎
〃　烏居　章義
〃　松本　義夫
〃　〃　監査
【大株主】十四年七月期
川南　豐作　二、八五〇　川南共濟會　二、五〇〇
長崎汽船　一、五〇〇　川南　秀遠　二、五〇〇
三、〇一九名

【事業規模】工場所在地
造船所（香燒島）　纜業所（向山）
工業所（浦鹽、平戸、朝鮮）
【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十三年上	一、〇二一	二、三六	一、〇〇	六、五七
十三年下	一、一九六	二、四〇	一、〇〇	七、九九
十四年上	一、三九一	二、六七	一、〇〇	六、三六

【株　價】（實數）

	舊	株	新
十三年	六六、〇	高値	安値
十四年	六六、五	四四、五	四四、〇
一一八月	六〇、五	四四、〇	三四、〇

【豫想配當】十五年一月期　一割（二割）
【時價】舊　六六、〇　新　五四、七　【利廻】七分六厘　六分六厘

神戸桟橋

（本社）神戸市神戸區東町一二二一

【設　立】明治十七年十一月
【決算期】六月、十二月

【上期減配】當社は去る六月決算に八分から七分に減配した。配當制限令に依る基準配當率は六分で、一分增の七分配當しか出來なかつたからである。卽ち昨年下期に六分から八分に增配したけれども、之は配當制限令實施以後で當局の認める所とならなかつたからだ。

【敢て一割か】上期は斯ふ言ふ譯で減配したが　成績は頗る良好であり、今後も好調が期待される。新造油槽船が來る十一月から就航するし、上期に更改された傭船料は舊契約より非常に有利になり、之が丸々寄與するからだ。前期より彼れ是れ十萬圓位の增益が期待される。八分に復活し　敢て一割まで增配を續けるだらう。

【資本金】……公稱　拂込
【株　數】……旧（五〇、〇）　新（五〇、〇）
【重　役】
社長　南郷　三郎
取締　渡邊　貫一　〃　山邊　政太郎
〃　中山　晋　〃　田中　市藏
〃　監査　島田保一郎　〃　瀧川伊之助
【大株主】十二年十二月期
共榮土地　一、九〇〇名　矢邊清兵衛　一、五〇〇
瀧川伊之助　一、八〇〇　山口合資　一、〇〇〇
【事業規模】所有船舶
汽船　九隻　重噸數　一、五一九噸
曳船汽船　一隻　〃　一、〇〇〇
【時價】……一〇五、〇〇圓

【事業成績】

	運賃收入（千圓）	利益率	配當率	利益積立
十二年下	三一〇	一、二一	〇、八〇	五九
十三年上	三一〇	一、二一	〇、八〇	五九
十三年下	三一九	一、二五	〇、八〇	六七
十四年上	三四一	一、三四	〇、八〇	六七

【株　價】（實數）

	舊	株	新
十三年	一九、五	高値	安値
十四年	一八、五	一九、八	一九、八
一一八月	一四、五	一四、五	

【豫想配當】十四年十二月期八分（七分）
【時價】元、〇　【利廻】五分三厘

株式會社 日立製作所

（本　社）東京市麹町區丸ノ内二ノ一二（電丸ノ内三五九二）
（營業所）大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル（電土佐堀三九七七）

【戰時下の位地】日立製作は今や大綜合機械會社と呼ぶに相應しい存在となつた。而も行く所として可ならざるはなく、何れの製作部門をとつても專門一流會社に匹敵し或は之をすら凌駕する程だ。近代科學の進歩が機械の複雜化を促すとき、當社の如き綜合的機械會社の眞價が問はれる時代となつた。質的にも量的にも他社の追隨を許さない當社が戰時下に占める地位は極めて高く、それ故に打ち續く擴張も到底殺到する注文に應ずることは出來ぬ。

【增資必至】大規模設備の施されるのは茨城縣下孫の多賀工場である。鐵材こそ使用出來ないが木材建築でも、都市計畫から始められるもので、三、四千萬圓の資金が投ぜられる豫定だ。總坪數四十萬坪に餘り當社第一の工場となる筈で、全部が埋められる上は尙ほそれ以上の資金が必要とならう。次は鶴有工場の軍需品工場であるが此處も莫大な擴張費が豫定されてゐる。其の他各地工場も大なり小なり擴充される。投資子會社は當社にも增して積極的だ。一々其の概況を述べる紙幅もないが、六、七千萬圓の投資々金を要する。借金返濟もせねばならず結局倍額增資は必至である。

【配當問題】事業は全般的に繁忙で玆一割二分配當に不安は見られないが、再增資を機に一割に引下げるものと思はれる。

【設　立】大正九年二月
【決算期】二月、八月
【事　業】電氣機械器具、電線、自動車、機關車、車輛、一般機械及金屬材料
【資本金】公稱二〇〇,〇〇〇　拂込二六,四二五
【株　數】……舊（額面）五〇　三,五六八,〇〇〇
　　新（同）一,〇〇〇,〇〇〇
【重役】會長　鮎川義介　社長　小平浪平　專務　高尾直三郎　常務　馬場桑夫　秋田政一　取締　六角三郎　山下興家　下河邊孫二　森島貞一　横田千秋　大庭兩平　池田亮次　堀岡利一　伊藤文吉　監査　堀哲三郎　山田敬亮
【株主數】（名）一〇,二六七　十五年下　一,五四〇　十五年上　一三,一六〇　十五年下
【大株主】滿洲重工業一三六,〇〇〇　富國徵兵保險三五,〇〇〇　第一相互　七,三〇八　帝國生命五〇,〇〇〇　日本生命四六,八〇〇　共立企業四三,一一一　千代田生命四〇,〇〇〇　三菱商事三六,四六六
【事業規模】工場所在地＝日立、龜戸、龜有、深川、戸塚、木津川、尼崎、安來、笠戸、戸畑、若松
【事業成績】　十五年下　十六年上　十六年下
　前期繰越（千圓）八六,三一〇　一一六,三四三　一五六,七五四
　當期受註（〃）一一六,〇〇〇　一五六,八六六　一一四,一一三
　當期發送（〃）九〇,八〇〇　一一六,四四六　一三七,五二一
　次期繰越（〃）一一六,三三三　一五六,七五四　二一七,三三七
【投資會社】大阪鐵工所、國產精機、滿洲日立製作所、日立兵器、日立航空機、日立工作機械其他
【資本異動】十四年一月二倍圓に增資、十四年六月第二回各三圓五拂込徵收、七月東京瓦斯電工合併

【資產負債】

	十二年二月	十三年八月	十四年二月
株主資本	三一,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
積立金	一五,四八〇	一六,八六〇	一八,九六〇
外部負債	六七,一七一	二九,八二一	一七,八二九
借入金	六,八〇〇	六,八〇〇	六,一〇〇
支拂手形	一六,一〇〇	一六,一〇〇	一〇,〇〇〇
使用總資本	三〇四,八〇〇	三五〇,〇〇〇	三七〇,〇〇〇
固定資產	二五八,一六〇	二六,八〇〇	二七,九〇〇
投資勘定	二五,二〇〇	二六,二〇〇	二六,二〇〇
流動資產	二三,二〇〇	二五,二〇〇	二五,二〇〇
現金預金	六,六〇〇	一三,四〇〇	一〇,四〇〇

【收支勘定】

	十三年下	十五年上	十五年下
收入	九六,四〇〇	一〇九,一〇〇	一四一,一〇〇
支出	八四,四〇〇	九〇,二〇〇	一二,九〇〇
利益	一二,〇〇〇	一九,〇〇〇	二三,二〇〇
固定消却	一,四〇〇	一,六〇〇	一,八〇〇
消却年率	九%九	一一%四	一二%八

【業　績】

	利益率	配當率	利益積立率
十二年上	二,六%	一,二〇	五,四〇
〃　下	二,五	一,二〇	五,五〇
十三年上	二,四	一,二〇	五,四〇
〃　下	二,六	一,二〇	六,二〇

【株　價】

	舊株 高値	舊株 安値	新株 高値	新株 安値
十二年	一二〇,〇	八六,六	—	—
十三年	一二〇,〇	八二,〇	—	—
十四年一—八月	八四,四	六二,五	六二,〇	五二,〇

【基準配當】一割二分
【豫想配當】十五年二月期　一割二分
【時　價】舊八四,一　新五二,二　【利　回】七分一厘　五分五厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

東京芝浦電氣株式會社

（舊稱＝芝浦製作所）

（本　社）東京市京橋區銀座西五—二マツダビル（電五七七）

【配當一割に決る】東京電氣と芝浦製作との合併後に於ける新會社の配當がどう決められるか興味を唆られたが、意外にも其の基準配當率は九分一厘四毛と認定された。之は東京電氣の平均配當率を一割二分と認めず、多年の特配を無視して一割と認めたからである。浦賀船渠が僅か一期分しか特配二分をつけなかつたに拘らず、其の眞意は一割配當にあつたと認めて、基準配當を一割に認定したのと對比し甚だしい不公平の處置だといひたい。尤も九分一厘の認定でも結局一割配當は可能である。之で舊東京電氣株主は合併により思はぬ不利を招いた譯だ。經營當局者の責任も亦大と言ふべし。

【增資必至】然し當社には倍額增資が迫つてゐるから一割配當となつても舊東京電氣株主は救はれる譯だ。擴張中の主なるものは、桑名の小型モーター工場、川崎の軍需品工場新設、子會社芝浦工作機械及び芝浦共同工業、舊東京電氣の川崎工場等で、豫定される資金だけでも五千萬圓に及ぶ。それに社債、支拂手形が一億圓近くもあり、總て株主資本に振替へるは必定だから、明年夏頃までに未拂込を全部徵收し、次いで倍額增資に邁進するであらう。

【事業益々安泰】合併による經營の合理化と綜合機械會社化した强味は、生產擴充急務の現時局下に一段の躍進を促すであらう。

【設　立】明治三十七年七月
【決算期】四月、十月
【事　業】發電機、變壓機、配電盤制禦機、電氣機關車、電壓調整器、其他電氣機器
【資本金】公稱＝六四,一四五　拂込＝七,九七五
【株　數】……舊（額面）一,四九五,〇〇〇　三九〇,〇〇〇
　　新（同）三九〇,〇〇〇
【重　役】社長　山口喜三郎　取締　清水與七郎　副〃　H・ウ・ヒーム　新開廣作　〃　田島榮二　〃　津守豐治　〃　鑒査　〃　久保吉　〃　大塚榮　取締　金子堅次郎　〃　古田正康　〃　相談役　平田鳴次郎　〃　小林康治　〃　納富一郎　〃　朝吹常吉　〃　W・K・ブラウア
【株主數】（名）　十五年上　十五年下　十六年上
　總數（名）一六,一　一六,一　一九,一
【大株主】十四年八月調……（名）
　ING電氣六六,九〇三　井合名一三五,〇三六
　第一生命二四,九四三　日本電興五三,三三三
　長富八重子三三,四四四　吉川元吉二四,〇五六
　三井生命三三,四八三　井物產二〇,〇〇〇
【事業成績】　十一年上　十一年下　十三年上
　受註　高（千圓）一六,〇〇〇　一八,〇〇〇　二五,八〇〇
　引渡　高（千圓）一七,〇〇〇　一八,〇〇〇　二〇,〇〇〇
【工場所在地】横濱市鶴見區末廣町
【關係會社】資本系統は三井系。
【投資會社】特殊合金工具、日本引子電業社、鶴見臨港、東京石川島造船
【資本異動】十二年二月倍額增資、拂込
　三回三圓徵收七月二回五拂込徵收十三年一月第三回三圓徵收十四年七月東京電氣を合併社名改稱す

【資產負債】

	十二年月	十三年月	十四年月
株主資本	四二,七二一	四四,八三一	四四,九九一
積立金	一五,三五一	一六,四四一	一七,一四一
外部負債	三七,六三一	二九,八四一	二九,一四一
社債	—	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
使用總資本	八四,四八一	八四,八四一	八四,一四一
固定資產	一九,三六四	一〇,六四四	一〇,六四四
投資勘定	八,五四四	八,〇四四	八,〇四四
流動資產	五六,〇四四	四〇,三四四	四〇,八四四
現金預金	一四,四四四	一〇,四四四	一〇,四四四

【收支勘定】

	十三年上	十三年下	十五年上	十五年下
收入	三四,六四四	三六,一四四	三三,八四四	三一,一四四
支出	三〇,〇四四	三二,〇四四	三〇,三四四	三〇,〇四四
利益	四,六四四	四,一四四	三,五四四	一,一四四
固定消却	一,四四四	一,四四四	一,四四四	一,四四四
消却年率	一〇%九	一〇%九	一〇%九	一〇%九

【業　績】

	利益率	配當率	利益積立率
十二年上	二,六%	一,二〇	五,八〇
〃　下	二,三	一,二〇	五,三〇
十三年上	二,一	一,二〇	四,九〇
〃　下	一,六	一,二〇	四,一〇
十四年上	一,六	一,二〇	四,一〇

【株　價】

	舊株 高値	舊株 安値	新株 高値	新株 安値
十一年	一四五,〇	九六,〇	—	—
十二年	一二一,〇	八四,〇	八四,〇	五五,〇
十三年	一〇五,〇	八四,〇	八四,〇	六四,〇
十四年一—八月	一〇〇,〇	八四,〇	八一,五	六一,五

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期　一割　五分
【時　價】舊一〇〇,〇　新八四,〇　【利　回】一厘　五分一厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

三菱電機株式會社

（本　社）東京市麹町區丸之內二ノ四（電丸之內三三一ん）

【再增資必至】名古屋工場は全面的に擴張される。工作機械工場は周知の如く許可工場として指定され、高級品增產に設備の大擴張を實施中で、總經費八百萬圓を豫定されてゐる。小型モーター部門も需要旺盛に對處すべく工場の增築乃至擴充が期されてゐる。長崎工場の鑛山用諸機械、神戸工場の變壓器、變電機、配電盤其の他大型電機器も時局柄增產の必要に迫られ、これからも尙ほ擴張の手を緩めぬ。既に本年二月最終拂込濟となつてをり、今日までの擴張資金は借入金でも賄つて來た。社外負債は四千六百萬圓にも達してゐるし、短期借入金に對する支拂も追々返濟して行かねばならぬ。同業東京芝浦電氣は明年增資する模樣であり、富士電機も亦此の程增資を內定した。當社が之等に比し消極的態度でない以上當社の再增資も唯だ時期の問題とみなければならぬ。一割配當が今後增配を許されぬとしたら、增資によつて株主に酬ひるのは當然である。

【業績安泰】下揭表の利益率は何れも莫大な銷却控除後より算出したものであり、從つて一割配當は餘裕タップリである。大三菱をバックとして資產內容は堅實、技術はウエスチングハウス會社との提携で其の優秀性を誇り、盤石の重みを加へてゐる。一割配當の持續は勿論、增資後と雖も減配懸念はない。

【設　立】大正十年一月
【決算期】三月、九月、
【事　業】汽流機、直流機、變流機、特殊機、管製鍛鐵、直結機、電機計機、電機氣罐車
【資本金】……（五〇·〇）拂込濟三〇·〇〇〇　六〇〇·〇〇〇
【重　役】會長　川井　源八　常務　宮崎　駒吉　〃　簡　四郎　取締　岩崎小彌太　〃　岩崎彥彌太　〃　斯波孝四郎　〃　河手　榜二　取締　船田　一雄　〃　正木　良一　〃　本間　龜吉　〃　關澤　房豐　〃　永旅　仲雄　〃　山室　宗文　〃　松夫　〃　武藤　松夫
【株主數】十五年上　五年下　十四年上
總　數（名）三、四二九　三、二五五　三、二五三
【大株主】三菱社 三五〇、六二〇　第一生命 三三、〇〇〇　住友合名會社 三、〇〇〇　野村信託 三、〇〇〇　ウエスチングハウス 三三、四三五　古河電工 三、〇〇〇　共同信託 一、〇〇〇
【事業規模】工場所在地　神戸製作所　神戸市兵庫區和田崎町　長崎製作所　長崎市平戸小屋町　名古屋製作所　名古屋市矢田町　東京工場　東京市芝區海岸通
【事業成績】十五年上　十五年下　十四年上
作業收入（千圓）三、二九　三、〇〇四　三、〇四四
作業原價（千圓）六、九六　三、〇四三　三、〇四九
【資本異動】十二年一月三千萬圓に增資、第一回三圓徵收、十五年七月第三回三圓三徵收十四年二月二圓三（最終）拂込徵收

【資產負債】

	十三年上	十五年上
株主資本	三、六〇五	四、三三六
積立金	三、〇〇〇	三、〇〇〇
社外負債	四〇、四〇四	四〇、一九一
使用總資本	四四、三六九	四六、三四三
固定資產	八五、六四四	八六、六四四
投資勘定	一四、〇二五	一四、〇〇五
流動資產	四〇、一四三	四四、四三三
現金預金	一、四四八	三、九〇五
【收支勘定】	十五年上	十五年下
收入	三、三四五	三、一六六
支出	四〇、〇二二	三、六〇五
利益	三、三四五	三、六〇五
【業績】	十一年下	十二年上
	利益率	配當率
	四·三四	一·〇〇
	一〇·〇四	一·〇〇
	十二年上	十二年下
	一二·九九	一·〇〇
	十三年上	十三年下
	一〇·一五	一·〇〇
	十四年上	十四年下
	一〇·一四	一·〇〇
【株　價】（實勢）	高値	安値
十二年	六·七〇	五九·五
十三年	六·七〇	六〇·三
十四年	一〇·〇	八〇·七
一—八月		

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年九月期　一割
【時價】一〇六·〇
【利廻】四分六厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

富士電機製造株式會社

（本　社）神奈川縣川崎市田邊新田一（電川崎一五六千八）
（營業所）東京市麹町區丸ノ內二ノ六（電丸ノ內三〇四一三）

【增資決定】縣案の增資も遂に內定された。資本金一千五百萬圓を一千萬圓增の二千五百萬圓となすのである。倍額增資は必至とみられたが內輪に止めたのである。本稿執筆中は未だ正式許可を受けてゐないが申請通りとなるべく、增資新株第一回拂込は十一月中旬頃徵收される模樣である。

【擴張順調】今回の增資資金は工場の全面的擴張に費される。子會社富士通信機の舊川崎工場を買收し、此處を軍需品製作に充てるが其の擴充は勿論、新に特殊兵器工場も建設する豫定で目下工事を進めつゝある。而して子會社を通じて行ふ擴張は頗る積極的だ。富士通信機は新工場を川崎に建設中で、豫定される資金は二百萬圓に及ぶ。富士航空計器も三百萬圓增資するので、當社は之に對し二百萬圓近い投資資金を賄はねばならない。滿洲に於ける富士電機工廠も第一期工事を完成し、第二期建設に邁進中で此處にも資金を注ぎ込まねばならぬ。大雜把の豫想でも一千萬圓以上を要する。拂込徵收は矢張早に徵收されるであらう。

【配當は安泰】拂込資本の急膨脹で業績は低下傾向にある。然しそれにしても下揭表の如く一割配當は尙ほ餘裕綽々だ。今後も擴張期を脫し得ぬから業績は差して向上せぬであらうが減配懸念はない。

【設　立】大正十二年八月
【決算期】四月、十月
【事　業】交流直流發動機、變壓機、配電盤、各種電氣機器
【資本金】……拂込濟（五〇·〇）一四〇、〇〇〇
【株　數】一四〇、〇〇〇
【重　役】社長　吉村萬治郎　取締役　〃　常務　梶山　秀男　〃　和田　恒輔　〃　取締　杉本五十鈴　〃　中上川彥四郎　〃　監査　中川　末吉　〃　北村辨四郎　〃　名取　和作　〃　野村綱治郎　〃
【株主數】十五年下　十五年上　十四年上
總　數（名）六五〇　六四〇　六二〇
【大株主】古河電工 二〇、〇〇〇　シーメンス・ハルスケ 六、九二五　シーメンス・シュケルト 六、九二五　ウエスチングハウス 三三、五〇五　古河合名 二、〇一二　帶國生命 六、〇〇〇　澁松銀行 三、二五〇　三菱電機 四、五〇〇　川島辰之助 三、〇〇〇
【事業規模】工場所在地　川崎市
生產能力（年產）……六〇、〇〇〇千圓
【事業成績】十五年上　十五年下
生產額（千圓）一四、〇〇〇　一六、〇〇〇　一〇、〇〇〇
販賣額（〃）一六、〇〇〇　……　……
【關係會社】資本系統は古河系。獨乙シーメンス社と特殊關係あり。
【投資會社】十年六月電話機製造部を獨立富士通信機製造を創立
【資本異動】十三年十二月五〇萬圓增資第一回十三年五月第二回十月第三回十二月最終各三圓三拂込徵收、

【資產負債】

	十三年上	十四年上
株主資本	一四、八四三	二〇、一四一
積立金	一、五五五	二、〇一四
外部負債	一六、五五五	三五、四四一
借入金	八、五〇〇	三、一一四
支拂手形	三、八〇四	三、〇〇〇
使用總資本	四一、四四四	五七、七二一
固定資產	八、五〇〇	八、八二一
投資勘定	六、五〇〇	八、八二一
流動資產	一六、四〇一	三六、四四四
現金預金	一、一六六	一、〇〇四
【收支勘定】	十五年上	十五年下
收入	三、四四四	一、四四八
支出	一、四〇一	一、〇〇四
利益	二、〇四三	四四四
【業績】	十二年上	十二年下
	利益率	配當率
	一四·八四	一·〇〇
	十三年上	十三年下
	一〇·八八	一·〇〇
	十四年上	十四年下
	一〇·〇四	一·〇〇
【株　價】（實勢）	高値	安値
十二年	八九·五	六〇·五
十三年	八四·六	六〇·〇
十四年	八〇·〇	六九·八
一—八月		

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期　一割
【時價】八六·五　【利廻】五分六厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

株式會社 新潟鐵工所

（本社）東京市麴町區丸ノ内有樂館内（電丸ノ内二〇一—四）
（出張所）大阪市北區中之島朝日ビル（電北濱二〇一—三）

【益々順調】下掲事業規模の項に見る如く其の製品は何れも時局下緊要のもの許りである。各工場を全面的に大擴張しつゝある事は毎報する所であるが、工作機械、車輛、デイゼルエンヂン部門の擴張は最も積極的であり、また新設浦和兵器工場も着々進捗し明年早々操業開始となる見込である。從業員養生所から建設するといふほどの愼重振りだ。全擴張計畫を具體化するには今後の分だけでも尙ほ一千萬圓以上の資金が要る。此の中二百五十萬圓を去る九月一日徵收した新株第二回拂込金で賄ふことゝなつたが工事の進捗につれて第三回拂込徵收が行はれる。恐らく明春二月頃とならう。

【戰爭の影響】歐洲大戰が當社に齎す影響は複雜で一概に論斷出來ない。當社の如き優秀品製作にはそれだけ米、獨製の高級機械の輸入が必要だ。然し寧ろ販賣は有利に展開される筈だ。何故なら海外高精度の機械が我國に輸入されぬとなると、之に代るべきものとして當社製品の需要がそれ丈多くなるからだ。

【不安なし】軍需工業會社には一般に成績低下の傾向が見られる。當社は依然好成績を持續し、利益率は三割を割らぬ。內容は良く現行配當維持に不安なきことを株主に暗示するものだ。將來に再增資の樂しみがあり新潟市の發展と共に當社も亦躍進を續けよう。

【設　立】明治四十三年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】機械器具並車輛及船舶の製造販賣計量器の販賣
【資本金】……公稱二〇〇,〇〇〇 拂込二五,〇〇〇
……舊（昭一〇）二〇〇,〇〇〇
新（昭一〇）二〇〇,〇〇〇
【重　役】社長 笹村 吉郎　取締 鈴木 春雄
專務 長島吉次郎　〃 加藤 重男
取締 橋本圭三郎　〃 大內 愛七
〃 山口誠太郎　監査 中野 孝次
〃 山口 八次　〃 自勢 貴作
【株主數】十五年上 二,〇〇五　十五年下 二,二五八
總數（名）
【大株主】山口誠太郎 三,四〇〇　西脇合名 一五,三三三
帝國生命 一〇,九一〇　日本石油 九,〇〇〇
鶴井銀行 九,三四四　富國徵兵 八,一〇〇
日華生命 七,四四四　中野興業 六,六六八
【事業規模】新潟工場＝工作機械、鐵道車輛、給水、空氣壓縮機、噴筒、ヂーゼル機關、汽機汽罐、掘井製油機械
長岡工場＝鑛山及化學機械、製繊機械
柏崎工場＝鑛山及化學機械、ヂーゼル機關
東京淀橋工場＝ヂーゼル機關
【事業成績】十五年上 一五,一〇〇　十五年下 一五,三三〇
受註高（千圓）
引渡高（〃）
【資本異動】十二年三月四〇〇萬圓增資第一回九月第三回各一二圓五拂込徵收十三年三月三五圓（最終）拂込徵收十三年九月一千萬圓增資、十月第一回十四年九月第二回各二圓五拂込徵收

【資產負債】五十二年 五月 十二月 十四年 五月
株主資本 一四,二三六 一四,二五五 一八,四五五 一八,四五五
積立金 三,三五六 三,三五六 三,三五六 三,三五六
外部負債 四,三五四 六,四四四 一〇,二五六 一〇,二五六
支拂手形 一,一〇〇 —— —— ——
使用總資本 一八,四四五 二四,〇〇〇 二八,五四〇 二八,五四〇
固定資產 六,四四五 七,二四四 八,三四四 八,三四四
流動資產 一一,九六〇 一六,四五五 一〇,一四四 一〇,一四四
現金預金 一,四二〇 一,四二〇 元,元 元,元
【收支勘定】十五年上 一四,五六六 一四,八六一 一三,三五六 一三,三五六
十五年下 一四,八四一 一五,三四〇 一一,九五一 一一,九五一
收入 一四,五六六 一四,八六一 一三,三五六 一三,三五六
支出 一,四二〇 一,四二〇 元,元 元,元
利益 一二,一四六 一三,四四一 一一,九五一 一一,九五一
固定消却 一,一〇〇 一,一〇〇 一,一〇〇 一,一〇〇
消却年率 一二%七 一三%六 一三%四四 一三%四四
【業　績】利益率 配當率 利益率 配當率
十二年上下 三,三四 一,〇〇 六,四一 一,〇〇
十三年上 三,三六 一,〇〇 六,四四 一,〇〇
下 三,三一 一,〇〇 六,三四 一,〇〇
十四年上 三,一四 一,〇〇 六,三四 一,〇〇
【株　價】（東京）舊 株 新 株
高値 安値 高値 安値
十二年 二六,三五 八,一五 —— ——
十三年 一〇六,七四 六,一五 三〇,二 三〇,二
十四年 七,一 六,五 五,一〇 三,五
一一月八日
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期 一割
【時價】舊 六分一厘 新 四分八厘
【利廻】
【名義書換】十錢 【新券交附】三十錢

株式會社 池貝鐵工所

（本社）東京市麴町區有楽町一ノ十一東日會館（電丸ノ内二六一—八）

【增資・拂込】本年春倍額增資を決定し其の第一回拂込一株十二圓半總額二百五十萬圓を去る九月一日徵收した。前報でも觸れた如く工作機械、發動機の大增產を遂行するためである。溝ノ口工場の工事は追々進められてゐるが、何しても大規模な設備とするから計畫の全部が完成するのは明年秋頃とならう。質的には依然斯界の王座を占めてをり、此の溝ノ口工場の完成によつて大量生產が果されるならば、量的にも亦最高地位をかち得るであらう。

【池貝の將來性】池貝鐵工を中核とする池貝コンツエルンは順調な進展を辿つてゐる。池貝チヤック、池貝自動車、池貝鑄造、東京ラヂエーター製造等の事業は相互に關聯し、一會社の躍進は僚友他會社の發展を促す如く仕組まれてゐる。而も各社は各樣に他の資本系統に屬する會社と提携してをり、其の發展は池貝コンツエルン內に固定されぬ。池貝關係會社を地域的に見ると鑄物製造を營む池貝鑄造を除けば悉く川崎市に在る。池貝鐵工の三田工場も明後年までには全部が此處に移されるであらう。同一地域に集結する便宜は玆に改めて說くまでもあるまい。池貝鐵工自體の擴張費だけでも二千萬圓は必要だ。子會社への投資々金はまた莫大に上るであらうし、再增資は唯だ時間の問題とみねばならない。

【設　立】大正二年四月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種工作機械、各種工具、內燃機關、高級印刷機械
【資本金】……拂込濟 一〇,〇〇〇
【株　數】……（昭一〇）一〇〇,〇〇〇
【重　役】社長 池貝庄太郎　取締 柏倉吉三郎
關〃 千葉恒次郎　〃 早坂 力
取締 今井四郎　〃 池貝 杉二
〃 寺井 雄一　監査 千葉鶴太郎
〃 千葉 嵐吉　〃 池貝 三郎
〃 池貝 秀雄　〃 坂田三一郎
【株主數】十五年上 一,二九一　十五年下 一,三二一
總株（名）
【大株主】日本興兵 三,〇〇〇　池貝岡藏 三,〇〇〇
池貝 杉二 八,二一〇　千葉恒次郎 八,二四〇
池貝 秀雄 五,三五〇　千葉 嵐吉 四,四〇〇
池貝庄太郎 三,三〇〇　日華生命 三,二五
【事業規模】發動機工場……東京芝區本芝
工作機械工場……東京芝區三田四國町、川崎市戸手町
【事業成績】十五年上 一,六六二　十五年下 一,九四三
營業收入（千圓）
工場經費（〃）
營業經費（〃）
【投資會社】池貝鑄造所、池貝自動車製造、日本鋼金工業、滿洲機械工業
【資本異動】十一年六月六百萬圓增資第一回三圓五、十二年三月第二回二圓五、九月三圓（最終）拂込徵收

【資產負債】十三年 五月 十三年 十一月 十五年 五月
株主資本 一三,一四四 一四,九四四 一五,九四四 一五,九四四
積立金 一,八四四 一,八四四 一,八四四 一,八四四
外部負債 七,四四四 一四,〇〇〇 一四,〇〇〇 一四,〇〇〇
支拂手形 一,九六八 一,四三六 一,〇〇〇 一,〇〇〇
使用總資本 三,〇〇〇 六,〇〇〇 一四,〇〇〇 一四,〇〇〇
固定資產 一,四三六 一,四三六 一,四三六 一,四三六
投資資產 一,八一〇 一,八一〇 一,八一〇 一,八一〇
流動資產 一,四四四 一,四四四 一,四四四 一,四四四
現金預金 一,四四四 一,四四四 一,四四四 一,四四四
【收支勘定】十五年上 一,四九四 一,四九四 一,四九四 一,四九四
十五年下 一,四九四 一,四九四 一,四九四 一,四九四
收入 一,四九四 一,四九四 一,四九四 一,四九四
支出 一,四九四 一,四九四 一,四九四 一,四九四
利益 一,四九四 一,四九四 一,四九四 一,四九四
固定消却 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
消却年率 一〇%〇 一〇%〇 一〇%〇 一〇%〇
【業　績】利益率 配當率 利益率 配當率
十一年上下 一,九六 一,〇〇 六,六六 一,〇〇
十二年上 一,九四 一,〇〇 六,六六 一,〇〇
下 一,九四 一,〇〇 六,六四 一,〇〇
十三年上 一,九四 一,〇〇 六,六四 一,〇〇
下 一,九四 一,〇〇 六,六四 一,〇〇
十四年上 一,九四 一,〇〇 六,六四 一,〇〇
【株　價】（東京）舊 株 高値 安値
十一年 九四,八 九六,〇
十二年 二六,五 八一,四
十三年 一六,〇 六六,〇
十四年 一一月八日 九,九 八,六
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期 一割
【時價】舊 六分 新 五分
【利廻】六分五厘
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

株式會社 大隈鐵工所

（本　社）名古屋市西區辻町字日進二七（電東八三四）

【最終拂込徵收】來る十一月十六日新株一株十二圓半總額二百萬圓の最終拂込を徵收する。各工場の全面的擴張費を賄ふためである。擴張の概要を示せば、萩野工場の大型工作機工場增設は建物のみ完成し、年內機械據付を終る豫定である。上飯田工場に於ては標準型工作機工場を新設中で、既に建物は六分方完成してゐる。第一期計畫を終へれば引續き擴張を實施する筈で、此處だけでも資金は三百萬圓以上を要する見込である。名古屋市外旭村にも特殊軍需品工場が設置される。敷地十萬坪を擁し年內第一期工事を終り、明春早々操業開始の運びとなる筈だ。其の他、布池、大曾根、九州小倉各工場も時局柄擴充を續行される。

【倍額增資必至】右に述べた各地工場の擴張費には七、八萬圓を要し、之に短期借入金、運轉資金を合すると莫大な額に上る。暫時は借金で賄ふにしても結局株主資本に振替へることゝなるから、倍額增資は必至とみねばならない。明年夏頃迄には實現しよう。

【强味】製作技術は特殊なものに就いては、池貝、唐津に劣るが全般には優秀で、從つて需要も益々增加するのみだ。成績は同業他社に比し著しく優れ、銷却もよく行屆いてゐる。資產內容はよく、配當安泰だ。歐洲大戰は優秀品の輸入難で當社には却つて有利である。

【設　立】大正七年七月
【決算期】三月、九月
【事　業】金屬工作用兵器製造用諸機械工具、織機、其他一般機械
【資本金】公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝八、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　二五〇、〇〇〇
　　新（三七、五）　一五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　大隈　榮一　取締　渡邊　義郎
常務　村岡　嘉六　〃　岡谷　惣助
〃　鶴澤　一作　監査　五味　末吉
〃　前川芳之輔　〃　岩間　昌生
【株主數】
總數（名）　十五年上　三三六　十五年下　三九四　十六年上　四八六
【大株主】
大隈　榮一　六、五〇〇　愛知銀行　三、〇〇〇
愛知信託銀行　九、五〇〇　東海殖產　二、六〇〇
田邊義治　九、〇〇〇　渡邊義郎　三、五〇〇
水野桃一　三、五〇〇　岡谷商店　三、〇〇〇
德川義親　三、五〇〇　寺島合資　二、〇六〇
【事業規模】
工場數地三、〇二坪　工場建物　一〇、一七坪
原動力　電動機……一、〇二馬力
備付機械……五四五臺
工場　萩野、布池、大曾根、小倉、
【事業成績】
十五年上　十五年下　十六年上
販賣收益（千圓）　三、三四四　四、四九一　六、〇五九
販賣經費（千圓）　四〇一　五三三　五七三
【資本異動】十五年八月二〇〇萬圓增資十五年四月六〇〇萬圓增資第一回二圓五拂込徵收十二月第二回十六年七月第三回各二圓五拂込徵收

【資產負債】

	十五年上期	十五年下期	十六年上期
株主資本	三、八〇六	四、〇五六	八、〇五六
積立金	二、四四九	二、九三五	二、九三五
社外負債	四、三四四	四、八八六	四、八一九
支拂手形	一、〇九九	一、〇八三	一、五九七
使用總資本	一〇、一一三	一三、一一〇	一六、〇八七
固定資產	三、一一〇	三、〇九四	四、七一四
投資勘定	三、七一七	三、〇九四	三、〇九四
流動資產	七、六五五	九、〇四九	一二、〇四四
現金預金	五六六	一、二九九	八五六
【收支勘定】	十五年上	十五年下	十六年上
收入	八、〇一五	一〇、六九八	一二、四〇八
支出	七、三九九	九、六五三	一〇、三六七
利益	五九六	一、〇四五	一、一九九
固定消却	一四〇	一四〇	三六六
消却年率	二〇%三	一〇%三	一六%六
【業　績】	利益率	配當率	利益率
十二年上	九、七〇	一、〇〇	八、八一
十二年下	七、四五	一、〇〇	八、六六
十三年上	六、三七	一、〇〇	八、二〇
十三年下	五、六	一、〇〇	七、九六
十四年上	四、六	一、〇〇	七、九六
【株　價】（實數）舊	株	新	株
十二年	高値　安値	高値　安値	
十二年	二三〇　八五〇	四五〇　四二〇	—
十三年	八五〇　四三〇	四五〇　四二〇	—
十四年一—八月	八五〇　四三〇	四五〇　四二〇	三九〇
【基準配當】一割			
【豫想配當】十四年九月期　一割
【時價】舊八五〇　新四三〇　【利回】五分七厘
【名義書換】十錢　【新券交附】三十錢

東京自動車工業株式會社

（本　社）東京市品川區東品川五ノ六（電高輪五六八）

【拂込徵收】去る九月十一日一株十七圓半總額六百十六萬圓の拂込を徵收した。之で國產自動車工業會併前の當社株は滿額となり、現在未拂株金の殘つてゐるのは舊國產自動車分の第二新株式である。此の殘り百八十四萬圓も明春全部徵收される筈である。

【尨大計畫】特殊車製造を目的として建設する東京府下日野製造所は明春から一部操業開始となる見込だ。同所は總坪數二十二萬坪にも餘り、數年計畫で大工場を建設する。最初の豫定は資金二千萬圓を要する筈だつたが、それ以上かゝる模樣だ。然し所要資金は拂込金の他、興銀其の他よりの借入金で賄ふことゝなるから、此の點心配はない。大森工場は全部廢て日野工場に移されるが、川崎、鶴見兩工場は引續き擴充される。

【子會社の發展】當社の擴張を追つて子會社自動車部品製造會社も工場增設を急ぎ、當社への部分品供給を遺憾なからしめんとしつゝある。明年早々五百萬圓全額拂込となる豫定だ。當社はまた此の程デイゼル機器會社を池貝鐵工其の他と共同出資で創立した。デイゼル自動車用燃料ポンプの手當が有利となる譯だ。

【配當は八分持續】擴張過渡期であり且つ軍需品生產が主だから當分八分配當持續の他はない。然し倍額增資は必至の情勢にある。

【設　立】昭和十二年四月
【決算期】四月、十月
【事　業】自動車製造
【資本金】公稱＝五〇、〇〇〇　拂込＝三、四八〇
【株　數】……舊（八〇、〇）二四〇、〇〇〇
　　新（三、八）二四〇、〇〇〇
【重　役】
副社長　新井　源水　取締　三宮　吾郎
取締　石井信太郎　〃　弓削　靖
〃　星子　勇　〃　三ノ木秀治
〃　大久保正二　〃　高橋　省三
〃　松永　令三　〃　村上　正輔
〃　松村　菊勇　監査　大澤　住郎
天谷　知彰　〃　安井　清
【株主數】
總數（名）　十五年上　四四四　十五年下　六八六　十六年上　七〇〇
【大株主】
日本高周波二四〇、八〇〇　東京瓦斯電工二四〇、八〇〇
日產　五二、二五五　第一生命　二〇、〇〇〇
東京石川島　三、九六六　有終會　一、九二〇
芝浦製作所　一六、六五五　日本生命　一二、九九九
【事業規模】
大森工場　東京市品川…
鶴見工場　横濱市鶴見…
川崎工場　川崎市下殿…
年產能力（單位＝台）
鶴見工場　大森工場
川崎工場　合　計
【資本異動】十二年四月瓦斯電工自動車部合併六〇〇萬圓を、更に六〇萬圓增資、十一月自動車工業を合併二千百萬圓增資。十四年四月二〇圓拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十四年四月
株主資本	六、八〇四	一、七〇四	二、〇五一
積立金			四、四〇
社外負債	三、四〇〇	三、九二	四、四〇
借入金	三〇、〇四三	三、九二	四、四〇
支拂手形	三、四四〇	四、一二	七、一二
使用總資本	四、八七四	四三、〇四〇	一〇〇、〇五八
固定資產	一四、四〇〇	三〇、八四九	四〇、四六一
投資勘定	一〇、〇〇〇	三〇、一四九	三、四四一
流動資產	三〇、四一八	四、四四八	五六、九五五
現金預金	四、四四八	二、四〇八	二、一〇八
【收支勘定】	十二年上	十二年下	十五年上
收入	一六、九六一	一四、四四〇	三三、八四四
支出	一四、九九七	一二、九九六	四〇、四四六
利益	一、九六四	一、四四四	一、八九八
固定消却	四四〇	四四〇	一、〇〇〇
消却年率	五四%六	四四%一	四九%三
【業　績】	利益率	配當率	利益率
十一年下	一、二五	〇、八〇	三、〇三
十三年上	一、四六	〇、八〇	四、九四
十三年下	一、四五	〇、八〇	四、九六
十四年上	一、三四	〇、八〇	六、四三
【株　價】（實數）舊	株	新	株
十三年	高値　安値	高値　安値	
十四年一—八月	六、二　四、〇	二、〇　四九、六	三一、〇
【基準配當】八分
【豫想配當】十四年十月期　八分
【時價】舊六、五　新二、〇　【利回】五分八厘　五分一厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

日本車輛製造株式會社

（本　社）名古屋市熱田區熱田東町字梅ノ木三三（電話三六一―四）
（支　社）東京市麹町區丸ノ内二ノ二丸ビル内（電丸ノ内六六一―三）

【好調持續】一般車輛は日滿支ブロックを通じ著しく不足を告げてゐる。而も相當尨大な增產計畫が樹てられてをり、車輛製造會社は何れも好成績を持續してゐる。當社は我が車輛界の最高峰に立つものであり、優秀な內容を以て同業他社を凌ぐ業績を示してゐる。本年五月期は利益率七割八分で一割配當に止められた。斯くて資產內容は益々良好となる筋合にある。

【擴張續行】車輛增產の急務に迫られて擴張の手は仲々に緩められぬ。朝鮮仁川工場は從來貨車專門製造であつたが機關車及び客車製造にも進むことゝなり、目下建物を建設中である。名古屋本社工場に於ては貯木場を對岸に移轉し、其の跡に機關車、客車工場を增設する。名古屋牛卷工場は元々本社鑄鋼工場を移したものであり、素材增產のため一大擴張を行ひつゝある。其の他、蕨工場、鳴海工場も擴充される。尙ほ投資會社滿洲車輛を通じて北支進出が目論まれてゐるが、果して實現するかは問題である。

【配當は安泰】材料配給統制で從前の如き好收益を擧げ得るかは問題であらうが、當社は經費節減によつて其の不利をカバーする意圖のやうだ。假りに多少業績は低下したとて一割配當に動搖を來すとは考へられぬ。

【設　立】明治二十九年八月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種車輛、自動車、鐵道用品その他諸機械製造、鑄鋼品鑄鐵品鍛鋼品及非鐵合金鑄物の製造販賣
【資本金】……公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝三、二五〇
【株　數】……舊（八〇・〇）　拂込＝一〇〇、〇〇〇
新（三二・五）　一〇〇、〇〇〇

【重　役】
社長　三瓶　勇佐
專務　秋山　正八　　取締　小坂　順二
〃　岩藤　猪三　　〃　川喜多忠義
常務　三輪喜兵衛　　伊藤信代之助
取締　常駿　　〃　後藤　英一
〃　鶴　道豐　　〃　天野　文司
〃　村上　季平　　監査　兒矢野昌平

【株主數】
總數（名）　一、一二九

【大株主】
天野　春一　二、一二六　　後藤　幸三　三、〇〇〇
住友生命　八、〇〇〇　　日本生命　一、五〇〇
第百銀行　一〇、〇〇〇　　明治生命　一〇、五二〇
名古屋銀行　一〇、〇〇〇　　第一生命　八、〇〇〇

【年產能力】各種機關車……
ガソリン各車……
十五噸貨車……
ガギー各車及客車……
工場地……名古屋、東京、仁川、鳴海

【事業成績】
製造高（千圓）　一、二四二　　十年上　一、二六〇

【投資會社】大連機械製作所、名古屋自動車製作所、同和自動車工業、滿洲車輛

【資本異動】十三年五月新三圓拂込徵收
七月二千萬圓に增資、第一回三圓拂込徵收
徵收十四年四月三圓拂込徵收

【資產負債】

	十三年五月	十二年十月	十四年五月
株主資本	一〇、二六〇	一〇、二六〇	一〇、二六〇
債立金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
外部負債	四、一八六	八、五四四	二、一八九
借人金	八〇〇	六、二〇〇	一、二〇〇
支拂手形	八〇	八〇	八〇
使用總資本	一四、四四六	一六、五五二	一四、三九九
固定資產	六、五五二	七、四三一	七、四三一
投資勘定	一、四一四	一、九四四	一、九四四
流動資產	一六、四四六	一三、三五二	一三、三五二
現金預金	二、五二八	二、四五九	二、四五九
收支勘定	一五、三三三	一、六四〇	一、六四〇
十三年上	四、〇四四	十三年下	四、〇四四
收入	八五、一四	十四年上	八五、一四
支出	八三、八二五	十四年下	八三、八二五
利益	一、八九		一、八九
固定消却	五〇〇		五〇〇
消却年率	一二%〇		一二%〇
利益率	配當率		利益率配當率
十二年上	一、〇〇	十二年下	一、〇〇
十三年上	一、〇〇	十三年下	一、〇〇
十四年上	一、〇〇	十四年下	一、〇〇

【業　績】

	利益率	配當率
十二年上	七、五六	七、五〇
下	八、二六	八、〇〇
十三年上	八、二六	八、〇〇
下	七、二四	七、〇〇
十四年上	八、二九	八、〇〇

【株　價】（實物）舊　株　新　株

	高値	安値	高値	安値
十一年	八五・〇	七二・〇	—	—
十二年	八〇・〇	七二・〇	—	—
十三年	八〇・〇	七二・〇	—	—
十四年	九〇・五	八二・五	一〇二・〇	九二・〇
一―八月	九二・五	八二・五	一〇二・〇	九二・〇

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　八五・〇　新　一〇二・〇
【利廻】五分三厘　二分八厘
【名義書換】五　錢【新株交付】二十錢

發動機製造株式會社

（本　社）大阪市西淀川區大仁東二丁目（電福島三五一―七）
（出張所）東京市日本橋區本町二丁目七（電日本橋元五一）

【增產可能】大阪府下池田町の一萬三千坪の敷地に建設中であつた分工場の第一期計畫が去る五月頃から順次稼動し出したから、愈々當社も增產が不可能となつたわけだ。同工場は軍需用品の製作をも併せ行ふとは云へ主として車輛用品の製作に當るものだから、是の比重は今後グッと增大しよう。去る五月期に於ては製品引渡高の中車輛用品が四割一分といふ比率を示したが今後は裕に五割を突破する見込みである。業績に寄與するところ尠くあるまい。

【第二期計畫】右の第一期計畫に續いて第二期計畫を進めて居る。これは機械工場、鑄物工場、熱處理工場、鍛工場、飯金工場等を建設するもので、製品は時局關係のものだが、平和時にはまた平和的用途に向け得るから將來性に富むものと云ひ得る。完成期は明春の豫定だ。

【拂込徵收】此の建設資金として約四百萬圓を豫定されるが、これを賄ふ意味から當社は目下新一株に付十五圓宛、總額二百四十萬圓の第三回拂込を徵收すべく認可を申請中だ。これが得られゝば來る十二月一日頃徵收されることゝならう。然しこれを徵收しても尙ほ建設資金の半分しか賄ひ得ないのだから、結局最終拂込も亦必至と目される。尙ほ、現行一割の配當は今後共不動だ。

【設　立】明治四十年三月
【決算期】五月、十一月
【事　業】自動三輪車、ディゼル・エンジン、車輛用機器
【資本金】……公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝七、二〇〇
【株　數】……舊（八〇・〇）　四〇、〇〇〇
新（三二・五）　一四〇、〇〇〇

【重　役】
社長　高洲　清二　　取締　平田　保三
專務　竹下辰四郎　　〃　宮原　雅男
〃　榮田　直一　　〃　百瀨　信弘
取締　岡崎　忠雄　　常監　竹崎　瓊夫
〃　森　平兵衛　　監査　吉田芳太郎

【株主數】
總數（名）　一、五四一

【大株主】
岡崎　本店　二六、二六〇　　中村久左衛門　四、八〇〇
三宮清十郎　三、九〇〇　　田中　豐輔　三、一〇〇
竹田善次郎　三、八〇〇　　竹崎　瓊夫　二、〇〇〇
森　平兵衛　二、〇〇〇　　吉田芳太郎　一、九二一

【事業規模】
工作機械　五八、〇〇〇　　電動機　四、〇〇〇
諸機械　一三、〇〇〇　　電氣口　二、五〇〇
起重機　一八、〇〇〇　　熔鐵爐　三、〇〇〇

【年產能力】（單位＝千圓）
小型自動車　一、四二九　　ディーゼル機關　其他　一、四二九
車輛用品　一五年上　一五年下　一四年上　一四年下　四、九五六　四、九五六　四、九五六　五、一〇三

【事業成績】
資上高（千圓）

【投資勘定】日本エヤーブレーキ、日本金具

【資本異動】十一年九月倍額增資、一二圓五拂込徵收、十五年九月ダイハツ發動機株式會社併合、一〇〇萬圓增資、十三年六月新株一〇圓拂込徵收

【資產負債】

	十三年五月	十二年十月	十四年五月
株主資本	九、二九六	九、二九六	九、九八九
債立金	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
外部負債	二、四四九	三、一九九	三、六二一
借人金	二八〇	八八〇	一、一〇〇
使用總資本	七、四二九	九、三二九	一〇、五二一
固定資產	三、八一四	五、八三四	四、〇八〇
投資勘定	六、一九九	一、〇一三	一、〇一三
流動資產	四、三九九	五、一三五	五、四六六
現金預金	四四九	四四九	四四九
收支勘定	十三年上	十三年下	十四年上
收入	六、一六六	六、二六〇	七、〇四四
支出	五、四六六	五、四四四	五、八六六
利益	六九九	八一四	一、一七八
固定消却	三〇〇	三〇〇	三〇〇
消却年率	一二%〇	一二%〇	三%〇
利益率	配當率		利益率配當率
十二年上	一、〇〇		六、九六
下	一、〇〇		六、九六
十三年上	一、〇〇		六、九六
下	一、〇〇		六、九六
十四年上	一、〇〇		七、〇三

【業　績】

【株　價】（實物）舊　株　新　株

	高値	安値	高値	安値
十一年	八五・〇	七二・〇	—	—
十二年	八〇・〇	七二・〇	—	—
十三年	八〇・〇	七二・〇	—	—
十四年	九〇・五	八二・五	一〇二・〇	九二・〇
一―八月	九二・五	八二・五	一〇二・〇	九二・〇

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　八五・〇　新　一〇二・〇
【利廻】七分二厘　五分八厘
【名義書換】十　錢【新株交付】五十錢

株式會社 滿洲工廠

（本　社）滿洲國奉天大東邊門外（電奉天一四六二）
（支　店）大阪市東區備後町第二野村ビル（電本町一二五五）

【子會社の膨脹】當社は現在二つの子會社を持つてゐる。滿鑄物と滿洲工作機械がそれだ。滿鑄は今年一月二十萬圓から五百萬圓に大增資を斷行して生產力を擴張中であり、工作機械は去る八月十九日に資本金二千萬圓（內五百萬圓拂込）を以て設立された。滿鑄は當社と工作機械の鑄物を一手に引受けることになつてをり、工作機械の製品は滿洲國內に供給する建前だ。事業の性質から云つて滿洲工作機械は極めて近い將來に五千萬圓位までの膨脹が期待される。子會社の膨脹によつて當社は愈々業礎の强化を實現する譯だ。

【收益向上】生產擴充を强行して來た爲めに資本の壓迫も輕度に止らなかつた。配當は一割を繼續して來たが收益力の增大は資本の膨脹に伴ひ得ず、何れかと云ふと決算は窮屈であつた。然し今後の事情は一變する。未働狀態の資本は全面的に活動期に入つたし、子會社への立替金も回收出來たからだ。今期を轉機として收益力は相當顯著な向上を辿るものと期待される。

【拂込の問題】近く拂込をとるのではないかと云ふ氣がするけれども當局者の肚は未だ確定してゐないようだ。擴張が一段落を告げる明年上期邊りには或は具體化されるのではないかと想像される。無論その後の一割配當持續力に就ては問題はない。

【設　立】昭和九年五月
【決算期】五月、十月
【事　業】車輛製造修理、鐵塔、橋梁、鐵骨其他鐵工品、一般鑄造品、
【資本金】公稱＝二〇,〇〇〇　拂込＝八,二〇〇
【株　數】……舊（二〇,〇）　九,〇〇〇
　　新（一二,五）　三〇四,〇〇〇
【重　役】
　社長　山本　盛正　取締　鶴岡　吉士
　專務　根本富士雄　監査　奥村鹿太郎
　取締　伊藤知禎介　〃　濱野　榮一
　〃　水內　忠
【株主數】……十五年上　十五年下　十四年上
　總數（名）　三,七〇　四,三二　四,八五六
【大株主】
　根本富士雄　九,二〇〇　藩國生命　九,二〇〇
　日本生命　七,〇〇〇　大阪屋商店　六,一八〇
　野村合名　六,〇〇〇　奥村商店　五,四〇〇
　門倉清藏　五,一八〇　渡邊　藤　四,一八〇
【事業規模】
　工場所在地……奉天市大東邊門外
　　（舊大亨公司鐵工所讓承）
　工場能力＝機作修理年一千萬圓
　　（十二年現在）
【事業成績】
　　十一年下　十二年上　十二年下
　受註高（千圓）　三,四〇三　四,四五三　四,四八六
　引渡高（〃）　三,六四一　三,九四〇　三,八〇五
　〃　原價（〃）　三,三五六　三,三五六　三,三三
【投資會社】阜新製作所
【資本異動】十二年五月二〇〇萬圓增資、七月第一回三四〇萬圓拂込徵收、十三年五月第一回二四〇萬圓拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十三年四月
株主資本	七,〇六四	九,八九六
積立金	五五六	一〇,〇七四
外部負債	六,〇四〇	九,四二三
借入金	一,八四四	三,八五六
支拂手形	二,二五四	五,五九五
使用總資本	四,二三四	五,五九五
固定資產	二,二二〇	三,四四〇
投資勘定	一,四二七	六,〇四四
流動資產	八,二六一	五,三六一
現金預金	五四四	一,〇二六
【收支勘定】
　　十五年上　十五年下　十六年上
　收入　八五六　一,一四一　一,一四六
　支出　二五五　四四六　四四六
　利益　六〇五　六九四　八五一
　固定消却　一八〇　一八〇　一八〇
　消却年率　九〇七　八〇七　八〇七
【業　績】
　　十二年上　十二年下　十三年上
　利益率　一八〇　一八六　一八九
　配當率　〇八〇　〇八〇　一〇〇
　　十三年下　十四年上
　利益率　一八九　一八九
　配當率　一〇〇　一〇〇
【株　價】
　　十二年　十三年　十四年
　舊株　高値　安値　高値　安値
　　十二年　十三年　十四年
　新株　高値　安値　高値　安値
　　十二年　十三年　十四年
　舊株　四〇〇　三五〇　三〇〇　一九〇
　新株　四〇〇　三五〇　三〇〇　二三〇
【基準配當】十四年十月期　一割
【後期配當】舊　五〇　新　三〇
【時價】舊株　安値　高値　新株　安値
【名義書換】十一月　十二月　十四年一月
【利廻】三分九厘　一割　六分六厘
【新券交附】三十錢

東洋工業株式會社

（本　社）廣島縣安藝郡府中村字新地（電廣島三五〇一三）
（出張所）東京市京橋區京橋三ノ三第一相互ビル（電京橋九二一一四）

【上期成績】當社の五月期成績は利益金八十四萬八千圓で前期に比し二十四萬一千圓の增益であつた。拂込資本に對する利益率は二割七分二厘を示し前期より一分六厘の向上である。配當は一割据置であつたから決算はそれだけ餘裕を加へた。平均拂込資本は前期の四百七十五萬圓から六百二十五萬圓に增加したが、利益は資本膨脹割合より一層增加したので右の好成績となつたのだ。

【兵器部增設】當社は去る三月一日三倍增資の第一回拂込金を徵收し、之を以て兵器部の增設に著手した。兵器工場の擴張は相當大規模で、計畫が全部實現するのは昭和十六年春の豫定である。資金も二千五百萬圓を要する。當社の現在資本金は千五百萬圓、內七百五十萬圓拂込みとなつてゐるが、之の未拂込額を全部とつても足りないから總ては再增資の運命にあるとみてよい譯だ。

【前途】然し實際問題としては當社は當分拂込はとらず借金政策を續行して配當負擔の輕減を計る方針である。從て擴張中はかなり未働資本の壓迫が考へられるが、その爲めに現行一割配當持續性に動搖を來すとは思はれない。內容の優秀、新鋭工場の全面的活躍が望まれるからである。當分の間は現行配當一割は問題なく續けて行けるものと斷じてよい。

【設　立】大正九年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】自動三輪車、軍需品、一般機械器具、コルク製品、鑿岩機
【資本金】公稱＝一〇,〇〇〇　拂込＝七,三〇〇
【株　數】……舊（二〇,〇）　一〇〇,〇〇〇
　　新（一二,五）　一〇〇,〇〇〇
【重　役】
　社長　松田重次郎　取締　金田榮太郎
　常務　山本　義雄　〃　松田　恒次
　取締　野口　遵　監査　杉本　政平
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
　總數（名）　一,一〇四　一,一五二　一,二一四
【大株主】
　（明治二十年末現在）
　　一,〇〇〇
　宮內省御料局　日本窒素六六,六八〇
　藤本殖產　一,〇〇〇　松田重次郎　七,〇四〇
　藝備銀行　六,〇〇〇　金田榮太郎　四,一〇〇
　鴻池信託　四,〇〇〇　土橋　修三　三,三一〇
【事業規模】（十二年末現在）
　工場敷地……三三,〇〇〇坪
　〃　建坪……五,八〇〇坪
　職工數……一,三〇〇名
　鍛鐵工場
　生產能力（年產）
　自動三輪車……五,〇六六千臺
　機械類……
【關係會社】日本窒素肥料の子會社
【資本異動】十二年三月三百萬圓增資第一回十三年二月、五月、八月二四〇萬圓徵收、十四年三月一,〇〇〇萬圓增資第一回二四〇萬圓拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月	十四年五月
株主資本	五,三九四	九,〇四七
積立金	五五五	一〇,〇七四
外部負債	四,八二一	八,三六九
借入金	四,八二一	七,八〇〇
支拂手形	〇	—
使用總資本	一一,二四六	一四,九〇一
固定資產	七,二三五	一一,四五六
流動資產	四,〇四五	九,四四五
現金預金	一〇四	二一四
【收支勘定】
　　十五年上　十五年下　十六年上
　收入　二五五　二四四　二四六
　支出　一四〇　一〇五　一〇五
　利益　一一五　一三九　一三九
　固定消却　一〇〇　一〇〇　一〇〇
　消却年率　七〇七　七〇七　七〇七
【業　績】
　　十二年上　十二年下　十三年上
　利益率　一八〇　一八六　一八九
　配當率　一〇〇　一〇〇　一〇〇
【株　價】
　　十二年　十三年　十四年
　舊株　高値　安値　高値　安値
　　十二年　十三年　十四年
　新株　高値　安値　高値　安値
　十二年　三三〇　三〇〇　一九〇
　十三年　三〇〇　三〇〇　二三〇
　十四年　三〇〇　四〇〇　三〇〇
【基準配當】十四年十月期　一割
【後期配當】舊　五〇　新　三〇
【時價】舊　六六〇　新　二四七
【名義書換】十一月　十二月　十四年一月
【利廻】七分六厘　五分一厘
【新券交附】五十錢

大日本機械工業株式會社

（本　社）東京市本所區業平橋一ノ二（電話田二二〇—一）

【增資變更】當社は去る四月十三日の臨時株主總會で、二倍增資を內定し、資金調整局へ申請中の處、今回右增資案の變更を要求された。そこで、當社は急ぎ臨時株主總會を開催し、前回決議したる二倍增資卽ち四百萬圓から八百萬圓への增資を取消し、三百萬圓增資の資本金七百萬圓となすことに決して、再申請書を提出したが、此の度びは無事許可を得た。增資新株は八月三十一日現在の株主に四對三で割當てられ、十月二日に一株二十五圓、總額百五十萬圓の拂込が徵收されることに決定した。

【擴張計畫】問題は增資案が縮少されて當社の擴張計畫に齟齬を來さないか何うかであるが、この點は心配ない。縮少された額が僅か四分の一であるし、且つ二倍增資實現の場合四分の一拂込が豫定されてをつたが、この拂込額は百萬圓だ。然るに三百萬圓增資の二分の一拂込は百五十萬圓であるから、却つて五十萬圓多い。業平工場を初め大阪工場、吾嬬工場の諸改築資金には不自由せず、擴張計畫は豫定通り活潑に進行されよう。

【一割配當安心】業績は何うか。昨年下期決算の如き五割餘に上る利益率は今後望めぬかも知れぬが、三割から三割五分見當の利益率は期待出來る。一割配當の基礎は安定したと見做してよい

【設　立】大正五年十二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】自轉車、自動車部分品、護謨製品、精密機械、航空機部分品
【資本金】……拂込濟　四、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　八〇、〇〇〇
【重　役】社長　岡崎久次郎
常務　江田　忠吉　取締　石井　太吉
〃　岡崎　進　〃　堀內明三郎
取締　田中榮八郎　監査　大西　身輔
〃　田中榮八郎　〃　下村齊次郎
〃　藤山愛一郎　〃　中込　清
〃　吉田　秀人　〃　岡崎　俊郎
【株主數】總數（名）十五年上　四、七〇　十六年上　五、三五
【大株主】
岡崎久次郎　九、九〇〇　日米商店　五、九〇〇
日清生命　五、〇〇〇　下村齊次郎　三、七〇〇
千歲商會　三、〇〇〇　山室　彥吉　二、三五〇
田中榮八郎　二、五〇〇　川崎共濟會　二、五〇〇
【事業規模】
工場所在地＝東京本所（業平工場）
東京向島（吾嬬工場）　大阪（大阪工場）
神奈川縣大船町（大船工場）
【事業成績】十五年上　十六年下　十六年上
賣上高（千圓）　三、二八四　三、六六六　一、九四〇
仕入原價（〃）　一、六六六　一、七三五
【資本異動】十三年四月二〇圓、六月五圓拂込徵收（全額）九月社名變更（當時大日本自轉車）同時に優先株廢止、十月株數附資第一回十五年六月、十月、十四年一月數終二回五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　五、〇八九　四、九九九　六、二〇三
積立金　六五〇　六五〇　六五〇
社外負債　二、三〇一　二、二〇一　一、五三二
使用總資本　七、八四〇　七、七四〇　八、四六三
固定資產　五、六五〇　五、六五〇　六、六九一
投資勘定　一　一　一
流動資產　二、一三　二、〇九五　一、七四四
現金預金　六三五　八三一　五六八
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
收入　三、七二一　四、二七一　五、一三五
支出　三、四九九　四、〇五五　四、〇五五
利益　二三二　二一六　一〇八〇
固定償却　一四〇　二四〇　二四〇
積却年率　一四％〇　二四％一　二五％八
【株　數】十一年下　十二年上　十二年下　十三年上　十三年下　十四年上
利益率　二、〇四　二、四一　二、〇五　二、四四　一、〇九　一、〇九
配當率　二、〇一　二、〇一　一、〇一　一、〇一　一、〇一　一、〇一
【株　價】（實物）高値　安値
十二年　五六・〇　五〇・〇
十三年　六六・五　五〇・〇
十四年　八〇・〇　五八・五
一—八月
【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】十四年十一月期　【利廻】七分六厘
【名義書換】十五錢　【新券交附】三十錢

大阪機工株式會社

（本　社）大阪市淀川區豐崎西通一ノ四（電北一六〇—三）
（出張所）東京市麴町區丸ノ內丸ビル內（電丸ノ內八三三）

【拂込期待】當社は目下兵庫縣川邊郡伊丹町北村から川西町久代に跨る敷地約八萬坪に分工場—猪名川工場—を建設中だが、此の資金調達の意味から近く第三回拂込が徵收される見込である。經營當局者は第三回拂込として未拂込殘額全部を一擧に徵收する意嚮を有してゐたところ、これは一寸困難らしい。從つて拂込株金は一株に付十二圓半宛、總額百七十五萬圓となるだらう。拂込期日は未定だが年內に實現を見る筈だ。

【急膨脹か】猪名川工場は時局關係品及び工作機械の製作を目的とするもので、前者は計畫の二期までを年內に完成せしめ、工作機械工場は明春竣工の豫定だ。工事は比較的順調に進んで居るから大體豫定通りに完成を見ると考へられる。而してこれ等の諸工事が終り次第時局品工場の全面的擴充が實施されるわけだが、これは暫く措いて、前の工作機械工場の完成する迄には尠くとも一千六、七百萬圓の資金を必要とする筈だから、第三回拂込に次いで最終拂込・增資と今後急膨脹を見ること必然と目される。

【向上せん】今下期は猪名川工場建設の過渡期だから、業績は目立つた向上を示すまいが、一期たち、二期を經るに從つて漸次好轉しよう。延いて現配當も亦安泰と云ふべきである。

【設　立】大正四年十月
【決算期】五月、十一月
【事　業】紡機、工作機械、內燃機關、航空機部品、車輛品、鹽水器、冷凍機、電氣機械、オイルメートル
【資本金】……公稱＝三、〇〇〇　拂込＝八、二五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　一〇〇、〇〇〇　新（二五・〇）　一四〇、〇〇〇
【重　役】社長　原　清明
取締　渡邊　節　取締　星住鹿次郎
〃　木村　貞造　監査　能多　龍平
〃　土屋　藤丸　〃　森井　使三
【株主數】總數（名）十五年上　三、九四四　十六年上　三、八三四
【大株主】
日之出興業　二、一二〇　岡崎生命式會社　一、七二〇
菊地　辰雄　八、四五〇　鄭　合　名　五、〇〇〇
能多商店　四、八〇〇　木村　貞造　四、二一〇
太陽商事　三、三五〇　原　清　明　三、〇〇〇
【事業規模】
工場設備　旋盤外各種精密工作機械
工場　鑄物工場、合金工場、熱處理工場、分析試驗工場
本社工場＝大阪市東淀川區豐之崎西通
加島工場＝大阪市西淀川區加島町
猪名川工場＝兵庫縣川邊郡（建設中）
【年產能力】十二年下期現在
紡　績　機　五〇萬錘　精　密　機　三五〇萬圓
鹽　水　機　五〇萬圓　一、軸機械　五〇萬圓
冷凍機其他　五〇萬圓
十四年上期年產能力　五〇、〇〇〇千圓
【資本異動】十五年五月二回、五拂込徵收、百萬圓增資第一回二圓五拂込徵收十三年九月第二回三圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　五、二三四　十一月期　五、八一四
積立金　八、八九九　六、六〇〇
外部負債　一〇、九五九　八、五五一
使用總資本　一六、一〇五　一六、一五一
固定資產　一四、三三三　一六、六四四
流動資產　一〇、八五〇　一二、八二一
現金預金　二、〇九六　一、九五六
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
收入　八、八九〇　八、〇八六　一、九五六
支出　七、〇五二　七、〇五二　一、二五〇
利益　八四七　九五五　六八九
固定償却　二五〇　二五〇　二五〇
消却年率　一二％五　一二％五　一二％五
【株　數】十一年下　十二年上　十二年下　十四年上
利益率　一、六六　一、六六　一、六六　一、四六
配當率　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【株　價】（實物）高値　安値　高値　安値　株　價　新　株
十一年　六六・九　四三・一　一　一
十二年　八五・六　四〇・六　三・八　一四・七
十三年　六八・七　五五・〇　三〇・五　一四・〇
十四年　五六・〇　五四・五　三八・三　二〇・〇
一—八月
【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】十四年十一月期　七分三厘
【利廻】六分三厘
【名義書換】十五錢　【新券交附】五十錢

株式會社 大阪機械製作所

（本　社）大阪市西淀川區佃町二ノ八（電福島一九七一九）
（出張所）東京市丸ノ内三ノ四有樂館内（電丸ノ内三九六）

【好成績】去る六月締切の本年上期計上利益は百七十七萬三千圓、此の利益率三割一分六厘に當る。これをその前期と比較するに、三十五萬六千圓の增益、利益率では六分三厘の向上だ。頗る好成績を收めたわけで、一割二分の配當は餘裕を加へたものと云つてよい。

【整備】當社は從來時局品への轉換遲延を悲觀材料の一として數へられてゐたが、最早やこれは當らなくなつた。昨年上期は製品引渡高の中紡機五割、時局關係品五割と云ふ振合ひであつたところ、本年上期は既に紡機三割、時局關係品七割となり、今下期は更に後者の比重が增大しつつある。即ち事業內容の轉換、整備が着々奏功しつつあるわけだ。

【擴張】更に、當社は過般尼崎工場に近い地點に約五千坪の敷地を買收し、此處に鍛造、製罐部門の擴張を目論むと共に、將來は車輛用品にも進出すべく計畫中だ。此の新工場の第一期計畫は大體本年一ぱいで工事を終る豫定の下に施されて居る。而して建設費は約百五十萬圓の見込だが、內部保留金及び借入金で支辨されよう。

【据置か】工作機、鑛山機械、時局品等凡て繁忙裡に推移して居るから、今下期も依然一割二分据置の方針に出よう。何れは一割に引き下げられるにしても、これは當面先のことゝ考へられる。

【設　立】大正九年二月
【決算期】六月、十二月
【事　業】工作、紡績、鑛山機械及鐵柵
【資本金】……公稱一八〇〇〇〇　拂込二一一〇〇
【株　數】……新（一〇〇）　一八〇〇〇
【重　役】專務　服部峻三郎　取締　片山通夫
取締　山田又司　監査　齋藤恆一
〃　坂井新次　〃　阿部繁一
〃　濱崎照道　相談　本田菊太郎
【株主數】
總數（名）　十五年上　一、六四〇　十六年上　二、〇五六
【大株主】
山田多計治　八、三五九　鴻池信託　一五、九四〇
東洋紡績　一五、〇〇〇　鈴木正夫　九、〇一〇
坂井新次　六、〇四〇　住友生命　六、〇〇〇
川上同族　五、〇〇〇　本田菊太郎　四、〇四〇
【事業規模】
工場數地積面積……三一、二〇四坪
大阪（西、野田）、名古屋、尼崎、長岡、上海
工場設備　十二年下期現在
旋盤　五〇臺　ミーリング機　二一〇臺
平削機　四五〃　特殊工作機械　四〇〃
生產能力（年額）……三一、〇〇〇千圓
【投資會社】帝國精密工業、理研ピストンリング、原口電機製作所、津上製作所等
【資本異動】十二年四月第三回、九月第四回、十五年三月最終各三圓五拂込徵收、四月倍額增資五月第一回二〇圓拂込參收

【資產負債】

	十三年六月	十三年十二月	十四年六月
株主資本	一四、〇二三	一四、五四一	一五、九三一
積立金	二、〇四〇	二、五四〇	二、八四〇
外部負債	四、二一六	四、四六六	七、四五七
借入金	一、四四〇	一、八五〇	一、八五〇
支拂手形	一、九一八	二、八六六	三、四五五
使用總資本	一五、一八八	一四、〇四〇	一四、八四〇
固定資產	三、九〇〇	二、一四〇	一、九四〇
投資勘定	三、四四一	二、四四〇	一、四六三
流動資產	一二、〇四三	一二、五四〇	一〇、八四〇
現金預金	一、九六	一、四六八	一、四六八
【收支勘定】			
收入	十五年上 八、九六八	十五年下 一〇、〇四八	十六年上 一〇、三九六
支出	七、一四四	八、〇四八	八、〇四八
利益	一、八二四	一、四〇〇	一、三九八
固定消却	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
消却年率	九%〇	九%〇	一二%七
【業　績】			
十二年上	利益率 四〇、三四	配當率 四〇、三四	利益率 四四、四四
下	三、四〇	三、四〇	三、四〇
十三年上	三、四〇	三、四〇	四、四〇
下	一、二〇	一、二〇	四、四〇
十四年上	四、二〇	四、二〇	四、五〇

【株　價】（實物）面　株　高値　安値　株　新　高値　安値
十二年　一一〇、四　八四、〇　一
十三年　一一〇、〇　九四、〇　九四、〇
十四年　八〇、〇　四〇、〇　二〇、〇
一—八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十二月期　一割二分
【時價】新五〇、〇　【利廻】八分五厘
六分八厘
【名義書換】十　錢　【新株交付】五十錢

壽重工業株式會社

（本　社）大阪市北曾根崎上二ノ四八共同ビル（電北浪三三）

【懸案解決】第一製鋼合併問題は途中で行悩みの狀態となつてゐたが、過般當局の認可を得たので早急に解決されることになつた。合併條件は對等である。斯くて當社は第一製鋼の有する電氣爐を全面的に運用して多年懸案の特殊鋼製造に一歩を進めることになつた。

【好轉期待】大津工場の銑鐵乃至製鋼工場は漸く軌道に乘つて來たようだから今後は相當業績向上の力となるだらう。當社は銑鐵を京都工場に持つて來て鑄物として販賣する。鑄物工場に受入れる銑鐵の値段は瓲二百圓だ。原價は小規模の爲め一般よりかなり高く大體百三十圓位につく。すると差引七十圓の利益だ。出銑高半期一萬四千瓲では百萬圓の利益だ。鑄物の利益も馬鹿に出來ない。瓲二百圓で受入れても鑄物工場の利益は四十萬圓位見込める。この他機械、鑛山、製鋼工場等の利益を加へると二百二、三十萬圓とならう。利益率は二割八分になるから一割配當は大分餘裕を取り戻す譯だ。

【弱點の改良】當社は熔鑛爐を持つが、小規模の爲め色々と不利な點が多い。その爲め瓲當り百三十圓と云ふ高い原價になる。之を引下げる爲めには瓦斯の補集とか副產物の處理とか色々の設備を行はねばならない。之が出來れば原價は或る程度引下げられることになるだらう。附屬設備の改善と增設が急務である。

【設　立】昭和五年三月
【決算期】四月、十月
【事　業】紡績機械、人絹機械、工業用諸機械、人絹製造、機物工場經營
【資本金】……公稱八〇〇〇　拂込二一〇〇
【株　數】……舊（一〇〇）　八〇〇〇
合併新（二〇〇）　四〇〇〇
【重　役】社長　角本直次郎　社長　常
田健次郎　取締　北田彥三郎　林原榮賢　常務
武文彥　取締　田村駒治郎　松井武美　廣瀨次郎
內六太郎　下郷義一　吉田義雄　常盤山
深尾道紀　常田吉次郎　監査　相談　常監
一寺田甚吉　小松美一郎　山元
郷傳平　今村奈男　矢吹省三　下
【株主數】
總數（名）　十五年上　二、八五六　十六年上　二、九五三
【大株主】
仁壽生命　五〇、〇〇　川島屋商店　一〇、八四
富國徵兵　三、四五〇　常田健次郎　二、八四
田村駒治郎　二、〇〇〇　遠山儀成　一、五四
滿壽田繁雄　六、三五〇　富士生命　四、〇〇〇
【事業規模】工場所在地及事業
京都九條、十條（機械）、京都梅小路（鑄鋼）和泉大津（製鋼、鑄造）、大阪烏飼（精密、製紙）、京都西陣、綿野（機業）
【事業成績】十五年上　十六年下　十六年上
商品發金（千圓）　一、一八〇　一、四三六　一、六八〇
機業發金（〃）　一四〇　一四〇
【投資會社】三和絹織、三和商店、壽織造工業其他
【資本異動】十五年十一月壽製鋼所合併
十六年三月新株及第二新各一七圓五拂込徵收十月未拂込全額徵收、十七年八月第一製鋼合併三百萬圓增資

【資產負債】

	十二年月	十三年月	十四年月
株主資本	一四、〇二三	一四、五四一	一五、九三一
積立金	二、〇四〇	二、五四〇	二、八四〇
外部負債	一〇、一九一	八、〇一〇	三、三九一
社債	八五〇	—	—
借入金支手	七、五四一	六、九六九	七、八四九
使用總資本	三四、三一一	三四、三九九	三〇、三三一
固定資產	三、九一一	三、四三一	二、六三一
投資勘定	一一、〇三三	一四、四四四	五、六三一
流動資產	九、九九四	七、五九八	一、〇五九
現金預金	一、四五六	一、二九	一、四四四
【收支勘定】			
收入	十五年上 一、五四一	一、六三一	十六年上 一、〇五八
支出	六四四	六四四	三、〇五八
利益	八八四	一、三九八	一、九三三
固定消却	一五〇	三〇〇	四〇〇
消却年率	二%七	三〇%三	八%〇
【業　績】			
十二年上	利益率 三、四四	配當率 一、四〇	利益率 四、一四
下	三、九六	一、四〇	四、九六
十三年上	一、八六	一、四〇	五、〇四
下	一、〇〇	一、〇〇	四、九一
十四年上	二、一〇	一、〇〇	四、九一

【株　價】（實物）舊　株　高値　安値
十一年　四〇、〇　四〇、〇
十二年　四〇、〇　四〇、〇
十三年上　四〇、〇　四〇、〇
下　四〇、〇　四〇、〇
十四年上　四〇、〇　四〇、〇
一—八月
【基準配當】一割
【豫想配當】一割
【時價】舊四〇、〇　【利廻】八分六厘
【名義書換】十　錢　【新株交付】五十錢

大阪製鎖造機株式會社

（本社）大阪市此花區春日出町上五丁目二九（電土佐堀三九二一四）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内二ノ一丸ビル内

【業績盛返す】當社は重役間の紛爭で一時成績は低下傾向にあつたが、最近再び盛り返して來た。新重役が紛爭を起した前重役及び社員を一掃して極力成績の挽回に努めたからである。去る六月期の成績を見ると利益金百二十一萬一千圓で利益率は二割五分五厘を示した。前期に比し二十六萬六千圓の增益に當り利益率は五分六厘の向上だ。八分配當はかなり餘裕含みとなつたことは云ふ迄もない。

【許可會社】當社は積極的に工作機械部門の擴充を斷行して許可會社の資格をとることに決定した。そこで先づ前川工場のミーリングの增產を斷行し、更に子會社平尾鐵工所を合併する方針だ。平尾鐵工所は周知の如く工作機械專門會社であるから、之を合併して前川工場と併合すれば許可會社としての必要な條件を備へることになるからである。

【拂込徵收】前川工場を擴張する爲めには相當の資本が要るし、又當社は特殊品工場、製鎖工場の整備擴張も行ふことになつてゐるので彼れ是れ三、四百萬圓餘りの金が要る。借金は既に八百萬圓から持つてゐるので今度の擴張費は拂込金で賄ふ方針だ。當社は既に當局に對して拂込の申請中であるから早晩許可されることになるだらうと思ふ。

【設　立】明治三十七年八月
【決算期】六月、十二月
【事　業】鎖、鎖、鑄鐵鋼、鎖車、輸送機、昇降機、其他化學、工作、船舶用製作、加工、修理、兵器同部分品、
【資本金】公稱＝一千萬圓　拂込＝九百萬圓
【株　數】……舊（八〇・〇）　拂込＝一百八十萬圓
　　新（二二・五）　一百萬圓
【重　役】社長　寺田　甚吉
　　專務　鷲尾　傳三　取締　前川新太郎
　　常務　野口　榮太　監査　山田宗三郎
　　〃　濱口　良吉　相談　松崎　伊織
【株主數】……年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）　二、九五二　三、四二〇
【大株主】寺田甚吉一〇、〇〇〇　前川新太郎一九、九七四
　　濱口良吉一九、五九九　廣海二三郎八、八〇〇
　　小林アサ六、一〇〇　川上同族四、一〇〇
　　木村敬二郎四、〇〇〇　中村文子三、二〇〇
【事業規模】工場所在地
　　春日出工場　大阪市北花區
　　朝日橋工場　大阪市此花區
　　濱口鎖草工場　大阪市西淀川區
　　前川工作機工場　大阪市西淀川區
　　横濱工場　横濱市神奈川區
　　年產能力（千噸）十二年下期末現在
　　鎖鋼……二、九　製鎖……一、九
【事業成績】十二年下　十三年上　十四年上
　　資上高（千圓）四、五〇〇　七、五〇〇　九、〇一〇
　　事業益（千圓）四四二　九二〇　一、三一〇
【資本異動】十二年八月三回拂込徵收、十三年二月（最終）一〇圓拂込徵收、一、〇〇〇萬圓增資第一回一二圓五拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　二、一四四　二、二一〇　二、二一〇
　　積立金　三、五六九　三、五六九　三、五六九
　　外部負債　七、〇二五　九、一〇五　一、一二四
　　借入金　三、一三三　三、一六〇　三、一八五
　　支拂手形　三、六七〇　三、一四九　三、一五九
　　使用總資本　一、一四四　一、一四四　一、一四四
　　固定資產　八、八五九　一〇、九八一　三、三六六
　　流動資產　一、一四四　一、一四四　一、一四四
　　現金預金　七、一四九　七、一四九　一、一四四
【收支勘定】
　　收入　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　支出　六、一三三　七、八九一　一、一四三
　　利益　七、八九一　一、一四三　一、一四三
　　固定消却　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　償却年率　三〇〇　三〇〇　三〇〇
【業　績】利益率　二、六六　二、六六　二、六六
　　十一年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　下　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　十二年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　十三年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
【株　價】十四年上（大阪）高値　安値　（實物）新株
　　下　一、九九　一、六六　一、六六
　　十二年　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　十三年　一、九〇　一、四〇　一、八〇
　　十四年　二、四〇　一、四〇　二、八〇
　　一—八月　五、五〇　四、八〇　一、四〇　一、三〇
【基準配當】十四年十二月期　八分
【像想配當】新株　七分一厘
【時　價】新株　五分七厘
【名義書換】十錢　【新券交付】三十錢

理研重工業株式會社

（本　社）東京市麹町區有樂町常盤生命ビル（電銀座　七六二一九）
（出張所）大阪市北區宗是町一（大阪ビル内）

【新工場建設】柏崎、柿崎、王子、新前橋の既設工場に加へて、熊谷並びに小倉に新工場を建設し始めた。熊谷工場は主として自動車用リング、小倉工場はゲージを製造する豫定である。その他各工場とも擴張を續行してゐるので、資金は益々必要だ。去る五月二十日、第三回拂込を徵收したが、現在の擴張狀態からすると又年內に最終拂込を徵收せねばなるまい。

【成績は】八月期の業績は未だ判明せぬが、新前橋工場の操業開始により增益となつたことは確かだ。他方十二月と五月の拂込がかゝつて來るから、利益率の向上は期待出來ない。依然二割三、四分の利益率を計上しよう。當社の固定資產は比較的新しいが、前々期の償却率は四％八に止まり、二十ケ年賦以上に當る。償却不足の惑無きにしも非ずだ。殊に軍需的色彩の濃い當社であるから、益々その感を深くする。

【將來の進路】理研コンツエルン再編成に當り、當社は理化學興業とともに一方の中心となる。その手始めに近く理研主軸臺を合併する模樣だ。更に各子會社の整理統合を行ふが、それにつれ增資も問題になる。併し今後の擴張を自己資金で賄ふことは、相當考慮を要する。シ團も出來たことだから、增資を急がず整理に努むべきだ。

【設　立】昭和九年三月
【決算期】二月、八月
【事　業】ビストンリング、ピストン、ドリル、カッター、ゲージ類、マグネチックチャック、其他工作機械
【資本金】公稱＝五〇、〇〇〇　拂込＝三五、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　拂込＝三五、〇〇〇
　　新（三七・五）　二〇〇、〇〇〇
【重　役】會長　大河內正敏
　　常務　眞弘　惠蓮　取締　工藤　春
　　〃　取締　中川　正左　〃　大久保八郎
　　〃　林逸賢一郎　監査　稻野　正方
　　〃　矢部　又吉　〃　西鄕　佳夫
　　〃　荒木　重義　〃　山田多計治
【株主數】……年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）　八三三　一、八四一　三、八四四
【大株主】理化學研究所　元、三四四
　　日本生命　四四五　富國工業　三、五九九
　　高津株式　三、八五〇　常陽銀行　八、五〇〇
　　第一徵兵　六、〇〇〇　大阪鐵鋼製作　六、〇五〇
　　愛知銀行　五、六〇〇　住友生命　五、〇〇〇
【事業規模】工場所在地
　　柏崎工場　新潟縣柏崎町
　　柿崎工場　新潟縣柿崎町
　　王子工場　東京市王子區神谷町
　　前橋工場　群馬縣新前橋
【投資會社】理化學興業、理研紡織合金、三興商會、富國工業、理研紡織他十社
【資本異動】十五年三月一、二〇〇萬圓增資第一回一圓五拂込徵收、十月理研特殊鐵鋼を合併社名變更。十二月第二回、十四年五月第三回各一二圓五拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　二、二一〇　二、二一〇　二、二一〇
　　積立金　八、〇二四　八、〇二四　八、〇二四
　　外部負債　二、三二九　二、三二九　二、三二九
　　借入金　二、三二九　二、三二九　二、三二九
　　支拂手形　四、五〇〇　三、五〇〇　三、五〇〇
　　使用總資本　一、一四四　一、一四四　一、一四四
　　固定資產　八、八〇一　一、一四四　三、三六六
　　流動資產　一、一四四　三、一六三　一、一四四
　　投資勘定　三、九〇一　九、一四四　一、一四四
　　流動資產　一、一四四　一、一四四　一、一四四
　　預金現金　九、五〇一　一、一四四　一、一四四
【收支勘定】
　　十五年下　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　支出　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　利益　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　固定消却　一、一四三　一、一四三　一、一四三
　　償却年率　三〇〇　三〇〇　三〇〇
【業　績】利益率　二、六六　二、六六　二、六六
　　十一年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　下　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　十二年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
　　十三年上　〇、八〇　〇、八〇　〇、八〇
【株　價】十四年上　高値　安値　（實物）新株
　　下　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
　　十二年　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
　　十三年上　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
　　下　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【基準配當】十四年十二月期　一割
【像想配當】舊株　〇・〇　新株　五・〇
【時　價】舊株　〇・〇　新株　五・〇
【名義書換】十錢　【新券交付】五十錢

理化學興業株式會社

（本　社）東京市麹町區有樂町一ノ二（電銀座七六二）

【前期業績】去る六月期の利益金は百七萬五千圓で、十七萬五千圓の增益となつたが、新株第一回、第二回拂込が負擔となつて、利益率は一厘を低下し、一割六分六厘となつた。これで一割配當を續けてゐるだから、頗る窮屈な決算である。これといふのも、親會社として子會社の株式を多量に所有してゐるが、その利廻りが到底一割に達しないからだ。

【直營事業】そこで當社は直營事業により利益を擧げて、一割配當を持續せねばならぬ。その事業は冷暖房裝置、ボイラー、ストーカー（荒川第一工場）の製造であつたが、事變以來轉換をはかり、特殊軍需品（荒川第二工場）、旋盤（宮內工場）の如き製品へ力を注ぎ始めた。荒川第二工場も漸く完成し、宮內工場も今春操業を開始したので、これにより何とか息をつけるやうになつた。今後も各種機械類の製造に着手する豫定で、目下準備中である。

【當社の前途】右の如くして極力現行配當の維持に努めてゐるものの、手持有價證券は依然增加する。そこで少しづゝ持株を開放して負擔の輕減に努めてゐる。その他關係會社製品の委託販賣手數料收入もあるが、矢張り窮屈は免れない。併し親會社たる以上、配當を持續し、第三回拂込も年內に徵收の見込みである。

【設　立】昭和二年十一月
【決算期】六月、十二月
【事　業】冷暖房裝置、理化學器械
【資本金】公稱＝二〇,〇〇〇　拂込＝一〇,〇〇〇
【株　數】……舊（二〇,〇〇）　新（一〇,〇〇）
【重　役】會長　大河內正敏
取締役　大橋新太郎　三井　米松
〃　槙村澄三郎　〃　萬丈
〃　田中榮八郎　支配人　大槻
木村德衛　監査　安田善五郎
〃　松本　淡治
【株主數】……五年上　一五二　五年下　一六〇
【大株主】理化學研究所　六二,八〇〇
三菱　社　一四〇,〇〇〇　任友育左衛門　一五,〇〇〇
安田保善社　九,六〇〇　日本生命　一〇,〇〇〇
三井合名　七,八〇〇　理研重工業　八,三〇〇
常陽銀行　六,六〇〇
【事業規模】工場＝東京荒川第一、第二工場、宮內工場（新潟縣）
重要下請工場、理研重工業、前田工作所、理研玩具、濱田精機、理研宮內鑄造所
【年產能力】（單位＝千圓）
冷風機　六〇〇　ストーカー　六〇〇　乾燥器　五〇
電氣裝置　二四〇　鋳鋼　四八〇　熱交換器　一〇
ボイラー　六〇〇　除塵器　一〇
【事業原資】五年上　四二,八六五
五年下　四二,八〇五
營業益（千圓）　三,四五五　六,三二四　三,六九九　六,二二四
【役員會社】理研コランダム、理研金屬
理研感光紙、理研重工業、其他十七社
【資本異動】十三年十月倍額二千萬圓に增資十一月第一回、十四年六月第二回三圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　十三年　十二月
積立金　一二,〇〇〇　一二,〇〇〇
社外負債　三三,一五〇　三三,一五〇
社債　一〇,〇〇〇　一〇,〇〇〇
借入金・支手　七,五〇〇　六,九〇〇
使用總資本　三二,六五〇　三二,六〇〇
固定資產　三,六五〇　三,九〇〇
投資勘定　九,三一三　一四,一三〇
流動資產　一二,三六〇　一六,〇一〇
現金預金　一,三六〇　三,八三〇
【收支勘定】十五年上　十五年下
收入　四,五六〇　七,五六〇
支出　三,〇二一　六,六一〇
利益　九〇二　一,〇五〇
固定償却　一五〇　一〇〇
消却年率　一〇.〇％　一〇.〇％
【業　績】利益率　一二年下　一,二四〇　一,二四〇
一三年上　一,二四〇　一,二四〇
一三年下　一,二四〇　一,二四〇
一四年上　一,二四〇　一,二四〇
配當率　一四年上　一,二四〇　一,二四〇
【株　價】（實物）舊株　新株
高値　安値　高値　安値
十三年　九一.〇　六一.〇　—　—
十四年　六二.〇　五九.〇　一二.〇　一二.〇
一一月
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十二月期　普通　八分
特　二分
【時價】舊　六二.〇　七分九厘
新　一二.〇　七分二厘
【利廻】
【名義書換】十一月　五十錢

豐田式織機株式會社

（本　社）名古屋市西區鳥崎町一（電西八〇三）
（營業所）名古屋市外新川町須ケ口（電西五三〇）

【大陸進出】昨年二月設立した青島の豐田式鐵廠は資本金二十五萬圓を四倍增の百萬圓に增加し、去る九月一日一擧全額拂込を徵收した。新資金を以て紡織機、鑄鋼品部門を擴張し、更に鑛山機械にも手を染めようといふのである。天津への進出も準備は進められ大阪工場の紡織機製作機械を移すことゝなる模樣だ。上海に於ても某社と共同出資で新會社を設立する計畫があるが之は實現すまい。

【內地工場整備】紡織機製作は軍需品、工作機械の製作に轉換され現在一部紡織機部を殘すに過ぎず、軍需工業會社化するに至つてゐる。此の事業中心をなすのは名古屋新川工場で新設は勿論、名古屋市島崎工場も亦此處に移設される。大阪工場も半分は賣却乃至青島移轉が行はれ、殘り半分は織機部を工作機部に編成替することゝなつた。卽ち當社の事業は新川工場に集中されるのだ。

【成績向上期待】最近年は事業內容の轉換過渡期で成績は稍々低下を辿つて來た。然し工場整備と共に再び向上に轉ぜんとしてゐる。本年下期は航空機部品工場の稼働が本格化したので、上期を凌ぐ業績が豫想される。將來は子會社たる昭和重工業、日本光綿紡績の增配が見込まれるから、當社自體の業績向上と相俟つて現行配當は益益餘裕を加へられよう。

【設　立】明治四十年二月
【決算期】三月、九月
【事　業】紡機並織機の製造販賣
【資本金】公稱＝一〇,〇〇〇　拂込＝九,三五〇
【株　數】……舊（二〇,〇）　一四〇,〇〇〇
新（一三,五）　一四〇,〇〇〇
【重　役】專務　野崎誠一　取締　松岡房吉
常務　益子愛太郎　監査　益田信世
取締　川崎肇　〃　赤井久義
〃　戶上實蔵　〃　齊藤雄二
【株主數】……五年上　三,八五五　五年下　四,一五五
【大株主】三井物產　三,二〇〇　谷口豐三郎　二,〇〇〇
日本火災　四,八〇〇　山口玄合資　四,四〇〇
豊松熙　三,一〇〇　近江商會　三,一〇〇
岩田商事　二,八〇　益田太郎　二,〇〇〇
【事業規模】製造役員及能力（年產）
織機（人絹織機共）……一〇,〇〇〇臺
小幅織機（人絹人絹紡織機共）……一四〇,〇〇〇臺
紡績機械……五〇〇,〇〇〇錘
準備機械……七〇〇,〇〇〇錘
毛絲紡績機械……六組
工場＝本社、新川、大阪、青島
【事業成績】五年上　九,五五〇
五年下　十四年上　一,三八〇
製作益金（千圓）　一,一二〇
賣買益金〃　一,〇八五
【投資會社】昭和人絹、昭和重工業、日本光綿紡績、
【資本異動】十年十二月、十一年五月各一二圓五拂込徵收、六月倍額增資十一月第一回拂込一二圓五徵收。

【資產負債】
株主資本　十二年　十四年
積立金　一三,八〇〇　一四,八〇〇
外部負債　三,四〇六　三,八〇〇
使用總資本　一〇,五五〇　一二,二〇〇
固定資產　一〇,五五〇　一二,〇〇〇
投資和定　四,九六〇　五,一二〇
流動資產　五,〇〇〇　五,六〇〇
現金預金　一,六五〇　二,五九〇
【收支勘定】五年上　五年下
收入　一,三四〇　一,四〇〇
支出　一,〇四〇　一,〇〇〇
利益　三〇〇　四〇〇
固定償却　一〇〇　一〇〇
消却年率　一〇.〇％　一〇.〇％
【業　績】利益率　一二年上　二,〇〇〇　二,〇〇〇
一二年下　一,六〇〇　一,六〇〇
一三年上　一,六〇〇　一,六〇〇
一三年下　一,六〇〇　一,六〇〇
一四年上　一,六〇〇　一,六〇〇
配當率　一四年上　一,六〇〇　一,六〇〇
【株　價】舊株　新株
高値　安値　高値　安値
十一年　八一.〇　六一.〇　三一.〇　二一.〇
十二年　六一.〇　五一.〇　二五.〇　二〇.〇
十三年　五〇.〇　四二.〇　二五.〇　二〇.〇
十四年　四八.〇　四〇.〇　二六.〇　二〇.〇
【基準配當】八分
【豫想配當】十四年九月期　八分
【時價】舊　六二.三　四分五厘
新　三二.〇
【利廻】六分三厘
【名義書換】十一月　四十錢

株式會社 栗本鐵工所

（本　社）　大阪市大正區新巽屋町七七（電櫻川一六八〇—九〇）

【業績躍進】當社の成績は時變以來躍進を辿り、今年三月期は四割一分の利益率を示した。之を十二年當時に比べると約四倍の向上に當る。配當は八分から九分に改めそして十三年下期から一割となつてゐる。利益率の向上程度に比し極めて内輪な配當と稱してよからう。即ち決算には非常な裕りが生じたことが判る。

【擴張は續く】當社は時變以來積極的に擴張を續行して來たが、今後も擴張は續行される。滿洲進出、低燐銑の增產が差當つての計畫である。この他に本社工場の製鋼設備の擴張もある。之等の計畫を實現させるためには當面四、五百萬圓の資金を要する。當面借入金で支辨することになるだらうが、行々は株金に振替るものと思はれる。然し當社には未拂込金はないから結局增資と云ふことにならう。少なくも倍額程度の增資が期待される。

【前途見透】當社の收益力は最近極めて優秀であるから、擴張過渡期に於いても未働資本の壓迫による成績低下は考へられない。尤も單價引下の影響を全然無視する譯には行かぬが、それにしても一方に原料の低下があり、又增產が考へられるから何れにしても成績低下は避けられるものと考へられる。現行一割配當は當分不動と斷じてよからう。

【設　立】昭和九年五月
【決算期】三月、九月
【事　業】鑄鐵管、鑄物類、セメント製造用、礦山用、化學工業用諸機械
【資本金】……額（五〇·〇）
　　拂込濟　三、五〇〇
【株　數】……額（五〇·〇）　四〇,〇〇〇
　　新（五〇·〇）　五〇,〇〇〇
【重　役】
社長　栗本勇之助　取締　木村敬二郎
專務　栗本順三　〃　阿部政次郎
常務　川谷恒視　〃　下郷資吉
〃　吉本淳之助　〃　前島孫太郎
取締　片岡安　監査　足田輝雄
〃　津田藤五郎　〃　村上勇
【株主數】……名　十五年上　九一五　十六年下　九九八　十四年上　九九九
【大株主】
栗本勇之助　三,一五〇　栗本秀八　一,四五〇
加納川恵　二,一五〇　栗本清太郎　三,〇〇〇
野村信託　二,〇〇〇　北澤敬二郎　二,〇〇〇
日本生命　二,〇〇〇　加納川俊一　一,八三〇
【年產能力】
直管……
鑄鐵製品……
鑄鋼製品……
製械類……
【事業成績】
十五年上　十六年下　十四年上
製品實上（千圓）　六,八八　六,六五五　四,九四五
製造費（〃）　四,一四四　四,九四五　四,九四五
【資本異動】創立、同月信託增資、更に栗本足田鐵工所合併五〇萬圓增資十三年七月新株一二圓五拂込徵收十四年七月二圓五（最終）拂込徵收

【資產負債】
株主資本　十二年三月　十三年九月　十四年三月
積立金　四,八四三　四,九六六　六,〇五〇
外部負債　六,一五二　六,一五八　三,〇五八
支拂手形　一,一八四　一,一八四　八,一四四
使用總資本　一二,二三四　一二,二三四　一二,二三四
固定資產　一二,八八六　一二,八八八　一二,八八八
投資勘定　一,一四四　一,一四四　一,一四四
流動資產
現金預金　四,一一九　四,九八四　四,九三三
收支勘定
十五年上　五四五　十五年下　一,一四四　十四年上　一,一四四
收入　六,一八三　六,一八三　六,一八三
支出　四,五四四　四,五四四　四,五四四
利益　五四五　一,〇〇〇　一,〇〇〇
固定消却　一〇〇　一〇〇　一〇〇
消却年率　一七·四％　一七·四％　一七·四％
【業績】
利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一·八五　〇·八〇　一·八五　〇·八〇
十二年下　一·四五　〇·八〇　一·八五　〇·八〇
十三年上　一·八五　〇·八〇　一·八五　〇·八〇
十三年下　一·八五　〇·八〇　一·八五　〇·八〇
十四年上　一·八五　一·〇〇　一·八五　一·〇〇
【株　價】（實物）額　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十一年　四四·三　三一·五　四四·三　三一·五
十二年　五四·五　四一·五　五四·五　四一·五
十三年　五六·五　四八·〇　五六·五　四八·〇
十四年　八〇·五　五九·五　八〇·五　五九·五
一—八月　八〇·五　五九·五　八〇·五　五九·五
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年九月期　一割
【時價】額八五·〇　【利回】五分九厘
新八四·〇　六分
【名義書換】十一月　【新株交付】三十錢

株式會社 田中機械製作所

（本　社）　大阪市港區市岡濱通三丁目二〇番地（電西　七三）

【計畫變更】當社は西ノ宮海岸に約二萬坪の土地を卜し、此處に新工場の建設を目論んでゐたが、種々の關係で敷地の買收が不能となつたゝめ、一時建設を見合せることゝした。然し何れ適當な敷地を物色して擴充計畫を斷行することゝならう。ところで當社は此の新工場建設を機會に新株の第三回拂込を徵收するかに見受けられたのだが、それが繰り延べとなつたのであつて見れば當然拂込も延期されよう。然し、當社は右の新計畫の他に、東京工場の第三期計畫を進めて居り、また餐に地上權を得た本社工場の隣接地六百坪に火造工場を建設して居るのであつて、これにも資金を要するのだから、假令時期が後れるにはしても、拂込は必然と押へられる。

【繁忙】當社の主要製作部門は化學機械、起重機、輸送機だが、これ等は時局關係事業の擴充に併行し、愈々旺盛な受註に惠まれて居る。現在の手持受註は千二、三百萬圓はあると推定されるが、これは當社の現狀ではその消化に約一ケ年を要する程なのだ。

【向上せん】かうしたわけだから、業績の好變は必然と云つてよい。殊に下期は東京工場の第二期計畫が寄與するから尚ほ更だ。原材料の窮屈化、單價切下等の惡材料もありはするが、それにしても現配當は餘裕綽々と云つてよい。

【設　立】大正八年十二月
【決算期】三月、九月
【事　業】製機用、化學工業用諸機械、荷揚及輸送機、鋼鐵類
【資本金】……額（五〇·〇）　公稱二五,〇〇〇　拂込二四,七五〇
【株　數】……額（五〇·〇）　四〇,〇〇〇　新（五〇·〇）　四〇,〇〇〇
【重　役】
社長　岸田東次郎　取締　堀田淳一郎
專務　濱本芳友　〃　木下茂
常務　多々良常吉　監査　江崎敬忠
取締　北島信夫　〃　藤淺九市
【株主數】……名　十五年上　一四四　十六年上　一四七
【大株主】
堀池信託　一六,八五〇　日本生命　一六,一五〇
三菱商事　九,八〇〇　住友生命　六,三〇〇
堀池合名　五,八五〇　三菱電機　五,〇〇〇
山一證券　四,六五〇　岸田東次郎　四,五〇〇
【事業規模】十二年下期現在
工場敷地……四,五六〇坪
建坪……三,一一〇坪
職工數……八〇〇人
【事業成績】
十五年上　十五年下　十六年上
繰越受注高（千圓）　二,五九九　四,一〇六　四,一〇六
當期受注高（〃）　二,三六四　四,八〇〇　五,八〇〇
〃　引渡高（〃）　一,八八〇　三,八〇〇　一,一一九
受注殘高（〃）　二,五六六　四,一〇六　四,八八七
【資本異動】十一年四月七圓五、十三年一月一〇圓拂込徵收十三年一月四五〇萬圓增資第一回十四年四月第二回各三圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　十二年三月　十三年九月　十四年三月
積立金　四,八五〇　四,九五〇　四,九五〇
外部負債　四,六八　三,一四四　九,一四四
支拂手形　一〇〇　一〇〇　一〇〇
使用總資本　一四,八一八　一四,一四四　一四,一四四
固定資產　一二,四四四　一二,四四四　一二,四四四
流動資產　二,三七四　一,七〇〇　一,七〇〇
現金預金
十五年上　一,三八六　十五年下　一,四四四　十四年上　一,四四四
收入　二,四四四　二,四四四　二,四四四
支出　一,〇五八　一,〇五八　一,〇五八
利益　一,三八六　一,三八六　一,三八六
固定消却　一〇〇　一〇〇　一〇〇
消却年率　一七·四％　一七·四％　一七·四％
【收支勘定】
【業績】
利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一·四五　〇·八〇　一·四五　〇·八〇
十二年下　一·四五　〇·八〇　一·四五　〇·八〇
十三年上　一·四五　〇·八〇　一·四五　〇·八〇
十三年下　一·四五　〇·八〇　一·四五　〇·八〇
十四年上　一·四五　一·〇〇　一·四五　一·〇〇
【株　價】（實物）額　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十一年　四四·三　三一·五　四四·三　三一·五
十二年　五四·五　四一·五　五四·五　四一·五
十三年　五六·五　四八·〇　五六·五　四八·〇
十四年　八〇·五　五九·五　八〇·五　五九·五
一—八月　八〇·五　五九·五　八〇·五　五九·五
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年九月期　一割二分
【時價】額八〇·五　【利回】六分二厘
新八一·五　五分八厘
【名義書換】十一月　【新株交付】三十錢

株式會社 島津製作所

（本　社）京都市中京區河原町二條南入（電上四六二—五）
（支　社）東京市神田區美土代町二（電神田三五—九）

【拂込徵收】愈々近く最終拂込を徵收することゝなつた。拂込額は新一株に付十二圓半宛、總額二百萬圓だ。目下資金調整當局に認可を申請中だから、遠からずそれを得られよう。認可があれば來る十二月頃徵收される筈だ。

【擴充强行】拂込株金は目下工事中の第二造兵課工場及び電熱器工作課工場の建設に投下される。第二造兵課工場は現三條工場の構内で建設工事を進めて居るもので、專ら時局品の增產を目的とする工場だが、建設資金としてはザット百萬圓は入用だらう。電熱器工作課工場も三條工場内にあり、電氣炉の製作に當つて居るものだが、三條工場が手狹な關係から今回これを移轉の上擴充を進めることゝした。移轉敷地は三條工場から程遠からぬところで、坪數は約一萬五千坪である。これ等は明年上期末までに相次いで完成の運びとなるが、當社はこれに引き續き精機第三工場その他の建設計畫を目論んで居るのだから、資金の需要は絶えない。とすれば最終拂込に次いで增資も亦不可避なわけだが、これは明春頃となる見込だ。

【結局は減配】今下期は第二精機課工場の完成で業績は更に向上を期待されるから現配當は問題なく据置だ。然し明春增資が行はれるので配當令との關係から一割に引き下げられると考へられる。

【設　立】大正六年九月
【決算期】五月、十一月
【事　業】理化學、化學、X光線器、電氣醫療機器及各博度量衡、兵器
【資本金】……公　稱　三、〇〇〇、〇〇〇　拂　込　一、〇〇〇、〇〇〇
【株　數】……舊（額面五〇）　二〇、〇〇〇
　　新（額面五〇）　一〇、〇〇〇
【重　役】社長　島津　源藏
　常務　島津　源吉　取締　牛丸　福作
　〃　島津常三郎　〃　松藤　儀平
　〃　鈴木　庸輔　〃　稲垣勝太郎
　取締　藤井　善助　〃　河野助太郎
　〃　内貴清兵衛　〃　平和長之助
【株主數】　十五年上　一、〇〇四　十六年上　一、〇〇四　十六年下　一、〇〇四
　總　數（名）　一、〇〇四　一、〇〇四　一、〇〇四
【大株主】　源吉　一四、〇四〇　三菱重工業　九、八〇〇
　島津　源藏　九、三八〇　島津常三郎　八、一〇〇
　日本生命　六、三〇〇　島津　新一　六、一〇〇
　島津　良藏　六、〇八〇　島津　重紀　五、六〇〇
【事業規模】工場所在地本社工場＝中京區三條通西大路マネキン工場＝右京區山ノ内苗町
【月產能力】（單位＝千圓）十三年上期現在
　理化學機器　四四〇　工業用機器　一、二七三
　醫療用機器　一六六　人形標本類　五九
【投資會社】日本電子工業、日本電氣計器、工業電氣計器
【資本異動】十三年二月第一新三圓拂込（最終）四月四〇〇萬圓增資第一回三圓五拂込徵收　十三年四月第二回三圓四拂込徵收　十四年五月第三回三圓五拂込徵收

【資產負債】　五十三年　十二月　五十四年　十一月
　株主資本　一二、三九五　一二、九四四　一四、六四四
　積立金　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
　社外負債　一、六二四　六、三六　七、〇四
　支拂手形　四三三　一、八四〇　一、九二四
　使用總資本　一四、八三五　一八、八八一　二三、七五六
　固定資產　一四、五八八　六、三六八　七、八四四
　流動資產　八、四九六　一二、五三　一五、八二〇
　現金預金　一、一〇〇　六一六　一、八一〇
【收支勘定】　十三年上　十三年下　十四年上
　收　入　九、三四四　一〇、〇〇三　一三、〇六六
　支　出　八、三三三　八、九三三　一〇、三六九
　利　益　一、〇一一　一、〇六九　二、六九七
　固定消却　三〇〇　三〇〇　三〇〇
　消却年率　九分九厘　一割九分八厘　利益配當率
【業　績】　利益配當率　利益配當率
　十二年上　五、八三　特・五賞一・〇　七・九
　　下　三・三四　〃・二〇　一・〇　四・八
　十三年上　三・三九　〃・二〇　一・〇　四・八
　　下　四・五　一・〇　一・〇　五・六
　十四年上　四・〇〇　一・〇〇　空　五
【株　價】（實物）舊　株　新　株
　十三年　高値　八〇・九　安値　三・八　高値　四・〇　安値　五・〇
　十四年　八・二　七・二　七・二　五・二
　一八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　八五・二　新　七・五　【利廻】五分九厘　六分三厘
【名義書換】十錢【新券交附】五十錢

東京製綱株式會社

（本　社）東京市日本橋區吳服橋三ノ五棚町ビル内（電日本橋二五—六）

【第二次大戰の影響】第一次歐洲大戰當時、當社はその製品原料を凡て海外から輸入してゐた關係上、非常に原料獲得に苦心した。そこで、原料自給を目指して小倉製鋼所を設立したが、これが淺野の手に移つてからも、大戰後の反動不況によつて、永い間當社の不振の原因となつてゐたこと周知の通りである。今次大戰の勃發によつても、再び原料輸入に就て不便を免れぬ。殊に、高級品原料は少量にせよ、スエーデンから輸入してをり、更に米國からも相當量を入れてゐる。大戰の推移によつては原料輸入に多大の困難を生じよう。尤も、國内に於ても最近ではワイヤ・ロッドの生產は相當量出來てをるが、スクラップ及び銑鐵不足の折柄、これも思ふにまかせぬ。相當苦難な場面も覺悟せねばなるまい。

【ロープ製作の時局性】しかし、周知の多くロープ類の需要は諸產業の生產力擴充の國策線に沿つて極めて旺盛である。これに應じなければ生產力擴充、大陸開發の實は擧らない。されば、政府としても、當社への原料配給には種々便益を與へてをり、曲りなりにも、漸次ロープ製作の能力を增大せしめつゝある。

【前途觀】今までの處、内容業績ともに優秀で、現行一割配當持續に不安はない。反動を惧れる必要も當分あるまい。

【設　立】明治二十年二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ワイヤロープ、マニラロープ、針金其他綱類製造販賣
【資本金】……拂込濟　一〇、八〇〇
【株　數】……（額面五〇）　二一〇、〇〇〇
【重　役】專務・赤松　範一
　常務　戸村　理順　取締　原　悅生
　取締　大倉　桑馬　監査　遠澤　信雄
　〃　藤田好三郎　〃　矢吹　省三
　〃　高柳鈴太郎　〃　野口　弘毅
【株主數】　十五年上　十六年上　十六年下
　總數（名）　一、三七三　一、三七九　一、三八九
【大株主】
　日本徵兵　一五、六五〇　濱松銀行　九、六四〇
　第一生命　七、七四〇　安田貯蓄　六、三五〇
　高國徵兵　五、三五〇　殖山小兵衛　四、三四〇
　第百銀行　四、〇〇〇　安田生命　三、二五〇
【事業規模】
　工場名　數量（坪）
　川崎工場　五三、三五〇
　兵庫工場　一、四三〇
　小倉工場　一五、〇〇〇
　工場別年產能力　十二年下期現在
　綱索類（單位＝噸）
　川崎工場小倉工場……四〇、〇〇〇
　麻綱類（單位＝噸）
　川崎工場兵庫工場……一五、〇〇〇
【投資會社】東洋製綱、滿蒙綱索、玉村索道、滿洲綱索
【資本異動】十五年九月三圓（最終）拂込徵收

【資產負債】　五十三年　十二月　五十四年　十一月
　株主資本　一七、八三四　二〇、九八　一四、八三四
　積立金　四、九三六　四、九八八　四、九八八
　社外負債　二、一四〇　四、九八八　三、三四四
　使用總資本　三、一五九　三、四八八　三、三六六
　固定資產　八、四三三　八、九四四　八、八六六
　投資勘定　九八六　一、〇四六　三、〇五六
　流動資產　三、〇一三　五、四一六　一七、五一四
　現金預金　一、四八〇　二、八九　四、一三
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
　收　入　一四、八〇一　一四、三五六　一八、一四〇
　支　出　一三、九五一　一四、四四三　一四、四四三
　利　益　一、八四〇　二、八九三　三、六九七
　固定消却　三五三　三四三　一九九四
　消却年率　八分九厘　利益配當率
【業　績】　利益配當率　利益配當率
　十二年上　三・七一　特・五賞一・〇　四・一五
　　下　四・九七　一・〇〇　七・〇〇
　十三年上　四・六五　一・〇〇　七・〇〇
　　下　四・〇〇　一・〇〇　八・〇三
　十四年上　五・〇四　一・〇〇　八・三五
【株　價】（實物）高値　安値
　十一年　八五・八　七六・六
　十二年　二八・九　九・二
　十三年　一〇六・〇　五三・九
　十四年　九二・〇　七・三
　一一八月
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割二厘
【時價】舊　一四〇　【利廻】五分二厘
【名義書換】十錢【新券交附】二十錢

東洋製罐株式會社

（本　社）大阪市此花區草開町三〇（電話島（全）一七）
（東京工場）東京市品川區北品川四ノ七四六（電話高輪（天）四一一五）

【順調】鉄力の配給統制、空罐の內需抑制等、當社の向上を阻止する材料は尠くないけれども、一面、輸出向罐詰用空罐及び軍需用のそれの製造が頗る旺盛だから、毛頭懸念の要はない。去る五月締切の本年上期に於ける罐詰用空罐の販賣數が前年同期に比し六分一厘の增加を示した點を見ても、此の事情は容易に推察されよう。

【代用品】それに當社は着々代用品に進出しつゝある。ベークライト、チツソライト、セルロイド等の容器がそれだ。これはまだ罐詰用空罐の代用としては適さないけれども、藥品、塗料、菓子等の容器として充分使用し得るから、今後これの用途は漸次廣くなると考へられる。一方、當社の紙罐に對する認識も漸次深まりつゝあるから、これ亦期待がかけられる。

【安泰】かうしたわけだから、當社の今後の業績も依然良好を期待して良いと思ふ。去る五月締切の上期計上利益は百三十八萬圓、此の利益率は一割九分七厘に今下期に於ても此の程度の利益率は決して不可能ではあるまい。そうとすれば一割配當も引き續き踏襲されよう。當社はなにしろ堅實な內容を誇つて居り、資金の含みが大きいのだから、右の利益率で一割配當なら、決して不安ではないのである。

【設　立】大正六年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】罐詰用空罐、鉄力製容器、鉄力印刷、紙罐、紙筒、罐詰用機械製作
【資本金】……公稱二〇、〇〇〇　拂込二〇、〇〇〇
　　新（二〇・〇）四〇、〇〇〇　（二〇・〇）一六〇、〇〇〇
【株　數】……
【重　役】
社長　小野耕一　取締　野澤弘幸
專務　高崎達之助　〃　小林富佐雄
常務　前澤織衛　常務（業務）　間島季道
取締　鍋島懋道　〃（監査）　高橋熊三
〃　中山克己　〃　北村芳三郎
〃　星野直太郎　〃　木村幸次郎
〃　鈴木三郎助　〃　祭原邦太郎
【株主數】……十三年上　一、二九九　十四年下　一、二四五
【大株主】
小林合名會社　住友生命　一〇、〇〇〇
第一相互　一、〇〇〇　小野耕一　一、六二〇
高崎達之助　一、一一一　松菱殖產　一、六一〇
【事業規模】
工場別製罐機械數及日產能力
大阪（四列）高萬罐　東京（四列）豆萬罐
青森（一〃）一〇〃　清水（一〃）一〇〃
戸畑（一〃）一〇〃　高雄（一〃）一〇〃
廣島工場……製罐機械製作
【事業成績】
販賣高（一箱）　十三年上　一九、九六五　十四年上　一〇、三六　一〇、六五五
鐵工收入（〃）　八〇一　七九六
加工收入（〃）　一、三三三　一、二四四　一、三九六
【投資會社】東洋鋼鐵、臺灣合同鳳梨其他
【資本異動】十三年百萬圓、九月二圓五拂込
徵收十三年三月八〇萬圓增資四月第一回二圓五徵收

【資產負債】　十三年上　十四年上
株主資本　一、一六一、〇八一　一、一八一、一〇八
積立金　一、一六一　一、一六一
外部負債　一、一〇一、〇〇〇　一、一〇一、〇〇〇
借入金　一、〇〇一、〇〇〇　一、〇〇一、〇〇〇
使用總資本　三、一八九　三、二八二
固定資產　五、五〇〇　六、三四七
投資勘定　六、三〇〇　六、三〇〇
流動資產　三、一、九七二　三、一、九七二
現金預金　一、〇八一　一、〇八一
【收支勘定】
收入　十三年上　三、九九五　十四年上　三、九九五
支出　二、二四一　二、二四一
利益　一、七五四　一、七五四
固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇
消却年率　一、〇〇〇　一、〇〇〇
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　三、五三　一、〇〇　三、八二　一、〇〇
十三年上下　三、〇〇〇　一、〇〇　三、六六　一、〇〇
十四年上下　三、八三三　一、〇〇　四、五五五　一、〇〇
【株　價】（實勢）　舊　新　株　舊　新
十二年　高値　九六、〇　安値　九六、〇　高値　安値
十三年　九〇、〇　九〇、五　一　一
十四年　九二、〇　九二、〇　三、〇　三、〇
一一八月　九二、〇　九二、〇　三、五　三、五
【基準配當】一割
【理想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　新　【利回】六分八厘　三分八厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

日本樂器製造株式會社

（本　社）靜岡縣濱松市中澤町二五〇（電濱松　三五八〇）
（支　社）東京市京橋區銀座七ノ一（電銀座　二二二）

【拂込徵收近し】當社の增資後の拂込徵收は矢張早だ。近く又も第三回の拂込を徵收せんとしてゐる。一刻も忽せに出來ない擴張だけにこれも止むを得まい。去る三月徵收した第二回の拂込は、擴張工事資金に充當したが、其後新設の天龍分工場も本社工場も工事が進捗して居るから第三回拂込一株に付十二圓半總額百十八萬七千五百圓の徵收が近く行はれるのだ。資金調整局の認可を要することだから未だ確定的なことは言へないが工事進捗具合から見て遲れても本年中には徵收せねばなるまいと思ふ。

【未動資產の壓迫】斯くの如く擴張が相次いで行はれる結果は、必然的に未動資產は增加する。これに耐へ得るかどうかが問題となつて來るが、然し擴張分が全部未動資產となる譯ではなく、次々と完成して稼働するやうになるのだから、心配する必要はない。

【十一月期も增益】當社の營業の主體は今日ではプロペラ部で他部が副業的になり、而もプロペラも高級品の製作をやる樣になつたから採算は有利だ。擴張部分も一部運轉を開始して來たし、木工家具部もベニヤ板部も材料入手難に拘らず過去のストツクの利用で不思議と增產だから今期の增益は確實だ。拂込徵收が矢張早にあつても現行配當維持に心配ないと言ふ所以だ。

【設　立】明治三十年十月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ピアノ、オルガン、アコーデオン、ハーモニカ、ベニヤ板、木工製品、航空機同部分品、附屬品及プロペラの製造販賣
【資本金】……公稱二、七五〇　拂込二、六五五
【株　數】……舊（二〇・〇）　六、五〇〇
　　新（二〇・〇）　六、五〇〇
【重　役】
社長　川上嘉市　取締　刀原四郎
常務　林慶吉　〃　中島又三
取締　中村園一郎　監査　小竹綾之助
〃　中村藤吉　〃　山葉良雄
【株主數】……十三年上　十五年下　十六年上
（名）　二、一二二　二、三三二　二、五五二
【大株主】
濱松銀行　住友金屬工業
住友本社三、〇一〇　住友生命
山葉洋行　JTBキナリー
間瀨重一　中村藤吉
【事業規模】本社工場＝靜岡縣濱松市
分工場＝靜岡縣沼名郡鎭日村
製造能力（年產）
ピアノ……二、〇〇〇臺
オルガン……一〇、〇〇〇臺
ハーモニカ……二〇〇、〇〇〇打
ベニヤ板……二、〇〇〇千平方尺
木工家具……三、〇〇〇千圓
アコーデオン……三〇、〇〇〇個
【事業成績】十三年上　十五年下　十六年上
實上代金（千圓）　六、九六六　六、八〇〇　八、九六一
材料及仕入品（〃）　四、〇一三　五、〇〇四　六、六〇三
【資本異動】十三年三月百萬圓增資第一回拂込徵收（二五圓）
十三年七月四七五萬圓增資第一回十四年三月第二回各二圓五拂込徵收

【資產負債】　十三年上　十四年上
株主資本　一、一六一、〇八一　一、一八一、一〇八
積立金　一、一六一　一、一六一
外部負債　一、一〇一、〇〇〇　一、一〇一、〇〇〇
使用總資本　三、一八九　三、二八二
固定資產　五、五〇〇　六、三四七
投資勘定　六、三〇〇　六、三〇〇
流動資產　三、一、九七二　三、一、九七二
現金預金　一、〇八一　一、〇八一
【收支勘定】
收入　十三年上　三、九九五　十四年上　三、九九五
支出　二、二四一　二、二四一
利益　一、七五四　一、七五四
固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇
消却年率　一、〇〇〇　一、〇〇〇
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　三、五三　一、〇〇　三、八二　一、〇〇
十三年上下　三、〇〇〇　一、〇〇　三、六六　一、〇〇
十四年上下　三、八三三　一、〇〇　四、五五五　一、〇〇
【株　價】（實勢）　舊　新　株　舊　新
十二年　高値　九六、〇　安値　九六、〇　高値　安値
十三年　九〇、〇　九〇、五　一　一
十四年　九二、〇　九二、〇　三、〇　三、〇
一一八月　九二、〇　九二、〇　三、五　三、五
【基準配當】一割
【理想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　新　【利回】六分七厘　五分八厘
【名義書換】五錢　【新券交附】廿五錢

日本ピストンリング株式會社

（本　社）東京市芝區新橋田町一七　（電銀座三〇一三）

【前期向上】前期の賣上高は二百六十一萬圓に上り、前々期に比し九十七萬圓を增加した。川口工場の擴張部分並びに新設與野工場の一部が操業開始となつたので、生產額が增大したからだ。利益金は四十七萬六千圓で、利益率は前期に比し一割八分を增加し、三割四分一厘へ向上した。これで一割配當だから、頗る餘裕の多い決算であつた。

【增產進捗】川口工場の擴張は出來上つたが、與野工場の第一期工事も略々完了し近く全面的に操業を開始する。次いで第二期工事に着手する。第一期工事は航空機用リング工場建設で、第二期は自動車用リングである。今期は右の第一期工事完了によりリング生產高は激增する。與野工場の建設には、運轉資金をも含めて約五百萬圓を要する。このため去る七月一日、倍額增資を行ひ、第一回拂込十二圓半、總額七十五萬圓を徵收した。工事の進捗に伴ひ、拂込を徵收するが、第二回は今年中となる模樣だ。

【內容良好】當社はピストンリング一本の會社で、資產內容も良好である。製品も理研物に比し劣らぬ。たゞバックがないので、株價も理研重工に比し安かつたが、最近は斷然輝寄せして來た。小型會社中では、將來性あり、而も優良な會社だ。

【設　立】昭和九年十二月
【決算期】六月、十二月
【事　業】ピストンリング、諸機械及部分品の製造
【資本金】……公稱　八、〇〇〇
　　拂込　三、七五〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　四〇、〇〇〇
　　新（二二、五）　四〇、〇〇〇
【重　役】社長　鈴木友調
　　專務　田所鷹一　取締　遠山清太郎
　　取締　秦常貴郎北秀　〃　藤山忠男
　　〃　池貝杉二　〃　野口清三郎
【株主數】
　　總數（名）　十五年上　五六九　十五年下　六〇五
【大株主】
　　田所鷹一　五、七四　鈴木友調　四、〇一〇
　　窪田角一　一、八五　池貝杉二　一、六〇〇
　　田所道男　一、三五　脇村市太郎　一、三一〇
　　野口清三郎　一、二〇　大正生命　一、〇〇〇
　　山一證券　九一〇　仙石鹿平　八一〇
【事業規模】
　　工場所在地＝川口市
　　製造品　航空機、自動車、スチーム、エンヂン、デーゼルエンヂン、駛船石油發動機、空氣壓縮機用ピストンリング
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　　賣上高（千圓）一、三四九　一、四五五　一、六五〇
【資本異動】十五年二月四萬圓增資第一回七月第二回十月第三回各二圓五拂込徵收、十四年三月二圓五（最終）拂込徵收、七月五〇萬圓增資第一回二圓五拂込徵收

【資產負債】

	十三年六月	十三年十二月	十四年六月
株主資本	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二
積立金	三六	三六	三六
社外負債	八六六	一、九二二	二、四二四
支拂手形	四四五	五六六	一、五七〇
使用總資本	二、四七九	四、三五九	四、三八〇
固定資產	一、〇三三	一、四四四	一、四四三
流動資產	一、四四六	二、九一五	二、九三七
現金預金	五八四	一、三一六	一、三一八
【收支勘定】十五年上		十五年下	十六年上
收入		一、四四五	一、四六五
支出		一、三九〇	一、三三〇
利益		一五五	一三五
配當率		一割	一割
固定減却		四四六	四四六
減却率		一〇五	一〇五
【株　價】（賣買）舊株	高値	安値	高値
十二年	四一、五五	四五、三五	四一、五五
十三年	四五、三五	四五、〇〇	—
十四年	五二、五五	五三、五五	—
一—八月			
【基準配當】十四年十二月期　一割			
【獲想配當】	魚六、〇		
【時價】	新三、〇		
【利廻】	七分八厘		
【名義書換】十錢【新券交附】五十錢	五分四厘		

日本精工株式會社

（本　社）東京市品川區東大崎二ノ三六三（電　大崎四一六一）

【倍額增資】下揭表の「資本異動」欄に見る如く、當社は膨脹に膨脹を重ねて來たが、八月一日の新株最終拂込を以て、資本金は千二百萬圓拂込濟みとなつた。そして、今回更に倍額增資を決定したのである。即ち來る十二月一日增資新株第一回拂込一株十二圓五十錢宛、總額三百萬圓を徵收して、資本金二千四百萬圓、內拂込千五百萬圓となる。增資新株の未拂込は來年一杯に順次追徵して行くこととならう。言ふまでもなく、ベアリング製造設備の擴張が依然として續けられ、資金需要を見るからである。

【大戰の影響】第二次世界大戰の勃發によつて、ベアリング輸入は杜絕の運命にある。原料ベアリング・ボール、その他特殊鋼の素材なども輸入出來なくなる。とすれば、益ゝ國內のベアリング工業の一貫作業を達成することが急務だ。飛行機、自動車工業に對する部品工業としてベアリング工業の確立は刻下の急務である。かくて、當社は新設藤澤工場を大擴張し、川崎に特殊鋼工場を新設する。工事の進涉につれて、一層の增產計畫を樹立しよう。

【一割配當安泰】右の急膨脹に對しても、現行一割配當は安泰である。製品需要は益ゝ旺盛であり、販賣高は增大するからである。下揭表示の如く、累期決算は充分に餘裕含みである。

【設　立】大正五年十一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ボール及ロール・ベアリング、スチールボール、諸機械部分品
【資本金】……舊（五〇、〇）　拂込濟　二二、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　四〇、〇〇〇
　　第二新（五〇、〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】
　　社長　高橋是賢　取締　安松俊雄
　　常務　多胡秀藏　〃　宮原勳
　　取締　山口或彥　〃　遠藤壽一
　　〃　近藤鄂郎　監査　望月乙彥
　　〃　宮司陳次　〃　楊井為三
【株主數】
　　總數（名）　十五年上　一、八九　十五年下　一、九九九　十六年上　一、九一八
【大株主】
　　高橋是賢　四、四一〇　安田銀行　九、六〇〇
　　住友生命　四、〇〇〇　安田生命　四、八五〇
　　東京火災　三、〇〇〇　多胡秀藏　三、〇〇〇
　　九十八銀行　三、〇〇〇　大正生命　三、〇〇〇
　　山武商會　二、九六　望月孝　二、九五五
【事業規模】商工省指定工場
　　工場所在地　東京（大崎、多摩川）
　　神奈川縣藤澤
　　兵庫縣神崎
【特　色】本邦ベアリング製作界に於ける最優秀會社
【資本異動】十年三月第二回本精工十二年十一月帝國精工を合併資本金千二百萬圓となる。十三年七月新株二圓五拂込徵收十三年十月二圓五拂込徵收、十四年五月二圓五拂込徵收、八月二圓五（最終）拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月	十三年十一月	十四年五月
株主資本	四、九六二	一〇、四〇六	一七、四七六
積立金	一、四九八	二、一九九	三、八六六
外部負債	二、五三二	三、五六六	四、〇〇二
社債	一、六〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
支拂手形	一一九	一六六	一六六
使用總資本	一〇、四六四	一四、〇七六	二〇、〇八〇
固定資產	四、三〇六	四、四六六	七、一〇一
投資勘定	一〇	一〇	一〇
流動資產	六、一五六	九、六〇六	一二、九七九
現金預金	一、八九六	二、三五五	二、九四二
【收支勘定】十五年上		十五年下	十六年上
收入		三、五三五	四、七四七
支出		三、四四四	四、一九七
利益		一、〇九一	一、五五〇
固定減却		一三六	一五六
減却率		一三%七	一六%三
【株　價】（賣買）舊株	高値	安値	高値
十二年	一〇四、四〇	八〇、〇〇	一〇四、四〇
十三年	八〇、三〇	五五、〇〇	八〇、三〇
十四年	八〇、三〇	六一、五〇	八四、八〇
一—八月			
【基準配當】十四年十一月期　一割			
【獲想配當】	魚八、九五		
【時價】	舊八九、九		
【利廻】	五分六厘		
【名義書換】十錢【新券交附】二十錢	新八八五		

東洋ベアリング製造株式會社

（本　社）大阪市南區末吉橋通新橋ビル内（電話場　三八五―六）

【合併】昭和ベアリングの合併問題は久しく行き悩みの狀態にあつたが、愈々實現を見る段取りとなつた。大局的見地に立てば配當問題なんかに引摩つて右顧左眄して居るよりも、速かに斷行した方が結局將來の爲に有利なのだから、これが實現されるのは喜ばしいことゝ云はねばならぬ。

【配當は一割】ところで合併後の配當は如何。去る八月締切の本年上期決算では、東洋ベアは無論一割二分据置としたが、昭和ベアは結局六分配當に引き下げられた。當局者は八分配當を申請したのだが認可を得られなかつたのである。そこで東洋ベアの一割二分配當と昭和ベアの六分配當とを兩社の拂込資本で加重算術平均すると一割強となる。從つて合併後の配當は先づ一割と押へる他ないわけである。

【興味多し】然し、合併後の業績は向上を期待されるし、それに桑名工場、武庫川工場の擴充資金調達の意味から、舊昭和ベア株の拂込が矢繼早に徵收される筈だから、將來の樂しみは大きいと云はねばならぬ。尙ほ傍系滿洲ベアは目下六倍增資を申請中だが、これが許されゝば、東洋ベア現在の株主に對し二對一位の比率で割り當てられることゝなる見込だ。

【設　立】昭和九年三月
【決算期】二月、八月
【事　業】ボール・ベアリング、ローラーベアリング製造販賣
【資本金】……拂込濟　10,000,000
【株　數】……舊（額面）100,000
【重　役】
社長　丹羽　昇　取締　長谷川貫一
專務　水木善四郎　〃　佐田保一郎
取締　寺田　甚吉　監査　早瀨太郎三郎
〃　西條　二郎　〃　大森吉五郎
〃　森　富吉　〃　岸本五兵衛
【株主數】　十年下　十五年上　十五年下
總數（名）　1,760人　1,1[illegible]人
【大株主】
丹羽　昇　250,000　三和銀行　[illegible],000
鴻池信託　[illegible],000　日本生命　[illegible],000
藤本ビル　[illegible],000　共同信託　[illegible],000
岸本五兵衛　[illegible],000　野村信託　[illegible],000
木下　茂　[illegible],000　大同生命　[illegible],000
【事業規模】
桑名工場＝三重縣桑名市内堀
旋盤―九二臺　研磨機―一四臺　其他―四三臺
武庫川工場＝兵庫縣武庫郡良之村
年產能力……
【事業成績】　十五年下　十六年上　十六年下
軍需　高（千圓）　[illegible]　[illegible]　[illegible]
製造費（〃）　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【資本異動】十五年八月一千萬圓に增資第一回三圓五拂込徵收、十三年四月三圓五拂込徵收

【資產貸借】　十二年八月　十四年八月
株主資本　[illegible]　[illegible]
積立金　[illegible]　[illegible]
社外負債　[illegible]　[illegible]
借入金支拂手形　[illegible]　[illegible]
使用總資本　[illegible]　[illegible]
固定資產　[illegible]　[illegible]
投資勘定　[illegible]　[illegible]
流動資產　[illegible]　[illegible]
現金預金　[illegible]　[illegible]
【收支勘定】
收入　十五年上　十六年下　十七年上
支出　[illegible]　[illegible]　[illegible]
利益　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定償却　[illegible]　[illegible]　[illegible]
償却年率　10%　—　—
【業績】　利益率　配當率
十一年上　[illegible]　[illegible]
十一年下　[illegible]　[illegible]
十三年上　[illegible]　[illegible]
十三年下　[illegible]　[illegible]
十四年上　[illegible]　[illegible]
【株價】（實際）舊株　高値　安値
十三年　八八・〇　七〇・〇
十四年　八二・〇　七〇・〇
一―八月
【基準配當】　一割二分
【豫想配當】　十五年二月期　一割二分
【時價】八二・〇　【利廻】　七分三厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

不二越鋼材工業株式會社

（本　社）富山縣富山市石金二〇（電話[illegible]）
（事務所）東京市京橋區銀座西三丁目菊正宗ビル（電京橋三[illegible]）

【第二回拂込】遠般第二回拂込の徵收を内定、資金調整當局に認可を申請中だ。拂込金額は一株に付十二圓半宛、總額三百七十五萬圓だ。これは許可があり次第徵收されよう。

【擴充】拂込株金は本社、東岩瀨兩工場の擴張に投下される。本社工場の擴張は切削工具、ゲーチ、治具類等の倍增產（對十三年下期）とボールベアリング工場の建設を目指すもので、前者は既に大體一段落を告げ、愈よ目的の倍增產が可能な域に達したが、ベアリング工場の方は敷地の買收その他が若干遲延したゝめ豫定よりも後れて第一期計畫が最近漸く目鼻がついた程度だ。これは引き續き今後第二期計畫を進めることゝなつて居るが、これが全部終るのは明年末となる見込だ。東岩瀨工場は目下第三期計畫を續行中のもので、これは年内に完成の豫定だ。製品は高炭素鋼、ニツケルクロム鋼、高速度鋼、タングステン合金鋼である。これが終れば年產能力は現在の三千瓲から六千瓲になると推定される。

【向上期待】十一月締切の下期は切削工具、ゲーチ、治具類の增產設備が寄與するし、ベアリングの利益も若干見込めるから、假令軍需品單價の切下が行はれたにしても、業績は却つて向上を示す筈だ。延いて現配當も安泰である。

【設　立】昭和三年十二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】金切鋸及切削工具、精密機械器具、工具、鋼球、軸承、航空機部分品、內燃機關
【資本金】公稱＝五[illegible],000　拂込＝三[illegible],250　100,000
【株　數】……舊（額面）50　新（一[illegible]）
【重　役】
社長　井村　荒喜　取締　寺田　甚吉
〃　畠山小兵衛　〃　監査
取締　坂東　舜一　〃　岩田米次郎　〃　豐田利三郎
〃　金岡又左衛門　〃　山田　昌作
〃　高井　千尋　〃　蓮沼善之助
〃　伊藤忠兵衛　〃　國谷　惣助
〃　岸本吉左衛門　〃　加木秀三郎
【株主數】　十五年上　十六年上　十六年下
總數（名）　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【大株主】
伊藤忠商事　[illegible]　寺田　甚吉　[illegible]
井村　荒喜　[illegible]　蓮沼善之助　[illegible]
住友生命　[illegible]　細井恒夫郎　[illegible]
山田　昌作　[illegible]　畠山小兵衛　[illegible]
【事業規模】工場所在地及設備
富山第一工場　精密機械工場
富山第二工場　〃試驗機並精密研磨機
富山第三工場　鋼球及鋼軸子、球軸承
東岩瀨工場　特殊鋼製鋼工場
及鋼軸子軸承
【投資會社】藤井製作所、石川製作所
【資本異動】十三年三月第二不二越鋼材を合併、[illegible]萬圓增資、五月第二回九月第三回、十四年二月三回[illegible]經、各拂込徵收、五月一、[illegible]萬圓增資第一回三圓五拂込徵收

【資產貸借】　十三年五月　十三年十月　十四年五月
株主資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
積立金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
社外負債　[illegible]　[illegible]　[illegible]
借入金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
支拂手形　[illegible]　[illegible]　[illegible]
使用總資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
投資勘定　[illegible]　[illegible]　[illegible]
流動資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
現金預金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【收入勘定】
收入　[illegible]　[illegible]　[illegible]
支出　[illegible]　[illegible]　[illegible]
利益　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定償却　[illegible]　[illegible]　[illegible]
償却年率　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【業績】　利益率　配當率
十一年上　[illegible]　[illegible]
十一年下　[illegible]　[illegible]
十三年上　[illegible]　[illegible]
十三年下　[illegible]　[illegible]
十四年上　[illegible]　[illegible]
【株價】（實際）舊株　新株
十二年　高値　安値　高値　安値
十三年　[illegible]　[illegible]　—　—
十四年　[illegible]　[illegible]　—　—
一―八月　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【基準配當】　一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊[illegible]　新三[illegible]　【利廻】　六分六厘　三分九厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

日本エタニットパイプ株式會社

（本　社）東京市麹町區大手町日清ビル内（電丸ノ内二四八）

【外延的膨脹活潑】最近の當社の外延的膨脹は活潑だ。即ち、次の如き形態に依つて膨脹せんとして居る。(一)先づ滿洲エタニットの創立である。(二)次に共盛煙草への參加だ。同社の事業地は上海で現在資本金百萬圓であるが、近く一千萬圓への增資を機會に當社が經營に參加すると云ふのである。(三)山形縣下にあるアルミニュームの原料たる白土を利用して、化學工業方面に進出せんとする。但しこれは最初資本金百萬圓程度の小規模から出發する豫定だ。(四)當社はエタニットのパイプの原料たるアスベストの獲得に奔走の結果北海道を初め、朝鮮、滿洲、北支等に於けるアスベスト資源を確保したので、アスベスト販賣會社を設立せんと計畫して居る。

【手放しの樂觀は禁物】右の擴張計畫は何れも目下進行中で、具體化されてないものが多い。從つて、いま少し時期の經過を俟たねば批判出來兼ねるが、唯が、此處でハッキリと云へることは、以上の膨脹計畫を以つて直ちに當社の發展と解し、手放しに樂觀してはならぬと云ふことである。

【業績の順調】處で、當社自體の業績を何うかと云ふに順調である。去る五月期は利率二割七分六厘を以つて一割配當を据置いたが、可なりの內面償却が行はれた模樣である。

【設　立】明治三十六年二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】エタニットパイプ及同附屬品
【資本金】公稱＝三、七〇〇　拂込＝二、四〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　新（二五・〇）
【重　役】社長　篠塚　宗吉
常務　大野　萬夫　取締　林　卯之助
取締　石黑七三郎　〃　坂下　致治
〃　大西虎之介　監査　松浦　孝治
〃　高田　道信　〃　小山倉之助
【株主數】十五年上　三、二一〇　十五年下　三、二一〇
【大株主】篠塚　宗吉二、四〇〇　エタニット證券　六、〇一〇
大西虎之介　六、八〇〇　野村證券　五、〇一〇
野間　サエ　五、〇〇〇　山本元三郎　五、〇一〇
橋本　祖一　三、〇〇〇　畑谷　信治　三、〇一〇
石黑七三郎　一、九四〇　第一興業　一、九九〇
【事業規模】十四年上期現在
工場名　設備　月產能力
大宮　四米製管機一臺　八〇〇瓩
東京　三米製管機一臺　四〇〇瓩
四國　三米、四米製管機各一臺　六〇〇瓩
蒲田　鑄物工場　磨解盤二基　三〇〇瓩
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
賣上高（千圓）　三、〇四四　三、六九二　三、六九二
製造費（〃）　一、三五〇　二、二四〇　二、二九
營業費（〃）　二一〇　二九八　二九八
【投資會社】エタニット證券
【資本異動】昭和九年十二月第二エタニットパイプを合併し、五〇〇千圓增資十二年十月五圓十三年七月五圓に各拂込增收

【資產負債】

	五十二年十一月	十三年十一月	十四年上
株主資本	四、八九九	四、九九四	六、三三四
積立金	五五八	六六九	八四四
外部負債	八〇九	四一四	五四三
支拂手形	四一四	四四〇	五九七
使用總資本	六六八	八、四一一	八、八四九
固定資產	一、六三一	一、九二三	三、六九六
投資勘定	三二三	一、二四六	一、〇〇六
流動資產	四、四〇四	五、六四一	五、九九六
現金預金	四三九	六〇四	七四四
【收支勘定】十五年上		十六年上	十六年上
收入	五、六九九	五、〇〇二	五、八八四
支出	四、一四一	四、一四一	四、九〇四
利益	一、五五八	八六〇	八八九
固定消却	一〇〇	一〇〇	一〇〇
消却年率	二九・九六	二九・九六	二九・九六
【業績】	利益率	配當率	利益率
十二年上	六・二一	一・〇〇	六・二一
十二年下	二・五六	一・〇〇	六・二九
十三年上	二・五三	一・〇〇	五・四九
十三年下	二・五五	一・〇〇	五・四九
十四年上	二・九二	一・〇〇	五・八〇
【株　價】（實物）舊	高値	株	安値
十二年	四〇・〇	新	一〇・〇
十三年	四〇・〇	株	一〇・〇
十四年	四〇・〇	高値	安値
一一月	四〇・〇	二五・〇	一〇・〇
【基準配當】一割			
【豫想配當】十四年十一月期　一割			
【時價】舊　四〇・〇　新　四〇・〇	【利廻】七分七厘　六分二厘		
【名義書換】十五錢　【新券交附】五十錢			

愛知時計電機

【設　立】明治三十一年六月
【決算期】五月、十一月

（本　社）名古屋市熱田區千年字鈴方一五（電南局一三三）

【拂込矢繼早】昨年十二月增資新株の第二回拂込百五十萬圓を徵收したが、本年九月一日更に第三回拂込三百六十萬圓を徵收した。二百二十五萬圓は發動機工場の增築及本社工場の改增等に充當し、殘り百三十五萬圓は運轉資金に振向ける。工事の進行如何では來春にでもなつて各新株共若干の拂込を徵收せねばなるまい。

【擴張二段構へ】それとは別途に當社は新らしく庄內川尻に兩三年中に完成すべき大擴張計畫を進めて居る。敷地買收は既に濟んだ。これから本格的な建設に取掛る譯だが、相當の資金が要る。これを如何にして賄ふかが問題だが、現行配當に疵がつくような事はない。

【資本金】公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝二、八三五
【株　數】……舊（八〇・〇）　新（二五・〇）
【重　役】社長　青木鎌太郎　取締　伊藤大郎左衛門
常務　增本敏三郎　〃　鈴木穗一郎
〃　神田　純一　〃　櫻田穗太郎
取締　平野　常樹　〃　髮本　元
〃　岡谷　惣助　〃　渡邊　義郎
〃　鈴野　金之助
【大株主】十四年五月期　八〇名
鈴木穗一郎　三、六〇〇　青木鎌太郎　三、三〇〇
五明得一郎　三、一〇〇　受知銀行　八、二〇〇
伊藤大郎左衛門　二、〇〇〇　鈴野金之助　三、一〇〇
【業　績】

	利益金	利率	配當率	利益率
十二年上	五四三	一・七七	〇・八強	四・八八
下	五二八	一・七七	〇・八強	四・六七
十三年上	七九七	二・五六	〇・八強	六・五六
下	一、〇六三	二・二三	〇・八強	八・八七
十四年上	一、一五五	二・〇一	〇・八強	九・六五

【株　價】（實物）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
十四年　九五・〇　六五・〇　六六・〇　四四・〇
一人月　八六・〇　四六・〇　四六・〇　四一・〇
【據想配當】十四年十一月期八分強（八分強）
【時價】舊　七六・〇　新　四一・〇　【利廻】五分九厘　五分四厘

昭和重工業

【設　立】昭和九年六月
【決算期】三月、九月

（本　社）名古屋市西區島崎町一

【東京工場進捗】東京工場は此の程建物を完成し目下機械を搬入中である。一部操業を開始したが未だ本格化されず、豫定より多少遲れて明春から第一期建設々備が稼行狀態に入るものと思はれる。當工場は直接中島飛行機と關聯がついてをり製品販賣に懸念はない。

【將來に期待】現在の所、擴張過渡期で十分な收益を擧げ得る狀態には至らない。親會社豐田式織機より助成金を仰ぎ配當を行つてゐるが、未だ獨り歩きは困難な事情にある。然し新川工場の未働資產が活躍するのも近く、明春東京工場の本格的操業も可能で、中島飛行機との提携が密接になつた今日、將來に對する期待は大きい。

【資本金】公稱＝八、〇〇〇　拂込＝六、〇〇〇
【株　數】……舊（一六〇・〇）　新（一〇〇・〇）
【重　役】會長　兼松　熙　取締役
取締役　野崎　藏一　取締役　宮本　作藏
〃　袋子愛太郎　〃　釜田　信世
〃　川崎　鑒　〃　齋藤　龍二
【大株主】十四年三月期　一、六三〇名
豐田式機械　四九、三九〇　川崎　鑒　一、六三〇
川崎共濟會　五、〇〇〇　中島飛行機　五、〇〇〇
【事　業】航空部分品、兵器等の製造販賣
【資本異動】十五年五月五百万圓增資第一回
十一月、第二回十四年六月新舊共各二圓五拂込徵收
【工場所在地】
新川工場　名古屋市西區新川町
東京工場　東京府小金井
【業　績】

	利益金	利率	配當率	利益率
十三年上	四五〇	〇・六	〇・六	〇・六
下	八五〇	〇・六	〇・六	〇・六
十四年上	一四四	〇・六	〇・六	〇・六

【株　價】（實物）高値　安値
十三年　三五・五　三五・二
十四年　四一・五　三五・五
一一八月
【豫想配當】十四年九月期　七分（七分）
【時價】四〇・〇　【利廻】六分六厘

岡本工業

【設立】大正八年三月
【決算期】五月、十一月
（本社）名古屋市昭和區東郊通七ノ一五（電瑞穂三四一—三）
（出張所）東京市神田區末廣町一（電下谷三三九）

【擴張進行】當社は自轉車製造部門を縮少し航空機部分品生産に鮮かな轉換をなし、之が意想外に成功して業績は急向上した。そこで更に變態增資の形式をとり岡本航空機工業を創立し、航空機製作にまで手を伸ばした。航空機部品分製造にせよ、航空機體製造にせよ何れも其の緒についた許りで擴張は寧ろこれからだ。共に名古屋市笠寺を中心に工場の大擴張を遂行中である。

【拂込接近】笠寺工場の擴張費は大約三百萬圓を豫想されてゐる。兵器部門の擴充も引續き行はねばならず、拂込徵收によつて之等莫金を賄ふ意嚮とみられるから年內には徵收實現の運びとならう。

【資本金】公稱＝六、三〇〇、〇〇〇　拂込＝四、〇九〇、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）六五、〇〇〇
　　新（二二、五）六五、〇〇〇
【重　役】
社長　岡本　松造　取締　岡本直次郎
常務　岡本　德松　〃　松崎　房吉
取締　大澤鹿太郎　監査　水野　榮吉
【大株主】十四年五月期　三三名
岡崎鉄工所　一三、〇〇〇　古河電工　一八、〇〇〇
岡本直次郎　一七、六〇〇　川崎航空機　六、〇〇〇
【工場所在地】名古屋市昭和區東郊通
本社工場　名古屋市南區笠寺町
笠寺工場　名古屋市南區笠寺町
委井工場　岐阜縣委井町

【事業成績】　十五年上
作業收入（千圓）四、五三五　六、一三〇
製品原價（千圓）三、二九一　四、〇四五
【業　績】　利益率　配當率　利益率
十三年上　一、〇〇　八、二五　八、三五
下　七、五四　四、六　一、〇〇　七、五三
十四年上　一、四七四　七、二六　一、〇〇　八、五三
【株　價】（實物）舊株　新株
十四年　六六、〇　六〇、〇　二四、〇　三一、〇
一—八月
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時價】舊六〇、〇　【利廻】七分九厘
新三一、〇　五分七厘

川西航空機

【設立】昭和三年十一月
【決算期】三月、九月
（本社）兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字大東

【拂込・增資】機體、發動機、プロペラ、組立の全部門に亘る擴充を斷行する意味から、隣接するゴルフリンクの一部を買收すると共た別に敷地を物色して分工場の建設を目論んで居る。これ等の擴張資金を支辨するためには、結局拂込、增資が不可避と目される。差當つて年內には最終拂込の徵收が實現すると想像される。

【不安なし】九月締切の下期も依然好成績が期待される。上期の計上利益は百十二萬六千圓で、利益率二割二分三厘に當るが、下期も此の程度の利益率は充分得られよう。さうとすれば現行八分の配當は餘裕綽々と云つてよい。

【資本金】公稱＝一、〇〇〇、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）一〇〇、〇〇〇
　　新（二二、五）一〇〇、〇〇〇
【重　役】
專務　川西　龍三　取締　岩田　穀一
取締　川西　清司　監査　井上　治郎
〃　高尾　繁造　〃　西岡　謙二
〃　清水　朝郎　相談　川西清兵衛
〃　奥津慶一郎　顧問　枝原百合一
【大株主】十四年三月期　四四一名
川西清司　六六、三三七　川西龍三　六、五六六
川西　清　三六、〇〇〇　川西美榮子　九、九〇〇
川西よね　七、五〇〇　川西喜美子　六、〇〇〇

【事　業】飛行機機體並部分品
【事業規模】
工場所在地……兵庫縣鳴尾
敷地坪數……
機械設備費原價……
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益率
十二年度　八〇　六、六四　〇、七五　八、八四
十三年九　六四四　三、五三　〇、八〇　七、九三
十四年三一、二六　三、三五　〇、八〇　六、二九
（十二年度は一年決算）
【豫想配當】十四年九月期　八分（八分）
【時價】—　【利廻】—

立川飛行機

【設立】大正十三年十一月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市麹町區海上ビル新館（電丸一三三五—六）

【成績向上せん】當社は二、三期來利益率の低下に見舞はれてゐたが、今期は好轉するものと思はれる。立川、砂川兩工場が時局柄相當擴張してゐるので從來その壓迫があつたが、それが順次稼働し初めるからだ。航空機工業はどの會社も繁忙を極めてをり、當社亦同樣で、××用民間用の兩方面の需要に應じてゐる。

【拂込近し】それでも增配は一寸行ひ難い。三菱重工業の例を見ても判る如くだ。それに當社は今少し償却を充分にして內容を固める必要もある。然し成績が向上すれば、新株に拂込徵收あるものと見るべく、次期中に具體化するのではあるまいか。

【資本金】公稱＝三、〇〇〇、〇〇〇　拂込＝二、三五〇、〇〇〇
【株　數】（單位＝千株）舊（五〇、〇）八〇　第二新（二二、五）二五〇
【重　役】
會長　門野重九郎　取締　淺川　眞砂
專務　橫山虎三郎　監査　田中榮八郎
常務　堀山　和雄　〃　後藤幸三
〃　指山　蓬二　〃　戶川政治
取締　藤谷　溜　相談　原　邦造
【大株主】十四年十一月期　三七名
愛國生命　八〇、〇〇〇　大倉商事　一、一〇〇
日本航空輸送　五〇、〇〇〇　後藤哲一　一四一、八五〇
【事業場】立川工場　北多摩郡立川町

【業績成績】　十三年上　十三年下　十四年上
作業收入（千圓）三、三三〇　四、四四三　八、一九六
作業原價（〃）二、八七二　三、九三三　七、四九一
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益率　配當率
十三年上　四六、六　一、五五　〇、七五　五、〇三　八、八四
下　五五、三　一、四三　〇、七五　四、五五　七、五三
十四年上　七四、五　一、三三　〇、七五　四、三四
【株　價】（實物）舊株　新株
十四年　高値　安値　高値　安値
一—八月　五三、六　五〇、四　二六、〇　二六、二
【豫想配當】十四年十月期　七分（七分）
【時價】舊五二、五　新二六、三　【利廻】六分七厘　六分一厘

昭和飛行機工業

【設立】昭和十二年六月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市日本橋區小舟町二ノ一（電茅場町三六六—九）

【收入增加】當社は今年上期に×需品、飛行機修理等で百四十七萬二千の收入を擧げた。下期はグラスDC3の組立も行ひ、工場の建設整備（第一期）略一段落のことゝて、右以上の稼ぎあることは確實だ。工場は東京府下昭和村の東京製作所と朝鮮の平壤製作所とで、主力は勿論前者だ。××及民間兩方面の使用機を作る。

【次期初配か】此種事業は基礎時代を堅實にして置くことが大事だから、初配當も急ぐことなく、尠くともう一、二期自重すべきものと思ふ。然し第二回拂込徵收のこともあるから、次期十五年上期には低率配當を開始するかも知れない。創立は新しいが興味會社だ。

【資本金】公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
【株　數】……（二二、五）　三〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　牧田　璋
常務　才瀨　和吉　取締　鈴原　又策
〃　一色　所兒　〃　水木　忠治
〃　石橋正二郎　監査　久保田繼四郎
取締　橋本圭三郎　〃　見城　重平
〃　豐田喜一郎　〃　藤野　勝太郎
〃　栗本勇之助　〃　遠藤　柳作
〃　藤原銀次郎　〃　赤司初太郎
〃　後宮信太郎　〃　望月軍四郎
【工場所在地】東京
【營業種目】各種飛行機並部分品、各種內燃機關並部分品
【大株主】十四年五月期　四、六四名
後宮信太郎　一〇、〇〇〇　石橋正二郎　一〇、〇〇〇
三井物產　一〇、〇〇〇　赤司初太郎　一〇、〇〇〇
望月軍四郎　一〇、〇〇〇　藤野勝太郎　一〇、三五
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益率
十三年上　—　—　未配　—
下　—　—　未配　—
十四年上　—　—　未配　—
【株　價】（實物）高値　安値
十四年　一八、四　二、〇
一—八月
【豫想配當】十三年十一月期未配（〃六分）
【時價】一九、八　【利廻】

篠原機械製作所

【設　立】昭和九年十月
【決算期】六月、十二月

（本　社）東京市麹町區丸ノ内ビル内（電丸ノ内五三三）

【二分減配の意味】六月締切の上期決算では二分減の一割配當とした。上期は利益金のみからみる限り其の前期に比し著しい増益だが、賣上高は却つて幾分減少を示してゐる。收益を擧げてゐた越ケ谷工場を賣却しては、さもありなんといふべきだ。増益となつたのは經費の節約と右の賣却益金に因るのである。拂込資本が膨脹し且つ千葉工場が本格的に操業しない以上減配して將來に備ふべきだ。

【前途】昭和工作機械の合併で社長がやつと株主になり、これで惱みの一部は解消した。然し當社の如き大會社に發展した所では技術家が社長一人では心許ない。此の點、將來に對する不安が殘る。

【資本金】公稱＝九〇〇〇　拂込＝八〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　一〇〇〇
　　新（一〇〇・〇）　四〇〇〇
【重　役】社長　篠原　義治
　取締　篠原　爲藏　七藏
　〃　小島　監査　野中　鼎吉
　〃　竹川　久仁　〃　林加　泰　莊治
【大株主】十四年六月期　莊治一三〇・七〇　八九四名
　篠原　義治一三〇・七〇
　野中　熊吉　八・六五
　逸見　知久　六・四〇
　篠原　爲藏　七・三〇
　山一　株式　六・四〇
【資本異動】十四年一月三百萬圓增資し昭和機械製作所を吸收合併
【事業沒收】直營工場　越谷、本所、墨堤
　專屬工場及製造品
　第一工場　旋盤
　第二工場　ナライ盤
　第三工場　形削盤
　第四工場　旋盤
　第五工場　小形ナライ盤
　第六工場　小形旋盤
【業　績】　利益金　利率　配當率　利益積立
　十二年下　二九三　四・九五　一〇・〇　六・〇五
　十三年上　四〇二　五・二五　一〇・〇　六・一四
　　下　四〇三　五・二五　一〇・〇　六・一四
　十四年上　一・六六　四・五五　一〇・〇　六・八九
　　下　一・八〇　七・二〇
【株　價】（實勢）舊　株　安値　高値　新　株　安値　高値
　十三年　一三・〇　五・五　三〇・三　一八・五
　十四年　一八・〇　五・五　三〇・〇　一八・五
【豫想配當】十四年六月期一割（一割五分）
【時價】舊　五・五　新　三・五
【利廻】八分六厘　八分六厘

大阪若山鐵工所

【設　立】明治三十一年四月
【決算期】五月、十一月

（本社）大阪市西成區長橋通二ノ一二（電戎六四〇）一四
（支社）東京市麹町區丸ノ内丸ビル（電丸ノ内五三〇）

【拂込・増資】去る九月一日百五十萬圓の未拂込を徵收したが、目下施行中のボール盤工場が完成する頃には更に拂込徵收の必要に迫られよう。ボール盤工場は去る八月から操働し始め、年内には全部完成するが、その頃になれば拂込機運が熟すると思ふ。當社は此のボール盤工場に續いてターレット盤工場の建設計畫を樹てゝ居るがこれが實現すれば、結局増資に迄漕ぎつけるであらう。

【一割で安定】下期は僅か乍らもボール盤工場の收益が期待されるし、また過紋買收した秋田鑄物も業績に寄與するから、成績は好變しよう。一割配當は安定配當と云つてよからう。

【資本金】公稱＝七〇〇〇　拂込＝三〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　四〇〇〇
　　新（二二・五）　八〇〇〇
【重　役】社長　谷田　俊二郎　取締　谷田　國夫
　常務　渡邊　政夫　〃　牧田　茂七
　取締　高木　半兵衛　小山　新三郎
　〃　下田　廣一　山川　信一郎
　專務　若山　龍三　櫛本　信一郎
　〃　清水　正夫　〃　監査　服部　弥一郎
【大株主】十四年五月期　六六名
　同興產業二五〇　安田　信託二三〇
　若山　龍三　八〇
　谷田　俊二郎　七〇
【主要製品】高級工作機械、精密工具ゲージ類、航空機部分品
【工　場】本社工場、信太山工場
【業　績】　利益金　利率　配當率　利益積立
　十二年下　三〇・〇　四・五　一〇・〇　六・三六
　十三年上　四〇・〇　五・四　一〇・〇　六・四六
　　下　四〇・〇　五・四　一〇・〇　六・四六
　十四年上　五・一　七・七　一〇・〇　六・八六
　　下　一・〇　六・八六
【株　價】（實勢）舊　株　安値　高値　新　株　安値　高値
　十四年　四〇・〇　四・五　三〇・〇　一八・五
　一八月　四〇・〇　四・五　三〇・〇　一八・五
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割二分）
【時價】舊　四・五　新　四・五
【利廻】七分九厘　八分二厘

明電舍

【設　立】大正六年六月
【決算期】四月、十月

（本　社）東京市品川區東大崎二ノ二七六（電大崎三五一一八〇）

【擴張順調】七百五十萬圓增資により擴張工事も順調に推移してゐる。大崎工場の増築は今春完成直ちに操業開始となつたが、部分的擴充は引續き行はれ、羽田工場も變壓機、電動機工場の完成により一偉力を加へるに至つた。品川の配電盤、名古屋の電動機兩工場は尙ほ擴張中で近く全能力を發揮することゝなる。豫定される所要資金は一千萬圓に及ぶから拂込の追徵が豫想される。

【一割持續】毎期銷却控除後の利益率ですら二割以上に及び、之で一割配當を持續してゐる。採算は多少惡化するが現行配當に不安は見られぬ。大陸からの註文は殺到し當分製作繁忙は續かう。

【資本金】……拂込濟　一〇〇〇〇
【株　數】……（五〇・〇）　一〇〇〇
【重　役】社長　重宗　雄三
　常務　金子金次郎　取締　竹内壽太郎
　取締　横田貫次郎　監査　石山　龍藏
　〃　大野清三郎　〃　澤野鐵太郎
　〃　阿部太九三　〃　飯田　歌吉
　〃　山田　利平　〃　守谷　正夢
【大株主】十四年四月期　四八名
　山一證券三三〇　重宗　雄三三〇
　重宗　芳水一七〇　日本生命一〇〇
　金子金次郎四八五　横田貫次郎四八五
【事業規模】
　工場所在地本社、品川、羽田、名古屋
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
　十三年上　八〇・〇　二・九五　一・〇〇　六・三
　　下　九・六　一・〇〇　六・一六
　十四年上一〇四・六　二・〇五　一・〇〇　五・三
【株　價】（實勢）舊　株　安値　高値
　十三年　四〇・〇　二・〇　六三・〇
　十四年　四〇・〇　二・〇　六三・〇
　一八月　六〇・〇　六三・〇
【豫想配當】十四年十月期一割（一割）
【時價】五・五　【利廻】六分五厘

大阪電氣

【設　立】大正十五年二月
【決算期】五月、十一月

（本社）大阪市住吉區北加賀屋町四（電櫻川　吉四一二）
（營業所）大阪市西區靱下一ノ三一（電土佐堀二六八）

【成績不變】當社の上期は利益金百十萬五千圓で利益率は五割五分を示した。前期に比し一分の低下だ。之は拂込資本が前期より二百萬圓餘り膨脹した爲めであつた。配當は一割一分を据置きとした。

【前途】安値原料一掃後の今年下期以降の見透しは手放しの樂觀は出來ない。主製品バイトも統制されることになつたし、値下の程度もかなり强かつたものゝ如くであるからだ。原料自給を計畫してゐるようだが、今から始めたのでは仲々實現に骨が折れよう。一分配當の減配は早晩止むをえないことだらう。

【資本金】公稱＝六〇〇〇　拂込＝五〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　四〇〇〇
　　新（一二五・〇）　八〇〇〇
【重　役】
　會長　後藤　幸三　取締　守谷　正毅
　社長　大津　啓一郎　〃　木原　菊太郎
　取締　田邊　啓一　〃　早崎　又雄
　〃　立花　監査　福田　機治郎
　〃　新　〃　曜道　文藝
　〃　十郎　〃　山政　太良
　〃　三井　英一　〃　森　松貞次郎
【大株主】十四年五月期　七二〇名
　愛國生命六九〇　三井　英一七〇〇
　後藤　啓一五〇〇　大和田好三郎四八〇
【事業規模】工場所在地　大阪
【月產能力】十二年十一月現在
　鎔接機……一〇〇〇瓩
　被覆鎔接棒……五〇〇〇萬呎
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
　十三年上　五六二　七・〇五　一・一〇　八・〇六
　　下一〇〇九　八・四四　一・一〇　八・一六
　十四年上一〇四五　七・二六　一・一〇　八・二六
【株　價】（實勢）舊　株　安値　高値　新　株　安値　高値
　十三年　高値　二・〇　安値　二・〇　新　株　安値　高値
　十四年　二・〇　二・〇　五六・三　五六・〇
　一八月　五六・〇　五六・三　五六・〇　一六・〇
【豫想配當】十四年十一月期一割一分
【時價】舊　六六・五　新　五五・五
【利廻】八分二厘　七分六厘

小糸製作所

【設立】昭和二年四月
【決算期】三月、九月
（本社）東京市品川區東品川四ノ一一（電話高輪二〇〇六）

【拂込徵收】十月二日新株一株十二圓半、總額六十二萬五千圓の拂込を徵收し、照明器具、レンズの增產設備資金に充當する。然し横濱市戸塚町の敷地も大陸交通器材の發展に伴ひ新工場建設の運びとなる筈で、近く工事に着手するから引續き拂込を徵收せねばなるまい。明年四月頃には行はれるものと思はれる。

【戰爭の影響】元來當社は國產技術に依つて今日迄輸入品を防遏して來た。輸入器具の減少はそれだけ當社に好況を齎す結果を招來する筈だ。子會社眞空鍍工は製品市販の運びとなつたし大陸交通器材も操業を開始した。直接關係當社を益すること尠くない。

【資本金】……公稱 二〇〇〇〇〇 拂込 一二五〇〇〇
【株　數】……額面（五〇・〇）新（二二・五）
【重　役】
社長 小糸源六郎　取締 池田貞勛
專務 山本信吾　〃 森勝吉
常務 小糸榮一郎　監査 岩下和策
〃 加藤眞一　〃 小柴廣
【大株主】十四年三月期
小糸源六郎 三、三四〇名
山本信吾 三、〇〇〇　川島屋店 三、〇〇〇
山本俊子 三、〇〇〇
【營業科目】鐵道、艦船、車輛其他の各種照明機器及信號機、光學用製品並各種硝子製品其他一般電氣機器
【事業規模】工場 品川
【投資會社】眞空鍍工、北支交通器材
【業　績】
利益率 配當率 利益率
十三年上 四・五 一・八〇 〇・八〇
下 三・三 一・八〇 〇・八〇
十四年上 四・五 二・五 〇・八〇 六・四七
【株　價】（實物）舊 株 新 株
十三年 高値 二〇・〇 安値 一〇・〇 高値 一二・五 安値 一〇・三
十四年 一八月 兵・〇 吾・〇 三・〇 一三・三
【豫想配當】十四年九月期 九分（九分）
【時價】舊 吾〇・〇 新 二六・〇
【利廻】七分八厘 五分九厘

日本光機工業

【設立】大正八年七月
【決算期】三月、九月
（本社）橫濱市鶴見區潮田町一四二（電話鶴見三三六）

【新株の賣出し】新株は本年の二月、四月、六月と未拂込を追徵し、全額拂込となつたが、此の全額拂込となつた新株のうち八千株程が最近公開された。公開した意味は時局柄、種設備の擴張に更に資金を要するが、大株主方面に於て增資新株を引受ける能力が缺けてをるので、その株式を分散し、再增資への體制を整へたのだ。

【安田との提携】この新株賣出しを契機に、安田信託が大株主の株式肩替りにより、當社の金融を見ることとなつた。かくて、今後の擴充に資金調達の心配はなくなつた。業績は時局柄有望を極め、今後の發展には見るべきものがあらう。注目に値する。

【資本金】……拂込濟 三、二五〇
【株　數】……額面（二五・〇）二五、〇〇〇
【重　役】
社長 岡喜七郎　取締 駒山鑒
專務 若月國立　常監 國峰宏保
取締 小島榮太郎　監査 柳下勘十
【大株主】・十四年三月期
小島榮太郎 九、二〇〇　國峰宏保 七、五〇〇名
駒山繁 三、二〇〇　若月國立 三、五〇〇
柳下勘七 三、二〇〇　青海秀孝 一、六二〇
【營業種目】花火及航空燈臺用レンズ並陸海軍照明器具
【投資會社】吉川發動機、橫濱綠識製作所
【事業成績】十五年上 九年下 十六年上
實上高（千圓）一、六九 一、八六六 一、八三三
工場元入（千圓）一、八三三 一、八三三 一、八三三
【業　績】
利益率 配當率 利益率 配當率
十三年上 一、八〇 一、八〇 一、八〇 一、八〇
下 一、八〇 一、八〇 一、八〇 一、八〇
十四年上 二、五 一、八〇 六、四七 一、八〇
【株　價】（實物）
高値 安値
十四年 兵・〇 吾・〇
一八月 吾・〇
【豫想配當】十四年九月期 一割（一割）
【時價】兵・〇
【利廻】七分六厘

日新電機

【設立】大正六年四月
【決算期】四月、十月
（本社）京都市右京區梅津高畝町二〇（電話京都四九一一四）
（支社）東京市麹町區丸之內海上ビル（電話丸之內五〇六六）

【向上期待】當社は電機類及び計器類の製作に當つて居るが、これ等の製品はすべて時局關係品なるため、事業は頗る繁忙を呈して居る。此のため實績も亦可なり良好だ。試みに去る四月締切の本年上期計上利益は十六萬二千圓で、利益率二割一分六厘に當り、八分配當には充分の餘裕を殘して居るのである。十月締初の下期は本社工場に於ける擴張設備が寄與するから、業績は更に好轉する見込だ。

【拂込機運】電機類、計器類の受註激增から、當社も更に擴張に迫まられて居り、當局者も何等かの計畫を有するものゝ如くだから、これが具體化すれば何れ第三回の拂込が實現しよう。

【資本金】……公稱 三、〇〇〇 拂込 一、五〇〇
【株　數】……額面（五〇・〇）新（一二・五）
【重　役】
會長 岡崎貞伍　取締 別宮貞俊
專務 小島懷一　〃 久米勇
常務 清田岩夫　監査 太田茂雄
取締 高倉俊吉　〃 三宅省三郎
【大株主】十四年四月期 一四九名
住友生命 七、八〇〇　住友電線 五、〇〇〇
協村市太郎 二、〇〇〇　小島懷一 二、〇〇〇
龜田利吉郎 二、〇〇〇　清田岩夫 一、九二〇
【事業規模】
工場所在地 京都、東京
【業　績】
利益率 配當率 利益率 配當率
十三年上 一・九 一・八〇 〇・八〇 〇・八〇
下 一・九 一・八〇 〇・八〇 〇・八〇
十四年上 二・五六 二・一六 〇・八〇 〇・八〇
【株　價】（實物）舊 株 新 株
十四年 高値 安値 高値 安値
一八月 八・五 五六・五 二四・五 三〇・五
【豫想配當】十四年十月期 八分（八分）
【時價】舊 八〇・五 新 二四・五
【利廻】六分六厘 五分八厘

宮田製作所

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市蒲田區東六郷二ノ一九（電話田園五三一一五）

【拂込徵收・增資】當社は九月二十六日に一株十二圓半、總額七十一萬六千二百五十圓の拂込を徵收する。これに依り當社は五百萬圓の拂込濟會社となる。拂込徵收の目的は借金の返濟にある。蒲田工場の隣接地に新設した三階建鐵筋コンクリートの航空機部分品工場は約二百萬圓の借入金で賄はれたのであるが、これを返濟するのである。だが勿論之だけでは不足するので、當然增資が期待される。

【業績】業績は順調だ。航空機部品製作が繁忙を呈して居るからである。而も最近は自轉車の方も復活し、大陸方面へ相當輸出される樣になつたが歐洲戰亂に依つて更に南洋方面に進出するだらう。

【資本金】……拂込濟 五、〇〇〇
【株　數】……額面（五〇・〇）一〇〇、〇〇〇
【重　役】
社長 宮田榮太郎　取締 宮田敏夫
取締 宮田彦之助　〃 加藤作郎
〃 大場惣太郎　〃 國本英
〃 森本美寄　監査 宮田藤治郎
【大株主】十四年五月期
宮田榮太郎 八、九四〇　宮田藤治郎 一、〇四〇名
宮田敏夫 三、七四〇　宮田福三郎 三、〇四〇
【營業種目】航空機部分品、自轉車、オートバイの製作販賣
【工場所在地】東京、大多賀、福岡
【事業規模】資本金……〇、〇〇〇千圓
【投資會社】滿洲宮田製作所、旭ライトカー販賣、其他
【業　績】
利益率 配當率 利益率 配當率
十二年下 一、〇 一、〇 〇、〇 〇、〇
十三年上 六、二 一、〇 〇、〇 〇、〇
十四年上 七、二 一、〇 〇、〇 〇、〇
【株　價】（實物）
高値 安値
十三年 六六・五 二四・五
十四年 六四・五 三〇・五
一八月
【豫想配當】十四年十一月期 一割（一割）
【時價】六六・〇
【利廻】七分四厘

石井鐵工所

【設立】大正八年十一月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市麻布區有栖町一東日會館二階（電丸之内四五三）

【擴張續行】蒲田工場の擴張を續けてゐるが、年末頃までには完成する見込みである。製鐵、鑄鋼の外に工作機工場を設けるもので、約百二十萬圓を要するが、手許保留金で賄つてゐる。他方化學機械裝置に對する注文は依然多いが、歐洲動亂で獨逸から石炭液化、人造石油、硫安、製鐵、輕金屬用の機械の輸入が杜絶し、當社への注文殺倒が豫想され、當局者も準備を整へてゐる。

【函館株賣却】函館船渠の持株の半分約二萬株を岸本商店關係へ賣却した。函館自體が餘り伸びぬし、持株の負擔が大き過ぎたためである。併し、肩代り値段は相當よかつたので、充分利益を得てゐる。

【資本金】公稱＝10,000　拂込＝5,250
【株　數】……舊（250.0）　5,250,000
　　新（125.0）　2,500,000
【重　役】
社長　石井　太吉　取締　石井　悅朗
常務　富永　丈吉　〃　我孫子駒吉
取締　高橋　保　監査　大澤　榮吉
〃　野長瀬忠勇　〃　〃　石井　寛
〃　坂井　定吉　〃　〃　森谷　鶴治
【大株主】十四年四月期
石井　太吉　10,625　日本生命　1,825,000名
第一徵兵保險　7,000　昭和生命　6,000
【事業成績】
　　上期　下期
製作高（千圓）　四、八五三　一、一〇一
受注總額（千圓）　一〇、一五四　一五、四〇〇
【事業規模】工場所在地月島、蒲田、龜戸
【投資會社】桐生機械、東京車輛製作所
【業　績】　利益率　配當率　利益率
十三年上　九、九六　四〇〇　五、六八
下　一〇、〇六六　四〇〇　一、五〇　五、九八
十四年上　一、一五五　四〇〇　一、五〇　六、二
【株　價】（實勢）舊　株　新　株
十三年　高値　九三、八　安値　空〇〇　高値　四二、三　安値　三一、五
十四年　空〇〇　空〇〇　空〇〇　空〇〇
一—八月　空〇〇　空〇〇　空〇〇　空〇〇
【豫想配當】十四年十月期（一割二分）
【時價】舊　新　元、三
【利廻】七分六厘　五分一厘

荏原製作所

【設立】大正九年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市蒲田區羽田三丁目一三四（電高輪三八四）
（營業所）京橋市紺町區丸ノ内丸ビル（電丸ノ内三三）

【拂込徵收期待】前輯報告した如く、當社の擴張計畫は仲々活潑だ。滿洲に別會社創立を目論むと同時に工作機械を分部離して川崎の住吉に移し、大擴張中である。だが、工作機械工場の運轉開始は相當遲れるものと思はれ、先づ操業開始は十六年の下期からと想像される。その間相當額の資金が睡眠する。そこで、建設費は配當率の高い株金を出來るだけ避けて借入金で賄ふか、場合に依つては變態增資するかして、未働資本の壓迫から免れる樣にするだらうが、何れは拂込を徵收せねばなるまい。年内には實現すると思ふ。

【業績】一時業績は低下するだらうが、一割二分配當は据置かん。

【資本金】公稱＝10,000　拂込＝6,750
【株　數】……舊（250.0）　6,750,000
　　新（125.0）　1,250,000
【重　役】
專務　山岸　靖一　取締　島山　一清
常務　酒井　僖蔕　監査　安本　明治郎
取締　門倉　錄造　〃　島倉　吉次
〃　小間　喜保治
【大株主】十四年五月期
第一徵兵保險　一證券　10,000名
遠山　借成　10,000　島山　一清　10,100
【主要製品】各種ポンプ、瓦過機、タービン水車、送風機、冷凍機、コンデンサー
【事業規模】工場　本社、羽田
【投資會社】宇野鐵工所
【業　績】　利益率　配當率　利益率
十二年下　五、一　二、五九　一、一〇　五、八
十三年上　六、四五　二、五六　一、一〇　五、三三
下　八、三　二、六三　一、一〇　五、四三
十四年上　八、六一　二、六三　一、一〇　五、四三
【株　價】（實勢）舊　株　新　株
十三年　高値　九三、〇　安値　九三、〇　高値　安値
十四年　九二、〇　九二、〇　九二、〇　九二、〇
【豫想配當】十四年十一月期（一割二分）
【時價】舊　新　【利廻】六分七厘　五分九厘

櫻田機械製造所

【設立】明治二十六年
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市城東區北砂町六ノ五七（電本所五六八）
（營業社）東京市京橋區銀座櫻田ビル（電京橋二〇一七）

【增資期待】當社は去る八月一日に一株十二圓半、總額七十五萬圓の最終拂込を徵收した。これで當社は三百萬圓の拂込濟會社となつたのだが、前輯述べた如く、砂町工場の擴張及び滿洲進出等に要する資金を賄ふ爲に、增資が期待されて居る。唯だ、一部で報ぜられて居る樣な二倍半增資と云ふ樣なことは、最近の資金調整局の態度から考へて期待せぬ方がよい。

【一割二分配當持續か】去る五月期決算は二割九分の利益率を以つて一割二分配當を据置いたが、今期は資本負擔の加重から業績の低下は先づ免れまい。然し、現行配當は持續するものと思ふ。

【資本金】……拂込濟＝3,000
【株　數】……（250.0）　60,000
【重　役】
專務　小島　亮平　取締　池田重五郎
取締　河野　哲夫　監査　宮城與三郎
〃　馬渡　操　〃　兒玉　師雄
【大株主】十四年五月期
櫻田壬午郎　10,000　櫻田工業　七三名
小島　亮平　1,625　高柳　房吉　1,325
【工場別製品年產能力】
鋼材工場　橋梁並鐵骨　二、000噸
機材工場　洋灰機械起重機　200千圓
鐵柱工場　鐵柱　九、200噸
【事業成績】　上期　下期
製造高（千圓）　二、250　一、八五五
製造費（%）　十五年上　十五年下　古年上
　　二、九九　二、九五　二、三四五
【業　績】　利益率　配當率　利益率
十二年下　一〇〇　二、七一　一、一〇　五、八一
十三年上　一〇〇　二、七一　一、一〇　六、三一
下　五、五　二、七一　一、一〇　四、九三
十四年上　三、六　二、九二　一、一〇　五、三四
【株　價】（實勢）高値　安値
十三年　四五、八　四二、六
十四年　六六、四　三五、三
一—八月
【豫想配當】十四年　一割二分
【時價】六六、五　【利廻】一割二分　九分

月島機械

【設立】大正六年五月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市京橋區月島通五ノ九（電京橋九八〇一一六）

【收益期に入る】豫ねて建設中の鶴見工場は去る四月一日から操業を開始し、本社、佃島の三工場と相俟つて今下期からの生產高は相當增加する見込だ。上期でも新工場一ケ月の寄與に寄り三百八十餘萬圓と、對前期四十一萬圓の增加であつた。硫安、曹達、無水アルコール、アルミナ、マグネシウム、製鹽、其他の化工機及某軍需品製作等の受註增で、引續き繁忙に終始してゐる。

【拂込期待】今期利益率も恐らく四割臺を優に維持すべく、擴張一段落の折柄借金返濟のため新株に第二回拂込あるものと見られる。勿論それは利益率調節もあるから、一割二分は動かぬ。

【資本金】公稱＝3,500　拂込＝1,800
【株　數】……舊（100.0）　110,000
　　新（125.0）　80,000
【重　役】
會長　大倉　發身　取締　小川　只治
專務　宮崎　好文　〃　鈴木　六郎
常務　黑板　駿策　〃　田川　太郎
取締　大倉　粂馬　監査　今井　善八郎
〃　木村　正孟　〃　岡田　金之助
【大株主】十四年四月期
鈴木三郎　株式　八、三〇　三四一名
黑板　駿策　六、五〇〇　大倉　發身　八、一〇〇
田川　太郎　五、四〇〇
【工場別年產能力】月島　三、000千圓　鶴見　三、000千圓
佃　島　三、000千圓
【事業成績】　上期　下期
製造高（千圓）　三、一五　四、四三一
收賣高（千圓）　三、一五　三、四三一
【事業規模】工場所在地　月島、新佃島、鶴見
【投資會社】化工機製作其他
【業　績】　利益率　配當率　利益率
十三年上　一、九七　二、六　一、一〇　五、二五
下　二、四七　三、五五　一、一〇　五、五五
十四年上　二、六六　四、〇九　一、一〇　五、五五
【株　價】（實勢）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
十四年　三、六　三、〇　三、六　三、〇
一—八月
【豫想配當】十四年十月期（一割二分）
【時價】四九、五　【利廻】一割二分　七分三厘

東洋機械

【設立】昭和十四年一月
【決算期】四月、十月
（本社）大阪市北區宗是町一（電七市一四四六八二番）

【初配八分】去る四月締切の第一期決算では二十八萬三千圓の利益を計上、年利益率は三割四分に當る。利益配當令の關係から、配當は豫定の一割を許されなかつたが、それでも八分を認められた。

【拂込期待】去る七月一日一株に付十二圓半宛、總額三百七十五萬圓の第二回拂込も目下認下を申請中だから遠からずそれを得られると思ふ。これは云ふまでも無く、廣島縣安佐郡祇園町に建設中の新工場に投下される。新工場は既に第一期建設を終り、第二期を續行中だ。業績は良好を期待されるから、今下期も依然八分配當は可能である。

【資本金】公稱二千七百萬圓　拂込二千七百五十萬圓
【株　數】……（三三〇・〇）　三五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　小野耕一　取締役　畠本産衛
〃　高橋達之助　〃　平塚常次郎
常務　野澤弘毅　〃　監査　勝田永吉
取締　和田義一　〃　中山克巳
〃　間島季道　〃　小林富佐雄
【大株主】十四年四月期　七三名
東洋鋼鈑　三〇、〇〇〇　東洋製鐵　七五、五〇〇
田村政治郎　六、三〇〇　日本生命　四、三〇〇
【工場所在地】廣島縣安佐郡祇園町
【許　可】東洋鋼鈑の製鐵製作業務を繼承設立。

【事業規模】工作機械　鑄鋼機械　鍛造機械　鍛
增設計畫工作機械
【業　績】
	利益金	配當率	利益率
十四年上	二六三	一・八〇	六・三五
【事業豫算】
土地建物（廣島工場完成後）	三、五二三
流動資產（廣島工場完成後一年分）	四、六〇〇
合計	機械什器　二、八八八　二〇、〇〇〇
【收支豫算】
收入之部（資上金）……一二、〇〇〇
支出之部　內製作費　九、七六六　事務所費　九〇〇　計　一二、〇〇〇
差引利益……三、九三六
【豫想配當】十四年十月期　八分（八分）
【時價】五〇・〇　【利廻】五分一厘

東京製鐵

【設立】昭和九年
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市麹町區三ノ二（電丸ノ內二〇〇四）

【前期減配】本年上期は昨年下期に比し業績向上を示したに拘らず配當は二分減の一割とした。配當制限令により一割が基準配當となつたからである。當分一割二分には復活しない事となつた。

【好調推移】横濱工場は輸出向薄鐵鈑製造で原料の獲得は比較的容易に行はれてゐる。金山炭礦の出炭は從來月二千瓲に滿たなかつたが、新坑の開掘で下期より增產の見込である。朝鮮黃海道安岳鐵山開發も着々進捗中であり、北海道大沼製鐵所の低燐銑鐵は既に横濱工場の電氣爐用原料として使用されるに至つた。事業は全般的に好調推移にあり、一割配當は益々餘裕を加へるであらう。

【資本金】公稱二六、〇〇〇　拂込二六、三五〇
【株　數】……（舊（五〇・〇））　二五、〇〇〇
新（三三・五）　五〇、〇〇〇
【重　役】社長　岩崎清七　專務　安宅武
取締　南二郎　〃　古賀春一
〃　高橋正彥　〃　監査　河端政吉
大谷米太郎　〃　一戸
【事業規模】特殊鋼製鋼工場　炭素鋼、ニッケル鋼、マンガン鋼、クローム鋼
鋼材壓延工場　月產（丸・角・平鋼）一一〇瓲
八幡製鐵　月產　一一〇瓲
安岳・鮫栗鐵山赤鐵鑛　年產
【投資會社】大阪造船所
【大株主】十四年五月期
鄰城キンゾー　一八、六〇〇　南　崇　樹　三二四名
山中　淳　三一、四〇〇　南　俊　二一〇、八〇〇
南　合　名　四、七〇〇　大谷米太郎　四、三〇〇
【業　績】
	利益金	配當率	利益率
十三年上	三六	一・九六	四・六六
下	三〇	一・〇〇	三・四三
十四年上	四三一	一・〇〇	四・三一
【株　價】（實物）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十四年　五六・〇　一六・一　六・八
一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割（一割）
八分八厘
【時價】舊　四六・〇　新　一二・〇　【利廻】七分四厘

池貝自動車製造

【設立】昭和十二年六月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市麴町區有楽町東日會館（電丸ノ內三三二八）

【拂込徵收】來る十一月一日一株十二圓半、總額三百七十五萬圓の第二回拂込を徵收する。借入金の一部返濟並に擴張資金に充當するためである。然し當面豫定される新資金ですら八百萬圓に上るから未拂込は引續き徵收すべき筋合にある。

【下期增配か】上期に一分增配を豫定されたが配當制限令によつて六分据置の已むなきに至つた。下期は未働資本の稼働で一段と增益を齎らすであらう。拂込徵收の手前もあり一分增配は確實とみられる。大量生產準備も着々進行してをり、ディゼル自動車需要激增の折釜々好調を辿らう。配當も徐々引上げられるものとみてよい。

【資本金】公稱二千七百萬圓　拂込二三、二五〇
【株　數】……（二三・五）　一三〇、〇〇〇
【重　役】
社長　池貝庄太郎　常務　池貝　三郎
副社長　千葉恒次郎　取締　疋田善太郎
常務　池貝　秀雄　〃　千葉龍太郎
專務　今井　四郎　監査　千葉　胤吉
【大株主】十四年五月期　三一八名
川島屋商店　六二、〇六〇　池貝鐵工所　五九、八六五
池貝同族　一〇、〇〇〇　千葉恒次郎　七、三五〇
日本生命　五、〇〇〇　池貝庄太郎　四、一〇〇
【事　業】ディーゼル自動車の製造販賣
（池貝鐵工所の自動車部を分離獨立）

【事業規模】工場所在地　川崎市
【業　績】
	利益金	配當率	利益率
十二年下	二〇	〇・二	無配
十三年上	一〇六	〇・七五	〃
下	一七三	〇・九二	〇・八〇
十四年上	三三一	一・七五	〇・八〇
【株　價】（實物）高値　安値
十四年　二六・二　一八・〇
一八月
【豫想配當】十三年十一月期七分（六分）
【時價】二〇・〇　【利廻】三分六厘

理研アルマイト工業

【設立】昭和九年三月
【決算期】三月、九月
（本社）東京市京橋區銀座西二丁目三（電京橋三四三一四）

【九月期業況】前輯所報の如く四月廿五日の新株拂込で資本負擔が增大してゐるが、業況は極めて順調で一割二分配當を据置ける。利益金は八十萬圓になる見込だ。利益率二割七分四厘で、前期に比し業績は幾分低下するが、現行配當に差支へない。

【膨脹を續けん】右の如く業況は順調裡にあるが、更に生產力擴充の建前から、資本の膨脹は必至だ。近く新株未拂込殘額を徵收し、資本金七百萬圓拂込みとなり來春には倍額增資も實現しよう。アルマイト製品の需要は旺盛だし、過般日本デイゼル工業の經營に乘込んだが、時局品生產に拍車することとなるからである。

【資本金】公稱二、〇〇〇　拂込一、一〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　二〇、〇〇〇
新（四〇・〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】會長　堀田正恒
社長　平沼雲治郎　本局　利雄
專務　佐久間成一　〃　鹿城留二郎
〃　池田寅一　〃　田邊德五郎
常務　獵入忠義　〃　監査　中山信夫
〃　中西善太郎　〃　成富
【大株主】十四年三月期　八四九名
齊藤　重德　九、五六　平沼雲治郎　七、〇〇〇
池田　寅一　六、一〇〇　水田　健藏　五、四〇〇
【工場所在地】東京、大阪、世田谷、
神崎（舊淺田アルミ）　名古屋（新設中）

【事業成績】
	賣上及加工高（千圓未滿）	製造及工場費（〃）	利益率
十五年上	三三	二、四六	四三・五
十五年下	三二	二、四六	四二・五
【業　績】
	利益金	配當率	利益率
十三年上	三六	一・〇〇	四・五
下	三四	一・〇〇	四・二五
十四年上	六二	一・〇〇	四・五
【株　價】（實物）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十四年　六六・七　五六・八　六六・〇
一八月
【豫想配當】十四年九月期（一割二分）
【時價】舊　新　六六・〇　【利廻】八分八厘
八分六厘

小松製作所

【設立】大正六年一月　【決算期】六月、十二月

（本　社）石川縣能美郡小松町字八日市
（事務所）東京市麹町區丸ノ内丸ビル（電丸之内六三一、八七〇）

【六月期好調】去る六月末決算は好調であつた。即ち利益金は百十一萬圓で其の前期に比すると十四萬圓の増益だ。利益率は三割九分と三分低下したが之は今春百二十五萬圓の拂込を徴收したからだ。然し社内保留率は七割であるから一割配當は餘裕含みと言へよう。固定資産の償却も充分行はれてゐる。

【増産計畫進捗】斯く業績が良好なのは、言ふ迄もなく時局柄當社製品への需要が激増したからだ。材料から加工までの一貫作業が最近一層合理化されたが、一方ハルビン工場を擴大して滿洲進出を企圖してゐる。此の爲め近く再度拂込が徴收される見込み。

【資本金】公稱＝10,000　拂込＝六,250
【株　數】……舊（五〇・〇）100,000　新（二二・五）100,000
【重　役】
社長　中村　稅
取締　〃　矢野　政義
〃　森本　八十島喜右衛門　各務　良幸
〃　眞野　官一　〃　鑒査　今村　信告　白石多士良
【大株主】十四年六月期　株數
住友生命一九,000　日本生命一六,800
中村　稅10,000　帝國生命六,000
【工　場】石川縣小松町、粟津村
工場用地　小松町地内　三、九九二坪
粟津村地内　四一、〇五五坪
【主要製品】鑄鋼、特殊鋼製品、兵器、プレス、ポンプ、バルブ、工作機械、
【業　績】
十三年上　利益金　六六八　利益率　四・一　配當率　一・〇〇　利益積立　六・八二
下　九七六　九・九　一・九　一・〇〇　七・〇五
十四年上　一、二三五　三・八五　一・〇〇　六・九四
【株　價】（實物）舊　株　新　株
高値　八八・〇　安値　高値　安値
十三年　七二・七　六二・三　三一・六　二四・三
十四年　一一・八月　七二・七　六二・三　三一・六　二四・三
【豫想配當】十四年十二月期一割（一割）
【時　價】舊　七二・〇　【利廻】六分九厘
新　三一・〇　四分

小原鐵工所

【設立】昭和九年三月　【決算期】五月、十一月

（本　社）大阪市西淀川區佃町五五一（電福島　五一九）
（出張所）東京市日本橋區吳服橋一三和ビル（電日本橋一〇〇九）

【上期順調】去る五月締切の本年上期計上利益は十五萬二千圓、此の利益率は二割三厘に當る。其の前期と比較するに、利益金では一萬二千圓を増し、利益率に於ては八厘の向上を示す。業績は好轉したわけで、此の限り一割配當も不安なく維持し得たと云つてよい。

【建設】過般倍額増資を斷行、第一回拂込は既に去る七月廿五日に徴收濟だ。これは兵庫縣川邊郡伊丹町に建設中の新工場に投下された。新工場は軍需品及び鑛山機械、工作機等の増産を目的とし、目下第二次計畫を進めて居るが、此の爲近々第二回拂込が實現しよう。尙ほ一割配當は今後共維持される見込だ。

【資本金】……拂込濟　一、五〇〇
【株　數】……（五〇・〇）五〇、〇〇〇
【重　役】社長　小原　敏
取締　〃　德倉　充治　〃　取締　〃　松本　章
〃　中根　一二　〃　渡部　一
〃　橋田　社治　〃　鑒査　清水喜三郎
〃　九里　博武　〃　高納　純
【大株主】十四年五月期　株數
小原　敏一三,000　高納　純二,五〇〇
高納　正治二,〇一〇　松本　章一,〇五〇
【事業規模】工場設備　大阪市佃町
本社工場及施設　三九坪
工作機及施設……電動機八〇馬
所有特許權……二種
【事業成績】　十二年上　十二年下　十三年上
受註高（千圓）　一、〇四一　一、六三三　一、六九六
引渡高（千圓）　八一〇　一、四三一　一、〇七七
受註殘（千圓）　一、四六〇　一、六〇一　三、二五〇
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上　一〇六　一・八八　一・〇〇　四・七三
下　一四〇　一・九五　一・〇〇　四・三
十四年上　一、一三五　三・八五　一・〇〇　四・四七
【株　價】（實物）高値　安値
十三年　八八・〇　七二・七　五二・〇
十四年　七二・七　六二・三　三一・六　二四・三
一・八月
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時　價】八〇・〇　【利廻】八分三厘

加藤製作所

【設立】昭和十年一月　【決算期】五月、十一月

（本　社）東京市品川區大井鮫洲町一二三三（電高輪一八〇八）

【東信電氣經營に參加】當社の經營に東信電氣が參加することになつた。即ち、東信電氣關係で當社株を約一萬五千株程引受け　東信の取締役浦山助太郎氏が當社の取締役會長に就任すると同時に、更に東信系から三名の重役が入社じたのである。これは當社經營の積極化と資金調達網の强化を物語るものである。

【業績順調】業績は、新設稻毛工場の活躍に依つて良好だ。例へば去る五月決算の利益率をみると資本負擔の増加にも拘らず前期より二分増の二割八分を擧げ。餘裕裡に一割配當を据置いた。今期は一層の増益が期待される。最終拂込徴收は來春と見られる。

【資本金】公稱＝三,000　拂込＝三,000
【株　數】……舊（五〇・〇）四〇,〇〇〇　新（二五・〇）四〇,〇〇〇
【重　役】
社長　加藤秀三郎　取締　浦山助太郎
常務　加藤辰次郎　〃　石渡吉治
取締　殖栗文造　〃　鑒査　日下安太郎
〃　松浦倫一　〃　山岸善之助
〃　松下榮　〃　土屋計左右
【大株主】十四年五月期　株數
東信電氣一〇,〇〇〇　山一證券八,三五〇
加藤秀三郎三,〇〇〇　加藤辰次郎三,〇〇〇
【事業規模】工場及敷地
蒲田工場一,六三一　千葉工場五〇,〇〇〇
大井工場三,八三三
【營業種目】ガソリン機關車、ディゼル機關車、カー、トラクター、木炭瓦斯發生器、モーター
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年下　一五四　三・〇六　一・〇〇　六・三二
十三年上　一九九　四・〇三　一・〇〇　七・〇四
下　二〇〇　三・九五　一・〇〇　六・〇三
十四年上　二六〇　二・六五　一・〇〇　五・六三
下　二七七　二・七七　一・〇〇　六・〇三
【株　價】（實物）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十三年　一一〇・〇　八五・〇　五三・〇　二四・三
十四年　六二・七　五二・〇　三五・三　二四・三
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時　價】舊　六二・八　【利廻】八分一厘
新　五三・三　七分五厘

各和製作所

【設立】昭和九年五月　【決算期】三月、九月

（本　社）東京市板橋區志村前野町一一一一（電大塚三五三五）

【宇都宮工場の擴張續く】新設宇都宮工場の第一期擴張は殆んど完成し、大部分は活動中である。續いて第二期擴張に染手せんとして居る。板橋の志我工場も活況を呈して、これまた擴張が急がれてゐる。斯樣な狀態にも拘らず、當社は拂込を徴收せず、專ら借入金に依つて右の擴張資金を賄つて來た。然し、何れは拂込徴收が實現する筋合にあることに疑はない。

【九分配當を持續せん】拂込が取られたとしても、現行九分配當の據置は心配ない。去る三月決算の利益率をみると三割三分に達して居るが、今後も先づ此の程度の收益は期待し得る。

【資本金】公稱＝三,000　拂込＝一,000
【株　數】……舊（五〇・〇）一二四,〇〇〇　新（二二・五）三六,〇〇〇
【重　役】
社長　各和　福次　取締　松井利三郎
取締　和田　嘉衛　鑒査　森山　邦雄
【大株主】十四年三月期　株數
各和　福次三六,六二〇　大輪　市郎　六五〇名
福田　幹一一,〇三〇　平山　慶太　八〇
【事業規模】工場、宇都宮、新設工場　板橋志村、陸海軍の指定
【取引銀行】第百銀行、安田銀行、住友銀行、第一銀行、武州銀行
【投資會社】常磐工業
【營業種目】航空機部分品、自動車部分品、精密螺子、其他一般精密機械
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上　一〇六　二・〇六　〇・八五　六・〇六
下　一二九　二・五九　〇・八五　七・〇四
十四年上　一六七　三・三五　〇・八五　六・九五
【株　價】（實物）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十三年　六二・〇　四四・八　一八・七　九・七
十四年　五六・〇　四三・六　一四・五　一〇・三
一一八月
【豫想配當】十四年九月期九分（九分）
【時　價】舊　五〇・八　【利廻】八分九厘
新　一四・四　七分八厘

高砂鐵工

（本　社）東京市京橋區銀座四ノ三（電京橋三六六・四七〇四）

【設　立】大正十二年十一月
【決算期】五月、十一月

【擴張不燄】大陸方面よりの需要增で給水機の增產に懸命である。名古屋工場を擴張しまた最近大崎の工藤ポンプ製作所を買收し之に對處せしめることゝした。航空機部分品部門を縮少し新たに大陸向時局緊急品の生產を開始した。志村の壓延工場も擴充續行中だ。

【結局增資か】去る六月最終拂込徵收で全額拂込濟となつたが民需品を減じ軍需品へと生產內容を轉換し、新企業體制の下に於て事業の發展を期するのは寧ろこれからのことだ。滿洲に於ける子會社高砂製作も二十萬圓より百萬圓への增資が約束されてをり、資金は今後五百萬圓位を要する。結局機をみて倍額增資に進まう。

【資本金】……拂込濟 五、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）一〇、〇〇〇
　　新（五〇・〇）八〇、〇〇〇
【重　役】
　會長　原邦造　取締　柳町政之助
　專務　砂谷智導　〃　小林壬
　〃　原繁造　〃　山內定功
　常務　關山延鑒　〃　盛月四郎
　取締　峰道文藝　〃　駒井久吉
　〃　喜多村貫一　〃　三原
【大株主】十四年五月期　三三名
　高砂企業三、九八〇　愛國生命　七、四八〇
資庫　定吉五、〇〇〇　昭和生命三、〇〇〇

【工　場】大崎、大島、志村、淀賀、名古屋
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十三年上　三五三　二、五九　特・二合一・四・八三
　　下　四二九　二、八三　一・二〇　五・一六
十四年上　六三四　三、三四　一・二〇　五・九三
【株　價】（實物）舊　株　安値
十三年　—　—　高値新　株　安値
　　—　—　四〇・五　二七・三
十四年一八月　五五・三　六三・〇　七二・〇　四六・五
【豫想配當】十四年十一月期（一割二分）
【時價】舊六六・〇　新六七・五　【利廻】八分七厘　八分九厘

日本デイゼル工業

（本　社）東京市亀戸區丸ノ內三ノ二三菱二二號館內（電丸一六三二）
（事務所）埼玉縣川口市彌平町（電川口五三二）

【設　立】昭和十年十二月
【決算期】五月、十一月

【五月期無配】日本デイゼルは遂にその弱體を暴露した。五月末締切の決算は無配とせざるを得なかつた。株式操作の爲に創立以來六分配當を續けては來たが、事業開始の運びに伸々至らず、川口工場は完成しても運轉資金が順調でないと言ふ有樣だ。

【理研アルマイトと提携】最近理研アルマイト工業と提携するに至つた。アルマイトから三名の重役が入り、勸銀の了解の下に、當社の運營を圖ることゝなつた。更生策の具體的なものは未だ發表されぬが、將來の望は必ずしもなしとしない。この際、過去の行懸を捨てて、眞面目に更生の途につくべきではある。

【資本金】公稱二〇、〇〇〇　拂込二五、〇〇〇
【株　數】……（五〇・〇）一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　安達堅造
　常務　白石喜之　取締　佐久間成一
　取締　莊田達彌　〃　鹽入德義
　〃　西彥太郎　〃　木根淵淡水
　〃　太田光熙　〃　大賀英作
　〃　岸舍　〃　增田麟三
【大株主】十四年五月期
　黑川縣三郎三、九四〇　逸見知久　六、八九九名
　黑川商店一、七〇〇　平松商會一、四〇〇
【事業成績】
　推定實上高（千圓）六、三四　十五年上　十五年上
　固資回轉率（千圓）一、七八　七、四五五　三、八三三
　　一、二三　〇、九九
【事業規模】
　工場數地總坪數……一〇、九六〇坪
　月產能力……
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十二年下　四七五　〇・九五　三、三七
十三年上　六四四　一、一九　〇・八〇
　　下　七八四　一、〇五　〇・七〇
十四年上　七八四　〇・〇四　無配
【株　價】（實物）高値　安値
十三年　三二・五　一〇・〇
十四年一八月　六六・八　三一・五
【豫想配當】十四年十一月期　無配
【時價】三六・八　【利廻】—

鋼飯工業

（本　社）神奈川縣川崎市中丸子一三五（電田園調布二四六九）

【設　立】大正十五年三月
【決算期】五月、十一月

【前期業績】當社は僅か二年餘りで資本金が二十倍に急增した典型的な膨脹會社であるが、流石に引續く擴張から去る五月決算の業績は稍や低下を餘儀なくされた。然し勿論、減配はしなかつた。利益金に於ては前期より五萬圓の增加をみせて居り、利益率こそ一分七厘減の一割八分二厘に低下したが、九分配當は据置かうと思へば据置くことが出來る狀態にあつたからだ。

【來期以降に期待】今期配當も九分を据置かれると思ふが、今期はまだ業績の向上を期待せぬ方がよい。だが、來期以降からは未働資本の活動から業績はそれだけ向上する筈である。

【資本金】公稱六〇〇　拂込三五、七五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）一二〇、〇〇〇
　　新（一二・五）四〇、〇〇〇
【重　役】常務　長義連
　常務　北日野和太郎　取締　太田儀吉
　〃　井口定雄　〃　黑川多可一郎
　〃　高橋治太郎　〃　逸見知久
　取締　高橋愛三　〃　三宅久之助
【大株主】十四年五月期　三三名
　丸之內興業一〇、二七〇　逸見知久　五、九四〇
　山武商店五、五〇〇　石黑和夫　五、五〇〇
【事業規模】
　工場數地一四、八六坪　建坪三、五四四坪
【投資會社】川崎鑄工
【事業概略】機械設備
　プレス機械……八八九、三三四
　工作機械……五四、八四七
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十二年下　一一〇　二、二〇　〇・八〇
十三年上　一三三　二、六六　〇・九〇
　　下　一八九　一、八九　〇・八〇
十四年上　一二四　一、八二　〇・七〇
【株　價】（實物）舊　株　安値
十三年　高値　安値
　　八〇・〇　二六・〇
十四年　六七・〇　五一・〇
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期　九分（九分）
【時價】五〇・五　【利廻】八分一厘

國光製鎖鋼業

（本　社）大阪市住吉區住吉町四四五（電住吉三四九）

【設　立】昭和九年五月
【決算期】五月、十一月

【成積良好】上期の成積は利益金四十九萬一千圓をあげ拂込資本に對する利益率は五割六分を示した。前期に比し四分の向上だ。配當は一割据置きとしたので決算は頗る餘裕含みとなつてゐる。

【增資氣運】國光チェーンの需要は最近急增して來た。需要に應する爲には能力の大擴張を斷行しなければならない。それには約六百萬圓位の資金が要る。所が當社にはあと百萬圓の未拂込しか殘つてゐない。之をとつても猶ほ五百萬圓不足する。玆に三倍增資の根據がある。當社は既に萬般の準備を了して當局に內申請を出したさうだ。その上で具體的に決定する方針である。

【資本金】公稱二、〇〇〇　拂込一、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）一〇、〇〇〇
　　新（一〇〇・〇）四〇、〇〇〇
【重　役】社長　長谷川爲藏　取締　桑原雅隆
　專務　石原賴吉　〃　菅野米二
　取締　木村敬二郎　〃　秋山茂二
　〃　江藤泉之助　〃　後藤吾朗
　〃　本多敬三　〃　監査　小柳六四郎
【大株主】十四年五月期　三三名
　桑原商店一、〇〇〇　木村敬二郎一、〇〇〇
　長谷川爲藏一、〇〇〇　石原鶴吉一、〇〇〇
【主要製品】特許チェーン、鎖調、鋼材
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
　賣上高（千圓）二、六四　三、九九九　一、七三一
　仕入高（〃）二、三九九　三、六四一　一、七二〇
　〃前期繰（〃）一、〇一三　一、七九九
【業　績】　利益金　配當率　利益率
十三年上　二四七　〇・八〇　〇・八〇
　　下　二五一　〇・八〇　〇・八〇
十四年上　二四七　〇・八〇　〇・八〇
【株　價】（實物）舊　株　安値　新　株　安値
十三年　高値　安値　高値
　　八〇・八　二六・〇　八〇・三　—
十四年　七二・五　五四・五　七二・〇　一六・四
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割（一割六分八厘）
【時價】舊七〇・〇　新七六・三　【利廻】五分四厘

豊田自動織機製作所

【設　立】大正十五年十一月
【決算期】三月、九月
（本　社）愛知縣碧海郡刈谷町大字熊字油木二（電刈谷三五一―三）

【事業内容】織機部は時局柄擴張し得る現在は專ら製鋼並に軍需品工場の增設に邁進してゐる。製鋼部門はトヨタ自動車工業の發展に隨つて益々擴大すべきものであり、近く五百萬圓程度の資本金を以て別會社を創設する模樣である。軍需品工場は豊田紡織南工場に隣接して建設され、既に一部操業開始となつたが之には百萬圓の擴張資金が入要だ。事業内容は益々時局色を濃くしてゐる。

【增資問題】織機部は輸出向製造で不安なく、また時局産業への進出で現行配當は十分維持出來る。若し製鋼、兵器部が大擴張されるなら其の時こそ增資が問題となるが、未だ機運は濃化してゐない。

【資本金】……拂込濟　九、〇〇〇
【株　數】……（五〇、〇）　一二〇、〇〇〇
【重　役】
社長　豊田利三郎　取締役　青　隆俊
常務　豊田喜一郎　監査　西川　秋次
〃　岡部岩太郎　〃　藤野平次郎
取締　大島理三郎　〃　豊田　平吉
〃　竹内　賢吉
【大株主】十四年三月期　九九名
豊田紡織廠六六、三二　豊田紡織廠百、〇〇〇
豊田喜一郎四、五〇五　豊田利三郎四、五〇〇
豊田　佐助一、五〇〇　兒玉　株三一、五〇〇

【事業規模】
工場所在地　刈谷（本社工場）、名古屋
【投資會社】東洋クローム、久保田工作所
庄内川レーヨン、大阪工業、豊田自動機械販賣、トヨタ自動車工業、東亞針布、豊田光綿紡績、光洋精工
【業　績】

	利益金	配當率	利益率
十三年上	七九、一五八	〇、八〇	四、九二
下	六七、一五五	〇、八〇	四、八四
十四年上	八七、一、九五	〇、八〇	五、八〇

【豫想配當】十四年九月期　八分（八分）

帝國精密工業

【設　立】昭和九年三月
【決算期】五月、十一月
（本　社）神戸市林田區大池町四ノ二（電須磨一四三一）
（出張所）東京市麹町區丸之内有樂館四階

【上期成績】當社の上期利益金は十八萬四千圓で前期に比し三萬六千圓の增加となり、拂込資本に對する利益率は三割一分だ。配當は七分を据置いたから決算は裕りを加へて來た。

【前途豫想】增産のための擴張工事は、大部分完成したが、更に第二次擴張に着手した。全部完成するのは明年上期邊りと豫想される。擴張所要資金は當面八十萬圓を豫定してゐるが、第二次分を入れると百四五十萬圓に達するだらう。之は株金で賄ふ方針だから拂込徵收の上更に增資となる見込である。資本の膨脹はかくの通りであるが、收益力は向上期待にあるから七分配當持續は問題ない。

【資本金】公稱＝三、六〇〇　拂込＝一、七五〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　一〇、〇〇〇
新（三五、〇）　三〇、〇〇〇
【重　役】
社長　山田多計治　取締役　岡崎　三郎
專務　本田菊太郎　〃　高野　仁慈
取締　田所　義雄　〃　齊藤　恒一
〃　坂井　新次　監査　服部銕三郎
【大株主】十四年五月期
大阪機械製作所三、四〇一　八木　熊吉一、三三三名
村上　一雄　六〇三　村上　森造　五三三
【事業規模】本社工場＝神戸
出張所＝東京、名古屋
代理店＝横須賀、舞鶴、吳、福岡、佐世保
【主要製品】兵器、航空機、自動車各部分品工作機械、各種精密螺子及母螺特許自動經糸續結機
【關係會社】大阪機械製作所の子會社
【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益率
十三年上	九〇	一、三三	〇、六〇	六、六六
下	一、一五一	一、八二	〇、七〇	五、六五
十四年上	一八四	二、一〇	〇、七〇	六、四一

【株　價】（實物）舊　株　新　株
十四年　高値　安値　高値　安値
一八月　三六、〇　三六、〇　一六、〇　一六、〇
【豫想配當】十四年十一月期　八分（七分）
舊三六、〇　六分九厘
【時價】新一六、〇
【利廻】六分三厘

日本鍛工

【設　立】昭和十二年八月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市日本橋區室町二ノ四三和銀行ビル（電日本橋一九四一）

【成績向上】五月期の成績は左表に見る通り著しく良好であつた。三月中旬から東京新工場が運轉を開始したのと、大阪兩工場が思つたより好成績を擧げたからだ。十一月期は東京工場が期を通して業績に寄與するので、一割配當に更に餘裕が加はらう。

【大戰と當社】かねて計畫中であつた兵庫縣武庫川尻の新工場建設は大分進んだ。目下敷地一萬千坪に基礎工事中だが、來年夏には完成する。東京工場の第二期擴張もあるので、十月頃最終拂込をとり、增資に向はん。大戰の影響で機械の輸入が心配されてゐる樣だが、當社のは米國製なので大體確保出來さうだ。

【資本金】公稱＝七、〇〇〇　拂込＝五、七五〇
【株　數】……舊（七〇、五）　一〇〇、〇〇〇
新（三五、〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】社長　柴衛　新一
常務　角田　稔　〃　森　曉
取締　加藤　毅　監査　今井　四郎
〃　久保田靜一　〃　山下　太郎
【大株主】十四年五月期
日本火災　一、〇八六名
森　曉　一、〇八六
久保田靜一　五、〇〇〇
【主要製品】自動車部分品、職船及車輛用鍛鋼品、軍需品、一般鍛鋼品
【事業規模】
工場所在地　恵加島、大阪佃、川崎
【事業成績】

	利益金	利益率	配當率	利益率
十二年下	八六	一、〇〇	一、〇〇	四、〇〇
十三年上	二六五	二、〇〇	一、〇〇	四、八〇
下	三四四	二、三四	一、〇〇	五、二五
十四年上	七九	三、八八	一、〇〇	六、二五

【株　價】（實物）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
十四年　二六、〇　二〇、〇　四二、〇　五、〇
一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割（一割）
舊七、五　六分五厘
【時價】新六九、五
【利廻】七分二厘

東京鍛工所

【設　立】大正七年四月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市品川區東大崎一ノ五四六（電大崎三六七―九）

【工場操業】當社は日本鍛工と並び立つ鍛造專門會社で、過去に於ける成績は當社の方が寧ろ優れてゐる。目鍛同樣、最近川崎に新鍛工場を建設したが、五月期は未だ業績に寄與するに至らなかつた。然し今期はこれの運轉開始によつて相當收益增を喚ぶであらう。

【增資と配當】當社は高配自肅の意味で前期二分減配を行つた。その代り株主には拂込を急ぐことゝし、六月一日に一株十二圓半を徵收、更に十二月に殘額全部を徵收することに決定した。事業の繁忙から遠からず增資とならうが、減配したと云へ尙一割三分の高配だから、增資と共にまだ若干の減配が必要だ。

【資本金】公稱＝五、〇〇〇　拂込＝三、六〇〇
【株　數】……舊（六〇、〇）　四〇、〇〇〇
新（三七、五）　四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　鞍皮又三郎　取締役　池貝　杉二
專務　池田　清藏　監査　山口　勝藏
【大株主】十三年五月期
池貝鐵造所一三、〇〇〇　鞍皮又三郎一〇、一〇〇名
池田　清藏六、四〇〇　住友生命六、一〇〇
【主要製品】兵器、航空機、自動車、艦船車輛、發動機、各種鍛造品
【事業成績】

	利益金	利益率
十五年上	一、六〇〇	五、三三
下	一、七三五	一、九六
十六年上	一、三六	…

受入高（千圓）一、二〇〇
【事業規模】
工場所在地　大崎、川崎
【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益率
十二年下	一〇五	三、四五	特一、三〇	三、四八
十三年上	二四三	三、三三	〃一、二五	四、六七
下	四六五	三、〇〇	一、五〇	五、〇〇
十四年上	五一九	三、七七	一、五〇	五、九七

【株　價】（實物）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
十四年　一　一　四〇、〇　三〇、〇
一八月
【豫想配當】十四年十一月期（一割二分）
舊八、〇　（一割五分）
【時價】舊八、〇　新二〇、〇
【利廻】七分七厘
七分

日本コンクリート・ポール

【設立】昭和九年九月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市足立區千住關谷町三八（電足立三六三）
（營業所）東京市京橋區銀座西五共同建物ビル（電銀座四四八）

【五月期決算】當社の五月期決算は前期より二萬五千圓增の十二萬圓の利益を擧げ得たが、他方、拂込資本の增嵩から利益率は前期並の一割三分四厘に上つた。依然樂な決算とは云ひ兼ねる。

【仕事は有望】だが、當社の事業自體は仲々有望である。當社製品は知られる如くコンクリートポールと同パイルだ。何れも鐵鋼及木材の代用品となるもので、事業の性質としては惠まれて居る。にも拘らず、業績が思ふ樣に伸びない理由の一つとして、資產內容に稍や堅實味を缺いて居る個處が見受けられ、それが資本効率を縮めて居るものと考へられる。當局者の英斷を期待する。

【資本金】公稱二、五〇〇（三、〇〇〇）拂込二、〇〇〇（二、〇〇〇）
【株數】……舊（五〇、〇）新（二五、〇）
【重役】社長 大塚晃長　取締 鶴島茂富
〃 田中德兵衛　〃 伊藤精七
取締 加賀山學　〃 木本助吉
〃 香田五郎　〃 監査 大谷順之助
河西三九郎　松下榮
〃 十四年五月期
【大株主】吉澤兵左 六、〇〇〇　吉澤ヒロ 二、〇〇〇　八三名
中原商事 一、九五〇　河西三九郎 一、一二〇
【事業規模】工場所在地、栃木縣葛生町、東京千住、堺市戎町
【事業成績】十五年上 五、六七　十五年下 四四、九
【營業種目】日本ポール……配送電柱、電信柱
日本パイプ……信號柱、電車線鋼柱、照明柱
ニコパイプ……土木建築基礎杭
道管、壓力水道管、ケーブル管
集水管、上下水
【業績】十三年上 利益金 六、〇〇〇　利益率 一、二〇
十三年下 九、五〇〇　一、三〇〇　〇、八〇〇　〇、八〇〇
十四年上 一、一〇〇　一、三〇〇　〇、八〇〇　〇、八〇〇
【株價】（實數）十三年 高値 二〇、七　安値 二〇、〇
十四年 元、〇　一二、〇
【豫想配當】十四年十一月期 八分（八分）
【時價】九、八一　【利回】九分一厘

帝國鑄鋼所

【設立】昭和十二年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）大阪市西淀川區姫島町一五六四（電福島五五二—四）

【滿業と提携】當社は滿業の直系子會社『滿洲輕金屬製造』と提携して、資本金五百萬圓全額拂込濟の安東機械を設立することになつた。この會社は滿輕の使用機械を供給するのが目的である。從つて近き將來當社と安東機械が合併することも既に確約されてゐる。

【合併期】合併の時期は安東機械が操業開始する明春頃に斷行されるのではないかと豫想される。合併條件は大體對等である。當社は一割二分配當を行つてをり、安東はまだ無配の會社だから條件は當社に不利のようだが、安東には將來性があるし、滿業から非常な特點を與へられてゐるから一概にそうは云はれない。

【資本金】公稱二、〇〇〇　拂込一、二五〇
【株數】……舊（四〇、〇）　四〇、〇〇〇
新（一〇、〇）　一〇、〇〇〇
【重役】會長 竹內治　取締 浦原利吉
社長 德田治三郎　監査 松崎宏
專務 岸本治左衛門　〃 阿部政次郎
〃
【大株主】竹內治 十四年五月期 竹中イク　八三名
津田三郎 一、四〇〇　竹內好子 一、〇〇〇
【事業規模】工場所在地、本社工場、大阪市西淀川區姫島町、佃合金工場、佃町、尼崎市久々知
【事業成績】十三年下 十四年上
資上高（千圓）……二、〇四二　二、四九九
製造費（〃）……一、九四一　二、〇一〇
工場利益（〃）……二九　四九
【營業種目】普通鑄鋼、鑄山用諸機械、各種アレス、特殊鑄鋼、各種輕合金、各種鍛鋼品、其他
【業績】利益金 利益率　配當率 利益積留
十三年下 三、七二　一、二〇　五、二
十四年上 三、四四　二、五九　一、二〇　六、三
【豫想配當】十四年十一月期 一割二分
【基準配當】一割二分

芳澤化機工業

【設立】大正六年十月
【決算期】六月、十二月
（本社）東京市江戸川區逆井一ノ五（電城東二三—五）
（支社）大阪市旭區今福町三八二（電城川五六—九）

【續々擴充】第二機械工場も殆んど完成し既に運轉中である。第三機械工場も本年中に完成、十一月初めには一部の運轉を開始する豫定である。右擴充に要する資金は七十萬圓で之を賄ふ爲、去る七月一日未拂込四十萬圓を徵收して全額拂込濟とした。然し以上の外に大阪の輕合金工場擴張に三十萬圓を要するし、日滿工業の未拂込徵收、滿洲鉛工場の增資も豫想されるから尙ほ相當の資金が要る。

【增資は延びる】然し資金調整法によつて增資が直ちに許可されるかどうか今のところ疑問だから、當分は、社內保留で賄ふ事にならう。併し結局は增資は實現するだらう。

【資本金】公稱二、〇〇〇　拂込一、六〇〇
【株數】……舊（八〇、〇）　一六、〇〇〇
新（二〇、〇）　四、〇〇〇
【重役】社長 芳澤福太郎
常務 柳三郎　取締 杉村信近
取締 大久保鹿之　監査 大田黑元雄
〃 山形章　〃 三木武市
【大株主】十四年五月期 芳澤福太郎 一、三〇〇　三五名
大田黑元雄 一、〇〇〇　荒川長太郎 一、六〇〇
【主要製品】鉛管、鉛板、錫管、鉛線、工作機械、化學用機械
【事業規模】工場所在地 東京工場 江戸川區逆井一—五　大阪工場 旭區放出町一三二九
生產能力 年額一千五百萬圓
【事業成績】十五年上　十五年下
賣上高（千圓）六、三五　三、〇一七
仕入高（〃）五、四三　三、〇一七
【業績】利益金　利益率　配當率　利益積留
十三年上 三、四六　一、〇五　六、二四　一、八七
十三年下 六、六八　一、八〇　七、〇二
十四年上 五、九　一、四五　六、九九
【株價】（實數）舊 高値 株　新 株
十四年 高値 安値　新 高値 安値
一八月 六、七　五、〇　三六、〇　二五、〇
【豫想配當】十四年十二月期 一割五分（一割五分）
【時價】舊 六二、二　新 三六、〇　【利回】一割二分

日本精器

【設立】昭和二年十二月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市蒲田區仲六郷三ノ二
（支社）大阪市西區京極上通二ノ一四

【十月期業況】新設蒲田工場の操業開始によつて業況は至極順調である。第一工場は期初以降業績に寄與してをり、第二工場も期の中頃から全運轉となつた。更に第三工場も漸次操業開始の段取りでゐる。かくゲージ機械工場の整備につれ、無線電氣部も好調裡に新製品を出してゐる。十月期は先づ利益金二十七萬圓程度を計上しよう。四月の拂込に續いて、十月中旬頃最終拂込が徵收されよう。資本負擔は增大するが、現行一割二分配當の據置に差支へない。

【前途觀】時局柄更に設備擴張を續けねばなるまい。今度の最終拂込で資本金二百萬圓拂込濟となるが、增資期も近い。

【資本金】公稱二、〇〇〇　拂込一、六〇〇
【株數】……舊（八〇、〇）　一六、〇〇〇
新（二〇、〇）　四、〇〇〇
【重役】會長 青柳欽一　取締 小野連三
〃 福島昂平　〃 田口太一郎
〃 岡茂高　〃 今村久義
〃 鑒査 小林河西　〃 中兵助
【事業規模】第一工場 兵器品川區大井鮫洲町
第二工場 兵器品川區大井林町
製品 ラヂオ受信機、電信話機
蒲田工場 蒲田區仲六郷町
製品 兵器
志村工場 建設中
【大株主】十四年四月期 亀田利三郎 一、六〇〇　亀田欽治 三、〇〇〇　三四名
田口太郎 一、〇〇〇　青柳欽一 一、〇〇〇
【業績】利益金　利益率　配當率　利益積留
十三年上 一、〇七　一、〇　三、六　一、〇
十三年下 一、〇九　一、〇　三、九　一、〇
十四年上 一、〇　一、〇　三、〇　一、〇
【株價】（實數）舊 高値 安値　株 安値　新 高値 安値　株
十三年 六四、六　五二、〇　六、〇　六、三
十四年 五二、〇　五〇、〇　五、〇　六、八
一八月 五〇、〇　四九、五　六、〇　六、〇
【豫想配當】十四年十月期 一割二分（一割二分）
【時價】舊 六二、八　新 四七、五　【利回】九分七厘　九分五厘

遠州織機

【設立】大正九年二月
【決算期】五月、十一月

（本社）靜岡縣濱名郡可美高塚四八八八（電濱松二二〇）

【擴張は續く】昨年下期の擴張も急だつたが、本年に入つての擴張はヨリ一層急チンポだ。所有土地は約五割增、建物は約一割增、機械工具の增加は一割五分で、この爲に要した資金は全部手許で賄つて居るのだから從來如何に內容に含みがあつたかゞ想像出來よう。しかも擴張は未だ忽せに出來ないからこの趨勢は今後も續く。從つて早晩拂込を徵收せねばなるまい。

【成績良好】擴張部分が活動を始めたし、軍需工場化したことは一定利潤が得られる故業績低下の懸念はないが何分にも當社は一割五分と云ふ高配當だから政策的に多少の減配を考慮して置くべきだ。

【資本金】公稱＝一，一〇〇　拂込＝九八〇
【株　數】……（四〇·〇）　四，〇〇〇
【重　役】社長　阪本久五郎
取締　南郷　三郎　監査　宮島清次郎
〃　角田　正喬　〃　增井治郎作
【大株主】十四年五月期　三九名
萬　興　業　四，〇〇〇　日本綿花　一，八〇〇
阪本久五郎　一，三三〇　宮島清次郎　一，三五〇
山七合資　一，八〇　增井治郎作　六〇〇
【營業種目】阪本式自動織機、普通織機
綿織捲返機、自動改造裝置
【年產能力】自動織機……一二，〇〇〇臺

【事業規模】工場所在地　高塚
機械設備……一〇二，六四四圓
【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十二年下	一，六〇四	一〇·〇	一〇·〇	六〇·〇
十三年上	一，八三	一〇·〇	一〇·〇	六〇·三
下	一，〇六	五·五	一〇·〇	六〇·三
十四年上	二，四八	五·元	一〇·〇	六〇·四
下	二，六四	五·〇	一〇·〇	六〇·五

【株　價】（實物）高値　安値
十四年　七二·元　五六·元
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割五分（一割五分）
【時價】七二·元　【利廻】八分三厘

弘中商工

【設立】昭和五年十月
【決算期】五月、十一月

（本　社）朝鮮京城府淺江通三（電龍山二四四一）

【拂込徵收活潑】當社は朝鮮仁川府外富平に約四萬五千坪と云ふ廣大な敷地を擁して目下建設途上にあるが、うち鑄物工場は既に完成をみた。機械工場、車輛工場、製罐工場も併行的に建設を急いで居るが、大部分の機械据付を終り、操業實始となるのはこの年末の豫定だ。右の工場建設費は大約四百萬圓の資金が必要だが、うち二百五十萬圓は日本產金振興會社から借入れた。一方拂込資本の方も、來る九月二十五日に舊株一株十圓、續いて十一月三十日には新株一株十二圓半の拂込を徵收することに決定した。業績は良好で資本負擔の增嵩にも拘らず、現在一割二分配當を充分据置ける見込だ。

【資本金】公稱＝一，二〇〇　拂込＝一，二〇〇
【株　數】……（四〇·〇）　四〇，〇〇〇
【重　役】社長　弘中天方　取締　西橋外男
專務　良一　爲平　〃　丹羽昇
常務　江塚惣平　〃　宮內丈三郎
取締　岩本一義　〃　內海清造
〃　竹次郎　常監　猪野
〃　池邊　〃　有次郎
〃　竹內　又二郎　監査　宮房
〃　島　〃　庄太郎
〃　市　〃　相談　池貝
【大株主】十四年五月期　二四三名
弘中　良一　一〇，八〇〇　天方　爲平　三，三〇〇
江塚　惣平　三，六〇〇　岩本　一義　三，二〇〇
【事業成績】

	土五年上	土五年下	十六年上
當期受註高（千圓）	二，四五〇	二，八〇〇	三，六〇〇
當期引渡高（〃）	一，三〇〇	二，四〇〇	二，八〇〇
後期繰越高（〃）	一，〇四〇	一，四〇〇	二，三〇〇

【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十三年上	八三	三·三	一·〇	六·六
下	一八六	四·〇	一·〇	六·六
十四年上	一四四	三·四	一·〇	六·三

【株　價】（實物）高値　安値
十三年　三五·元　三六·〇
十四年　三四·元
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分（一割二分）
【時價】三六·〇　【利廻】一割

滿洲車輛

【設立】昭和十三年五月
【決算期】五月、十一月

（本社）滿洲國奉天市皇姑區大寶街

【增資拂込】縣案の倍額增資卽ち五百萬圓より一千萬圓への增資は去る八月斷行し、第一回拂込一株十二圓半總額百二十五萬圓を同月末徵收した。增資々金は奉天工場の擴張費に充當され、また大連の組立工場の改組擴充費にも振向けられる。

【初配當時期】設立後一ヶ年を經過したのみで未だ缺損續きである。本年上期の成績は九千餘圓の缺損であるが、之を其の前期に比較すれば向上見るべきものがある。下期は奉天工場が本格的に操業を開始したから營業收益金を以て配當金を賄ひ得るやうにならう。いつ迄株主に迷惑もかけられず下期から六分配當を斷行か。

【資本金】……拂込濟　五〇，〇〇〇
【株　數】……（五〇·〇）　一〇〇，〇〇〇
【重　役】社長　秋山　正八　取締　荒木　弘
專務　野中秀次　〃　坂井　清
取締　伊藤捷三　〃　柴田　貞一
〃　岩藤裕三　〃　下田　文吾
〃　田中太一　監査　田子　富彥
〃　〃　給田要之助　〃　寺山雄二
〃　秋田政一　〃　松浦　孝義
【大株主】十四年五月期　三五名
日立製作所　九，八〇〇　住友金屬工業　九，〇〇〇
川崎車輛　九，八〇〇　三菱重工業　九，八〇〇
日本車輛製造　九，八〇〇　汽車製造　九，二〇〇
【事業規模】
工場所在地　奉天市皇姑區大寶街
機械設備費……八一，〇〇〇坪……二，四〇〇，二〇〇圓
機械設備費……三，四八六，九六六圓
【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十三年下	一，元	缺損	無配	缺損
十四年上	一，九	〃	〃	〃

【株　價】（實物）高値　安値
十四年　八〇·〇　五三·〇
一一八月
【豫想配當】十四年十一月期　無配
【時　價】七〇·〇　【利廻】—

龍山工作

【設立】大正八年八月
【決算期】五月、十一月

（本社）朝鮮京城府淺江通七丁目一
（支社）朝鮮仁川府港町七丁目二二

【沿革】當社はもと現社長田川常治郎氏の個人經營であつたが、大正八年これを株式組織に改め、其の後逐次朝鮮企業、昭和商事、龍華製紙、仁川鐵工所、朝鮮車輛機械工作を各合併し、今日に至つたものである。この經歷によつて判る如く、車輛製造と凡そ緣のない製紙業をも兼營してゐる。事業の中心は勿論車輛及び鐵道資材製作で、その工場は永登浦、龍山及び仁川にある。

【成績と前途】既往數期間の成績は左表の通り可もなし不可もなく一割配當を續けてゐる。問題は今後だが、朝鮮に於ける輸送機關の大擴充は必然的方向なので、この意味からは樂觀される。

【資本金】公稱＝一〇，〇〇〇　拂込＝二，六五〇
【株　數】……舊（五〇·〇）　七，〇〇〇
新（一二·五）　一五，〇〇〇
【重　役】社長　田川常治郎
專務　甲斐久三郎　取締　吉田秀次郎
取締　石原礎次郎　〃　山崎　新
〃　荒井初太郎　監査　田中　三郎
〃　陣內　茂吉　〃　和田　虎雄
〃　淺野太三郎　〃　小林　幹三
【大株主】十四年五月期　二六名
田川常治郎　八四，〇〇〇　小林　幹三　九，八〇〇
東都商事　三，四〇〇　山一證券　九，八〇〇
【工場所在地】企業部（製紙工場）
工作部　龍山　永登浦　仁川工場
【事業成績】

	土五年上	土五年下	十六年上
受註高（千圓）	八四一	八九一	八九一
製作高（千圓）	二，二九四	二，三四四	二，六四四
販賣高（千圓）	二四三	二五六	二三〇

受註高、製作高は工作部、販賣高は企業部

【業　績】

	利益金	利益率	配當率	利益積立
十三年上	三五四	一·八四	一·〇〇	六·一七
下	三九四	一·八元	一·〇〇	六·一七
十四年上	四三一	二·二	一·〇〇	六·四〇

【株　價】（實物）高値　安値
十四年　一一八月
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時　價】新三·二　【利廻】五分九厘

帝國製鋲

【設立】大正六年十一月 【決算期】五月、十一月

（本社）大阪市港區八條通三ノ二四

【拂込徵收】十月二日新一株に付廿五圓宛、總額百萬圓の未拂込を徵收した。これは本社及名古屋工場の擴充に利用した借入金の返濟に當てられる。當社はこれで資本金三百五十二萬五千圓全額拂込濟となつた。が、まだ名古屋工場の第二期計畫が控へて居るのだから結局倍額程度の增資は不可避だ。これは明年上期中とならう。

【配當一割】去る五月締切の上期は二分減配の一割（但し第二優先株は六分据置）とした。今下期もこれを踏襲しよう。名古屋工場の軍需品、工作機械製造設備の本格的運轉は明年下期からの見込だが、そうなれば當社も經營が樂にならう。今は過渡期と云つてよい。

【資本金】公稱二五〇萬　拂込二三五萬
【株數】……旧（五〇・〇）四〇・〇〇〇
　　新（一五〇・〇）四〇・〇〇〇
　　優（五〇・〇）六・〇〇〇
【重役】社長 島田徳太郎　取締 江口喜一
　　專務 御園袋善　〃 黒木逸作
　　常務 岡松樹　〃 臼井吉松
　　取締 上田儀三郎　〃 大野生太郎
　　〃 吉原與一郎　〃 岩田宗次郎
　　〃 佐藤爲　〃 山口定亮
【大株主】十四年五月期　御園袋善　八六名
　　鳥田商會　上田產業　吉原與一郎
【工場所在地】本社工場 大阪市港區八條通
　　分工場 大阪市港區七條通
【業績】利益金　配當率　利益率
　　十三年上　二六七　二八・六　二・二五
　　下　二〇九　二七・六　二・二五
　　十四年上　二三六　四・一七　二・二七
【株價】（實際）旊株　新株
　　高値　安値　高値　安値
　　十四年一一月期　一割（一割二分）
【豫想配當】十四年一一月期　七分五厘　六分四厘
【時價】旊　四〇・〇　新　三九・〇
【利廻】

廣澤製作所

【設立】昭和十一年 【決算期】五月、十一月

（本社）東京市京橋區湊町三ノ四（電京橋六三）

【製品の種類】當社は、もと現社長廣澤二郎氏の個人經營であつたものを、十一年資本金卅萬圓の株式組織に改め、その後二回の增資を行ひ、現在では資本金七十五萬圓拂込濟の會社となつた。製品は配電盤、流量計、電熱器、自動開閉器等で、この中流量計は相當優秀だ。納入先は可成り廣いが、事變以來軍需が壓倒的に多い。

【決算は窮屈】工場は蒲田と京橋湊町にあり、前者は本年二月完成したばかりの新工場で、今後の主力工場だ。成績はこゝ三期、二割から三割の利益率で一割配當を行つてゐるが決算に裕りがない。然し大戰でこの種機械の輸入が困難となれば、それだけ惠れよう。

【資本金】……拂込濟　二五〇
【株數】……（五〇・〇）一〇〇・〇〇〇
【重役】會長 小野連三　取締 榎戸源三郎
　　社長 廣澤二郎　〃 大波復四郎
　　取締 田島直政　監査 矢崎又右衛門
　　〃 小林忠明　〃 廣澤春雄
　　〃 廣澤福三郎　〃 尾崎義輔
【製品種目】配電盤、高壓受電裝置、流量計、自動制御盤、遠方制御盤、機械的及電氣的水位計、其他電氣機器具
【事業現狀】從業員數……二五〇人
　　湊町工場　京橋區湊町三ノ四
　　蒲田工場　蒲田區今泉町六四
　　下請工場　四　同盟工數……二〇名
【業績】利益金　利益率　配當率
　　十三年上　三一　一・〇　六・四
　　下　二四　一・〇　六・〇
　　十四年上　三〇　一・〇　六・〇
【株價】（實際）高値　安値
　　十四年一一月期　一割（一割二分）
【豫想配當】十四年一一月期　一割（一割二分）
【時價】
【利廻】

東京機械製作所

【設立】大正五年三月 【決算期】四月、十月

（本社）東京市芝區三田四國町一丁（電三田六〇〇一）

【新進工作機會社】當社が工作機製造に手を染めてから僅かに二ケ年を經たに過ぎない。然るに早くも工作機械事業法に基く許可會社となつた。R型旋盤及タ一レット旋盤の專門製作會社として將來の躍進が期待される。印刷機、煙草製造機、自動包裝機等の部門は縮少されても、工作機のみで十分の成績を擧げ得る筈だ。

【配當】工作機專門會社ともなれば公定價格制實施が業績に及ぼす影響は輕視出來ない。資產內容に含みが多いから現行一割三分配當は當分持續し得る筈だ。然し將來に備へるため增資を機會に二、三分の減配が行はれるのではあるまいか。

【資本金】……拂込濟　一〇・〇〇〇
【株數】……旧（五〇・〇）一〇〇・〇〇〇
　　新（五〇・〇）一〇〇・〇〇〇
【重役】社長 芝義太郎　常務 芝周平
　　專務 小森菊造　取締 青木一郎
　　常務 西南廣太郎　監査 池田杉二
　　〃 岡村安一　〃 岩崎銀二
　　〃 水間春明
【大株主】十四年四月期　芝義太郎　一〇・〇〇〇名
　　芝周平　芝義太郎　池田杉二　杉二
　　川崎興業　池田杉二　山一證券
　　野瀨拔　山一證券
【事業成績】上年上　上年下　十四年上
　　營業資金（千圓）三六　四七　六七
【工場所在地】三田工場　目黑工場
　　玉川工場
【營業種目】工作機械　輪轉印刷機　煙草包裝機　無線電信用機　其他商機械
【業績】利益金　利益率　配當率
　　十三年上　一〇三　一・〇三　一・〇
　　下　一〇六　一・〇六　一・〇
　　十四年上　一〇四　一・〇四　一・〇
【株價】（實際）旊株　新株
　　高値　安値　高値　安値
　　十四年一一月　高値　安値
【豫想配當】十四年十月期　一割三分
【時價】旊　新
【利廻】八分九厘　九分

大連機械製作所

【設立】大正七年五月 【決算期】六月、十二月

（本社）大連市浪山町二三番地

【積極經營】當社は從來消極的經營を續けて來たが、昭和十二年二月の大增資を契機として、積極經營に轉じた。滿洲產業開發の線に沿はんが爲である。當社の事業は鐵道車輛、轉轍器、信號器、其他附屬品及び航空機部分品、工作機械、鑛山製鐵用機械等々其の製作部門は多種多樣である。然し勿論鐵道車輛關係が中心で全體の八割を占め、殘り二割が航空機關係である。

【擴張と配當】目下第三次の擴張を進めてゐるが、大連工場は車輛關係及航空機部分品の增產を目的とし、奉天工場は鑛山製鐵用機械の增產を目的とする。最近の配當は一割だが、今後も一割配當は安泰。

【資本金】公稱二五〇・〇〇〇　拂込二三・〇〇〇
【株數】……旧（五〇・〇）一二・〇〇〇
　　一新（一〇・〇）一〇・〇〇〇
　　二新（一〇・〇）一〇・〇〇〇
【重役】社長 高田友吉　取締 三坂鼎佐
　　專務 佐藤熙一　〃 相生常三郎
　　常務 相田秀方　〃 島岡亮太郎
　　〃 田島豐治　監査 田中知平
　　取締 阪田成一　〃 青柳一太郎
【大株主】十四年六月期　三坂鼎佐　二〇名
　　進和商會　日本車輛製造　相生常三郎
【事業成績】上年上　上年下　十四年上
　　販賣收入（千圓）一四六　一六〇　一六六
【營業種目】各種車輛及機關車、自動車車體、轉轍器及其他鐵道線路附屬品、信號器、酸素瓦斯、航空機部分品、農業用トラクター、旋盤類
【業績】利益金　利益率　配當率
　　十三年上　一〇三　一・〇三　一・〇
　　下　一〇六　一・〇六　一・〇
　　十四年上　一〇四　一・〇四　一・〇
【株價】（實際）高値　安値
　　十四年一一月　高値　安値
【豫想配當】十四年十二月期　一割（一割一分）
【時價】

帝國ニューヒューム鋼管

【設立】昭和九年八月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市麹町區大手町日清生命館五階（電丸ノ内二六九六）

【今期も増配期待】當社の經營權がエタニツト・パイプに移つてから、業績は目立つて改善され、去る五月決算には利益率六割二分を以つて、裕々と六分の復配を斷行し得た。而も、今期は更に一分增の七分配當が期待され、一割配當實現の日も近い躍進振である。かくて、當社の業態は全く面目を一新するに至つた。勿論、斯樣な業績向上は當社製品の需要激增を意味するが、事實、仕事の分野も擴大され、經營も活潑となり、これが爲め近く拂込が徵收される筈だ。

【結局はエタニツトと合併】尙、當社は親會社エタニツト・パイプと合併される空氣が漸次濃厚となつてゐるが、此の點注目される。

【資本金】公稱＝二、〇〇〇、〇〇〇　拂込＝一、〇〇〇、〇〇〇
【株　數】……（二二・五）
【專務役】社長　篠塚宗吉
取締役　高田道信　取締　木村信治
〃　南俊二　〃　磯野政治郎
〃　大野萬夫　〃　坂下敬治
林卯之助　監査　丹澤勝利
【大株主】十四年五月期
松村並樹　二、一〇〇　エタニツト證券　九、二〇〇
安田朝治　一、五〇〇　好川忠之助　一、五〇〇
鄙繁尙司　一、〇〇〇　吉田定七　一、〇〇〇
【事業成績】去年上　去年下　古年上
賣上高（千圓）　三一〇　三一三　三六九
製造費（千圓）　三一〇　三一三　三六一
【工場所在地】横濱市鶴見、鶴
【事　業】ヒューム鋼管及普通鋼管、ヒューム・コンクリート管、電弧鎔接タンク、圓筒容器類各種
【業　績】　利益率　配當率　利益積立
十三年上　二　〇・〇五　無配　一〇・〇〇
十四年上下　一六　三三　六・六九　〇・〇六　一〇・〇〇　六・六六
【株　價】（實勢）高値　安値
十四年一—八月　一九・五　一二・一
【豫想配當】十四年十一月期六分（六分）
【時價】一九・五　【利回】三分八厘

日本バルブ製造

【設立】昭和八年一月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市大森區大森三丁目八八
（營業所）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館八階

【千葉に工場新設】當社は千葉縣稻毛に約四萬坪の土地を買收し、目下これが新設工場の具體化を進めつゝある。新設工場第一期計畫は鑄造工業への進出だが、第二期計畫にはバルブに關聯した鑛山機械、化學機械に染手せんとして居る。差當つて此處で問題となるのは第一期計畫であるが、遲くとも來年一杯には完成の見込だ。これに約二百萬圓の資金が必要である。自然第三回の拂込徵收は近く、恐らくこの秋には實現するだらう。

【配當】本年上期に一分減の九分配當に引下げた。これは例の配當制限令に依る當局の命令に基くもので、今期は一割に增配する。

【資本金】公稱＝一、〇〇〇、〇〇〇　拂込＝一〇、〇〇〇、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　新（二五・〇）
【重　役】社長　太田半六　取締　中道忠夫
常務　牛地義方　〃　小川一誠
取締　杉浦紋芳　〃　磯田久八
〃　橋本精三　監査　山本元三郎
〃　村寛　〃　鹽谷
【大株主】十四年五月期
三井物産　二、〇〇〇　太田合名　二、〇〇〇
山本元三郎　六、八〇〇　大日本麦酒　三、〇〇〇
【工　場】蒲田（ハンダ工場、自動車部分品工場）
工作機械……鑄鐵工用機械……鑄
其他機械……優
【受註高】（單位＝千圓）
契約高　支給材料
自動車部分品受註高
【業　績】　利益率　配當率　利益積立
十二年下　六六　一・〇〇　四・六
十三年上　八七　一・二二　五・二〇
十四年上　一二五　一・〇〇　五・二
下　一三三　〇・八　六・六六
【株　價】（實勢）新株　高値　安値
十四年一—八月　三六・〇　六・三
【豫想配當】十四年十一月期　九分（一割）
【時價】三六・〇　【利回】六分八厘

日本窒素肥料株式會社

（本　社）大阪市北區宗是町一大ビル（電土佐堀六〇五〇—四）
（事務所）東京市麹町區丸ノ内二ノ六八東洲ビル内（電丸ノ内一九二一）

【大戰の影響】好惡二影響が考へられるが、好い方は人絹、硝酸、火藥、鑛酸、油脂、魚油、石鹼、旭味等々の輸出增進である。日窒全體から見れば、大したものでも無いが、これに依つて增益が齎らされることは確かだ。惡い方は現在擴張中のもので外國から輸入する資材、機械類が圓滑に手に入らなくなる點である。滿洲國との協同事業たる鴨綠江水電の開發は、滿洲大豆との交換に依つて其の機械の一部を獨逸から買ふ豫定だつたと思ふが、これが難しくなる。それから、遼海鹽の輸入難も懸念されるが、この方は大した影響はあるまい。

【相次ぐ擴充計畫】鴨綠江、虎川江等の水力電の開發、興南、本宮阿吾地の各工場の整備擴充、吉林人造石油への進出等々が現に着手中のものだが、尙ほこの外に、大陸進出計畫もある樣だ。建設資材、機械類の入手が困難だから、計畫だけは立てゝもさうトン〳〵拍子に工事が進捗するとは思へぬが、擴張工事がいつになつて一段落するか、一寸見透しもたゝない位である。

【拂込徵收】十月二日、新株第二回拂込、一株に付十二圓五十錢、總額二千七百五十萬圓徵收したが、第二回拂込も明年中には徵收されるであらう。

【設　立】明治三十九年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】硫安、合成硝酸、カーバイド、合成鑛酸、電氣供給
【資本金】公稱＝二〇〇、〇〇〇、〇〇〇　拂込＝一二七、五〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）一、六〇〇、〇〇〇
第二新（二二・五）二、〇〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　野口遵　取締　白石宗城
副〃　市川誠次　〃　久保田豐
專務　榎並直三郎　監査　堀孝太郎
常務　金田榮太郎　〃　荻生傳
【株主數】（名）　去年上　去年下　古年上
一二、五四〇　一二、五四〇　一二、五四〇
【大株主】
興南殖産　四、五〇〇　日窒證券　三、四二七、二〇〇
野口遵　三、五〇〇　市川誠次郎　二、〇〇〇
岩崎久彌　二〇、〇〇〇　富國徵兵保險　八、八〇〇
安田財閥　二〇、〇〇〇　近藤雜貨　一、八〇〇
【事業規模】
硫安年產能力（水燒）
發電所出力（水力）……金、八〇〇、〇〇〇
【製造高】　十一年上　十一年下　十二年上
硫安（瓦）　二四、九五〇　二〇、八〇〇　七、八〇〇
過度硝酸（〃）　九、二〇〇　以表
久度硝酸（〃）　二、八〇〇　三、〇〇〇　示セ
酸（〃）　二、五〇〇　三、一〇〇　發ズ
カーバイド（〃）　九、四〇〇　九、四〇〇
液安（〃）　八、四〇〇　九、三〇〇
【投資會社】朝鮮窒素、旭ベンベルグ、長津江水電、朝鮮石炭工業、日本窒素火藥、朝鮮窒素火藥、朝鮮送電、其他
【資本異動】十二年三月三百圓拂込徵收後一位一千萬圓增資、八月二百五拂込徵收

【資產負債】　十二年五月　十三年五月　十四年五月
株主資本　一三、七四四　一三、六三一　一三、六三一
積立金　一一、八五〇　一二、六五〇　一三、六五〇
外部負債　一四、九四四　一二、〇四〇　一三、〇四〇
社債　八、七〇〇　一〇、八〇〇　一〇、八〇〇
借入金、支手　三、三四四　四、二四〇　二、二四〇
使用總資本　三四、五六八　三四、九七一　三五、九七〇
固定資產　二六、〇四六　二六、二四〇　二六、九七〇
投資勘定　二、二四〇　二、二四〇　二、二四〇
流動資產　一七、一二〇　二二、六六　二二、六六
現金預金　四、九四〇　六、四〇　四、三四〇
【收支勘定】　五年上　十五年下　十六年上
收入　一〇、八四〇　一一、四〇〇　一四、四〇
支出　一〇、四四〇　一一、四〇〇　一四、四〇
利益　七、四三　七、四三　七、四三
固定消却　八〇〇　八〇〇　八〇〇
前却年率　二、九六　二、九六　二、九六
【業　績】　利益率　配當率　利益積立
十二年上下　一、二四　一、〇〇　二、二四
十三年上下　一、三六　一、〇〇　一、九六
一、三四　一、〇〇　一、八六
十四年上下　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【株　價】（實勢）舊株　高値　安値
十二年　一二、六　八、四　高値　安値
十三年　一一、四　八、〇　一四、六　一一、四
十四年　一一、〇　八、六　一四、八　一一、〇
一—八月　八六、六　七四、八　一六、三　一六、七
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊八七、〇　新四〇、六　【利回】五分七厘　三分一厘
【名義書換】十錢　【新株交附】五十錢

日産化學工業株式會社

（本　社）東京市芝區田村町一ノ二日產館（電銀座七六二）

【上期据置】本年上期は利益金九百四十五萬五千圓で、內三百萬圓を固定資金償却とした。四月一日新株に千五百五十萬圓の拂込を徵收したが、利益率は二割二分二厘と前二期に比べ僅か乍ら向上してゐる。實際の利益は右の數字より若干上廻つたと見られるが、內面保留として將來に備へた。從つて一割配當は非常に餘裕含みと迄はゆかずとも、先づ無難に踏襲し得たと云つてよからう。

【操業努力】然し乍ら右は操業上非常な苦心を拂つて獲ち得たもので、殊に炭業部のそれは時局柄想像以上の努力を盡してゐる。化學部は肥料、酸類、藥品類とも販賣數量に於て前年上期に及ばなかつたが、總じて價格の上昇に惠まれた。之に對し石炭部は資材入手難並稼働者及技術員の雇入に困難を加へ、而も生產費の增嵩に惱み乍らも極力增產を計り、辛うじて豫期の成績を擧げたのである。

【大戰影響】最も懸念されるのは北アフリカ方面からの燐礦石の輸入如何である。數量は素より運賃保險料等の增嵩が問題だ。今年上期の總賣上高約二千八百萬圓の內約六百卅萬圓が肥料類、又その大部分が過燐酸關係の賣上だから、先行き燐礦石の手當に支障を來せば化學部の成績低下は免れぬ。そこでそれをカバーするため、引續き石炭の增產に盡力し一割配當維持に努めるだらう。

【設　立】昭和九年七月
【決算期】六月、十二月
【事　業】石炭其他鑛物の採掘加工、肥料、藥品其他飼料、化學工業
【資本金】公稱＝三百、〇〇〇　拂込＝五、〇〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　新（二五〇、〇）　一、二五〇、〇〇〇
【重　役】社長　田中榮八郎　專務　石川一郎　保田宗治郎　常務　田中壽一　坂田愉三郎　奥村友雄　取締　林政次　中尾藤次郎　山本平八　豐田喜重郎　古川政司　上田武次　舟橋清一郎　鮎川義介　村山威士　今井喜代逵　監査　小西喜兵衛　川崎清男　松岡潤吉　山田敬亮　相談　二瓶鐵吉
【株主數】十五年上　一、二五〇　十五年下　三、二六四
【總　數（名）】一四、〇五二　四四、二五五
【大株主】舊株は滿業にて全株保有
滿洲重工業　三、〇四二　第一徵兵　三、一七五
共立企業　二、〇四二　株式會社日產　三〇、三三三
富國徵兵　二、二六七　山一株式　二、〇〇〇
【事業成績】（化學部成績　十四年上期）

製造數量	販賣數量
肥料類（瓦）	二六、〇三三　二、二二六
酸類（〃）	一〇、〇四六　一〇、二三六
藥品類（〃）	四六、二六四　四六、〇四四
炭礦部（〃）	十一年下　十二年上　十五年下
出炭量	七三、一五六　八四二、六六八　八四一、一七五
買入炭（〃）	九、三七九　六、八六六　一、四〇六
賣炭（〃）	七四四、九六六　八六四、三六六　七四〇、七四〇

【投資會社】大阪アルカリ、日東硫黃、其他
臺灣肥料、宇部鋼業、日本硫黃、其他
【資本異動】十二年四月（〇五〇）萬圓增資、十三年二月六、〇〇〇千圓增資二割五拂込徵收
十五年四月第二回二割五拂込徵收

【資產負債】

	十三年	十四年
株主資本	八七、八五五	八七、二四六
積立金	二〇、九六六	四〇、〇四九
外部負債	五七、八六五	八五、二四九
社債	—	二〇、〇〇〇
借入金	四九、八〇〇	四九、八〇〇
支拂手形	四〇、〇一〇	五二、六四四
使用總資本	一〇五、七七八	一五六、三一〇
固定資產	八八、九七六	一〇〇、五五三
投資勘定	一四、四〇四	一七、四五五
流動資產	四四、四四六	五六、七〇三
現金預金	九、六九五	八、一六五
【收支勘定】	十五年上	十五年下
收入	二四五、五六八	二六、一三三
支出	一六三、八三	一九、〇八五
利益	八一、七六六	八、四四六
固定消却	二、〇〇〇	三、〇〇〇
消却年率	八%一	八%一

【業　績】

	利益率	配當率
十二年上	三、〇六	一、〇〇
十二年下	三、〇一	一、〇〇
十三年上	三、一六	一、〇〇
十三年下	三、二三	一、〇〇
十四年上	三、二三	一、〇〇

【株　價（實物）新株　高値　安値
十二年　三、〇　一、六、〇
十三年　一、九、七　一、六、七
十四年一月、　二四、七　一六、七
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十二月期　一割
【時價】三、八　【利廻】七分四厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

東洋高壓工業株式會社

（本　社）東京市日本橋區室町二ノ二三井ビル內（電日本橋三六六一八）

【新工場遲延】縣案の北海道（留萌及砂川）の硫安工場新建設は、愈々內認可を得たが諸資材の手當不如意で、その進行や完成期は見透し難にある。土地も買つたし準備もしてゐたのだが、大戰の影響で機械類の對外發注が難しくなつて來たからである。何分第一期廿五萬瓲—大雜巴に押へても五、六千萬圓を要する計畫だけに、機械類其他裝備品の注文は一部を內地の製作會社へも出してゐるけれども、外注輸入雜となれば、豫定の工事を進め得ない譯だ。

【增資の壓迫】この新工場完成遲延は昨秋斷行の增資による成績壓迫を加重する。現に本年上期は利益率二割を割り、當社としては近來にない不成績を示した。硫安事業の儲けが薄くなつたからに外ならぬ。合成工業合併（十三年十月）はそうした業績低下を阻止する目的を有してゐたが、同じ意味から近く日本醋酸製造を合併するものゝ如くだ。同社は右舊合成工業への投資會社だつた關係で、當社と投資、原料等密接に結びついてゐる。

【一割維持】今下期も硫安收益は、渴水の影響もあり、良好とは云へないが、上期と大同小異の利益を計上し得る見込だから、一割配當は動かすまい。醋酸合併が本極りになれば株價も多少見直されるかも知れないけれども、株式には尙積極的妙味が乏しい。

【設　立】昭和八年四月
【決算期】三月、九月
【事　業】硫安、メタノール、合成アンモニア、其他窒素化合物の製造販賣
【資本金】公稱＝空、〇〇〇　拂込＝三、八五五
【株　數】……舊（二五〇、〇）　新（二二、五〇）　空、〇〇〇　空八〇、〇〇〇
【重　役】社長　中井四郎　常務　長澤一夫　取締　玉置豐助　磯部房信　〃　柴田勝太郎　取締　藤原銀次郎　監査　岡本達三　原邦造　〃　中村伍七　〃　高島基江　〃　近藤鎭次　〃　松田範房　〃　檢本圭三郎　〃　古崎秀次郎　〃　植村澄三郎
【株主數】十五年上　一、六〇八　十五年下　三、〇四三
【總數（名）】
【大株主】
三井讓山　四九三、五五〇　電氣化學　三、〇〇〇
三井生命　五〇、八五〇　第一徵兵　四、〇〇〇
日本生命　四三、〇〇〇　富國徵兵　四、〇五〇
第一生命　二四、〇〇〇　愛國生命　二〇、〇〇〇
【事業規模】工場所在地……福岡縣大牟田
年產能力……
【事業成績】

	十五年上	十五年下	十六年上
資上高（千圓）	一〇、六四六	一〇、六一三	一三、三七七
製造費（〃）	六、四四〇	七、六六八	九、六四七

【關係會社】三井讓山の子會社
【投資會社】日本硫安、新潟硫酸、日本發送電、北支開發、中支振興
【資本異動】十五年二月（最終）十圓拂込徵收十月倍額增資第一回二圓五拂込徵收、同月合成工業合併

【資產負債】

	十二年、十三年、九月	十四年三月
株主資本	三二、一二七	四四、九七九
積立金	一、九七六	二、一二四
外部負債	三、九五五	一〇、八五六
支拂手形	二、〇〇〇	二、〇〇〇
使用總資本	五六、一〇一	四六、八六四
固定資產	三七、一八六	三二、九三六
投資勘定	四四、四四四	五五、七七
流動資產	一〇、六四四	一六、四〇一
現金預金	一六、五四三	一四、四〇一
【收入勘定】	十五年上	十五年下
收入	一二、〇五四	一三、九一六
支出	八、九一一	九、九一一
利益	三、一二四	三、九六五
固定消却	一、五〇〇	一、三〇〇
消却年率	一〇%七	八%九

【業　績】

	利益率	配當率
十二年上	二、六四	一、〇〇
十二年下	二、四四	一、〇〇
十三年上	二、四五	一、〇〇
十三年下	二、〇六	一、〇〇
十四年上	一、八五	一、〇〇

【株　價（實物）株　高値　安値　新　株　高値　安値
十二年　六、五　五、五　四、九
十三年　二、四四　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
十四年上　二、四五　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
十四年一八月　一、八五　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十二月期　一割
【時價】舊　五、六　新　二、〇　【利廻】六分二厘　四分三厘
【名義書換】五　錢【新券交附】二十錢

滿洲化學工業株式會社

（本　社）大連市郊外甘井子（電九八一）
（營業所）東京市麴町區丸ビル內（電丸ノ內二六四三）

【渴水影響深刻】 今年上期は渴水の影響を受け成績低下を見たが、下期もその深化で芳しくない。八月下旬の豪雨で大連市上水池の減水はやゝ緩和された樣だが、然しまだ一般並工業用水の使用制限を行つてゐる。當社は井戸水との併用で操業してゐるけれども。まだ普段の半分の水量を滿たすに過ぎない。而も井戸水は鹽分を含むし、尙石炭、電力も思ふやうに供給されず困り拔いてゐる。

【減益不可避】 そこで下期の硫安生產量は相當の減少を來すものと見られ、減益もまた不可避である。七、八萬瓲も生產出來ればよい方で、瓲當り假に廿圓（之を割るかも知れぬ）の差益と押へても、百五六十萬圓、之に繰越品の販賣、硝酸、硝安、骸炭其他の副產利益を加へるにしてからが、二百二、三十萬圓の利益が精一杯だ。利益率一割七分搦みで、償却に手加減を加へて八分配當を維持するより外ない。九月期決算はかくて可成り苦しい。

【前途】 大連市上水池の河水引込みは可及的短時日に竣工させるといふが、當分は充分な雨水に惠まれぬ限り當社の操業も不圓滑を免れぬ。次期も下期の樣だと減配懸念がある。滿鐵の當社持株の滿洲硫安讓渡は、株式評價の點で尙纏まらないが、之は不日折合がつこう。滿洲硫安は獨逸からの機械輸入難で完成期は見殺し難い。

【設　立】昭和八年五月
【決算期】三月、九月
【事　業】硫安其他各種肥料及化學工業品の製造、賣買並輸出入
【資本金】……拂込濟　500,000
【株　數】……（額面）　500,000
【重　役】
社長　高橋　是賢　取締　武部治右衛門
常務　深水　壽　〃　田淵　敬治
〃　堀　義雄　監査　中村房次郎
取締　奥村　政雄　〃　山本　信夫
〃　田村　羊三　〃　石橋東洋雄
【株主數】十五年上　十五年下
總　數（名）1,[illegible]　1,[illegible]
【大株主】　十四年上
南滿洲鐵道（三七,500）　全　鶴　聯　[illegible],500
東洋窒素工業　[illegible],500　前田　利爲　7,000
日本生命　7,000　三井物產　[illegible],000
住友生命　[illegible],000　豐年醬油　[illegible],000
【事業現狀】
工場所在地……大連市甘井子
生產能力（年額）十二年九月末現在
硫　安……200,000瓲
濃硫酸（五〇度）……110,000〃
硝　酸（六六度）……[illegible],000〃
硝　安……[illegible],000〃
骸　炭（五〇度）……7,000〃
骸　炭……100,000〃
【事業成績】　十五年上　十五年下　十四年上
硫安收入（千圓）[illegible]　[illegible]　[illegible]
原價並諸掛（〃）[illegible]　[illegible]　[illegible]
【投資會社】滿洲鹽業、滿洲書籍
【資本異動】十一年三月二圓五拂込徵收、十三年四月二圓五（最終）拂込徵收

【資產負債】　十二年十二月　十三年九月　十四年三月
株主資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
積立金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
外部負債　[illegible]　[illegible]　[illegible]
社　債　—　—　—
支拂手形　[illegible]　[illegible]　[illegible]
使用總資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
投資勘定　[illegible]　[illegible]　[illegible]
流動資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
現金預金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十四年上
收　入　[illegible]　[illegible]　[illegible]
支　出　[illegible]　[illegible]　[illegible]
利　益　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定消却　[illegible]　[illegible]　[illegible]
消却年率　[illegible]%　[illegible]%　[illegible]%
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
下　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十三年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
下　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十四年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【株　價】（實物）　高値　安値　高値　安値　高値　安値
十二年　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十三年　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十四年一月末　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【基準配當】　八分
【豫想配當】　十四年九月期　八分
【時價】　[illegible]
【利廻】　七分一厘
【名義書換】十錢　【新券交付】三十錢

電氣化學工業株式會社

（本　社）東京市麴町區有樂町三信ビル內（電銀座四六一一四）

【局面打開】 硫安、石灰窒素、カーバイド等の統制製品の能力の一部を他に轉換する方法として、カーバイド電爐工業の多角化に進んでゐる。大牟田工場の電化ランダム、シイサイド、金屬硅砂等々は、こゝ一、二期來相當の增產を示し、肥料類の收益減補塡に役立つてゐる。殊に青梅工場では自家用電力が豐富にあるので、電爐工業の新分野へ進出すべく準備中だ。詰り當社は變成硫安に成功した技術を以て、從來の設備を十二分に生かす方策なのだ。

【滿洲電化關與】 そうした技術は昨年十月設立の滿洲電氣化學工業の事業指導にも向けられる。同社は滿洲國政府と滿洲電業出資の特殊會社で資本金三千萬圓（四分の一拂込）、滿電の電力を馳驅してカーバイド工業中心に各種の化學製品を製造する筈だ。當社も一萬株を保有してゐるが、主たる目的は技術指導にある。

【下期成績】 處で今期成績だが、六—八月三ケ月間の硫安、石灰窒素、カーバイドの販賣量は合計、前年同期より四割減の十七萬七千瓲であつた。後半三ケ月間でこの不振を取戻し、前記金屬類の利益を加へ、上期と大同小異の利益率を示すものと思はれる。卽ち當面積極的發展の見られないのは肥料界の現勢上止むを得ない所だが、局面轉換の効果が本格的になれば現配當に相當餘裕も出來よう。

【設　立】大正四年五月
【決算期】五月、十一月
【事　業】硫安、石灰窒素、各種工業藥品
【資本金】合金、合金工業、鹽業及電力電燈供給　公稱[illegible],000　拂込[illegible],000
【株　數】……舊（額面）[illegible],000　新（三六）[illegible],000
【重　役】
會長　大橋新太郎　取締　向井　忠晴
專務　近藤　銑次　監査　縣　左吉
常務　岡田　光治　〃　關島　與寿
〃　日比　勝治　〃　植村澄三郎
取締　伊東二郎丸　〃　黑川福三郎
〃　羽村　協輔　〃　相談　藤原銀次郎
〃　金子　武麿　〃　牧田　環
【株主數】十五年上　十五年下　十四年上
總　數（名）[illegible]　[illegible]　[illegible]
【大株主】
三井物產（[illegible]）　富國徵兵（[illegible]）
藤原合資（[illegible]）　武州銀行（[illegible]）
丸之內瀧事（[illegible]）　牧田　環（[illegible]）
山二株式（[illegible]）　大日本麥酒（[illegible]）
【年產能力】（實役ベース）
カーバイド　[illegible],000　石灰窒素　[illegible],000
【販賣高】　十五年下　十五年上　十四年上
硫安　（噸）[illegible]　[illegible]　[illegible]
石灰窒素（〃）[illegible]　[illegible]　[illegible]
カーバイド（〃）[illegible]　[illegible]　[illegible]
セメント（〃）[illegible]　[illegible]　[illegible]
【投資會社】九州電力、黑部川電力、大淀川水力、瀧澤電化、東北振興化學
【資本異動】十五年三月三圓五　五月二圓五
（最終）拂込徵收去年四月五千六百萬圓
比增資八月第一回一二圓五拂込徵收

【資產負債】　十二年十二月　十三年九月　十四年五月
株主資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
積立金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
外部負債　[illegible]　[illegible]　[illegible]
社　債　—　—　—
使用總資本　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
投資勘定　[illegible]　[illegible]　[illegible]
流動資產　[illegible]　[illegible]　[illegible]
現金預金　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十四年上
收　入　[illegible]　[illegible]　[illegible]
支　出　[illegible]　[illegible]　[illegible]
利　益　[illegible]　[illegible]　[illegible]
固定消却　[illegible]　[illegible]　[illegible]
消却年率　[illegible]%　[illegible]%　[illegible]%
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
下　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十三年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
下　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十四年上　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【株　價】（實物）　高値　安値　高値　安値　高値　安値
十二年　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十三年　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
十四年一月末　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
【基準配當】　一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】　舊[illegible]　新三一
【利廻】　七分八厘　五分七厘
【名義書換】五　錢　【新券交付】二十錢

住友化學工業株式會社

（本　社）大阪市東區北濱五丁目二二（電北濱三〇六一―一〇）

【上期業績好調】去る六月末に締切つた上期の利益金は二百十八萬四千圓、對平均拂込資本利益率一割四分五厘、前期に比して十六萬圓の增益に當る。これは、內面償却後の純益だから、依然として一割配當は餘裕裡に据置けたわけである。

硫安は公定値据置、過燐酸は燐鑛石の輸入制限で減產、一方、原料の昂騰、勞力不足で採算は低下した。が、硝酸、メタノール、ホルコリン等々藥品類の需要活潑、市價も亦漸騰したのでこれに依つて業績の低下を喰ひとめることが出來たわけだ。

【擴張續行】現在、擴張工事中のものは、アルミナ工場、氷晶石工場が一番大きいもので、この外にメタノール工場、硫酸工場、コールタール副產物の處理工場の增設もやつて居る。歐洲の動亂勃發で、海外からの藥品類の註文が早くも相當來て居るが、內需に追はれて應じきれぬ有樣だ。これに對應するためにも、當社の設備擴張は今後も尙ほ當分續けられよう。石炭液化計畫も相當進捗して居り、早晩何等かの貌で着手されると想像される。

【拂込徵收】昨年八月、新株第二回の拂込、一株十二圓五十錢、總額五百萬圓を徵收したきりだから、第三回拂込期も近いものと見られる。

【設　立】大正十四年六月
【決算期】六月、十二月
【事　業】燐酸、窒素、各種肥料及工業用藥品、醫療用藥品、其他各種化學工業品製造販賣
【資本金】……公　稱　四〇〇,〇〇〇
　　拂　込　四〇〇,〇〇〇
【株　數】……舊（五〇,〇〇）四〇〇,〇〇〇
　　第二新（二五,〇〇）二〇〇,〇〇〇
【重　役】
　　專務　大屋　敦　取締　三村起一
　　常務　中尾新六　監査　矢崎　聰治
　　〃　古田俊之助　〃　村田省藏
　　取締　山本信夫　〃　大平賢作
　　〃　國府精一
【株主數】
　　總數（名）十五年上　三、一六九　十五年下　三、二四四　十六年上　三、三七七
【大株主】
　　住友本社　二八六、九一〇　住友吉左衛門　二五四、〇〇〇
　　住友信託　一八、三六〇　住友生命　二、八六〇
　　住友倉庫　九、〇〇〇　住友銀行　九、〇〇〇
　　住友元夫　九、〇〇〇　住友生命　六、〇〇〇
　　住友鑛業　六、〇〇〇　第一相互　六、〇〇〇
【事業現況】工場所在地＝愛媛縣新居濱
　　年產能力　十二年十二月末現在
　　硫　安（噸）……　八〇〇,〇〇〇
　　過燐酸肥料（噸）……　六〇,〇〇〇
　　化成肥料（噸）……　四〇,〇〇〇
　　配合肥料（噸）……　二五〇,〇〇〇
　　各種硫酸（噸）……　二五〇,〇〇〇
　　合成硝酸（噸）……
【資本異動】十三年六月二,〇〇〇萬圓增資第一回三圓五拂込徵收、十五年八月二圓五拂込徵收

【資產負債】

	十二年上半期	十二年下半期	十三年上半期
株主資本	三五,八四三	三七,三四〇	三九,六三三
積立金	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇
外部負債	一一,二四三	八,五九〇	一〇,一七九
社債	—	—	—
借入金	二,五五〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
支拂手形	四,一一〇	—	—
使用總資本	四五,〇四三	四五,三四〇	四五,三四〇
固定資產	二六,七一三	二五,九一〇	二五,九一〇
投資勘定	三,九一〇	三,〇一〇	三,〇一〇
流動資產	一一,四二四	一三,八七四	一四,八四一
現金預金	三四四	一,一八九	一,一八九
【收支勘定】			
收入	十五年上 三,九一〇	十五年下 一三,四二四	十六年上 一六,〇七九
支出	一一,〇三三	一一,四三〇	一二,八八九
利益	一,八七七	二,一一一	二,一八四
	（利益金は借却金控除後のもの）		
【業績】			
利益率	十二年上 一,八六	下 一,一四	十三年上 一,八一
配當率	一,六二	一,一四	一,四二
〃	一,六二	一,一四	一,四二
〃	一,四六	一,一四	一,四二
〃	一,四六	一,一四	十四年上 一,四二
〃	一,四六	一,一四	一一月 一,四二
【株　價】（實物）舊　株	高値	安値	新　株 高値	安値
十二年	四四,〇	四二,〇	四三,〇	四三,〇
十三年	四六,六	四二,六	四三,〇	四五,六
十四年	八八,〇	六六,〇	六六,〇	六六,六
一一月	一四四,〇	一四四,〇	一四四,〇	一四四,〇
【基準配當】十四年十二月期　一割				
【豫想配當】十四年十二月期　一割五分六厘				
【時價】舊　四六,〇　新　六二,六　【利廻】四分				
【名義書換】十錢【新券交附】五十錢				

宇部窒素工業株式會社

（本　社）山口縣宇部市大字小串一九七八　（電宇部九〇）

【電力飢饉の影響】中國地方は渴水による水力電氣の出力低下と、石炭の品質低下で火力發電も亦出力が下つた。特に、宇部の如きは、厚東川が渴水のために海水が逆流して大潮の時水道貯水池に海水が流入した事件が起つた。ために、日本發送電の宇部第二火力發電所のボイラーは故障を生じ、出力七萬キロが七月十八日には一萬二千キロに迄落ちたと云ふから電力飢饉が如何にひどかつたかが想像されよう。

【操業率低下】電力の供給激減で東見初、沖ノ山兩炭礦は三日間休業した。當社は全休は免れたけれども、十七日から操業率は約三割に低下し、其の後約五割に回復し八月中旬以降は略々從前通りの操業を行つて居る。從つて、この損害も十五、六萬圓內外と推察されるから、先づ大事に至らずして濟んだわけだ。

【業績順調】五月末に締切つた上期の利益は二百六十萬圓で前期に比し十萬圓の增益、現行一割配當は余裕裡に据置けたわけだが、これも硫安以外の硝酸、ベンゾール、液體アンモニア等々の藥品類の增產と市價騰貴のお蔭である。今期は、一時ではあつたが、電力不足に依る操業率の平調が亂された爲に、或ひは上期業績を多少下廻るかも知れぬが、無論現行配當は不動である。

【設　立】昭和八年四月
【決算期】五月、十一月
【事　業】硫安、硫酸、硝酸、アンモニア、其他化學工業藥品
【資本金】……公稱＝五,〇〇〇,〇〇〇　拂込＝二,八七五,〇〇〇
【株　數】……舊（五〇,〇〇）一〇〇,〇〇〇
　　第一新（四二,五〇）一二〇,〇〇〇
　　第二新（二〇,〇〇）二五〇,〇〇〇
【重　役】
　　會長　渡邊剛二　專務　俵田　明　取締　村田義夫
　　常務　國吉省三　〃　大山剛吉
　　取締　高良宗七　監査　西村宇吉
　　〃　二神駿吉　〃　加藤亮吉
　　〃　岡和　〃　金野藤衞
　　〃　藤本磐雄　〃　宗像英一
【株主數】
　　總數（名）十五年上　二、八〇八　十五年下　十四年上　二、八八五
【大株主】
　　沖ノ山炭礦　六五,〇三三　渡邊剛二　二九,七〇〇
　　日本生命　九,三〇〇　鴻池信託　七,七五〇
　　俵田　明　七,〇〇〇　住友生命　六,三〇〇
　　高良宗七　五,五〇〇　御手洗岳夫　五,二五〇
【年產能力】（千噸）十二年十一月現在
　　硫　安　二〇〇　硝　酸　ベンゾール　〇・八
　　ピッチ　四・五　クレオソート油　六・五　液體アンモニア
　　ジスルフォトルエン　〇・〇　粗製ベンゾール　〇・三
　　酸素　一〇〇千立方米　火力電氣　三五千キロ
　　工場所在地＝山口縣宇部市
　　硫化鐵所在地　朝鮮咸鏡南道、江原道
【事業成績】
　　販賣高（千圓）十五年上　八、八五五　十五年下　八、〇七七　十六年上　二、七五三
【資本異動】
　　十二年六月第一、第二新各一〇圓拂込徵收
　　十三年六月第一、第二新各五圓拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月	十二月	十四年五月
株主資本	六、八四三	三、三四五	三、六三三
積立金	三、四四〇	八八〇	八八〇
外部負債	三、一四〇	四、九九〇	一、九一七
社債	一四、〇〇〇	一三、六〇〇	一三、一〇〇
借入金	一四、一八	四、六九六	四、九九一
使用總資本	四四、六〇〇	四三、三五九	四三、三五九
固定資產	三五、七四四	三四、六〇〇	三四、六〇〇
流動資產	六、五六六	七、七四〇	七、九九九
現金預金	三、七一六	二、六三五	二、六三八
【收支勘定】			
收入	十五年上 七、六〇一	十五年下 一〇、六四四	十六年上 一三、八四九
支出	七、三〇六	八、一七〇	一一、三九九
利益	三、二九五	二、四七四	二、四〇一
固定償却	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
償却年率	三、九九九	八、九八九	八、九八八
【業績】			
利益率	十二年上 三、二三	下 一、〇〇	十三年上 一、〇〇
配當率	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
〃	十三年上 三、八九	下 一、〇〇	一、〇〇
〃	十四年上 三、五二	一、〇〇	一、〇〇
利拂率	六、八九	六、四九	六、三五
【株　價】（實物）舊　株	高値	安値	第二新 高値	安値
十二年	八九、六	四二、六	四二、二
十三年	八一、〇	六六、六	六六、六
十四年	七、三	六六、六	四四、七
一一月	六六、六	四四、七	三六、六
【基準配當】十四年十一月期　一割			
【豫想配當】十四年十一月期　一割			
【時價】舊　四一、六　新　四五、八　【利廻】六分九厘　六分五厘			
【名義書換】十錢【新券交附】五十錢			

矢作工業

【設立】昭和九年十一月 【決算期】四月、十月

（本社）名古屋市東區東片端町二ノ一二（電東八三三）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内一ノ六（電二〇七七）

【業績】本年上期は渇水期で作業能率悪く成績は幾分低下した。下期も例年に比すると渇水甚だしく豫期の工率を擧げ得ない模樣だ。然し硝酸、酸素の實行はよく、上期に優る業績が期待される

【配當】姉妹會社矢作製鐵は創業後順調に推移し明春より本格的操業時代に入る見込で、當社は之に硫化鐵鑛焙燒滓を供給するから有利となる。之に興味が繋がれ、且つ最近の成績から推す限り一分程度の增配なら無理とは思へぬ。然し今尙ほ擴張過渡期を脫せず、資産負債構成も均衡を保つてゐないから、玆は增配を將來の樂しみに殘し內容の充實を期すべき時ではあるまいか。

【資本金】公稱二六、四〇〇 拂込二六、三五〇
【株數】……無（四〇、〇）新（三三、〇）
【重役】社長 鞴澤駒吉 取締 成瀨正忠 高木得三 石田久留島通彥 小山啣一郎 新一郎岸義男 寺田善吉下鄕齋藤三郎 山崎傳七 內田正次郎 鑑査 荒川貫吉 齋木柔造 伏藤一藏
【大株主】十四年四月期 矢作水力 五、五〇 金城證券 四、九〇名 東京海上火災 一六、〇〇〇 仁壽生命 一〇、〇〇〇 三、三八 一〇、〇〇〇 路
【年產能力】硫安 硝酸 鹽酸（合計一〇、〇〇〇）
【事業規模】ウーデー式アンモニア合成設備、コーライト式アンモニア合成設備、ホコ式硫酸設備
【關係會社】矢作電力の子會社
【業績】十三年上 利益金 一、〇五 配當率 〇、〇 十四年上 八、五四 一、〇五 〇、〇 七、六四 一、五七 〇、〇
【株價】（實勢）新株 高値 四〇、〇 安値 三六、六 十三年 三一、八 十四年 一八月 三六、八
【豫想配當】十四年十月期 七分（七分）
【時價】新 五、〇 【利廻】五分九厘

朝日化學肥料

【設立】昭和十年八月 【決算期】四月、十月

（本社）兵庫縣尼崎市東初島町二七

【增資期待】子會社の朝日化學工業に對する硫安增產許可が近々下ることになつた。增產資金は當面千七百萬圓を要する。この資金を當社が何んとか融通してやらねばならない。その爲め年內中には倍額增資が具體化される情勢となつた。

【配當一割か】增資後に於ける配當は無理すれば一割二分を据置けるが、恐らく當局者は一割に改めることにならう。一割ならば充分持續出來る。鑛山の利益と燐礦石の利益が今、來月から急增する筋合にあるからだ。肥料の方は先行き安心出來ないが、他の方面で增益が見込めるから增資後の一割配當は持續可能と稱してよからう。

【資本金】……拂込濟 三、三五〇 一二、八〇
【株數】……（三〇、〇）
【重役】社長 奧村廣太郎 取締 三井榮一 由良金一 三浦桐六 齋岡 磐照
【大株主】十四年四月期 佐古田政太郎 三、三五〇 鄭是 佐古田政太郎 奧村商店 一、〇〇〇 田原高門 三、三四〇 九五名
【事業】過燐酸、化成肥料、硫酸、燐礦石の製造販賣
【月產能力】延岡 硫化鐵 三〇〇噸 豊生 硫化鐵 一、三〇〇噸
【年產能力】十四年上期現在 過燐酸（合計） 噸 配合肥料 千噸 化成肥料 噸
【業績】十三年上 利益金 三、六六 配當率 一、二〇 利益率 四、八二 下 四、四四 二、二五 一、二〇 四、〇二
十四年上 三、三〇 二、二六 一、二〇 三、七二
【株價】（實勢）高値 安値 十三年 四〇、〇 三七、〇 十四年 一八月 三七、〇 三五、〇
【豫想配當】十四年十月期 一割二分（一割二分）
【時價】 八〇、〇 【利廻】八分八厘

日東化學工業

【設立】大正八年十二月 【決算期】五月、十一月

（本社）東京市麹町區丸之內一ノ一八（電丸ノ內四七七）

【愈々完成】遲延を重ねてゐた當社八戶工場も、漸くその全設備を操業し得る段取となつた。殊に當社にとつて幸運だつたのは獨逸イーゲー染料會社に注文した『アンモニア』合成裝置の約定品全部が入荷した事で、この點今次大戰の惡影響から免れた。アルミナ工場、硫安工場とも當分は試運轉期を脫せぬが、年末頃から漸次本格的な操業をなし得るに至るであらう。

【次期初配】今期も硫酸販賣益しかないから、まだ配當は出來ぬが來期—十五年上期に至れば初配—六分可能となる見込である。それと前後して拂込が徵收されるものと思はれる。

【資本金】公稱一〇、〇〇〇 拂込一八、〇〇〇
【株數】……（一〇〇）
【重役】社長 藤山愛一郎 常務 庵地佑吉 取締 渡邊甚吉 取締 金澤冬三郎 監査 藤山九一 〃 秋山孝之輔 〃 赤司初太郎 〃 名取和作 〃 山下太郎 〃 中村房次郎 〃 西原雄次郎
【大株主】十四年五月期 八、三二名 大日本製糖 一三、〇〇〇 藤山愛一郎 一〇、二〇 藤山同族 八、二九三 福谷榮也 六、四六九 福谷藤一郎 三、四〇 金澤冬三郎 三、三一〇
【工場所在地】青森縣八戶市
【年產能力】アルミナ 硫安 化成肥料 一〇、〇〇〇噸
【關係會社】大日本製糖の子會社
【業績】利益金 利益率 配當率 利益率 十二年下 三 〇·一〇 未配 一〇·〇〇 十三年上 豊 〇·一四 未配 一〇·〇〇 下 三 〇·〇一 〃 一〇·〇〇 十四年上 〃 一 〃 一
【株價】（實勢）高値 安値 十三年 一二·七 十四年 一二·七 一八月 一二·五
【豫想配當】十四年十一月期未配（〇六分）
【時價】二五·五 【利廻】—

帝國人造肥料

【設立】大正八年十二月 【決算期】五月、十一月

（本社）大阪市大正區船町一〇（電櫻川一五四一、二五四六）

【上期成績】上期の成績は利益金三十五萬九千圓で利益率は二割四厘を示した。前期に比し利益金は四萬八千圓の增加となつてゐるが、利益率は拂込資本膨脹のため一分六厘を低下した。然し一割配當持續に問題なかつたので配當は据置きとした。

【增資期待】當社は三百五十萬圓拂込濟みとなつてをり、目下增設中の人造氷晶石製造設備資金は借入金で賄れてゐる。然し之は完成次第株金に振替へる意嚮を持つてゐるようだから遠からず增資が具體化されることになるとみてよい。增資後に於いても一割配當は動くまい。

【資本金】……拂込濟 三、三五〇 一、八〇
【株數】……（三〇、〇）
【重役】社長 白石元治郎 專務 中野靜夫 取締 加島安治郎 取締 田中榮八郎 〃 牧野鐵二郎 〃 石川一郎 監査 井上幸一郎
【大株主】十四年五月期 九六名 井上幸一郎 三、八〇〇 白石 同族 三、七二〇 山下岩藏 三、五一〇 中野靜夫 三、〇〇〇
【工場所在地】大阪市大正區船町
【事業規模】三年上 三年下 十四年上
製造高（千圓）一、八二〇 一、三三 三、三六〇
【年產能力】（單位噸）過燐酸 化成肥料 硫安 配合肥料 人造晶石
【業績】利益金 利益率 配當率 利益率 十二年下 一四〇 三、九二 〇、八〇 六、一三 十三年上 三八八 三、八二 一、〇〇 五、八四 下 三一 三、一〇 一、〇〇 四、八三 十四年上 三九九 三、〇五 一、〇〇 四、八〇
【株價】（實勢）高値 安値 十三年 十四年 一八月 三六、〇 四六、五
【豫想配當】十四年十一月期一割（一割）
【時價】五〇、〇 【利廻】八分一厘

日本曹達株式會社

（本社）東京市麹町區大手町二丁目八（電丸ノ内二三七一五）

【再積極化時代】過去二ケ年間全くの鳴かず飛ばずであつて、從來の積極經營からは著しく遠のいて來た。然し、この間に專ら日曹乃至日曹コンツエルンの企業整備が行はれ、また徐ろに、次の計畫が練られ劃策されたのであつた。かくして、日曹は再び積極化の日を迎ふる事となつた。

【新計畫の三企業】計畫された新事業はアルミニウム、マグネシウム、航空燃料油の三ツである。何れも國策の線に沿ふものでアルミは鴨綠江水電に依據する朝鮮化學工業（資本金五千萬圓）マグネは臺灣の製鹽業を基本とする南日本化學工業（資本金千五百萬圓）航空燃料油は仔會社東洋商工石油を擴大增資（資本金一千萬圓）する事に依つて着手される。何れも渡米中の中野社長が歸國してからでないと目鼻は明くまい。

【增資と拂込】右の三事業完成のためには社債の發行が豫定され、また特殊借入金並に增資拂込のすべてが行はれる手筈となつてゐる。增資は倍額程度、その實現期は來春が豫定される。

【歐亂と成績】歐亂の好影響と云ふものは殆どない。寧ろ、原料鹽またはスタラップの輸入難が不安である。差し詰めは心配ないから無論下期の業績に懸念なく一割二分配當の持續可能である。

【設立】大正九年二月
【決算期】六月、十二月
【事業】曹達、硝粉、硫酸、電氣亞鉛、硫酸亞鉛、特殊鋼、其他化學工業應用品、染料、アルミニウム、ニッケル
【資本金】公稱二四〇,〇〇〇 拂込二八七,五〇〇
【株數】……舊（三七,五〇〇）新（三七,五〇〇）二三,二〇〇
【重役】社長 中野友禮 專務 野澤正固 富永能雄 常務 小長谷新太郎 末廣幸次郎 取締 細尾友修 辰澤茂乙 竹中治 岸本吉左衛門 木村忠實 齋藤虎五郎 入江芳之助 小川榮一 監査 高橋眞男 武鶴次郎 遠山元一 金井潛直 今井文平 相談 增田義一 鈴木資彦
【株主數】十三年上 一四,五六六 十四年下 二〇,七六六 十四年上 三二,八二六
【大株主】日曹鑛業 六四,二八〇 日本化學工業 四七,三四五 横濱代行 四〇,〇〇〇 横濱取引所 四〇,〇〇〇 日曹人絹 三二,〇〇〇 中野友禮 二四,三六六 東部證券 三二,九四〇 山叶商會 二〇,三二六
【事業規模】工場 崎玉縣戸田村、新潟縣二本木、直江津、福島縣會津、江名、富山縣富山、高岡、東岩瀬、東京王子區大島町、横濱市、米子市、兵庫縣武庫 硝粉月產能力……一,九四〇瓩 苛性曹達月產能力……一瓩
【投資會社】九州曹達、日曹鑛業、日曹パルプ、臺灣製鹽、其他三〇社
【資本異動】十三年六月第二回各二三圓五拂込發收 十二月日曹製鋼を合併三,四〇〇萬圓增資 十四年四月第三回二三圓五拂込發收

【資產負債】

	十三年六月	十二月	十四年六月
株主資本	六五,〇九七	八四,〇四一	一〇四,七九六
積立金	三,六二五	四,〇四一	六,二四五
外部負債	三,七四一	四,四七一	六,二四五
社債	三,〇〇〇	四,〇〇〇	六,〇〇〇
支拂手形	二六,〇四一	四四,七四三	四四,七四三
使用總資本	六七,〇四七	一四四,〇四九	一四四,〇四九
固定資產	三九,〇四七	五三,〇八八	五五,〇八八
投資勘定	三四,四一六	三二,〇九二	三二,〇九二
流動資產	四二,一四七	六二,一九六	七二,〇四四
現金預金	三,三五八	三,一三七	五,八二七
【收支勘定】十五年上	三,二六七	三六,二四一	四四,八四八
收入	一四,四一四	三六,八九二	三六,八九二
支出	四,八三三	八,八三五	八,八三五
利益	一,四〇〇	二,四〇〇	一〇,〇〇〇
固定消却	一,四〇〇	二,四〇〇	一〇,〇〇〇
消却年率	八%七	一〇%二	一〇%二
【業績】十二年上	一,七五	一,一〇	一,一〇
下	二,二〇	一,二〇	一,二〇
十三年上	二,二〇	一,二〇	一,二〇
下	二,二六	一,二〇	一,二〇
十四年上	二,二四	一,二〇	一,二〇
【株價】（實數）舊株 十二年	一六,二一	四四,七四一	四四,七四一
十三年	八九,七四	四二,一九	四二,一九
十四年	一一八,七四	四二,七四	四二,七四
一一八月	七二,七四	三二,六四	四二,〇
新株 高値	二六,二一	四四,七四一	四四,七四一
安値	八九,七四	四二,一九	四二,一九
【基準配當】十四年十二月期 一割二分			
【據想配當】舊	七五,〇		
新	七五,〇		
【時價】舊株 高値	二六,二一	四四,七四一	四四,七四一
安値	八九,七四	四二,一九	四二,一九
新株 高値	二六,二一	四四,七四一	四四,七四一
安値	八九,七四	四二,一九	四二,一九
【利廻】一割二分 八分八厘 七分八厘			
【名義書換】千	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【新券交附】二十錢			

德山曹達株式會社

（本社）山口縣德山市鹽濱八、三五五（電德山一三七）
（事務所）大阪市東區瓦町二丁目瓦町ビル（電北濱五六九）

【原鹽手當問題】大戰勃發で先づ心配されるのは、遠海鹽の手當難と云ふことだ。十二年の工業鹽輸移入高百五十萬瓲のうち、遠海鹽が約七十萬瓲ほど占める。ところで、戰爭が本格的になると地中海航行が危險になるわけだが、地中海沿岸から來る遠海鹽は僅か一割内外に過ぎない。九割内外が阿弗利加東海岸から來て居る。だから、船腹の手當さへつけば、遠海鹽の輸入も可能なのである。統制强化で原鹽の手持は少ないから、樂觀は出來ぬが、さればと云つてさう心配するにも當らぬと云ふことだ。

【住友と提携】去る七月、岩井商店の持株中、五萬株ほど住友（住友化學、住友本社、銀行、信託）に讓渡されることに依つて、兩者の提携が成立した。德山曹達は、曹達一本槍から鹽化アンモン、金屬マグネシウム、アルミニユームの製出に乘り出す計畫を持つて居るが、このためには住友化學の技術が必要だ。一方、住友としては傘下に曹達事業をもたぬ。曹達は時局資材の生產其他幾多重要產業の基礎原料で、例へばアルミナ製造もこれなくしては不能、住友は當社との提携で曹達を確保したわけだ。

【配當安泰】當社の現行配當は依然として安泰だ。增資も時期の問題と言つてよからう。

【設立】大正七年二月
【決算期】四月、十月
【事業】曹達、洋灰並諸化學工業品の製造販賣鑛物の採掘販賣其他 拂込濟 一〇,〇〇〇
【資本金】……（三〇,〇〇〇）四〇,〇〇〇
【株數】……（三〇,〇〇〇）四〇,〇〇〇
【重役】社長 岩井雄二郎 常務 織田秋之助 取締 藤道文藏 〃 越智主一郎 〃 下田伊三郎 〃 平野亮平 監査 岩井豐治 〃 豐田利三郎 〃 長島勇雄
【株主數】十三年上 四六八 十四年上 五九一 十四年下 五九八
【大株主】岩井商店 三一〇,五六〇 第一徵兵 三〇,〇〇〇 安田生命 一〇,〇〇〇 愛國生命 一五,〇〇〇 日本生命 一〇,〇〇〇 千代田生命 一〇,〇〇〇 黑川商店 七,〇一〇 大同生命 六,〇〇〇
【事業規模】十二年十月末現在 日產能力 曹達灰……一,〇〇〇瓲 苛性曹達……一,〇〇〇瓲 硫酸マグネシウム……五四瓲 鹽化石灰……六,五瓲 副生食鹽……四四瓲 石膏……五〇瓲
【生產高】十三年上 上三年下 十三年上 曹達灰（瓲）一二,〇〇〇 一二,〇〇〇 … 苛性曹達（瓲）五五,〇〇〇 五五,〇〇〇 … 賣上高（千圓）一一,四〇〇 一一,〇〇〇 …
【資本異動】九年八月一千萬圓を增資、拂込三四發收、十三年八月二圓五、十四年六月三圓五（最終）拂込發收

【資產負債】

	十二年四月	十三年十月	十四年四月
株主資本	一,六六六	三,六五五	三,六五九
積立金	二,七四一	三,〇四五	三,〇四五
外部負債	一〇,七四〇	二,七六一	二,七六一
社債、借入金	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
支拂手形	二,一二七	一,四二一	一,二一〇
使用總資本	三九,三六六	三三,三六六	三三,三六六
固定資產	二四,一三一	二四,一三一	二四,一三一
流動資產	二一,一三五	八,八六九	八,八六九
現金預金	三三七	一,〇五五	一,〇五五
【收支勘定】十五年上	三,四五六	三,九五五	三,九五五
收入	三,四五六	三,九五五	三,九五五
支出	一,三五六	一,六六六	一,六六六
利益	二〇九	二〇九	二〇九
固定消却	二〇九	二〇九	二〇九
消却年率	五%四	四%七	五%九
【業績】十二年上	〇,九六	利益率 一,〇〇	利益率 一,〇〇
下		配當率 一,〇〇	配當率 一,〇〇
十三年上	一,九二	一,〇〇	一,〇〇
下	二,二二	一,〇〇	一,〇〇
十四年上	二,〇五	一,〇〇	一,〇〇
下	一,一六	一,〇〇	一,〇〇
（岩井商店持株株價は配當額過）			
【株價】（實數）舊株 高値	九七,〇	五五,五	四九,五
安値	五五,五	四九,五	四九,五
十二年	七九,〇	五五,五	四九,五
十三年	四〇,八	四九,五	四九,五
十四年	四九,五	四九,五	四九,五
一一八月	六六,五		
【基準配當】一割			
【據想配當】舊株			
新株			
【時價】舊株 高値	九七,〇	五五,五	四九,五
安値	五五,五	四九,五	四九,五
新株 高値	九七,〇	五五,五	四九,五
安値	五五,五	四九,五	四九,五
【利廻】一割			
【名義書換】十	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【新券交附】二十錢			

東洋曹達工業株式會社

（本　社）山口縣都濃郡富田町四五六〇（電富田二三）
（營業所）東京市京橋區銀座西二丁目（電京橋元〇六—七）

【上期業績向上】 去る六月末締切りの上期業績は、良好であつた。利益金は百八十一萬圓、對平均拂込資本利益率は二割一分九厘で之を前期に比べると五萬圓の增益である。利益率は、五厘ほどの上昇に當る。現行一割二分配當は、前期よりも余裕をもつて据置けたわけである。

【原鹽割當問題】 十四年度上期の原鹽割當は、前期よりも若干增加せしめられ、今後も漸次增加せしめられる筈であつたのが、この度の歐洲大戰で一時は現狀維持になる懸念がある。曹達灰換算手瓩の能力を略々完成せしめて居る當社にとつては誠に氣の毒なことだ。然し遠海鹽の輸入難と云つても、地中海沿岸のは僅かの分量で、九割內外は阿弗利加東海岸から來てゐるから船腹の手當さへつけばさして大きな問題ではない。それに近海鹽、とりわけ支那沿岸の鹽が順調に出廻る日もさう遠くはあるまいと思はれるのだから、そんなに心配するにも及ぶまい。

【現行配當堅持】 當社は、二萬キロの發電計畫とゝもに、電解曹達進出に着手しつゝある。設備は新鋭だし、原鹽割當が充分與へられてフルに活躍する時の業績向上には大いに期待がもてる。現行配當は堅持しよう。

【設　立】昭和十年二月
【決算期】六月、十二月
【事　業】曹達灰、苛性曹達製造、其他化學工業、洋灰
【資本金】公稱＝三〇〇,〇〇〇 拂込＝一六〇,〇〇〇
【株　數】……舊（三〇,〇）　四〇,〇〇〇
　　第一新（一五〇,〇）　五〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　岩瀨德三郎　取締　金井　寬人
常務　貞永　敬雨　〃　渡部　清
〃　岡山　義雄　〃　平野　久保
〃　榎本　脩吉　監査　淺邊　富人
取締　國廣　幸彥　〃　豐重　脩雄
〃　片倉　武雄　〃　東　友市
【株主數】十五年上　一七,七〇〇　十五年下　一八,〇〇二　十四年上　一二,九〇四
【大株主】
東曹商事四〇,五〇　岩瀨德三郎三一,〇〇〇
今井　寬人一七,一〇〇　岩瀨德郎一六,〇〇〇
榎本　脩吉一四,一〇〇　岩瀨義郎一四,〇〇〇
渡部　清一三,九〇〇　岡山　義雄一一,八〇〇
岩瀨　利子一〇,〇〇〇　金井　弘一〇,〇〇〇
【事業規模】十二年十二月現在
年產能力
曹達灰換算能力……三六〇〇瓩
工場所在地＝山口縣富田町
【事業成績】十五年上　十五年下　十四年上
資上益（千圓）一,一〇　二,〇九九　二,〇九三
【投資會社】東曹證券
【資本異動】十三年四月三〇〇萬圓增資、十月一三〇萬圓拂込徵收同月三一日業祥曹達工業を三,〇〇〇萬圓にて創立十五年一月當社に合併

【資產負債】
株主資本　六,一三四,〇八一　十三年十二月　六,一三五,一七九　十四年六月　三,一三〇,〇八一
積立金　一,一三九,〇〇〇　一,一三九,〇〇〇　一,一三九,〇〇〇
社外負債　八,六八〇,〇〇〇　三,六四六,〇〇〇　一,〇四〇,〇〇〇
借入金　八,〇〇〇,〇〇〇　三,六四六,〇〇〇　一,〇四〇,〇〇〇
支拂手形　六,四四四,〇〇〇
使用總資本　二四,一八六,〇〇〇　三,八二一,〇〇〇　一五,八〇三,〇〇〇
固定資產　一三,五二九,〇〇〇　一五,八〇三,〇〇〇　六,三三六,〇〇〇
流動資產　一〇,六四九,〇〇〇　七,〇一九,〇〇〇　八,二五〇,〇〇〇
現金預金　五,一三三,〇〇〇
【收支勘定】十五年上　十五年下　十四年上
收入　二,一〇四,〇〇〇　二,六九四,〇〇〇　一,〇四〇,〇〇〇
支出　八,八五五,〇〇〇　九,三一一,〇〇〇　三,一一三,〇〇〇
利益　一,七五一,〇〇〇　一,七五一,〇〇〇　一,〇七三,〇〇〇
（利益は前期後のもの）
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　三,七六　一,一〇　六,〇二　一,一〇　四,八三　一,一〇
下　三,七　一,一〇　四,八三　一,一〇　四,八三　一,一〇
十三年上　三,四〇　一,一〇　四,八三　一,一〇　四,八三　一,一〇
下　三,四〇　一,一〇　四,八三　一,一〇　四,八三　一,一〇
十四年上　二,九八　一,一〇　四,八三　一,一〇　四,八三　一,一〇
【株　價】（實物）舊　株　第一新株
十二年　高値　九九,〇　安値　六六,〇　高値　安値
十三年　八〇,〇　五三,〇　四四,〇　二四,〇
十四年　六〇,〇　五一,〇　五五,〇　二四,〇
一—八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十二月期　一割二分
【時價】舊　六二,〇　九分六厘
新　三,〇　九分五厘
【名義書換】十錢　【新株交付】二十錢

九州曹達株式會社

（本　社）東京市麴町區大手町二ノ八（電丸之內二三二—五）

【上期平調】 當社の上期決算は昨年下期と遜色なく七拾五萬九千圓の利益金で、利益率は一割五分二厘だつた。八分配當を踏襲したので、資產銷却は二十五萬圓に過ぎない。十八ケ年半の長期銷却だ。

【今期は打擊】 引つゞく今期は主業の曹達事業が原料鹽難で苦しい關係上成績の低下は否まれない。近海鹽が風水害を受けた上に、歐洲大戰の突發で遠海鹽の輸入が意の如くならないからだ。勿論、遠海鹽の輸入が杜絕する樣なことはないが、大戰前の十七志見當から今日は卅五志乃至四十志と船賃が暴騰した上に船腹の確保が出來ないので到着が遲延する。その上動力機罐で操短を餘儀なくされてゐるのだから、今期生產は二萬二千瓲見當と見られ、差益を百瓩一圓五十錢と見れば廿六萬四千圓だ。石炭は增產の結果十萬瓲に達すべく瓲當り差益を三圓と見れば三十萬圓である。セメントは輸出旺盛でフル運轉だが輸出差益は少ないから之は八萬圓と見られる。それに六萬圓見當の配當收入を加えれば今期利益は七十萬圓見當となる。八分配當とすれば償却は益々不足する。

【減配が至當】 然し配當好きの當社のことだから恐らく現行配當はその德踏襲するであらうが、內容の改善と云ふ見地から見て、斷乎減配すべきだらう。株價好勢の際時期から見てもその方が良い。

【設　立】昭和十年五月
【決算期】五月、十一月
【事　業】化學工業品染料及び肥料の製造販賣鑛物の採掘及精錬、冶金、纖維工業、洋灰工業
【資本金】公稱＝三〇〇,〇〇〇 拂込＝一〇七,〇〇〇
【株　數】……舊（三〇,〇）　三〇〇,〇〇〇
　　新（一二,五）　一〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　中野　友禪
取締　增田　義一　取締　三崎　友一
〃　久恒　貞藏　監査　村瀨　來一
〃　中山　悅治　〃　清邊　章藏
〃　遠山　元一　〃　石橋正二郎
〃　〃　辰藤　〃　〃　武　改乙
〃　小長谷新太郎　〃　鶴次郎
〃　相談　勝　〃　鳥島　正雄　〃　鈴木　正憲
〃　鈴木　資彥
【株主數】
總　數（名）　十五年上　一六〇　十五年下　一四六
【大株主】
日本曹達　一九,〇一〇　妙高金藏　三,三〇
莊治　一九,〇一〇　中野友禪　一四,四〇〇
林　要藏　一四,六〇〇　中山　悅治　一四,四〇〇
鈴木要藏　一四,六〇〇　坂梁　哲　一四,〇〇〇
金田武男　一四,四〇〇
【出產能力】（單位＝瓲）十二年下期現在
曹達灰　日產一〇〇　洋灰　年產六,〇〇〇
石炭採掘能力……三〇〇,〇〇〇
工場所在地＝福岡縣苅田町、熊本縣天草
【事業成績】十五年上　十五年下　十五年上
曹達灰（瓲）　一四,六〇〇　一六,〇〇〇　……
石炭礦（瓲）　一五〇　一三〇　……
【關係會社】日本曹達の子會社
【資本異動】十三年七月第三九州曹達を合併
一,〇〇〇萬圓增資

【資產負債】
株主資本　五,一四〇　十五年上　十五年下
積立金　二,一四〇　二,一三九　二,一三九
社外負債　三五五　二〇五
借入金　三五五
支拂手形　四,六九八　六,三六九　八,一六九
使用總資本　一四,一四〇　一六,〇〇一　一五,〇〇一
固定資產　一一,一四〇　一三,〇〇一　一四,〇〇一
流動資產　八,〇〇〇　二,〇〇〇　一,〇〇〇
現金預金　九六六
【收支勘定】十五年上　十五年下　十四年上
收入　一四,四〇五　一七,七〇〇　一七,〇五〇
支出　一四,四〇五　一七,七〇〇　一七,〇五〇
利益　一,七五一　一,七五一　一,〇七三
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇
下　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇
十三年上　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇
下　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇
十四年上　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇　一,七五　一,一〇
【株　價】（實物）舊　株　新　株
十二年　高値　安値　高値　安値
十三年上　三,三六　二,一〇　一〇,七
下　一〇,七　一〇,七　一〇,七　一〇,七
十四年上　一〇,七　一〇,七　一〇,七　一〇,七
【基準配當】八分
【豫想配當】十四年十一月期　八分
【時價】舊　二五,二　【利回】七分六厘
新　一五,三　六分五厘
【名義書換】十錢　【新株交付】二十錢

旭電化工業株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内三ノ一〇（電丸ノ内　三二九一番）
（出張所）大阪市北區堂島中一ノ二六（電北　一四八四）

【增資遲延】當社は豫ねて資金調整局に倍額增資の認可方を申請中だが、約半ケ年を經るに拘らず何等の指令に接しない。蓋し台灣のマグネシウム新設工場に問題が絡んでゐるからであらう。高雄にマグネ工場設置を計畫するものに當社と南日本化學工業がある。後者は日曹、大日鹽業、南拓等の出資會社で苦汁法を基礎とし、當社はマグネサイト礦を原料とする。臺灣總督府の工場設置認可が、下るのを俟つて當社の增資如何も決る譯だ。

【成績は順調】右は今後の推移に俟つとして、今下期の成績だが實上高は前期の八百餘萬圓に對し、九百萬圓を越えるものと推定せられる。利益も百萬圓には達すべく利益率は四割となる。實際に計上する利益は多少手加減されるにしても、依然一割二分配當の維持には懸念ない。時局製品の收益力向上が好成績の主因だ。

【原料鹽問題】油脂部は鰮の豐漁で心配ないが、曹達部並鹽素處理方面のマグネ、藻パルプ等は原料鹽の手當如何が今後の問題だ。大戰で遠海鹽輸入が不如意だし、近海鹽も八月の豪雨で減產に一轉したからだ。從つてこれからは曹達部は收益上多少の制約を受けるだらう。關東電化への投下資本も同社の未配當で寢てゐる。斯く不味な部分もあるが、現行配當にはまだ〳〵餘裕がある。

【設　立】大正六年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】苛性曹達、晒粉、合成鹽酸、硬化油、石鹼、人造バター、グリセリン
【資本金】……拂込濟　五、〇〇〇、〇〇〇（五〇・〇）
【株　數】……一〇〇、〇〇〇
【重　役】
會長　古河　從純
專務　磯部愉一郎　取締　近藤　眞一
常務　藤堂　良藏　〃　浦野　三朗
取締　浦山助太郎　監査　小池　一郎
〃　山口喜三郎　〃　南部助之丞
〃　朝稜寅五郎　〃　木村利吉
〃　四郎
【株主數】
總數（名）　十五年上　一、七一　十六年下　一、五五
【大株主】
古河合名（株）、日本鹽業、帝國生命、長富八重子、恒信社、長富鉛山町、安田保善社、長富、長田川區尾久町
【事業規模】工場東京市荒川區尾久町　建坪五、〇〇〇坪
【生產高】
晒粉（噸）　十五年上　二、〇〇〇　十六年上　一、〇〇〇
苛性曹達（〃）　四、八五〇　四、八〇〇
石鹼（〃）　五、四二〇　六、〇一六
硬化油（〃）　八、〇〇〇　一〇、〇〇〇
人造バター（〃）　四、五七　七、三〇〇
【投資會社】東海澱粉、南洋貿易、高砂香料、日本農業、東亞ペイント
【資本異動】十二年十二月及十三年六月各一、二四五拂込徵收十二月二四五（最終）拂込濟收

【資產負債】

	十二年五月	十一月	十四年五月
株主資本	五、〇六六	六、四四三	七、〇六三
積立金	一、三三五	一、五六五	一、九三五
外部負債	四、三四〇	五、九三四	五、九三四
借入金支拂	三、四〇二	三、四〇二	三、四〇六
使用總資本	九、九六	二、〇九七	三、〇四四
固定資產	四、〇六六	五、三三五	五、四四〇
投資勘定	一、〇三五	一、四九九	二、四四三
流動資產	四、三四〇	五、三四三	五、三四三
現金預金	三四〇	四五五	四五五

【收支勘定】

	十五年上	十六年下	十四年上
收入	六、六四〇	七、八六四	八、四四三
支出	六、〇〇六	七、〇四六	七、六四四
利益	六四〇	八〇九	七九七
固定消却	三〇〇	三四〇	三四〇
消却年率	八%八	一二%二	一二%八

【業　績】

	利益率	配當率
十二年上	三、六一等	三、一〇
〃下	三、六三〃	三、一〇
十三年上	三、六四〃	三、一〇
〃下	三、六四〃	三、一〇
十四年上	三、六四〃	三、一〇
〃下	三、六四〃	三、一〇

【株　價（實勢）高値　安値】

	高値	安値
十一年	四七・〇	四〇・五
十二年	四六・五	四四・〇
十三年	四九・五	四三・〇
十四年	四九・〇	四三・〇
一一八月	四六・五	四六・〇

【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】四六・五　【利廻】一分二厘
【名義書換】十錢【新券交附】二十五錢

保土谷曹達株式會社

（本　社）東京市芝區今入町三（電銀座六五〇一一）

【東硫化學を合併】昭和十一年下期から積極政策に轉じた當社は、十二年十月の增資に次いで、今回又東硫化學を合併することとなつた。かくて鹽基性化學工業部門に止まつてゐた當社は、酸性部門を營む東硫との合併によつて、酸とアルカリの二大部門を具有する完全な化學工業會社となるのである。その合併條件は來る十月末現在の狀態で、保土谷株九株に對し東硫株十株の割合をもつて、十一月一日に合併する。卽ち、東硫化學の資本金三百萬圓（拂込二百七十萬圓）の一割を減資の上合併するので當社の資本金は一千二百七十萬圓、拂込九百三十八萬圓となるわけだ。

【社名改稱】その結果當社は保土谷化學工業と改稱する。

【今期成績】從つて今期は從來の狀態で決算するが、成績は前期より若干向上を見るであらう。擴充軍需品設備が運轉を開始するからだ。その上延び〳〵の保土谷工場の火力發電設備もこの九月中には試運轉出來る模樣である。

【配當據置】配當は現行の一割に不安はない。東硫（現在八分配當）合併後の兩社平均配當率は九分七厘搦みとなるが、從來の例に徵して一割配當は許されるものと思ふ。

【再增資】兩社とも擴張中故合併後再增資が期待される。

【設　立】大正五年十二月
【決算期】四月、十月
【事　業】苛性曹達、晒粉、金屬曹達、過酸化曹達、鹽素酸曹達、鹽素酸加里、アトラリン、各種鹽化物、香料、醱酵及水素瓦斯、醫藥、染料及中間物。
【資本金】公稱一〇、〇〇〇拂込一、八五〇
【株　數】……舊　（五〇・〇）　六、〇〇〇
　　新　（一〇〇・〇）　一三、〇〇〇
【重　役】社長　磯村　豎
常務　近藤　晉　取締　村松　晨範
取締　宵山勝治郎　監査　伊藤　茂七
〃　鶴川　忠平　〃　小田村有秀
【株主數】
總數（名）　十五年上　一、四六二　十六年下　一、四六二
【大株主】
磯村乙巳、日本生命、磯村產業、鶴川忠平、帝國生命、小田村有秀、近藤晉
【事業規模】十二年下期現在
年產能力　苛性曹達　酒精　一、〇〇〇瓲
　　鹽酸
工場所在地　横濱市保土谷　東京市王子
　　郡山市谷島　大分縣川崎村
【事業成績】
　　十五年上　十六年上
販賣高（千圓）　四、九四五　五、一一四
持越高（〃）　六四〇　五九七
【資本異動】十三年十月六一〇萬圓增資第一回二四五拂込徵收　十三年十月二四五拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十四年四月
株主資本	六、七一	八、〇一九	八、三五九
積立金	三、八六	四四五	四一五
社債	三、四六五	三、四四七	三、四四七
借入金支拂	七六〇	六〇〇	六〇〇
外部負債	七六〇	六〇〇	六〇〇
使用總資本	九、六五	八、六一九	一、〇四三
固定資產	四、六五	四、八九〇	五、一一三
流動資產	四、三五五	四、九〇三	六、五四四
現金預金	五九五	八九五	八〇一

【收支勘定】

	十五年上	十六年下	十四年上
收入	四、三五六	五、六四	六、六四
支出	四、〇九七	五、八八六	六、〇一六
利益	二五七	二四〇	六四〇
固定消却	一五〇	一五〇	二〇〇
消却年率	九%四	八%七	一二%七

【業　績】

	利益率	配當率
十二年上	二、三四	一、〇〇
〃下	一、八八	一、〇〇
十三年上	二、〇一	一、〇〇
〃下	二、〇三	一、〇〇
十四年上	二、四三	一、〇〇

【株　價（實勢）舊　高値　安値　株　新　高値　安値　株
十二年　六〇・〇　四〇・〇　十五年上　四一・〇
十三年　四〇・〇　三六・〇　〃下　三一・八
十四年　六四・五　五四・五　十六年上　二四・五
一一八月　六四・五　五四・五　〃下　二四・五
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期　一割
【時價】舊　六〇・〇　【利廻】七分二厘　新　三六・〇　六分九厘
【名義書換】十錢【新券交附】三十錢

北海曹達

【設立】大正七年四月
【決算期】三月、九月

（本社）東京市日本橋區室町二丁目三井ビル内（電日本橋三三一九）

【業況平調】いづれの曹達會社も今後は、原料鹽からの壓迫で成績は芳しくなくなるが、九月に終る當社の今期の業況は決して惡くはない。まだ、ハツキリは判らないが、利益金は前期（三月期）より增加してゐる。然し、來期以降原料鹽の窮屈化は避けられず、從つて成績の若干の低下は否まれぬ。それ故今期の計上利益も前期程度に抑えられよう。待望の一分增配も暫らく見送りの貌だ。

【增資計畫】當社は某方面よりの勸誘によつてトリクレン（機械洗濯用）の大增產を計畫してゐが、時節柄一時にその計畫達成は困難故部分的に進めざるを得ない。從つて拂込の問題化は明年だ。

【資本金】公稱＝六、〇〇〇　拂込＝四、五〇〇
【株　數】……舊（四〇、〇）　四〇、〇〇〇
　　新（一五〇、〇）　一五、〇〇〇
【重　役】會長　中井　四郎
　常務　坂本　敏彥　監査役　原　安三郎
　取締　堀内明三郎　〃　岸本　肇
　〃　小泉　米藏　〃　吉岡　美豐
【大株主】十四年三月期　五三〇名
　三井鑛山七、五六八　原安三郎三、四〇〇
　鈴木　圭三一、八〇〇　津田　六郎一、〇八〇
【年產能力】（單位＝千瓦）
　晒粉　苛性曹達
　鹽化安尼亞　三鹽化エチレン
　合成鹽酸　曹達類

【工場所在地】富山縣伏木
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　實上高（千圓）一、五二　一、六〇　一、六〇
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益佛當
　十三年上　一〇四　〇・九一　〇・七〇　一・四〇
　　下　一三四　〇・九八　〇・七〇　一・八二
　十四年上　一三五　一・〇四　〇・七〇　二・五五
【株　價】（實物）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
　十三年　五五・六　四〇・六　四〇・六　二六・七　二〇・六
　十四年　五三・八　四一・〇　二六・二　二〇・六
　十八月
【豫想配當】十四年九月期　七分（七分）
【時價】舊　五五・〇
　新　二六・九
【利廻】六分六厘
　六分一厘

日本油脂株式會社

（本社）東京市芝區田村町一ノ二日產館內（電銀座七六〇一九）

【大陸進出活潑】大陸進出に就ては前料でも既報したが、其後も中中活潑で直營工場及出張所の續設、傍系會社の創立が多い。投資會社名は下掲の如くだが、石鹼、硬化油其他の油脂工業、塗料工業、大豆工業等の各種製品の生產及販賣がその中心で、上海搾油工場の如きは豐富な中支の油性植物獲得處理に、又同油脂工場はそれが製品化に、それ〴〵非常な期待を懸け得られる。何分市場が廣いから石鹼などにしても販賣量の增加は著しいのである。

【內地工場】內地の方は、大阪三國塗料工場新設は去る八月に完成し、武豐火藥工場の生產力五割增計畫もほゞ實現した。これで二、三年來擴充を行つて來た水產工業、油脂工業の整備と相俟つて、一應擴張は段落を告げる。之等の收益向上を基礎として前記の如き大陸進出を計るのだから不安はない。一部植物油が今次大戰の擴大で手當難となるかも知れぬが、勿論大したものではない。

【拂込期待】今期は魚油高で水產工業がよく、石鹼其他の油脂、火藥及塗料類も亦價格高を持續し而も商ひが多い。上期は利益率一割八分餘と向上に轉じたが、之は今下期にはもつと上昇するだらう。從つて一割配當踏襲は確實なばかりでなく一、二期後に第一新株に拂込徵收あるものと見られる。興味株といつてよい。

【設立】大正十四年四月
【決算期】五月、十一月

【事業】油脂、石鹼、鹽鹽、グリセリン、其他化學藥品、漁撈、食料品

【資本金】公稱＝四〇、〇〇〇　拂込＝三〇、〇〇〇
【株　數】單位千株　舊（三〇、〇）　一一〇
　　新（一三、〇）　四八〇　一新（三一、〇）　四八〇
【重　役】社長　二師敏吉　副社長　藤田
　政輔　專務　村山盛士　常務　久保田西郎
　取締　大橋忠治　長崎茂　持田由孝　飯
　山太平　長郷幸治　齋藤完藏　吉田文藏
　二見松三　深尾七郎　有本宗　松本伊
　織　馬上福藏　鮎川義介　酒井地義三
　山下三郎　監査　石川一郎　金光甫夫
　小西勉太　下河邊建二　山田敬亮　相
　澤　田中榮八郎　太田半六
【株主數】（名）　十五年上　十五年下　十六年上
　　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
【大株主】日本水產三四、四〇〇　日產化學一〇〇、〇〇〇
　廣島水產四八、二四一　朝鮮油脂一四、八〇〇
　大正生命一二、八〇〇　澤山喜太郎一〇、八〇〇
【販賣高】　十五年上　十五年下　十六年上
　石鹼原料（瓦）　八、三五六　一三、四〇四　一三、四〇六
　鹽鹽原料（瓦）　三、八〇四　二、八四四　二、〇四〇
　グリセリン（瓦）　二、〇四七　二、一八〇　二、一八〇
　食用油脂（瓦）　三、八〇七　三、九一八　三、九六一
　石鹼（瓦）　二、九一五　二、〇八七　三、八五〇
【投資會社】滿洲大豆、滿洲油脂、滿洲化學、日本石鹼、大阪石鹼、東天石鹼、東天石油、東天藥、チルソン工業、大連油脂、滿洲化工、魚類會社、於於於於於其他
【資本異動】十三年二月北海油脂外十四社合併、三千萬圓增資第一回三割五拂込徵收、百萬圓六月拂込徵收、百萬圓六月合併、三千萬圓增資。

【資產負債】　十三年五月　十三年十二月　十四年五月
　株主資本　五、三三七　五、三三七　五、三三七
　積立金　一、〇五九　一、〇五九　一、〇五九
　外部負債　五、三四六　四、八一三　四、四三三
　　社債　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　　債入金　三、九四六　三、八一三　三、四三三
　使用總資本　九、二八三　九、一五〇　八、八五六
　固定資產　五〇、〇四三　五〇、〇四三　五〇、〇四三
　投資勘定　一〇、八五六　一一、四一一　一三、四一一
　流動資產　四三、五六六　四三、五六六　四四、八四六
　　現金預金　一、四四七　一、四四七　一、四四七
【收支勘定】　十三年上　十三年下　十四年上
　收入　五、九八八　五、四〇三　四、三〇三
　支出　五、〇三四　五、〇八六　五、九九四
　利益　一、九五四　二、三一六　二、三一六
　固定資產　四〇〇　四〇〇　四〇〇
　前期繰越　六、四〇三　七、四五七　七、四五七
【業　績】　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上
　利益率　一、九一　特、五四一、九一　一、九一
　配當率　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【株　價】（舊株）高値　安値　高値　安値　（實物）新株
　十二年上　一〇〇、〇〇　六六、二　一〇〇、〇　一〇〇、〇
　十三年　六七、九　四三、九　一、〇〇　一、〇〇
　　下　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
　十四年　六九、九　四三、九　一、〇〇　一、〇〇
　一八月　六九、九　五五、一　二、〇一　一、八一
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　六分八厘
　新　四分五厘
【利廻】六分八厘
【名義書換】十一月　【新券交付】五十錢

大阪曹達

【設立】大正四年十月
【決算期】五月、十一月

（本社）大阪市西區阿波堀通一ノ五三（電新町二四九）

【好調持續】小型會社ながら、當社の業績は頗る好調だ。歐洲大戰勃發で、遠海鹽の手當難から割當減が心配されて居るが、地中海沿岸からは大した數量が來て居らぬのだから、さうひどく懸念することもあるまい。假に、若干減つても、需要は活潑、市價は强含みだし、その上、當社の業績內容を以てすれば、現行配當維持は問題あるまい。

【副產物處理】苛性曹達の外に、鹽素關係の副產物、過酸化水素の製出も、大部成績は好い樣だし、やがて當社の收益力强化に寄與するだらう。

【資本金】公稱＝三、〇〇〇　拂込＝一、五〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）　一五、〇〇〇
　　新（四〇、〇）　五四、〇〇〇
【重　役】
　社長　尼崎伊三郎　取締　大塚和三郎
　專務　矢野　寬　監査　山田市治郎
　〃　〃　〃　藤村修三
【大株主】十三年十一月期　一四一名
　田村　花子　四、四〇〇　尼崎伊三郎四、二三〇
　尼崎　貞治　三、九〇〇　宗像　等一三、五三〇
【工場所在地】小倉市、宗像、尼崎市
【事業成績】　十三年下　十五年上　十五年下
　製品收入（千圓）三、三四五　三、六三二　三、八五五
　製造費（千圓）一、五三六　一、七一〇　一、九二三

【年產能力】（單位＝千瓦）
　苛性曹達　晒粉
　鹽素　曹達類　利益率　利益佛當
【業　績】　利益金
　十三年上　五五五　七、九五　四一、四八　六、八五
　　下　五六九　一〇、二五　四一、四八　七、四一
　十四年上　八一五　一〇、八七　三一、六八　七、八二
【株　價】（實物）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
　十三年　二一六、〇　九四、六　五四、〇　六四、〇
　十四年　一〇四、〇　九四、六　五四、〇　六四、一
　一八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割八分（一割八分）
【時價】舊　二一〇、〇
　新　八〇、〇
【利廻】八分二厘
　六分八厘

日本染料製造株式會社

（本　社）大阪市北花區春日出町二七八（電土佐堀三〇一—六）

【大戰の影響】歐洲動亂が本格的に發展すると、當社の受ける好影響も大きい。世界染料界の王座を占める獨逸染料にかはつて進出出來るし、被染物の輸出增加に伴つて內需も增加する。その上、市價の昂騰も亦必至だからだ。

【獨逸染の出廻難】無論、獨逸染の出廻りが、急減するとは思へない。然し、主要原料たるベンゾール、トルオール、石炭酸、硝酸、鹽酸等々は、爆藥原料でもあるのだから戰爭が本格的になれば生產はどうしても減る。競爭相手は獨逸から米國にかはるが、需要活潑が豫想されゝ以上、これは問題とするに當るまい。

【上期業績向上】去る六月末に締切つた上期の業績は、前期に比べて六十萬圓の增益、利益率で六分の向上に當る。染料の增產も寄與したが、それよりも寧ろ西島の醫藥工場の增產と軍需部門の活況の方が大きかつた樣だ。大分縣鶴崎に建築中の新工場は明年末には完成する豫定だが、之の活動には相當期待出來る。

【現行配當安泰】原料の手當難は、硝酸は一時から見るとすつと樂になつたし、ベンゾール、トルオールも若干緩和された。鐵粉、原鉛等の輸入爲替も、輸出が旺盛になれば當然貰へるわけだ。業績向上必至、現行配當の基礎は愈〻强化される。

【設　立】大正五年二月
【決算期】六月、十二月
【事　業】各種染料製造
【資本金】……公稱二五〇,〇〇〇　拂込二六,二五〇
　　……舊（三〇-〇一）一〇〇,〇〇〇
　　新（三一-五）一〇〇,〇〇〇
【重　役】會長　稻畑勝太郎　取締　吾妻　直路
　　社長　稻畑　二郎　〃　津川　擎事
　　取締　大橋新太郎　監査　村井　四郎
　　〃　森　平兵衛　〃　山本　信夫
　　〃　森山勇三郎　〃　平野　久保
【株主數】（名）十五年上　三,三〇　十五年下　三,四三　十六年上　三,四三
【大株主】住友生命三,三〇　住友本社三,〇六〇
　　稻畑　商店三,九二　稻畑勝太郎二,三〇〇
　　長瀨商店二,三〇〇　住友化學一〇,〇〇〇
　　岩瀨彌助二,四〇〇　稻畑　二郎二,〇〇〇
　　帝國生命二,〇〇〇　三木與吉郎一,九二〇
【事業規模】染料……六,〇〇〇瓦
　　其他……七,〇〇〇瓦
　　計……一三,〇〇〇瓦
　　年產能力（十三年上期實績）
　　染料（出市品）
　　中間物……二〇〇種類
　　（發藥其他染料）……三〇種類
【事業成績】十五年上　十六年上　十六年下
　　賣上高（千圓）三四,九三　三四,六六六　三三,三六六
　　製造費（〃）三〇,六六六　三〇,〇〇一　三三,三六六
【投資會社】日本染料輸出
【資本異動】十二年八月二〇〇,〇〇〇圓增資拂込徵收
　　十三年一月三〇〇,〇〇〇圓（最終）拂込徵收五月三千萬圓に增資第一回二〇〇,〇〇〇圓拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　六月　十二月　十四年六月
　　積立金　二九,三四四　二九,九六八　三一,四四一
　　外部負債　八,三三五　八,三三三　一四,六六六
　　社　債　一　一　一
　　支拂手形　四,〇〇〇　三,〇〇〇　一,〇〇〇
　　使用總資本　五〇,八三一　五六,九九九　一〇,四六六
　　固定資產　一七,八三一　一九,三三一　一〇,四六六
　　流動資產　三二,〇〇〇　三七,六六八　五,六〇三
　　現金預金　一,〇一〇　一,〇一〇　一,〇一〇
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　　收入　三九,三三四　三三,四六六　三三,四六六
　　支出　三,六三四　三,三三三　三,三三三
　　利益　八四四　九六三　一,一三三
　　固定消却　一〇,〇〇〇　八〇〇　一,〇〇〇
　　消却年率　一〇,〇　八〇,〇　一〇,〇
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
　　十二年上　一,三一　一,二〇　一,六八　一,二〇
　　下　一,三六　一,二〇　一,六九　一,二〇
　　十三年上　一,四四　一,二〇　一,七四　一,二〇
　　下　一,八三　一,二〇　一,七四　一,二〇
　　十四年上　一,四六　一,二〇　一,七四　一,二〇
【株　價】（實數）高値　安値　高値　安値
　　十一年　二六,〇　一四,九,〇　九,五　一
　　十二年　一四,九,〇　一四,〇　一　一
　　十三年　一四,一,五　一四,一,五　一,四　一
　　十四年一—八月　九,三,七　八,四,二　五,一,五　三四,〇,五
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十二月期　一割二分
【時價】舊一〇三,五　五分六厘
　　新五四,〇　五分八厘
【名義書換】十　錢　【新券交附】五十錢

大日本セルロイド株式會社

（本　社）大阪府堺市七道西町二一七（電波　天八〇一—四）
（出張所）東京市向島區寺島四ノ一三七（電墨田一二九九）

【歐洲大戰の影響】世界の主要セルロイド生產國と云へば、昭和十二年の數字では、日本（一萬三千瓲）、米國（七千五百瓲）、獨逸（五千五百瓲）、英國（二千五百瓲）、佛蘭西（一千五百瓲）の順だが、輸出市場で日本品と最も激しい競爭をして居つたのは、獨逸品である。戰爭が本格的に發展すれば、獨逸品の出廻りが激減するは明らかだ。原料はボロ屑、硝酸、硫酸等だが、製造過程に於ける硝化棉は無煙火藥の原料だから原料入手に心配がある。

【海外の引合活發】早くも、海外からの商談は活潑で、値段も二、三割騰げて居る。假需要だらうが、今のところ、船腹の手當も裕りがあるし、品物さへあれば輸出が伸びることは明白だ。ところが、原料入手難から生產を期待したほど增せない憾みがある。

【原料入手難】當面、一番困つて居るのは樟腦だ。勞力が不足のため增產が阻まれて居るためである。これに次いでは、今後問も無く、ボロ屑が問題となる。ス・フ混棉では製品の品質が低下する。純綿のボロは兵器の手入用のみならず、再製して毛織物などへ使用されるから入手は困難化する。

【增資期待】然し、何れにしても業績向上は必至だ。新井、綱干、天津の各工場增築中だし、增資も時期の問題であらう。

【設　立】大正八年九月
【決算期】五月、十一月
【事　業】セルロイド生地、同製品、ラクトロイド、セシル、セロファン
【資本金】……拂込濟一〇,〇〇〇
【株　數】……（三〇-〇）一〇〇,〇〇〇
【重　役】會長　森田茂吉　社長　西宗一
　　淺二　常務　伊藤吉次郎　常務　井上
　　邁吉　取締　平田鳴次郎　淺野修一
　　松本五郎　柳瓜警雄　松崎淸吉　結城鐵
　　雄　矢崎禮治　監査　昌谷彰　安場保雄
　　岩井豐治
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）一一〇三　一一九三　一一〇三
【大株主】岩井商店三一,三六一　三井合名八〇,〇〇〇
　　郵一發兵六六,〇〇〇　三井生命一一,〇一〇
　　住友銀行一〇,三六八　明治生命一〇,〇〇〇
　　三菱信託九,九〇〇　日本生命九,三〇〇
【年產能力】產額工場　セルロイド　九八〇瓲
　　堺工場　セルロイド　二,〇四〇瓲
　　綱干工場　セルロイド　三,九八〇瓲
　　鶴崎工場　セロファン　六,〇〇〇瓲
　　ラクトロイド　九八〇瓲
　　新井工場　セルロイド　六六,六〇〇瓲
　　セロファン　八四,〇〇〇瓲
　　ラクトロイド　九八〇瓲
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
　　賣上高（千圓）一二,一四〇　一三,三六三　一四,三四四
　　製造費（〃）九,七四四　一〇,三六四　一〇,三六四
　　八,八三一
【投資會社】富士寫眞フイルム、三國セルロイド、ローヤルセルロイド其他
【資本異動】十二年七月二〇〇,五〇〇瓲拂込徵收
　　十三年一月二〇〇,五〇〇瓲拂込徵收

【資產負債】
　　株主資本　五月　十二月　十四年五月
　　積立金　八,三三八　九,三三〇　九,八六一
　　外部負債　六,一三三　八,八三三　一四,六六六
　　支拂手形　二,六〇〇　二,六〇〇　一,〇〇〇
　　使用總資本　三四,四九五　三三,六六六　一四,六六六
　　固定資產　一七,五〇四　一六,三三三　一〇,四六六
　　投資勘定　一,四三三　六,一四四　五,六〇三
　　流動資產　一二,五八八　一〇,四六一　一,〇一〇
　　現金預金　二,〇三三　二,四四四　一,〇一〇
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　　收入　一四,九三三　一三,三六八　一三,三六八
　　支出　一,四六六　一,四六六　一,四六六
　　利益　一二,四六六　一一,九〇二　九,九〇二
　　固定消却　一〇,〇〇〇　一〇,〇〇〇　一〇,〇〇〇
　　消却年率　一〇,〇　一〇,〇　一〇,〇
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
　　十二年上　一,三三　一,二〇　一,六八　一,二〇
　　下　一,四六　一,二〇　一,七六　一,二〇
　　十三年上　一,四四　一,二〇　一,七四　一,二〇
　　下　一,四六　一,二〇　一,七四　一,二〇
　　十四年上　一,四六　一,二〇　一,七四　一,二〇
【株　價】（實數）高値　安値　高値　安値
　　十一年　一四,〇　一〇,〇　一四,〇　一〇,〇
　　十二年　一四,〇　一〇,〇　一四,〇　一〇,〇
　　十三年　一四,一,五　一〇,〇　一四,一,五　一〇,〇
　　十四年一—八月　一四,一,五　一〇,〇　一四,一,五　一〇,〇
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊一四,〇　八分
　　新一四,一,五　八分一厘
【名義書換】十　錢　【利益】五分二厘
【新券交附】三十錢

日本火藥製造株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル（電丸ノ内二五七七—九）

【拂込徵收】去る七月一日新株の第四回拂込—一株十圓宛總額百五萬圓を徵收した。自社工場擴張費及直系會社朝鮮火藥へ融資する爲めの拂込だ。これで資本金一千萬圓全額拂込濟となつたが、次の興味は增資時期とその程度である。會社側ではまだ增資認可の申請をしてゐない樣だが、現在見透される限り來春に實現すると押へられる。そして程度は倍額、舊株主に一對一で割當てられよう。

【擴張主力大陸へ】內地工場は厚狹擴張で當面一段落する。同工場の擴張は爆藥生產能力二割增及グリセリン自給設備で、來春までにそれ〳〵完成の豫定だ。之に尙百萬圓程を必要としてゐる。大陸方面では直系朝鮮火藥は第一期（爆藥）計畫完成に續き、目下第二期（爆藥增產及火工品）建設中で、之亦尙二百五十萬圓を要する。同社は現在資本金五百萬圓（拂込濟）を倍額にする豫定だから、同社の全株式を保有する日火の資本手當が迫つてゐる譯だ。其他、濟南の傍系會社新中華火藥、山西の太原火藥廠（軍からの受託）等へも、これから相當の資金を注ぎ込まねばならぬ。

【下期據置】增資後は兎も角、今年下期も二割配當を維持するだらう。最近値段に變化ないが、爆藥類の賣行きは依然順調である。大戰の直接的惡影響は尠なく、寧ろ大陸への發展に期待される。

【設　立】大正五年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ダイナマイト、硝安爆藥、黑色火藥、導火線、雷管類、藥莢、銃彈、裝彈
【資本金】……拂込濟 10,000,000
【株　數】……舊(50.0) 200,000　新(50.0) 100,000
【重　役】社長 原安三郎　取締 小倉禮三、長崎英造、鑒査 岡野歸一、工藤金三郎、桑田透一
【株主數】(名) 飯森海男 十五年上 八四四
【大株主】山本武太郎 三〇、七五〇　中外產業 三〇、〇〇〇　內外鑛業 六、〇〇〇　原安三郎 九、三〇〇　飯森梅男 四、六四〇　長崎英造 四、〇〇〇　清水高邦 三、六〇〇　小倉禮三 四、〇〇〇　安田生命 三、八一〇　久保島亮吉 四、〇一〇
【事業規模】工場所在地…山口縣厚狹町
年產能力（兩）
雷管ダイナマイト……
硝安ダイナマイト……
硝安爆藥……
【投資會社】中外產業（證券保有會社）
華鮮火藥製造、中外火工品、帝國藥莢製造、帝國染料製造、日本計布、山川製藥、中外鑛業
【資本異動】十一年十月二五圓拂込徵收。十一月五二五萬圓增資第一回拂込三圓五、十二年九月一七圓五、十三年七月一〇圓、十四年七月最終一〇圓各拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月末	十三年五月末	十四年五月末
株主資本	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
積立金	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	三、八〇九、九〇九	三、八〇九、九〇九	三、八〇九、九〇九
借入金	—	—	—
支拂手形	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一八、五五、九〇九	一八、五五、九〇九	一八、五五、九〇九
固定資產	一、四四三、〇〇〇	一、四四三、〇〇〇	一、四四三、〇〇〇
投資勘定	九、四三、〇〇〇	一〇、四三、〇〇〇	一〇、四三、〇〇〇
流動資產	六、六四三、〇〇〇	六、〇四三、〇〇〇	八、〇四三、〇〇〇
現金預金	四、六四〇	四、〇四〇	四、〇四〇

【收支勘定】

	十二年上	十三年下	十四年上
收入	七、三三三、〇〇〇	七、九三三、〇〇〇	八、四五九、〇〇〇
支出	五、九五九、〇〇〇	六、一〇〇、〇〇〇	六、五五〇、〇〇〇
利益	一、四四〇、〇〇〇	一、八三三、〇〇〇	一、九〇九、〇〇〇

【業　績】

	利益率	配當率	利益率
十一年下	四、一五	一、〇割一、〇	四、五五
十二年上	四、〇五	一、〇〃一、〇	四、六一
下	三、九五	一、〇〃一、〇	三、九五
十三年上	三、九五	一、〇〃一、〇	三、九五
下	四、二五	一、〇〃一、〇	四、八三
十四年上	三、八五	一、〇〃一、〇	四、八五

【株　價】（實勢）舊株

	高値	安値	新株 高値	新株 安値
十二年	一二〇、〇	一〇〇、〇	七一、〇	四四、五
十三年	一三五、〇	一〇五、〇	九六、八	九二、〇
十四年	一三一、〇	一一一、〇	九六、〇	九六、八
一—八月				

【基準配當】二割
【豫想配當】十四年十一月期　二割
【時價】二三一、〇　【利廻】八分三厘
【名義書換】十　錢　【新券交附】三十錢

日本理化工業株式會社

（本社）東京市京橋區銀座三ノ三（電京橋六八一—六）
（支社）大阪市東區今橋三ノ一五（電北濱三七八—九）

【下期も順調】各地工場の擴張殆ど一段落し、酸素販賣量は鎔接用方面を中心に引續き順調な增加を示し、蒲田工場の高壓化學機械製造も本格的となり、下期成績は今上期と大差ない見込である。卽ち利益率三割臺保持は確實で、一割配當踏襲に問題ない。

【電力制限影響】今迄の所大したことはなかつたが、この先電力供給制限が强まるとアセチレン工業に支障を來す。子會社日本アセチレンのアセチレンはカーバイドの生產不足で惡影響をうけ、延いてアセチレン瓦斯利用の內燃機關を製造する當社のこの方面の新事業に行悩へを生ずる懸念が生じて來たのである。同內燃機はガソリン內燃機代用となり、當社で豫ねてから研究し本格的企業化計畫を進めてゐたゝけに、刻下の電力異變に遭遇したことは不幸だ。だが、この企業化が遲れるにしても、成績への打擊はまだ輕微である。投資額も尠ないし、收益上どうこうといふ程度でないからだ。

【大戰影響】酸素工業の重要資產である容器の輸入も大戰の結果問題たり得る。酸素容器は良質の鐵製品でなければならず、その大部分は輸入に仰いでゐる。當社は相當持つてをり、住友金屬でも製作してゐる故一部國產品で間に合ふが、今後輸入する分は不如意か高價になる惧れがある。此の點今後注意すべきだ。

【設　立】大正七年七月
【決算期】五月、十一月
【事　業】酸素、各種壓縮瓦斯、液化瓦斯、理科學機械、化學製品製造並販賣
【資本金】公　稱 二六、〇〇〇　拂　込 四、〇五〇
【株　數】……舊(50.0) 六〇、〇〇〇　新(12.5) 六〇、〇〇〇
【重　役】社長 高橋是賢　常務 高橋直行　取締 山口武彥　〃 鑑査 長谷川辰兄　〃 山下太郎　〃 河野平司　〃 渡田勇三　〃 千安實三
【株主數】(名) 十五年上 四六二　十四年下 四六二
【大株主】安田保善社 一八、六六六　安田生命 一〇、四〇〇　高橋是賢 九、四六六　岩崎小彌太 四、五〇〇　日本酸素會社 三、六〇〇　東德興業 三、〇〇〇　山武商會 三、〇〇〇　三菱信託 二、五〇〇　西脇合名 二、五〇〇　古藤麥太郎 一、〇〇〇
【事業規模】
生產能力
酸素年產能力……八、〇〇〇千立方米
酸素製造機……二四基
工場所在地　龜戶、蒲田、名古屋、都山、天竺、廣島、小倉、釜石、
【事業成績】十五年上　十五年下　十六年上
販賣高（千）　三、〇九五　三、〇四六　三、四三
【投資會社】日本アセチレン工業、日本鎔接機
【資本異動】昭和三年六月社名を日本理化工業と變更旧稱日本酸素十五年四月二圓五(最終)拂込徵收六月倍額增資第一回一七圓五拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月末	十二年十一月末	十四年五月末
株主資本	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
積立金	八、〇〇〇、〇〇〇	九、九六六、〇〇〇	一、〇九五、〇〇〇
外部負債	七、八四五、〇〇〇	三、三五三、〇〇〇	三、三五〇、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—
使用總資本	七、二五四、〇〇〇	八、二五四、〇〇〇	八、二五四、〇〇〇
固定資產	四、四五五、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
流動資產	三、四〇〇、〇〇〇	三、九五四、〇〇〇	三、九五四、〇〇〇
現金預金	一、〇九五、〇〇〇	六四〇、〇〇〇	三四〇、〇〇〇

【收支勘定】

	十五年上	十五年下	十六年上
收入	三、三三三、〇〇〇	三、三三三、〇〇〇	三、四三三、〇〇〇
支出	二、二四二、〇〇〇	二、二四二、〇〇〇	二、二四二、〇〇〇
利益	一、〇九一、〇〇〇	一、〇九一、〇〇〇	一、〇九一、〇〇〇
固定消却	三、九六六	三、九六六	三、九六六
消却年率	一〇〇	一〇〇	一〇〇

【業　績】

	利益率	配當率	利益率
十一年下	三、一九	一、〇〇	三、八六
十二年上	三、四四	一、〇〇	三、一四
下	三、四五	一、〇〇	三、八六
十三年上	三、四五	一、〇〇	三、八六
下	三、四四	一、〇〇	三、二
十四年上	三、六六	一、〇〇	三、四四

【株　價】（實勢）舊株

	高値	安値	新株 高値	新株 安値
十二年	八四、〇	六六、〇	—	—
十三年	八四、〇	七四、〇	一六、〇	九六、〇
十四年一—八月	七一、七	五六、〇	一四、八	一二、〇

【基準配當】一割
【時價】舊七一、五　新三五、五　【利廻】七分五厘二
【名義書換】十　錢　【新券交附】七十錢

東海電極製造株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル内（電丸ノ内　三六六一九）
（出張所）大阪市北區中ノ島三ノ三朝日ビル内

【拂込接近】去る七月一日新株の第二回拂込を徴收したばかりだが、擴張工事の進行で第三回拂込の徴收も餘儀ない情勢にある。所要資金から見て總額二百萬圓一株二十五圓の未拂込全額を徴收せねばなるまい。期日は資金調整局の認可があるまでは判然言へぬが工事の進行から見て本年十二月頃に徴收されるのではあるまいか。

【擴張資金】名古屋工場擴張に百二十萬圓、同第二工場に五十萬圓、田ノ浦工場に百三十萬圓合計三百萬圓はどうしても本年中に欲しい。傍系東極產業の倍額增資でこれにも拂込資金が要る。百萬圓程は手許資金で賄へても殘り二百萬圓餘は拂込に俟つ他ない現狀だ。

【增資含み】炭素製品の需給數量は差控へるが當社の擴張は軍の慫慂があるばかりでなく緊需から推しても更に倍近くの生產擴張を必要とする。そのために結局增資は必至と思はれる。

【東極產業の增資】傍系東極產業は四國高松に工場敷地一萬坪を買收して第一期五千坪の工場建設に着手。親會社の耐火煉瓦需要急膨脹に備へ餘力あれば市販に向けるべく、五十萬圓から百萬圓に倍額增資を斷行した。

【成績好調】前期の固定資產收益率は四割五分で非常に良い。一割二分配當は餘裕が多い。拂込徴收後も大體現配當維持に心配はない。

【設　立】大正七年四月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種電極、炭素壓帶、炭素棒其他　アークカーボン　研磨材料、合金鐵　電刷子類、炭素壓帶、炭素棒其他
【資本金】公稱＝10,000　拂込＝八,000
【株　數】……舊（五〇,〇）　一一〇,〇〇〇　新（二五〇,〇）　八〇,〇〇〇
【重　役】社長　寒川　恒貞
常務　竹内　敬夫　取締　中島　爲喜
〃　寒川恒一郎　〃　永井　雅夫
取締　川崎合恒三　〃　武田　正基
〃　福澤　駒吉　監査　川崎友之介
〃　下出　義雄　〃　森　孝三
〃　村上　竹藏　〃　小早川常雄
【株主數（名）】十五年上　五五六　十六年下　五五六　十七年上　六〇一
總數（名）
【大株主】
寒川　恒貞　二五,一六〇　東極產業　一四,三〇〇
熊本電氣　一三,一六〇　寒川恒一郎　七,五〇〇
前田　利爲　六,〇〇〇　日本生命　六,〇〇〇
大同製鋼　四,一六〇　芝山泰一郎　三,九〇〇
【事業規模】年產能力（十二年現在）
人造黑鉛電極……四,八〇〇瓩　電刷子……百萬箇
天然黑鉛電極……六〇〇〃　炭素棒……三五〇〇本
「カレー」製品……四〇〇〇本　合金鐵……三〇〇瓩
炭素壓帶……一五〇〇組　其他……五〇〇箇
工場＝〃京大井、茅ヶ崎、名古屋堀江
及荒濱町、福岡若松、熊本田浦
【投資會社】東極產業、東極鋼業、東海乾電地
【資本異動】十三年六月二百萬圓最終拂込徴收
十一月四〇〇萬圓增資第一回　十四年七月
第二回各二百五十萬圓拂込徴收

【資產負債】五十二年　五十三年
株主資本　六,〇八〇　七,八七六
積立金　七〇八　一,〇四五
外部負債　一,〇六九　二,〇四一
使用總資本　七,〇六九　九,〇二一
固定資產　三,八一一　四,八四四
投資勘定　六〇六　六〇三
流動資產　三,二〇三　三,四六六
現金預金　一,一〇六　一,一四九
【牧支勘定】十五年上　十五年下
牧　入　三,〇八五　三,八五五
支　出　二,〇八三　二,八五六
利　益　一,〇八三　一,〇八六
固定消却　一〇〇　一〇〇
消却年率　三〇〇〇　九〇〇〇
【業　績】利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　六,一三　一,一〇〇　六,一三　一,一〇〇
下　六,三三　一,一〇〇　六,三三　一,一〇〇
十三年上　六,六一　一,一〇〇　六,六一　一,一〇〇
下　六,六一　一,一〇〇　六,六一　一,一〇〇
十四年上　六,三三　一,一〇〇　六,三三　一,一〇〇
【株　價】（實勢）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十二年　二九〇〇　八八〇〇　一　一
十三年　一〇四〇〇　六六〇〇　一六〇〇　一九〇〇
十四年　九一〇〇　六六〇〇　五九〇〇　三一〇〇
一一八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　九三〇〇　六分五厘
新　五九〇〇　【利回】五分一厘
【名義書換】五錢　【新券交附】二十五錢

日本カーボン株式會社

（本　社）横濱市神奈川區神奈川通九丁目（電神奈川三三二）
（事務所）東京市麹町區丸之内有樂館内（電丸之内　二六二一三）

【前期業績】前期の利益金は六十七萬七千圓と、前々期に比し二十七萬九千圓の大增益となつた。一月と四月に拂込をとつたので、利益率は三割六分九厘となつたが、それでも六分七厘の向上である。横濱海岸工場、富山工場等の完成部分が續々と運轉を開始したからである。

【擴張模樣】電極需要の激增で、玆許大多忙なので、盛んに擴張中だ。横濱海岸工場も略完成し、殘る所は燒成爐の增設だが、これも今年一杯には完了する。新設の鶴見工場も、建物は完成し、目下機械の手當中だ。最大工場たる富山の笹津工場は、一貫作業の完成を目標に鋭意工事を進めてゐるが、機械の搬入が遲れて完成は明春になる模樣だ。以上の擴張には七、八百萬圓を必要とする。

【增資近し】その外に當社は滿洲炭素工業や高周波重工との提携になる朝鮮の電極會社へ出資せねばならぬので、この金も要る。去る七月の拂込で、全額拂込濟となつたので、この十一月頃に倍額增資を行ふ豫定である。そして資金の緊急必要なるにより、第一回拂込は廿五圓となる模樣だ。當社は曾ては同業東海電極に劣つたが、最近の積極政策により段々に追ひついて來た。大陸進出も有望と見られるが、その成績は今後に俟つ外ない。

【設　立】大正四年十二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種電極、炭素棒、電刷子、電話器用炭素製品、炭素壓帶　拂込濟
【資本金】……舊（五〇,〇）　五五,〇〇〇　新（五〇,〇）　五〇,〇〇〇
【株　數】
【重　役】
社長　近藤　賢二　取締　佐野　隆一
專務　石川　等　〃　渡邊　芳郎
取締　澁澤　義一　監査　吉井橋磨呂
〃　西郷　健雄　〃　中村房次郎
〃　大谷米太郎　〃　北村　眞
〃　棚橋貞五郎　相談　井坂　孝
【株主數】十五年上　十六年下　十七年上
總數（名）　四一六　五一〇
【大株主】
大谷米太郎二,五〇〇　近藤賢二　四,一〇〇
石川　等　四,四〇〇　横濱火災　三,四〇〇
大阪屋商店　二,五〇〇　野間サエ　二,三〇〇
棚橋貞五郎　二,五〇〇　佐野隆一　二,〇〇〇
總興社　二,〇〇〇　日本鋼管　二,〇〇〇
【事業規模】十三年上期現在
電極年產能力……自一萬五千噸　至二萬噸
工場所在地＝横濱、東京、大阪、富山、山梨、横濱第二工場
【投資會社】朝日石綿紡織、昭和電極　昭和特殊製鋼
【資本異動】十三年十月五百萬圓增資金拂込徴收十三年二月壹百萬圓に增資第一回二圓五拂込徴收十四年一月二回五拂込徴收三月二圓五拂込徴收

【資產負債】五十二年　十二月　五十三年
株主資本　六,〇四〇　七,〇八六
積立金　七〇八　一,〇四五
外部負債　一,〇六九　二,〇四一
支拂手形　九三二　一,〇三四
使用總資本　九,〇四〇　九,二一一
固定資產　二,一四一　二,一五九
投資勘定　一,一四一　一,一四一
流動資產　四,〇五六　四,〇五六
現金預金　一,一〇六　一,一〇六
【牧支勘定】十五年上　十五年下
牧　入　六,〇三三　四,五〇二
支　出　二,一四一　二,一四一
利　益　三,八九二　四,〇〇二
固定消却　一〇〇　一〇〇
消却年率　五〇〇　五〇〇
【業　績】十五年上　十五年下　十六年上
利益率　配當率　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇
下　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇
十三年上　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇
下　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇
十四年上　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇　一〇,〇　一,〇〇〇
【株　價】（實勢）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十二年　二〇〇〇　一六〇〇　一　一
十三年　二〇〇〇　一六〇〇　一　一
十四年　二〇〇〇　一六〇〇　一　一
一一月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　九一〇　六分六厘
新　九〇〇　【利回】六分七厘
【名義書換】五錢　【新券交附】三十錢

日本硫黃株式會社

（本社）東京市芝區田村町一ノ一（電銀座 三六六八）

【成績低下】 今上期は二割四分の利益率となり、對前期二分四厘の低下を見た。一割二分配當持續はそれだけ餘裕が尠くなつた譯である。業績低下の主因は硫黃採礦量並びにその販賣量の減少、二硫化炭素の販賣減にある。硫黃、二硫化とも需要狀況面白くなく、殊に硫炭は日本二硫化炭素工業組合により、本年二月から五割操短を實施中だが、これは昨年八—十月の三割五分から二回に亘つて引上げられたものだ。人絹、人纖方面への供給減に基づく。

【其後の大榮金山】 本業が斯くよくない上に固定資本が寢てゐる。當社は北海道大榮、岩手縣黃金及南部、栃木縣久富の四金山を買收し、この內大榮金山の開發を急ぎつゝあるが、時局柄中々捗らぬ。同金山は富鑛と言はれるが、製錬所其他設備の建設に遲延を重ねてゐるため、中々成績に寄與するに至らないのである。稼行は早くて來年夏頃になるのではないかと見られる。既に百萬圓近くの投資が行はれたが、先行きその倍以上は要するであらう。

【今來期が峠】 そこで大榮金山稼行迄の今、來期が問題だ。大戰の影響で人絹及人纖界の情勢に好轉の兆の見えて來たのは何よりで、その增產の爲めの硫炭需要增に望みを囑し得るに至つた。その程度にもよるが、當社もこゝ迄來て減配する手はないとも思はれる。

【設　立】明治四十年四月
【決算期】六月、十二月
【事　業】硫黃、二硫化炭素鑛業鐵道業
【資本金】公　稱＝五、〇〇〇 拂　込＝二、七五〇
　　……舊（三〇〇）四〇、〇〇〇
　　新（二五〇）四〇、〇〇〇
【重　役】取締　田中榮八郎　取締　富川七之助
　　〃　西脇　健治　〃　林　政夫
　　〃　石川一郎　監査　篠崎　友三
　　〃　二神　敬吉　〃　吉米地義三
【株主數】總數（名）三五年上　七五年下
　　三七八　四二三
【大株主】日產化學工業　二、六二五　西脇　健治　九、〇〇〇
　　石川　一郎　三、四五〇　中村房次郎　三、五〇〇
　　山田　五郎　二、四五〇　山田　正三　二、〇〇〇
　　山一證券　一、九二〇　田中　壽一　一、五〇〇
【事業現況】工場別製品及月產能力（噸）
　　沼尻鑛業所（）硫化炭素、硫黃）一、六〇〇
　　大阪工場（）硫化炭素）……九〇〇
　　岡山工場（）硫化炭素）……一、一〇〇
【生產數量】（噸）十五年上　十五年下　十六年上
　　採鑛量　三五、六七〇　三二、九八二　三二、九八二
　　精製硫黃　五、五四〇　四、〇五五　五、五四〇
　　硫黃鑛石　四、四三三　四、〇五五　四、三五六
　　硫黃加工品　一、七二三　一〇、五五〇　七、三五六
【販賣高】（千圓）十五年上　十五年下　十六年上
　　鑛業收入　七、六四〇　六、五〇　六、五六
　　染品收入　一、二三一　一、一二三　一、五七〇
【投資會社】中ノ澤溫泉、新興硫炭、日本硫炭、
【資本異動】十二年三月（最終）拂込徵收七月三百萬圓增資八月第一回三圓五（最終）拂込徵收、十三年三月二圓五拂込徵收、十五年三月二圓五拂込徵收

【資產負債】　十三年六月　十三年十二月　十四年六月
　　株主資本　三、〇五〇　三、八五〇　三、九六八
　　積立金　六九九　八四三　八〇〇
　　外部負債　一、六五四　一、二二一　一、九九
　　借入金　二五一　一五五　一五五
　　支拂手形　四、四〇四　五、〇九一　五、九五
　　使用總資本　四、七四四　五、二六二　五、八四九
　　固定資產　三、五三三　三、八四七　三、八四七
　　投資勘定　三九　一五五　一五五
　　流動資產　三、二五五　三、三五九　三、三四三
　　現金預金　六六三　五九六　五六六
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
　　收　入　五、一四三　五、〇〇四　五、〇四四
　　支　出　三、八一七　三、六四〇　三、〇四四
　　利　益　一、三二六　一、三六四　一、〇〇〇
　　固定消却　三四四　一〇四　一〇四
　　消却年率　九、〇〇〇　七、〇〇〇　七、〇〇〇
【業　績】　十二年上　十三年上　十四年上
　　利益率　一、七八　一、三〇　一、二〇
　　配當率　一、二〇　一、二〇　一、二〇
　　下　二、四三　一、二〇　一、二〇
　　下　三、四三　一、二〇　一、二〇
【株　價】（實物）舊　株　新　株
　　十四年上　高値　安値　高値　安値
　　十二年　一〇八、〇　六九、六　一　一
　　十三年　九七、〇　六〇、〇　三、五　二、八
　　十四年　六七、〇　五七、〇　三、〇　一、六〇
　　一—八月
【基準配當】　一割二分
【豫想配當】十四年十二月期　一割二分
【時　價】舊六七、〇　【利　廻】九分二厘
　　新三、五　六分九厘
【名義書換】五　錢【新券交附】三十錢

大日本鹽業株式會社

（本　社）東京市麴町區丸ノ內二ノ六（電丸ノ內 二五六）

【颱風の被害】 前輯所報の如く、近海鹽の增產を目標として鹽田擴張計畫を進涉せしめつゝあつたが、過般の八月末大陸一帶に颱風の災害を蒙り、豐作を豫想された本年も、どうやら危い。も早や北支方面に於けるストックも皆無の狀態だし、この對策の樹立が急務とされる。未だ被害の詳細なる實狀は判明しないが、程度の輕微なることを祈るとともに、適切なる對策の樹立を急がれたい。

【大戰の勃發】 續いて第二次歐洲大戰は勃發した。わが國の工業鹽の大部分が遠海鹽に依存してゐるだけに、その影響は大きい。遠海鹽の輸入は船腹不足に加へ、戰亂のため今後は輸入杜絕の運命にある。アメリカ鹽、近東地方の準近海鹽に代用を求めるとして、果して船舶その他の用意があるか。問題は複雜である。

【業績には響くまい】 しかし、適當なる對策が採用される限り、當社の成績にそれほど惡影響を齎さないだらう。國內アルカリ工業の發展は目覺しく、原鹽需要は增大の一途を辿つてゐるので、根本的には悲觀されないが、目先的には思はしくない。も少し被害の度合が判明せねば、前途の見透しもつかないが、一割配當は持續しよう。

【前途觀】 最近、當社は種々の時局產業に關係してをり、鹽業の將來とて惡からう筈はない。見透し如何により、增資も實現しよう。

【設　立】明治三十六年九月
【決算期】六月、十二月
【事　業】鹽田經營、臺灣並外鹽輸移入
【資本金】公稱＝八、〇〇〇 拂込＝六、〇〇〇
　　……舊（八〇）六、〇〇〇
　　新（五〇）六、〇〇〇
【重　役】社長　一宮　銀生　取締　住田　正一
　　常務　芝　喜代二　〃　柳　悅耳
　　〃　岡　雅枝　常監　岩井　俊藏
　　取締　山下　博敏　監査　三輪喜長衛
　　〃　北西位佐久　〃　室谷　藤七
【株主數】總數（名）十一年上　十二年上　十三年上
　　一、〇九六　一、〇九五　一、〇八四
【大株主】（十一年十二月末現在）以後變化せず
　　正金（東京支店）二、二九　臺灣銀行　四、〇二六
　　大日本製糖　一、六四四　中村合名　九〇〇
【事業現況】
　　双島灣（町）　九四四　昔關店（町）　一、三六六
　　鯉子窩（町）　三、〇〇〇　五　島（町）　一、三〇〇
　　布　袋（町）　一、四一　末宗成（町）　三、六八一
　　大　連（町）　三九　鍵面積（町）　七、二五〇
【事業成績】（千圓）十五年上　十五年下　十六年上
　　專賣局納　一六〇、八四四　一六〇、四五四　一六〇、八一六
　　漁業用鹽　三五、八四四　三六、〇三六　三五、九三〇
　　工業用鹽
　　其　他　五〇、六七四　五三、一三九　五九、九一〇
　　販賣總高　一四五、一四三　一四三、一六〇　一三五、五二三
　　自社生產高　四五、八五四　一一〇、八〇三　八二、三六九
　　加工高　一四五、一四三　一一〇、八〇三　八二、三六九
【投資會社】鴨綠江運輸、關東運輸、滿洲鹽業、山東鹽業、北洋鹽業、南滿太鹽業
【資本異動】十年十月倍額增資十月第一回二圓五拂込徵收、十五年三月二圓五拂込徵收

【資產負債】　十三年六月　十三年十二月　十四年六月
　　株主資本　八、六九六　八、六九六　九、二六八
　　積立金　四、四四〇　八、四三五　九、〇二九
　　外部負債　四五九　四二九　六六六
　　借入金　二、〇〇〇　六、四三三　八、二三三
　　支拂手形　三、〇八六　一四、三六六　一九、二六四
　　使用總資本　四、二四四　四、九九九　八、八六六
　　固定資產　三、六五五　四、四三五　四、九四四
　　投資勘定　二、三六五　四、四三五　四、九四四
　　流動資產　四、三六五　六、四三三　一、一六四
　　現金預金　九三五　四四〇　四四〇
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
　　收　入　六、三三五　七、〇四三　八、二八六
　　支　出　五、四三五　六、四三三　一、一六四
　　利　益　一、四〇〇　六〇〇　七、一二二
【業　績】　十二年上　一、六五　一、〇〇　一、〇〇
　　下　一、六五　一、〇〇　一、〇〇
　　十三年上　一、六五　一、〇〇　一、〇〇
　　下　一、六五　一、〇〇　一、〇〇
　　十四年上　一、六五　一、〇〇　一、〇〇
【株　價】（實物）舊　株　新　株
　　十四年上　高値　安値　高値　安値
　　十二年　一〇、〇　六九、六　一　一
　　十三年　九七、〇　六〇、〇　三、五　二、八
　　十四年　六七、〇　五七、〇　三、〇　一、六〇
　　一—八月
【基準配當】　一割二分
【豫想配當】十四年十二月期　一割二分
【時　價】舊六七、〇　【利　廻】九分二厘
　　新三、五　六分九厘
【名義書換】五　錢【新券交附】三十錢

日本ペイント株式會社

（本　社）大阪市西淀川區浦江北四丁目（電話島三五一—六）
（營業所）東京市品川區南品川四六〇〇（電話高輪三六二、二〇四）

【業績向上顯著】當社の最近に於ける業績向上は極めて顯著である、去る七月末に締切つた上期は、利益金四十七萬圓を擧げ、對平均拂込資本利益率は二割四分四厘で前期に比し、十二萬圓の增益、利益率で二分五厘の上昇に當る。斯うした好成績は言ふまでもなく、需要活潑市價騰貴に惠まれたからだ。原料の鉛、亞鉛、ブタノール、松脂等の入手難は依然續いて居るけれども、一方一流會社たる當社には製品の多產多樣性から註文が集中する、この點が增益に與かつて力あつたわけである。

【滿洲工場活躍】懸案の奉天工場は、去る七月末、資本金四百萬圓、內拂込百萬圓の新會社として正式に誕生した。滿洲產業五ケ年計畫の進捗に伴つて、同社の活躍もまた充分期待し得るものがあるのだ。

【大戰と業績見透】歐洲大戰勃發に依つて、從來の競爭相手たる獨逸品は市場から影をひそめ、これにかわつて日本品が進出することは必至だ。これはさう急激には見られなくとも、漸次市場は擴大されよう。一方、內需の活況はまだ〳〵續く。業績は尙ほ好調を持續しよう。業績が向上しても、此の上の增配を望むは不可、現行九分配當據置きと見てよい。

【設　立】明治三十一年一月
【決算期】一月、七月
【事　業】亞鉛華、光明丹、リトホン其他顏料、人造樹脂、各種ペイント
【資本金】公稱＝六、〇〇〇　拂込＝三、八八〇
株　數……舊（五〇・〇）　新（二〇・〇）
舊　八〇、〇〇〇　新　一〇、〇〇〇
【重　役】社長　小畑源之助（二三・五）
常務　田坂吉二郎　取締　田中　新七
〃　鈴木傳治郎　監査　藤井　善助
取締　森　平兵衛
〃　吉原定次郎
【株主數】十五年上　十五年下
總數（名）　九、二四四　九、二四四
【大株主】
小畑源之助　六、〇八〇
日本生命　三、一〇〇
森　合資　三、〇〇〇
京野　敬二　三、一五〇
多聞土地　三、〇〇〇
【取扱業種】十三年上期現在
生產能力（瓦）大阪工場
ペイント　一四、八七〇　五、九六〇
塗料油　四、三二五　四、四三〇
ワニス　一、四〇〇　一、三五〇
顏料繪具　四一、八一五　七、五五五
合計　三一、八〇五
工場大阪市浦江、東京市品川、
【事業成績】十五年上　十五年下　十四年上
取資金（千圓）八〇四　九五五　一、〇八一
營業費（千圓）四七〇　五四九　六〇七
【投資會社】滿洲日本ペイント
【資本異動】十年十月決算期四月・十月を一月・七月に變更從つて十三年一月期は十二年五月—十三年一月の九ヶ月間

野村生命　六、〇〇〇
吉原定次郎　二、四八〇
日東商事　二、二八
大元電料店　二、〇四六
田中商店　一、八〇〇
東京工場
八、三五五
四、三二五
一、四〇〇
七、三五五
三、八〇五
【資產負債】
株主資本　六、〇四五　七、二四四
積立金　一、八八一　二、三三七
外部負債　二、三八　二、四四四
支拂手形　一、三九九　一、八四四
使用總資本　八、一四四　九、一一三
固定資產　三、〇一七　三、〇四四
投資勘定　一　一、三八一
流動資產　三、一三六　四、一八八
現金預金　一、〇四八　五三一
【收支勘定】十五年上　十五年下　十四年上
收入　八、三三　九、二四四　一、〇九六
支出　五、四四　六、三五五
利益　三、四九　四、四一　一、三三
固定消却　五、四四　一、四三
消却年率　四、九七　一、四
【業　績】十二年下　十三年上下　十四年上
利益率　一、八四　一、八　二、一九　二、四五
配當率　起業費八　〇、八四　〇、八四　〇、八四
【株　價】（實績）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十二年　五、〇　四三・五　五〇・二　四〇・九
十三年　五九・〇　五四・九　五八・〇　五一・〇
十四年　五二・二　五二・〇　五九・六　四一・五
一—八月
【基準配當】九分
【豫想配當】十五年一月期　九分
【時價】舊　六三・五　【利廻】七分二厘
新　五八・八
【名義書換】十　綾　【新參女附】三十錢

關西ペイント

（本　社）兵庫縣尼崎市神崎三六五（電尼崎二〇二）

【設　立】大正七年五月
【決算期】四月、十月

【積極經營】當社は今回オリエンタル・ペイントの實權を握つた。同社は資本金百萬圓（五十四萬圓拂込）で油ペイントの製造に獨特の經驗と技術を持つてゐる。これを當社の傘下に納めたのはその技術を買ふ爲めと見られる。尙ほ當社も朝鮮進出、新規事業の着手、滿洲關西ペイントの擴充等積極策を持つてゐる。

【增資期待】全額拂込濟みの當社としては右の積極策を遂行するには借入金乃至增資によつて資金を調達しなければならない。當局者は倍額增資を申請中だとあるが、色々の事情からみて半額程度の許可が得られるものと想像される。

【資本金】公稱＝四、〇〇〇　拂込＝三、五〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　百、〇〇〇
新（二五・〇）　五〇、〇〇〇
【重　役】社長　岩井雄二郎
專務　中山鹿太郎　取締　石川都三郎
常務　酒見恒太郎　〃　織田秋之助
取締　兒玉　正雄　監査　岩井　豐治
〃　下田桃三郎　〃　河本　隆藏
【大株主】十四年四月期　五九名
岩井商店　二、五〇〇　石川都二郎　二、三五〇
荒川長太郎　二、〇〇〇　木村　弘一　一、九四〇
【營業種目】亞鉛華、光明丹、リサージ、ボイルド油、ペイント、エナメル、ワニス、人造樹脂、ラッカー、水性塗料
【事業沿革】
工場所在地＝尼崎市神崎、東京蕨田
奉天工場
【業　績】利益率　配當率　利益率
十三年上　三五〇　二・四四　〇・八〇　六・一五
下　三九四　二・三六　〇・八〇　五・八四
十四年上　四五九　二・五四　〇・八〇　五・八八
【株　價】（實績）舊　高値　株　安値
十三年　五九・三　四九・〇
十四年　五六・〇　四〇・〇
一—八月
【豫想配當】十四年十月期　九分（九分）
【時價】舊　五五・八　【利廻】八分一厘

帝國染料製造

（本　社）東京市銀町區丸ノ內海上ビル（電丸ノ內八〇二）

【設　立】大正五年一月
【決算期】五月、十一月

【大戰好影響】染料界は歐洲大戰の結果好影響を受ける。第一次世界大戰の時には獨逸染料の輸入杜絕で、染料は暴騰したが、今日では幸に大部分のものが國內で生產され、特に硫化系統のものは完全に國產で出來るから、當時とは事情が違ふが、海外市場に於ける獨逸の退場は輸出の大繁忙を約束する。

【現配當安泰】當社の內容はかなり優秀である。製品も硫化ブラックBXと言へば業界では著名だ。目下增產工事を着々進めてゐるが、これが完成すると、四割方の增產となる。來期あたりから此の方面の利益が期待されるが、今期も一割五分配當は無論安泰だ。

【資本金】公稱＝五、〇〇〇　拂込＝三、二五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　五〇、〇〇〇
新（二五・〇）　五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　原　安三郎　取締　長久伊勢吉
專務　高橋產三郎　監査　平地　治平
常務　遠藤　素三　〃　飯森　梅男
〃　高橋　善一　〃　長崎　英造
〃　橫高弟五郎　〃　豐田　德郎
取締　田和政治郎　〃　坂本　政七
〃　久保田桐造　相談　石藤　豐太
【大株主】十四年五月期　三四名
中外產業天　二〇、〇〇〇　喜多　義次　五、〇〇〇
智崎富士太郎　五、〇〇〇　河村　登　五、〇六
【工場所在】廣島縣福山、小倉
【關係會社】日本火藥製造の傍系會社
【業　績】利益金　利益率　配當率　利益率
十二年下　三九九　三・九（特別賞二・〇）　六・一六
十三年上　六一七　五・二六（〃五・〇）　六・八〇
下　六五九　四・七二　六・二〇
十四年上　五三三　三・三三　四・四一
【株　價】（實績）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十四年　六五・〇　六五・〇　五五・〇
一—八月
【豫想配當】十四年十一月期　九分（一割五分）
【時價】舊　六五・〇　【利廻】八分一厘
新　四七・五　三分九厘

三共

【設立】大正二年三月 【決算期】五月、十一月
（本社）東京市日本橋區室町二ノ二（電日本橋三三一四）
（出張所）大阪市東區道修町一

【增資】當社は去る八月十日三百萬圓を增資し、內半額百五十萬圓の拂込を徵收した。事業の性質上增資の認可は珍しいとも思はれるが、軍需方面の醫藥品もあることだから、充分な理由がある譯だ。拂込金は增設に振向けるといふのみで內容的には知り難いが、右の線に沿ふものであることは確かだ。

【配當不變】今次大戰で一部の藥品類の輸入は相當困難になるものと見られる。併し第一次世界大戰當時と異り、對外依存性は尠くなつてをり、特殊方面の需要は旺盛だから、業績上さして心配する程のことはあるまい。決算にも餘裕があり、八分配當は動くまい。

【資本金】公稱＝二千、〇〇〇　拂込＝一千、二五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　五〇、〇〇〇
新（二千・〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】社長　鹽原　又策
常務　鹽原　賴三　監査　田口　一大
取締　大橋新太郎　〃　近藤利兵衛
〃　植村澄三郎（學術顧問）　鈴木梅太郎
【大株主】十四年五月期　三、六三名
鹽原合資六、九五三　高峰保金七、八〇〇
帝國生命五、九〇〇　大橋本店五、六〇〇
【事業規模】工場數……一四、〇〇〇坪餘
工場所在地　東京（二）、大阪、大連
【投資會社】東洋窒素工業、日本ベークライト、泰昌製藥、興東貿易、鳥居商店、柏木檢溫器、其他
【業　績】　利益率　配當率　利益積立
十二年下一、一〇一　三・三三　〇・八〇　六・〇〇
十三年上二、一九九　三・〇〇　〇・八〇　六・〇〇
下二、二四四　一・九二　〇・八〇　六・八四
【株　價】十四年上（實物）最高　二五〇　最低　一八〇
十三年　最高　五七・六　最低　六〇・〇
十四年　五七・三　四〇・〇
一一月
【豫想配當】十四年十一月期八分（八分）
【時價】五七・〇　【利廻】五分四厘

東硫化學工業

【設立】明治三十八年十月 【決算期】六月、十二月
（本社）東京市城東區大島町七ノ九五七（電本所三三一〇）

【保土谷に合併】當社は來る十月末を以て保土谷曹達に合併せられる。合併比率は保土谷九株に對し當社十株の割合で、當社は二百四十三圓（拂込濟）に減資の上合併される。永年の歷史を有する當社も斯くて發展的解消を遂げ、保土谷と相互に人と技術と資本を交流して、同社の成績に寄與することゝなる譯だ。

【今期配當】保土ケ谷は原料鹽の手當て不如意から、成績に延び惱みを呈するが、當社は酸類、染料中間物、醫藥品等でその短を補ふ。上期は二割近い利益率で八分配當だつたが、減資合併後は保土谷なみの一割に引上げられる。當社株主には合併は不利でない。

【資本金】公稱＝三、〇〇〇　拂込＝二、七〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　三〇、〇〇〇
新（四〇・〇）　三〇、〇〇〇
【重　役】會長　石川　一郎
專務　石谷傳兵衛　監査　鈴木　鎭藏
取締　柴田　二郎　〃　田中　鋒一
〃　磯谷　乙巳　相談　田中榮八郎
【大株主】十四年六月期　五一名
磯村　乙巳　三、三〇〇　柴田　二郎　三、三〇〇
秋田　太郎　一、七〇〇　石川　一郎　一、六〇〇
【事業成績】　十三年上　十三年下　十四年上
賣上高（千圓）　一、六五三　一、三〇六　一、〇〇〇
製造費（〃）　一、三四四　一、〇〇〇　一、〇〇〇
【工場所在地】東京、横濱
【年產能力】基礎＝昭十二年下期現在
發煙硫酸　純硫酸　硫酸　苛性曹達
染料中間物　三〇〇　化學藥品　五〇
【業　績】　利益率　配當率　利益積立
十三年上　三、一一　〇・八〇　六・三三
下　三、二四　〇・八〇　六・四八
十四年上　三、三九　〇・八〇　六・八〇
【株　價】（實物）最高　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
一一月　五四・六　四四・〇　五四・六　四四・〇
十四年　五六・八　四五・〇　五四・〇　三三・八
【豫想配當】十四年十二月期一割（八分）
【時價】舊五六・〇　【利廻】八分六厘
新四六・〇　八分七厘

鐵興社

【設立】昭和三年十月 【決算期】五月、十一月
（本社）東京市京橋區京橋三丁目四ノ八（電京橋二〇六三）

【前期向上】去る五月期の利益金は八十五萬五千圓に上り、利益率は二割六分三厘と若干向上した。渴水期に相當したが、酒田工場の運轉開始で好轉したからである。

【增資接近】七月廿日、一株二十圓、總額二百八十萬圓の未拂込を徵收し、全額拂込となつた。これは既設工事費支拂と借入金整理に充當され、この外に酒田工場、立谷澤第二發電所、宮崎工場等々に七百萬圓許りかけなければならぬので、年內に倍額增資を豫定してゐる。酒田工場も綜合運轉を開始し、稻倉石鐵山の增產も完了するから、增資後の拂込負擔も充分に負へる。配當は動くことはない。

【資本金】……拂込濟七、二〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　四〇、〇〇〇
新（五〇・〇）　一四〇、〇〇〇
【重　役】會長　櫻機實五郎
專務　佐野　隆一　取締　前島　憲平
取締　西脇清三郎　〃　牛尾　律治
〃　大塚　寬治　〃　櫻機　幹一
〃　佐野　忠司　〃　監査　山本　勇
〃　森重　操　〃　監査　十樂寺義雄
【大株主】十四年五月期　八五名
櫻機實五郎（六、六〇）　佐野　隆（一三、〇〇〇）
佐野　忠司（七、〇〇〇）　岡本　弘吉（五、八五）
【事業規模】鑛山＝北海道、栃木
工場＝福島、山形、秋田、青森、岩手
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年下　二五六　三・六二　一・〇〇　五・二七
十三年上　四七五　二・四三　一・〇〇　四・八四
下　五四三　二・五七　一・〇〇　四・九四
十四年上　八五五　三・四五　一・〇〇　四・九七
【株　數】（實物）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
一八月　八四・五　六六・〇　一　一
十四年　八六・二　六六・〇　八七・二　三三・五
【豫想配當】十四年十一月期（一割二分）
【時價】舊　八六・五　【利廻】六分七厘
新　八七・〇　七分

日本醋酸製造

【設立】明治三十五年七月 【決算期】五月、十一月
（本社）東京市本所區横川橋五ノ四（電墨田三四六三）

【前期利益】去る六月締切の上期利益金は三十萬四千圓の多きに上つた。前々期に比し、十一萬圓の大增益である。これは投資會社日本合成化學工業の株式を一部鐘淵實業へ讓渡したので、これによる利益が計上されたからである。

【合併問題】當社と東洋高壓の合併談がある。當社の出資會社で、東洋高壓の子會社であつた合成工業が、曩に東洋高壓に合併されたが、東洋高壓は硫安事業不振に惱んでゐるので、合成工業の場合と同じく當社を合併して、自社を補強しようといふのである。事變以來の合併盛行の一類型であるが、案外早く實現するかもしれない。

【資本金】公稱＝一、二〇〇　拂込＝一、二五一
【株　數】……舊（五〇・〇）　一五、〇〇〇
新（四〇・〇）　五、〇〇〇
【重　役】會長　植村澄三郎　取締　伊東小大郎
常務　宮原　敏　〃　大川　藤雄
〃　森下　虎吉　監査　大倉　桑馬
取締　加藤左武郎　〃　白石喜太郎
〃　馬越　恭一　〃　田中榮八郎
【大株主】十四年五月期　三〇五名
植村澄三郎（一、四二五）　大倉　組（一、四二〇）
加藤左武郎（一、二〇〇）　加藤　武男（一、〇〇〇）
【事業成績】　十三年上　十三年下　十四年上
賣上高（千圓）　一、四二六　一、二〇六　一、〇五八
原料費（〃）　一、〇一七　九五〇　一、〇六八
【投資會社】日本合成化學工業
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年下　一三三　三・三三　一・〇〇　五・二〇
十三年上　一八六　三・九六　一・〇〇　五・一六
下　一九五　三・八六　一・〇〇　五・〇五
十四年上　二四四　四・八五　一・〇〇　五・八五
【株　價】（實物）舊　株　新　株
十三年　高値　安値　高値　安値
一八月　八三・〇　六一・八　四四・三
十四年　八六・八　六六・〇　八七・二　六六・〇
【豫想配當】十四年十一月期（一割二分）
【時價】舊　七六・〇　【利廻】八分
新　六六・〇　七分六厘

日本製錬

【設立】大正四年九月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市江戸川區小松川一ノ一（電墨田四四九）
（事務所）東京市本郷區駒込東片町（電小石川三六八二）

【拂込】十月廿日新株に第三回拂込十二圓半宛總額百九十三萬七千五百圓を徴收する。既設設備の擴充、原料自給施設、子會社日本化學工業及日本電化工業の拂込充當がその目的であるが、資金計畫よりすればその一部に過ぎず、最終拂込、增資も早晩必至だ。

【好調】今下期は上期に劣らぬ好成績を擧げ得る筈だ。諸製品が軍需並民需に多量に捌けるからで、元來が輸入防遏を眼目としてゐるものが多いだけに、目下特にその恩惠を受けてゐる。亞鉛及クローム原鑛自給、北支礬土頁岩を原料とするアルミナ及硫酸アルミニウム生產等は今後收益上多分に寄與する。新株の長期上場も近い。

【資本金】公稱＝10,000 拂込＝四,九五〇
【株數】……舊（五〇・〇）四五,〇〇〇 新（一七・五）一五五,〇〇〇
【重役】社長 櫻橋實五郎
常務 大塚實治 取締 櫻村八百吉
〃 中野芳太郎 〃 澁谷百壽
取締 橋本圭三郎 監査 山本留次
〃 西協濟三郎 〃 貝塚德之助
〃 河西三九郎 〃 根津嘉一郎
〃 鈴木德三郎 相談 門野重九郎
【大株主】十四年五月期 一,三〇八名
櫻橋實五郎 三六,三六七 山一證券 三三,〇七四
東部商事 六,一〇〇 日本電氣工業 五,八二四
【工場所在地】東京（二）、大阪、郡山

【年產能力】（單位＝千噸）十二年下現在
重クロム酸鹽類……三 黄赤燐……一・二
硅酸曹達……三六 過マンカリ……二・〇

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益償却
十二年下	四二六	一・八二	一・〇〇	四・六
十三年上	五四七	二・一〇	一・〇〇	五・三〇
十三年下	六〇四	二・四三	一・〇〇	五・七三
十四年上	七二八	二・八九	一・〇〇	六・三六

【株價】（實物）

	舊株 高値	舊株 安値	新株 高値	新株 安値
十三年	七二・五	五六・二	三五・五	一七・五
十四年一―八月	七〇・〇	五五・八	三一・五	一七・四

【豫想配當】十四年十一月期 一割
【時價】舊 八〇・五 新 二九・八
【利廻】七分四厘 五分九厘

大多喜天然瓦斯

【設立】大正六年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市京橋區銀座西六ノ三（電銀座三四一六）

【下期增配せん】本年上期は通常なら一分增の七分配當が實現する筈であつたが、配當制限令で据置を餘儀なくされた。それだけに下期の增配は略々確實と見てよい。一般燃料の不足は天然瓦斯の利用を益々高め、販賣價格昂騰で採算は一層有利となつたからだ。

【前途】瓦斯事業に附隨する沃度は頗調に增產されてゐる。瓦斯事業の進展で懸案の倍額增資が斷行された。尚ほ、配當に關しては八分までの增配が豫想される。今後の增益は必至で無理とは思へぬし、優先株を消滅せしめたい經營當局者の意嚮も肯ける。然しそれ以上の增配は今から期待すべきでない。內容充實が第一だからだ。

【資本金】……拂込濟 [illegible],〇〇〇
【株數】……普（五〇・〇）六〇,〇〇〇 優（五〇・〇）四〇,〇〇〇
【重役】社長 林邊賢一郎 取締 磯野信成
專務 手島鐵司 〃 石川鐵卿
取締 矢部又吉 監査 岡秀實
〃 早川久右衞門 〃 大河內正敏
〃 淺見勇 〃 三川逸郎
【大株主】十四年五月期 一,〇三三名
早川久右衞門 一八,四三〇 手島鐵司 四,一三〇
林邊賢一郎 三,四〇〇 井上衞明 二,〇五〇
【事業地】茂原、大多喜、一ノ宮、國吉

【事業規模】瓦斯井數……九六
瓦斯噴出量一井平均 八〇〇千呎

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益償却
十二年下	一三五	〇・七〇優・八	普・三〇	四・三九
十三年上	一四〇	〇・八九〃・八	〃・四〇	三・四六
十三年下	二三五	一・〇〇〃・八	〃・六〇	三・一九
十四年上	二五三	一・〇〇〃・八	〃・六	三・四〇

【株價】（實物）

	普株 高値	普株 安値	優先株 高値	優先株 安値
十三年	四九・三	三四・七	三七・五	一九・九
十四年一―八月	四七・二	三七・〇	五三・五	二九・三

【豫想配當】十四年十一月期 普 七分 優 八分
【時價】普 四七・三 優 五四・五
【利廻】七分四厘 七分三厘

オリエンタル寫眞工業

【設立】大正八年九月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市淀橋區西落合二ノ四三〇（電大塚三四〇七）

【賣上增加】當社の製品（印刷紙、乾板、フイルム、藥品等）賣行狀態は頗るよい。滿支向けや軍需は依然好調で、一般アマチュア向に事缺く位だ。今下期の賣上高は約五百卅萬圓と、前期より六、七十萬圓を增すものと見られる。原材料も相當手持があり而も國內品で間に合ふから、大戰による惡影響は當面尠ない。

【一分增配か】八月一日新株に十二圓半宛總額五十一萬二千五百圓の拂込を徴收（設備擴充、流動資金借金、返濟等に充つ）したが、今期の利益は前期より十一、二萬圓を增す見込だから、豫定通り一分增の九分配當を行ふこととならう。

【資本金】公稱＝四,五〇〇 拂込＝三,五六二
【株數】……舊（五〇・〇）四五,〇〇〇 新（三二・五）四一,〇〇〇
【重役】社長 菊地久吉 取締 安藤國之助
取締 中鉢直綱 監査 淺沼龍吉
〃 荒井建三 〃 小泉壽太郎
〃 齋藤桂之助
【大株主】十四年五月期 六七〇名
菊地友雄 一八,〇一〇 日本化學工業所 四,〇〇四
菊地久吉 一,四九九 大橋本店 一,三五〇
【事業規模】工場敷地……八,〇三四坪
建物坪數……五,二四四坪
機械設備……一,一四三千圓

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益償却
十二年下	三七二	一・六六	〇・八〇	五・三六
十三年上	三三八	一・六三	〇・八〇	五・五五
十三年下	四〇一	二・二四	〇・八〇	五・七六
十四年上	五五四	三・〇九	〇・八〇	六・七〇

【株價】（實物）

	舊株 高値	舊株 安値	新株 高値	新株 安値
十三年	四二・〇	三九・〇	三一・八	二〇・八
十四年一―八月	六二・五	三九・五	五二・五	二〇・八

【豫想配當】十四年十一月期 九分（八分）
【時價】舊 六〇・五 新 五三・〇
【利廻】七分四厘 五分六厘

富士寫眞フイルム

【設立】昭和九年一月
【決算期】四月、十月
（本社）神奈川縣足柄上郡南足柄村中沼二一〇（電關本五一―一二）
（出張所）東京市京橋區銀座西二ノ三（電京橋五九六一―五）

【記錄更新か】當社製品もオリエンタル同樣、中々賣行きがよい。今年上期は製造販賣とも新記錄を示したが、下期は之を更新するものと期待される。その映畫用卅五粍フイルム（ポジが大部分）は唯一の國產として氣を吐き、輸入制限の折柄需要に應じ切れぬ有樣だ。

【增配如何】擴張を續行し乍らもその壓迫を見ず增配を重ねて來たのも尤もだが、事變以來重要輸入諸原材料の國內自給化に成功した事が之を助けてゐる。ゼラチン、バライタ紙がそれだ、たゞ當面の問題として硝酸銀の入手に困難を來しはせぬかの懸念があり、今期四割內外の利益率を擧げるとしても一割配當實現果してどうか。

【資本金】公稱＝10,000 拂込＝六,五〇〇
【株數】……舊（五〇・〇）六〇,〇〇〇 新（二五・〇）一四〇,〇〇〇
【重役】社長 淺野修一 取締 森田茂雄
常務 作間政介 〃 小林節太郎
取締 平田篤次郎 監査 伊藤吉次郎
〃 西宗茂二 〃 磯村增雄
〃 井上邊吉 相談 森田茂吉
〃 春木榮
【大株主】十四年四月期 一,〇九八名
大日本セルロイド 一三五,六八八 三井合名 三五,〇〇〇
淺野修一 四,〇二二 岩井英夫 三,一三五
【工場所在地】鎌田谷、練馬、小田原

【事業成績】

	十三年上	十三年下	十四年上
賣上高（千圓）	四,五四四	五,六〇五	六,八〇四
製造費（〃）	二,三九九	三,五九五	三,一八二

【業績】

	利益金	利益率	配當率	利益償却
十三年上	八八一	三・二九	〇・八〇	七・八〇
十三年下	九四四	三・四八	〇・八〇	七・七〇
十四年上	一,二九六	四・〇八	〇・九〇	七・七九

【株價】（實物）

	舊株 高値	舊株 安値	新株 高値	新株 安値
十四年一―八月	八二・五	六八・〇	―	―

【豫想配當】十四年十月期 九分（九分）
【時價】八二・〇
【利廻】六分六厘

神戸電機製作所

【設立】大正六年五月 【決算期】五月、十一月

（本　社）神戸市湊東區相生町二ノ六〇番屋敷（電元町一五五）

【積極經營】石原產業に移つてからの當社は文字通り素晴らしく積極的となつてゐる。松浦電機、松尾電氣自動車、石井鐵工等を次々に買收し、更に鐵の自給を行ふべく鑛山の開發をも行ふことゝなつた。又尼崎市外に二萬四千餘坪の土地を買收し、こゝに綜合工場を建設して前記買收工場の機械を移し、更にカウベライトの大增產を行ふ豫定だ。工場は十月頃完了の見込みとなつてゐる。

【前途】上期は一分減の八分に改めたが、之は例の配當制限令のためであつた。今期は再び九分配當に復するだらう。更にもう一分の增配餘力を持つが、先づ內容充實に心掛けるべきであらう。

【資本金】公稱＝三、五〇〇　拂込＝二、五五〇
【株　數】……新（五〇・〇）四〇、〇〇〇　（二・五）五〇、〇〇〇
【重　役】
社長　石原新三郎　取締
專務　松浦守一
常務　直木三郎　〃
〃　柴田楠三　〃　石井榮吉
〃　澤野定七郎　監査　〃
取締　田村啓三郎　〃　幹一
〃　〃　〃　谷口茂雄
〃　檜木　〃　小林房之助　縣地慶吉
【大株主】十四年五月期
檜木　〃　石井榮吉　六三名
石原新三郎　〃　松尾鐘鋼　二、〇〇〇
【營業種目】蓄電池、蓄電池動車並電氣機械器具、可塑性綜合物之が原料の製造販賣
【工場所在地】大阪市浦江……三、〇〇〇坪
【投資會社】トキワ合板　神戸マイカナイト製作所
【業　績】
利益率　配當率　利益率
十三年上　一〇・三　〇・八　四・七六
下　一・九一　〇・八　四・七六
十四年上　二・五三　〇・八　五・九一
【株價】（實物）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
十三年　四八・五　三三・六　—
十四年　五六・五　四八・〇　一八・三　一三・七
一一八月
【後想配當】十四年十一月期九分（八分）
【時價】舊五〇・〇　新一八・〇　【利回】八分一厘五分九厘

日本電池

【設立】大正六年一月 【決算期】四月、十月

（本　社）京都市上京區新町通今出川上ル（電西陣三五八一二）
（營業所）東京市麴町區丸之內三丁目仲八號館（電丸之內三六一七）

【拂込期待】當社は西大路工場の擴張を續行中であるが、建設資材の入手難で思ふように捗らない。本來ならば今年九、十月頃に第二回拂込徵收となる豫定であつたが、工事遲延の爲め拂込も延びてゐる。然し工事の狀況からみて今年末までには拂込がとられるものと期待される

【業績良好】すつと三割臺の利益率を維持してをり、配當は一割二分を繼續してゐる。原料難は依然緩和されないから手放しの樂觀は禁物であるが、當社は陸海軍關係品が多く、この限り原料入手は困難でない。輸出も相當出てゐる。一割二分配當は持續出來よう。

【資本金】……公稱　一〇、〇〇〇　拂込　六、三八〇
【株　數】……新（五〇・〇）一〇〇、〇〇〇　（二・五）一〇〇、〇〇〇
【重　役】
社長　島津源藏　取締　河內聽
〃　今井捨吉　〃　斯波孝四郎
取締　島津常三郎　〃　玉木誠次郎
〃　大倉喜七郎　監査　〃
〃　內貴清兵衛　〃　松村龜太郎
〃　〃　大倉直介
【大株主】十四年四月期
三菱重工業三、〇〇〇　大倉組　四四名
島津源藏七、〇〇〇　島津源吉　六、一〇〇
【主要製品】
G8蓄電池其他各種
【業　績】
利益率　配當率　利益率　配當率
十二年下　二・二四　〇・八　二・八六　〇・八
十三年上　二・三三　〇・八　四・九六　〇・八
〃　下　二・五八　〇・八　五・六六　〇・八
十四年上　三・〇六　一・〇　〃　〃
【株　價】（實物）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
十四年　八〇・八　六〇・〇　六六・〇
一一八月
【後想配當】十四年十二月期（一期二分）
【時價】舊八〇・五　新六六・〇　【利回】一期二分七分五厘三分九厘

日本再生ゴム

【設立】昭和九年九月 【決算期】四月、十月

（本　社）東京市日本橋區室町四丁目六（電日本橋二二三）

【明糖系の進出】明糖との提携に依つて金融は安定し、社業は確立したが、その反面に從來の重役陣には必然的なる改造を餘儀なくせられてゐる。言ひ換へれば明糖系の色彩を强めて來た。卽ち坂田常務の退陣に依り明糖系の三町氏が常務となり、これで明糖系の重役は三人となり橋口系と三對三となつた。

【成績は益々良】日產三廼から次第に擴大されて本年二月以降は遂に十二廼となつた。この擴大能力は十月締切りの下期に完全操業が行はれ、再生ゴムの需要激增期に對應する事になつた。下期は創業以來の良成績と云はれる上期を更に凌駕し增配の可能を思はせる。

【資本金】……拂込濟　五〇〇
【株　數】……（五〇・〇）二五、〇〇〇
【重　役】
社長　橋口己二　常監　冬木庄一郎
常務　三町誠　監查　佐竹義一
取締　井田五郎　〃　鈴木文元
〃　山本叡　　登名
【大株主】十四年四月期
明治製糖三、〇〇〇　橋口己二　六、〇三三
坂田晉太郎　三五　中島作右衛門　五〇
【事業規模】　現業人員……一九七人
【事業成績】　十三年下　十四年上
賣上高（千圓）……四六　五五
工場費（千圓）……一九　二〇
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年上　一二・一〇　〇・八〇　二・八〇　一・七六
下　一四・〇五　一・〇〇　〃　一・〇〇
十三年上　一・〇四　〇・八〇　無配　一〇・〇〇
下　一　〃　〃　一〇・〇〇
十四年上　八・一　三・二四　〇・八〇　六・〇三
（十三年上は十二月—四月分の數字）
【後想配當】十四年十月期　九分（九分）

理研護謨工業

【設立】昭和十二年六月 【決算期】五月、十一月

（本　社）東京市麴町區有樂町一ノ二（電銀座六六二一九）

【擴張と拂込】需要の著增に對し設備の擴大中だ。屑ゴム再製能力は既に十八廼となつた。王子製品工場の分工場たる沼田新工場は本年末に完成。爾後の製品能力は七、八割方の增加となる。其他ライニング加工を業とする特殊ゴム化工が設立（四月五日）され、また姉妹會社朝鮮理研護謨の設立（七月）ともなつた。以上の所要資金を賄ふため明春早々一株五圓總額百萬圓の拂込（第三回）徵收か。

【下期業績向上】十一月期は荒川再生ゴム工場の擴張分が本格的に操業し、製品工場の活躍と相俟つて上期より約五割方の增益となる。拂込は膨脹するが利益率は寧ろ向上し、一分の增配期待。

【資本金】公稱＝八、〇〇〇　拂込＝二、八〇〇
【株　數】……（一七・五）一四〇、〇〇〇
【重　役】
專務　西郷住夫　取締　山內貢
取締　河野敎　監查　林通賢一郎
〃　宮富保雄　〃　鶴野正方
〃　橫山建一　〃　大塚萬丈
〃　馬渡俊雄　〃　貞弘東藏
【大株主】十四年五月期
現化學興業四、八〇〇　野村合名一九、〇一〇
富國工業一〇、〇〇〇　日本生命一、〇〇〇　六四八名
【工場所在地】荒川、王子
【職工數】男子　二九八　女子　八三
【事業規模】
護謨回收率……九六%
護謨日產能力……三廼
【業　績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十二年下　三　〇・三五　無配　一〇・〇〇
十三年上　一・九五　〇・八〇　一・七六　一〇・〇〇
下　一・六八　〇・八〇　〃　〃
十四年上　一・六六　〇・八〇　〃　六・〇三
【株　價】（實物）高値　安値
十三年　二四・八　一三・五
十四年　三二・〇　一三・七
一一八月
【後想配當】十四年十一月期八分（七分）
【時價】三二・〇　【利廻】六分四厘

王子製紙株式會社

（本　社）東京市王子區王子町　（電小石川　三〇四）
（事務所）東京市麹町區有樂町三信ビル（電銀座　五六〇一）

【上期業績】上期の業績は下表にも見られる如く、昨年下期と大差ないものであつた。然しこれを生産の部面から觀察すると、用紙類の生産は却つて減つてゐるのである。ストックを賣つて、生産減から來る販賣量の減少を防いだのだ。

【資材昂騰】原木を始め、勞賃、諸給與、石炭、電力等あらゆる部面の原價が騰騰してゐる。而も政府の命令で市販パルプは一封度につき八厘内外の値下げを要求された。これでは如何に大王子と雖へども樂ではない。其所で近く新聞用紙の供給契約更改期に或程度の値上げを實行することゝした。これで原價高は相當カバー出來る。

【歐洲戰爭の影響】スカンヂナビヤ諸國からパルプが來なくなつた爲、政府のパルプ供給計畫は齟齬を來し、一時は人絹乃至人纖會社はパルプの手當に四苦八苦せねばならぬことになるかも知れぬが、當社自體としては別にこれと言つた影響はない。

【今後】當社は從來の製紙用パルプを、人絹用パルプに轉換する爲に所設備の改良を行つてゐる。子會社、北鮮製紙、山陽パルプ、東北振興パルプを通じてパルプの增産を計つて居り、葦を原料とする錦州パルプを創立して代用パルプの生産を企てゝゐるが、何れも當社の業績を著しく左右する程のものではない。

【設　立】明治六年二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】紙類及其原質製造販賣電氣供給、木材賣買、植林等
【資本金】……公稱＝二〇〇,〇〇〇,〇〇〇　拂込＝二二二,九九九,七五〇　舊（五〇・〇）二,九九九,七五〇　新（二五・〇）二〇〇,〇〇〇,〇〇〇
【株　數】……
【重　役】會長　藤原銀次郎　社長　高島菊次郎　專務　井上憲一　足立正　松本弘造　常務　富田次郎　石龜門　山内幾馬　小林準二郎　加藤藤太郎　取締　大橋新太郎　原邦造　田中榮八郎　井上周　朝吹常吉　大川鐵雄　田中治　朗　驗金　井坂孝　益田信世　小池厚　之助　小西喜兵衛　山口竹治郎　一柳　貞吉
【株主數】……
【總　數（名）】三二,四四四　十五年上　三二,〇二六　十四年上　三二,〇二六
【大株主】内藏頭　二二,〇六六　王子證券　三二〇,五六二　大丁合名　二三六,五八三　井合名　一六九,八四四　藤原合資　一〇五,〇三三　第一相互　八六,〇〇〇　帝國生命　八二,八〇〇　大阪貯蓄　四四,〇〇〇
【事業成績】工場數……二二　抄紙機……二二　叺數……（單位＝千貫）一,九四三,叺
【事業成績】製造・販賣　十五年上　十四年上　洋紙製造　八四四,三三三　八四四,三三三　〃　販賣　八四四,一〇四　八二三,四八一　〃　製造　二六四,九九八　二六一,一四〇　〃　販賣　二二六,一四一　二二六,一四一
【投資會社】王子證券、其他
【資本異動】十一年六月一五〇,〇〇〇千圓增資。第一回二二圓五拂込徵收十二年七月二圓五拂込徵收

【資產負債】

	十三年五月	十二年十一月	十四年五月
株主資本	二二六,九〇一	二三三,九二一	二三六,八八四
積立金	六四,〇二二	六六,八八四	七二,九二六
社外負債	九九,六六四	一〇六,六四六	一二二,四四四
借入金	二,〇〇〇	四,〇〇〇	—
使用總資本	四二二,五六六	四四二,二三四	四四二,二六六
固定資產	二四四,五六六	二四四,六六六	二八六,二二〇
投資勘定	一〇六,七四四	一〇六,四四二	二六六,三三三
流動資產	一七九,二三二	一九七,二四〇	一〇六,九二六
現金預金	三,八四四	四,九四四	四,一〇〇
【收支勘定】	十五年上	十四年上	十五年下
收入	一四四,七四一	一四四,三八二	一四六,九四九
支出	一二〇,九四一	一二六,七四二	一二六,七六六
利益	二四,七四〇	二四,六四〇	二四,三三三
固定消却	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
消却年率	二,九六一	二,九四六	二,九四六
【業績】	利益率	配當率	利益率
十二年上	三,九六	五,〇一	五,〇一
〃　下	三,四四	五,四四	五,四四
十三年上	三,二〇	五,三九	五,三九
〃　下	三,六六	五,四三	五,四三
十四年上	三,三三	五,四〇	五,四〇
【株　價（東長）舊	株	新	株
十二年	高値	安値	高値	安値
十三年	一〇六,九	八九,六	九六,六	八六,六
十四年	九八,八	八八,九	九三,九	八四,六
一八月	九七,五	八八,五	九四,八	八五,八
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊　九七・五　【利廻】五分一厘
新　九七・六　四分三厘
【名義書換】五　疑【新券交附】二十錢

日曹人絹パルプ株式會社

（本　社）東京市麹町區大手町二ノ八（電丸ノ内四五六）

【異色の存在】日曹コンツエルンの中では異色の存在である。その經營態度に於て、資本の分布内容に於て、重役陣に於て多くの姉妹會社とは稍々趣を異にするものがある。また、企業内容に於ても、製品の總ては價格が公定され頗る安定的な企業となつてゐる。

【パルプ事業】人絹パルプは富山工場に於て營まれる。其の公稱能力は年産二萬瓲、半期一萬瓲（二千二百萬封度）であるが、既に前期には機械の優秀性が發揮されて日産六十瓲の實産高が示され、前期には三倍する增産が齎された。而も、品質の優秀さが發揮せられたのである。然るに、パルプの適正價格が設定されて當社の製品は八厘下げの十六錢七厘に公定された。このため今後半期十七萬六千圓の利益減となる勘定だが、事實は技術の進歩に伴ふ能率の增進に依つて原價は切下げられ賣値の引下げは無感應の狀態である。

【ス・フ事業】八代工場に於るス・フは日産廿瓲の設備ながら、パルプの配給制限を受けて能力の全運轉が不可能である。併し、品質の優秀性が認められて四月以降公定價格は一圓の格上げが認められ、それが十月締切りの下期には全面的に潤つてくる。

【八分配當持續】下期の豫想利益は百五十萬圓、利益率二割見當が見込まれる。この限り、八分配當の持續は樂である。

【設　立】昭和十二年三月
【決算期】四月、十月
【事　業】纖維工業品及化學工業品造林業及林產物
【資本金】公稱＝八〇,〇〇〇　拂込＝二〇,〇〇〇　二〇〇,〇〇〇
【株　數】……（二〇・〇）
【重　役】社長　中野　友禮　取締　金井　遊直　金岡又左衛門　常務　武　鶴次郎　馬場　正治　取締　〃　小泉　俊三　〃　遠山　元一　監査　伊藤忠兵衛　辰澤　茂乙　〃　伊藤忠兵衛　〃　山田　昌作　〃　竹中　〃　中山　悅治　〃　中本吉左衛門　〃　小長谷駒太郎　〃　古莊健次郎　〃　中田　勇吉　〃　石橋正二郎　〃　相談　〃　增田　義一　〃　小林　中　〃　鈴木　實彥
【株主數】……
【總數（名）】三,三三〇　十五年上　三,三三三　十四年上　三,〇二一
【大株主】日本　曹達　一〇三,二五〇　第一生命　一〇〇,〇〇〇　伊藤忠商事　五三,〇五〇　妙高企業　二四,二一〇　太陽生命　一〇,〇〇〇　日本海運氣　七,五〇〇　川島屋商店　六,七二〇　吳羽紡績　五,四〇〇
【事業概模】工場所在地及製品　富山工場　富山縣富山市（人絹パルプ）　八代工場　熊本縣八代郡（ス・フ）　福井工場　福井縣（纖維加工）
生産能力　パルプ年産…二萬瓲　人纖日産二〇瓲
【資本異動】十二年三月、八〇〇萬圓にて設立八月纖羽紡續、日本人絹合併三千萬圓に增資、十四年二月三圓五拂込徵收

【資產負債】

	十三年四月	十二年十月	十四年四月
株主資本	四七,六六	四八,三六	一六,四六
積立金	—	—	一二三
社外負債	一〇,四六	一四,一〇二	八,一七九
借入金	一,〇〇〇	六,八二〇	四,七五
支拂手形	七六	七二一	四九三
使用總資本	一八,四一六	二三,六四〇	二四,六四
固定資產	九,九九六	二一,四九一	二二,一六三
投資勘定	八,四〇	一,三九八	二,〇四四
流動資產	四,九一	一〇,六三一	一〇,四二一
預金現金	四〇	四三	一,九六
【收支勘定】十五年上　十四年下
收入　八〇四　二,四四七
支出　六六六　一,六四七
利益　三三一　六四〇
固定消却　一〇〇　一〇〇
消却年率　三%　四%
【業績】利益率　配當率　利益率
十二年下　〇・一五　無配　一〇・四〇
十三年上　〇・三五　〃　一〇・四〇
〃　下　一・七五　〇・八〇　一〇・〇〇
十四年上　二・〇七　〇・八〇　五・四〇
【株　價（實物）高値　安値
十二年　三三・五　一一・〇
十三年　二四・〇　一三・三
十四年　一一・五
一一月
【基準配當】八分
【豫想配當】十四年十月期　八分
【時價】三三・五　【利廻】六　分
【名義書換】十錢　【新券交附】二十錢

北鮮製紙化學工業

【設　立】昭和十一年
【決算期】三月、九月
（本　社）咸鏡北道吉州郡　吉州邑黃基洞
（出張所）東京市麹町區有樂町一丁目三信ビル（電銀座一三六〇）

【資本金】公稱＝一〇〇、〇〇〇　拂込＝一〇、〇〇〇
【株　數】……（二〇〇〇）　二〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　高島菊次郎
副社長　足立　正　取締役　朴　興植
專務　藤原　喜藏　監査　松本　弘遠
〃　横井半三郎　〃　韓　相龍
取締　藤原銀次郎　〃　〃
〃　大橋新太郎　〃　〃　浅野太三郎
〃　田中　治朗　〃　田邊　武次
〃　井上　憲一　相談　下津　謙藏
〃　多田　榮吉
【大株主】十四年三月期　六八名
王子製紙二〇〇、〇〇〇　秋田　秀穂一三、〇〇〇
朝鮮信託　八、〇〇〇　滿洲銀行　六、〇〇〇

【事業規模】工場　朝鮮咸鏡北道吉州
設備能力……年產　四千瓲
【關係會社】王子製紙の子會社
【業　績】利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上一、〇六一　三・一六　一・〇〇　四・九一
下一、〇四六　三・〇九　一・〇〇　四・七四
十四年上一、〇五一　三・一〇　一・〇〇　四・七七
【株　價】（實勢）高値　安値
十三年　五五・〇　四九・五
十四年一八月　五四・〇　四八・五
【豫想配當】十四年九月期　一割（一割）
【時價】五四・五　【利廻】四分六厘

【前期減產】當社の投資會社東滿洲人絹パルプは原木入手難から、豫定生產量の五千瓲に遙かに及ばぬ三千五百瓲の生產しか出來なかつた。自然東邦パルプへの配當金は五分に減らされ、この五分配當を受け入れた東邦パルプは、鐘紡の配當辭退によつてやつと五分配當を行ふことが出來た。昨年下期から見れば一分の減配である。

【今期も五分か】前期の原木入手難は特殊需要の增加に依るものであるが、今期は前期の不足分までも受入れて大增產をやらうと、目論んでゐたが、大した增產は出來ぬらしい。前期よりは增益するがまだ五分配當の域を脫するまでには至るまい。

東邦パルプ工業

【設　立】昭和十二年三月
【決算期】五月、十一月
（本　社）東京市向島區須田町二ノ一六一二（電浅草五五）

【資本金】公稱＝二〇〇、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
【株　數】……（二二・五）　二〇〇、〇〇〇
【重　役】
會長　津田　信吾　取締役　三宅　鄉太
社長　赤司初太郎　〃　菊本直次郎
取締　後宮信太郎　〃　上田藤三郎
〃　城戸　李吉　監査　岩崎　清七
【大株主】十四年五月期　三、三三七名
鐘淵紡績三四、二〇〇　東邦人絹織維三〇、〇〇〇
赤司初太郎一九、六〇〇　生田　幸榮一八、四〇〇
神川　宗富一四、五〇〇　後宮信太郎一〇、〇〇〇
【事業代行會社】東滿洲人絹パルプ

【生產高】十五年上　十六年下　十六年上
人絹用パルプ……
年產能力……〇〇、〇〇〇瓲
【業　績】利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上一、〇三一　・缺損　無配　缺損
下三、〇五七　〇・六〇　〇・六〇　三・五六
十四年上一、三三一　〇・七〇　無配　一〇・〇〇
【株　價】（實勢）高値　安値
十三年　六六・〇
十四年一八月　三四・〇　三二・〇
【豫想配當】十四年十一月期六分（六分）
【時價】三四・三　【利廻】三分一厘

滿洲パルプ工業

【設　立】昭和九年五月
【決算期】三月、九月
（本　社）滿洲國牡丹江省牡丹江市樺林
（支　社）東京市麹町區丸ノ內二ノ六八東洲ビル（電丸ノ內四三三）

【九月期增配か】まだ八月決算は發表されてゐない。然し此の期は相當業績は向上した模樣だ。恐らく二十四五萬圓の利益を計上するのではないかと思はれる。四百萬圓の拂込資本に對して一割二、三分の利益率となる譯だ。これだけの利益が擧がれば、一分增の六分配當は充分期待出來る。恐らく增配は實現しよう。

【明年二月期】九月から始まる今期は更に業績は好轉するものと思はれる。と言ふのは洒設備が完成しこれが九月から運轉を開始してゐるから其の惡惠を期待を通じて受け得るからだ。生產も一層の增加が豫想されるから、更に一分の增配が期待される。

【資本金】公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝四、八〇〇
【株　數】……（四〇・〇）　一四〇、〇〇〇
【重　役】
會長　寺田元之助　取締役　二國三樹三
社長　島橋　鍊逸　〃　信貴　英藏
常務　木下　莊　〃　奥田　保邦
取締　赤松　範一　監査　寺田　甚吉
〃　南郷　三郎　〃　山本　留次
〃　岸本五兵衛　相談　大機新太郎
〃　尼崎　芳雄　〃　槇村澄三郎
【大株主】十四年三月期　七五九名
三菱製紙六、〇〇〇　寺田元之助二、〇〇〇
槇村澄三郎一〇、〇〇〇　島橋　鍊逸一、〇〇〇
【事業】人絹用パルプ、製紙用パルプ

【事業規模】工場所在地　樺林
林業區域　滿洲國　一七〇萬町歩
パルプ年產能力　二萬瓲
【業　績】利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上一、一四三　一・四三　缺損　缺損
下一、四三六　一・四三　〃　一〇・〇〇
十四年上一、四八〇　一・四八　〃　一〇・一〇
【株　價】（實勢）高値　安値
十三年　四八・一　四三・一
十四年一八月　五〇・〇　四五・〇
【豫想配當】十四年九月期　五分
【時價】五〇・〇　【利廻】五分六厘

高崎板紙

【設　立】大正三年三月
【決算期】三月、九月
（本　社）群馬縣高崎市八島町一九二（電高六）
（出張所）東京市神田區五軒町四六（電下谷一八二）

【板紙界】昨年九月商工省告示に依つて販賣價格は制限されてしまつてゐるのに、原料は月を追つて騰貴しつゝあるので板紙の採算は非常に惡くなつてゐる。其の爲群小板紙會社の生產を中止するものが續出し、需給關係は一變し、品不足狀態にある。然しそれでも採算關係は販賣價格の制限で依然として惡い。

【配當維持に苦心】斯う言ふ狀態だから當社の業績も芳しくはない。東京、日光の新設兩工場のフル運轉で生產量は增加したが、利益は其の割には增加しなかつた。此の九月決算も一割五分配當を据置くだらうが、決算は窮屈だ。裕りのある決算は玆當分期待薄だ。

【資本金】公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝四、八〇〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　二四、〇〇〇
新（一〇〇・〇）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】專務　小柏御光　常務　鳳崎
義平　高木千尋　取締　櫻井伊兵衛
藤原定吉　木村重三郎　井上房一郎
相澤吉平　秋山萬吉　監査　井上米三
郎　芥川辰次郎　伊藤常七　清水新一
郎　前田利定　相談　矢板寛　藤盛太
兵衛
【大株主】十四年三月期　一四九三名
前田　利爲二、六〇〇　高崎　證券　九、八〇〇
芥川辰次郎八、六〇〇　井上房一郎　六、四〇〇
【事業規模】抄紙機　六臺　蒸釜　一七個

【年產能力】板紙
クラフトパルプ二、〇〇〇瓲　グランドパルプ三、五〇〇瓲　六、〇〇〇瓲
【業　績】利益金　利益率　配當率　利益積立
十三年上　四四〇　二・〇一　一・〇一　二・〇一
下　一、九九　一・九九　一・〇一　二・〇一
十四年上　四一六　一・八六　一・〇一　二・〇一
五〇一　二・四〇
【株　價】（實勢）新株　株
十三年　八〇・〇　高値　安値　高値　安値
十四年一八月　八三・〇　七九・〇　四二・五　三九・〇
【豫想配當】十四年九月期（一）割五分　一割五分
【時價】新　八〇・〇　【利廻】六分七厘　七分七厘

日本紙業

（本社）東京市四谷區元町五九（電四谷八二四〇—五）

【設立】大正二年八月
【決算期】六月、十二月

【上期増配】六月末決算で當社は一分増配を斷行した。利益率は償却後で七分一厘に當るのだから、六分配當でもさして無理なものとは言へない。否それどころか極めて裕りのあるものであつた。昨年下期末と今年上期末の固定資産を比較して見ると九十一萬圓ばかり償却されてゐる。これを含めた、償却前の利益率は二割八分になる六分配當は寧ろ低率と言つてよい。

【今後の見透】右の如く堅實な決算をしてゐるから、内容は相當良くならう。只業界は未だ原料難の爲活潑な活動をなし得ない狀態にあるから當分は六分配當を据置き内容の充實に努めよう。

【資本金】……拂込濟 九〇〇〇
【株　數】……（額面五〇）一八〇〇〇〇
【重　役】常務　加藤　正雄　取締　高見幸次郎
〃　中内　鹿吉　〃　山本　留次
取締　川崎　清男　監査　宇田　龜代滿
〃　河路　寅三　〃　宮口　竹雄
【大株主】十四年六月期　丸内商事　一五五名　一三、四〇〇
安田銀行　一四、〇〇〇　京橋商事　一一、〇〇〇
安田保善社　一、四七
【事業規模】工場＝東京、高知、山口
年產能力……九〇、二〇〇千封度
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
賣上高（千圓）一四、〇一四　一四、一五三　一四、六四〇

【製造高】　十五年上　十五年下　十六年上
洋紙（千封度）一三、二六四　一三、〇八一　一三、八五五
和紙（千貫）一、一八八　一、一四九　一、一三五
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年下　一三〇　〇、一四九　〇、一二〇　三、五〇
十三年上　一六九　〇、一六九　〇、一四〇　三、八三
下　二五四　〇、二五　〇、一四〇　三、八三
十四年上　三一九　〇、二五　〇、一八四　一、九四
下　〇、二七　〇、二〇　一、〇七
【株　價】（實物）高値　安値
十三年　四一、〇　三〇、七
十四年　五四、三　三五、三
一人月
【操想配當】十四年十二月期六分（一六分）
【時價】五三、〇　【利廻】四分七厘

大日本セロファン

（本社）名古屋市西區光音寺町字馬一〇〇（電本三二六）

【設立】昭和六年六月
【決算期】四月、十月

【セロファン界明朗化】日滿支の經濟關係が緊密化するに伴れセロファンの滿支輸出は玆許逐月漸增しつゝある。滯貨過剩に呻吟したのも今は夢、生產各社は却つて原料手當難に惱む有樣となつた。尤も斯界は明朗化したとは言へ、一面職工不足で能力を十分擧げ得ず、また原料割當制も實施されてゐるから無碍な樂觀は出來ぬ。

【復配近し】斯界好轉の機を捉へた當社は防水セロファンにも乘出した。市販を待望されてゐた丈に今後を注目される。本年上期に利益率五分四厘と著しく向上したが、銷却に意を注ぎ無配繼續に隱忍した。今後は一段向上の筋合にあるから復配も玆一、二期の辛棒だ。

【資本金】公稱＝二、〇〇〇　拂込＝一、〇二五
【株　數】……舊（額面五〇）二、〇〇〇
新（額面二五）一八、〇〇〇
【重　役】
會長　中野　友禮　取締　青木留次郎
社長　下出　義雄　〃　小泉谷新太郎
專務　菅原　通濟　〃　反澤　茂乙
常務　森木　嘉六　監査　金井　滋直
取締　加藤　兵三　〃　片山孝之助
【大株主】十四年四月期　三五名
日本　香達　一六、〇二〇　下出　義雄　一、六二〇
青木留次郎　一、三五五　日東　紡績　一、〇〇〇
片山孝之助　一、〇〇〇　加藤　兵三　九〇〇

【事　業】セロファン紙、人造織維
【事業規模】透明紙抄造機……五臺
人織紡糸機……四臺
人織日產能力……一萬
セロファン年產能力……三、〇〇〇瓩
【委任經營】十三年三月より五ヶ年間
日本曹達（經營を委託）
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年下　一四〇　〇、八四　〇、一二〇　一、〇〇〇
十三年上　一六〇　〇、一四　〇、一二〇　一、〇〇〇
下　一六〇　〇、一四　〇、一二〇　一、〇〇〇
十四年上　一六〇　〇、一四　〇、一二〇　一、〇〇〇
下　一六〇　〇、一四　〇、一二〇　一、〇〇〇
【豫想配當】十四年十月期　無配（年六分）

淺野セメント株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館（電丸ノ内一五〇一九）

【上期一分増配】長い間の不況を脫して漸やく業界は明朗化したかに見受けられる。八—十一月期限產率は六割となつたが、是は主として原材料入手難故の高率操短である。需要は依然旺盛だ。當社六月期決算はセメント益三百萬圓弱、スレート益百十萬圓、配當利息等の副業收入六十萬圓で合計四百三十萬圓の利益を計上し得た筈である。内輪に見積つて四百九萬三千餘圓と公表して居る。これでも前期に比し廿六萬三千圓の增益となる譯だ。是は出荷が前期に比し十萬瓲も增加した爲でもあるが、他方經濟界一般の好調に依る副業收入增に因由する事も見逃せぬ。配當は一分增の五分とした。

【日本セメ合併】六月期の一分增配は、當社自體の好調に依るとしても、尙現行配當五分の日本セメントとの合併を考慮しての意味が多分にありとすれば、一路八分配當への突進は期待出來ない。が何れにせよ、日本との合併に依り生產販賣の合理化を遂行し得る効果は期して待つ可きものありと言ふ可きだ。彼是併せて、十二年下期に二分減配を敢行して、鋭意改善の歩を進め來つた當社の前途は軌道に乘つたと稱して好からう。朝鮮、滿洲は活況を呈し、北支には懸案の華北洋灰公司が漸やく成立、當社の株式參加三十七%に達する有樣で、今後の此の方面の活動にも興味が持たれる。

【設　立】大正元年十月
【決算期】六月、十二月
【事　業】セメント、スレート
【資本金】公稱＝一〇六、三一〇　拂込＝二〇、九六六
【株　數】單位千株
舊（額面五〇）一四〇、〇一四　新（額面二五）一四〇、〇一四
舊（額面二五）一四〇、六　新（額面二五）六、六
新（額面二五）一、〇〇〇
【重　役】社長　淺野總一郎
專務　金子喜代太　取締　森　廣藏
常務　淺野　八郎　〃　藤井　光藏
〃　乙竹　茂郎　〃　瀧山米太郎
取締　白石元治郎　監査　安田善五郎
〃　淺野　良三　〃　尾高　豐作
〃　田中榮八郎　〃　櫛川　誠
〃　阪谷　芳郎　〃　澁澤武之助
【株主數】　十五年上　十五年下　十六年上
總數（名）　一九、五六五　一八、三三　一八、四八四
【大株主】　淺野同族三、九七　淺野興業　一九、二〇〇
淺野總一郎保有　八、一四〇　安田銀行　八、〇二一
大川合名　四九、〇四九　澁澤同族三、五〇〇
富國徵兵三、五六〇　優勝證券　八、〇五
【事業規模】工場＝東京、西多摩、門司、北海道、臺灣、大阪、香春、川崎、
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
月產能力（瓲）二六七、六五　二六七、一二〇　二六七、〇五
生產高（〃）五四三、五六六　五三六、四五　五二〇、四二
出荷高（〃）五四八、五六六　五三六、四五　五二〇、四二
內地（〃）五四五、一四九　五一四、一一四　五一〇、一四
內地（〃）五四五、一四九　五一四、一一四　五一〇、一四
新契約（〃）八〇九、八〇六　五六八、三四四　九九五、一六五
契約殘（〃）四四七、八四〇　三〇四、一一三　六六八、一九三
內地（〃）四四一、四九九　三〇二、九四四　六六二、九四四
在庫高（〃）六六、〇六二　五六、四二九　四四、三六六
【投資會社】日本セメント、土佐セメント

【資產負債】　十二年下　十三年上
株主資本　六二、九六六　六七、四二一
積立金　六、七三　六、八六九
外部負債　三三、二四四　三一、四六四
社債　一〇、三四〇　八、一四〇
借入金　二、一二五　一、六四五
使用總資本　九五、一四〇　九四、二四〇
固定資本　五六、九六六　五四、四四〇
投資勘定　一五五、四四六　一五四、一四〇
流動資產　一四、八六六　一四、〇八四
現金預金　一、六六五　二、〇四六
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
收入　一〇、七五九　一三、一四〇　一三、一四〇
支出　八、四四六　一〇、九五五　一〇、一四〇
利益　三、三一三　二、一八五　三、〇〇〇
固定消却　二、一〇〇　二、一四〇　二、一四〇
消却年率　九%二　九%八　九%八
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益積立
十二年上　一、二一　〇、一四〇　〇、一四〇　六、四八
下　一、一〇　〇、一四〇　〇、一四〇　六、四八
十三年上　一、二一　〇、一四〇　〇、一四〇　六、四八
下　一、二一　〇、一四〇　〇、一四〇　六、四八
十四年上　一、二一　〇、一四〇　〇、一四〇　六、四八
【株　價】（實物）高値　安値　株　價（額面）高値　安値
十二年　四五、七　三四、〇　四五、〇　三六、一
十三年　四六、九　三六、〇　三五、六　一六、五
十四年　五五、四　三六、四　三一、九　一七、四
一—八月
【基準配當】年六分
【豫想配當】十四年十二月期　五分
【時價】新舊　四分四厘
【利廻】四分三厘
【名義書換】五　錢（新券交付）三十錢

小野田セメント製造株式會社

（本　社）山口縣厚狹郡小野田町六二七六（電小野田一一二）
（出張所）東京市京橋區銀座西三丁目建築會館內（電京橋二四九七）

【上期の業績】去る五月締切の本年上期計上利益は三百二十三萬五千圓、此の利益率は一割九分四厘に當る。略ぼその前期並の業績と云つてよい。一割配當も先づ無難である。

【外地工場擴張】鮮滿のセメント需要旺盛なる折柄、當社は外地の傍系會社の擴充に大童の狀況にある。即ち、關東州に於ける小屯子工場の新設、大連工場の擴張、また朝鮮小野田社の三陸工場の建設等はこれを物語るものに他ならない。これ等の擴充資金を賄ふ意味から、當社は去る六月新一株に付七圓半、總額二百二十二萬六千七百五圓の未拂込を徵收したのである。

【外地に期待】內地のセメント界は石炭の獲得難から、需要がありながらも高率の操短を實施して居る有樣だ。朝鮮、滿洲に於ても無論、かうした生產資材の入手難は免れないけれども、それでも內地に於ける樣なことはない。外地に於ては限度率も低く、殆んど全運轉と看做してよい程だ。外地に有力な別動隊を有する當社としてかうした外地の好況に惠まれることは必定だ。

【配當安泰】斯くて當社の現行配當も充分安泰と目してよい。一割配當は當面不動と云ふべく、これを動かさねばならぬ樣な事態は先づないと考へられる。

【設　立】明治十四年五月
【決算期】五月、十一月
【事　業】セメント製造販賣
【資本金】……舊（一五〇・〇）新（四〇・〇）
公稱＝四〇、三四〇　拂込＝三六、〇〇〇
【株　數】……舊（一五〇・〇）新（四〇・〇）
公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝二六、〇〇〇
【重　役】社長　狩野宗三　專務　朝枝　繁輔　白根　孝
竹介　赤羽克巳　河內通宏　田上鎌次郎
山本義人　國吉善一　渡邊住一　監査　綾村　清
相談　菊谷茂吉　三澤廣忠　坂本章三
【株主數】十三年上　七、三八〇　十三年下　七、三八〇　十四年上　七、三八〇
總數（名）
【大株主】三井物產　七、二三〇　內國貯金銀行　四、八〇二
毛利　元靖　一、六〇〇　三井生命　二、〇〇〇
大倉組商會　八、四〇三　大阪證券　四、三四〇
百十銀行　三、八八六
【生產能力】十三年上　十三年下　十四年上
小野田社　八、四〇〇　一四、八一〇
關東州〃　三、三〇〇　三、三〇〇　三、三〇〇
朝鮮〃　七、三五〇　七、三五〇　七、三五〇
工場別能力　（月產、單位一噸）
小野田　五、一八〇　藤原　八、三八〇　平壤　二、一〇〇
愛知　六、三八〇　伊勢崎　二、一八〇　川內　三、一八〇
八幡　九、四〇〇　太平　四、三〇〇　古茂田　二、八八〇
阿哲　二、三一〇　懷仁　四、八〇〇　總計　一四、八〇〇
由良　二、一一〇　大連　三、三〇〇
【投資會社】朝鮮小野田、關東州　小野田滿洲小野田、東北セメント等
【資本異動】十一年十月七圓五十四年七月各新七圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　五、三八〇　五、三八〇　五、三八〇
積立金　九、三九〇　九、三九〇　九、三九〇
外部負債　三、一一〇　一〇、三一〇　一二、四二一
社債　一二、四二一　一二、四二一　一二、四二一
支拂手形　五、六〇五　七、〇一五　六、六四一
使用總資本　五、七八〇　六、三五〇　六、八〇九
固定資產　三、九五　四、一三三　四、一三〇
投資勘定　一四、七九　一四、九五三　一四、九三〇
流動資產　一四、〇八　一四、〇八　一四、〇八
現金預金　一、一三　八、六〇〇　九、五〇
【收支勘定】十三年上　十三年下　十四年上
收入　一、〇五〇　二、一四三　一三、〇一〇
支出　八、二一六　九、八九九　一、八九九
利益　三、三五五　三、三三五　一、一三九
固定消却　六四一　六四一　六四一
消却年率　六%　六%　六%
【業　績】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上
利益率　一、〇八　一、〇一　一、〇一　一、〇一
配當率　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
利益金額　四、八四五　五、一三一　四、七四三　四、七四三
【株　價】（大正）舊　十二年　十三年　十四年上
高値　一、九五　一、〇一　一、〇一　一、〇一
安値　一、九五　一、〇一　一、〇一　一、〇一
株　新　株
高値　一、〇一　一、〇一　一、〇一
安値　一、〇一　一、〇一　一、〇一
【基準配當】一割
【像想配當】十四年十一月期　一割
【利廻】六分五厘　六分四厘
【時價】舊七五・〇　新六三・六
【名義書換】五錢　【新株交付】二十錢

磐城セメント株式會社

（本　社）東京市麴町區丸ノ內丸ビル內（電丸ノ內一三六七—八）
（出張所）青森縣青森市古川町一七

【五月期凡調】上期利益金は一百六萬圓を僅かに越えて居る。セメント出荷は季節的減少の爲十五萬瓲に減少したから、瓲當り五圓弱の差益として七十萬圓のセメント益だ。是に餘剩電力利用に依る合金鑄製造、有價證券投資益を加えて利益計上をなし、八分配當を持續した譯である。

【八分繼續か】當社の出荷は東北地方を主とし、下期出荷は上期に比して著增する。而も依然需要旺盛で陸上運輸機關の利用は充分出來るし、石炭を初め原價高の壓迫は尙著しいとしても、業界一般の明朗化が當社業績向上に相當寄與する。今期出荷は六、七兩月丈を見ても普通三萬餘瓲、混合四萬二千餘瓲と合計七萬三千餘瓲である。混合セメント出荷が目立つが、今期は二十萬瓲は確實だ。瓲當り差益三圓半として九十萬圓の利益で、副業收入を入れて恒例の百六萬圓の利益計上をなし、八分持續は變るまい。

【大陸進出顯著】當社の興味は大陸進出の顯著なる事に在る。滿洲洋灰は今秋十七萬九千瓲の增產工事を竣成しようし、蒙疆洋灰は年產三萬瓲の小型だが市場獨占に惠まれる。北支の致敬は華北洋灰に吸收される筈だが、中支の龍彈は年產二十萬瓲で我在支工場中第一だ。將來の北中支の需要急增を思ふ時是らの活動は括目に値しよう

【設　立】明治四十年十一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】セメント製造販賣、滿俺鐵、硅素鐵及カーバイト製造販賣
【資本金】公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝二六、七五〇
【株　數】……舊（一五〇・〇）新（二〇・〇）　二二四、〇〇〇　二四六、〇〇〇
【重　役】社長　岩崎清七　常務　山田　肇　岩崎清一郎　取締　根津嘉一郎
岡野利兵衛　吉水仁藏　南俊二　長瀨菊次郎　小室寬五郎　齊藤次郎　監査　佐藤熙治　木村清治　泉山岩次郎
安部政次郎　相談　大橋新太郎
【株主數（名）】十二年上　二、一六四　十三年上　二、三三四　十四年上　二、三三四
總數
【大株主】
特殊證券　六、三〇〇　日本興業　三、三〇〇
岩崎清七商店　四、二〇〇　富國徵兵　一、四〇〇
赤司初次郎　一〇、〇〇〇　太平生命　九、二四〇
北村　民也　六、六〇〇　水野　秀雄　六、〇〇〇
【事業規模】工場所在地　四倉、磐、東京
【事業成績】十三年上　十三年下　十四年上
月產能力（噸）　六、〇四〇　六、〇四〇　六、〇四〇
生產高（〃）　五、〇六六　一、〇四一　八、〇〇一
出荷高（噸）　一五、二三五　八、四一　一三、九一四
內地（〃）　一四、一五六　八、四一　一三、九一四
新契約（〃）　一八、二五六　一四、一五六　一四、一五六
內地（〃）　一八、二五六　一四、一五六　一四、一五六
契約殘（〃）　一〇、一三四　一四、一五六　一四、一五六
內地（〃）　一〇、一三四　一四、一五六　一四、一五六
在庫高（〃）　五、一三一　五、一三一　五、一三一
【投資會社】七尾セメント、鹿國セメント、滿洲セメント、富國セメント、富山セメント、資本異動　十二年九月一、二五〇萬圓增資決定第一四二圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　五、三八〇　五、三八〇　五、三八〇
積立金　一四、七四一　一四、七四一　一四、七四一
外部負債　一一、一五〇　一〇、〇〇一　一一、一五〇
社債　一一、一五〇　一一、一五〇　一一、一五〇
使用總資本　一一、一五〇　一一、一五〇　一一、一五〇
固定資產　一、一五〇　一、一五〇　一、一五〇
投資勘定　一四、九五一　一四、九五一　一四、九五一
流動資產　一四、九五一　一四、九五一　一四、九五一
現金預金　一、一三〇　一、一三〇　一、一三〇
【收支勘定】十三年上　十三年下　十四年上
收入　一、一三〇　一、一三〇　一、一三〇
支出　一、一三〇　一、一三〇　一、一三〇
利益　一、一三〇　一、一三〇　一、一三〇
固定消却　一、一三〇　一、一三〇　一、一三〇
消却年率　一〇%　一〇%　一〇%
【業　績】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上
利益率　一〇%　一〇%　一〇%　一〇%
配當率　一〇%　一〇%　一〇%　一〇%
利益金額　四、八四五　五、一三一　四、七四三　四、七四三
【株　價】（東株）舊　十二年　十三年　十四年上
高値　一、八八　一、〇一　一、〇一　一、〇一
安値　一、八八　一、〇一　一、〇一　一、〇一
株　新　株
高値　一、〇一　一、〇一　一、〇一
安値　一、〇一　一、〇一　一、〇一
十二年　十三年　十四年　一—八月
【基準配當】十四年十一月期　一割
【像想配當】十四年十一月期　一割
【時價】舊一四・〇　新一四・〇
【利廻】六分二厘　四分八厘
【名義書換】十　錢　【新株交付】五十錢

秩父セメント株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ内日本工業倶樂部内（電丸ノ内二三一一六）

【今期凡調】五月期決算に依ればセメント益（出荷十八萬瓲）六十三萬圓、投資收益十萬圓、スレート益十二萬圓計九十二萬七千圓の利益金だつた。前期の約十一萬圓に比し、十九萬圓搦みの減益となる譯だが、内部蓄積多く、内容堅實を以て聞ゆる當社の事とて、大勢に變りなく一割三分配當を据置いた。偖て今期だが六、七兩月でセメント出荷は混合セメント二萬瓲餘、普通セメント四萬瓲餘で六萬瓲を超える。此分で行くと今期出荷は十八萬瓲に達しよう。投資收入、スレート益を不變として今期の利益計上は九十五萬圓ソコ〳〵と見る可きで依然一割三分を維持する事とならう。

【回轉窯製鐵】當社への關心の的たる回轉窯製鐵企業化は依然困難の樣だ。好調の場合は回轉窯製鐵値瓲當り百六十四圓でも結構採算が合ふが、少し調子が狂ふと倍値でも引き合はないと言ふ始末だ。而も此のコストは直發費丈だから、益々以て企業化に遠いと言ふ可きだ。かかる試驗時代を續行する結果、業績の惡化が憂えられるが併し此の點は副產物として出來るセメントが鐵片を含む故鐵屑商に賣れるし、更に此の回轉窯製鐵法は商工省及び企劃院の援助に依り日鐵との共同研究として行はれて居るのだから、比較的當社の負擔は輕い。此の企業化成功が業績へ積極的に寄與する日はまだ遠い。

【設　立】大正十二年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】セメント製造販賣
【資本金】公稱＝二,〇〇〇,〇〇〇　拂込＝五,八〇〇
　　〃……舊（四〇・〇）　一〇〇,〇〇〇
　　〃　　新（一〇・〇）　一八〇,〇〇〇
【重　役】會長　諸井　恒平
　社長　大友　幸助　取締　柿原　萬藏
　常務　諸井　貫一　〃　鈴木　六郎
　取締　深谷辰次郎　〃　渡邊　得男
　〃　　淺野總一郎　相談　大橋新太郎
　〃　　小柳　勝藏　〃　根津嘉一郎
【株主數】
　總數（名）　一五年上　九七　　一七年下　九四〇　　一八年上　九〇七
【大株主】
　帝國生命（一七・六一〇）　諸井恒平（一六・四二〇）
　第一生命（一五・八〇〇）　秩父鐵道（一五・〇〇〇）
　有恒興業（一三・一四〇）　三輪善兵衛（九・〇四〇）
　日本徳瓦（六・二六〇）　大日本麦酒（五・六〇〇）
　大友　幸助（五・五六〇）　藤澤　同族（四・六〇〇）
【事業規模】秩父工場……秩父町
　日產能力　一六年上　二,五三三瓲
【事業收積】
　月產能力（瓲）　一五年上　一七年上　一八年上
　生產高（〃）　八六,〇八〇　一四〇,〇四〇　一四〇,〇四〇
　出荷高（〃）　一〇八,二四〇　一六〇,一四〇　一六〇,一四〇
　　內地（〃）　一〇八,二四〇　一六〇,一四〇　一六〇,一四〇
　新契約（〃）　三三,八〇〇　八四,〇四〇　一〇四,〇四〇
　　內地（〃）　三三,八〇〇　八四,〇四〇　一〇四,〇四〇
　契約殘（〃）　一四四,七四〇　九一,一四〇　一一四,一〇〇
　　內地（〃）　一四四,七四〇　九一,一四〇　一一四,一〇〇
　在庫高（〃）　一七,四四六　三三,七一六　一四,八〇〇
【投資會社】秩父鐵道、大同セメント

【資產負債】
　　五月期　十一月期
　株主資本　八,八八六　一,〇四〇,〇四〇
　積立金　一,三八八　一,〇八一,〇四〇
　外部負債　二,九四一　二,三九九　二,三三三
　使用總資本　一,八〇三　一,九九七　一,九九七
　固定資產　三,一六一　三,三九九　三,三三三
　投資勘定　二,一四一　三,三四三　三,三四三
　流動資產　六,〇四四　八,八四四　八,八四四
　現金預金　二,四〇五　一,八八一　一,八八一
【收支勘定】
　　十五年上　十六年上　十七年上
　收入　四,一四〇　五,九四四　一,〇四〇
　支出　四,一四〇　五,九四四　一,〇四〇
　利益　一,一八八　一,一一八　一,一一八
　固定消却　四〇〇　三〇〇　三〇〇
　消却年率　二四・八％　一八％　一八％二
【株　價】（實物）舊　株　　新　株
　　高値　安値　高値　安値
　十一年　六六・〇　五四・〇　五六・〇　五六・〇
　十二年　七六・五　六四・五　五四・〇　四九・〇
　十三年　七〇・〇　六八・〇　五一・〇　四九・五
　十四年上　六六・〇　五四・〇　五〇・〇　四五・二
　一—八月
【基準配當】一割三分
【擬想配當】十四年十一月期　一割三分
【時價】舊　七九・九　【利廻】五分五厘
　　新　五六・七　四分八厘
【名義書換】十五錢　【新券交附】三十錢

大阪窯業セメント株式會社

（本　社）大阪市北區堂島濱通二丁目一四（電北二〇一二四）
（出張所）東京市神田區錦保町一丁目（電神田一四五五一六）

【製鐵事業】現在セメントの月產能力四千瓲の窯を動かして製銑を行つて居る。日產平均七十瓲は確實に出銑を見て居るから、當社の場合廻轉窯利用に依る製造進出は成功したと云つてよい。然し、これを本業に轉換し得るか否かは問題に違ひない。これを本格的に行ふためには少くともセメントの月產能力一萬瓲以上の窯を用ひねばコストが降らぬし。またコンヴエヤーの根本的改造を斷行せねば原料鑛滓が四散すると云ふ不利がある。然し當局者は製銑事業を伸して行く方針だから將來根本的な改造が行はれ、大規模生產に乘り出すことになるかも知れぬ。只、現狀では殆んど加益がないと見てよい樣だ。販費値は瓲百九十圓（工場渡）だが、生產費もこれに近い位かかるのではないかと想像される。

【伸び惱む】一方、セメント界は石炭の獲得難から六割と云ふ高率操短を實施して居る有樣だし、また石炭、紙袋その他の價格昂騰から採算も惡い。とすれば結局當社の業績も向上期待薄と云はねばならぬ。本年上期の計上利益は百十五萬五千圓、利益率二割七分二厘だが、下期も大體これ以上に出まい。

【据置か】これでは一割六分配當は餘り樂ではないが、含みも多いことが依然据置の方針に出るものと思はれる。

【設　立】昭和元年十二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】セメント製造
【資本金】公稱＝二,〇〇〇,〇〇〇　拂込＝八,五〇〇
　　〃……舊（四〇・〇）　一〇〇,〇〇〇
　　〃　　新（一五・〇）　一八〇,〇〇〇
【重　役】
　社長　淺田平藏　取締　橋本　太郎
　專務　臼杵善三郎　監査　毛戸　勝元
　取締　磯野小次郎　〃　有田　邦敬
　〃　　水井清七　〃　山口　次郎
【株主數】
　總數（名）　一五年上　三,二四〇　一六年下　三,二五五　一七年上　三,二五五
【大株主】
　大阪證券　四,三二九　淺田合資　三,九六六
　磯野小次郎　六,六九　住友生命　五,〇六〇
　帝國生命　五,〇〇〇　小西　勉太　四,四〇〇
　坂口　托平　四,三六　吉水　孝一　四,三三
【事業規模】工場所在地　大阪市恩加島
　回轉窯（多筒式冷却機附）……六基
　電動機使用總馬力……四〇,〇〇〇馬力
　出產能力月產……四四〇,〇〇〇樽
【事業成績】
　月產能力（瓲）　一五年上　一六年下　一七年上
　生產高（〃）　九六,八二〇　九六,九〇〇　九六,九〇〇
　出荷高（〃）　一一九,八四四　一九,八六六　一一四,〇八八
　　內地（〃）　一一〇,八六六　一一〇,九九六　一一〇,八九七
　新契約（〃）　三三,一五六　二三,八九七　三三,八九七
　　內地（〃）　三三,一五六　二三,八九七　三三,八九七
　契約殘（〃）　九六,九六八　九六,九六八　一〇四,〇四〇
　　內地（〃）　九六,九六八　九六,九六八　一〇四,〇四〇
　在庫高（〃）　二〇,一六八　二〇,二四九　二〇,七四九
【投資會社】大阪證券、土佐洋灰工業、大日本セメント
【資本異動】十二年七月三割五拂込復收

【資產負債】
　　五月期　十一月期
　株主資本　一三,六八八　一三,七四七
　積立金　一三,〇六一　一三,一六六
　外部負債　一三,一四四　一四,四四七
　社債　四,〇〇〇　四,〇〇〇
　支拂手形　一四,八四六　一四,四四七
　使用總資本　二五,八四六　二五,八四六
　固定資產　一一,一四六　一一,一六六
　投資勘定　五,一四〇　五,五四〇
　流動資產　九,六八〇　一〇,八一四
　現金預金　四,八六六　六,四四六
【收支勘定】
　　十五年上　十六年上
　收入　四,六四〇　四,四四〇
　支出　四,四四〇　四,四四〇
　利益　一,一九六　一,一九六
　固定消却　五〇〇　五〇〇
　消却年率　五％九　六％二
【株　價】（大阪）舊　株　　新　株
　　高値　安値　高値　安値
十一年　一五六・〇　一〇六・五　一五〇・〇　一〇六・五
十二年　一五六・〇　一〇三・五　九一・〇　八四・〇
十三年上　一四〇・〇　一一〇・五　八〇・〇　六〇・〇
　下　一一・六　一〇一・五　六〇・〇　四〇・八
十四年上　一一・八月　一一・六　一〇一・五　六〇・〇　四〇・八
【基準配當】一割六分
【擬想配當】十四年十一月期　一割六分
【時價】舊　一三六・〇　【利廻】七分一厘
　　新　九八・五　五分三厘
【名義書換】十錢　【新券交附】五十錢

日本セメント株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館（電丸ノ内　二〇六四）

【今期凡調】四月より七月迄の内地出荷は、淺野七尾兩社への依託生産一萬一千瓲餘を含めて六萬五千瓲、滿洲向二萬六千瓲で合計十一萬四千瓲だ。八—九兩月出荷を五萬瓲として十六萬瓲の出荷になる。前期比五萬瓲餘の出荷增となるが、此の增加も瓲當り差益の減少に禍ひされてさした增益は期待出來ぬ。前期の瓲當り二圓七十錢と云ふ差益を維持し得ても、四十三萬圓のセメント益だ。電氣製鋼、有價證券收入の三萬圓を加へて今期利益は四十五萬圓程度とならう。竹之迫炭礦の無煙炭採掘は當期大した利益は出ないから利益率は一割二分六厘だ。これでも五分配當は充分据置ける。

【淺野との合併】十月一日を豫定期日として、淺野社と合併する事に決定して居るが、是は正しく朗報と云ふ可きだ。解散に伴ふ諸費用は總て淺野の負擔とあれば正に好條件だ。當社の難點は工場が九州に偏在してゐる事であつた。此の爲運賃高の時代には極めて不利な狀態に置かれたのである。其の合理化策として淺野、七尾等の諸社に依託生産をして貰つてゐたのであるが、淺野との合併に依り此の無駄が省ける事にならう。而も休轉窯大陸移轉の必要が相當切迫して居る現狀から、八代工場の窯は、淺野の手で大陸に移されて活動するであらうから淺野の活動の源泉ともなる譯だ。

【設　立】明治二十一年一月
【決算期】三月、九月
【事　業】セメント及電氣製鋼製造
【資本金】……公稱　10,000　拂込　七、二五〇
【株　數】……普通（五〇、〇）　五〇、〇〇〇
　　新　（五〇、〇）　二五、〇〇〇
【重　役】社長　淺野總一郎　常務　綠川　政藏
　　專務　淺野良三　取締役　長崎　英造
　　〃　金子喜代太　〃　田中榮八郎
【株主數】十五年上　十五年下　十六年上
　　總數（名）　二、五五九　二、六四〇　二、六〇三
【大株主】淺野證券　五、八六〇　紫雲社　五、〇五〇
　　愛誠社　五、三〇〇　丸ノ内商事　五、〇〇〇
　　富國徵兵　三、〇〇〇　山口利一郎　三、〇〇〇
　　太平生命　二、五二〇　淺野總一郎　二、〇〇〇
【事業組織】工場所在地＝八代、佐伯
　　製鋼部　……鹿
　　竹之迫炭礦　月產能力概算
【事業成績】　十五年上　十六年上　十六年下
　　月產能力（瓲）　四〇、〇〇〇　四〇、〇〇〇　四〇、〇〇〇
　　生產高（〃）　二、三三、〇〇〇　二、三三、〇〇〇　二、〇〇〇、〇〇〇
　　出荷高（〃）　二、〇〇、〇〇〇　二、〇〇、〇〇〇　一、六〇、〇〇〇
　　內地（〃）　一、九五、〇〇〇　一、九五、〇〇〇　一、四〇、〇〇〇
　　新契約（〃）　一、四〇、〇〇〇　一、四〇、〇〇〇　一、四〇、〇〇〇
　　內地（〃）　一、〇五、〇〇〇　一、〇五、〇〇〇　一、〇五、〇〇〇
　　契約殘（〃）　六五、〇〇〇　六五、〇〇〇　六五、〇〇〇
　　內地（〃）　六五、〇〇〇　六五、〇〇〇　六五、〇〇〇
　　在庫高（〃）　五、〇〇〇　五、〇〇〇　五、〇〇〇
【關係會社】淺野セメントの子會社
【投資會社】東亞セメント、大同セメント、日東セメント

【資產負債】

	十三年九月	十三年九月	十四年二月
株主資本	八、一二〇	八、一二〇	八、一二〇
横立金	三、九五〇	三、九五〇	八、〇五〇
外部負債	三、一〇〇	三、一〇〇	三、〇五二
社債	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
借入金等	六三〇	六三〇	一、〇五〇
使用總資本	二、〇五三	二、〇五三	二、一五七
固定資產	八、八七〇	八、七七〇	八、七二五
投資勘定	六五〇	六七〇	六四〇
流動資產	二、一五六	二、一六〇	二、一三三
現金預金	一、六〇	六〇	六〇
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　　收入　三、一四六　三、〇五三　三、〇五三
　　支出　二、六三三　二、八二三　二、六〇四
　　利益　五三三　二三〇　四九九
　　固定消却　二六〇　二三〇　二〇〇
　　消却年率　六%〇　六%〇　六%〇
【業績】　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上
　　利益率　一、六九　一、六〇　一、四六　一、二〇
　　配當率　一、六〇　一、六〇　一、四〇　一、二〇
　　利益配當　五六、五　五五、三　五八、八　五一、三
【株價】（額面）舊株　十二年　十三年上　十三年下　十四年上
　　高値　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇
　　安値　三五、〇　三五、〇　三五、〇　三五、〇
　　新株　十二年　十三年　十四年
　　高値　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇
　　安値　三五、〇　三五、〇　三五、〇
【株數】舊株　十二年　十三年上　十三年下　十四年上
　　新株　十二年　十三年　十四年
【業績】　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上
　　利益率　一、九九　一、六〇　一、四六　一、二〇
　　配當率　一、六〇　一、六〇　一、四〇　一、二〇
　　利益配當　五六、五　五五、三　五八、八　五一、三
【株價】（額面）舊株　十二年　十三年上　十三年下　十四年上
　　高値　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇
　　安値　三五、〇　三五、〇　三五、〇　三五、〇
　　新株　十二年　十三年　十四年
　　高値　四〇、〇　四〇、〇　四〇、〇
　　安値　三五、〇　三五、〇　三五、〇
【株數】舊株　十二年　十三年上　十三年下　十四年上
　　新株　十二年　十三年　十四年
【豫想配當】十四年九月期　五分
【利廻】四分五厘
【時價】舊株　三六、〇　三分八厘
　　新株　三六、〇
【名義書換】十一月　【新株交付】三十錢

宇部セメント製造

（本　社）東京市麹町區丸之內三ノ二三番二〇號（電丸之內三六五五）
（出張所）山口縣宇部市大字小串一九七八（電宇部八八）

【設　立】大正十二年九月
【決算期】五月、十一月

【凡調持續】當社は他會社に見る如く多角的な經營に進んで居らずセメント事業一本で押して居る。セメント界不振の打柄だから、興味材料に乏しく、地味一點張りと云つてよい。業績亦凡調そのものだ。試みに本年上期を見るに、計上利益は七十七萬八千圓、此の利益率は一割四分八厘で、前年同期と少しも變りがない、延いて八分配當も大體難なく維持したのである。

【八分安泰】十一日締切の下期は二十萬瓲程度の出荷がある見込だから、上期並の業績は得られよう。とすれば現配當は安泰だ。これを動かさねばならぬ樣なことは當面ないと見てよからう。

【資本金】……公稱＝一〇〇、〇〇〇　拂込＝一〇、二五〇
【株　數】……普通（八〇、〇）　一〇〇、〇〇〇
　　新（二〇、〇）　一二〇、〇〇〇
【重　役】社長　渡邊　順二
　　專務　藤本　弊雄　〃　中安　閑一
　　取締役　高良　宗七　〃　岡崎　豐策
　　〃　岡和　駿臺　〃　庄番太郎
　　〃　山川庸之助　〃　名和田正
　　取締役　後田　明　〃　名和田哲郎
【大株主】十四年五月期　二、三一〇名
　　渡邊　順二　二、九六〇　大窯　一〇、九二〇
　　大阪窯業株式會社　九、五二〇　高良　宗七　四、六二〇
【事業機構】工場所在地　宇部
　　期末月產能力　八〇、〇〇〇瓲
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
　　生產高（瓲）　六三、六〇〇　一八、〇〇〇　三六、〇〇〇
　　出荷高（瓲）　一九、七二〇　一九、五九〇　三六、八五〇
【業績】　十三年上　下　十四年上　十五年上　十六年上
　　利益率　七、九　八、一　七、九　一、四九　一、四九
　　配當率　一、四九　一、四九　一、四九　一、四九　一、四九
　　利益配當　四、八二　四、八二　四、八二　四、八二　四、八二
【株價】（實績）舊株　十三年　十四年　一一—八月
　　高値　五三、〇　五三、〇　五三、〇
　　安値　四三、〇　四三、〇　四三、〇
　　新株　十三年　十四年
　　高値　五三、〇　五三、〇
　　安値　四三、〇　四三、〇
【豫想配當】十四年十一月期　八分（八分）
【時價】舊株　八〇　新株　五三、五
【利廻】六分二厘　五分六厘

豐國セメント

（本　社）東京市麹町丸之內海上ビル（電丸之內一五三）

【設　立】大正七年十二月
【決算期】四月、十月

【微か乍ら好調】五、六、七の三ケ月間出荷は八萬五千瓲餘に上る。今期總出荷は十七萬瓲は確實だ。前期比一萬三千瓲の出荷增で而も販路九州、中京の販賣値が協定され瓲當り三圓五十錢の差が見込める。今期セメント益六十萬圓に配當收入を加えて六十二、三萬圓の利益計上が出來る。利益率は一割六分を越え前期比三分の向上だ。

【近く增配か】門司工場の自家發電の擴張は六月完成、餘剩電力一千キロは一キロ二錢八、九厘で賣る。磐城と提携しコンクリートパイプ及びポール製造會社を滿洲に新設中で、今期末には完成するだらう。そうすると愈々來期遲り增配するかも知れぬ。

【資本金】……拂込濟　七、五〇〇
【株　數】……（五〇、〇）　一五〇、〇〇〇
【重　役】社長　村瀨　末一　取締役　下出　義雄
　　常務　岩崎清一郎　〃　中野友禮
　　取締役　木下剛　〃　大島小太郎
　　〃　坂本信義　〃　山田　肇
　　〃　清瀨規矩雄　〃　福澤大四郎
　　〃　三太郎相談　〃　岩崎清七
【大株主】十四年四月期　二、二五〇名
　　磐城セメント㈱　二、二五〇　九州曹達　二、二五〇
　　末廣合資　九、〇五〇　磐城商事　五、〇〇〇
【事業機構】工場　門司、名古屋、佐賀
　　期末月產能力……五六、五〇〇瓲
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
　　生產高（瓲）　一三、六〇六　一三、〇〇〇　一四、〇〇〇
　　出荷高（瓲）　一四、三一〇　一三、六〇〇　一四、六四〇
【業績】　十三年上　下　十四年上　十五年上　十六年上
　　利益率　一、四九　一、三一　一、二〇　一、四九　一、四九
　　配當率　一、四〇　一、三一　一、二〇　一、四〇　一、四〇
　　利益配當　四一、六　四一、六　四一、六　四一、六　四一、六
【株價】（實績）舊株　十三年　十四年　一一—八月
　　高値　四一、五　四一、五　五一、七
　　安値　三五、七　三五、七　三五、七
【豫想配當】十四年十一月期　六分（六分）
【時價】舊株　五一、五　新株　五一、五
【利廻】五分六厘

土佐セメント

【設　立】明治四十一年八月
【決算期】五月、十一月

（本　社）高知縣高知市柴東町二五（電三三〇一三）
（出張所）東京市目黒區二ノ二九九〇（電高輪 ㊀㊀）

【上期据置】去る五月締切の本年上期計上利益は二十八萬九千圓、此の利益率は一割五分八厘だ。前年同期と殆んど同樣の業績だ。配當は依然四分据置としたが、先づ無難と目される。

【横這か】生産資材の獲得難からセメント界は依然難況と云ふ他なく、當社も無論此の影響を免れないが、一方當社は出荷の八割を海運に依存して居る關係上、船腹の拂底、運賃の昂騰と云ふ惡材料に大きく禍される。かうしたわけだから十一月締切の下期も依然好成績は期待薄だ。先づ上期並の業績と見て良い。が、そうとすれば現行四分の配當は不安なく維持出來る。

【資本金】公稱＝五、〇〇〇　拂込＝三、六八〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　四〇、〇〇〇
新（二五・〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　淺野總一郎　取締　金子喜代太
常務　下元鹿之助　〃　眞田　繁
〃　松村　正治　監査　井上直太郎
取締　辻　琢磨　〃　大西　正幹
【大株主】
淺野　總一郎　十四年五月期　溝口　熊助　一、八二〇名
宇田　耕一　三、七四二　川崎庫三郎　四、四二〇
三、一二四
【事業規模】
期末月產能力……工場所在地　高知
【事業成績】
生產高（㌧）　十三年下　十四年上
出荷高（㌧）　八、七四四　七五、八四四
在庫高（㌧）　八、一〇三　三、四九九
一四、〇九七　一一、六四一
【業　績】
十三年上　利益金　一、六六　一、九七
下　二、七〇　一、九五
十四年上　一、九九　一、〇六
【株　價】（大阪）新　株
十三年　高値　一九、五　安値　一三、三
十四年　一三、四　三、五
一一月
【豫想配當】十四年十一月期四分（年六分）
【時價】二四・〇　【利廻】四分五厘

七尾セメント

【設　立】大正十五年十一月
【決算期】五月、十一月

（本　社）東京市麹町區丸ノ内丸ビル（電丸之内三三一一）
（支　社）石川縣金澤市白銀町一四

【ニツケル製錬愈々本格化】當社のニツケル製錬は昭和鑛業との提携の下に、大江山ニツケルの採掘した硅ニツケルを、ニツケル粗鑛に仕上げるのだ。今年七月操業を開始したが、草創時代に附き物の技術的支障の爲九月迄は試驗時代を脱しない樣だ。十月以降愈々企業は本格化するから懸案のニツケル製錬に凱歌が擧る譯である。

【下期一分增　か】十、十一兩月ニツケル製錬高〇〇瓲に上らうから瓲當り利益を〇〇圓として十二萬圓の製錬益が得られよう。セメント出荷十萬瓲三十五萬圓、配當收入八萬圓を加へて、五十萬圓の利益計上は出來る。格段の好成績で一分增の七分配當が期待される。

【資本金】公稱＝五、〇〇〇　拂込＝四、三五〇
【株　數】……（四二・五）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】
社長　岩崎　清七　監査　岡野利兵衛
取締　遠山　元一　〃　石黒　傳七
〃　山田　肇　〃　生明市太郎
【大株主】
弊城セメント三、〇〇〇　遠山　俗成　三、四三〇名
定　德　會　七、〇〇〇　山室　要　四、一二〇
川島屋商店　一、五三〇　室清證券　一、五二〇
【事業規模】
期末月產能力……工場所在地　七尾
【關係會社】弊城セメントの子會社
【事業成績】
生產高（㌧）　十三年上　十四年上
出荷高（㌧）　八、七〇八　九二、三五九
在庫高（㌧）　九、四八〇　三、九四四
【業　績】
十二年下　利益金　一、六〇　利益率　一、六三
十三年上　一、九〇　一、六三
十四年上　一、九〇　一、六三
【株　價】（東京）高値　安値
十三年　三五、九　二五、五
十四年　四八、四　二八、八
一一月
【豫想配當】十四年十一月期六分（六分）
【時價】四八・〇　【利廻】五分三厘

東洋セメント工業

【設　立】昭和九年五月
【決算期】六月、十二月

（本　社）大阪市北區堂島濱通一ノ一五（電北二六五一一八）
（事務所）東京市麹町區丸ノ内三菱二一號館（電丸九一九）

【スレートに進出】業界の不振に對應する意味から、昨年下期に小倉工場内にスレート部を設け、同時に大陸進出を企圖して天津にスレート工場を建設した。前者は本年上期より操業を開始し、天津工場亦上期末に完成、運轉中だ。これは現狀打開の方策としては勿論當を得たものだが、然し大きな期待は懸けられない。

【一割据置】去る六月締切の上期計上利益は三十萬五千圓で、利益率二分八厘、配當は一割据置としたが、下期はスレートの利益があるとは云へ業績は先づこれと大差あるまい。從つて一割配當も依然續行される見込だ。

【資本金】公稱＝五〇、〇〇〇　拂込＝二、九八八
【株　數】……舊（五〇・〇）　四五、〇〇〇
新（二五・〇）　五五、〇〇〇
【重　役】
社長　阿部美樹志　取締　山口謙四郎
取締　南喜三郎　監査　井上　崗
〃　淺利　三朗　〃　谷田常右衛門
〃　高軌　〃　勝口東太夫
【大株主】十四年六月期
阿部美樹志　一五、八〇〇　谷田常右衛門　五、二六〇名
上田　寧　五、〇〇〇　黑川商店　三、九四四
【事業成績】
資上高（千圓）　十三年上　十四年上
一、〇八七　一、六九六
製造費（千圓）　六六四　七九八
【事業規模】工場＝福岡縣東谷村
月產能力　二基　三萬瓲
【業　績】
利益金　利益率
十二年下　三五、九　三、〇三　一、〇〇
十三年上　三一、四　二、一四　一、〇〇
下　三〇、四　二、〇七　一、〇〇
十四年上　三〇、五　二、〇八　一、〇〇
【株　價】（實際）舊　株　新　株
十三年　高値　六九、三　安値　五五、〇　高値　七二、二　安値　七二、〇
十四年　八四、〇　五五、〇　一八月
【豫想配當】十四年十二月期一割（一割）
【時價】舊　八〇、五　新　二五、八　【利廻】七分一厘　四分八厘

三河セメント

【設　立】明治三十一年四月
【決算期】五月、十一月

（本　社）名古屋市中區廣小路通り二朝日ビル（電本局四四三一四）
（事務所）東京市麹町區丸ノ内三丁目（電丸ノ内二八四〇）

【東海セメ合併か】大陸建設期を控へセメント界は幾分明朗化の傾向にあるが、淺野社の日本社合併を契機に、業界は合併、合同による經營合理化の趨勢にある。當社も亦その子會社東海セメントを合併するものと思はれるが、年内には具體化すんだらう。東海はその爲本年下期一分增の八分配當を實現しよう。

【南海炭礦增資】子會社南海炭礦は十月■日倍額增資して六百萬圓の資本金となつた。南海汽船は南海炭礦取り配船に全力をそゝいでをる。子會社群の活躍には注目に値するものがあらう。

【前途觀】狩孫鋼へ進出したが、その成果が俟たれる。

【資本金】公稱＝三、〇〇〇　拂込＝一、四五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　五、〇〇〇
新（五〇・〇）　五、〇〇〇
【重　役】
社長　山内　卓郎　取締　今井清之助
取締　山田　近　監査　山内政市
〃　後藤　太助　〃　小嶋和四郎
【大株主】十四年五月期
山内　卓郎　三、一〇〇　小嶋和四郎　一、〇〇〇
大須賀眞藏　一、二〇〇　今井清之助　一、〇〇〇
【事業成績】
生產高（㌧）　十三年上　十四年上
出荷高（㌧）　八、二四三　二四、九五九
一四、八四六　二四、八五五
【事業規模】工場　田原
期末月產能力……八、二一〇瓲
【業　績】
利益金　利益率
十二年下　一、二三　三、〇三　一、〇〇
十三年上　一、四四　一、七一　一、〇〇
下　一、〇五　一、五六　一、〇〇
十四年上　一、〇三　一、五六　一、〇〇
【株　價】（實際）舊　株　安値
十三年　高値　五二・〇　四六・五
十四年　五三・五　四七・五
一八月
【豫想配當】十四年十一月期八分（八分）
【時價】五三・五　【利廻】七分六厘

滿洲セメント

【設立 昭和九年二月 決算期 五月、十一月】

（本社）滿洲遼陽市大和通り三〇

【增設工事進行】增設工事は七月完成、八月より操業開始の豫定だつたが、資材難で、工事は十月には入らねば完成しない模樣だ。從つて、今期の增產能力の運轉は正味一ケ月で生產は一萬瓲見當だ。今期出荷高は十一萬瓲が見込まれる。瓲當り差益を四圓五十錢搦みと見れば、總利益は五十萬圓となる勘定だ。八分配當所要金は二十萬圓だから、一據に八分へ增配されよう。

【前途安泰】增設工事完成後の年產能力は三十二萬瓲だ。業界の活況からフル運轉可能だから年利益百三十五萬圓で倍額增資しても利益率三割となり、增資も考えられる。前途好望と云ふ可きであらう。

【資本金】……拂込濟 三,750,000
【株數】……（額面 50.0） 750,000
【重役】
社長 岩崎清七
專務 岩崎永樹 取締 林鶴泉
〃 岡一郎 〃 鎌海軒
〃 金子喜代太 〃 吳裕泰
〃 瓜生喜三郎 〃 〃
〃 山田馨 〃 〃
〃 淺野良三 〃 〃
〃 方煜 〃 〃
〃 張成發 〃 〃
【大株主】
康德五年十一月期
組合員 大倉 林鶴泉 三,000,000名
滿城セメント 三,000,000 山田馨 三,000,000名
【事業規模】年產能力……三〇,000瓲

【事業成績】
製品販賣高（千圓）……三,001,大九九
製造費（千瓦）……十五年度
【業績】
十二年下 利益金 利益率 配當率 利益積立
十三年上 一四 〃 〃 〃 〃
（以上の業績は當時日本法人會社の決算） 缺損 無配 缺損
十三年度 四〇四 一.六三 〇.六〇 〇.六〇 四.五四
【株價（實勢）高値 安値
十三年 四三.七 三四.〇
十四年 八〇.〇 三六.四
一一月 八〇.〇 三六.四
【豫想配當】十四年十一月期 七分
【時價】六六.二 【利廻】五分一厘

哈爾賓セメント

【設立 昭和九年八月 決算期 六月、十二月】

（本社）滿洲國哈爾賓道裡水道街二三號
（出張所）東京市日本橋區吳服橋三ノ七（電日本橋四六八）

【上期四分据置】上期は、一月—四月間が結氷期で出荷因難な上に、工場位置の北偏せる爲、上期出荷は極めて惡い。而も需要先が軍需向が主だから其の詳細なる數量の言明は差し控えねばならぬが、利益金五萬千九百圓で出荷數は大約二萬瓲と見られよう。利益率は九分で四分配當を据置いた譯だ。

【增設工事進捗】新設中の牡丹江工場は今年一杯で完成する豫定であつたが、諸材入手難に祟られて、來年半ばに完成が延ばされた樣だ。擴張過渡期の現在增配は困難だが、業界の活況は當分續く故、本工場完成後の業績向上は大いに期待されよう。

【資本金】公稱 五,000,000 拂込 二,000,000
【株數】……額面（五〇.〇） 新（二二.五） 一〇〇,000 八〇,000
【重役】
專務 代表 玉置榮次郎
常務 三神吾朗 取締 上田源三郎
〃 北林惣吉 〃 國吉喜一
取締 辻光 〃 卜部卓江
〃 角田正彥 〃 加藤明
〃 高橋正雄 〃 原逸郎
【大株主】十四年六月期
小野田セメント 三,〇〇〇,000 三井物產 三,〇〇〇,000名
荒川長太郎 三,〇〇〇,000 關東州小野田 三,〇〇〇,000名
角田正衞 一,〇〇〇,000 旭見八郎右衞門 一,〇〇〇,000名
【工場所在地】哈爾賓市外
【事業規模】年產能力 一五〇,000瓲
擴張計畫 牡丹江工場 年產能力 一五〇,000瓲
【業績】
十二年下 利益金 利益率 配當率 利益積立
十三年上 一四〇 〇.三五 〇.三五 一.〇九
缺損 〇.三五 〇.四〇 七.六六
十四年上 八五 〇.四〇 〇.四〇 二.五五
（十二年下期は事哈會賓セメントの決算）
【株價（實勢）高値 安値
十三年 三四.六 三〇.〇
十四年 一一.〇 六六.〇
一一月 一一.〇 六六.〇
【豫想配當】十四年十二月期六分
【時價】舊一四.三 【利廻】六分一厘

旭硝子株式會社

（本社）東京市麹町區丸ノ內八重洲ビル內（電丸ノ內 三八八一—七）
（支店）東京市京橋區京橋二丁目明治屋ビル內（電京橋三〇一一五）

【大戰の影響】輸入原料品の內、鹽と硅砂が問題になるが、硅砂の影響は輕い。硅砂は佛印から輸入してゐるが、之は三井物產と特殊關係があるから減ることはあるまい。但し船運賃の增騰は避けられまい。それに比べ工業鹽は北アフリカに依存する量が多いし近海鹽での充分な補給が不可能なだけに、二重、三重の打擊を受けねばならぬ。當面は兎も角大戰の發展如何を注視する必要がある。

【輸出增期待】然し板硝子の輸出には絕好の機會となつた。從來とても南洋、印度、加奈陀、アフリカ、ブラジル方面へは、普通板及型、網、網入等の特殊板の輸出を行つてゐたが、今後も出來る限り努力することゝならう。

【下期成績】十月末締切の下期は、曹達灰及苛性曹達の出荷が意外に多かつたのと、耐火煉瓦、特殊高級硝子（安全硝子、合せ硝子、乾板用板）ヒシライト等の需要亦增加を告げ、總賣上高は前期と大差ない見込だ。八月一日昭和化學工業を合併し百廿五萬圓の拂込增加となるが、一割五分配當踏襲は可能である。

【出資は來春か】コルハート煉瓦、乾板用板の兩設備擴張進行中であり、出資會社中にも拂込增資に進むものがあるので、全額拂込濟の折柄增資含みだが、來春に持越されよう。

【設立】明治四十年九月
【決算期】四月、十月
【資本金】……拂込濟
【事業】窓硝子、耐火煉瓦、曹達類、
【株數】……（額面 五〇.〇） 八〇〇,000
【重役】
會長 山田三次郎
常務 大野政吉 取締 岩井秀男
取締 三好重道 〃 鈴長良保
〃 林雅之助 〃 羽野友二
〃 山田直一郎 〃 加藤武男
〃 一宮余五郎 〃 二川末吉
【株主數】十五年上 一〇五名
總數（名） 二,五八〇
【大株主】
岩崎小彌太 二七,五三三 三菱信託 二一,一八〇
東京海上 二三,五〇〇 明治生命 一六,二五〇
第一生命 一五,八〇 野村嘉子 八,七五〇
松方常子 七,九五〇 松方亮三 六,三〇〇
【年產能力】普通板硝子……四,三〇〇千箱
乾板用板硝子……一一〇〇
型、網、網入、鏡板硝子……七〇〇
安全硝子……三〇〇千平方尺
ソーダ灰……一千瓲
苛性曹達……
重炭酸曹達其他……
鹽化石灰……二〇〇
耐火煉瓦……三〇〇
コルハート煉瓦……一〇〇
工場 硝子工場＝尼崎、牧山、鶴見
煉瓦工場＝尼崎、曹達工場＝牧山
【投資會社】日本板硝子、昌光硝子、日本化成工業、化工機製作、大日本飼料、滿洲曹達、滿洲鹽業、鐘紡硝子、東海工業
【資本異動】十一年六月檢額增資十二月十三年十二月各二五圓拂込復收。

【資產負債】

	十二年四月	十三年十月	十四年四月
株主資本	三〇,五六四	三〇,九六二	三〇,九六二
積立金	一四,四四五	一四,四四五	一四,三三五
外部負債	三五,四六六	三五,四四一	三五,四四一
支拂手形	一六,〇〇〇	一四,〇〇〇	一六,〇〇〇
使用總資本	八六,〇四五	八〇,四四五	八〇,四四五
固定資產	三五,三四八	三五,〇九六	三四,〇八五
又資勘定	三三,一八四	三三,〇三三	三三,〇三三
流動資產	五八,五三一	五六,四四九	五六,四四九
現金預金	一四,六六六	一五,八四八	一五,八四八
收支勘定	十五年上	十五年下	十六年上
收入	四八,五五五	四四,八四四	四四,四四四
支出	三六,八四五	三五,八五五	三五,八五五
利益	四,五〇	四,三四	四,三四
固定消却	一,三八	一,〇四五	一,〇四五
消却年率	一三.九一	九.九八	九.九八
【業績】
十二年上 利益率 配當率 利益積立
下 四.一三 四.〇〇 四.九五
十三年上 三.〇四 三.〇〇 四.九五
下 三.一七 三.〇〇 四.九五
十四年上 三.七四 三.〇〇 四.三〇
【株價】（實勢） 高値 安値
十一年 一四四.六 一三五.〇
十二年 一四四.〇 一二七.〇
十三年 一三六.〇 一〇六.〇
十四年 一三七.〇 一〇〇.六
一一月
【基準配當】一割五分
【豫想配當】十四年十月期 一割五分
【時價】一二六.〇 【利廻】四分七厘
【名義書換】五錢【新株交附】廿五錢

日本板硝子株式會社

（本　社）大阪市東區北濱五丁目住友ビル内（電北濱　三六一—三一〇）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内丸ビル内（電丸ノ内二五三）

【減産六割】當社は目下六割減産を實施して居る。年産能力約百五十萬函（普通板硝子）に對し、年六十萬函—半期三十萬函しか生産出來ないわけである。遊休資本の負擔は大きいと云はねばならぬ。一方石炭、曹達灰の不足及び價格昂騰で採算狀況も良くないのだから痛手と云ふ他ない有樣だ。

【降り坂】斯くて業績も亦降り坂の傾向を示して居る。去る五月締切の本年上期は四十三萬八千圓の利益を計上し、此の利益率は一割五分九厘に當るが、これは以前の冬期に比し最も劣つて居る。表面から見る限りでは普通特別合計一割の配當は窮屈の感を伴ふ程だ。然し、周知の通り、當社は何しろ含みの大きい會社であつて、一例を擧げれば二島工場の如きは殆んど零に近い位地に迄償却し盡されて居ると推定される程だから、假令業績が悪化しても充分持ちこたえるだけの彈力を備へて居る。此の點を考慮すれば現行一割の配當も決して不當ではない筈だ。

【打開策】それに當社も着々打開策を講じて居る。特殊高級硝子への進出を目論んで居る點もそれだが、新に耐火煉瓦にも着手した。二島工場に於ける耐火煉瓦部門の擴張、日本ホロタイルの買收はこれを物語る。斯樣な次第故當社の前途は決して懸念の要がない。

【設　立】大正七年十一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種硝子製造販賣
【資本金】……公　称　一〇、〇〇〇
　　拂　込　四、五〇〇
【株　數】……舊（八〇、〇）　四〇、〇〇〇
　　新（二二、五）　一六〇、〇〇〇
【重　役】會長　小倉　正恒
常務　稲井　勤造　取締　占部　保
取締　中村　文夫　〃　小畑　忠良
〃　鶴見　良保　〃　監査　岡橋　林
〃　宇田　顯　〃　大屋　毅
【株主數】……十五年上　一五、五六一
　　十五年下　一四、六二一
【總　數】（名）
【大株主】
住友本社　五、〇〇〇
住友銀行　八、〇〇〇
米井合名　三、五一〇
加藤　正治　一、五〇〇
リビー、オウエンス、フォード、グラス　四三、二〇〇
ホンバー　住友青左衛門　一〇、〇〇〇
大日本麦酒　八、〇〇〇
宮崎　彌作　一、五九〇
脇村市太郎　一、二六〇
【事業規模】
工場所在地　九州若松市　二島
　　三重縣四日市市千歳町
製造設備（年産能力）
燈解窯（一、〇〇〇噸）……三基
同　（二、五〇〇噸）……二基
コルバーン式板硝子製造機……一〇基
生産能力（年産）……一八〇萬函
【事業成績】製造高（函）　十五年上　一、三六、四八〇　三三、七五二
　　十五年下　一、四六、二〇〇　三四、八五〇
賣上高（千圓）　十五年上　三三、八九一
　　十五年下　三四、三一〇
【資本異動】九年十月六百萬圓增資、第一回拂込二二圓五錢收

【資産負債】

	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
株主資本	七、六〇三	七、六〇三	七、六〇三	七、六〇三	七、六〇三
積立金	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五
外部負債	二、九五〇	二、三六〇	二、三六〇	九、九六〇	九、九六〇
使用總資本	九、九六一	九、三六六	九、三六六	五、三六六	五、三六六
固定資産	五、五一一	四、九八〇	四、九八〇	四、三一九	四、三一九
流動資産	四、九八〇	四、三八二	四、三八二	一、〇六一	一、〇六一
現金預金	一、三三一	一、三三一	一、三三一	一、三三一	一、三三一
【收支勘定】	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
收入	四、三六六	四、三六六	四、三六六	四、三六六	四、三六六
利益	三、三六六	三、三六六	三、三六六	三、三六六	三、三六六
支出	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
利益	一、三六六	一、三六六	一、三六六	一、三六六	一、三六六
消却年率	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
固定消却	四、九八〇	四、三八二	四、三八二	四、三八二	四、三八二

【株主資本】

	十一年	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇
配當率	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇
特別	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
合計	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇
利益率	二、五六	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇
配當率	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇
特別	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
合計	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇

【株　價】（實勢）舊　株　新　株
　　高値　安値　高値　安値
十一年　一三一、〇　一〇五、五　一三一、〇　一〇五、五
十二年　一二五、〇　一一一、〇　一二五、〇　一一一、〇
十三年　一〇九、五　八五、五　一〇九、五　八五、五
十四年　八四、〇　八一、〇　八四、〇　八一、〇
一—八月　一一、五　一一、〇　一一、五　一一、〇
【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十一月期　普通八分　特別二分
【時價】舊　八二、八　新　三二、〇
【利廻】六分九厘
【名義書換】十錢
【新券交附】三十錢

品川白煉瓦株式會社

（本　社）東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地　（電丸ノ内三五六一八）
（支　店）大阪市北區中ノ島三丁目三番地

【市況好調】耐火煉瓦界は、据物相場は弱いが高級品は强調を迫つてゐる。之は新設擴張が押へられてゐる關係にもよるが、高級品の需要は鐵鋼を始めとして高溫高壓各種工業の生産擴充に對應するものだからだ。當社の如きはその意味で操業は繁忙である。

【新工場寄與】年初にフル操業を開始した岡山第三工場は、今期から期を通じて寄與する。同工場は設備の斬新を誇るもので、それ迄の當社能力を數倍に引上げた能力を有する。去る三月期でさへも、僅々二、三ケ月の稼働であつたが、總賣上高は月平均五割增を示した程だ。原料、石炭其他の手當も仲々困難乍ら、高級煉瓦の市況がよいのだから、今期は七月一日新株第二回拂込十圓宛總額二百萬圓の拂込を徴收してゐるとはいへ、三割内外の利益率を示すことは難事でなからう。一割配當は積いて餘裕裡に行ひ得らるゝ。

【發展活潑】朝鮮マグネサイト開發、北支蒙土鑛業の兩社への出資北支唐山に於ける耐火煉瓦製造工場新設並びに某炭礦買收等々、大陸への進出は活潑だ。之等は相當の日子を以て見るべきもので、目先負擔となるが、大勢的な着眼としては興味がある。第三回拂込期もさう遠くない見込であるが、株式も當社の發展計畫の大きいのだけを見て手放しに飛躍的業績向上を買ふのは行過ぎだ。

【設　立】明治三十六年十二月
【決算期】三月、九月
【事　業】耐火煉瓦、耐火材料等の製造販賣
【資本金】公稱　一、〇〇〇　拂込　七、八〇〇
【株　數】……舊（八〇、〇）　一〇〇、〇〇〇
　　新（二二、五）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】
社長　青木　均一　取締　馬場　忠俊
專務　藤田新三郎　〃　洲川　愛造
取締　西村　直　監査　白石寧太郎
〃　高津伊兵衛　〃　橋本寛三
【株主數】（名）　十五年上　一、〇六六　十五年下　一、〇六一
【大株主】
高津株式會社　一六、〇〇〇　安田信託　一六、〇〇〇
豐島興業　九、〇〇〇　品川企業　八、〇〇〇
日華生命　七、八〇〇　青木均一　七、〇〇〇
藍澤同族　六、五〇〇　高津伊兵衛　六、〇〇〇
【工場所在地】
岡山第一工場　岡山縣和氣郡伊部町
岡山第二工場　〃　〃　片上農場
岡山第三工場　〃　〃　斤上町
湯本工場　鳥取縣石城郡湯本町
赤井工場　〃　平町
〃　〃　赤井村
【事業規模】
年産能力　耐火煉瓦　一四六、〇〇〇千個
　　一一〇、〇〇〇　瓦
燒窯　五二基　タイル窯　七基
粉碎フレット……二、五〇〇
使用動力……一、一〇〇馬力
【資本異動】十五年八月末二千萬圓を增資第一回二圓五錢拂込徴收

【資産負債】

	十三年上	十三年下	十四年上
株主資本	八、六六六	八、六六六	八、六六六
積立金	三五九	三五九	三五九
外部負債	四、四〇一	四、四〇一	四、四〇一
使用總資本	一三、九八〇	一三、九八〇	一三、九八〇
固定資産	一〇、〇一八	一〇、〇一八	一〇、〇一八
投資勘定	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
流動資産	一、九八二	一、九八二	一、九八二
現金預金	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五
【收支勘定】	十五年上	十五年下	十六年上
收入	三、三六六	三、三六六	三、三六六
利益	二、八二四	二、七五四	二、七五四
支出	一、〇四五	一、〇一二	一、〇一二
利益	一、七八一	一、七四二	一、七四二
消却年率	一〇〇	一〇〇	一〇〇
固定消却	四、三八二	四、三八二	四、三八二

【株主資本】

	十一年	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上
利益率	一、八九	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇
配當率	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、八〇
特別	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
合計	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

【株　價】（實勢）舊　株　新　株
　　高値　安値　高値　安値
十二年　九九、八　六三、一　—　—
十三年　九九、九　九五、〇　三三、五　一四、〇
十四年　一一八、八　九六、四　九九、三　一四、〇
【基準配當】一割
【利廻】六分七厘
【時價】舊　九六、四　新　九九、三
【名義書換】十錢
【新券交附】三十錢

大阪窯業株式會社

（本　社）大阪市北區堂島濱通二ノ一四（電北二〇一四）

【好條件】當社の製品は耐火煉瓦、赤煉瓦、特殊煉瓦、及びタイル類で、その月産能力は現在、耐火煉瓦五千三百瓲、赤煉瓦九千五百瓲、特殊煉瓦二千七百瓲、タイル類二十萬箇程度と推定される。が、これ等の製造設備は相互に融通がつくのであつて、採算其の他の條件如何でどうにでも振り替へられる。建築活動が旺盛になつてタイル類の需要が擡頭すれば、能力をこれに振り替へて增産を圖ることが可能なのである。此の點は當社の强味であつて、戰爭平時何れにも向く事業内容だ。

【耐火煉瓦】鐵鋼業、化學工業の殷盛を極めて居る折柄、當社現在主要收益源は云ふまでも無く耐火煉瓦だ。收益の大半はこれに負ふと云ふも過言ではあるまい。今下期初からは新に硅石煉瓦の製造にも乘り出したから、益々耐火煉瓦の比重は大きくなる筋合だ。

【配當据置】去る五月締切の本年上期は三十二萬一千圓の利益を計上した。利益率二割九分二厘だ。一割二分配當に不安な業績ではない。耐火煉瓦部門は依然好調の一途にあるから、下期の業績も無論良好と目される。尠くとも上期並みのものは充分期待してよからう。とすれば現行配當も依然餘裕を以て維持し得る道理だ。當社の一割二分配當は當面不動と思はれる。

【設　立】明治十五年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種煉瓦、タイルテラコッタ
【資本金】……拂込濟　三、二〇〇（二〇、〇〇）　二〇、〇〇〇
【株　數】……
【重　役】
社長　浅田平藏　取締　鍵野小次郎
常務　高野新治郎　監査　毛戸勝元
〃　山田馨　〃　有田邦敏
取締　白井善三郎　〃　山口次郎
【株主數】
總數（名）一、六六三　十五年上　一、四六六　十五年下　一、四七二　十六年上
【大株主】
大阪　證券八、六四〇　鍵野小次郎　四、〇一〇
淺田　合名六、七三三　小野喜兵衛　三、九二〇
小西　艶太三、六〇〇　尾上　富　三、〇〇〇
谷口　政勝三、〇〇〇　佐々木八十八　二、九〇〇
井上　克三二、六〇〇　長尾　藤三二、五〇〇
【事業現狀】工場所在地＝岸和田、貝塚、向日町、平坂、東京
輪環窯　四基　トンネル窯　二基
特殊窯　一四基　熱成窯　六基
化粧窯　一七基　其他　三基
【生産高】（千個）十五年上　十五年下　十六年上
赤煉瓦　一四、六六六　一四、三六四　一四、〇〇〇
特殊煉瓦　八、〇三五　四、〇六一　三、一〇〇
化粧瓦　三、三六一　三、三三九　三、一〇〇
タイル
耐火煉瓦　六、六六六　五、五五五　四、〇〇〇
【關係會社】大阪窯業セメント姉妹會社
【投資會社】薩摩窯業、關西煉瓦販賣
大阪耐火煉瓦
【資本異動】十三年六月倍額增資同時に全額拂込發收

【資産負債】
株主資本
積立金
社外負債
借入金
支拂手形
使用總資本
固定資産
投資勘定
流動資産
現金預金
【收支勘定】
收入　十五年上　十五年下　十六年上
支出　三、〇三三　三、四八六　三、四八六
利益　一、六九九　一、九六六　一、九六六
減價償却　五六〇　五六〇　五六〇
利益率　一三、九四一　一三、一四四　一三、一四四
【業績】
十二年上　一、二三　〇、八〇　〇、八〇
十二年下　一、四九　一、二〇　一、二〇
十三年上　二、〇九　一、九六　一、九六
十三年下　二、九六　二、〇三　二、〇三
十四年上　二、九三　一、一〇　一、一〇
【株價】（實拂）高値　安値
十二年　一七、八　一七、五
十三年　三二、八　三六、〇
十四年　三五、五　三三、五
一八月
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】三六、五　【利廻】六分八厘
【名譽事項】十歲【新泰文附】三十歲

川崎窯業

（本　社）神奈川縣川崎市扇町六（電川崎三六一一番）

【地資認可】當社の增資は九月中旬愈々認可になつた。然し倍額、半額はおろか、百五十萬圓にすぎない。舊株に對する割當ては十株に三株といふ事になる。之では擴張計畫所要の資金を到底賄ひ得ないが、追つて亦再增資に進む外ない。新株の拂込は本稿執筆當時尙不明だが、一株廿五圓宛、二回に分けて徵ることゝならう。

【成績好調】川崎と滿洲音蘭店の擴張分及瓦房店の新工場は、今下期から稼働するから上期よりは好成績を擧げ得る見込だ。尤も目下尙それ〳〵擴充中だから全然未働資本から脫した譯ではない。然し一割二分配當は持續される。鶴見窯業との合併も考へられる。

【設　立】昭和五年六月
【決算期】四月、十月
【資本金】公稱＝一、〇〇〇　拂込＝四、〇〇〇
【株　數】……
舊（八〇、〇）　四〇、〇〇〇
新（八〇、〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　白石元治郎　取締　松島喜市郎
專務　三浦　嘉一　〃　高松　誠
監査役　今泉　貫治　〃　高良　淳
取締役　松下　長久　監査　前田　利定
〃　岡島　三次　〃　香田　五郎
【大株主】十四年四月期　英二名
鐘淵紡績　四、〇六〇　馬崎窯業　七、〇二〇
遠山證券　三、〇〇〇　三浦嘉一　二、三五〇
【工場所在地】川崎、普蘭店
【設備能力】月産……三、三五〇瓲
【關係會社】日本鋼管の子會社
【業　績】
利益率　配當率　利益積立
十二年上　一、二〇　一、二〇　六、三五
下　六、三三　一、二〇　六、〇六
十三年上　七、二　一、二〇　五、九九
十四年上　六、三三　一、二〇　五、九九
【株　價】（實拂）
十三年　高値　安値
十四年　四六、五　四三、一
一八月　四四、〇　四六、五
【豫想配當】十四年十月期　一割二分
【時價】五三、〇　【利廻】八分三厘

名古屋製陶

（本　社）名古屋市東區東芳野町二ノ七八（電東二三二）
（支　社）東京市芝區新橋四ノ六（電芝一六四）

【新工場操業開始】五月期も四萬九千圓の赤字決算で內容も惡化し無配をつゞけるの他なかつたが、新設鳴海工場は愈々六月から製品を出しはじめ、耐火煉瓦工場も操業を開始した。これで從來徒らに寢かされてゐた資本が活動しはじめることになる。輸出も一頃に比べれば稍ふよくなつて居り、內地ものの利益も增加する筋合にあるから當社の業績も前期を底として漸次立直りに向ふものと思はれる。

【配當】鳴海工場が全運轉すれば回復も相當早いのだが、全能力はとても發揮出來ず、建設費も相當增嵩したから、立直りは手間どるだらう。それ故無配は當分覺悟せねばなるまい。

【設　立】大正六年八月
【決算期】五月、十一月
【資本金】公稱＝一、〇〇〇　拂込＝一、〇〇〇
【株　數】……
舊（八〇、〇）　四〇、〇〇〇
新（八〇、〇）　四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　伊藤太郎右衛門
常務　上遠野　孝　監査　宮本文治郎
取締役　岡谷　惣助　〃　鬼頭　幸七
【大株主】十四年五月期　一割名
寺澤利太郎　四、〇六〇　伊藤產業　三、七五〇
伊藤太郎右衛門　三、〇〇〇　荒川長太郎　二、八三六
岡谷　保產　一、四〇〇　上遠野　孝　一、三五〇
【工場所在地】本社、弦月、山田、鳴海
工場數地……六、〇八五坪
【主要製品】陶器、タイル、敷瓦＝海外（主として米國）
【事業現狀】十四年上期現在
木型　素燒窯　一基
檢付場　電氣窯　一基
【業　績】
利益率　配當率　利益積立
十一年下　一二〇　一二〇　六〇〇
十二年上　一二〇　無配　〇、三六
下　一二〇　〇、三六　缺損
十四年上　一二〇　無配　〃
【株　價】（實拂）舊　新　株
十四年　高値　安値　高値　安値
一八月　〃　〃　〃　〃
【豫想配當】十四年十一月期　無配（一割）
【時價】舊四〇、〇　【利廻】—
新三〇、〇

東洋紡績株式會社

（本　社）大阪市北區堂島濱通二ノ八（電北　一八〇〇—七）
（出張所）東京市日本橋區小網町一ノ三（電茅場一八五・一九一五）

【滿洲に三社創立】 爰に當社は滿洲に資本金一千萬圓半額拂込の東洋タイヤ工業を創立してタイヤ生産に乘り出すことゝし、既に建設工事も可成り進んでゐるが、最近滿洲で三つの子會社を創立した。その一つは東洋精麻加工（資本金二百萬圓、全額拂込）で麻の栽培を主要事業とする。次は東洋人織（資本金一千萬圓、半額拂込）でス・フ製造販賣が當面の目標だ。今一つは東洋煙草（資本金一千萬圓）で蒙疆方面で煙草製造を行ふものだ。以上三社とも事業はこれからのことに屬し結實するのは勿論未だ未だ先のことではあるが、期待は相當もてる。殊に東洋人織は比較的短時日で操業の運びとならう。工場は安東であるが敷地は二十萬坪も手當すみであり、今後はこの廣い土地に相當活潑な事業が起されることとなる樣だ。當社の他產業進出も多少組織化されて居らぬ嫌ひはあるが着手されたものについては充分安心出來る。

【業績順調】 裕豐紡の天津工場は水害で或程度被害を蒙つたが、他社に比し輕かつた樣だ。內地關係工場も歐洲動亂で輸出が伸びはじめれば大いに活躍することとならう。子會社東洋染色は琴浦紡の全株式を肩替りし特殊製品タイヤコードの生產で强味を加へた。兎も角當社の內容は益々堅く、前途にはいさゝかの不安もない。

【設　立】大正三年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種の纖維工業及化學工業品の製造販賣
【資本金】……（百萬）拂込濟　一、四五五、五〇〇
【株　數】……（百萬）　一、四五五、五〇〇
【重　役】社長　庄司乙吉　專務　伊藤傳七　種田健藏　關桂三　取締　谷口豐三郎　中山秀一　土屋喜太郎　作川鐵太郎　澤重保　川口正雄　監査　阿部彥太郎　齋藤恒一　山邊清堯　柳野金之助
【株主數】（名）十五年上　一五、一〇五、　十五年下　一五、四五六　十六年上　一五、六五〇
【大株主】三菱伊藤合名一九、六四四　日本生命一八、九五五　伊藤博七一七、五〇〇　帝國生命一五、一〇〇　豐島半七一五、六五〇　瀨尾喜兵衛一三、一五〇
【事業規模】人織日產能力　六、九四五
綿紡機（錘）一五六、三〇四　絹紡機（錘）四三、一六六
撚絲機（ヅ）四二、〇四六　梳毛機（ヅ）五、〇一〇
織　機（臺）二、〇六六　人絹日產能力　五四四
【生產高】十五年上　十六年下　十七年上
綿　絲（噸）二五六、八五〇　二四三、五六〇　二四三、八〇〇
平均番手　二四、〇　二四、〇　二四、〇
綿　布（疋）一五六、五四六　一四一、八六六　一八三、四五四
絹　絲（瓩）二四六、一八〇　二二四、〇〇〇　二九六、〇〇〇
絹　絲（瓩）二五六、一八〇　二二四、〇〇〇　二九六、〇〇〇
絹　布（米）一、六六〇、八〇〇　二、〇〇〇、〇〇〇　二、〇〇〇、〇〇〇
人絹（米）八、五七四、×五、六五五　五、九、八〇五
毛糸（ヅ）一、〇〇五　一、二二二　一、四二四
※印は人織を含む
【投資會社】裕豐紡績、東洋染色、大阪毛織
【資本異動】十一年九月和泉紡績合併一五萬圓增資、十三年四月二五四十月一五圓復收

【資產負債】　五十二年　五十四年
株主資本　一五一、五三三　一六一、三四四
積立金　六九、〇六一　六九、一四四
外部負債　一〇一、五五一　一四五、〇〇一
使用總資本　一二四、八五四　二一〇、八八
固定資產　一二一、八四四　一〇六、八三一
投資勘定　三、五四四　三、五一一
流動資產　四四、四五六　六一、三三五
現金預金　四四、四五六　六一、三三五
手持品　八、六六六　九、四三一
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
收　入　四三、八六六　四四、三四五　四四、三四五
利　益　八、六六六　九、四三一　九、四三一
支　出　三六、三六六　三五、六四五　三、六四五
固定消却　一四、六一〇　一四、六一〇　一四、六一〇
消却年率　一四%〇　一三%九　一三%九
【株　價】　利益率
十一年上下　四、〇〇　四、〇六　四、〇六
十三年上下　四、〇一　四、〇六　四、〇六
四年上　四、四五　四、〇六　四、〇六
【株　價】（實績）高値　安値
十一年　一五〇、〇　一四五、〇
十二年　一三六、八　一五六、〇
十三年　一四五、一　一四四、〇
十四年　一四六、〇　一四〇、〇
一—八月
【基準配當】
【豫想配當】一割八分
【時價】十四年十一月期　一割八分
【利回】四分九厘
【名義書換】十　錢【新券交附】五十錢

鐘淵紡績株式會社

（本　社）東京市向島區隅田町二ノ一六一二（電隅田一五九—二二）
（營業所）神戸市林田區御崎町一丁目（電兵庫　一九〇）

【上期據置】 六月末締切の上期決算では豫定通り二割據置とし、一千四百九萬八千圓の利益金を計上、對前期五十萬圓增の五百萬圓を固定資產の償却に振向けた。利益率は三割七分六厘で昨年期より二分三厘の減少となつてゐる。然し利益の內部保留率は四割五分となつて居り、昨年下期の約四割八分に較べれば尙ほ劣るが、決算は依然ゆとり多いものであつた。

【下期も順調】 下期の配當も二割據置と見ておいてよからう。鐘實の創立で一應綜合纖維工業會社となつたが、憂へられた纖維品の輸出狀態は大戰勃發で前途相當明朗化して來た。而も生絲部門は著しく活況を呈して居り上期以上の成績を收め得るだらう。唯子會社の上海製造絹絲（公大紗廠）の天津工場が過般の水害で相當の傷手を蒙つたことは惜しかつた。天津工場は精紡機約十六萬六千錘、織機約四千五百臺で、全設備中に占める割合は六月末現在前者四七・七%、後者四八・一%となつて居り相當大だ。今期の復配に支障を來たすかどうか尙ほ不明だが水害の復舊は時節柄困難たらう。が、當社全體としての業績は順調なことに變りはない。

【拂込徵收期】 鐘實の拂込が三回四回と重なれば當然當社も拂込を徵らねばならぬが、その時期は今のところ未定と言ふ他ない。

【設　立】明治十九年十一月
【決算期】六月、十二月
【事　業】綿紡、絹紡、毛紡、生絲、人絹、製織、加工、其他
生絹絲、
【資本金】公稱二一〇、〇〇〇　拂込二、一〇〇、〇〇〇
【株　數】……（百萬）（二一、〇）　二、一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　津田信吾　常務　城戸季吉　三宅鄕太　取締　名取和作、中村庸、丸山幸藏、平賀恆次郎、井上潔　賀集和三郎　監査　野崎廣太、中上川三郎治、染谷寬治　松本蒸治
【株主數】十五年上　十六年下　十七年上
總　數（名）二二、四五九　八、二五二　二、二二四
【大株主】
第一相　互一五、〇四〇　康德興業二四、九四〇
三井合名　一九六　後宮信太郎一、六四〇
第一徵兵　五九、一〇〇　東株代行五六、一〇〇
【事業規模】
綿紡機二五、六六錘　綿撚絲機二八、一四〇錘
絹紡機一四四、一八八〃　絹撚絲機一九、四八八〃
綿布織機二、四二一〃　絹布織機一四、八四二〃
毛織機三、三三一臺　絹布織機三、五二一〃
繰絲機三、四六六釜　立繰機　四五六〃
【生產高】十五年下　十六年上　十七年上
綿絲（千瓩）三〇四、八四三　三〇一、九四七　二八一、二二三
綿布（千碼）一四一、三五六　一〇八、九六六　一〇四、三〇四
絹絲（瓩）一八、九四一　一八、三四〇　一〇、一四〇
絹絲（瓩）三、一五四　三、一八四　三、三三四
生絲（百斤）一二、四八六　一二、八〇四　一二、一四七
絹布（千貫）三四四　一八一　一四七
【投資會社】上海製造絹絲　南東紡織　昭和產業
【資本異動】十二年一月及九月各二四四〇
拂込徵收十三年十一月倍額增資第一回二四四〇徵收

【資產負債】　株主資本　積立金　外部負債　社債　借入金　支手　使用總資本　固定資產　投資勘定　流動資產　現金預金
【收支勘定】　收入　利益　支出　固定消却　消却年率
【株　價】（實績）高値　安値
十一年　一四六、〇　一四五、〇
十二年　一三六、八　一五六、〇
十三年　一四五、一　一四四、〇
十四年　一四六、〇　一四〇、〇
一—八月
【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割八分
【時價】舊　一五六、〇　新　一四六、〇
【利回】六分四厘　二割
【名義書換】十　錢【新券交附】五十錢

大日本紡績株式會社

（本　社）兵庫縣尼崎市東本町一ノ五〇
（營業所）大阪市東區安土町二ノ三〇（電本町四〇一—五）

【清津工場運轉開始】待望久しかつた清津工場は愈々去る七月から運轉を開始した。運轉開始當時は日産五瓲程度であつたが漸次出來高は增加して今期は平均日産十瓲程度になるものと想像される。日産十瓲としても今期の生産高は三萬函内外に達すべく、函當二十五圓の利益としても七十五萬圓の利益は期待出來る。パルプの手當は遺憾ない。操短問題は内地各社との振合上全運轉出來るかどうか不明だが、内地各社以上の收益率を擧げ得ることは間違ない樣だ。

【在支工場依然好調】在支工場は依然好調を持續してゐる。當社工場の强味は原棉手當が非常に良くなつたことで青島は設備の關係で全運轉とはなつてゐないが、上海も青島も全能力をあげてゐることは事實だ。北支棉の出廻は益々困難化してゐるから前途は問題も多いが、五、六十圓で買つた第三國棉が現在百七十圓もしてゐるのだから絲の時價採算はとんとんでも値上り益だけで青島工場はもとを取りかへせる程である。恐らく今期は外地關係の工場だけで全利益の五割近くを擧げ得るだらう。今期の一割二分据置も全く問題ない。

【大戰と前途】大戰が長びけば當社の前途も相當明瞭だ。輸出綿布の增産も當社の如く合理化の行きとゞいた工場では困難ではない。いづれにせよ問題は來期だが、樂觀して從いて差支へない。

【設　立】明治二十二年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】紡、毛、絹、人絹其他纖維類の紡織、製造、加工販賣、
【資本金】……公稱一一〇、〇〇〇　拂込一六、五〇〇
【株　數】……舊（五〇、〇）一、一〇〇、〇〇〇　新（一一〇、〇）一、一〇〇、〇〇〇
【重　役】會長　菊地基三　社長　小寺源治
常務　今村奇男　田代重三　大島茂三郎
和義　取締　倉田敬三　本吳利之助　島田高三郎　松田元常　監査　原田忠雄　監査　伊藤萬助　岩田宗次郎　辰馬悅藏　竹村清次郎　寺田其吉
【株主數】……十五年上　一三、〇〇〇　十六年下　一四、〇〇〇
【株數（名）】……十五年上　一四、〇〇〇　十六年上　一四、〇〇〇
【大株主】帝國生命三、〇〇〇　南海二三郎三、〇〇〇　田代重合百名、〇〇〇　大日本紡績聯合會五〇、〇〇〇　岸和田紡績五、〇〇〇　菊池基三郎二、〇〇〇
【事業規模】紡機　一、一五〇、〇〇〇錘　織機　一四、六〇〇臺
【事業成績】十五年上　十六年下　十六年上
絹絲生產（瓩）一四、〇〇〇　一六、一〇一　一六、〇一一
平均番手　一四、〇〇　一三、八〇　一三、八〇
絹布生產（千碼）九六、一三五　一〇五、三五九　一二六、六五一
絹紡生產（瓩）八八、一一四　一〇〇、〇四一　一四四、一四四
紬絲生產（瓩）一四、一四四　一四、一四四　一四、一四四
絹布生產（千碼）一三、八五四　一四、六二四　一五、九八
加工絹布（千碼）一三、六九　一三、〇四五　一四、一四六
レヨナー　一五、五五　封度　レヨフト　一〇一　瓩
レヨネックス　一三、八三二　千碼　人絹布　一三、六五四　千碼
毛糸　一三六、四五　封度　レース　一三、三六三　碼
【資本異動】十一年七月一、八〇〇、〇〇〇　株式增資、十月第一回拂込二一、二四五、〇〇〇　收十三年九月　昭和四人絹合併

【資產負債】

	十三年五月	十三年十一月	十四年五月
株主資本	一二九、一三五	一四四、〇四四	一四四、八六六
積立金	四四、一三五	四四、一三五	四四、一三五
外部負債	三〇、七三二	四一、一〇四	四一、一〇四
支拂手形	一四、九五二	一四、九五二	一四、九五二
使用總資本	一七四、八六一	一八〇、〇四四	一八〇、〇四四
固定資產	一〇一、一一一	一一三、一四四	一一六、八六九
投資勘定	四、四六一	四、一四四	四、一四四
流動資產	六一、一〇六	六五、六四四	六一、一〇四
現金預金	三一、八五四	三一、一四四	三一、一四四

【收支勘定】十五年上　十六年下　十六年上
收入　一五、〇三一　一六、八六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇
固定消却　一〇、八六六　一〇、四四一　一〇、四四一
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（大阪）】株　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五

【株　數（名）】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
舊株　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一
新株　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一　一、一〇一

【配當率】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
利益率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
配當率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇

【業績】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
收入　一四、六六一　一四、八六六　一五、九六六　一六、九六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六　一六、九六六　一六、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（東京）】株　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五

【基準配當】十四年十一月期　一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　一三、五　新　一五、三
【名義書換】十一月、十二月　十四年五月　十二月　十四年五月
【名義書換】十一月、十二月　十四年五月　十二月　十四年五月
【時價】舊　一三、五　新　一五、三
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【基準配當】十四年十一月期　一割二分
【資產負債】

	十二年五月	十二年十一月	十四年五月
株主資本	一四、六六一	一四、八六六	一四、八六六
積立金	四、一三五	四、一三五	四、一三五
外部負債	一一、九四四	一一、九四四	一一、九四四
支拂手形	一、九四四	一、九四四	一、九四四
使用總資本	一六、八六六	一六、八六六	一六、八六六
固定資產	一〇、一一一	一〇、一一一	一〇、一一一
投資勘定	一、九六一	一、九六一	一、九六一
流動資產	四、一〇六	四、一〇六	四、一〇六
現金預金	三、一四四	三、一四四	三、一四四

【收支勘定】十五年上　十六年下　十六年上
收入　一五、〇三一　一六、八六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇
固定消却　一〇、八六六　一〇、四四一　一〇、四四一
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（大阪）】株　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五

【配當率】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
利益率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
配當率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇

【業績】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
收入　一四、六六一　一四、八六六　一五、九六六　一六、九六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六　一六、九六六　一六、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（東京）】株　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五

【基準配當】十四年十一月期　一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　一三、五　新　一五、三
【名義書換】十一月、十二月　十四年五月　十二月　十四年五月

富士瓦斯紡績株式會社

（本　社）東京市日本橋區本町二ノ一（電日本橋三三四一—九）

【英國品に代位】當社の製品は細番手のものが多い。其の製品は英國の高級品に代替せしめ得るものがかなりある。歐洲大戰勃發で、英國品が退場を餘儀なくされるとすれば、當社は其の後を埋めて行くことが出來、輸出は數量的に相當增加するものと期待出來るのである。それに既に綿製品は全般的に昂騰してゐる。大戰の影響は確かに當社には有利である。

【今期業績】當社の今期は大體今年上期に比し二十萬圓見當の增益と見ることが出來よう。最近の一ケ月生產高は純綿糸八千八百梱、混紡糸二百五十梱、ス・フ糸一千梱、綿布六百五十萬方碼で、上期より僅に減つてゐる。六、七、八の三ケ月の輸出採算は極めて惡く、部分的には赤字となつたものも少くない。此の調子で行つたら今期は相當苦しい決算をしなければならなかつたが、大戰勃發に依つて市況は俄然一變して、採算は極めて有利となつた。此の爲上三ケ月の不成績は裕に取戻したのみならず僅か乍ら前期より增益する。

【今後】川崎工場を東京芝浦電氣に賣却し、紡績設備は青島に移駐させる事とした。移駐に就てはまだ當局の認可がない。今となつてはこれは考へ物なのだが、大陸に大きな足場を持つのも永い目で見れば惡いことではあるまい。大戰が長く續けば增配が期待出來る。

【設　立】明治二十九年三月
【決算期】五月、十一月
【事　業】絹紡織、絹紡織、加工
【資本金】……公稱一五〇、〇〇〇　拂込一三、七五〇
【株　數】……舊（三〇、〇）七五、〇〇〇　新（三〇、〇）七五、〇〇〇
【重　役】會長　日比谷平左衛門
常務　本內直　監査　櫻井孫之助
〃　巴坂榮吉　〃　津田五郎
取締　森村市左衛門　〃　三宅川保一
〃　川崎榮助　〃　登山武市郎
〃　友田久雄　相談　淺村豐太郎
〃　阿河孝平　〃　各務幸一郎
〃　安川豐三　顧問　待田巽
【株主數】……十五年上　一一、〇五一　十六年下　一一、〇五一
【大株主】明治生命四四、〇〇〇　日比谷平左衛門四三、八〇〇
森村同族三三、六〇〇　川崎榮助一六、三二四
岩崎久彌二一、九〇　森村市左衛門一〇、〇四〇
和田文吾一〇、〇〇〇　大分合同銀行九、九九八
【事業規模】十五年上　十六年下　十六年上
紡績機（錘）六八、六六六　六八、六六六　六四、九三
紡織機（台）九六、六四　九六、六四　八六、八四三
繊維機（瓩）三三、一五、一五八　三三、一五、一五八　三三、一五、一五八
機（臺）四、七一一　四、七一一　四、七一一
【生產高】十五年上　十五年下　十六年上
絲（瓩）六七、三三〇　六七、三三〇　六四、八〇一
平均番手　三八、〇　三八、〇　三八、九
絹布（千碼）三三、八五六　四二、〇四三　五六、〇四五
絹紬絲（千瓩）一、一四　一、一四　一、一四
絹織布（千碼）一、九八八　一、八四〇　一、九六九
【投資會社】富士電氣　滿洲紡、富士綿織
【資本異動】十年十二月相模紡績を合併

【資產負債】

	十二年五月	十二年十一月	十四年五月
株主資本	一四、六六一	一四、八六六	一四、八六六
積立金	四、一三五	四、一三五	四、一三五
外部負債	一一、九四四	一一、九四四	一一、九四四
支拂手形	一、九四四	一、九四四	一、九四四
使用總資本	一六、八六六	一六、八六六	一六、八六六
固定資產	一〇、一一一	一〇、一一一	一〇、一一一
投資勘定	一、九六一	一、九六一	一、九六一
流動資產	四、一〇六	四、一〇六	四、一〇六
現金預金	三、一四四	三、一四四	三、一四四

【收支勘定】十五年上　十六年下　十六年上
收入　一五、〇三一　一六、八六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇
固定消却　一〇、八六六　一〇、四四一　一〇、四四一
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（大阪）】株　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五

【配當率】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
利益率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇
配當率　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇　一〇、〇

【業績】十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
收入　一四、六六一　一四、八六六　一五、九六六　一六、九六六　一六、九六六
支出　一一、六六一　一四、八〇一　一四、九六六　一六、九六六　一六、九六六
利益　七、四三一　一、八六五　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
固定消却　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
消却年率　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇　九、〇〇〇

【株　價（東京）】株　十二年上　十三年上　十三年下　十四年上　十四年下
高値　一三、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇　一四、〇
安値　八、八二　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五　一〇、四五
新株　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五　一、一五

【基準配當】十四年十一月期　一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】舊　一三、五　新　一五、三
【名義書換】十一月、十二月　十四年五月　十二月　十四年五月

日清紡績株式會社

（本　社）東京市城東區龜井戸町二ノ七八（電話田二三一九）
（事務所）東京市日本橋區浪花町二〇（電浪花二二五一）

【輸出大好調】 紡績會社中其の能力に比較して從來最も多くの輸出をして來たのは日清紡である。それだからこそリンク制が實施されてからも相當の好成績を收め、一割二分配當を餘裕裡に踏襲することが出來たのである。今次の歐洲戰爭の勃發で、輸出採算は著しく好化し、此處から相當大きな利益が出ることゝなつた。最近までの採算の不味な時ですら、相當の利益を稼いでゐた當社のことだから、今後は相當巨額の利益を收めるのではないかと思はれる。

【今期業績】 今期の生產額は月平均にして純綿糸九千梱、混紡糸二百十梱、ス・フ糸七百八十梱、落棉混紡糸三百梱見當と押へられる織布は月一千百萬平方碼見當だ。期の前半八月迄は輸出は惡く殆ど收支トン〳〵と言つた所であつた。然し九月からは御承知の如く綿布は暴騰してゐる。この爲上半の不成績を取戻して餘裕がある。恐らく四百二三十萬圓以上の利益を出し得るのではないかと思はれる。勿論配當は据置きだが、決算は著しく餘裕を增すことは否定出來ないやうだ。

【來期以降】 輸出は益々好調を辿ると思はれるが、只電力、勞力の不足の爲め、此の輸出の好調に歩調を合はせて增產出來るかどうかは疑問だ。然し採算はまだ良くなるのだから業績は向上する。

【設　立】明治四十年二月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績及綿織布
【資本金】……拂込濟　二百・〇〇〇
【株　數】……（五〇・〇〇）　五〇〇・〇〇〇
【重　役】
社長　宮島清次郎　取締　朝比奈晃
常務　鷲尾勇平　〃　内田節二
〃　西村傳八　〃　佐藤吉次郎
取締　岡田莊四郎　〃　岩崎清七
〃　山本悟三　〃　川崎友之介
〃　鈴木誠一　〃　監査　福澤駒吉
【株主數】（名）　十年上　六、一四七　十年下　六、三六六
【大株主】
矢作水力　一、三五〇　明治生命　一、〇〇〇
岡田莊四郎　一、四〇〇　中島清之助　一、三四〇
平沼久三郎　一、二〇〇　（以上三名は各所有株數）
宮島清次郎　一、三〇〇　丸永證券會社　一、〇二〇
都南貯蓄　一、〇〇〇
【事業規模】　十年上　十年下
精紡機（錘）　六〇〇、三五六　六六、八四四
撚絲機（錘）　一、三四、一三三　一、三四、九二一
織機（臺）　六、六〇六　六、六〇六
【生產高】　十年上　十年下
綿絲（瓩）　三五、三三五　三四、一一六
平均番手　三四・四〇　三三・八〇
綿布（千碼）　八一、一九九　八四、〇六四
原綿（千瓩）　三、八一三　三、〇〇四
原絲（千瓩）　一、三三三　一、三五六　（原綿原絲は各所有數高）
【投資會社】東亞製麻、青島電氣
【取引銀行】三菱銀行
【資本異動】十年五月二五圓拂込徵收十年五月一〇圓（最終）拂込徵收

【資產負債】　五十二年　十二月　五十四年　五月
株主資本　六、〇一四　四三、二一三　四四、三四六
積立金　八、六二〇　九、〇〇〇　九、六二〇
外部負債　一四、八四一　一三、八一一　一六、七六六
支拂手形　一〇、四三一　一〇、四二九　二、八三五
使用總資本　三五、八八九　四〇、九二一　四二、四三三
固定資產　三一、三四四　三三、一四四　四一、四三三
投資勘定　一六、九四四　一四、〇八一　一四、〇八一
流動資產　一四、三二一　一四、〇三三　一四、二三二
現金預金　一、三四〇　二、四三三　四、七一四
【收支勘定】　十年上　十年下　十年上
收入　六六、八五四　六六、八八九　六六、八八九
支出　三三、〇一四　三三、八一三　三三、九四四
利益　三、八三四　四、〇八四　四、九六一
固定消却　一、四〇〇　一、四〇〇　一、四〇〇
消却年率　一〇%三　八%七　一〇%三
【業績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十一年上　四、三五　一、二〇　六、二四　一、二〇
下　二、九八　一、二〇　五、三二　一、二〇
十二年上　二、八三　一、二〇　六、一一　一、二〇
下　三、一六　一、二〇　五、八三　一、二〇
十四年上　三、一六　一、二〇
【株價】（東京）　高値　安値
十一年　一〇四、九　八三、九
十二年　一一七、一　九六、六
十三年　九六、七　八四、七
十四年　九七、五　八六、一
一—八月
【基準配當】
十四年十一月期　一割二分
【時價】一〇円〇
【利廻】五分六厘
【名義書換】十錢【新券交附】三十錢

錦華紡績株式會社

（本　社）金澤市大豆田新町一
（營業所）大阪市東區瓦町二丁目三和ビル五階（電　三、九〇二）（電北濱　七三七）

【青島の建設遲々】 過般青島に創立した子會社東亞重工業（資本金二百萬圓、半額拂込濟）の新工場建設工事は十一月中で大體完了の豫定だが、肝腎の電氣爐の方は目下のところ早急に出來上りさうもない。從つて新工場は年內には到底操業の見込なく、當分は從來膠東鐵工廠でやつてゐた紡織機械の修繕事業を繼續して行く外はない樣である。

【好轉せん】 前期は昨年下期に比し約五十萬圓の減益を餘儀なくされたが、今期はもち直すことが出來よう。尤も輸出が依然不味ならば別だが、歐洲動亂の永續化によつて輸出採算の急好轉が相當確實に豫想されるからだ。當社の場合は輸出が良くなれば細番ものが多いだけに一單位當りの利益も可成り多くなるに相違ない、本格的に綿布輸出が伸びるのは來期以降のこととなるかも知れないが兎も角も目先が次第に好轉して來たことは事實である。綿關係がよければ兼營の人絹及びス・フの方も勿論好轉を豫想される。最近の實績から言へば月平均出來高は輸出用人絹約三十函、內地用人絹約二十函、ス・フ月產六十五萬封度であつて、輸出用人絹については函當五圓位しか利益はなかつたが、それが好轉すれば函當二十圓もの利益が充分豫想されるから大したものである。

【配當】 內容的に見ても今期の一割据置は可能と思はれる。

【設　立】大正六年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績及綿織布
【資本金】公稱二、〇〇〇、〇〇〇　拂込二、六六六、六六六
資（五〇・〇）　三、四四、九四〇
新（二二・五）　三、五〇〇、〇〇〇
【株　數】
【重　役】
會長　望月東四郎　取締　中島恒一
社長　加藤正人　〃　川畑二
常務　酒井宗吾　〃　清水作
〃　藤岡郊二　〃　伊藤一
〃　監査　〃　高島義
取締　倉知門田　〃　增田幸作
〃　杉浦秀吉　〃　西野大藏
〃　助　〃　北川
【株主數】（名）　十年上　五、八三一　十年下　五、六六三
【大株主】
江商株式會社　三、六〇〇　野瀨清蔵　三、一〇〇
西野幸作　一、六五〇　佐藤蔵　一、六二六
千代田生命　一、〇二〇　北川藤蔵　一、〇二〇
帝國生命　九、五六〇　望月太郎　七、八六六
【事業規模】　十年上　十年下　十年上
精紡機（錘）　五〇、六六六　五〇、六六六　五〇、六六六
撚絲機（錘）　三、八四三　三、四六六　三、四六六
織機（臺）　九〇五　九〇五　九〇五
人絹及ス・フ機（錘）　四、一一六　三、四一六
【事業成績】　十年上　十年下　十年上
綿絲生產（瓩）　五三、三四五　四四、三四〇　四六、三八四
綿糸平均番手　三三・四四　三三・四四　三三・四四
混紡糸　〃　二五・八六　二五・〇
綿布生產（千碼）　七、一四〇　七、一四一　七、一四一
原綿消費（千瓩）　二、六六六　二、四四九　二、四四九
原絲消費（千瓩）　一、八四九　一、六五四　一、六五四
【投資會社】錦華毛糸、東亞重工業
【資本異動】十三年七月、錦華人絹合併七、〇〇〇千圓增資

【資產負債】　五十三年　十一月　十四年　五月
株主資本　二六、三五三　四四、八一〇　三三、八〇〇
積立金　四、四〇〇　四、六六〇　四、九四〇
外部負債　五、五四四　一一、〇四〇　一一、〇四〇
使用總資本　三一、〇〇四　四四、八四〇　三五、八四〇
固定資產　一四、一九九　二四、一四一　二四、一四一
投資勘定　一、六〇〇　一、六〇〇　一、六〇〇
流動資產　一、〇二五　一、九六三　一、九六三
現金預金　三、七一四　一、九六三　一、九六三
【收支勘定】　十年上　十年下　十年上
收入　二六、三五三　二六、八一一　二六、八一一
支出　一九、八四四　二三、一八〇　二三、一八〇
利益　六、五〇九　三、八三一　三、八三一
固定消却　一、四〇〇　一、四〇〇　一、四〇〇
消却年率　五、六%六　五、六%六　五、六%六
【業績】　利益率　配當率　利益率　配當率
十一年上　四、三四　一、〇〇　六、八四　一、〇〇
下　三、四四　一、〇〇　七、四四　一、〇〇
十二年上　三、四四　一、〇〇　六、九〇　一、〇〇
下　三、四四　一、〇〇　六、九〇　一、〇〇
十三年上　三、四四　一、〇〇　六、九〇　一、〇〇
下　三、四四　一、〇〇　六、九〇　一、〇〇
十四年上　三、四四　一、〇〇　六、九〇　一、〇〇
【株價】（東京）　高値　安値　（實物）　高値　安値
十一年　八〇、三　六四、五　三一、〇　一七、二
十二年　八九、〇　八一、〇　三九、二　一八、五
十三年　九一、二　六二、六　三一、五　一九、八
十四年八月　七一、二　六二、六　三一、五　一九、八
【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】新　五〇、三　【利廻】六分六厘　四分一厘
【名義書換】十　錢【新券交附】五十錢

吳羽紡績株式會社

（本　社）大阪市東區安土町二ノ五二（電本町　ゑ八一二）

【基準配當一割二分】愛知織物、昭和人絹、大町紡績の三社を合併したので配當率から言へば配當制限によつて多少の減配を止むなくされる筈合にあつたものの、基準配當は一割二分に決定した。と言ふのは合併前の配當率から見ると愛知織物の配當所要金は三十六萬圓、昭和人絹は同じく一千七百萬圓、大町紡績は四十八萬五千圓、それに當社の年配當所要金二百四十萬圓を加へると合計四百九十四萬五千圓となるが、合併に際して昭和人絹は六百九十九萬八千圓を減資したので三社合併後の當社拂込資金は三千八百五十萬圓で年配當所要金は一割二分としても四百六十二萬圓となり、合併前に比し約三十二萬五千圓を減少することとなるから、配當制限の實際上の目的に反しないから一割二分と決定したのだ。

【今期も安泰】期待される如く輸出が伸びれば當社の如く輸出を得意としてゐる會社は全面的は思惑を蒙ることとなる。昭和人絹の合併も人絹輸出に新威力を加へたものとして大いに期待され增配は出來ぬにしても內容の强固さは一段と加はる譯だ。尤もそれにしても今期は突速の効果を期待し得ないが、月額十八萬五千圓の利益を餘分にあげさへすれば急膨脹による配當金の增加分は結構賄へるのだから心配はない。一割二分は勿論据置とみてよい。

【設　立】昭和四年七月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績、綿織布、加工
【資本金】……（前期）……拂込濟　一二〇,〇〇〇,〇〇〇
【株　數】……（前期）……一四〇,〇〇〇
【重　役】社長　伊藤忠兵衛
　專務取締役　井上富三　取締役　髙橋保
　〃　泉彌市　〃　伊藤竹之助
　〃　豐島久七　監査　〃　豐田利三郎
　〃　山田昌作　〃　大林義雄
　〃　松岡潤吉　〃　田中榮八郎
　〃　小島逸平　〃　平生鈆三郎
【株主數】（名）……去年上　二,二〇五　……去年下　二,二二三
【大株主】伊藤忠商事　一〇,〇〇〇　千代田生命　一〇,〇〇〇
　松岡潤吉　七,二〇〇　住友生命　七,〇〇〇
　小島逸平　七,〇〇〇　豐島久七　六,〇〇〇
　高橋商事　五,二〇〇　伊藤忠兵衛　五,〇〇〇
【事業沒收】紡績機（錘）……去年上　……去年下
【事業成績】綿絲生產（梱）……去年上　……去年下
　平均番手……
　綿布生產（千疋）……去年上　……去年下
　加工品產（千疋）……去年上　……去年下
　工場數……去年上　……去年下
【資本異動】十二年三月三回五拂込徵收十月二回五增資五回拂込徵收

【資產負債】

	十二年五月	十二年十一月
株主資本		
積立金	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
社債	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
借入金	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
固定資產	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
投資勘定	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
流動資產	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】		
收入	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
支出	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
利益	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
固定償却率	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【業績】		
十二年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十二年下	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年下	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十四年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【株價】（實際）高値	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十二年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十四年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一月—八月	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期、一割二分
【時價】……　【利廻】六分二厘
【名義書換】十　錢　【新株交附】五十錢

倉敷紡績株式會社

（本　社）岡山縣倉敷市元町四九七ノ四（電倉敷　一〇—三）
（出張所）大阪市西區江戸堀北通一丁目（電土佐堀六三〇—三）

【六月期成績】今年上期決算は利益金三百七十三萬圓を計上、利益率二割七分一厘で一割配當据置とした。豫定の如く利益金處分も前年下期と殆んど變りなしで落着いた決算であつた。尤も實際利益は昨年下期の四百萬圓から今年上期の三百八十萬圓へ約二十萬圓の減少を見たが差當つての問題としては大して心配する必要はない。

【今期も順調】今期は期初の豫想では絹紡關係の內地向製品で月四十萬圓、毛絲の利益が月十五萬圓、兩者合して半期三百三十萬圓は見込まれ、倉絹からの配當收入二十五萬圓雜收入十萬圓を加へるならば三百六十五萬圓の利益は大體堅いところであつた。若し日華、東華の二社が配當を開始すれば配當收入が約二十萬圓增加する譯で、或は前期以上の好成績となるかも知れないと考へられたのだ。ところが歐洲問題で前途は一層明るくなつた。今期中に赤字輸出が改められることにでもなれば利益は更に增すかもしれない。とすれば憂へられた內容も逆に一段とゆとりを戻すことにならう。いづれにせよ目先は相當明るい。今期も無論一割据置とみてよい。

【前途】日華、東華の兩社を通じた大陸進出も內地工場關係の輸出が好轉すればさう急がなくともよくなるかも知れない。日本重工業の進展と共に堅實に進んで行くことだらう。

【設　立】明治二十一年三月
【決算期】六月、十二月
【事　業】紡績及綿織布
【資本金】……公稱二,五〇〇,〇〇〇　拂込二,二七,二〇〇
【株　數】……舊（五〇,〇〇〇）二〇〇,〇〇〇　新（二五〇,〇〇〇）一〇〇,〇〇〇
【重　役】社長　神社　柳吉　取締　小林安太郎
　常務　林桂二郎　監査　石井熊夫
　取締　原　澄治　相談　矢原孫三郎
【株主數】（名）……去年上　七,七六六　……去年下　八,七六八
【大株主】大原合資　二,〇〇〇　倉敷紡織　七,九〇〇
　鐘淵紡績　一,〇〇〇　三宅　金作　七,一五〇
　原　澄治　七,八〇〇　岡山商事　孝文　四,二〇〇
【事業沒收】紡績機（錘）……去年上　……去年下
　織機（〃）……去年上　……去年下
　毛織機（〃）……去年上　……去年下
【事業成績】綿絲生產（梱）……去年上　……去年下
　平均番手……
　綿布生產（千疋）……去年上　……去年下
　綿布消費（千疋）……去年上　……去年下
　原絲消費（千梱）……去年上　……去年下
　人絹絲生產……平均番手……
　人絹布生產……原絲消費……
【投資會社】倉敷紡績、
【資本異動】十三年六月五回拂込徵收、十月一、二〇〇萬圓增資五回拂込徵收

【資產負債】

	十二年六月	十二年十二月
株主資本		
積立金	六,三二一,〇〇〇	八,二一七,〇〇〇
外部負債	二,一〇六,〇〇〇	一,〇二〇,〇〇〇
社債	八,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	六,一〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	一〇,二二一,〇〇〇	一〇,二二一,〇〇〇
固定資產	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
投資勘定	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
流動資產	三,二二一,〇〇〇	三,二二一,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】		
收入	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
支出	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
利益	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
固定償却率	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【業績】		
十二年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十二年下	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年下	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十四年上	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
【株價】（實際）高値	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十二年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十三年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
十四年	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一—八月	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

【基準配當】
【豫想配當】十四年十一月期　一割
【時價】……　【利廻】六分六厘
【名義書換】十　錢　【新株交附】五分五厘

福島紡績株式會社

（本　社）大阪市北區玉江町二丁目（電土佐堀　二二—二四）

【天津水害】過般天津の水害で子會社双喜紡織の工場は相當の被害を蒙つた。同社工場は本年五月十二日から一部運轉を開始したばかりで精紡機三萬錘、織機七百臺を据付け、七月には精紡機約一萬七千織機二百臺を運轉してゐたのだ。水害は天津一帯の紡績を多少に拘はらず打擊したが双喜紡織の損害は公大第六（鍾紡）と共に殊に甚だしかつた。カード用針布が水浸しになつただけでも使用は不可能なのだから水がひいても復舊は物資不足の折柄容易ではなからう。苦心して天津に進出してやつとの思ひで工場が運轉しかかつた矢先にこの天災にやられたのは返す〳〵も殘念である。

【今期】双喜紡の打擊によつて對支進出の出鼻は挫かれたが、今期の配當に變化が生ずる樣なことは先づない。子會社關係から言つても滿洲福紡、福島人絹、德島紡績等いづれも業績は略々順調である。憂慮された綿布輸出單價の落調が止めば、最近ともすれば業績低調であつた當社も見直される樣になるかもしれない。業績が少しでも好轉すれば當社の如く一錘當固定資產が二十三圓内外と言ふ低廉な會社は相當大巾な損益を見るだらうこと想像に難くはない。今期の業績も大體二割据置と見てよく、前途も目下のところでは安心して可なりだ

【設　立】明治二十五年八月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績及綿織布
【資本金】公稱＝二、〇〇〇　拂込＝二、〇〇〇
　　新（二〇・〇）　舊（五・〇）　三二〇、〇〇〇
【株　數】……
【重　役】
社長　八代祐太郎　取締　山内　貫
取締　室賀　國盛　監査　河盛勘次郎
〃　八代　武次　〃　古市　宜三
【株主數】（名）　十五年上　二、〇二七　十五年下　二、〇八九
【大株主】
野村　合　名六〇、〇〇〇　八代祐太郎六〇、〇〇〇
河盛勘次郎三〇、〇〇〇　野村　生　命三〇、〇〇〇
野村　德七六、〇〇〇　江口　治郎二、四一六
ヤマト產業二、一〇〇　野村　銀　行一〇、〇〇〇
【事業成績】　十五年上　十五年下
紡績機（錘）　四四、〇四八　四四、〇四八
撚絲機（錘）　三六、〇〇〇　三六、〇〇〇
織　機（臺）　二、一一二　二、一一二
工場所在地　福山、昇、笠岡、倉吉
德島、新路、飾磨
【事業成績】　十五年上　十五年下
綿絲生產（瓩）　六六、六六六　六〇、六六二
平均番手　三四・三九　三三・六六
綿布生產（疋）　一二、四一九　一四、九二一
原棉消費（千貫）　二、六二一　二、一〇八
原絲消費（千貫）　二、七二四　二、八七四
【投資會社】　福島人絹、雙喜紡織、滿洲紡績、德島紡。
【資本異動】十二年五月八〇〇萬圓增資第一回（公圓二、十二月三圓五十五拂込徵收）

【資產負債】　十二年五月　十二年十一月
株主資本　一、九六七、四五五　一、九六七、四五五
積立金　一、〇四九、一五七　一、〇四九、一五七
外部負債　二、八九六、四四六　四、四四四、四五六
使用總資本　五、〇六四、〇四四　五、〇六一、一四六
固定資產　一、〇六〇、一三三　一、〇三四、〇六六
投資勘定　一、四四、〇三三　一、〇一一、一一一
流動資產　八、六四四、九　九、八五五、一一一
現金預金　二、一四四、五　二、一四四、二四四
手持品　二、六六一、四四一　四、二四四、二四四
【收支勘定】　十五年上　十五年下　十六年上
收入　六、九六、一八一　五、〇一六、一一九
支出　四、一七五、一一六　三、〇一六、一一九
利益　二、八〇五、〇三五　一、九八〇、〇〇〇
固定消却　八〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇
消却年率　一八%　一〇%
【株　價】（大正）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十二年上　△三〇・〇　△四〇・〇　五六・〇　三六・〇
十三年　四四・八　四四・〇　四四・五　三四・五
十四年　四三・五　四四・〇　四一・〇　三四・〇
一一八月
【株主配當】　十四年十一月期　一二割
【時價】舊五六・〇　新五六・八
【利廻】六分六厘　四分六厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

岸和田紡績株式會社

（本　社）大阪府岸和田市北町九五三（電岸和田　二七六）
（營業所）大阪市東區北久太郎町寺田ビル内（電船場三四三—五）

【六月期業績低下】六月末締切の決算は近來の不成績を示してゐる。計上利益は百三十八萬五千圓、利益率は二割二分五厘で、昨年下期に比し五十萬圓に近い減益で利益率も約八分の低下となつてゐる。昨年上期に比較すると利益率の低下は一割を超える。固定資產の消却も昨年下期よりも八萬圓を減じた三十萬圓を計上してゐるが、約二十一箇年消却に當り、内地工場の一錘當評價は低くても、あまり芳しいものではない。それで一割五分配當を据置としたのだから決算は或る程度無理となつて來たことを否定し得ない。

【天津の水害】その矢先、過般の天津水害で建設中の紡績工場が被害を蒙つた。規模は精紡機三萬錘、織機七百臺の豫定で、建物は殆んど完成して居り、機械も一部据付を了してゐたが、一時は六尺も浸水した。目下減水を待つてゐる譯だが、工事がおくれて機械の据付が進んでゐなかつたのが不幸中の幸ひであつた。天津工場は苦心してやつと進出し得たもので、今後當社の局面打開にとつて重要な役割を果すべきものであつたゞけにその頓挫は非常に惜しまれる。

【今期】今期の配當がどうなるか。資產内容の充實してゐる點からしても据置はやつて出來ぬことはない。輸出好轉の見透しが確實となれば恐らく据置くものと思はれる。

【設　立】明治二十五年十一月
【決算期】六月、十二月
【事　業】綿紡績及綿織布
【資本金】公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝二、三三三
【株　數】……（六、五五）　三六〇、〇〇〇
【重　役】社長　寺田　甚吉
〃　寺田　榮吉　取締役　寺田元之助
〃　寺田　榮吉　監査　竹原友三郎
常務　小田利三郎　〃　金納源十郎
〃　岡　一　郎　〃　杉田　宗助
【株主數】　十五年上　十五年下
總　數（名）　二、一四四　二、二六五
【大株主】
寺田合名二四四、八六六　佐野紡績二七、九六六
杉田　宗助二六、五〇〇　岸村　合名三五、四三六
寺田元三郎一四、〇二〇　金納源十郎二六、六四二
和泉　銀行九、三六六　寺田　吉藏八、二五二
【事業成績】　十五年上　十五年下　十六年上
紡績機（錘）　三三〇、九六〇　三三〇、九六〇　三三〇、九六〇
撚絲機（錘）　二四、四四〇　二四、四四〇　二四、四四〇
織　機（臺）　二、一〇八　二、一〇八　二、一〇八
工場所在地　岸和田市二工場、大垣市
大阪府泰太町　津市、天津（建設中）
【事業成績】　十五年下　十六年上　十六年下
綿絲生產（瓩）　四、八四五　三、二二六　三、六四二
平均番手　二六・三　二六・三　二三・〇
綿布生產（千疋）　一四、四〇七　一六、四六六
原棉消費（千貫）　三、八六五　二、三六六　一、八〇三
混紡糸生產（瓩）　一　一、三六六　二、〇二二
混紡織布（千疋）　一　四、一四二　四、一四二
【資本異動】十六年五月三四五拂込徵收十一月一、〇三五萬圓增資六四三拂込徵收

【資產負債】　十五年十二月　十六年十二月
株主資本　三、四三四、四四四　三、四三四、四四四
積立金　一、九一四、四四四　一、九一四、四四四
外部負債　一、四四四、四四四　一、四四四、四四四
使用總資本　五、八四四、四四四　五、八四四、四四四
固定資產　一、六〇一、四四四　一、六〇一、四四四
投資勘定　一、四四四、四四四　一、四四四、四四四
流動資產　八、四四四、四四四　八、四四四、四四四
現金預金　二、四四四、四四四　二、四四四、四四四
手持品　二、六六一、四四四　二、六六一、四四四
【收支勘定】　十六年上　十六年下　十七年上
收入　四、一四四、四四四　四、一四四、四四四　四、一四四、四四四
支出　三、一四四、四四四　三、一四四、四四四　三、一四四、四四四
利益　一、〇〇〇、〇〇〇　一、〇〇〇、〇〇〇　一、〇〇〇、〇〇〇
固定消却　五〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇
消却年率　一〇%　一〇%　一〇%
【株　價】　十六年上　十六年下　十七年上
高値　安値　高値　安値
十二年上　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
十三年下　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
十四年上　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
【株主配當】　十四年十二月期　一割五分
【時價】舊四四、〇　新四四、〇
【利廻】六分六厘　三分九厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

【資產負債】　十二年五月　十二年十一月　十四年六月
株主資本　一、九六〇、四四四　一、九六〇、四四四　一、九六〇、四四四
積立金　一、〇四九、一五七　一、〇四九、一五七　一、〇四九、一五七
外部負債　一、八九六、四四六　一、四四四、四四四　一、四四四、四四四
使用總資本　五、八四四、四四四　五、六〇一、四四四　五、六〇一、四四四
固定資產　一、六〇一、四四四　一、六〇一、四四四　一、六〇一、四四四
投資勘定　一、四四四、四四四　一、〇一一、一一一　一、〇一一、一一一
流動資產　八、六四四、九　九、八五五、一一一　一、八五五、一一一
現金預金　二、一四四、五　二、一四四、二四四　二、一四四、二四四
手持品　二、六六一、四四一　四、二四四、二四四　四、二四四、二四四
【收支勘定】　十六年上　十六年下　十七年上
收入　六、九六、一八一　五、〇一六、一一九　五、〇一六、一一九
支出　四、一七五、一一六　三、〇一六、一一九　三、〇一六、一一九
利益　二、八〇五、〇三五　一、九八〇、〇〇〇　一、九八〇、〇〇〇
固定消却　八〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇
消却年率　一八%　一〇%　一〇%
【株　價】（大正）舊　株　新　株
高値　安値　高値　安値
十二年上　△三〇・〇　△四〇・〇　五六・〇　三六・〇
十三年　四四・八　四四・〇　四四・五　三四・五
十四年　四三・五　四四・〇　四一・〇　三四・〇
一一八月
【株主配當】　十四年十一月期　一二割
【時價】舊五六・〇　新五六・八
【利廻】六分六厘　四分六厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

【資產負債】　十三年十二月　十四年六月
株主資本　一、九六、四四四　一、九六、四四四
積立金　一、〇四九、一五七　一、〇四九、一五七
外部負債　一、四四四、四四四　一、四四四、四四四
使用總資本　五、八四四、四四四　五、六〇一、四四四
固定資產　一、六〇一、四四四　一、六〇一、四四四
投資勘定　一、四四四、四四四　一、〇一一、一一一
流動資產　八、六四四、九　九、八五五、一一一
現金預金　二、一四四、五　二、一四四、二四四
手持品　二、六六一、四四一　四、二四四、二四四
【收支勘定】　十七年上　十七年下　十八年上
收入　六、九六、一八一　五、〇一六、一一九　五、〇一六、一一九
支出　四、一七五、一一六　三、〇一六、一一九　三、〇一六、一一九
利益　二、八〇五、〇三五　一、九八〇、〇〇〇　一、九八〇、〇〇〇
固定消却　八〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇　五〇〇、〇〇〇
消却年率　一八%　一〇%　一〇%
【株　價】　十七年上　十七年下　十八年上
高値　安値　高値　安値
十二年上　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
十三年下　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
十四年上　四四、〇　四四、〇　四四、〇　四四、〇
【株主配當】　十四年十二月期　一割五分
【時價】舊四四、〇　新四四、〇
【利廻】六分六厘　三分九厘
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

日出紡織株式會社

（本　社）和歌山縣日高郡御坊町大字薗五八五ノ一（電御坊四四）
（營業所）大阪市東區南久太郎町二ノ二三（電船場　二四四一七）

【帆布部門は好況】今春買收した帝國帆布、古坂帆布の二社及び青木加工場は愈々今期の業績に寄與して來るが、業況は順調である。帆布用原絲の割當は月七百乃至八百梱であつて作業は完全に一貫的に行ひ得る强味をもつてゐるから梱當りの利益も百圓乃至百五十圓は充分見込める位だ。月平均七百五十梱の割當としても、利益は月七萬五千圓乃至十一萬三千圓で半期四十五萬圓から多くて六十七、八萬圓に達しよう。從來は全くなかつた右の利益が新らしく附加されるのだから非常に有利だ。帆布織機の新設は不許可だから、今後の收益も減るとは考へられない。

【輸出好轉と前途】それに最近の海外情勢變化で輸出好轉の傾向が顯著となつて來たので前途の明朗化も加はる。當社は一般綿布用の織機をもたず從つて輸出向製品はすべて賃織に出してゐたのだが採算割れは相當深刻で前期は總額二十萬圓近くも喰ひ込んだ程だ。ところが、今後少くとも赤字狀態が消えるだけでも幸ひである。ス・フ部門は平均月產四十萬封度內外で、この利益は大したものではなく今後もあまり大きなるものを望み得まい。唯固定化はしても確實な利益に惠まれて行く點に變りはないだらう。今期も一割は勿論據置を見てよく、內容の改善も進むものと思はれる。

【設　立】明治四十五年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績、人絹
【資本金】
【株　數】……舊（四〇・〇）　佛込＝八、九五五
公稱＝三、〇〇〇　新（一〇・〇）　四〇、〇〇〇
第二新（二〇・〇）　一四〇、〇〇〇
【重　役】
社長　田中榮八郎　取締　瀨戸健三
專務　加名生良信　〃　伊藤熊三
常務　石田氏敏　〃　大川雄雄
〃　竹野貞朗　監査　初井奈良吉
〃　木代良太　〃　越野三藏
【株主數】
總數（名）　十五年上　一、七四九　十四年上　一、八八五
【大株主】
大川合名三、六〇〇　大川正雄三、三六〇
田中榮八郎一〇、六〇三　初井合資七、〇六六
木代良太七、五四九　野田千代三郎六、四三〇
瀨戸健三六、三六〇　田中壽一六、〇四〇
【事業規模】
精紡機（錘）　十五年上　二三、九三六　十四年下　二六、六四三
燃絲機（〃）　二四、四〇〇　二三、六〇〇
工場所在地　日高、御坊、大津、舞鶴
【事業成績】
綿絲生產（貫）　十五年上　第一・第二　十四年上
四四、二六〇　四四、四三五
平均番手　三一・九五　三一・八〇
原棉消費（千貫）　二、四四三　二、二四一
綿絲輸出（錘）　一、二三〇　一、〇六四
【資本異動】十三年一月七圓宛拂込徵收、四月第二日出紡織（資本金二、八〇〇萬圓）を設立、後これを合併增資

【資產負債】
株主資本　五十二年　十二月　五十四年
積立金　一四、一四五　一四、八八〇
外部負債　一四、九一五　一四、〇三五
借入金　八、九一五　九、四五九
支拂手形　五、〇〇〇　五、四〇〇
八六五　一、三四六
使用總資本　一、三四六　一、八〇〇
固定資產　一四、〇四〇　一四、〇四〇
投資融資　一四、〇四〇　一四、〇四〇
流動資產　一、〇四〇　一、〇四〇
現金預金　一、〇四〇　一、〇四〇
【收支勘定】
十五年上　十五年下　十四年上
收入　一七、四四一　一七、六四〇　一七、〇四〇
支出　一七、三三一　一七、六三〇　一七、〇三〇
利益　一、〇一〇　一、〇一〇　一、〇一〇
固定消却　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
消却年率　二割　八割　七割
【業績】
利益率　利益率
十二年上　四、一四等・二番八　六、八八　七、四四四
十二年下　四、四三、ダ、二、ダ、八八　六、九五　六、八五
十三年上　三、五六、ダ、二、ダ、八八　六、八一　六、八一
十三年下　三、四四、ダ、二、ダ、八八　六、八一　六、四四
十四年上　三、一二　一、〇〇　六、三四
【株　價】（實數）舊　株　高値　安値　新　株　高値　安値
十二年　八二、五五　五二、〇　一七、五五
十三年　五二、五五　五二、〇　二六、〇
十四年　六六、五五　五四、五五　四五、五五
一—八月　高値　安値　高値　安値
【基準配當】十四年十一月期　一割
【豫想配當】
【利廻】七分二厘
六分二厘
【時價】舊六九、〇　新三、五五
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

出雲製織株式會社

（本　社）島根縣簸川郡今市町一九〇〇
（營業所）大阪市東區備後町三ノ八綿業會館內（電本町二三二—三）

【今期】七月度の實績から推すと、今期の利益は前期より稍落ちる見込である。卽ち出來高は內地向純綿絲（軍需及特免用）が約八百梱、混紡絲が二百梱近く、これにス・フ絲が五百七十梱內外で、當社の特殊需要は布にして出すのでその利益は大であることを考慮するとこれだけで月十二、三萬圓程度の利益は少くともあつた筈だ。これに人絹が三千三百六十函（內輸出用一千二百五十函）、ス・フが四十五萬封度で、兩者合して十萬圓の利益は見込んでよく、綿紡關係と合せて月二十二、三萬圓、半期百三十萬圓で雜益二十萬圓として大體百五十萬圓位の利益が豫想された。若し輸出の赤字が雜益と相殺される程度になつても、百三十萬圓の利益なら利益率は二割强となるから一割は據置ける譯だ。

【前途好轉せん】當社の特殊需要品にはもつと多くの利益を見込んで良いかもしれぬ。が、何よりも最近の輸出界好轉豫想で綿布の赤字狀態が緩和され、人絹絲の利益が出れば期待は相當大となる。何しろ人絹絲などは函當十五圓位の好採算に惠まれると言ふのだから大きい。石炭の昂騰でコストは高くなるが、石見工場の附近に船着場を設けて石炭の輸送を便にし、これだけでも石炭一噸につき一圓二、三十錢の經費切詰めが出來るやうになつた。

【設　立】大正九年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績、綿織布、人絹、人纖
【資本金】
【株　數】……舊（四〇・五）　佛込＝二、五〇〇
新（二〇・五）　一〇〇、〇〇〇
【重　役】
取締　四方田保　取締　多田秀
〃　絲原武太郎　監査　藤國重之助
〃　佐藤眞　〃　山田金右衛門
【株　數】
總數（名）　十五年上　一、四〇五　十四年上　一、五八九
【大株主】
宍道寬一八〇、〇〇〇　松江銀行一五、一八〇
今市町三、六〇〇　出雲電氣三、〇〇〇
中藏一男一〇、〇〇〇　廣瀨太郎八、〇〇〇
堀協英太郎七、九〇〇　四方田保七、〇〇〇
武田彰七、〇〇〇　大高盛敏六、〇〇〇
【事業規模】
精紡機（錘）　十五年上　十四年下　十四年上
一九七、〇九二　一九七、〇九二　一九七、〇九二
燃絲機（〃）　五、六九二　五、六九二　五、六九二
織機（〃）　一、四〇七　一、四〇七　一、四〇七
人纖紡機（錘）三、〇〇〇　四五、九一三　四五、九一三
電動機　一、二六五
工場所在地＝今市、宍道、高津
【事業成績】
綿絲生產（貫）　十五年上　十五年下　十四年上
二四、五五四　二三、八五五　二〇、九五二
平均番手　一九、九　一八、八
綿布生產（千碼）　…　一八、九
原棉消費（千貫）　七、四四七　八、四三三
〃（千貫）　一、四四四　一、二五五　一、〇一六
原絲〃（千貫）　三、九五〇　三、九五〇　四、〇三九
【資本異動】十一年四月、六月各二圓宛拂込徵收。十五年三月借額增資、第一回二圓五拂込徵收

【資產負債】
株主資本　五十二年　十二月　五十四年
積立金　一六、二五二　一六、四四四
外部負債　一、一八五　一、九五一
社債　五、九三三　五、六三五
借入金、支手　二、〇八〇　二、〇五〇
使用總資本　二、〇八〇　二、〇五〇
固定資產　三、二三四　三、三五七
流動資產　一五、四五七　一六、〇四三
現金預金　六、四五六　六、六四八
〃現金預金　八二四　三、一九六
（〃印中には有價證券含む）
【收支勘定】
十五年上　十四年下　十四年上
收入　四、九四五　四、五七七　四、三六一
支出　二、八三一　二、九四九　二、一四一
利益　二、〇一四　一、六二八　二、二二〇
固定消却　一、〇四〇　一、〇四〇　一、〇四〇
消却年率　八割　七割　七割
【業績】
利益率　利益率
十二年上　一六、八八一　一六、四四四　一六、八八
十二年下　一六、四四四　一六、九五　一六、八五
十三年上　一六、九五　一六、八一　一六、八一
十三年下　一六、四四　一六、八一　一六、四四
十四年上　一六、三四　一六、八一　一六、三四
【株　價】（實數）舊　株　高値　安値　新　株　高値　安値
十二年　八二、五五　五二、〇　一七、五五
十三年　五二、五五　五二、〇　二六、〇
十四年　六六、五五　五四、五五　四五、五五
一—八月　高値　安値　高値　安値
【基準配當】十四年十一月期　一割
【豫想配當】
【利廻】七分二厘
六分二厘
【時價】舊六九、〇　新三、五五
【名義書換】十　錢【新券交附】三十錢

內外綿株式會社

（本　社）大阪市北區堂島中二ノ二五（電北　一〇八—一〇九）
（支　社）支那上海戈登路

【上期利益率八割】上期の利益金は九百九十六萬一千圓で、利益率は八割一分三厘に達した。實際利益も素晴らしかつたが、青島の損失六百萬圓を未決算勘定として殘して來たものを一擧に消して了ふため斯うした巨額の利益金を計上したのだ。而して青島の第一次復興完成に伴ひ固定資產償却金も對前年下期二十萬圓增の百五十萬圓とし、配當準備積立として新たに七十五萬圓を計上してゐる。增配が許されぬ折柄斯うした利益金處分としたのだらう。若しこの配當準備積立を配當金に振向けるならば六分增配も可能だつた譯だ。

【下期も順調か】支那棉の不作が云々されてゐても今年內の棉花は充分手當してあるから上海、青島については先づ問題ない。上海で月六、七十萬圓、青島、金州で月五十萬圓合計月平均百十萬圓乃至百二十萬圓の利益は充分見込まれる。半期に直せば六百六十萬圓乃至七百二十萬圓だ。結局昨年下期並に四百萬圓以上の利益を計上して殘りは原棉の評價切下げ其他に振向けることとならう。

【前途】棉花手當も現在の見透では來年上期一杯位迄は何とかなるだらう。爲替がどうなるか問題だが今のところさう心配することもない樣だ。歐洲の動亂で內地紡の利益が增加すれば對支進出の摩擦も減るだらうから前途の心配も減ると思はれる。

【設　立】明治二十年九月
【決算期】五月、十一月
【事　業】綿紡績、綿織布加工
【資本金】……公稱三三〇,〇〇〇　拂込三三〇,〇〇〇
　　……舊（三〇,〇〇）　新（三〇,〇〇）
【株　數】……舊（三〇,〇〇）　新（三〇,〇〇）
【重　役】
　專務　佐々木國藏　取締　大谷登
　常務　岡田源太郎　〃　石川作太郎
　取締　山口幸三郎　〃　勝田俊治
　〃　阿部彥太郎　監査　牛田虎之助
　〃　天木繁二郎　〃　中野喜三郎
　〃　大西寄一　〃　荒川太逸
【株主數】
　總數（名）　十五年上　二,〇五八　十五年下　二,〇五八
【大株主】
　中野合資　四九,九〇〇　川村　順　四〇,〇〇〇
　阿部彥太郎　三,〇〇〇　川部　俊三　三六,〇〇〇
　大庄商店（名古屋）　四〇,〇〇〇　天木繁二郎　三,〇〇〇
　大阪阿部合資　二,〇〇〇　阿部　正彥　二,一〇〇
【事業規模】　十五年上　十五年下
　精紡機（錘）　四八〇,三四四　四八一,一二二
　內日本上海　一〇六,六六六　一〇六,六六六
　　二六〇,〇五六　二六〇,〇五六
　青島　燒失　燒失
　金州　一五,一四三　一五,一四三
　撚絲機（錘）　二一三,八八〇　二一六,八八〇
　撚布機（臺）　九,七四四　九,七四四
　加工月產（千圓）　一二,〇〇〇　一二,〇〇〇
【事業成績】　十五年上　十五年下
　綿絲生產（瓦）　七一,九五三　一三,一四〇
　平均番手　二〇,八　二〇,八
　綿布生產（千碼）　七,一八六　七,一八六
　加工品（千碼）　六,三三〇　八〇,〇〇〇
　原棉消費（千貫）　四,九六六　四,三五四
　原絲消費（千貫）　一八,四八二　一九,九二一

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十四年四月	十四年十月	十五年五月	十五年十月
株主資本	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	三,〇〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇
使用總資本	三,〇〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇
固定資產	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六
投資勘定	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
流動資產	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一
現金預金	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六

【收支勘定】

	十二年上	十二年下	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
收入	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇
支出	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九
利益	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一
固定消却	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
消却年率	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇

【業績】

	十一年下	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
利益率	一,〇%	一,〇%	無配	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%

【株　價】（大阪）舊　高値　安値　新　高値　安値

	十一年	十二年	十三年	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
舊 高値	四四,〇	六〇,〇	四〇,〇	四四,八	三三,五	四四,八	三五,〇
舊 安値	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三五,〇
新 高値	四四,〇	六〇,〇	四〇,〇	四四,八	三三,五	四四,八	三五,〇
新 安値	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三五,〇

【名義書換】五　錢　【新券交附】二十錢

同興紡織株式會社

（本　社）支那上海楊樹浦路第二〇八六
（出張所）大阪市北區宗是町一（電土佐堀　七四七）

【青島工場】三月に第一次復興を完成した青島工場は精紡機三萬八千二百四十八錘、織機七百臺を全運轉しつゞけてゐる。賣絲は前期は三十二手及び十六手のみを生產してゐたが、六月以降は上海でやつてゐる四十二番双絲をも生產しはじめたので操業率は同じ一〇〇%でも出來高は期初の九百四十梱から六、七月は七百二、三十梱に減つた。綿布は大體月平均五萬反內外と變りない。これだけの出來高で月平均少くとも二十萬圓の利益は充分見込めたが、最近の棉花の値上り狀態で見ると、採算は惡化しても値上り益だけでも大したものとならうから心配はない。棉の手當の方も今來期位は大丈夫だ。

【前期】上海の法幣動搖不安はあるが、棉花手當の方で萬全を期してゐるから心配あるまい。上海工場の出來高は賣絲一千六、七百梱（四十二手双絲、三十二手が中心）、細布と細綾が八、九萬反と言ふところで、これに過般買收した加工工場で加工が出來るやうになつたから幸ひだ。圓にして月三十萬圓の利益は豫想通り擧がると見てよいから、青島、上海を合せて今期の利益は結局三百萬圓內外に達し利益率も四割程度に達しよう。

【配當】十月期引續き增配するかどうか未定だが、二分程度の增配は實力から見て可能だ。

【設　立】大正九年五月
【決算期】四月、十月
【事　業】綿紡績、綿織布
【資本金】……拂込三〇〇,〇〇〇
【株　數】……（五〇,〇）　一〇〇,〇〇〇
【重　役】
　社長　飯尾一二　取締　平井晴雄
　頭〃　立川圓三　監査　坂田幹太
　取締　秋田久　〃　竹中源助
　〃　鳥羽智加造　〃　谷口豐三郎
【株主數】
　總數（名）　十五年上　三,九五七　十五年下　三,八四一
【大株主】
　谷口豐三郎　一七,〇〇〇　立川圓三　一〇,〇〇〇
　東洋紡績　一四,八〇〇　竹中源助　一四,八〇〇
　飯尾一二　一二,八〇〇　谷口繁夫　一二,八〇〇
　野瀨清駒　一二,八〇〇　日本生命　一二,八〇〇
【事業規模】　十五年上　十五年下
　精紡機（錘）　五六,〇〇〇　五六,〇〇〇
　撚絲機（錘）　三五,六〇〇　三五,六〇〇
　上海楊樹浦路工場
　精紡機（錘）　四三,〇〇〇　四三,〇〇〇
　織機（臺）　一,四一三　一,四一三
　青島工場
　精紡機（錘）　一　一　一　一
　撚糸機（錘）　一　一　一　一
　織機（臺）　一　一　一　一
【事業成績】　十五年上　十五年下
　綿絲生產（瓦）　六,四〇　一三,八四五
　平均番手　三三,六　三三,九
　綿布生產（千碼）　二四,三三　二七,一二三
【資本異動】二年十月二〇四萬拂込徵收

【資產負債】

	十二年四月	十二年十月	十四年四月	十四年十月
株主資本	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	三,〇〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇
使用總資本	三,〇〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇	三,一〇五,〇〇〇
固定資產	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六	一〇,〇四四,三一六
投資勘定	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
流動資產	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一	一,〇九六,五五一
現金預金	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六	四〇,二六六

【收支勘定】

	十二年上	十二年下	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
收入	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇	一,〇〇二,〇〇〇
支出	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九	四九,九一九
利益	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一	四六,〇八一
固定消却	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
消却年率	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇	一〇,〇%〇

【業績】

	十一年下	十二年上	十二年下	十三年上	十三年下	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
利益率	一,〇%	一,〇%	無配	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%	〇,八%

【株　價】（實際）高値　安値

	十一年	十二年	十三年	十四年上	十四年下	十五年上	十五年下
高値	四四,〇	六〇,〇	四〇,〇	四四,八	三三,五	四四,八	三五,〇
安値	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三三,五	三五,〇

【基準配當】一割
【豫想配當】十四年十月期一割
【時價】六〇,〇
【名義書換】五　錢　【新券交附】五十錢

朝鮮紡織株式會社

（本　社）朝鮮釜山府凡一町一、三三番（電釜山　四〇四番）
（出張所）東京市麹町區丸ノ内海上ビル（電丸ノ内　四六八九）

【上期好調】朝鮮紡の上期決算は非常に良かつた。利益金は一百八十六萬七千圓に上り、利益率は五割を示してゐる。綿製品市況が引續いて好調であつた上に、操棉益が著しく多く出た爲である。昨年の棉花の作柄は平年作であつたにも拘らず、極力出廻を奬勵した爲出廻は著しく増加したのである。

【基準配當率】當社は配當制限令發布以來其の特配を如何に取扱はれるかを一般から注目されてゐたが、ついに一割二分配當を基準配當率として認定された。記念配當が一般の特配と同樣に認められたからである。それに朝鮮總督府の手心も加へられたものと見られる節もある。

【大戰の影響】當社は從來輸出には力を入れてゐなかつた。全然輸出してゐなかつたと言つた方がよいかも知れぬ。從つて大戰勃發と共に輸出採算が良くなつても、當社には大した影響はない。然し輸出が樂に出來るとなれば努力次第では此の方の恩惠も受け得るやうになるかも知れぬ。

【今後】今期は大體上期並みの業績を收め得るのではないかと思ふ。それに子會社營口紡の業績は依然として良好で一割八分配當は餘裕含みと思はれてるから、今後も當社の一割二分配當は安泰だ。

【設立】大正六年十一月
【決算期】五月、十一月
【事業】綿紡、綿織布加工、人絹織物
【資本金】……公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
　　舊（五〇、〇）　100,000
　　新（二五、〇）　100,000
【重役】社長　原安三郎
　常務　時岡昇平　常駿　中村彦
　取締　佐藤護吉　駿吉　松方正熊
　〃　齊藤吉十郎　〃　野口三郎
　　松野鶴平　相談　鶴　相鶴
【株主數】（名）十五年上　一、〇四九　十六年上　一、二九
【大株主】中外產業　五、一〇〇　再興樟腦　二、五〇〇
　三菱信託　一〇、一〇〇　昌榮合資　七、八〇〇
　山本武太郎　七、一一〇　山二株式　四、五〇〇
　齊藤吉十郎　四、八〇〇　橫山與市　三、〇〇〇
【事業現狀】十五年上　十六年上
　精紡機（錘）　四〇、〇〇〇　四〇、〇〇〇
　撚糸機（錘）　三、六四〇　三、六四〇
　織機（臺）　一、二三〇　一、二三〇
　機械織機（臺）　四〇六　四〇六
　人絹織機（臺）　三一九　三一九
　工場所在地……釜山
【事業成績】十五年上　十六年上
　綿絲生產（瓩）　五、〇六〇　三、六四〇
　綿布生產（疋）　三一、〇〇〇　三一、〇〇〇
　營業益（千圓）　八二　六九
【取引銀行】朝鮮殖產、朝鮮銀行、第一銀行、安田銀行
【投資會社】營口紡織（株）（朝鮮商事）
【資本異動】十五年八月五百萬圓拂込、資本金第一回、十三年七月各二圓宛拂込徵收

【資產負債】　五十四年十二月末　五十三年十二月末
　株主資本　一三、〇五四　一四、八六六
　積立金　三、〇四四　三、〇四四
　外部負債　三、一一九　四、〇四一
　借入金　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　支拂手形　三三三　六八〇
　使用總資本　二、二一五　二、五一一
　固定資產　四、二一三　四、六〇一
　投資勘定　五、五〇五　五、六六六
　流動資產　三、八〇五　七、六六
　現金預金　八二二　五五
【收支狀況】十五年上　十六年下
　收入　三、〇一六　三、四一四
　支出　五四四　一、一〇一
　利益　一、四七四　一、八六三
　固定償却　五〇〇　五〇〇
　償却年率　三、九八八　三、九八八
【業績】十五年上　十六年上
　利益率　一、〇〇　一、〇〇
　配當率　一、〇〇　一、〇〇
【株價】十二年　高値　安値　舊（東株）　高値　安値
　　一〇〇、五〇　八〇、一　一〇〇、〇　一〇〇、〇
　十三年　八六、五　六〇、〇　一〇〇、五　一〇〇、五
　十四年　八〇、七　六〇、五　一〇〇、〇　一〇〇、〇
　一—八月　六〇、七　六〇、〇　一〇〇、〇　一〇〇、〇
【基準配當】一割二分
【換算配當】十四年十一月期一割二分
【時價】舊　一〇、五　新　六〇、〇
【利廻】五分六厘　四分四厘
【名義書換】十錢　【新株交付】三十錢

明正紡織株式會社

（本　社）大阪市東淀川區三津屋新町（電北五一四二—四）

【今期据置かん】內地向生產は殆んど固定化して、最近の狀態ではそれが漸減の傾向を示してゐるが、當社の八月度出來高を見ると純綿絲二千四百六十九梱（內輸出一千六百八十三梱）、混紡絲百九十八梱、ス・フ絲七百六十梱となつてゐる。ス・フ絲は昨年末香川縣豐濱町に竣工したばかりの豐濱工場（精紡機三萬九千錘）がス・フ絲紡織の專門工場として運轉して居り條件は相當有利である。出來高が右の如くとすれば內地向純綿絲と混紡絲で月七萬圓、ス・フ絲で五萬圓、合計十二萬圓內外の利益はある。半期に直すと七十二萬圓だが、明正レイヨンよりの配當收入八萬圓を加へれば八十萬圓が大體今期の手堅い利益となるう。利益率は二割一分だから一割据置は可能だ。

【前途】斯うした狀態が繰返されれば所詮當社も減配の憂目をみねばならなかつたところだが、最近の輸出界好轉で今までの赤字が消えるだけでも大きな利益となるう。而も內地向は今後も利潤はあるし、全體としての操業率が高まればコストもずつと低下するだらう。今期の利益としては殆んど恩惠を受けないが、來期以降は漸次增益となるう。

【雜纖維】研究中の雜纖維も近く本格的に生產しはじめる豫定だ。

【設立】明治四十五年五月
【決算期】五月、十一月
【事業】綿紡織、綿織布、人纖紡織
【資本金】……公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝七、五〇〇
　　舊（五〇、〇）　100,000
　　新（二五、〇）　100,000
【重役】社長　堀文平　取締　內藤松次
　常務　根本精一　駿吉　松井萬藤
　取締　石川恒足　〃　高田象一
　　津田勝五郎　〃　山本覺次郎
【株主數】（名）十五年上　六九七　十六年上　六三三
【大株主】大同生命　三、八〇〇　井桁土地　一、六一〇
　小泉愼逸　三、四〇　堀文平　三、〇〇〇
　津田勝五郎　一〇、〇〇〇　山本覺次郎　六、六五
【事業現狀】十五年上　十六年上
　紡紡機（錘）　三六、九一六　三六、九一六
　撚絲機（錘）　七、五四〇　七、五四〇
　織機（臺）　一、一〇六　一、一〇六
　工場　大阪東淀川區、西淀川區側町、受益三島町、川之江町、香川豐濱町
【事業成績】十五年上　十六年下　十六年上
　綿絲生產（瓩）　三〇、六四九　三〇、二三〇　一四、三四〇
　平均番手　一三、一四　一三、一四　一四、六四
　綿布生產（千碼）　九、八八〇　九、一八〇　四、七六一
　原絲消費（千瓩）　一、一四〇　一、一四〇　七四〇
　原棉消費（千貫）　一、七四八　一、四三一　七六八
　人纖糸生產（瓩）一、八一八　人纖糸消費（千瓩）　一一〇
　人纖布生產（千碼）　五五九　人纖布消費（千貫）　一四六
　平均番手……一六、七　一六、七
【投資會社】明正レイヨン、康泰絨布廠
【資本異動】十二年六月五〇萬圓增資第一回十三年二月各二圓拂込徵收

【資產負債】　十五年十二月末　十四年十二月末
　株主資本　一三、〇五四　一四、八六六
　積立金　三、〇四四　三、〇四四
　外部負債　三、一一九　四、〇四一
　借入金　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　支拂手形　三三三　六八〇
　使用總資本　二、二一五　二、五一一
　固定資產　四、二一三　四、六〇一
　投資勘定　五、五〇五　五、六六六
　流動資產　三、八〇五　七、六六
　現金預金　八二二　五五
【收支狀況】十五年上　十六年下　十六年上
　收入　三、〇一六　三、四一四　三、九六八
　支出　五四四　一、一〇一　一、一〇一
　利益　一、四七四　一、八六三　一、八六七
　固定償却　五〇〇　五〇〇　五〇〇
　償却年率　三、九八八　三、九八八　三、九八八
【業績】十五年上　十六年上
　利益率　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
　配當率　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇
【株價】十二年　舊（東株）　高値　安値　新（實物）　高値　安値
　　一〇〇、五〇　八〇、一　一〇〇、〇　一〇〇、〇
　十三年　八六、五　六〇、〇　一〇〇、五　一〇〇、五
　十四年　八〇、七　六〇、五　一〇〇、〇　一〇〇、〇
　一—八月　六〇、七　六〇、〇　一〇〇、〇　一〇〇、〇
【基準配當】一割二分
【換算配當】十四年十一月期一割二分
【時價】舊　一〇、五　新　六〇、〇
【利廻】五分六厘　四分四厘
【名義書換】十錢　【新株交付】十錢

天滿織物

【設立】明治二十年三月　【決算期】五月、十一月

（本　社）大阪市旭區毛馬町一〇三ノ一（電淀川五九三）
（營業所）大阪市北區中之島二丁目二五江商ビル（電北浜四〇一五）

【滿洲天滿紡織】去る六月創立した子會社滿洲天滿天滿紡織の建設工事は漸次進捗してゐる。現在土地登記を了し社屋の建築と工場用練瓦の手當を行つてゐる程度だが、結氷期には相當進むものと思はれる。精紡機の方は問題ないとしても、織機の方は他社から買はねばならず、現在百三、四十臺買入れたが、買入れはさう急ぐ必要ないから工場建設と併行してうまく行くことだらう。

【今期据置】今期の一割配當据置は勿論問題ない。輸出が著しく伸びる情勢になつても、當社はあまり輸出に主力を置いてゐず大した利益は望めぬが、然し相當の増益が期待されること言ふ迄もない。

【資本金】……繰込濟……（250·0）　110,000
【株　數】……（250·0）　新（110·0）
【重　役】
社長　野田吉兵衛
常務　中出安治郎
〃　江南愛治郎
〃　吉田麟藏
取締　竹村清太郎
〃　常盛
〃　竹内利治
監査　田附政次郎
【大株主】十四年五月期
江商株式會社　五、八〇〇
竹村　一、九〇〇
野田同族　三、〇〇〇
田附商店　七、五〇〇
一三二名
【事業規模】工場＝城北、三國、淀津、高知
紡機　三五、三四四錘　織機　六七臺
【事業成績】
原棉消費（千貫）　十五年上　三、四〇二　十六年上　一、七六六
原綿消費（千貫）　三、五二三　六、四〇二
【生産高】
綿糸（梱）　十五年上　四四、三六八　十六年上　四七、三四三
綿布（千疋）　四、五六四　三三、八五三
【業　績】
十二年下　利益金　一、〇〇〇　利益率　配當率　一、〇〇〇
十三年上　一、五九七　一、〇〇〇
下　一、五九六　一、〇〇〇
十四年上　一、五三五　一、〇〇〇
【株　價】（實勢）　十六年上　六八、八九
高値　六六、六六
安値　六六、〇〇
十三年　六六、三
十四年　五四、八
一—八月
【豫想配當】十四年十一月期　一割（一割）
【時價】　六三·〇　【利廻】　六分九厘

豐田紡織

【設立】大正七年一月　【決算期】三月、九月

（本　社）名古屋市西區米田町一七一六（電西二五〇）

【九月期据置かん】今期の減益は止むを得まい。四月以降の輸出採算は他社同樣に惡く、生産量の七割を輸出に向けてゐた當社としては依然思はしくなかつたからだ。最近織布工場は片番操業にして了つたが、それで輸出採算がどれ程立直つたか疑問だ。然し歐洲大戰が勃發し今後の輸出は好轉する。從つて九月期は餘裕は少ないが勿論配當を据置く筈だ。其後には增配の期待も持たれる。

【前途】子會社豐田紡織敵の復興は相當進み青島は事變前の設備を凌駕する迄になつた。上海も事變前に比し五〇%程度の設備になり採算も良い。復配は先のことだらうが心强い話だ。

【資本金】公稱＝二、五〇〇　拂込＝二、五〇〇
【株　數】……舊（250·0）　新（110·5）　125,000　100,000
【重　役】
社長　豐田利三郎
專務　豐田喜一郎
常務　岡本藤次郎
取締　權野健三
〃　潤吉
〃　松岡
〃　狄次
西川
〃　〃　取締　虎雄
〃　〃　監査　林豐
〃　〃　〃　平吉
〃　〃　〃　藤野勝太郎
〃　〃　〃　寺田義吉
〃　〃　〃　石田退三
【事業規模】
本社工場　精紡機　五六、六〇〇錘
刈谷工場　〃　五五、〇五六　〃
南工場　織機　一、三六六臺
一、〇六八　〃
一、〇七六　〃
【大株主】十四年三月期
豐田利三郎　二、二五〇
東洋棉花　二、〇〇〇
豐田喜一郎　五一、六〇〇名
藤野勝太郎　三、八〇〇
【業　績】
十二年下　利益金　九一〇　利益率　配當率　〇·八〇　四八·六六
十三年上　八二〇　〇·八〇　四八·六六
下　八三二　〇·八〇　四六·五〇
十四年上　八六二　〇·八〇　四六·五〇
【事業成績】
棉絲生産（瓩）　十五年上　三、三六六　十六年上　二、八四六
平均番手（千番）　二四·九　二四·八
棉布生産（千反）　四五、一五九　四三、二二〇
原棉消費（千貫）　九、〇一三　七、九七七
原絲消費　一、七一二　一、六二三
【豫想配當】十四年九月期　八分（八分）

日華紡織

【設立】大正七年七月　【決算期】五月、十一月

（本　社）上海常生路九八號
（出張所）大阪市東區備後町三ノ八綿業會館内（電本町一四五）

【今期復配か】法幣不安による打擊はどの程度のものとなるか豫想は難かしいが、原棉の買付値段から採算する限り毛も角も今期の利益は莫大なものとならう。工場の操業率は依然一〇〇%を持續してゐるが細番ものを增したので出來高は減少し、七月度は七千百五十梱となつた。平均七千二百梱としてどんなに手堅くおさへても月二十一、二萬圓、半期百二、三十萬圓の利益は出よう。利益率は二割八、九分に達するから八分程度の復配は充分出來る。

【前途】たゞ法幣が更に下れば問題だが、原料手當の方はうまく行つてゐるから爲替の操作さへ誤らねば前途も略ゝ大丈夫だ。

【資本金】公稱＝二、〇〇〇　拂込＝八、八〇〇
【株　數】……（80·0）　三三〇、〇〇〇
【重　役】
社長　田邊輝雄
〃　取締　友永藤三郎
常務　森本將虎
〃　河崎助太郎
取締　伊藤竹之助
〃　〃　監査　日比谷平左衛門
〃　〃　赤司初太郎
〃　〃　〃　林佳三郎
〃　〃　〃　芳田
〃　〃　〃　南雅三郎
〃　〃　〃　長谷川佳平
〃　〃　〃　上野山重太夫
〃　〃　〃　野口能敬
【大株主】十四年五月期
倉敷紡績　一〇、〇〇〇
長谷川佳平　三、二〇〇
田邊輝雄　七九名
日本綿花　一〇、六六
【事業成績】
綿糸生産（瓩）　十五年上　十六年上
十六年上　十六年上
【事業規模】　十五年上　十六年上
綿紡機（錘）　三四、六四〇　三四、六四〇
撚糸機（〃）　五四、〇〇〇　五四、〇〇〇
撚糸計畫　紡機　五、〇〇〇錘　織機　三四、六四〇錘
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益率　無配
十二年下　一、〇〇〇　〇·八〇　四八·六六　〇·〇〇　〇·〇〇
十三年上　一、〇〇〇　〇·八〇　四六·五〇　〇·〇〇　〇·〇〇
下　一、〇〇〇　〇·八〇　四六·五〇　〇·〇〇　〇·〇〇
十四年上　一、〇〇〇　〇·八〇　四六·五〇　〇·〇〇　〇·〇〇
【株　價】（實勢）　十六年上　高値　安値
十三年　四七·六　一九·八
十四年　四〇·五
一—八月
【豫想配當】十四年十一月期　八分
【時價】　六〇·〇　【利廻】五分三厘

國光紡績

【設立】大正元年十二月　【決算期】四月、十月

（本　社）長崎縣長崎市幸町一ノ一
（營業所）大阪市東區横堀二ノ七〇都菊ビル（電北浜三五〇）

【化學工業進出】旭紡織の合併は去る八月一日行はれ、基準配當は一割に決定した。合併後舊旭紡の設備をどうするかはつきり決定してゐないが、他面化學工業への進出は着ゝ進んでゐる。子會社國光ロイド（三十萬圓拂込濟）によるセルロイド、鉛、キルクの代用品製造、日華造釀（資本金百萬圓、半額拂込）による日本酒、ウイスキーの製造等がそれで小規模ながら漸次發展しつゝある。

【据置可能】青島工場も全運轉の狀態で、今後原料關係で困難はまぬかれまいが當面の心配は少ない樣だ。海外情勢の好轉で輸出が伸びるだらうから前途も明るい。今期も据置とみてよい。

【資本金】公稱＝一〇、〇〇〇　拂込＝九、〇〇〇
【株　數】……舊（250·0）　新（110·0）　10,000　9,000
【重　役】
社長　原茂久雄
取締　脇山啓次郎
〃　肥塚慶之助
〃　漢城獻一
〃　宮地貞澄
取締　鹿兒島弘道
〃　山口利三太
〃　石田宗次郎
〃　肥塚義三郎
〃　山田鹿治
【大株主】十四年四月期
ロンドンオーバーシーズ　三、〇〇〇名
肥塚　三、〇〇〇
岩田宗次郎　一〇、一一〇
安藤
入來屋商店　一四、六六六
【事業規模】
紡織　六九、六〇〇錘　織機　六一〇臺
【生産高】
綿絲（瓩）　十五年上　二、二六九　十六年上
綿布（千疋）　一、四六〇
【業　績】　利益金　利益率　配當率　利益率
十三年上　一、〇〇〇　一、二〇　一、〇〇　五、〇〇
下　一、〇〇〇　一、二〇　一、〇〇　五、〇〇
十四年上　一、〇〇〇　一、二〇　一、〇〇　五、〇〇
【株　價】（實勢）　十六年上　高値　安値
十三年　七二、〇　五二、八
十四年　六六、〇　五二、八
一—八月
【豫想配當】十四年十月期　一割（一割）
【時價】　四五·〇　【利廻】六分九厘
新　六六、三　四分九厘

近江帆布

（本社）滋賀縣蒲生郡八幡町大字宮内二〇九（電八幡四四）
（營業所）大阪市東區淡路町三ノ二〇（電北浜四四二）

【設立】明治三十年四月
【決算期】五月、十一月

【依然活況を呈す】前期に引續き帆布の方は活況を續けてゐる。最近輸出方面が活氣づいて來たが、帆布は輸出向の見地からしても南洋方面には充分可能性があるから心配ない。恐らく今期も前期並の利益を擧げ得ることは間違なく、増配の可能性もなしとしない。

【他部門も好轉】帆布部門の好調に引き換へ一般綿布の輸出はすこぶる芳しくなかつた。當社は賃織を勵行せねばならぬ立場にあり契約も六月末現在五千百五十臺に及び約五百萬方碼の製織高となつてゐる。然しこれだけの數量が黒字に轉ずるだけでも増益は必至で、全面的に好轉を見る日も遠くあるまい。

【資本金】……拂込濟 七、一〇〇
【株數】……（五〇、〇）一四二、〇〇〇
【重役】社長 森五郎兵衛
専務取締 森 讓治
常務 戸川四郎
取締 西川 喜重
〃 阿部市太郎
〃 殿 査
【大株主】十四年五月期
小澤七兵衛 七、〇〇〇
辻井亮太郎 四、八〇〇
中西五郎兵衛 三、〇五四
森五郎兵衛 六、三三〇
〃 讓治 三、六〇四
〃 鎮一 三、八〇〇
西川仁右衛門 一、八九九名
小澤七兵衛 六、三三〇
小西梅三 中西五郎兵衛
【事業成績】十五年上 十五年下 十六年上
綿糸生産（梱）三、一四四 二、一三〇 二、四〇六
原棉使用（平斤）一〇、九三二 一、三三〇 一、六〇四
【事業規模】十五年上 十五年下 十六年上
紡織機（臺）一四、九六 一四、四八 一四、九三六
撚絲機（〃）八、九六 八、九六 八、九六
【業績】 利益率 配當率 利益率
十二年下 七〇四 二、一六 〇、八〇 七、四〇
十三年上 一、四六四 四、〇〇 〇、八〇 七、九〇
下 三、二三 六、三六 〇、八〇 八、八四
【株價】（實勢）高値 安値
十四年上 一、六六 四六、〇 〇、八〇 八、一六
十三年 高値 安値
十四年 四六、六 二七、〇
一、八月 六六、三 四四、〇
【豫想配當】十四年十一月期 八分（八分）
【時價】六四、五 【利回】 六分二厘

和歌山紡織

（本社）和歌山市梅法樂南ノ丁一（電三三）

【設立】明治二十六年二月
【決算期】五月、十一月

【今期業績】昨年下期以降業績は下降しはじめ、今年上期は利益率二割二分二厘で、近年最も成績の上つた十二年下期に比し、約一割二分の低下となつたが、恐らく今期を境に再上昇することと思はれる。軍需品の利益は依然當社利益の根幹をなしてゐるが、今後もそれに變りなしとするも輸出方面の赤字が消えるからだ。

【増産期待】而も最近本社工場に約二千五百錘、紀ノ川工場へ約三千五百錘、箕島工場へ一千二百錘の増設が行はれ合計七千二百錘殖えたことになる。從つて丁度輸出採算が好轉しかゝつた直前に増設し得た譯だから今後の伸展力も一段と増す筋合にある。

【資本金】……公稱 一〇、四〇〇
【株數】……（新）（六、五）拂込 一〇、〇〇〇 一〇六、〇〇〇
【重役】社長 川口義宏
専務取締 南俊一
〃 竹中榮武郎
〃 森田戊三郎
〃 桑原虎太郎
〃 吉村友之進
〃 大屋楠之丞
〃 土生信一
〃 帶谷吉次郎
〃 岸本貞次郎
【大株主】十四年五月期
南俊一 一、六〇〇 川口義宏 八、四五五
南幸夫 八、四四〇 森久兵衛 七、六六〇
【事業成績】十五年上 十五年下 十六年上
綿糸生産（梱）三、四四四 二、七三〇 二、九八
綿布生産（反）三、八八八 四、八六 八、三四
【工場所在地】本社、紀ノ川、箕島
【事業規模】十五年下 十六年上
撚絲機（〃）一一、〇〇〇 織機（〃）一一、〇〇〇
【業績】 利益率 配當率 利益率
十三年上 八八〇 一、〇〇 六、三四
下 九七二 一、一四四 六、七五
十四年上 七三〇 一、〇〇 五、五
【株價】（實勢）高値 安値 新株
十三年 高値 安値 高値
十四年 一〇、四 一〇、〇 六、八 二、二
一、八月 三四、八 三六、八 二一、二 七、七
【豫想配當】十四年十一月期 一割（一割）
【時價】新 三六、八 舊 三六、八 【利回】 六分八厘 五分一厘

足利紡績

（本社）栃木縣足利郡山邊村八幡（電足利八六、八六）

【設立】大正八年十二月
【決算期】五月、十一月

【五月期増配】五月期の利益金は十四萬六千圓、利益率は一割六厘で、二分増の六分配當に改めた。再減配の懸念さへなしとしなかつたが、呉羽の經營方針が効を奏して固定資産の消却も四萬圓を計上し得た程で、一頃の當社に比較すると大いに見直されて來た。内容の堅實さもまだ完成はしないが、追々良くなつて行くだらうことは略々豫想に難くない。

【合併問題】この調子で立直れば呉羽としても合併して損のないものとならう。殊に輸出好轉が實現すれば尚ほ更上乘である。今期は増配はどうか分らぬが据置は確實のやうだ。

【資本金】……公稱 一、〇〇〇 拂込 一〇、〇〇〇
【株數】……（二、五〇）
【重役】社長 萩野萬太郎
取締 大橋新太郎 取締 藤縄 一郎
〃 根津嘉一郎 〃 鈴木 敏夫
〃 芳川寛治 〃 鈴木 敏次郎
〃 井上富三 〃 坂井隆三
〃 伊藤忠兵衛
【大株主】十四年五月期
呉羽紡績 二、三〇〇 萩野萬太郎 一、五〇〇名
根津嘉一郎 一、〇〇〇 鈴木敏次郎 一、〇〇〇
【事業成績】十五年上 十五年下 十六年上
綿糸生産（梱）二、九七 一、九一九 一、五
綿布生産（千反）二〇六 一四四七 一四四
原棉前貸（貫）二〇 二四 二三
原綿消費（千斗貫）二、九七 二六 一八
【事業規模】精紡機 四一、八六六錘
撚絲機 六、四四〇錘 織機 三一〇臺
工場所地 足利
【業績】 利益率 配當率 利益率
十二年下 一五六 一、一三 〇、五〇
十三年上 九四四 〇、六〇 〇、四四 四、四四
下 六四四 〇、四四 〇、四四 五、四〇
十四年上 一四六 一、〇六 〇、四四 四、三三
【株價】（實勢）高値 安値
十三年 一〇、二 一二、三
十四年 二四、三
一八月 一〇、四
【豫想配當】十四年十一月期 六分（六分）
【時價】二六、三 【利回】 八分五厘

東華紡織

（本社）中華民國上海華德路一六八號（電五二〇九）
（出張所）大阪市北區堂島北町三六（電北浜一〇）

【設立】大正九年四月
【決算期】三月、九月

【操業率稍低下】四月以降殆んど全運轉を續けて來たが、七月から操業率を九二・三%に下げた。番手は二〇が中心で一六番手、二三番手は極く少いことに變りなく、出來高も六月の三千五十五梱から二千六百九十梱に減少してゐる。

【復配問題】然し利益は格別の變化を生じてゐない。八九兩月が七月並の出來高となれば今期の合計は約一萬六千三百梱となるが、一梱四十圓の差益を出したとしても六十五萬圓の利益となる。利益率は五割以上だ。前途の危險に充分備へねばならぬから計上利益は少なくするだらうが、少くとも六分程度の配當なら復活出來よう。

【資本金】……拂込濟 三、四〇〇
【株數】……（五〇、〇）四、〇〇〇
【重役】社長 石田秀二 取締 櫃宗三郎
取締 河崎助太郎 〃 永機友定
〃 小谷一郎 〃 横尾孝
【大株主】十四年三月期
倉敷紡績 八、〇四六 横尾孝 一、〇一二名
足利紡績之部 四、〇〇〇 河崎助太郎 一、〇〇〇
【事業規模】精紡機 三、三三一
上海第二工場 〃 三、三三一
上海第三工場 〃 三、六六一
今津毛織工場 四、〇〇〇
【工場所在地】上海、今津
【業績】 利益率 配當率 利益率
十三年上 一、三六 一、四四 〇、五〇
下 一、五四 〇、四四 〇、四四 四、四四
十四年上 三、六六 三、九四 〇、四四 四、三三
【株價】（實勢）高値 安値
十四年 四〇、〇 四二、三
一八月
【豫想配當】十四年九月期 六分
【時價】四二、〇 【利回】 三分九厘

帝國人造絹絲株式會社

（本　社）大阪市北區中之島二ノ二五江商ビル內（電北浪四六三一）
（支　社）東京市日本橋區室町四ノ五近三ビル內（電日本橋一八三五）

【上期成績】五月期の成績は利益金五百五十九萬一千圓で、前期に比し一萬三千圓の增益である。對拂込資本利益率は三割四分六厘を示し前期と變化なかつた。そこで配當も一割五分を据置きとした。

【重工業進出】當社は機械製作に於ては優れた技術陣を持つてゐる之を今回活用して重工業界に進出することになつた。當初は飛行機の部分品を製造し、規模も大して大きなものではない。差當り三百萬圓を投下して岩國工場の機械部を擴大することになつてゐる。重工業進出の意味は手許資金の活用によつて統制の壓迫を幾分でも輕減しようと云ふ所にあつた。

【前途好轉】歐洲開戰で人絹市況は急に好轉した。輸出値段は既に戰前に比べると十三、四圓方の暴騰を演じ、騰勢は頗る强い。情勢如何によつては更に一層の昂騰を演じよう。當社の如く海外に多くの販路を有してゐる所は非常な好影響を受ける譯である。卽ち輸出增進と輸出價格の上昇によつて輸出品の採算は急好轉必至の狀勢となつて來たからだ。當社の生產割合は內地四に對し輸出六の割合になつてゐるから、輸出品の利益增加は當社の成績好轉に少なからぬ力を與ふるものと想像される。一割五分配當は愈々安定性を加へることになるだらう。

【設　立】大正七年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ヴイスコース人絹製造販賣
公稱資本金……三、〇〇〇、〇〇〇　拂込　三、三五〇
株　數……新（額面五〇）　四二〇、〇〇〇　一〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　久村清太　取締　東川義房
常務　永田興　〃　間室孝人
〃　秦逸三　監査　宇田成和
取締　吉岡豐　〃　横田義夫
【株主數】（名）　十五年上　六、八五五　十五年下　七、〇六八　十六年上　七、九〇三
【大株主】
藤山銀行　九、三五四　帝國生命　三、三〇〇
大株代行　三、四六〇　野瀨清嗣　一、五三〇
華本BB證券　四、四八〇　山內榮次郎　一、三六〇
日本生命　三、五三〇　田村合名　三、〇〇〇
【事業規模】工場所在地　廣島工場　廣島市南千田町
岩國工場　山口縣玖河郡麻里布町
三原工場　三原市圓一町
麻里布工場　山口縣玖河郡麻里布町
生產設備　人絹紡絲機……六五、〇〇〇錘
【日產能力】人絹　十四年五月現在　六五〇
【生產高】（人絹）　十五年上　一四、〇〇〇　十五年下　一二、〇〇〇　十六年上　九、六〇〇
人纖（瓦）　一四、〇〇〇　一二、〇〇〇　九、六〇〇
【取引銀行】第二帝國人絹、藤山銀行、近江絹絲
【投資會社】三和銀行、
【資本異動】九年十一月三圓五拂込徵收、十三年七月三圓五拂込徵收

【資產負債】
	五月	十二月	五月	十二月
株主資本			一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
積立金			九、四四九	九、八四九
外部負債			一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
社債			九、七四九	一二、六五六
使用總資本			六、〇〇〇	六、〇〇〇
固定資產			六、三五〇	六、五九九
投資勘定			三、一〇〇	三、一〇〇
流動資產			七、四四〇	七、四四〇
現金預金			三、〇四〇	三、〇四〇
【收支勘定】
	十五年上	十五年下	十六年上
收入	一四、三六六	一四、二四六	一〇、三六〇
支出	七、七四〇	七、六七八	七、一六一
利益	六、六二六	六、五六八	三、一九九
固定消却	一、九五〇	一、九五〇	一、〇五〇
消却年率	五、五六八	五、五六八	五、五六一
	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
	一二%〇	一二%一	一〇%五五
【業績】利益率　十二年上　四、四九　十三年上　三、五六　十四年上　三、四七
配當率　十二年上　一、二五　十三年上　一、二五　十四年上　一、二五
【株價】（實長）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
十二年　一六四、一四　一二六、〇　一二七、六　八八、一
十三年　一四四、七　一〇五、五　一八〇、七　八五、七
十四年一月　二九、八　九一、六　一〇二、五　八二、五
【基準配當】一割五分
【豫想配當】十四年十一月期　一割五分
【時價】舊　二四四、〇　【利廻】五分六厘
新　二一四、一　四分八厘
【名義書換】十錢　【新株交付】三十錢

倉敷絹織株式會社

（本　社）岡山縣倉敷市元町四九七ノ四
（營業所）大阪市東區今橋三菱信託ビル（電北浪六四二一—三）

【上期成績】當社の上期は利益金三百八十五萬六千圓をあげ拂込資本に對する利益率は二割五分七厘を示した。前期と殆んど變化なき成績であつた。そこで配當は一割を据置きにした譯だ。

【他業進出】當社は統制下に於ける配當力補强工作としてパルプ自給設備、特殊輸出品の增產、爪哇進出（織物工場經營）等種々對策を實施して來たが、今回丸善石油と資本提携が成立して時局產業進出に一歩を踏み出した。目下計畫中のものに硫黃の自給、織物工場の直營等があるが、之等は未だ具體化された譯でもない。猶ほ朝鮮進出の計畫もある。

【前途豫想】人絹界は歐洲戰爭で今や緩變りの狀況を呈してゐる。現實にはまだ輸出商談は成立してゐないやうだが、弗々引合がありその値段は戰前に比し既に十三、四圓方の暴騰を示してゐる。卽ち輸出品は之までかなり利益を抑へられてゐたが、今後はその心配はなくなる。情勢如何によつては內地向より更に多くの利益が見込めることにならう。輸出品に主力を注ぐ當社にとつては確かに大きな好材料と稱してよからう。他方前述の如き對策の效果が着々結實しつゝある點を考慮すれば當社の前途は非常に明るさを增し、一割配當は愈々堅實の一途を辿るだらう。

【設　立】大正十五年六月
【決算期】五月、十一月
【事　業】各種織物製造加工及販賣
人造絹絲其他各種化學纖維並
公稱資本金　二五〇、〇〇〇　拂込　一二〇、〇〇〇
【株　數】……額面（五〇、〇）　新（五〇、五）
第一　一〇〇、〇〇〇
第二　二〇〇、〇〇〇
【重　役】社長　大原總一郎
專務　柳吉　取締　三村起一
常務　高橋雄吉　監査　大原五一
取締　原波治　〃　大屋敦
福島弟三　〃　中村純一郎
〃　吉井仲助　〃　大森實
〃　柿原得一　相談　大原孫三郎
【株主數】（名）　十五年上　一〇、〇六八　十五年下　一〇、一九五
【大株主】倉敷紡績　一六、〇〇〇　大原合資　一〇、〇〇〇
住友本社　一六、〇〇〇　住友鑛業　一〇、〇〇〇
住友化學工業　一二、〇〇〇　第一銀行　一一、二四〇
中國銀行　一一、〇〇〇　住友青木衛門　一〇、〇〇〇
【事業規模】工場所在地＝倉敷市、新居濱、西條、岡山
生產設備　人絹精紡機……五六、七〇〇錘
工場別日產能力（單位＝瓦）
倉敷　人絹　五　スフ　三
新居濱　〃　三　〃　三
西條　〃　一六　〃　四四
岡山　〃　三　〃　一四
合計　〃　二五　〃　八六
【生產高】（人絹）　十五年上　一三、九一六　十五年下　一六、九〇〇　十六年上　一八、一〇〇
人纖（瓦）　六九、八〇〇
【資本異動】十年十一月中國レーヨンを合併二千萬圓增資

【資產負債】
	五月	十二月	五月	十二月
株主資本			一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
積立金			一、〇五〇	一、〇五〇
外部負債			一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
社債			一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
使用總資本			二五、〇五〇	二五、〇五〇
固定資產			一四、四四〇	一四、四四〇
投資勘定			三、〇〇〇	三、〇〇〇
流動資產			七、〇五〇	七、〇五〇
現金預金			一、〇五〇	一、〇五〇
【收支勘定】
	十五年上	十五年下	十六年上
收入	一四、六四〇	一四、六四〇	一〇、六四〇
支出	七、四四〇	七、四四〇	七、四四〇
利益	七、二〇〇	七、二〇〇	三、二〇〇
固定消却	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
消却年率	五、五六一	五、五六一	五、五六一
	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
	一〇%五五	一〇%五五	一〇%五五
【業績】利益率　十二年上　四、四九　十三年上　三、五六　十四年上　三、四七
配當率　十二年上　一、二五　十三年上　一、二五　十四年上　一、二五
【株價】（實長）舊株　高値　安値　新株　高値　安値
十二年　一六四、一四　一二六、〇　一二七、六　八八、一
十三年　一四四、七　一〇五、五　一八〇、七　八五、七
十四年一月　二九、八　九一、六　一〇二、五　八二、五
【基準配當】一割五分
【豫想配當】十四年十一月期　一割五分
【時價】舊　二四四、〇　【利廻】五分六厘
新　二一四、一　四分八厘
【名義書換】十錢　【新株交付】三十錢

東洋レーヨン株式會社

（本　社）東京市日本橋區室町三井物產內（電日本橋一五三）
（事務所）滋賀縣大津市石山北大路町（電大津一五一）
（出張所）大阪市北區中之島三（三井物產內）

【輸出に努力】リンク制實施以來當社は輸出に努力して來た。卽ち輸出品の增產は自由であり、且つリンクパルプは國產品に比べて封度五・六錢も値が安いから、之を增產することによつて全體の原價低下がみられると云ふ一石二鳥の效果を得る。當初は輸出三に對し內地七位の割合となつてゐたが、今年は大體半々の割合だ。かくして輸出品の增產に主力を注ぐ一方人織は一貫作業を實現し、之が又業績に寄與する所仲々輕視出來ない。

【成績向上】人絹界樣變りの結果當社の成績向上は必至だ。特に右に述べた如く最近輸出が多くなつてゐるから輸出向採算の好化は成績に寄與する所は大きい。尤も爲替關係で原料パルプの輸入値段が昂騰する危險が濃厚になるから、輸出品は値上りだけ丸々利益することは困難である。然しそれにしても以前に比べれば問題なく採算は良化する。何れにしても成績向上は必至と云つてよからう。

【予會社】東洋絹織は既に操業開始し、目下順調に製品を出してゐるが、朝鮮レーヨンはそのまゝとなつてゐる。會社を設立したけれども工場建設許可が得られず行悩みの狀態となつてゐる。早晚何んとかして休眠資本の活動化を計ることにしなければならぬが、その額は當社の實力からすれば問題とするに足らない。

【設　立】大正十五年一月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ヴィスコース人絹、高級マルサ人絹
【資本金】……舊（五〇・〇）拂込＝一二、〇〇〇（七五・〇）一〇〇、〇〇〇
　　公稱＝三〇、〇〇〇　新（五〇・〇）拂込＝一二、〇〇〇（七五・〇）一〇〇、〇〇〇
【重　役】會長　辛島千彥
　常務　井上　治　取締　高木　宇吉
　〃　小澤　武　〃　佐羽太三郎
　取締　石田　禮助　〃　伊藤與三郎
　〃　佐々田彰夫　監査　秋庭　義清
　〃　若林卯三郎　〃　六戸　千加
　〃　田代　茂樹　〃　成瀨　達
【株主數】十五年上　十四年上
　總數（名）　三、七四〇　四、六〇
【大株主】三井物產三、二四〇　帝國生命一〇、〇一〇
　三井生命一〇、〇〇〇　東株代行九、八一〇
　日本生命六、八〇〇　第一兵優六、〇〇〇
　仁壽生命五、三一〇　愛國生命五、〇〇〇
【事業沿革】
　滋賀工場＝大津市石山北大路町
　日產能力　人絹八八噸　人織六四噸
　瀨田工場＝滋賀縣栗太郡瀨田町
　日產能力　人織糸一四噸　人織布三、五千碼
　紡機　五、〇〇〇錘　織機一、七五〇臺
【生產高】十五年上　十四年上
　人絹（噸）一〇、四〇二　一二、五三一
　人織（碼）三、五二〇　五、八二一
【投資會社】レーヨン實進、東洋絹織
　朝鮮レーヨン
【資本異動】十年三月一二圓五拂込徵收
　十二年九月一三圓五拂込徵收

【資產負債】　十二年五月　十三年十一月　十四年五月
　株主資本　一、五一〇、八四〇　一、五九七、〇三四　一、八八二、〇二四
　積立金　一八、五三六　一八、八五四　一八、八五四
　外部負債　一、〇八六、〇二四　一、〇八六、〇二四　一、〇八六、〇二四
　社債　一〇、〇〇〇　一〇、〇〇〇　一〇、〇〇〇
　借入金　一〇、〇〇〇　一〇、〇〇〇　一〇、〇〇〇
　使用總資本　二、五九七、〇五四　二、六八三、〇五八　二、八七四、〇五八
　固定資產　一、七一〇、〇四〇　一、七一〇、〇四〇　一、七一〇、〇四〇
　投資勘定　一、〇二一、〇一四　一、〇二一、〇一四　一、〇二一、〇一四
　流動資產　一、〇四四、〇一四　一、〇五二、〇一四　一、〇六四、〇一四
　現金預金　一、〇四四、〇一四　一、〇五二、〇一四　一、〇六四、〇一四
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　收入　一、一一九　一、一一九　一、一一九
　支出　一、一一九　一、一一九　一、一一九
　利益　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　固定消却　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　消却年率　一三、五〇　一三、五〇　一三、五〇
【業　績】　配當率　利益率
　十一年下　一、二〇　一、〇一四
　十二年上　一、二〇　一、〇一四
　十二年下　一、二〇　一、〇一四
　十三年上　一、二〇　一、〇一四
　十四年上　一、二〇　一、〇一四
【株　價】（單位）新　株
　十一年　高値　安値
　十二年　八〇・一四　七一・七
　十三年　一一二・八　九六・一
　十四年　一〇四・八　八二・一
　十八月　八二・一四
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十四年十一月期　一割二分
【時價】新一〇一・九　【利廻】四分四厘
【名義書換】十　錢　【新券交附】五十錢

日本レイヨン株式會社

（本　社）京都府久世郡宇治町（電宇治一〇二）
（營業所）大阪市東區今橋三丁目五共同信託ビル（電北浦六五一一九）

【日絹合併】豫ねて懸案中の日本絹織合併は去る六月認可され直に實行された。合併條件は當社一に對し日絹二の割合である。卽ち日絹株五十圓拂込濟二株に當社五十圓拂込一株を交附した。詰り日絹は半額減資の上當社に吸收合併された譯である。日絹合併によつて當社は人絹、人織の紡絲並に織布設備を有することゝなり、玆に少なからぬ特色を發揮することになつた。

【業績好轉】人絹界樣變によつて當社の成績は先行きかなり好轉するのではないかと想像される。卽ち輸出向の採算好轉によつて早くも今期邊りから增產が期待されるからである。當社の輸出向利益は函當り平均五圓程度であつた。內地向に比し二十圓の開きだ。所が戰爭の結果輸出向品は早くも十七、八圓の昂騰を演じてゐる。相場が騰つただけ丸々利益にならぬにしても輸出向が相當利益增加となることは必至と見てよからう。

【不安解消】當社の一割二分配當は少なからず不安を抱かれてゐたが、輸出向採算好轉によつて一先づ解消されるに至つた。それに投資會社も徐々に收益期を迎へることになつて來たから休眠資本の收益化によつて未働資本の壓迫も漸ては取り除かれることになならう。又日絹合併の强味も發揮されるものと期待される。

【設　立】大正十五年三月
【決算期】五月、十一月
【事　業】ヴィスコース人絹製造販賣
【資本金】公稱＝三〇、〇〇〇　拂込＝三、七五〇
【株　數】……舊（五〇・〇）　三〇〇、〇〇〇
　　新（一〇〇・〇）　三〇〇、〇〇〇
【重　役】會長　菊池　恭三
　社長　菊池　文吾　專務　伊藤　萬助
　常務　宮野澤一郎　〃　岩田宗次郎
　取締　小寺　源吾　〃　今村　奇男
　〃　森田　丁也　〃　田代　重三
　〃　宇野賢一郎　〃　松村　清成
【株主數】十五年上　十四年上
　總數（名）　六、四三〇　六、七七〇
【大株主】大日本紡績六、八〇　菊池　文吾一、六八六
　仁壽生命二、六八〇　上山勝太郎二、〇〇〇
　伊藤萬助一〇、〇〇〇　住友生命一〇、〇〇〇
　岩田宗次郎八、八一〇　共同信託七、〇八一
【事業沿革】
　宇治工場　工場當日產能力
　人絹三六噸　人織三五噸（人絹轉用一四五噸）
　岡崎工場
　人絹三噸　人織三五噸（人絹轉用）
【生產高】十五年下　十五年上　十五年下
　人絹（噸）一四、八八六　一四、八八六　一四、八八六
　人織（碼）四九、六四〇　四二、三九九　六二、三九五
【投資會社】新日本レイヨン
　國華パルプ工業
【資本異動】十一年四月一六、〇〇〇平　圓增資、新株第一回拂込三圓五徵收、十二年十一月三圓五拂込徵收

【資產負債】　十五年五月　十六年十一月　十七年五月
　株主資本　五九、八五〇　八五、三五三　一〇五、八四三
　積立金　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　外部負債　一、一四、四八〇　一、一四、四八〇　一、一四、四八〇
　社債　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　借入金　一、〇〇〇　一、〇〇〇　一、〇〇〇
　使用總資本　一、一四、四八〇　一、一四、四八〇　一、一四、四八〇
　固定資產　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四
　投資勘定　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四
　流動資產　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四
　現金預金　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四　一、〇一四、〇一四
【收支勘定】十五年上　十五年下　十六年上
　收入　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　支出　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　利益　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　固定消却　一、〇一四　一、〇一四　一、〇一四
　消却年率　一三、五〇　一三、五〇　一三、五〇
【業　績】　配當率　利益率
　十一年下　一、二〇　一、〇一四
　十二年上　一、二〇　一、〇一四
　十二年下　一、二〇　一、〇一四
　十三年上　一、二〇　一、〇一四
　十四年上　一、二〇　一、〇一四
【株　價】（單位）新　株
　十一年　高値　安値
　十二年　一六、一四　一四、一
　十三年　一一、一〇　九、一〇〇
　十四年　一〇、一〇　八、一〇〇
　十八月　九、一〇〇
【基準配當】一割二分
【豫想配當】十一月期　一割二分
【時價】舊一六、一九　新一四、八　【利廻】六分五厘　五分二厘
【名義書換】十　錢　【新券交附】五十錢